埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第 40 集

池上遺跡・鶴巻遺跡

2021

埼玉県熊谷市教育委員会

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第40集

池上遺跡・鶴巻遺跡
（いけがみいせき・つるまきいせき）

2021

埼玉県熊谷市教育委員会

池上遺跡　第２号方形周溝墓（上が北）

池上遺跡　第 48 号溝跡　木製品

口絵図版２

池上遺跡　第２号河川跡　遺物出土状況

池上遺跡　第１号掘立柱建物跡　礎板（柱痕）

鶴巻遺跡　第２号方形周溝墓　出土遺物

鶴巻遺跡　第５号沼跡　出土遺物付着炭化米

口絵図版４

池上遺跡　第２号方形周溝墓　出土遺物（弥生土器壺）

池上遺跡　第２号河川跡　出土遺物（墨書土器）

序

私たちの郷土熊谷は、丘陵、台地、沖積低地と地形が変化に富んでいる上、我が国及び関東を代表する２大河川である利根川・荒川が市内を流れ、大河がもたらす肥沃な大地と豊な自然が広がっております。このような自然環境のもと、市内には、先人たちによって多くの文化財が営々と引き継がれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代に伝え、さらに豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、市内には地下に埋蔵されている多くの遺跡が所在します。そして、これらの遺跡内では各種開発が行われ、遺跡を保護保存できない場合が多数あります。その場合には、発掘調査という記録保存を行い、後世に伝えるべく方策を採っています。

本書は、平成 30・令和元年度に実施された市内池上地内における埼玉県のほ場整備事業に伴う発掘調査の成果をまとめたものです。

本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用されることとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護に御理解、御協力を賜りました関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和３年３月

熊谷市教育委員会
教育長　野原　晃

例　　言

1　本書は、市内遺跡「池上遺跡・鶴巻遺跡」の発掘調査報告書である。

　池上遺跡　　埼玉県熊谷市池上 202-3　他（埼玉県遺跡番号 59 － 046）

　鶴巻遺跡　　埼玉県熊谷市池上 109-3　他（埼玉県遺跡番号 59 － 115）

2　本調査は、埼玉県によるほ場整備事業に伴う事前の記録保存目的の発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。

3　本事業の組織は、発掘調査の概要のとおりである。

4　発掘調査は、平成 30・令和元年度の２箇年実施し、鶴巻遺跡は平成 30 年 10 月１日～平成 31 年３月 29 日、池上遺跡は平成 30 年 12 月 19 日～平成 31 年３月 27 日（１次)、令和元年９月 20 日～ 11 月 12 日（２次)、11 月 25 日～ 12 月 12 日（３次)、12 月 12 日～令和２年３月 27 日（４次）である。整理・報告書作成期間は令和２年度に実施し、令和２年４月１日～令和３年３月 19 日である。

5　発掘調査の担当は、各年度とも腰塚 博隆、大野 美知子が担当した。また、整理・報告書作成事業は、遺物実測等を、山川 守男、礒﨑 一、木製品実測等を大野が担当し、腰塚、大野が図面整理をおこない、それらをまとめた。

6　本書の執筆は、腰塚が担当した。

7　写真撮影は、発掘調査を腰塚、大野が、遺物を腰塚、山川が行った。

8　基準点測量は、株式会社東京航業研究所、中央航業株式会社に委託した。

9　遺物の一部は、実測、トレースとも株式会社シン技術コンサルに委託した。

10　遺物のうち木製品の数点は、株式会社文化ユニオンに保存処理、樹種同定を委託した。

11　出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。

12　発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表します。

　（敬称略）

　上武大学 清水 康守、名古屋大学 Christian Leipe、埼玉県教育局文化資源課、公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団、県立自然の博物館 奥村みほ子、国土交通省国土地理院、行田市教育委員会

凡　例

1　本文中、遺構の略記号は、次のとおりである。

ＳＩ…竪穴式住居跡　ＳＢ…掘立柱建物跡　ＳＺ…方形周溝墓　ＳＡ…柵状遺構　ＳＤ…溝跡

ＳＴ…土器棺墓　ＳＫ…土坑　ＮＲ…河川跡　ＳＧ…沼跡　ＳＸ…性格不明遺構　Ｐ…ピット

2　土層断面図及び平面図中の表記記号は、次のとおりである。

Ｓ…川原石　Ｐ…土器　Ｗ…木材　Ｂ…竹

3　遺構挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

平面図…１／60

4　遺構挿図中、遺物に添えてある番号は、該当する遺構の遺物挿図中の遺物番号と一致する。

5　遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。

6　遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・陶磁器・石器…１／４

土製品・鉄製品・古銭・穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩…１／２

7　遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。また、表現方法は、以下のとおりである。

須恵器のうち還元焔焼成の断面：黒塗り、酸化焔焼成の断面：白抜き

灰釉陶器の断面：ドット柄　墨書：黒塗り

上記以外の土師器等土器・土製品・鉄製品・石器断面、木製品断面：白抜き

墨痕、内面黒色処理：　赤彩：

底部調整　回転ヘラ削り　\　　回転糸切り　d

石器の磨面範囲　◀――▶　敲打範囲　◁――▷

8　遺物拓影は、原則として、左右あるものは向かって左に外面、右に内面、左のみのものは外面を示した。

9　遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

法量の単位は、㎝、ｇである。また、推定値は括弧付けで示した。

胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で示した。

Ａ…白色粒子　Ｂ…黒色粒子　Ｃ…赤色粒子　Ｄ…褐色粒子　Ｅ…赤褐色粒子　Ｆ…白色針状物質

Ｇ…長石　Ｈ…石英　Ｉ…白雲母　Ｊ…黒雲母　Ｋ…角閃石　Ｌ…片岩　Ｍ…砂粒　Ｎ…礫

焼成は、次のように区分した。

Ａ…良好　Ｂ…普通　Ｃ…不良

10　写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。

11　土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行）に照らし最も近似した色相を示した。

目　　次

口絵
序
例　言
凡　例
目　次
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　発掘調査・報告書作成の経過 …… 1
　3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織 … 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 3
Ⅲ　遺跡の概要 ……11
　1　鶴巻遺跡について ……11
　2　調査の方法 ……11
　3　検出された遺構と遺物 ……11
Ⅳ　遺構と遺物 ……20
　1　方形周溝墓 ……20
　2　土坑 ……27
　3　溝跡 ……34
　4　沼跡 ……47
　5　ピット ……62
　6　遺構外出土遺物 ……62
Ⅴ　遺跡の概要 …… 71
　1　池上遺跡について ……71
　2　調査の方法 ……71
　3　検出された遺構と遺物 ……93
Ⅵ　遺構と遺物 ……93
　1　竪穴式住居跡 ……93
　2　掘立柱建物跡 ……94
　3　柵状遺構 ……95
　4　方形周溝墓 ……95
　5　土器棺墓 …… 100
　6　土坑 …… 101
　7　溝跡 …… 125
　8　河川跡 …… 159
　9　沼跡 …… 174
　10　円形状遺構 …… 178
　11　性格不明遺構 …… 179
　12　ピット …… 180
　13　遺構外出土遺物 …… 186
Ⅶ　調査のまとめ …… 194
附編　熊谷市鶴巻遺跡出土木製品の保存処理・樹種同定…212

挿　図　目　次

第１図　埼玉県の地形図 …… 3
第２図　周辺遺跡分布図 …… 4
第３図　鶴巻・池上遺跡調査地点位置図 …… 7
第４図　調査地区周辺発掘調査実績 …… 8
第５図　鶴巻遺跡調査区配置図 ……12
第６図　鶴巻遺跡全測図割図(1) ……12
第７図　鶴巻遺跡全測図割図(2)、(3) ……13
第８図　鶴巻遺跡全測図割図(4)、(5) ……14
第９図　鶴巻遺跡全測図割図(6)、(7) ……15
第 10 図　鶴巻遺跡全測図割図(8)、(9) ……16
第 11 図　鶴巻遺跡全測図割図(10)、(11) ……17
第 12 図　鶴巻遺跡全測図割図(12)、(13) ……18
第 13 図　鶴巻遺跡全測図割図(14)、(15) ……19
第 14 図　第１号方形周溝墓 ……20
第 15 図　第２号方形周溝墓 ……21
第 16 図　第３号方形周溝墓 ……22
第 17 図　第４号方形周溝墓 ……23
第 18 図　方形周溝墓出土遺物(1) ……24
第 19 図　方形周溝墓出土遺物(2) ……25
第 20 図　第１～７号土坑 ……28
第 21 図　第８～ 11 号土坑 ……29
第 22 図　土坑出土遺物(1) ……32
第 23 図　土坑出土遺物(2) ……33
第 24 図　第１～５号溝跡 ……35
第 25 図　第６～ 12 号溝跡 ……38
第 26 図　第 13 ～ 15 号溝跡 ……40
第 27 図　第 16 ～ 20 号溝跡 ……43
第 28 図　第 21 ～ 25 号溝跡 ……44
第 29 図　溝跡出土遺物 ……46
第 30 図　第１～３号沼跡 ……48

第 31 図 第４～６号沼跡 ……50
第 32 図 第７、８号沼跡 ……51
第 33 図 第１号沼跡出土遺物(1) ……53
第 34 図 第１号沼跡出土遺物(2) ……54
第 35 図 第２～５号沼跡出土遺物 ……56
第 36 図 第７号沼跡出土遺物(1) ……57
第 37 図 第７号沼跡出土遺物(2) ……58
第 38 図 第７号沼跡出土遺物(3) ……59
第 39 図 ピット出土遺物 ……62
第 40 図 ピット ……63
第 41 図 遺構外出土遺物(1) ……64
第 42 図 遺構外出土遺物(2) ……65
第 43 図 池上遺跡調査区配置図 ……72、73
第 44 図 池上遺跡全測図割図 (1)、(2) ……74
第 45 図 池上遺跡全測図割図 (3)、(4) ……75
第 46 図 池上遺跡全測図割図 (5)、(6) ……76
第 47 図 池上遺跡全測図割図 (7)、(8) ……77
第 48 図 池上遺跡全測図割図 (9)、(10) ……78
第 49 図 池上遺跡全測図割図 (11)、(12) ……79
第 50 図 池上遺跡全測図割図 (13)、(14) ……80
第 51 図 池上遺跡全測図割図 (15)、(16) ……81
第 52 図 池上遺跡全測図割図 (17)、(18) ……82
第 53 図 池上遺跡全測図割図 (19)、(20) ……83
第 54 図 池上遺跡全測図割図 (21)、(22) ……84
第 55 図 池上遺跡全測図割図 (23)、(24) ……85
第 56 図 池上遺跡全測図割図 (25)、(26) ……86
第 57 図 池上遺跡全測図割図 (27)、(28) ……87
第 58 図 池上遺跡全測図割図 (29)、(30) ……88
第 59 図 池上遺跡全測図割図 (31)、(32) ……89
第 60 図 池上遺跡全測図割図 (33)、(34) ……90
第 61 図 池上遺跡全測図割図 (35)、(36) ……91
第 62 図 池上遺跡全測図割図 (37)、(38) ……92
第 63 図 第１号竪穴式住居跡 ……93
第 64 図 第１号掘立柱建物跡 ……94
第 65 図 第１号柵状遺構 ……95
第 66 図 第２号柵状遺構 ……95
第 67 図 第１号方形周溝墓 ……96
第 68 図 第１号方形周溝墓出土遺物 ……97
第 69 図 第２号方形周溝墓 ……98
第 70 図 第２号方形周溝墓出土遺物 ……99
第 71 図 第１号土器棺墓 ……100
第 72 図 第１号土器棺墓出土遺物 ……101
第 73 図 第１～ 11 号土坑 ……102
第 74 図 第 12 ～ 20 号土坑 ……105
第 75 図 第 21 ～ 32 号土坑 ……108
第 76 図 第 33 ～ 41 号土坑 ……112
第 77 図 第 42 ～ 48 号土坑 ……115
第 78 図 土坑出土遺物(1) ……119
第 79 図 土坑出土遺物(2) ……120
第 80 図 土坑出土遺物(3) ……121
第 81 図 第１～６号溝跡 ……126
第 82 図 第７～９号溝跡 ……128
第 83 図 第 10 ～ 16 号溝跡 ……131
第 84 図 第 17 ～ 20 号溝跡 ……133
第 85 図 第 21 ～ 23 号溝跡 ……135
第 86 図 第 24 ～ 26 号溝跡 ……137
第 87 図 第 27 ～ 32 号溝跡 ……139
第 88 図 第 33 ～ 37 号溝跡 ……141
第 89 図 第 38 ～ 44 号溝跡 ……145
第 90 図 第 45 ～ 48、51 号溝跡 ……147
第 91 図 第 49、50、52、53 号溝跡 ……150
第 92 図 第 54 ～ 56 号溝跡 ……152
第 93 図 溝跡出土遺物(1) ……153
第 94 図 溝跡出土遺物(2) ……154
第 95 図 溝跡出土遺物(3) ……155
第 96 図 溝跡出土遺物(4) ……156
第 97 図 第１号河川跡 ……160
第 98 図 第２号河川跡 ……161
第 99 図 第２号河川跡出土遺物(1) ……162
第 100 図 第２号河川跡出土遺物(2) ……163
第 101 図 第２号河川跡出土遺物(3) ……164
第 102 図 第２号河川跡出土遺物(4) ……165
第 103 図 第２号河川跡出土遺物(5) ……166
第 104 図 第２号河川跡出土遺物(6) ……167
第 105 図 第３号河川跡 ……173
第 106 図 第３号河川跡出土遺物 ……174
第 107 図 第１号沼跡 ……175
第 108 図 第１号沼跡出土遺物 ……177
第 109 図 第１号円形状遺構 ……178
第 110 図 第１号円形状遺構出土遺物 ……179
第 111 図 性格不明遺構 ……179
第 112 図 ピット(1) ……182

第 113 図 ピット(2) ……183
第 114 図 ピット(3) ……184
第 115 図 ピット(4) ……185
第 116 図 ピット出土遺物 ……186
第 117 図 遺構外出土遺物（Ｂ区、Ｄ区）……187
第 118 図 遺構外出土遺物（Ｅ区）(1) ……188
第 119 図 遺構外出土遺物（Ｅ区）(2) ……189
第 120 図 遺構外出土遺物（Ｅ区）(3) ……190
第 121 図 遺構外出土遺物（Ｅ区）(4) ……191
第 122 図 鶴巻遺跡周辺の叩き甕 ……198
第 123 図 池上遺跡 墨書土器 ……201
第 124 図 炭化米放射性炭素測定結果 ……203
第 125 図 池上遺跡周辺の木製壺鐙 ……205
第 126 図 穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩出土遺跡 …207
第 127 図 河川跡推定流路 ……208
第 128 図 保存処理遺物写真(1) ……215
第 129 図 保存処理遺物写真(2) ……216
第 130 図 保存処理遺物写真(3) ……217
第 131 図 木材(1) ……218
第 132 図 木材(2) ……219

表　目　次

第１表 周辺遺跡一覧表 …… ５
第２表 方形周溝墓出土遺物観察表 ……24
第３表 土坑出土遺物観察表 ……31
第４表 溝跡出土遺物観察表 ……46
第５表 第１号沼跡出土遺物観察表 ……55
第６表 第２～５号沼跡出土遺物観察表 ……56
第７表 第７号沼跡出土遺物観察表 ……60
第８表 ピット一覧表 ……62
第９表 ピット出土遺物観察表 ……62
第 10 表 遺構外出土遺物観察表 ……66
第 11 表 第１号方形周溝墓出土遺物観察表 …97
第 12 表 第２号方形周溝墓出土遺物観察表 …100
第 13 表 第１号土器棺墓出土遺物観察表 …100
第 14 表 土坑出土遺物観察表 ……122
第 15 表 溝跡出土遺物観察表 ……156
第 16 表 第２号河川跡出土遺物観察表 ……167
第 17 表 第３号河川跡出土遺物観察表 ……172
第 18 表 第１号沼跡出土遺物観察表 ……176
第 19 表 第１号円形状遺構出土遺物観察表 …179
第 20 表 ピット一覧表 ……180
第 21 表 ピット出土遺物観察表 ……186
第 22 表 遺構外出土遺物観察表 ……186
第 23 表 池上遺跡 墨書土器一覧表 ……201
第 24 表 樹種同定結果 ……212

図　版　目　次

図版１ 遺跡から熊谷市街地を望む（奥、浅間山）
図版２ 鶴巻遺跡 全景（上が北）
池上遺跡（Ａ～Ｃ区） 全景（上が北）
図版３ 池上遺跡 Ｄ区 全景（下が北）
池上遺跡 Ｅ区 全景（右が北）
図版４ 鶴巻遺跡 第７号沼跡（北東から）
鶴巻遺跡 第７号沼跡 西壁 土層断面
鶴巻遺跡 第７号沼跡 北端部付近 木製品
鶴巻遺跡 第３号方形周溝墓（上が北）
鶴巻遺跡 第１号方形周溝墓（上が北）
図版５ 鶴巻遺跡 第１号沼跡（南から）
鶴巻遺跡 第１号沼跡 西壁 土層断面
鶴巻遺跡 第８号沼跡 出土遺物（西から）
鶴巻遺跡 第８号沼跡 出土遺物（東から）
鶴巻遺跡 第 11 号土坑 遺物検出状況（西から）
鶴巻遺跡 第 11 号土坑 出土遺物
鶴巻遺跡 第５号土坑 遺物検出状況（東から）
鶴巻遺跡 第４号溝跡 土層断面
図版６ 池上遺跡 第１号河川跡（上：トレンチ西壁断面 下：トレンチ南壁断面）
池上遺跡 第８、９号溝跡（南東から）
池上遺跡 第８、９号溝跡 硬化面周辺土層断面
図版７ 池上遺跡 第２号方形周溝墓（上が北）
池上遺跡 第２号方形周溝墓（上が北）
池上遺跡 第２号方形周溝墓 遺物検出状況（上が北）
池上遺跡 第２号方形周溝墓 西溝出土遺物（東から）
図版８ 池上遺跡 第１号方形周溝墓（上が北）

池上遺跡　第１号方形周溝墓　北構（西から）
池上遺跡　第２号河川跡　全景（北東から）
池上遺跡　第２号河川跡　北端部周辺遺物検出状況
図版９　池上遺跡　第 14、15 号土坑（右が北）
池上遺跡　第 31 号溝跡（上が北）
池上遺跡　第 25 号溝跡（Ｄ区）（上が北）
池上遺跡　ＢＦ－５９グリッド付近（北東から）
池上遺跡　ＢＦ－５９～６０グリッド付近（北東から）
池上遺跡　第１号円形状遺構（北から）
図版 10　池上遺跡　第１号掘立柱建物跡（上が北）
池上遺跡　第１号掘立柱建物跡（左：Ｐ１、中：Ｐ２、右：Ｐ３）
池上遺跡　第 48 号土坑　遺物検出状況（上が北）
池上遺跡　第 48 号土坑　壺鐙他　検出状況（下が北）
池上遺跡　第 48 号土坑　全景（右が北）
図版 11　池上遺跡　第３号河川跡（北から）
池上遺跡　第３号河川跡　北壁土層断面
池上遺跡　第１号沼跡（南西から）
池上遺跡　第１号沼跡出土遺物（鋤）
図版 12　池上遺跡　第１号土器棺墓（北から）
池上遺跡　第36号土坑土層断面(北から)
池上遺跡　第 44 号土坑（北から）
池上遺跡　第 25 号溝跡（Ｅ区）酸化鉄層検出状況（南から）
同上　検出遺物
池上遺跡　第 38 号溝跡（西から）
池上遺跡　第 56 号溝跡（北から）
池上遺跡　第 56 号溝跡　土層断面
図版 13　第 18 図 1-1
第 18 図 1-2
第 18 図 2-1
第 18 図 2-8
第 18 図 2-9
第 19 図 3-1
第 19 図 3-2
図版 14　第 19 図 3-3
第 19 図 3-6
第 19 図 4-1
第 22 図 5-1、第 23 図 11-19、第 29 図 16-1、第 35 図 2-2
第 22 図 11-3
第 22 図 11-6
第 23 図 11-14
第 29 図 13-1、13-2、第 42 図 38
第 29 図 15-1、第 42 図 35、36
図版 15　第 29 図 21-2
第 29 図 21-4
第 29 図 21-7
第 29 図 21-9
第 29 図 21-10、第 42 図 37
第 33 図 9
第 33 図 12
第 33 図 18
第 33 図 15
図版 16　第 33 図 20
第 33 図 21
第 33 図 28
第 34 図 39
第 34 図 40
第 35 図 3-1
第 35 図 5-1
第 35 図 5-2
図版 17　第 36 図 1
第 36 図 2
第 36 図 3
第 36 図 4
第 36 図 5
第 36 図 7
図版 18　第 36 図 9
第 36 図 19
第 36 図 10
第 36 図 20
第 36 図 21
第 37 図 22
第 37 図 23
第 37 図 24
第 37 図 26
第 37 図 28
第 37 図 27

図版 19　第 37 図 29
第 37 図 30
第 37 図 36
第 37 図 40
第 39 図 7-1
第 41 図２
第 41 図１
第 42 図 43、44
第 42 図 45、46
第 42 図 48 ～ 58
図版 20　第 68 図３、第 93 図 16-1、第 100 図 49
第 70 図１
第 72 図１
第 78 図 17-4
第 78 図 17-5、第 104 図 136 ～ 139
第 72 図２
図版 21　第 79 図 33-1
第 79 図 33-5
第 79 図 34-1
第 79 図 34-2
第 79 図 34-7
第 79 図 42-1
第 79 図 44-2
第 79 図 47-2
図版 22　第 93 図 13-1
第 93 図 25-3
第 93 図 25-1
第 93 図 28-4
第 93 図 26-1、第 117 図Ｄ -7、第 119 図Ｅ -58
第 94 図 29-2
第 94 図 29-5
第 94 図 29-7
第 94 図 31-2
図版 23　第 95 図 32-1
第 95 図 45-2、第 99 図 42、43、第 108 図８～ 10、第 120 図Ｅ -66 ～ 77
第 95 図 52-1
第 95 図 52-5
第 95 図 52-7
第 95 図 54-1
第 96 図 55-1
第 96 図 55-10
第 96 図 56-1
図版 24　第 99 図１
第 99 図３
第 99 図９
第 99 図 15
第 99 図 16
第 99 図 24、25
第 99 図 26
第 99 図 27
第 99 図 35
第 99 図 36
図版 25　第 99 図 39
第 99 図 40
第 100 図 53
第 100 図 74
第 100 図 76
第 100 図 77
第 100 図 78
第 100 図 79
第 100 図 80
図版 26　第 100 図 87
第 101 図 100
第 101 図 102
第 101 図 103、104
第 101 図 106
第 101 図 108
第 101 図 109
第 101 図 110
第 101 図 111
図版 27　第 101 図 112
第 101 図 113
第 102 図 120
第 102 図 121
第 104 図 130 ～ 135、第 117 図Ｄ -10
第 104 図 127 ～ 129
第 108 図１
図版 28　第 117 図Ｄ -8
第 118 図Ｅ -1
第 118 図Ｅ -3
第 118 図Ｅ -4
第 118 図Ｅ -6

第 118 図Ｅ -8
第 118 図Ｅ -9
第 118 図Ｅ -10
図版 29　第 118 図Ｅ -11
第 118 図Ｅ -14
第 118 図Ｅ -23
第 118 図Ｅ -24
第 118 図Ｅ -25
第 118 図Ｅ -26
第 118 図Ｅ -27
第 118 図Ｅ -28
第 118 図Ｅ -33
第 95 図 38-2　穀物粒　圧痕
図版 30　第 119 図Ｅ -40
第 119 図Ｅ -46
第 119 図Ｅ -47
第 119 図Ｅ -48
第 119 図Ｅ -50
第 119 図Ｅ -56
第 119 図Ｅ -57
第 119 図Ｅ -59
図版 31　第 119 図Ｅ -61
第 119 図Ｅ -62
第 117 図Ｄ -12 ～ 21、Ｅ -79 ～ 88
上段：第 104 図 124 ～ 126、106 図３
下段：第 74 図 27-1、第 108 図 12、第 117 図Ｄ -11
鶴巻遺跡　第 11 号土坑　桃種子
鶴巻遺跡　第５号沼跡　Ｎｏ．２付着炭化米
池上遺跡　第 27 号土坑　瓢箪種子
図版 32　第 78 図 19-4
第 108 図 11
図版 33　第 94 図 29-8
第 100 図 88
第 116 図 127-1
図版 34　第 100 図 57
第 100 図 91
第 101 図 93
図版 35　第 117 図Ｄ -9
第 101 図 94
図版 36　第 100 図 90
第 101 図 92
第 101 図 99
第 100 図 89
図版 37　第 22 図 5-2
第 23 図 11-20
第 23 図 11-22
第 38 図 51
第 38 図 53
第 38 図 54
第 38 図 62
第 38 図 55
図版 38　第 42 図 47
第 80 図 48-6
第 80 図 48-7
第 80 図 48-13
第 80 図 48-12
第 80 図 48-14
図版 39　第 95 図 52-15
第 106 図 7
第 108 図 13
第 22 表Ｂ -2

Ⅰ　発掘調査の概要

１　調査に至る経過

平成 30 年５月 31 日付けで、埼玉県大里農林振興センター所長から埼玉県教育委員会あてに、池上地区ほ場整備事業に伴い、文化財保護法第 94 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出があった。

これを受けて、熊谷市教育委員会は、当該地に複数箇所のトレンチによる試掘調査を実施した。その結果、現地表面下 60 ～ 100 ㎝の深度から弥生時代や古墳時代の遺構と共に、古墳時代の土器などの埋蔵文化財の所在が確認された。

当該地に埋蔵文化財が所在する旨を埼玉県大里農林振興センターに回答するとともに、その保存に関する協議を重ねたが、事業計画どおり整備をする方針となったため、記録保存のための発掘調査の措置を講ずることとなった。

発掘調査は、平成 30 年度が、平成 30 年９月 28 日付け熊教社埋第 368 号で、文化財保護法第 99 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、平成 30 年 10 月 23 日から開始した。

令和元年度が、令和元年６月 10 日付け熊教社埋第 125 号で、文化財保護法第 99 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、令和元年９月 30 日から開始した。

なお、埼玉県教育委員会から熊谷市教育委員会あてに、平成 30 年８月 27 日付け教文資第 1036-1 号で発掘調査実施の指示通知があった。

２　発掘調査、整理・報告書作成の経過

発掘調査は、平成 30・令和元年度の２箇年実施し、平成 30 年度が平成 30 年 10 月１日～平成 31 年３月 29 日（鶴巻遺跡）、平成 30 年 12 月 19 日～平成 31 年３月 27 日（池上遺跡　１次）、令和元年度が令和元年９月 20 日～ 11 月 12 日（２次）、11 月 25 日～ 12 月 12 日（３次）、12 月 12 日～令和２年３月 27 日（４次）にかけて行われた。調査面積は、平成 30 年度で鶴巻遺跡が 418 ㎡、池上遺跡が 400 ㎡で、令和元年度で池上遺跡が 1,407 ㎡であった。

まず、遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行った。表土を剥ぎ終わったのち、遺構確認作業を行った。その際、溝跡、土坑などが確認され、順次遺構の調査に着手した。

そして、令和２年３月 27 日、調査のすべてを終了した。

整理作業は、調査終了後、令和２年６月から始めた。まず、遺物の洗浄・注記・復元を行い、順次、遺物の実測、拓本採りを行った。遺構の図面整理作業も同時に行い、10 月からは遺構・遺物図面のトレース、遺構・遺物の図版組を行い、令和２年 12 月には、原稿執筆、割付等の作業をして、報告書の印刷に入り、校正を行った後、翌年３月下旬に本報告書を刊行した。

３　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

発掘調査は平成 30・令和元年度に、整理・報告書作成は令和２年度に実施し、いずれも熊谷市教育委員会が主体者となって実施した。

主体者　熊谷市教育委員会

ア　発掘調査

（平成 30・令和元年度）

教 育 長	野原　　晃
教育次長	小林　教子
社会教育課長	鶴田　敏夫
社会教育課担当副参事	吉野　　健
社会教育課業務主幹（文化財保護係）	宮前　彰生
文化財保護係主査	松田　　哲
主査	星　　祥子
主査	小島　洋一
主査	蔵持　俊輔
主任	山下　祐樹
主任	腰塚　博隆
主任	新井　　端
主事（任期付任用職員）	武部　喜充
主事（任期付任用職員）	島村　範久
主事（任期付任用職員）	大野美知子

イ　整理・報告書作成

（令和２年度）

教 育 長	野原　　晃
教育次長	田島　　斉
社会教育課長	三友　孝二
社会教育課担当副参事	吉野　　健
主幹兼文化財保護係長	松田　　哲
主査	星　　祥子
主査	小島　洋一
主任	山下　祐樹
主任	腰塚　博隆
主任	新井　　端
主事	山川愛希子
主事（任期付任用職員）	山川　守男
主事（任期付任用職員）	大野美知子
嘱託職員（任期付任用職員）	礒﨑　　一

Ⅱ　遺跡の立地と環境

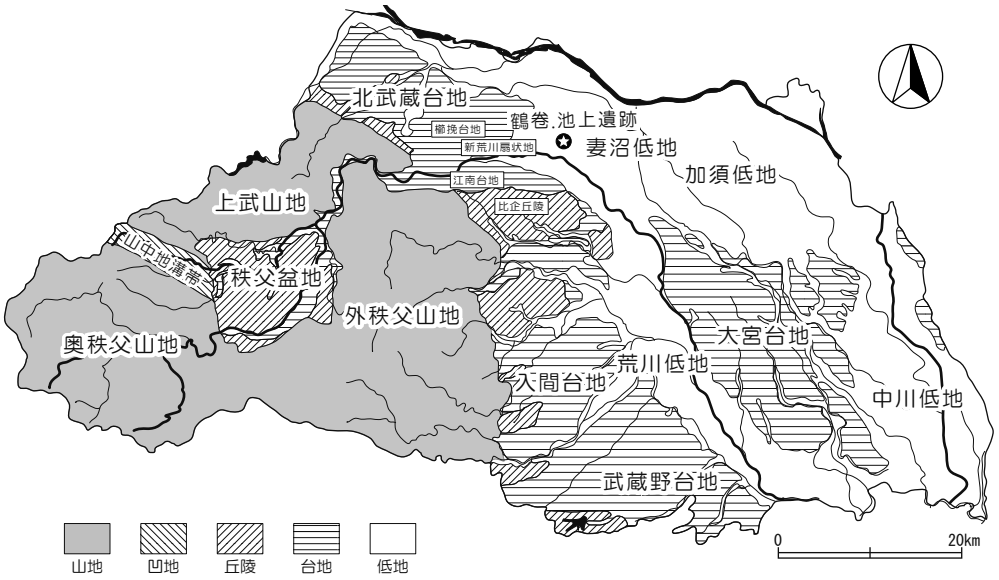
鶴巻、池上遺跡は、熊谷市に所在し、JR 高崎線熊谷駅の北東約 3.5 ㎞、荒川から北へ約 3.3 ㎞、利根川から南へ約６㎞に位置し、国道 17 号熊谷バイパスと国道 125 号が交差する周辺に広がる遺跡である。

両遺跡の所在する池上地区は、熊谷市の東部にあたり、隣接する行田市小敷田地区と接し、北側には旧河川（現星川）によって形成された微高地があり、両遺跡は妻沼低地上にある。妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された沖積地であり、熊谷市の大半を覆っている沖積扇状地の新荒川扇状地と自然堤防が広がるエリアに分けられる。本遺跡は、その荒川左岸の新荒川扇状地の標高約 24 ｍ前後に立地し、緩やかに北西方向から南東方向への傾斜が確認でき、水田が広がる低地上に位置する。付近には湧水地点が数箇所あり、近年までは多数の場所でその伏流水が流れ出ていた。遺跡を覆っていた土は、関東造盆地運動による地盤の沈下、荒川、もしくはその支流の度重なる氾濫の影響が認められ、およそ 40 ～ 60 ㎝の厚さをもっていた。

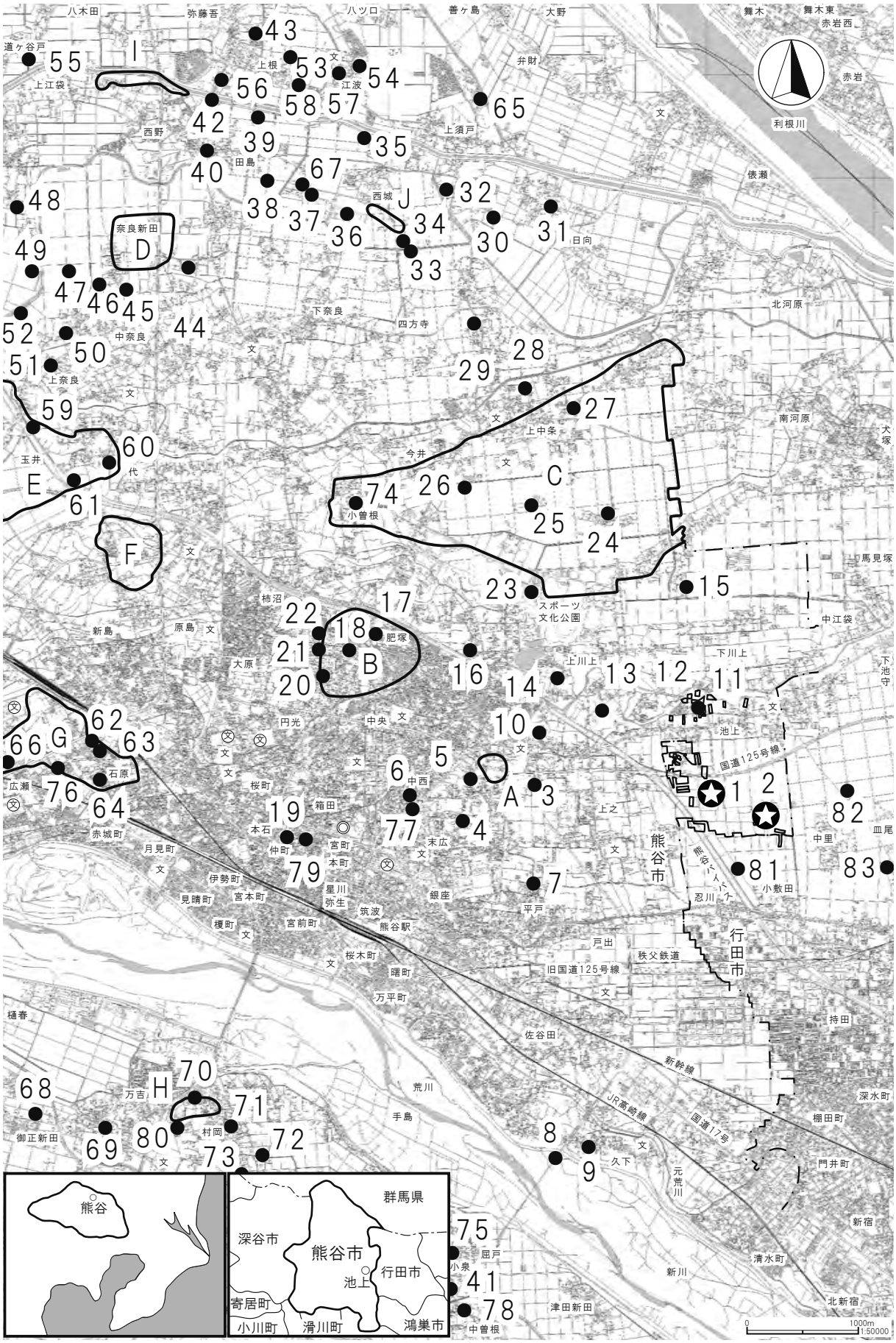
それでは、本遺跡を中心に熊谷市東部における歴史的環境について概観する。

まず、縄文時代であるが、熊谷市東部付近では極めて少なく、早期から中期にかけてはほとんど確認できず、市内では台地やその縁辺部の低地付近に確認される。後期になると徐々に低地への進出が顕著になり、寺東遺跡など、櫛引台地から離れた低地上にも遺跡が確認できるようになる。諏訪木遺跡、中西遺跡からは集落が確認されるとともに、加曾利Ｂ式期以降の遺物が検出されており、晩期まで継続していたと考えられる。池上遺跡では、熊谷バイパスを隔てた西縁部において、縄文時代後期から晩期にかけての遺構、遺物、包含層がこれまでに確認されている。

弥生時代に入ると、初期段階である前期末から中期前半において本遺跡に隣接する藤之宮遺跡で土器片が検出されている。市内でこの時期の遺跡は櫛引台地直下の低地に集中しているが、それらは集落ではなく、再葬墓が多い。横間栗遺跡では前期末から中期前半の再葬墓が 13 基確認され、このほかにも、飯塚遺跡、飯塚南遺跡や深谷市の上敷免遺跡などでも再葬墓が確認されている。中期中頃になるとこれまでの状況は一変して、集落跡の展開が増す。東日本でも最古の段階の環濠集落と考えられる池上遺跡



第１図　埼玉県の地形図



第２図　周辺遺跡分布図

第１表　周辺遺跡一覧表

1	**池上遺跡（弥生中、古墳、平安）**	25	女塚遺跡（古墳後、奈良・平安、中世）	49	一本木前遺跡（古墳前・後、奈良・平安、中・近世）	73	西浦遺跡（奈良・平安）
2	**鶴巻遺跡（古墳）**	26	赤城遺跡（古墳、奈良・平安）	50	土用ヶ谷戸遺跡（古墳後、奈良・平安）	74	腰廻遺跡（奈良・平安）
3	諏訪木遺跡（縄文後・晩、弥生中・後、古墳、奈良・平安、中・近世）	27	中条遺跡（古墳、奈良・平安、中世）	51	奈良氏館跡（平安末～中世）	75	北方遺跡（奈良・平安）
4	前中西遺跡（弥生中・後、古墳、奈良・平安、中・近世）	28	中条氏館跡（中世）	52	天神下遺跡（古墳前・後、奈良・平安）	76	宮前遺跡（奈良・平安）
5	藤之宮遺跡（弥生中、古墳、平安、中世）	29	光屋敷遺跡（古墳後、奈良・平安、中世）	53	寺東遺跡（縄文前～後）	77	西浦町遺跡（奈良・平安）
6	箱田氏館跡（平安末～中世）	30	先載場遺跡（古墳後、奈良）	54	稲荷東遺跡古墳後、奈良・平安）	78	宮前町遺跡（奈良・平安）
7	平戸遺跡（弥生中、古墳後、平安、中・近世）	31	八幡間遺跡（古墳後、奈良）	55	玉井陣屋跡（平安末～中世）	79	宮町遺跡（奈良・平安）
8	久下氏館跡（中世）	32	東城城跡（平安）	56	新ヶ谷戸遺跡（古墳後、奈良・平安）	80	中町遺跡（奈良・平安）
9	市田氏館跡（中世）	33	長安寺遺跡（古墳後、奈良・平安）	57	水押下遺跡（古墳後）	81	旭町遺跡（奈良・平安）
10	成田氏館跡（中世）	34	西城城跡（平安）	58	稲荷木上遺跡（古墳後）	82	北町遺跡（奈良・平安）
11	古宮遺跡（縄文、弥生中、古墳前、奈良・平安、中・近世）	35	西城切通遺跡（縄文後・晩）	59	下河原中遺跡（奈良・平安）	行　田　市	
12	上河原遺跡（奈良・平安、中・近世）	36	鵜森遺跡（弥生後、古墳後、奈良・平安）	60	本代遺跡（古墳後、近世）	81	小敷田遺跡（弥生中、古墳、奈良・平安）
13	宮の裏遺跡（古墳後）	37	森谷遺跡（古墳後、奈良・平安）	61	下河原上遺跡（近世）	82	池守遺跡（弥生後、古墳前・後）
14	成田遺跡（古墳後）	38	鷺ヶ谷戸遺跡（古墳後、奈良・平安）	62	天神前遺跡（古墳中、後、中世）	83	皿尾遺跡（古墳前）
15	中条条里遺跡（古墳前・中、奈良・平安）	39	山ヶ谷戸遺跡（古墳後、奈良・平安）	63	兵部裏屋敷跡（中世）	古　墳　群	
16	河上氏館跡（中世）	40	場違ヶ谷戸遺跡（縄文後）	64	御蔵場跡（近世）	A	上之古墳群（古墳後～末）
17	八幡上遺跡（古墳）	41	宮前遺跡（奈良・平安）	65	高根遺跡（縄文、古墳後、平安、中・近世）	B	肥塚古墳群（古墳後～末）
18	出口下遺跡（古墳後）	42	実盛館（平安）	66	不二ノ腰遺跡（奈良・平安）	C	中条古墳群（古墳中期末～後）
19	熊谷氏館跡（中世）	43	道ヶ谷戸条里遺跡（縄文後、奈良）	67	宮前遺跡（古墳後、平安）	D	奈良古墳群（古墳中期後～末）
20	肥塚館跡（中世）	44	横塚遺跡（古墳前、平安）	68	宿遺跡（古墳後、奈良・平安、中・近世）	E	玉井古墳群（古墳後）
21	出口上遺跡（奈良・平安、中・近世）	45	東通遺跡（古墳後）	69	万吉西浦遺跡（縄文中、古墳、平安、近世）	F	原島古墳群（古墳後）
22	肥塚中島遺跡（奈良・平安、近世）	46	西通遺跡（古墳後）	70	村岡館跡（平安）	G	石原古墳群（古墳後）
23	北島遺跡（弥生中、古墳、奈良・平安、中世）	47	中耕地遺跡（縄文中、古墳前・後、奈良・平安）	71	北西原遺跡（奈良・平安）	H	村岡古墳群（古墳後）
24	上中条中島遺跡（古墳後、奈良・平安）	48	別府条里遺跡（奈良・平安）	72	塚本遺跡（古墳、奈良・平安）	I	上江袋古墳群（縄文後、古墳前・後、中・近世）

や、その墓域で同じく最古段階とされる方形周溝墓が検出された行田市の小敷田遺跡などがあり、集落としての展開が本格化する。中期後半は前中西遺跡、諏訪木遺跡、北島遺跡で集落が営まれており、前中西、諏訪木、藤之宮遺跡では集落に付随して方形周溝墓も検出されている。北島遺跡では、大規模な集落展開と墓域の形成のほかに、水田に引き込む水路や堰が造営されていたことが確認され、計画性をもって大規模水田経営が営まれていたことがわかる。後期になると初頭において藤之宮遺跡、諏訪木遺跡でわずかに遺物が検出されるのみで、遺構はほとんど確認されていない。

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく低地帯の自然堤防上にも営まれるようになり、時期が下ると遺跡数も増加傾向にある。前期では北島遺跡、古宮遺跡、横間栗遺跡、根絡遺跡、一本木前遺跡などで集落の展開が確認され、北島遺跡、古宮遺跡、一本木前遺跡では集落とともに方形周溝墓も検出されている。この時期の市東部から行田市域の妻沼低地にかけては、池上遺跡、池守遺跡、小敷田遺跡、皿尾遺跡、天神東遺跡、中条条里遺跡が確認されている。

中期の様相は、人々の痕跡が希薄になり不明な点が多いが、集落がさらに大規模に展開していくのは中期後半以降と推定される。痕跡が確認できるのは前中西遺跡、北島遺跡、中条遺跡で遺構・遺物が検出されている。また、古墳に目を向けると、数こそ少ないが、妻沼低地北部の福川の自然堤防上に横塚山古墳、また同低地中央部に鎧塚古墳や、女塚１号墳などの帆立貝式前方後円墳が存在する。そして、

後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりではなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は、古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。妻沼低地の自然堤防上では、一本木前遺跡・飯塚南遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡などが存在する。一本木前遺跡では後期を中心に奈良・平安時代に至るまでの集落が検出されており、当該期の祭祀跡が出土している。

律令体制の始まる奈良・平安時代には、鶴巻・池上遺跡周辺は武蔵国幡羅郡または埼玉郡のいずれかに属していたと推定される。

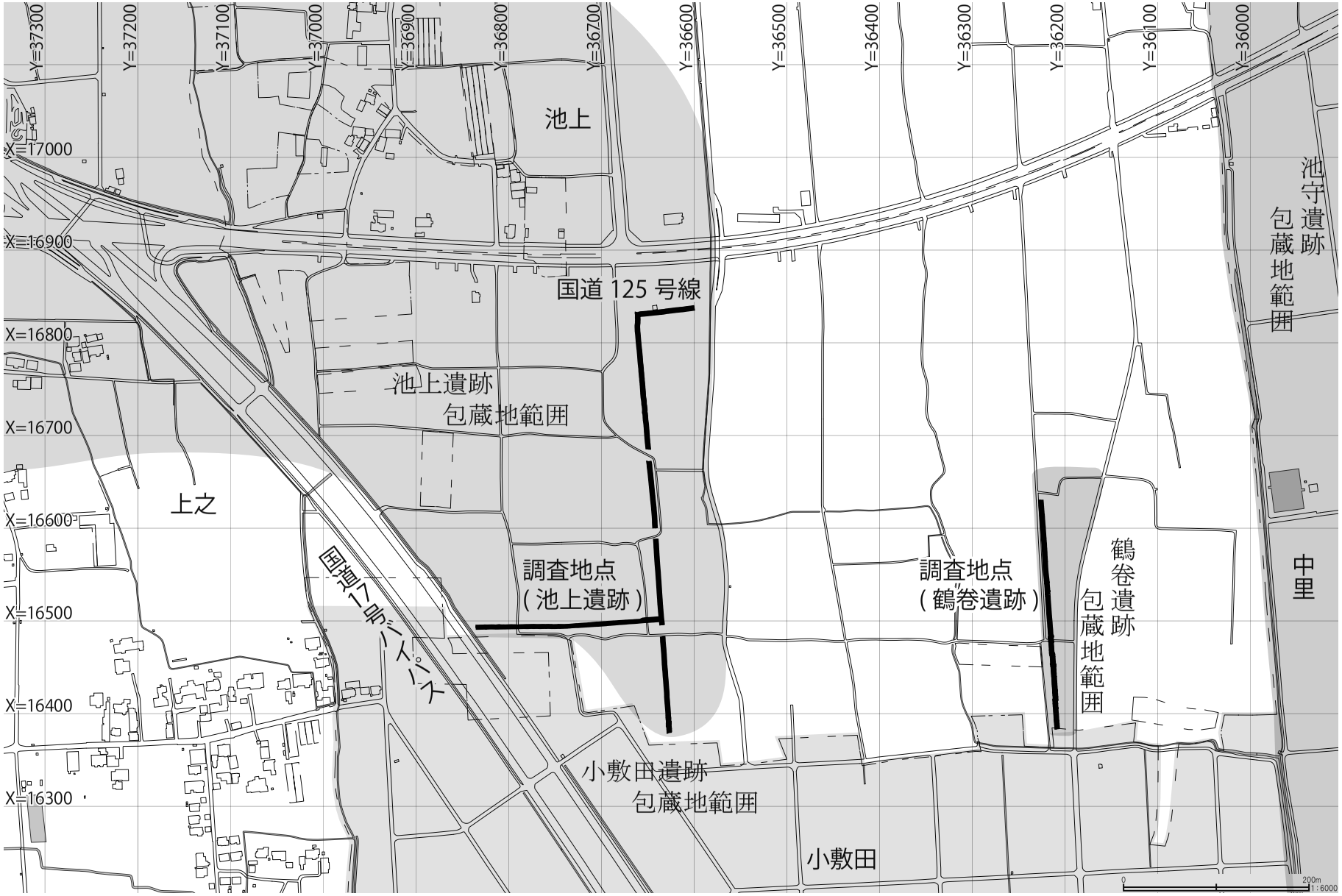
古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、爆発的に増加し、それらは奈良・平安時代へと継続されていくものが多い。このころの中心的集落は北島遺跡にみられ、300 軒以上もの住居跡が検出されている地域の中核となる典型的律令集落であろうと推定される。周囲では水田跡が確認され、「中条条里」とされる条里区画割がなされ、それに沿う水路跡も検出された。池上地区周辺でも条里区画割は確認されており、「池上条里」、「小敷田条里」と言われる条里跡が存在する。

この条里跡が残る地域周辺では、７世紀末から８世紀初頭頃の出挙木簡を出土した小敷田遺跡、整然と軸線がそろう９世紀代の大型掘立柱建物跡群が検出された池上遺跡がある。また、西接する諏訪木遺跡では、古墳時代後期から平安時代にかけて、玉類、銅鋺、斎串・人形等の木製祭祀具を使った水辺の祭祀のほか、平安時代の溝に区画された集落跡や大型の掘立柱建物跡群、多数の灰釉陶器や緑釉陶器が検出された。これらのことからその地域周辺は他とは異なる集落の様相とともに、官衙的様相を各遺跡から確認することができ、背景にはこの地が耕地、水運、陸運の利があり、この地域の一大要衝であったことが推定される。

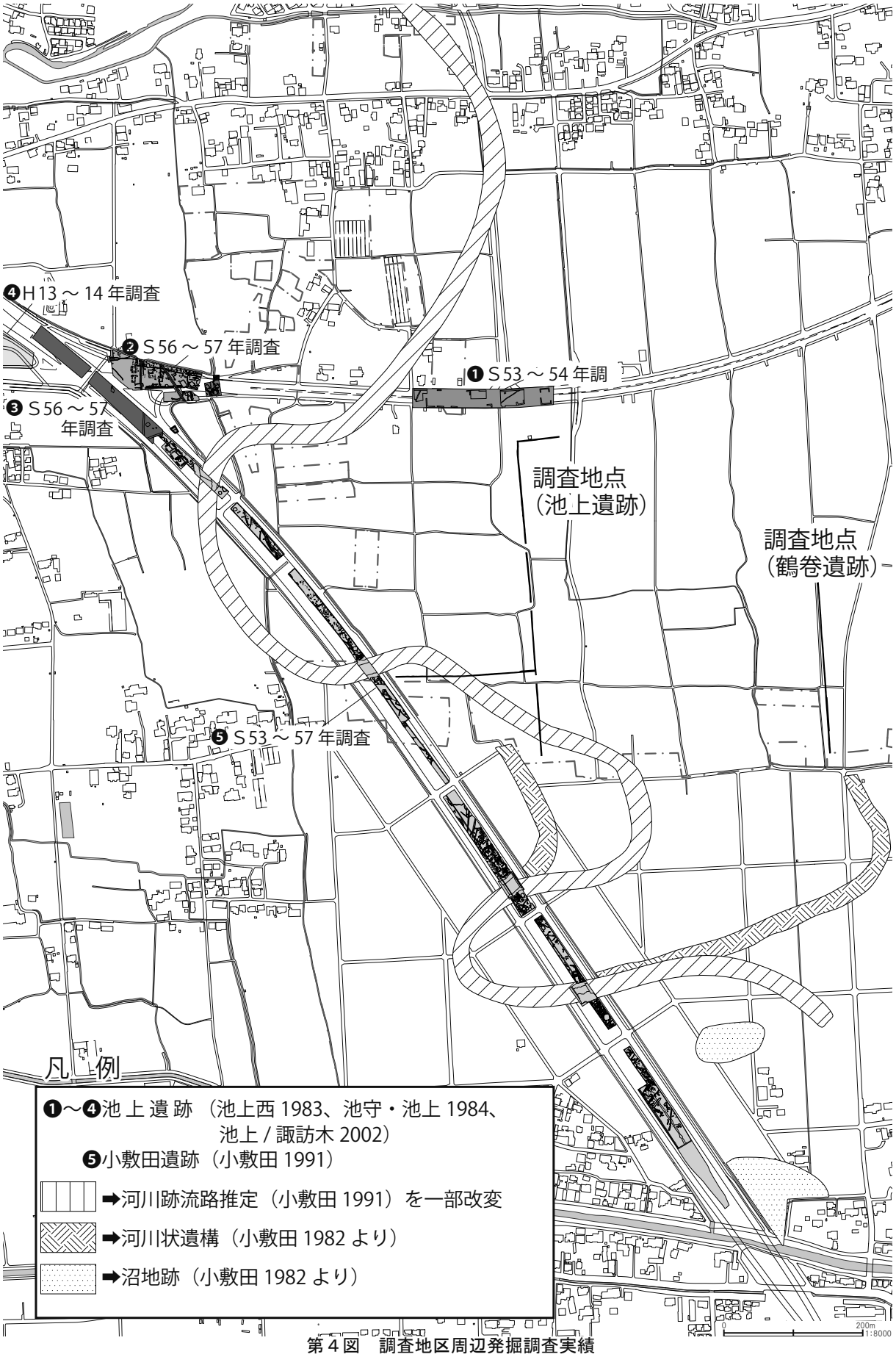
一方､官衙的要素をもつ遺跡は櫛挽台地北東端に幡羅官衙遺跡群が所在する。遺跡群は幡羅官衙遺跡、西別府遺跡、西別府祭祀遺跡、西別府廃寺で構成され、幡羅官衙遺跡と西別府遺跡が幡羅郡家（郡役所）跡、西別府祭祀遺跡が郡家湧泉祭祀場跡、西別府廃寺は郡家付属寺院と考えられている。これら３つの要素が有機的に機能していた郡役所跡は貴重であり、幡羅官衙遺跡、西別府祭祀遺跡ともに古代の地方役所の構造や立地が分かる上で重要であることから、国史跡に指定されている。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。成田氏館跡、別府城跡、別府氏館跡、西別府館跡、玉井陣屋跡、奈良氏館跡、黒沢館跡、兵部裏屋敷等であるが、各館跡も実態は不明である。その中で残りの良いものの中に、別府城跡がある。別府氏の居館で方形の敷地に土塁の一部と空堀をよく残している。また、三ヶ尻地区に所在する黒沢館跡は、発掘調査によって､渡辺崋山が記した『訪瓩録』に残る「黒沢屋敷」の記載と調査成果が合致した貴重な例である。また、近年「のぼうの城」で有名になった成田氏もこの時期から台頭してきた武将であるが、活躍した上之地域の周辺発掘から成田陣の一端が明らかになりつつある｡諏訪木遺跡は成田氏館跡に南接するが、成田氏や古河公方に関する遺構、遺物が確認され、かわらけが多いが、近年の調査では山内上杉系のかわらけも出土しており、古河公方足利氏と山内上杉氏両軍に関わるこの地での歴史を紐解く手がかりとなろう。

しかしながら、中世以降の歴史的実態はまだまだ情報不足で、今後の調査成果によるところが多く、情報の蓄積に期待するところであろう。



第３図　鶴巻・池上遺跡調査地点位置図



第４図　調査地区周辺発掘調査実績

鶴　巻　遺　跡

Ⅲ　遺跡の概要

１　鶴巻遺跡について

鶴巻遺跡は、市の東部、池上地区に位置し、規模としては 9,870 ㎡で、古墳時代前期を中心とする。平成 28 年度に、試掘調査を実施した結果、新たに確認された集落遺跡である。

隣接する池上遺跡、行田市の小敷田遺跡とともに一体の遺跡群として捉えることができる。

２　調査の方法

発掘調査の方法は、１辺 10 ｍのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、北西隅をＡ－１として東へA・B・C、南へ１・２・３とし、Ａラインは北から南へＡ－１・Ａ－２・Ａ－３・・・と呼称した。Ｂライン以東もＡラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

なお、座標は、周辺の過去の発掘調査地点との照会を容易にするため、世界測地系による国家方眼座標に基づく基準点測量による。

重機による表土剥ぎを実施し、その後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手掘りを行った。原則として、遺物は必要に応じて写真撮影後、遺構ごとに一括して慎重に取り上げた。遺構は、写真撮影した後、実測を行った。そして、最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

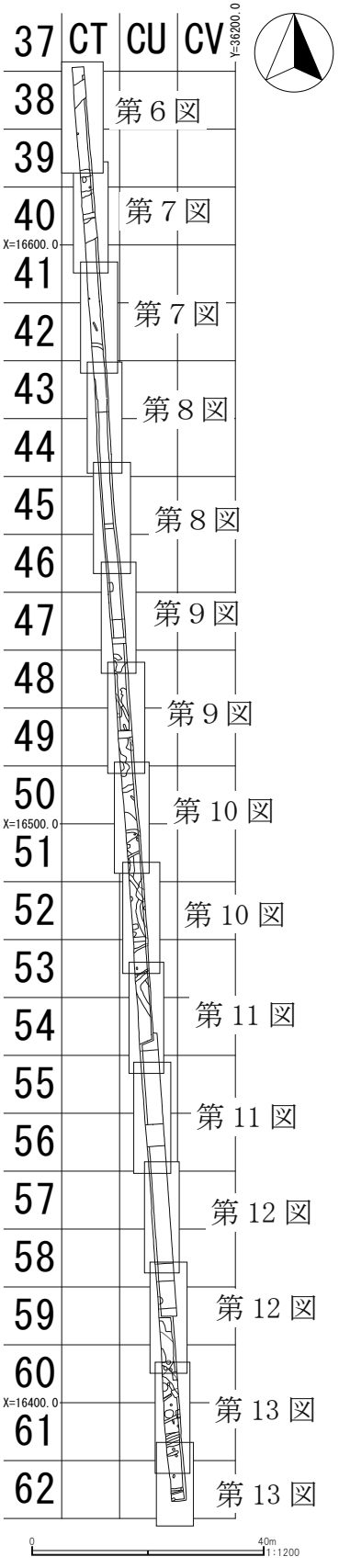
３　検出された遺構と遺物

本調査によって検出された遺構は、方形周溝墓４基、沼跡８箇所、溝跡 25 条、土坑 11 基、ピット 23 基である。

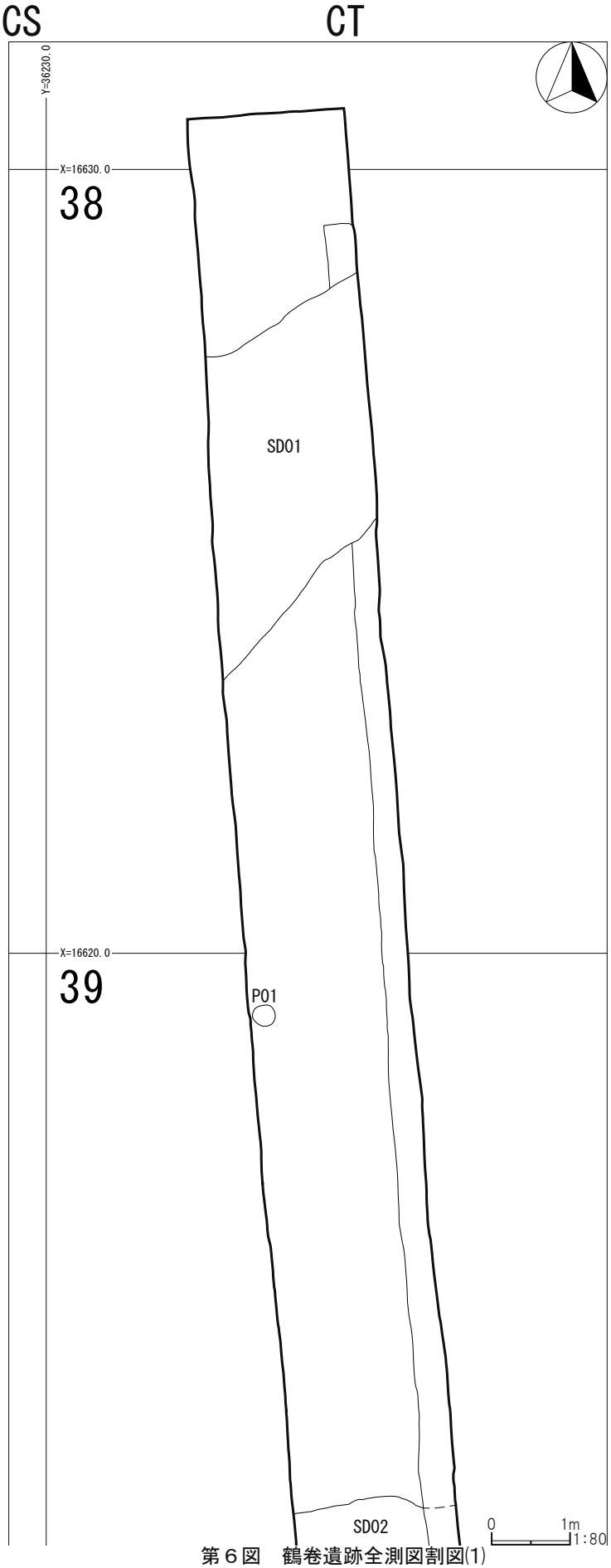
調査区の北と南にそれぞれ、大きな第１、７号沼跡が検出され、第７号沼跡の南北には方形周溝墓が集中する。調査区全体に溝跡、沼跡があり、溝跡は大部分が地形を生かし、東西軸へと延びている。沼跡は不整形なものが大多数である。

遺物については、弥生時代中期から古墳時代前期、奈良・平安時代、中近世が主体で、弥生土器、土師器の坏・高坏・甕・壺が検出され、古墳時代前期と考えられる木製品も沼跡から複数検出されている。

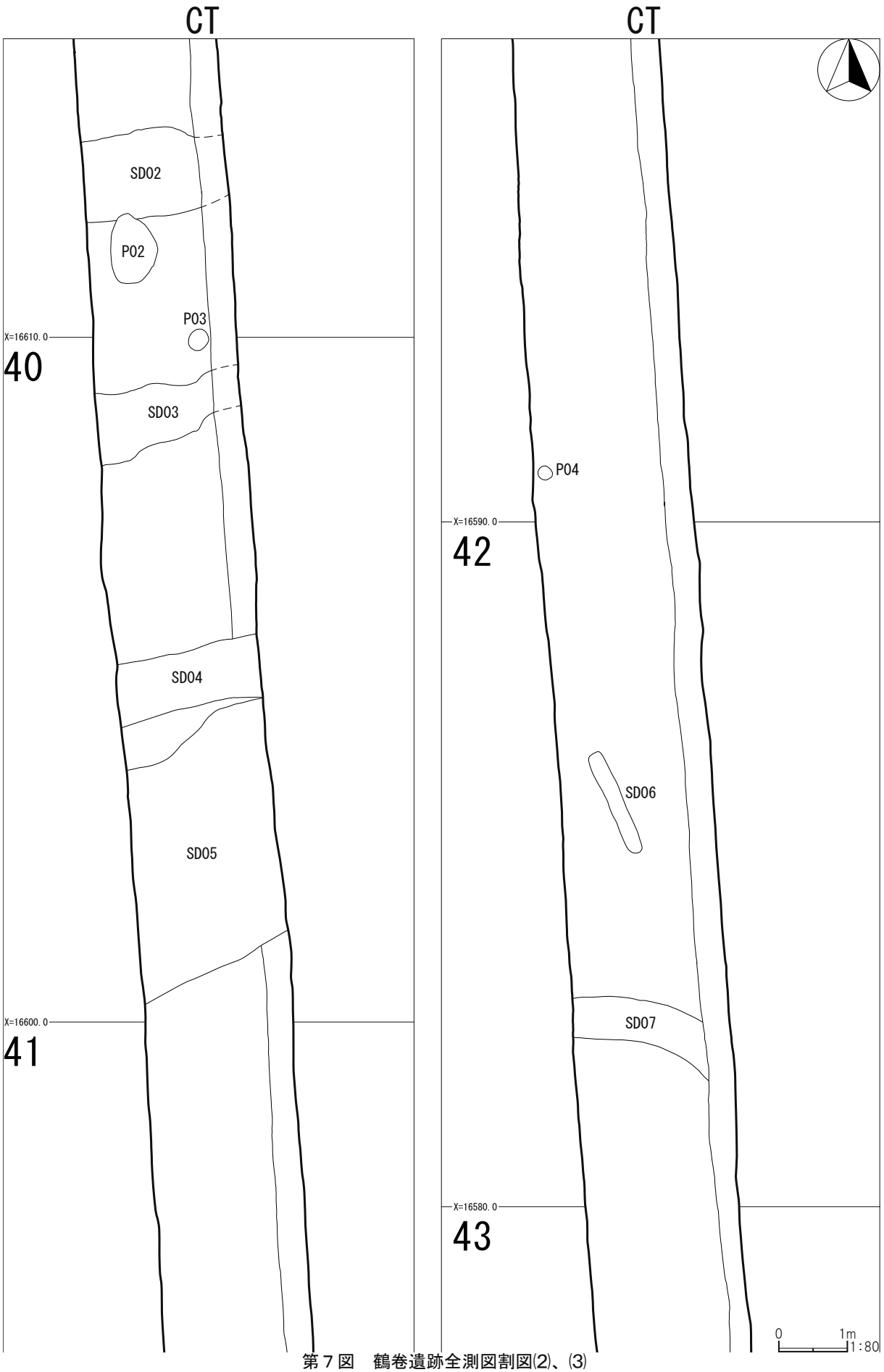
検出された遺物量は、コンテナ（大きさ：縦 34 ㎝、横 54 ㎝、深さ 15 ㎝）にして 16 箱であった。以下、調査の詳細を述べる。



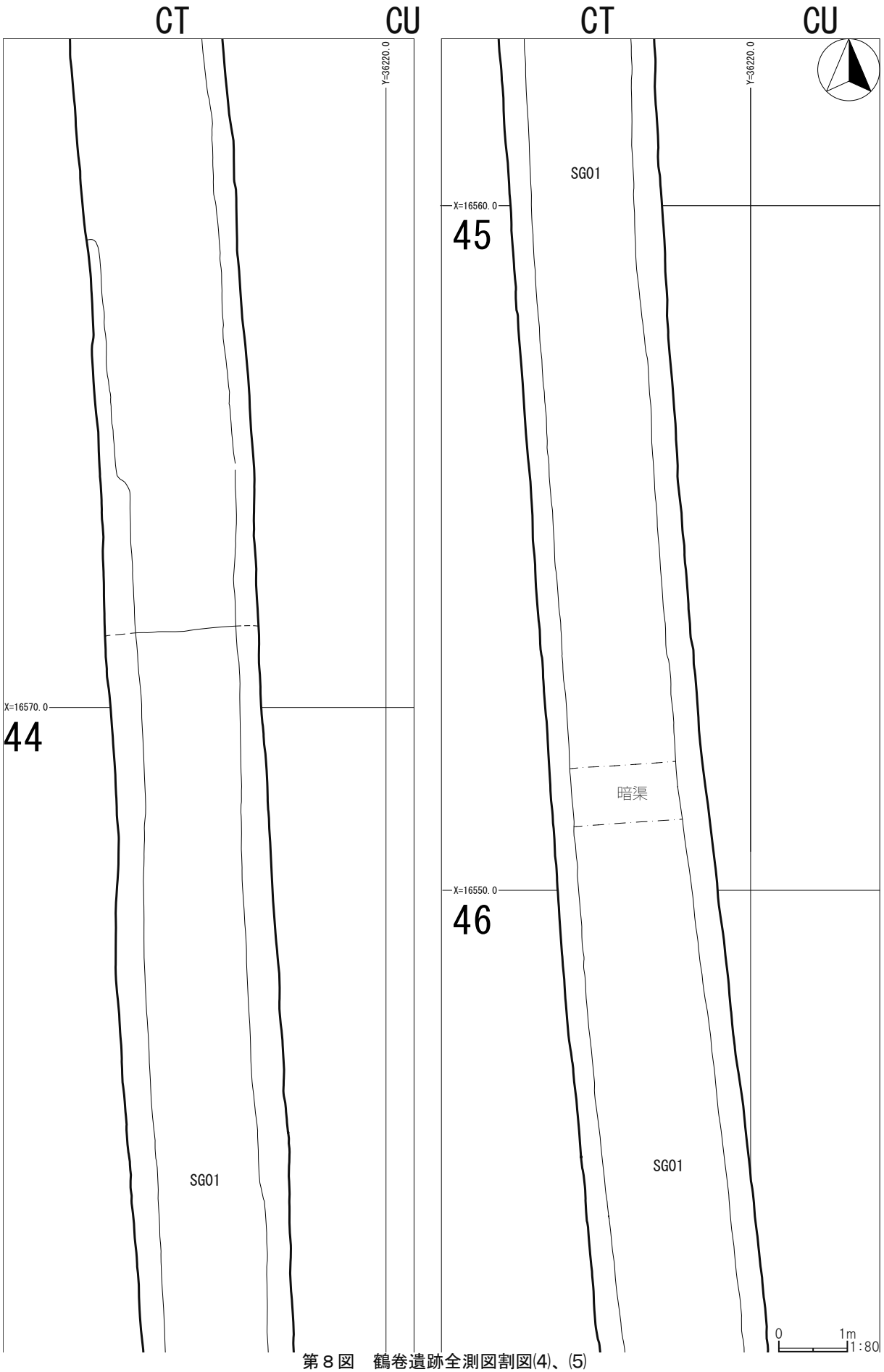
第５図　鶴巻遺跡調査区配置図



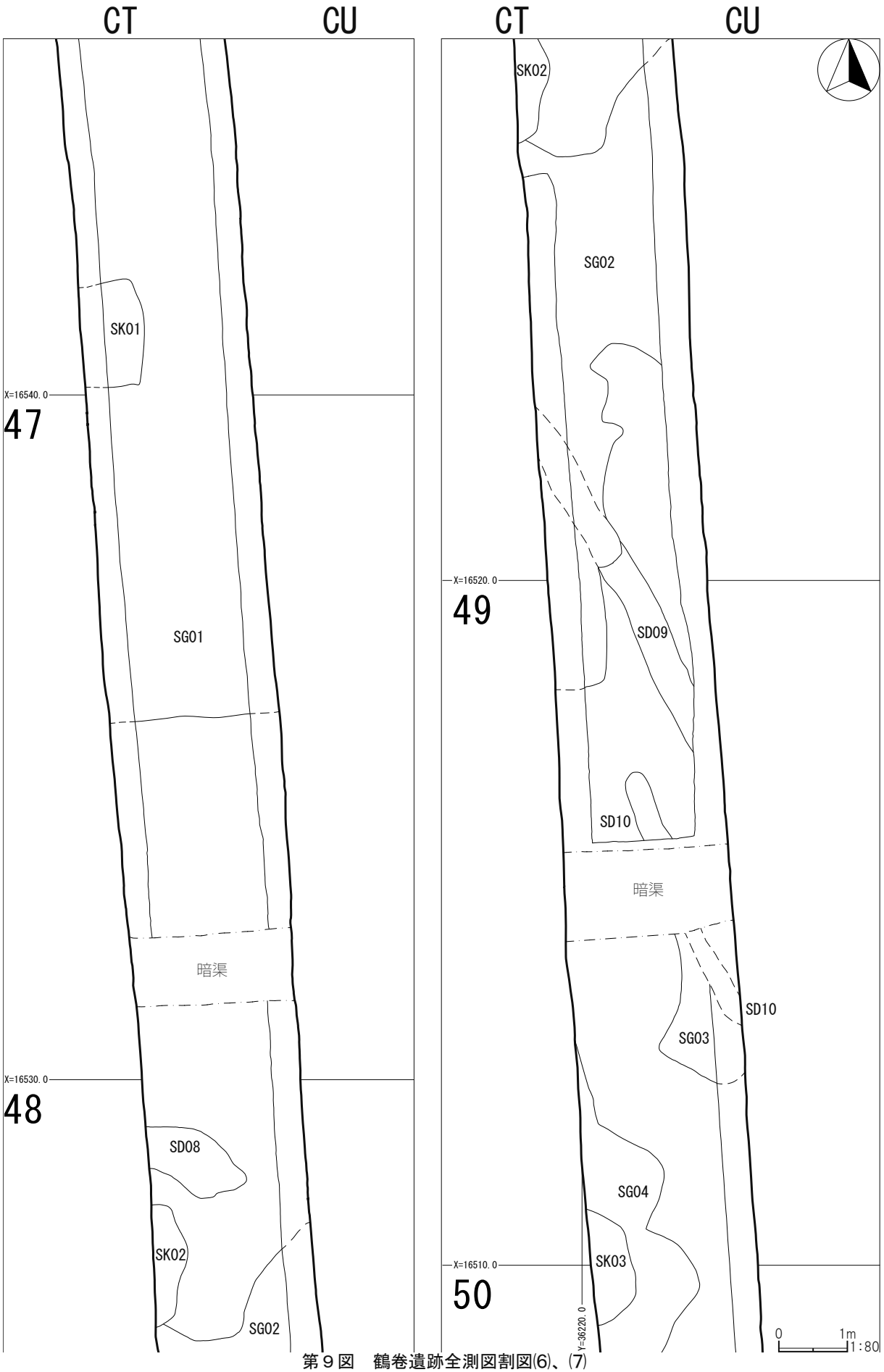
第６図　鶴巻遺跡全測図割図(1)



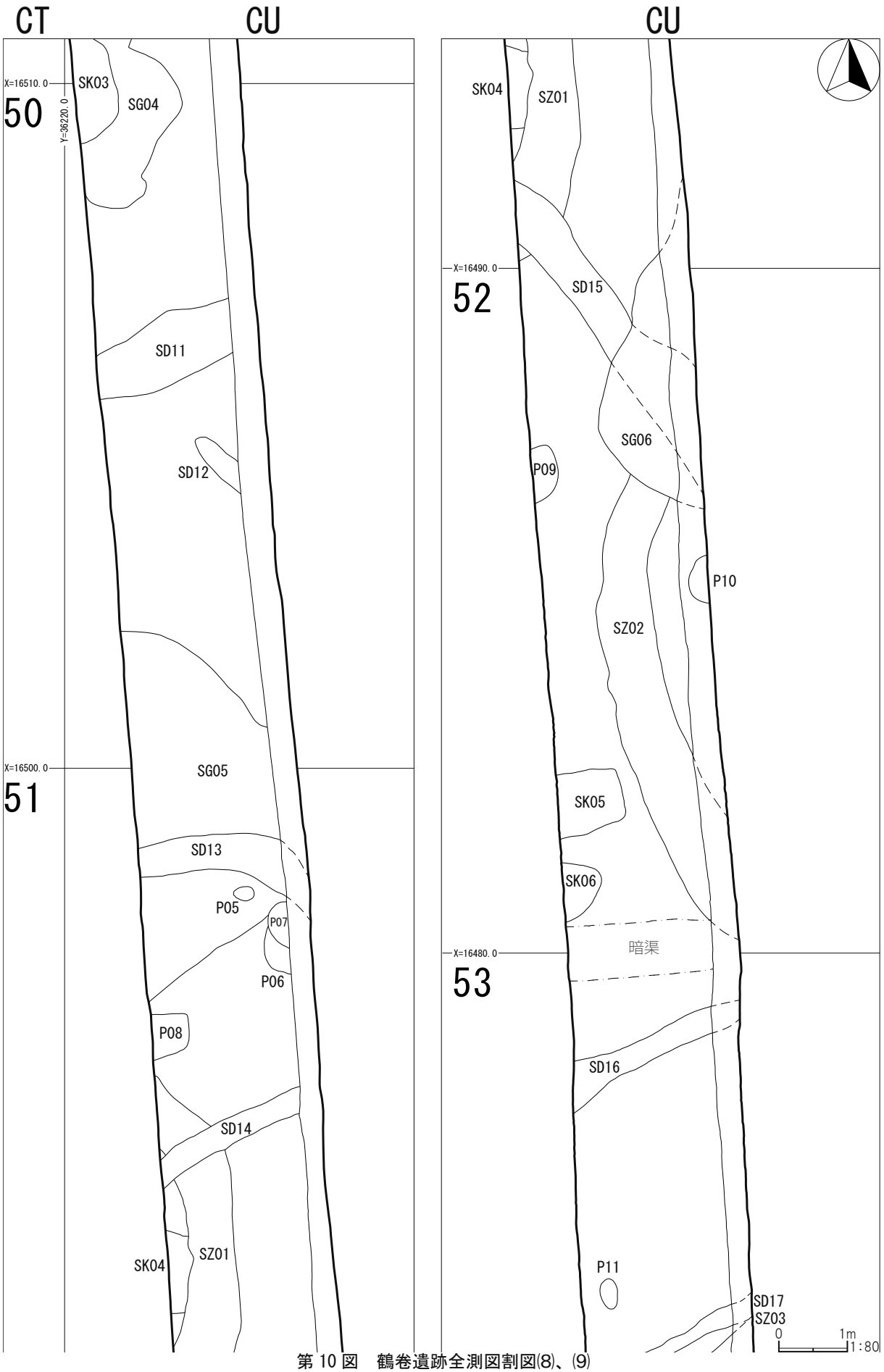
第７図　鶴巻遺跡全測図割図(2)、(3)



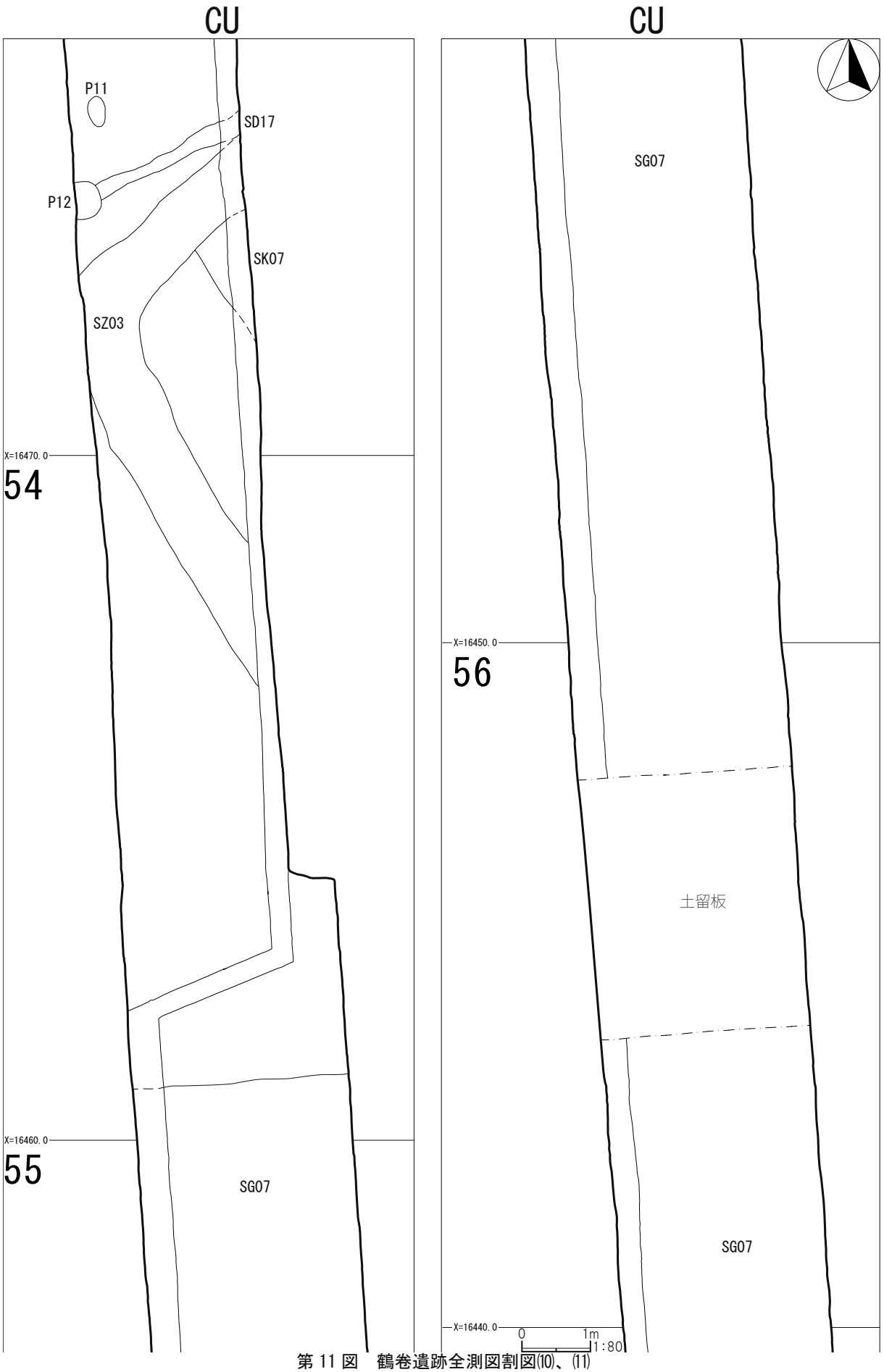
第８図　鶴巻遺跡全測図割図(4)、(5)



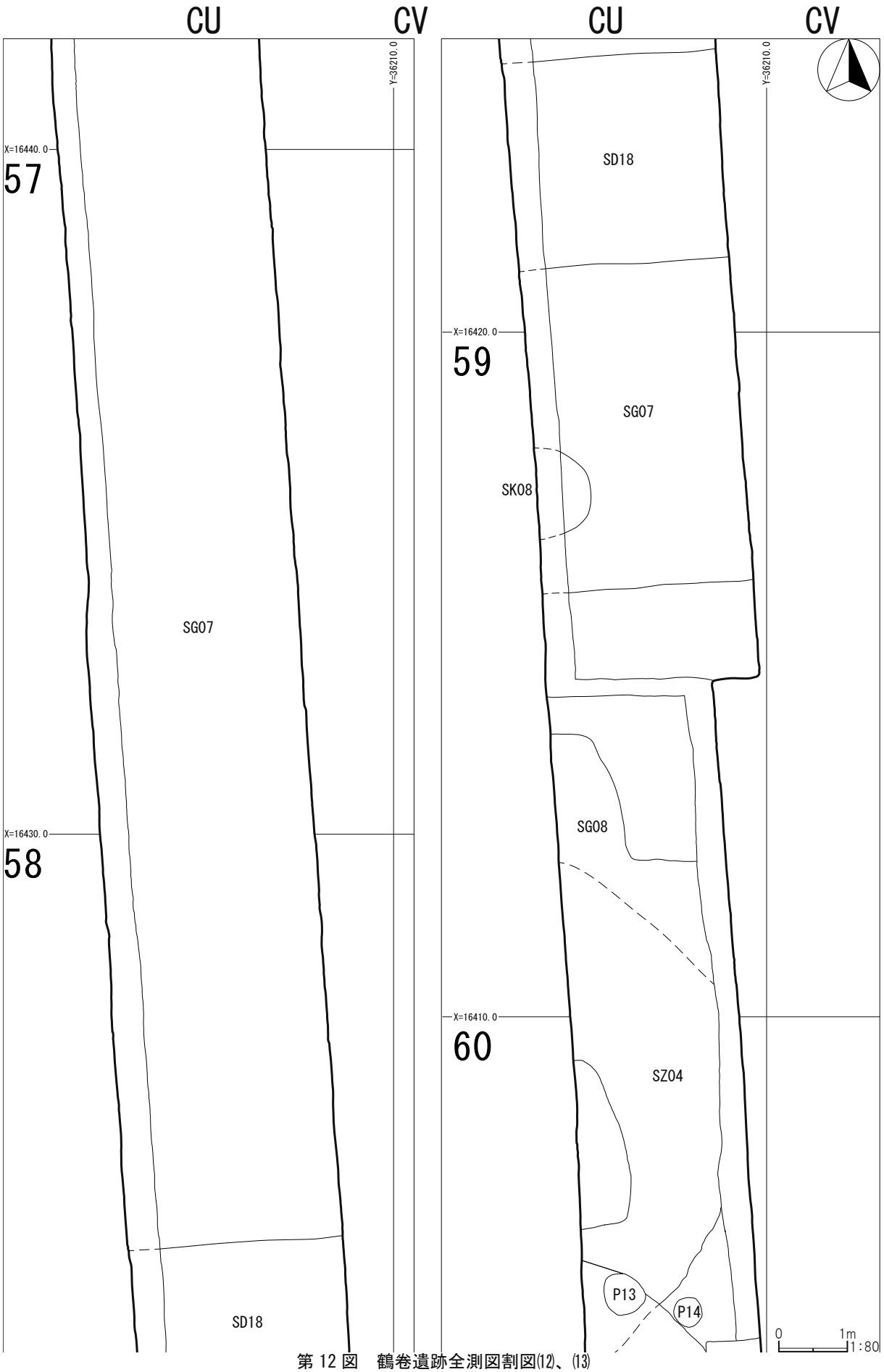
第９図　鶴巻遺跡全測図割図(6)、(7)



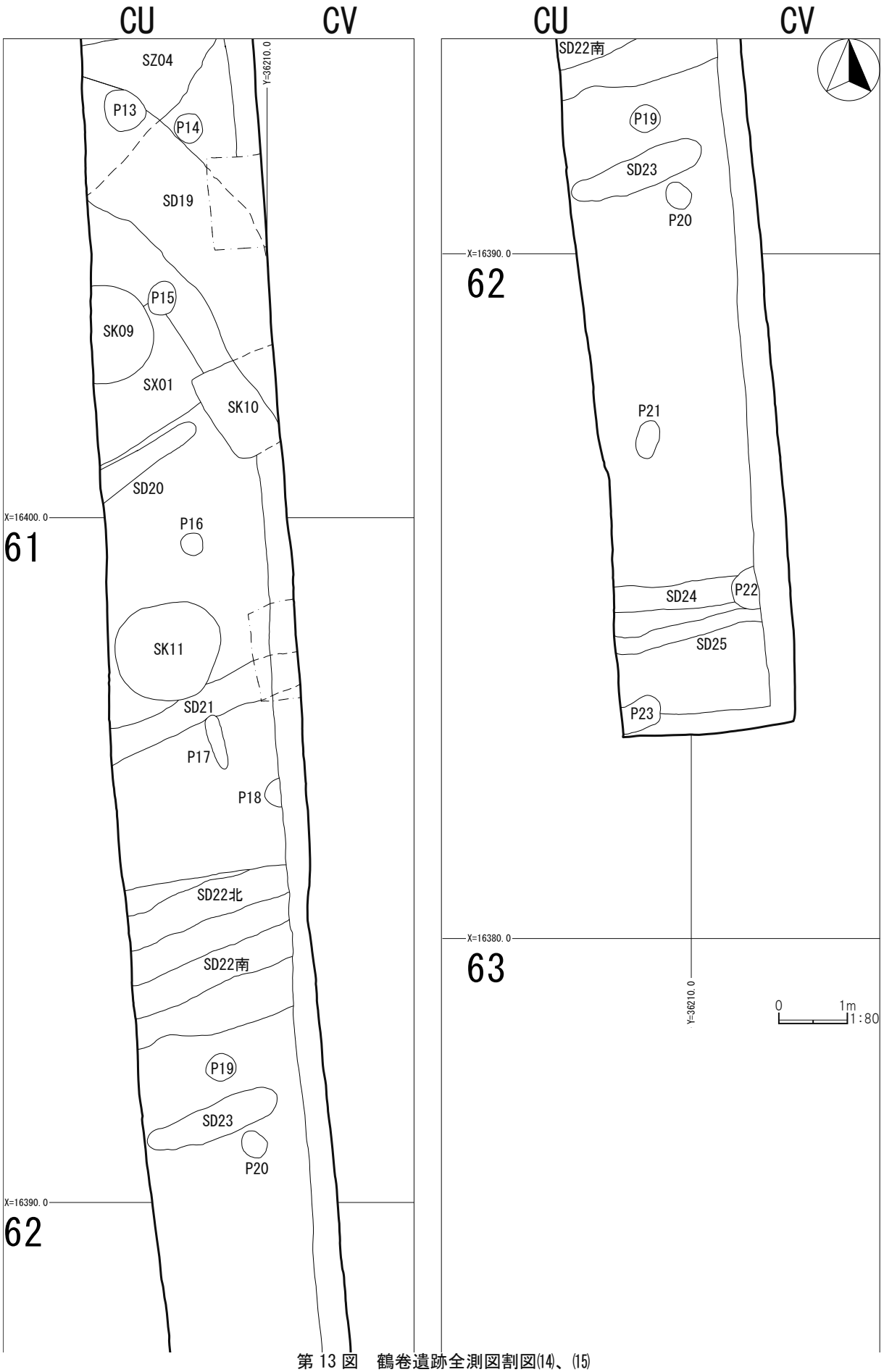
第 10 図　鶴巻遺跡全測図割図(8)、(9)



第 11 図　鶴巻遺跡全測図割図(10)、(11)



第 12 図　鶴巻遺跡全測図割図(12)、(13)



第 13 図　鶴巻遺跡全測図割図⑭、⑮

Ⅳ　遺構と遺物

1　方形周溝墓

第１号方形周溝墓（第 14 図）

ＣＵ－ 51 グリッドで検出された。第 14､15 号溝跡、第４号土坑と重複関係にあった。第 14、15 号溝跡に切られ、第４号土坑を切っていた。

検出されたのは東溝、北溝の一部の周溝で、大部分は調査区域外であった。

正確な規模は不明であるが、東周溝は、検出された長さが 3.50 m、最大幅 0.89 m、確認面からの深さは 0.37 m、北周溝は検出された長さが 0.50 m、最大幅 0.75 m、確認面からの深さは 0.39 mを測る。

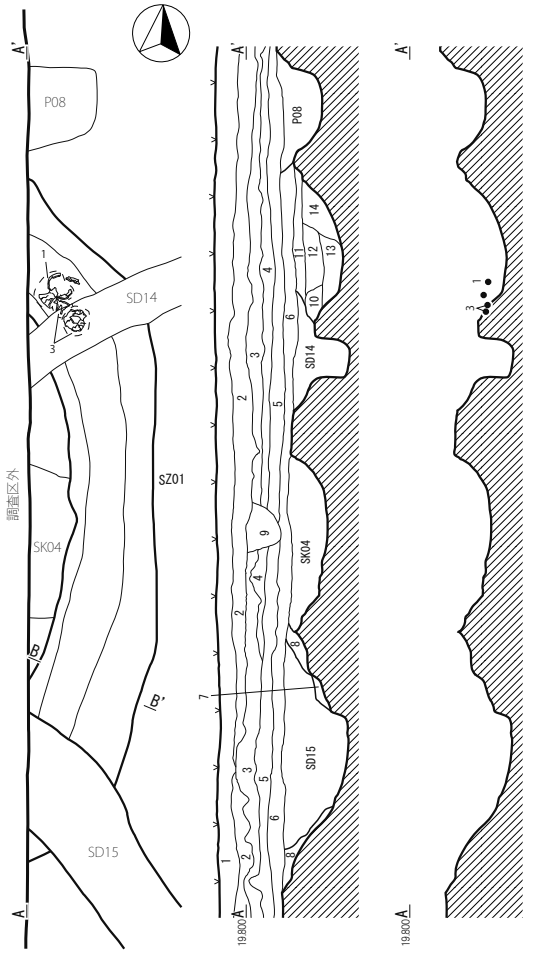
平面形は周溝が全周するタイプと思われるが、復元規模等は確認できなかった。

周溝の立ち上がりは緩やかであるが、東周溝と北周溝の隅付近では方台部側にやや鋭角の立ち上がりがみられた。底面はいずれの周溝もやや方台部側に傾く船底型であった。

土層は北周溝のみ明確に５層確認でき、暗オリーブ褐色とやや内容が異なるが、いずれも黒褐色のしまりの弱いシルト質土の堆積で、レンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は第 14 号溝跡との重複付近である北周溝から数点の土師器が確認され、いずれも土師器の台付甕であり、１点のみＳ字口縁甕であった。

時期は、平面形の特徴、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



SZ01
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)
7. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含)
9. 暗灰黄 2.5Y4/2(しまりかなり弱 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量 白色粒子多量 木片多量 黄色土粒子少量)
10. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
12. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 黒色土粒子多量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 黒色土粒子少量含)
14. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)

0　2m　1:60

第 14 図　第１号方形周溝墓

第２号方形周溝墓（第 15 図）

ＣＵ－ 52 グリッドから検出された。第６号沼跡と重複関係にあり、第６号沼跡に切られていた。

主軸は北西方向を指すと推定され、検出されたのは北西隅部分の北溝と西溝の周溝の一部であった。調査区域外に接しているため、墓の方台部を含めた大部分は調査区域外であった。

正確な規模は不明であるが、北周溝は、検出された長さが 1.75 m、最大幅 0.70 m、確認面からの深さ 0.19 m、西周溝は検出された長さ 4.87 m、最大幅 1.00 m、確認面からの深さは 0.27 mを測る。

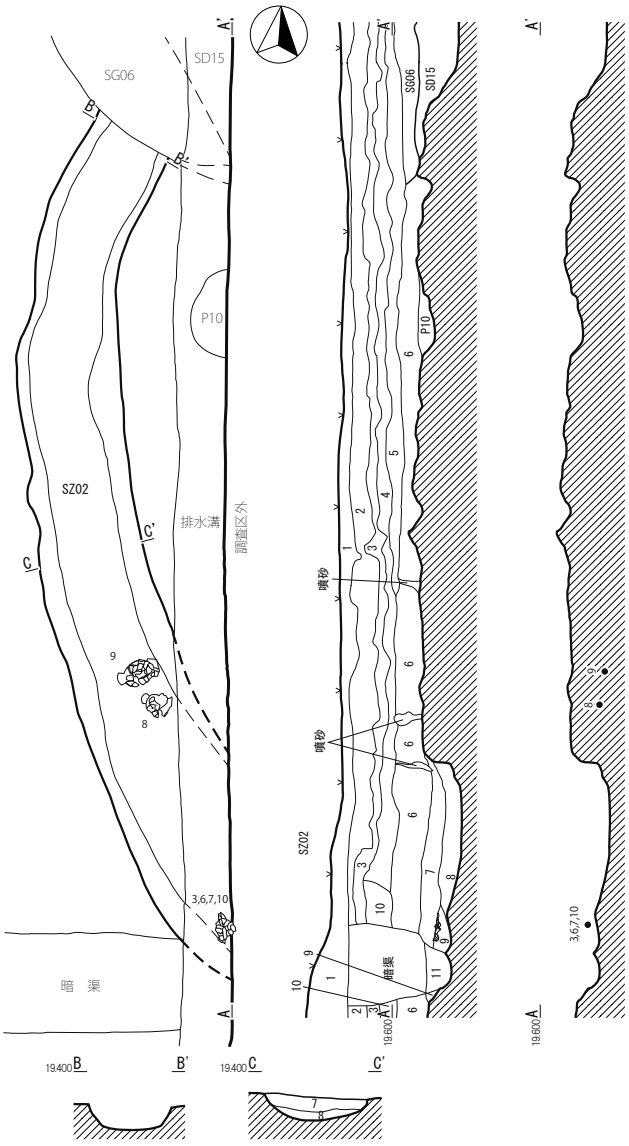
平面形は円形に近いプランで、周溝が全周するタイプと思われるが、復元規模等は確認できなかった。

立ち上がりは西周溝が当時の様相を備えており、方台部側が急で、外側は緩やかであった。底面は各周溝とも平坦であった。

土層は３～４層確認され、いずれも水平でレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は西周溝から多く検出されており、 ほぼ完形に近い土師器の台付甕・鉢が検出され、それ以外は土師器の台付甕・小型壺・高坏などの破片が検出された。

時期は、出土遺物から古墳時代前期である。



SZ02
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 青灰色砂少量含 木片少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含
黄色土粒子少量含 青灰色砂ブロック少量含)
11. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック多量含)

0 2m
1:60

第 15 図　第２号方形周溝墓

第３号方形周溝墓（第 16 図）

ＣＵ－ 53、54 グリッドから検出された。第７号土坑、第 17 号溝跡と重複関係にあり、第７号土坑に切られていた。

主軸はＮ -63° －Ｗを指し、検出されたのは北西隅部分の北溝と西溝の周溝の一部であった。調査区域外に接しているため、墓の方台部を含めた大部分は調査区域外であった。

正確な規模は不明であるが、北周溝は、検出された長さが 3.23 ｍ、最大幅 0.86 ｍ、確認面からの深さ 0.48 ｍ、西周溝は検出された長さ 5.23 ｍ、最大幅 1.06 ｍ、確認面からの深さ 0.30 ｍを測る。

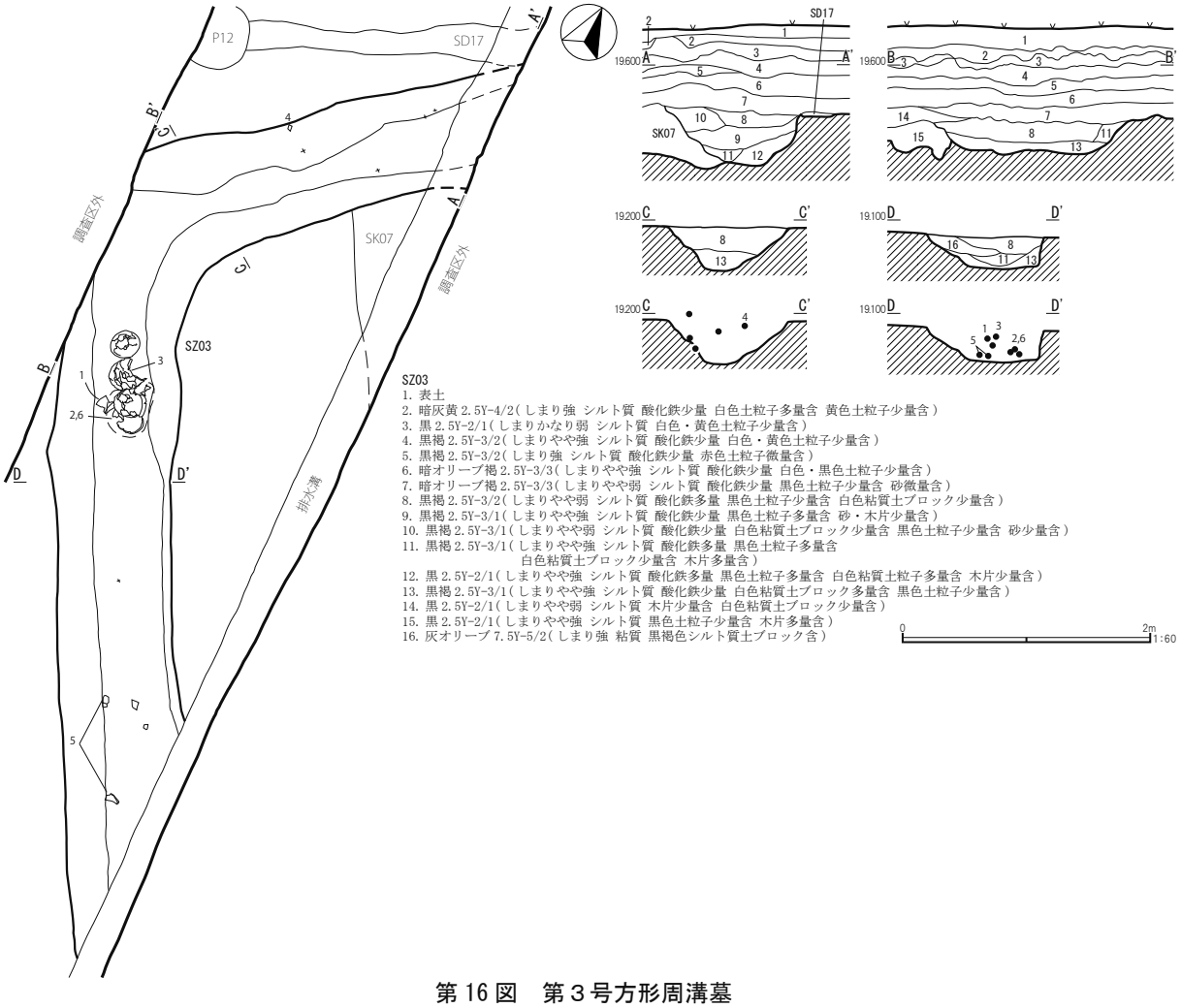
平面形は周溝が全周するタイプと思われるが、復元規模等は確認できなかった。

立ち上がりは西周溝が当時の様相を備えており、方台部側が急で、外側は緩やかであった。底面は西周溝がほぼ平坦で、北周溝は凹凸がみられた。

土層は土層観察から最大５層確認され、やや内容が異なるが、いずれもシルト質の黒褐色土に白色、黒色ブロック、粒子を含んだ覆土であり、レンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は北周溝と西周溝の角隅付近に集中しており、土師器の台付甕・壺・高坏が確認された。

時期は、出土遺物から古墳時代前期である。



第 16 図　第３号方形周溝墓

第４号方形周溝墓（第 17 図）

ＣＵ－ 59、60 グリッドから検出された。

検出されたのは南東隅の一部の周溝（南周溝と東周溝）であった。第８号沼跡、第 19 号溝跡、第 13 号ピットと重複関係にあり、第 19 号溝跡、第 13 号ピットに切られ、第８号沼跡を切っていた。

正確な規模は不明であるが、南周溝は、検出された長さが 3.74 m、最大幅 2.20 m、確認面からの深さ 0.25 m、東周溝は検出された長さが 2.69 m、最大幅 2.57 m、確認面からの深さ 0.44 mを測る。

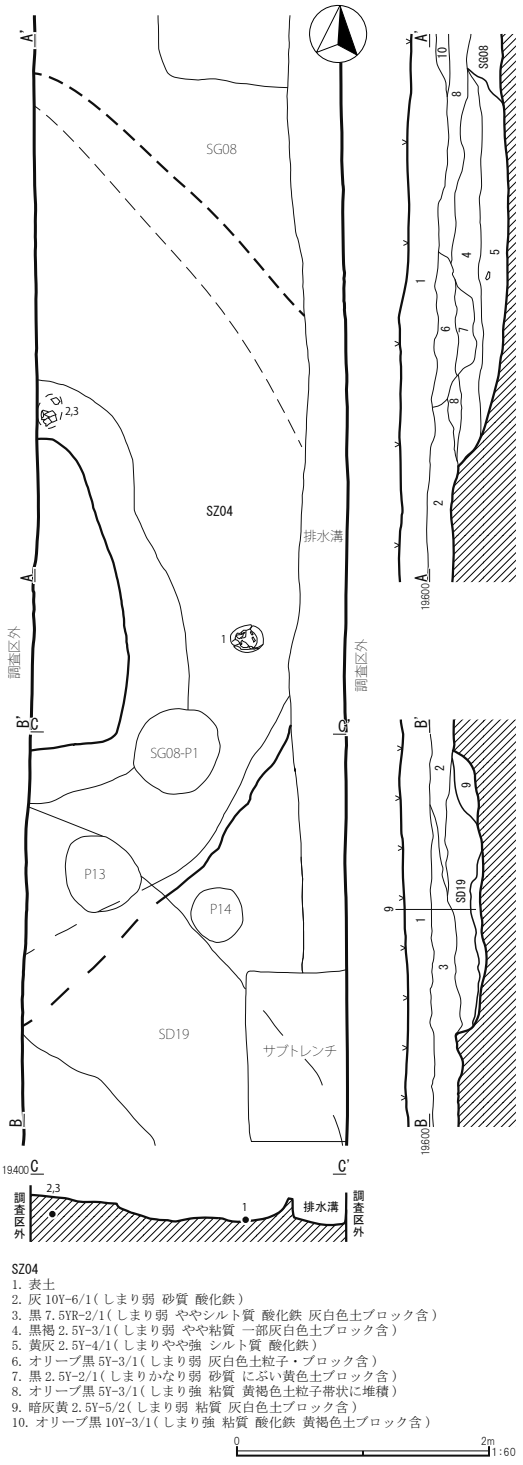
平面形は周溝が全周するタイプと思われるが、復元規模等は確認できなかった。

立ち上がりは、方台部側がやや鋭角であり、底面はやや方台部側に傾斜していた。

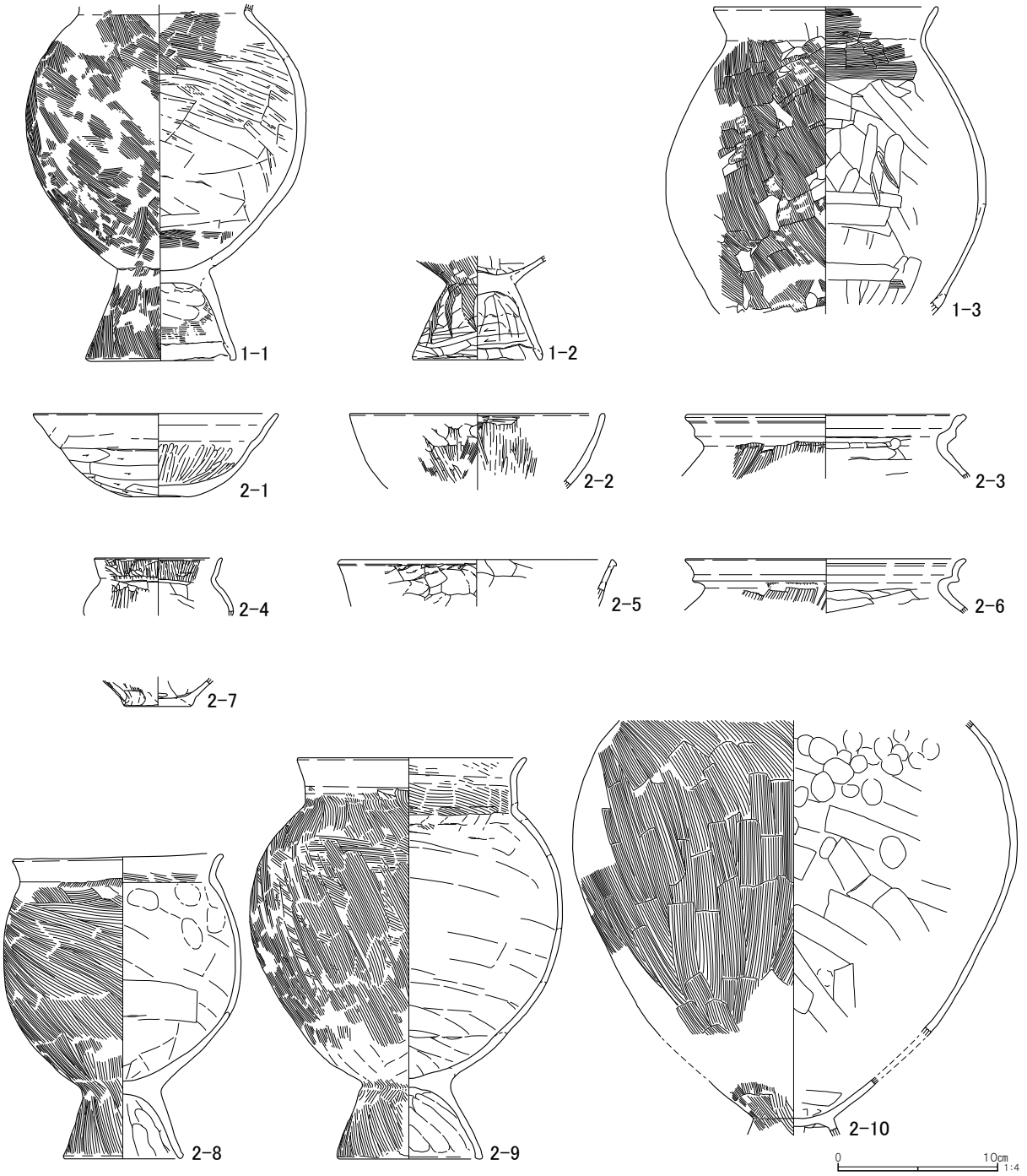
土層はいずれも２層確認され、いずれも水平堆積であることから自然堆積と思われる。

出土遺物は東周溝からは土師器の底部穿孔壺が確認されたほか、台付甕などが検出された。

時期は、平面形の特徴、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



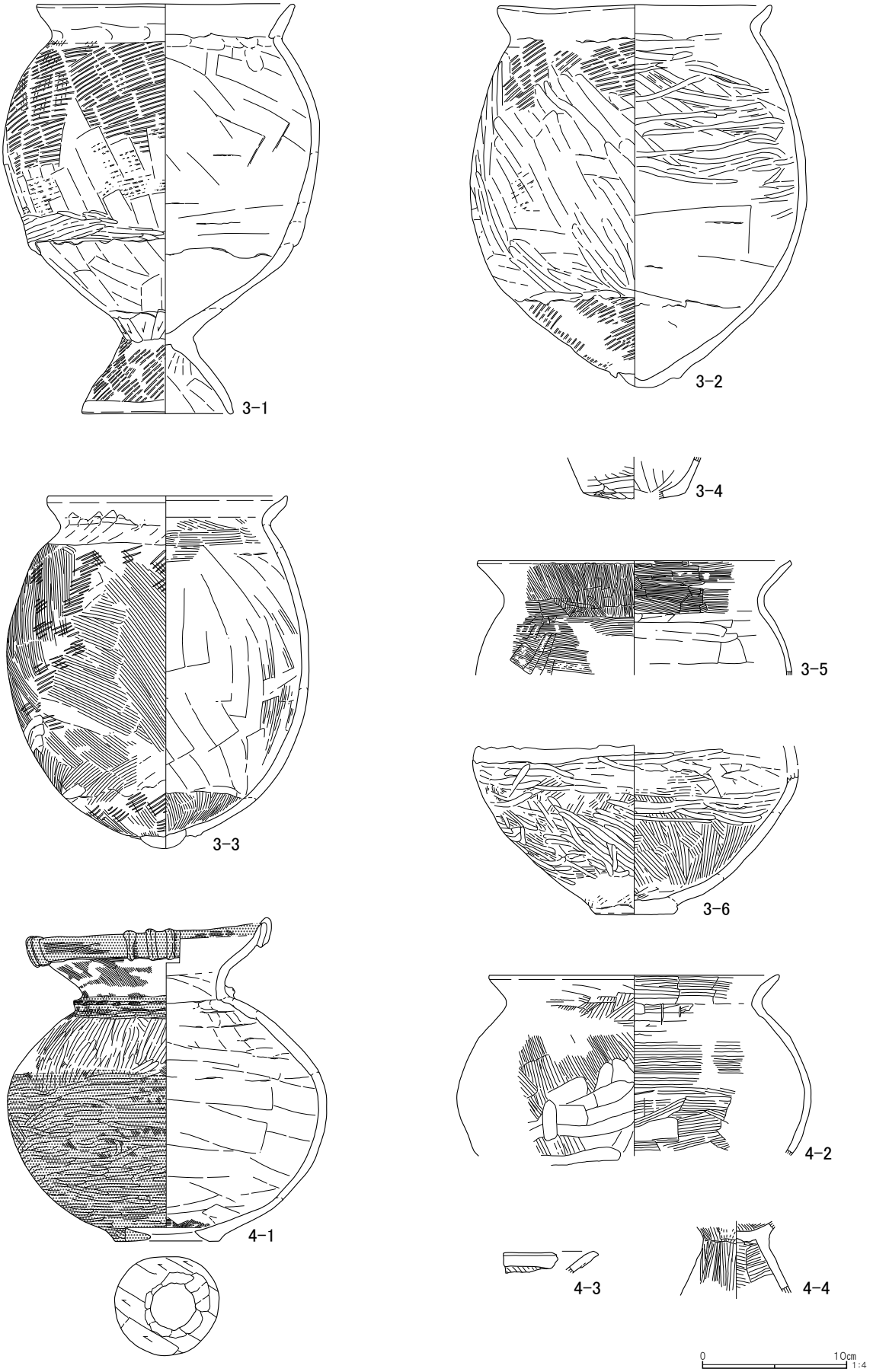
第 17 図　第４号方形周溝墓



第 18 図　方形周溝墓出土遺物(1)

第２表　方形周溝墓出土遺物観察表(1)（第 18、19 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SZ01	1-1	土師器 台付甕	-	(22.3)	9.3	DGIM	黒 7.5YR-2/1	B	胴部～底部 60%	外面：胴部から底部ハケ目 (10 本 /1cm) 内面：ハケ目のちヘラナデ (一部はヘラナデのみ)	外面スス付着
SZ01	1-2	土師器 台付甕	-	(6.5)	8.0	ABIJM	明赤褐 2.5YR-5/6	B	台脚部 50%	外面：ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕
SZ01	1-3	土師器 台付甕	(14.0)	(19.2)	-	ABN	外面：黒 2.5Y-2/1 内面：黒褐 2.5Y-3/1	B	口縁～胴部 20%	外面：ハケ目 内面：ハケ目、ナデ	
SZ02	2-1	土師器 鉢	15.1	5.3	3.8	BDGHMN	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	70%	外面：口縁部ナデ調整 体部ヘラケズリ調整 底部くぼみ有 内面：口縁部ナデ調整 体部ヘラミガキ	有段口縁 内面口縁スス付着



第 19 図　方形周溝墓出土遺物(2)

第２表　方形周溝墓出土遺物観察表(2)（第 18、19 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SZ02	2-2	土師器 高坏	(15.8)	(4.7)	-	ABIN	褐灰 10YR-5/1	B	口縁部 20%	内外面：ミガキ	
SZ02	2-3	土師器 台付甕	(17.2)	(4.0)	-	ABIJM	にぶい黄褐 10YR-5/3 黒褐 10YR-3/2	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕
SZ02	2-4	土師器 小型壺	(7.9)	(3.6)	-	ABIJM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁部 20%	外面：ミガキ 内面：指ナデ	
SZ02	2-5	土師器 甕	(17.0)	(2.9)	-	ABI	褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁部片	内外面：ナデ	
SZ02	2-6	土師器 台付甕	(17.4)	(3.4)	-	ABI	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕
SZ02	2-7	土師器 小型壺	-	(1.8)	(4.0)	ABHKM	オリーブ黒 7.5Y-3/1	B	底部 60%	外面：ハケ目 内面：指ナデ	
SZ02	2-8	土師器 台付甕	13.1	19.1	7.3	ADMN	黒 7.5YR-2/1	B	90%	外面：口縁部ヨコナデ 胴部から底部ハケ目 (7 本 /1cm) 内面：口縁部ハケ目後ヨコナデ 胴部ナデ、指頭圧痕	外面スス付着 (一部内面も有)
SZ02	2-9	土師器 台付甕	14.3	25.1	8.8	AM	外面：黒 7.5Y-2/1 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	90%	外面：口縁部ヨコナデ 頸部から底部ハケ目 (8 本 /1cm) 内面：口縁部ハケ目後ヨコナデ 胴部ヘラナデ	外面、内面一部スス付着
SZ02	2-10	土師器 台付甕	-	(25.9)	-	AM	外面：黒 7.5YR-1.7/1 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	A	30%	外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：指頭圧痕、ヘラナデ	S 字甕
SZ03	3-1	土師器 台付甕	18.0	28.4	10.5	ABCGHI- JMN	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	90%	外面：口縁部ヨコナデ 胴部平行タタキ後ヘラナデ調整 台部平行タタキ 内面：口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ調整	全体的に外面スス付着
SZ03	3-2	土師器 台付甕	18.8	(26.6)	-	BIJMN	黒褐 7.5Y-3/1	B	口縁～胴部 60%	外面：口縁部ヨコナデ 胴部平行タタキ後ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ後ヘラミガキ 底部ヘラナデ	内外面底部スス付着
SZ03	3-3	土師器 台付甕	(16.5)	(24.5)	-	ABMN	外面：黒 7.5Y-2/1 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	口縁～胴部 60%	外面：口縁部ヨコナデ 胴部平行タタキ後一部ナデ調整 内面：口縁部ヨコナデ 頸部ハケ目 胴部ヘラナデ 底部ハケ目 (6 本 /1cm)	外面、内面底部にスス付着 台部剥離
SZ03	3-4	土師器 高坏	-	(2.5)	坏部 (7.0)	AIM	外面：にぶい橙 5YR- 6/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	20%	外面：ヘラミガキ	
SZ03	3-5	土師器 台付甕	(21.6)	(8.0)	-	ABHIKM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：灰褐 7..5YR-6/2	B	口縁～胴部 20%	外面：ハケ目 内面：ナデ	
SZ03	3-6	土師器 壺		(11.8)	5.5	AIM	黒 7.5YR-2/1	B	胴部下位～底部 70%	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：胴部ハケ目後ヘラミガキ、もしくはナデ 底部ハケ目	外面スス付着 (一部内面も有)
SZ04	4-1	土師器 壺	16.3	22.5	7.2	ADMN	外面：赤 10YR-5/6 内面：にぶい黄橙 10YR-7/4	B	口縁部 30% 胴部～底部 70%	外面：胴部から底部ハケ目後ヘラミガキ 口縁部棒状浮文 (3 本一単位) を 4 ヶ所 頸部突帯に櫛描状工具で刻み目 内面：胴部ヘラナデ	口縁部・頸部・胴部下半に赤彩 底部穿孔 (焼成後)
SZ04	4-2	土師器 台付甕	(20.0)	(12.5)	-	BDGHIK- MN	灰黄褐 10YR-4/2	B	口縁～胴部 20%	内外面：ハケ目	
SZ04	4-3	土師器 壺	-	-	-	ABDIM	にぶい黄橙 10YR-7/4	B	口縁部片	外面：ハケ目	折返し口縁
SZ04	4-4	土師器 台付甕	-	(5.4)	-	ABJMN	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：灰褐 7.5YR-4/2	B	脚部 50%	内外面：ハケ目	

２　土坑

第１号土坑（第 20 図）

ＣＴ－46 グリッドから検出された。第１号沼跡と重複関係にあり、本遺構が第１号沼跡を切っていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが、方形を呈するものと推定される。しかしながら、表土剥ぎ時に重複する第１号沼跡のことを考え、掘り下げを深くしたため、平面形は不正確である。

規模は、長軸が 1.52 ｍ、検出短軸 0.95 ｍを測り、深さは 99 ㎝を測る。

土層は、壁面観察から 14 層にわたる堆積が確認できた。堆積の状況から堆積した後、２回程度掘り直された可能性がある。いずれも覆土はしまりのない砂質、シルト質のオリーブ黒、黒褐色土であった。断面形は船底状の掘り込みに、両壁が垂直の掘り込みをもっていた。堆積状況から、河川氾濫による堆積と考えられる。

その用途は、不明である。

出土遺物は検出されなかった。

第２号土坑（第 20 図）

ＣＴ－ 48 グリッドから検出された。平面上では重複関係にある遺構はないが、断面観察から第２号沼跡と重複関係にあり、本遺構が第２号沼跡を切っていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが、いびつな楕円形を呈するものと推定される。

規模は、長軸が 1.75 ｍ、検出短軸 0.52 ｍを測り、深さは 28 ㎝を測る。

土層は、噴砂による影響を受けているが、１層の堆積が確認できた。

断面形は皿状で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

その用途は、不明である。

出土遺物は検出されなかった。

第３号土坑（第 20 図）

ＣＵ－ 49､50 グリッドから検出された。第４号沼跡と重複関係にあり、第４号沼跡を切っていた。また、壁面の断面上ではピット状の遺構と重複関係にあり、第３号土坑はその遺構に切られていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが、楕円形を呈するものと推定される。

規模は、長軸が 1.70 ｍ、検出短軸 0.62 ｍを測り、深さは 38 ㎝を測る。

土層は、２層にわたる堆積が確認できる。断面形は逆台形状で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

その用途は、不明である。

出土遺物は検出されなかった。

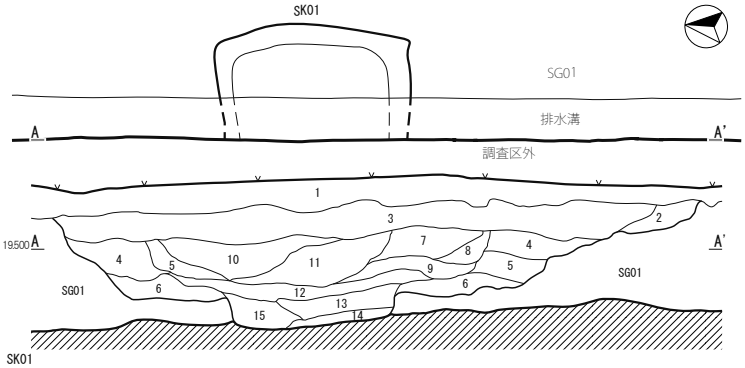
第４号土坑（第 20 図）

ＣＵ－ 51 グリッドから検出された。第１号方形周溝墓と重複関係にあり、本遺構が第１号方形周溝墓に切られていた。

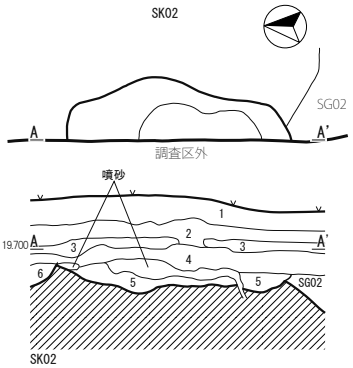
平面形は、大半が重複する遺構と調査区域外で切られているため不明である。

規模は、検出長軸が 0.36 ｍ、検出短軸 1.16 ｍを測り、深さは 31 ㎝を測る。

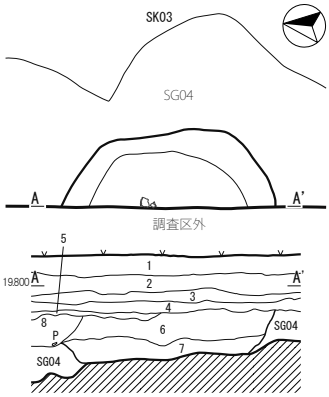
土層は、４層にわたる堆積が確認できた。断面形はレンズ状で、堆積状況から自然堆積と考えられる。



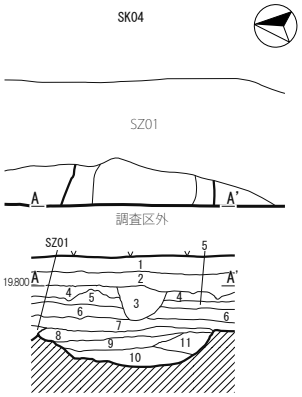
SK01
1. 表土
2. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり弱 ややシルト質)
3. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり強 粘質 アサマ A 微量含)
4. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 砂質)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質)
6. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1(しまり強 粘質)
7. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 ややシルト質
酸化鉄微量)
8. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 シルト質)
9. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄微量
浅黄色・灰白色土ブロック含)
10. 暗オリーブ灰 5GY-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄微量)
11. 暗緑灰 7.5GY-4/1(しまりやや弱 シルト質
灰白色シルト質土ブロック含)
12. 黒 10YR-2/1(しまり弱 砂質 黄灰色土粒子・ブロック含)
13. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 砂質 灰白色シルト質土ブロック含)
14. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや粘質)
15. オリーブ黒 10Y-3/1(しまりやや弱 やや粘質
黒褐色土粒子・ブロック含)



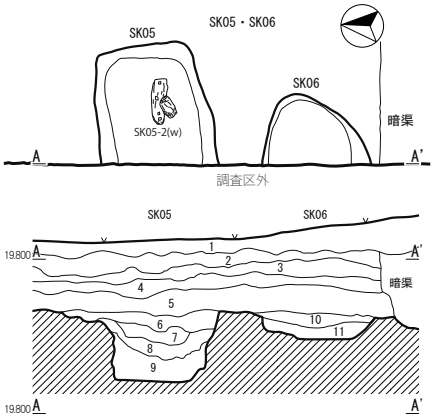
SK02
1. 表土
2. 灰 10Y-6/1(しまり弱 やや砂質)
3. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 やや粘質 酸化鉄微量)
5. 灰 5Y-4/1(しまり強 やや砂質 酸化鉄微量)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 粘質 灰白色土粒子・ブロック含)

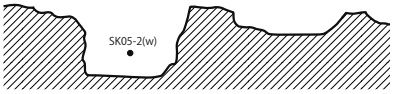


SK03
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質
白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色・黄色土粒子少量含)
5. 明オリーブ灰 2.5GY-7/1(砂質 酸化鉄)
6. 暗オリーブ灰 5GY-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄
灰白色砂質土粒子・ブロック含)
7. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
8. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質
灰白色砂質土ブロック含)

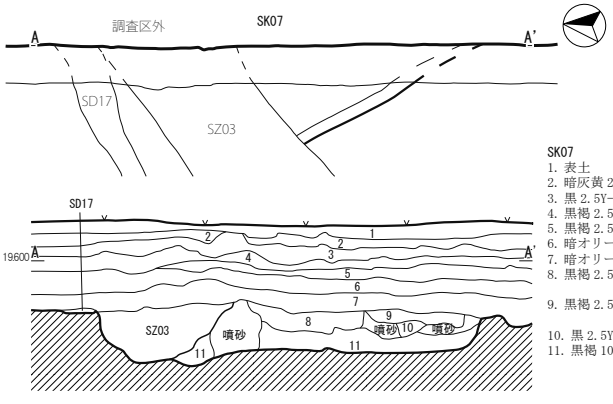


SK04
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 暗灰黄 2.5Y4/2(しまりかなり弱 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量 白色粒子多量
黄粒子少量 木片多量含)
4. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質
白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色・黄色土粒子少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量
赤色土粒子微量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質
白色粘質土ブロック少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 砂多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)





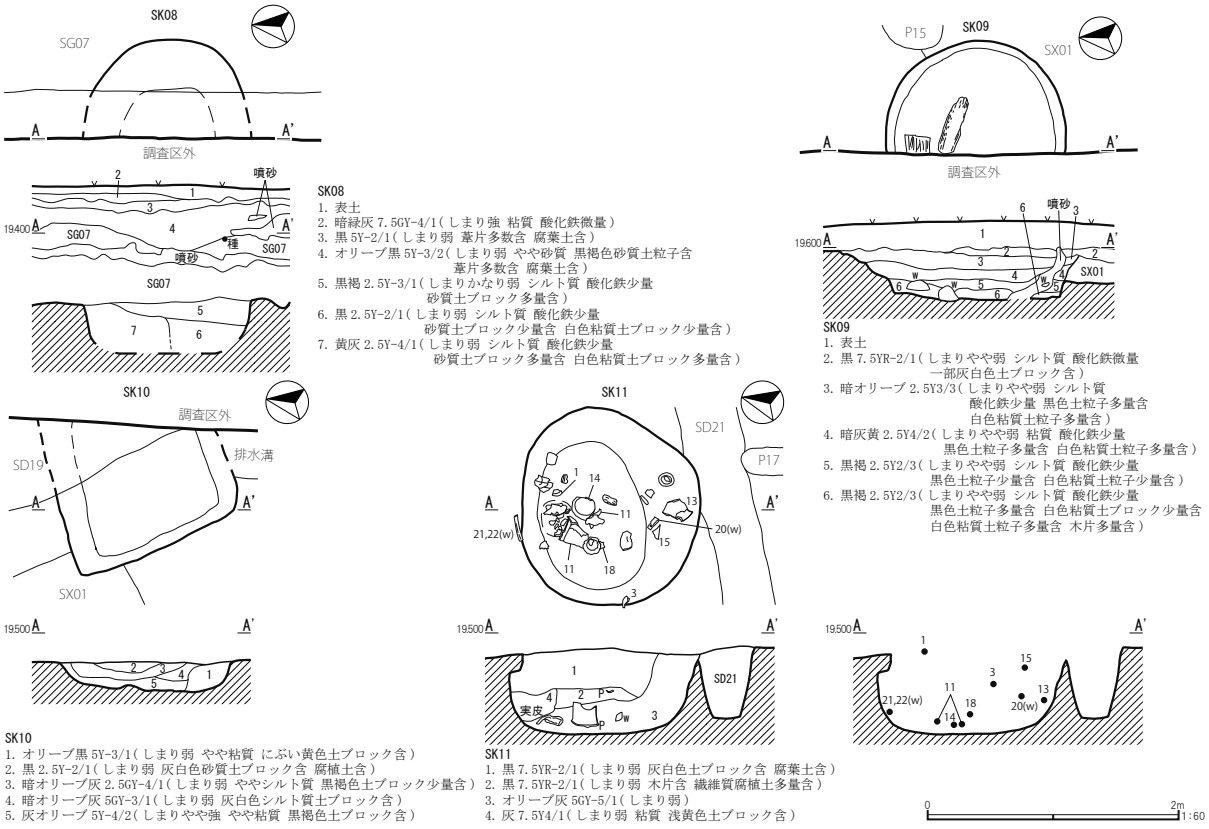
SK05・SK06
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質
白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質
酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質
酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質
酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
灰色粘質土ブロック少量含 木片少量含)
7. 黒 2.5Y-2/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
黄色土粒子少量含 木片多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 青灰色砂少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)



SK07
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
7. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 砂微量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック多量含 黒色土粒子少量含 木片多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 黒色土粒子多量含 砂・木片少量含)
10. 黒 2.5Y-2/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 木片少量含)
11. 黒褐 10YR-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘質土ブロック少量含 木片多量含)

0 2m
1:60

第 20 図　第 1 ～ 7 号土坑



第 21 図　第８～ 11 号土坑

その用途は、不明である。

出土遺物は検出されなかった。

第５号土坑（第 20 図）

ＣＵ－ 52 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、一部が調査区域外であるが、東西に長い方形を呈するものと推定される。

規模は、推定長軸が 0.96 ｍ、短軸 0.92 ｍを測り、深さは 54 ㎝を測る。

土層は４層にわたる堆積が確認できた。断面形は逆台形状で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

その用途は、不明である。

出土遺物は蛇紋岩の管玉、田下駄が検出された。流れ込みと推定されることから、本遺構の時期は不明である。

第６号土坑（第 20 図）

ＣＵ－ 52 グリッドから検出された。重複関係にある遺構はなかった。

平面形は、一部が調査区域外であるが、不整形な楕円形を呈するものと推定される。

規模は、長軸が 0.79 ｍ、検出短軸 0.58 ｍを測り、深さは 21 ㎝を測る。

土層は２層にわたる堆積が確認できた。レンズ状に窄む形で堆積し、堆積状況から自然堆積と考えられる。

その用途は、不明である。

出土遺物は検出されなかった。

第７号土坑（第 20 図）

ＣＵ－ 53 グリッドから検出された。第３号方形周溝墓と重複関係にあり、第３号方形周溝墓に本遺構が切られていた。

平面形は、大部分が調査区域外であるが、規則的な形をもつものと推定される。

規模は、検出長軸が 1.61 ｍ、検出短軸 0.89 ｍを測り、深さは 46 ㎝を測る。

土層は、断面観察から基本的には２層に渡って堆積が確認できたが、一部に噴砂による影響が考えられた。断面形は逆台形状で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

出土遺物は、土師器の台付甕が１点のみ検出された。

隣接する第３号方形周溝墓からの流れ込みの可能性も考えられることから、時期は不明である。

第８号土坑（第 21 図）

ＣＵ－ 59 グリッドから検出された。第７号沼跡と重複関係にあり、本遺構が第７号沼跡に切られていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが、楕円形と推定される。

規模は、検出長軸が 1.33 ｍ、検出短軸 0.77 ｍを測り、深さは 40 ㎝を測る。

土層は、断面観察から基本的には３層に渡って堆積が確認でき、しまりのないシルト質の黒色土の覆土が大半であった。断面形は椀状で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

出土遺物は、検出されなかった。

第９号土坑（第 21 図）

ＣＵ－ 60 グリッドから検出された。第１号性格不明遺構と重複関係にあり、第１号性格不明遺構が本遺構に切られていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが、円形を呈するものと推定される。

規模は、長軸が 1.43 ｍ、検出短軸 0.92 ｍを測り、深さは 38 ㎝を測る。

土層は、断面観察から基本的には４層に渡って堆積が確認でき、一部には噴砂による影響が考えられる。

断面形は、逆台形状で、水平堆積によることから自然堆積と考えられる。

その用途は、不明である。

出土遺物は軟質泥岩が検出された。

第 10 号土坑（第 21 図）

ＣＵ、ＣＶ－ 60 グリッドから検出された。第 19 号溝跡、第１号性格不明遺構と重複関係にあり、第１号性格不明遺構を切り、第 19 号溝跡に切られていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが、いびつな方形を呈するものと推定される。

規模は、長軸が 1.34 ｍ、検出短軸 1.03 ｍを測り、深さは確認面から 23 ㎝を測る。

土層は、５層に渡って堆積が確認され、断面形はやや潰れた逆台形状で、レンズ状堆積によることから自然堆積と考えられる。

その用途は、不明である。

出土遺物は土師器の甑・有段口縁坏、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩が検出された。坏は内外面とも黒色処理がおこなわれている。

時期は、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

第 11 号土坑（第 21 図）

ＣＵ－ 61 グリッドから検出された。第 21 号溝跡と重複関係にあり、第 21 号溝跡が本遺構に切られていた。

平面形は、いびつな円形を呈していた。

規模は、長軸が 1.60 ｍ、短軸 1.43 ｍを測り、深さは確認面から 68 ㎝を測る。

土層は、断面観察から４層の堆積が確認できる。いずれもしまりが弱く、木片と共に腐食土を多量に含み、堆積の状況はレンズ状堆積で、１、２層は人工的な埋土と推定される。底部付近からは土器、植物片、種子、獣骨などが検出され、その様相から廃棄土坑と推定できる。

断面形は緩やかなU字状で､底部は平坦であった。北側の抉れている部分は壁面の崩落と推定される。

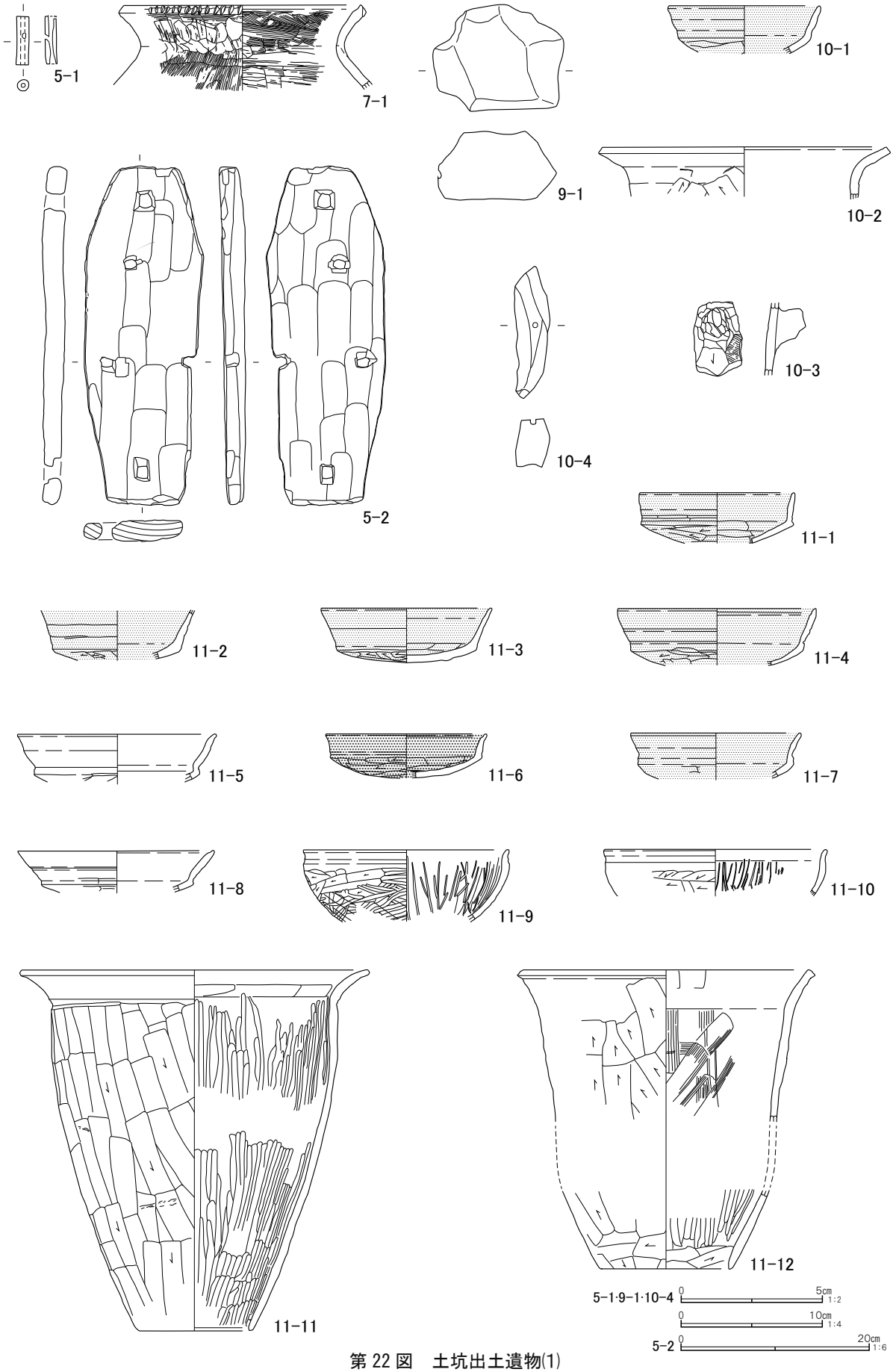
その用途は、不明である。

出土遺物は土師器の甕・甑・有段口縁坏・暗文坏、須恵器壺、獣骨、複数の木製品などのほか、図化できなかったが、瓢箪外皮及びその種子、及び桃の種子が多量に確認された。出土遺物の大半は土師器有段口縁坏であり一部は内外面とも黒色処理が施されていた。

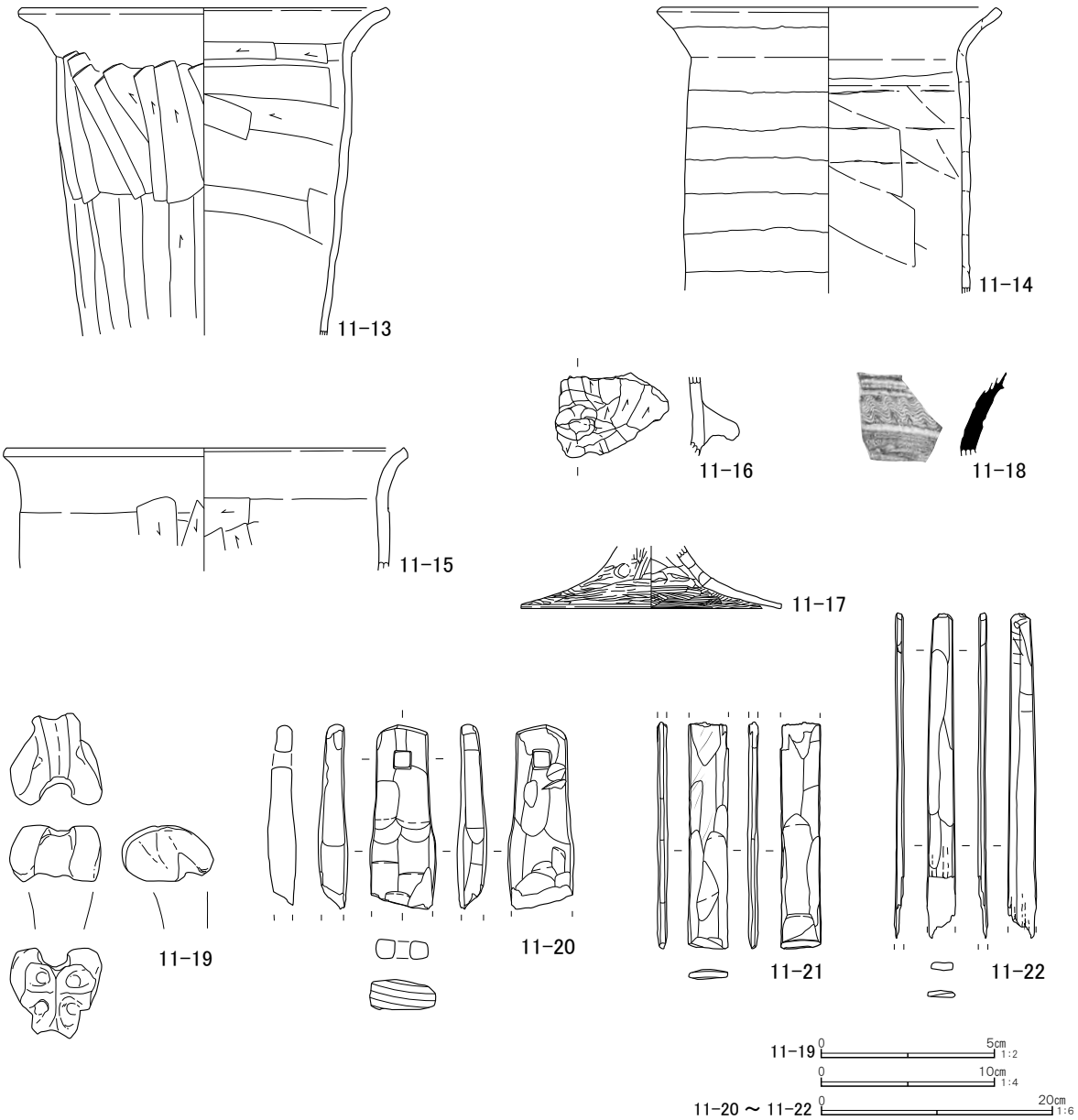
時期は、出土遺物から古墳時代後期末、７世紀前半と推定される。

第３表　土坑出土遺物観察表(1)（第 22、23 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SK05	5-1	石製品 管玉	長さ 1.7　径 0.4　孔径 0.15							側面に穿孔失敗の貫通孔あり	蛇紋岩
SK05	5-2	木製品 田下駄	最大長 36.1　最大幅 12.4　最大厚 2.3							木取：板目 上下中央の穿孔は外枠部分との接合部分用である 中央の３個の孔は鼻緒と考えられる 右足用と考えられる 入念に加工	ヒノキ
SK07	7-1	土師器 台付甕	(16.8)	(6.0)	-	ABJ	外面：灰黄 2.5Y-6/2 灰黄褐 10YR-4/2 内面：褐灰 10YR-4/1	B	口縁部 30%	外面：口縁端部刻み目 ハケ目 (8 本 /1cm) 内面：ハケ目 (8 本 /1cm)	外面スス付着
SK09	9-1	軟質泥岩	最大長 3.9　最大幅 4.4　最大厚 2.4								
SK10	10-1	土師器 坏	(10.6)	(3.4)	-	BI	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：暗灰 N-3/	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
SK10	10-2	土師器 甑	(20.0)	(3.5)	-	ABDI	灰褐 7.5YR-6/2	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ	
SK10	10-3	土師器 甑	-	(5.2)	-	AEIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：黒い部分多い	A	把手部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK10	10-4	軟質泥岩	最大長 4.7　最大幅 1.3　最大厚 1.7							穿孔貝巣穴痕跡有	
SK11	11-1	土師器 坏	(10.8)	(3.5)	-	ADIKM	外面：黒褐 5YR-2/1 内面：黒褐 5YR-3/1	B	口縁～体部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	有段口縁 内外面黒色処理
SK11	11-2	土師器 坏	(11.0)	(3.8)	-	ABI	外面：黒褐 2.5Y-3/1 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
SK11	11-3	土師器 坏	(12.0)	(3.9)	(9.8)	ABDIKM	黒 5YR-2/1	B	30%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
SK11	11-4	土師器 坏	(14.0)	(4.0)	-	BDHM	外面：灰褐 5YR-4/2 内面：にぶい赤褐 2.5YR-4/3	B	口縁～体部 20%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処
SK11	11-5	土師器 坏	(14.0)	(3.4)	-	ABDIKM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SK11	11-6	土師器 坏	(5.7)	(3.1)	-	ABM	にぶい赤褐 2.5YR-4/4	A	30%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	比企型坏 赤彩 (内外面、口縁)
SK11	11-7	土師器 坏	(12.0)	(3.4)	-	ABI	黒 10YR-2/1	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
SK11	11-8	土師器 坏	(13.8)	(2.9)	-	ABI	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SK11	11-9	土師器 坏	14.4	(5.1)	-	AMN	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 一部橙2.5YR-6/6 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	A	30%	外面：ヘラケズリ後ミガキ 内面：放射状暗文	



第 22 図　土坑出土遺物(1)



第 23 図　土坑出土遺物(2)

第 3 表　土坑出土遺物観察表(2)（第 22、23 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SK11	11-10	土師器 坏	(15.6)	(3.3)	-	ABDM	にぶい橙 7.5YR-6/4	A	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SK11	11-11	土師器 甑	24.4	25.5	7.8	AEIMN	外面：黄灰 2.5Y-5/1 にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：黄灰 2.5Y-4/1	A	50%	外面：ヘラケズリ 内面：ミガキ	
SK11	11-12	土師器 甑	(20.1)	(21.1)	(9.0)	AEGJM	外面：褐灰 10YR-5/1 褐灰 10YR-4/1 内面：底部付近 明赤褐色 2.5YR-5/6	A	10%	外面：ヘラケズリ 内面：上部ナデ、下部ミガキ	
SK11	11-13	土師器 甕	(21.0)	(18.9)	-	ABDHKMN	灰黄褐 10YR-5/2	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK11	11-14	土師器 甕	19.3	(16.5)	-	AM	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～胴部 60%	外面：摩滅により調整不明 内面：口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ	内外面スス付着 輪積み痕有
SK11	11-15	土師器 甑	(23.0)	(7.1)	-	ABDEHIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：明褐灰 7.5YR-7/2	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
SK11	11-16	土師器 甑	-	-	-	AI	灰黄褐 10YR-5/2	B	把手部片	外面：ヘラケズリ	
SK11	11-17	土師器 高坏	-	(3.6)	(15.0)	ABHIM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	脚部 40%	外面：ミガキ 内面：ハケ目後ミガキ	脚部 3 箇所の円形透かし

第３表　土坑出土遺物観察表(3)（第 22、23 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SK11	11-18	須恵器 壺	-	-	-	ABDM	灰 N-5/	A	口縁部片	外面：櫛描波状文	
SK11	11-19	獣骨 犬	最大長 2.6　最大幅 2.6　最大厚 1.6							右大腿骨の骨頭	
SK11	11-20	木製品 板材	最大長 (15.9)　最大幅 5.8　最大厚 2.6						下半部欠損	木取：板目 上部中央にノミで四角に穿孔 上端に向かって幅・厚さを薄く加工 丁寧に「鉈 (ヤリガンナ)」で整形	建築材ヵ
SK11	11-21	木製品 板材	最大長 (28.1)　最大幅 3.4　最大厚 0.9						上半部欠損	木取：板目 表裏両側縁を丁寧に「鉈 (ヤリガンナ)」で整形	
SK11	11-22	木製品 板材	最大長 (28.1)　最大幅 2.5　最大厚 0.8						下半部欠損	木取：板目 檜扇もしくは織機の一部 先端部を丸く加工、面取りもしている	針葉樹

３　溝跡

第１号溝跡（第 24 図）

ＣＴ－ 38 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、やや南に傾くが東西軸方向に延伸していた。

規模は、検出長 2.34 ｍ程度、検出幅 2.98 ～ 3.47 ｍを測り、深さは 0.96 ｍを測る。

平面形は、検出範囲が狭小であるため、全容が判断できないが、直線状に延伸し、溝幅はほぼ均一であった。底部は平坦であるが掘り方は北側がやや鋭角であるのに対し、南側は緩やかであった。傾斜方向は不明であった。

土層は、断面観察から、12 層確認できた。断面形は下部が逆台形状で、上部は埦状になっていた。

覆土の堆積状況は、レンズ状堆積であるが、木片がみられることから洪水による影響が考えられる。

出土遺物は、検出されなかった。

第２号溝跡（第 24 図）

ＣＴ－ 39 グリッドから検出された。第２号ピットと重複関係にあり、第２号ピットが本遺構を切っていた。

本遺構は、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.09 ｍ程度、検出幅 1.20 ～ 1.27 ｍを測り、深さは 0.07 ｍを測る。

溝幅は西から東に向かって窄まり、底部はわずかに起伏をもつ程度で、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。断面形は浅い逆台形状で、南側の掘り方は攪乱により消滅していたが、レンズ状の堆積により自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第３号溝跡（第 24 図）

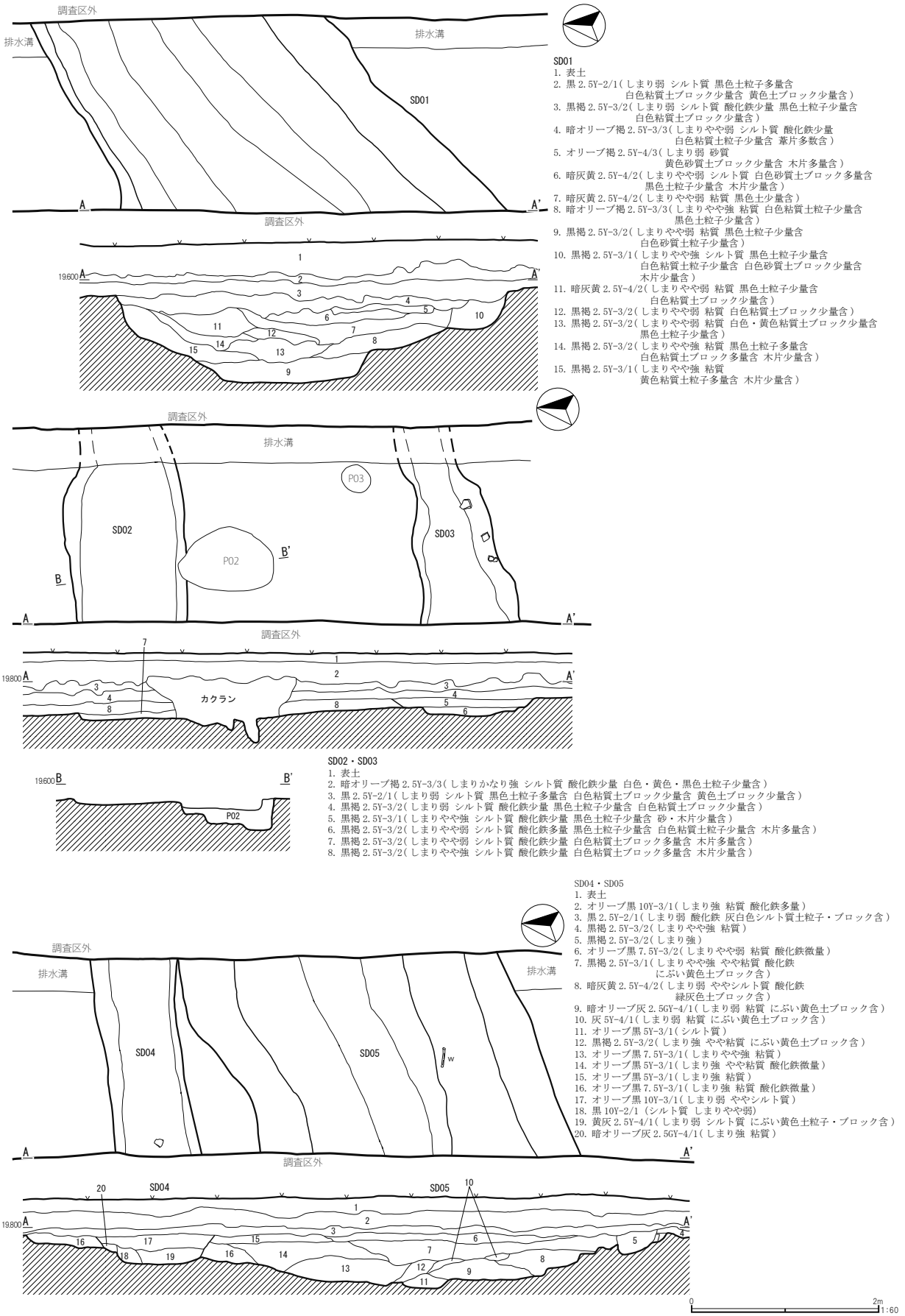
ＣＴ－ 40 グリッドから検出され、重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.17 ｍ程度、検出幅 0.53 ～ 1.04 ｍを測り、深さは 0.18 ｍを測る。

平面形は西に向かってやや膨らみを呈して直進し、溝幅は東から西に向かって膨らんでいた。底部は平坦で、傾斜は不明であった。

土層は、断面観察から、２層確認できた。断面形は浅い逆台形の掘り方で、真ん中にさらに不整形な



SD01
1. 表土
2. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 黄色土ブロック少量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含)
4. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 塞片多数含)
5. オリーブ褐 2.5Y-4/3(しまり弱 砂質 黄色砂質土ブロック少量含 木片多量含)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 白色砂質土ブロック多量含 黒色土粒子少量含 木片少量含)
7. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 黒色土少量含)
8. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや強 粘質 白色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色砂質土粒子少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 白色砂質土ブロック少量含 木片少量含)
11. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含)
12. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 白色粘質土ブロック少量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 白色・黄色粘質土ブロック少量含 黒色土粒子少量含)
14. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 黄色粘質土粒子多量含 木片少量含)

SD02・SD03
1. 表土
2. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色・黒色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 黄色土ブロック少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 砂・木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)

SD04・SD05
1. 表土
2. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄多量)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 酸化鉄 灰白色シルト質土粒子・ブロック含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強)
6. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄微量)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄 にぶい黄色土ブロック含)
8. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質 酸化鉄 緑灰色土ブロック含)
9. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり弱 粘質 にぶい黄色土ブロック含)
10. 灰 5Y-4/1(しまり弱 粘質 にぶい黄色土ブロック含)
11. オリーブ黒 5Y-3/1(シルト質)
12. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 やや粘質 にぶい黄色土ブロック含)
13. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや強 粘質)
14. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 やや粘質 酸化鉄微量)
15. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質)
16. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
17. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 ややシルト質)
18. 黒 10Y-2/1(シルト質 しまりやや弱)
19. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 にぶい黄色土粒子・ブロック含)
20. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり強 粘質)

第 24 図　第１～５号溝跡

落ち込みをもっていた。レンズ状の堆積により、自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第４号溝跡（第 24 図）

ＣＴ－ 40 グリッドから検出された。第５号溝跡と平面上では接しているが、土層断面上では重複しており、本遺構が第５号溝跡を切っていた。

本遺構は、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.13 m程度、検出幅 0.80 ～ 0.85 mを測り、深さは 0.32 mを測る。

平面形は直線的に延伸し、溝幅は一定の間隔をもっていた。底部は平坦で、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、４層確認できた。断面形は緩やかな立ち上がりをもつU字状の掘り方で、レンズ状の堆積により自然堆積と思われる。

出土遺物は、１点のみ図化可能な櫛描文を備えた弥生土器と考えられる甕片が検出された。

時期は不明である。

第５号溝跡（第 24 図）

ＣＴ－ 40 グリッドから検出された。第４号溝跡と平面上では接しているが、土層断面上では重複しており、本遺構が第４号溝跡に切られていた。

本遺構はやや進路を北東に向け、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.18 m程度、検出幅 3.17 ～ 3.47 mを測り、深さは 0.58 mを測る。

平面形はややいびつであるが直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部はかなりの凹凸をもち、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、11 層確認できた。洪水などの氾濫土が堆積していることが考えられるが、レンズ状の堆積により自然堆積と推定できる。

断面形は緩やかなU字状の掘り方であった。

出土遺物は、土師器坏片が１点のみ検出された。

時期は不明である。

第６号溝跡（第 25 図）

ＣＴ－ 42 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、南北軸方向に延び、調査区中央で検出された。

規模は、長さ 1.59 m、検出幅 0.22 ～ 0.25 mを測り、深さは確認面から 0.05 mを測る。

平面形はゆるやかな直線状で延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっている。底部は概ね平坦で、南東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、１層確認できた。断面形は逆台形状の掘り方で、レンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第７号溝跡（第 25 図）

ＣＴ－ 42 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、東西軸方向に弧を描く形で延伸し、調査区域外に延びていた。

規模は、検出長 2.44 m程度、検出幅 0.60 ～ 0.62 mを測り、深さは 0.31 mを測る。

平面形はゆるやかな弧を描く形状で延伸し､溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部は概ね平坦で、南東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、２層確認できた。断面形はきれいな逆台形状の掘り方で、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第８号溝跡（第 25 図）

ＣＴ、ＣＵ－ 48 グリッドで検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、調査区中央から西へ向かって、調査区域外へと延びていた。

規模は、詳細は不明であるが、検出長 1.56 m程度、検出幅 0.66 ～ 0.80 mを測り、深さは 0.16 mを測る。

平面形は、いびつだが直線的で溝幅は均一に進むものと推定される。底部は一部くぼみがあるが、平坦であった。

土層は、断面観察から、３層確認できた。断面形はレンズ状で、堆積状況は自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第９号溝跡（第 25 図）

ＣＴ、ＣＵ－ 48、49 グリッドから検出された。第２号沼跡と重複関係にあり、本遺構が第２号沼跡に切られていた。

本遺構は、やや西に傾くが南北軸方向に延伸し、第２号沼跡に切られ消失していた。

規模は、検出長 5.44 m程度、検出幅 0.46 ～ 0.51 mを測り、深さは 0.10 mを測る。

平面形は、直線的で溝幅は均一に延びていた。底部は平坦で、傾斜は確認できなかった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。断面形はやや深みのある椀状で、レンズ状の堆積により自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 10 号溝跡（第 25 図）

ＣＵ－ 49 グリッドから検出された。第３号沼跡と重複関係にあり、本遺構が第３号沼跡に切られていた。

本遺構は、やや西に傾くが南北軸方向に延び、調査区途中で終結していた。

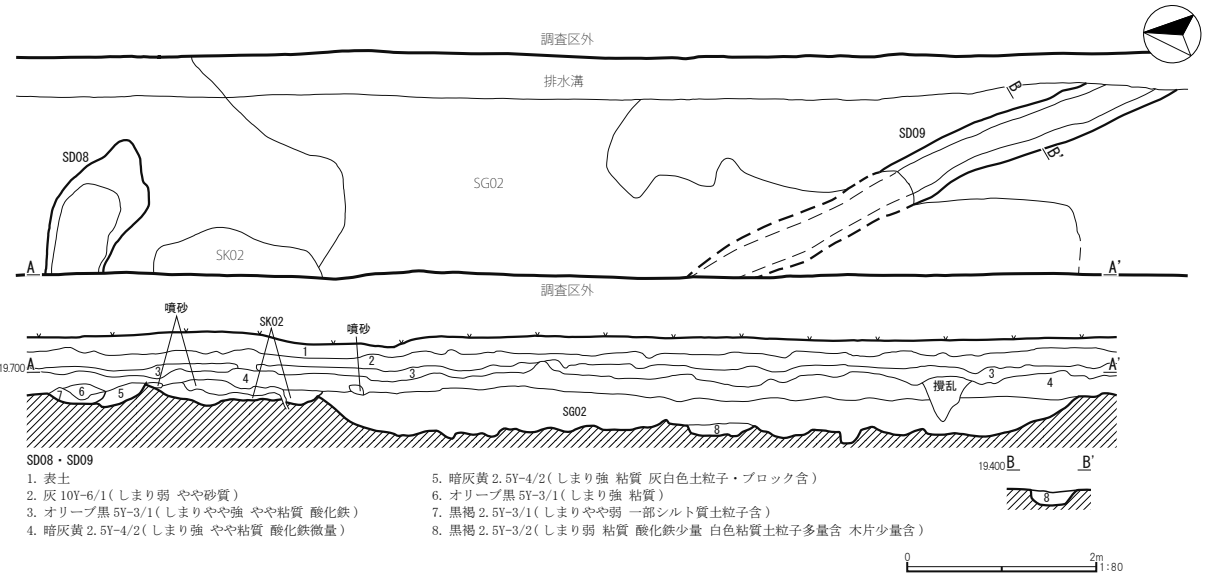
規模は、検出長 3.84 m程度、検出幅 0.23 ～ 0.36 mを測り、深さは 0.28 mを測る。

平面形は、直線的で溝幅は均一で進む。底部は平坦で、傾斜は確認できなかった。

土層は、断面観察から、２層のみ確認できた。断面形は逆台形状で、レンズ状の堆積により自然堆積と思われる。

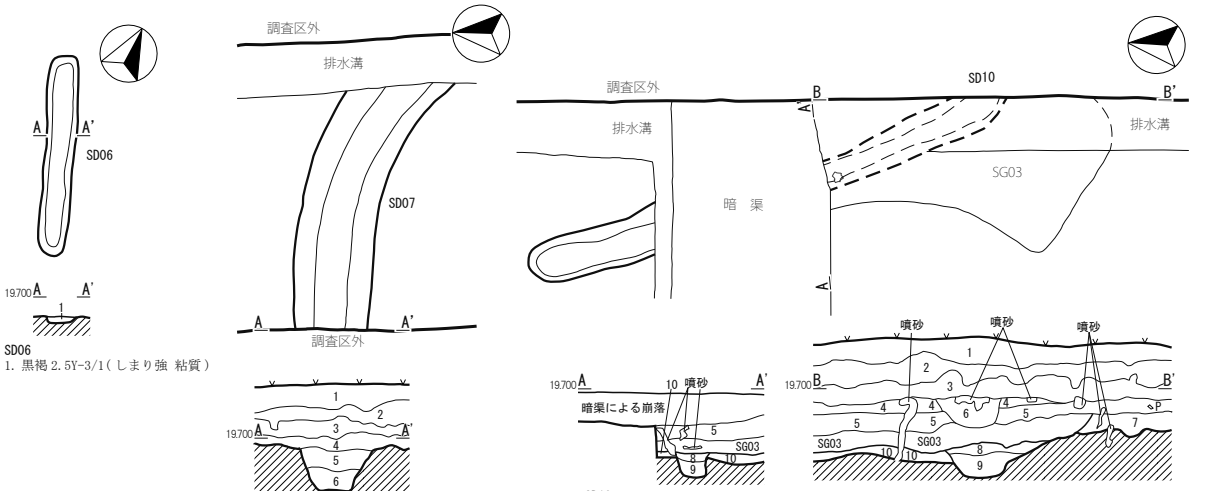
なお、断面観察から、本遺構の下層に沼による堆積層があり、本遺構はそれを掘りこんでいるが、再び沼の堆積が起こり、本遺構も沼に埋没したものと推定される。

出土遺物は、検出されなかった。



SD08・SD09
1. 表土
2. 灰 10Y-6/1(しまり弱 やや砂質)
3. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 やや粘質 酸化鉄微量)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 粘質 灰白色土粒子・ブロック含)
6. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 一部シルト質土粒子含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)

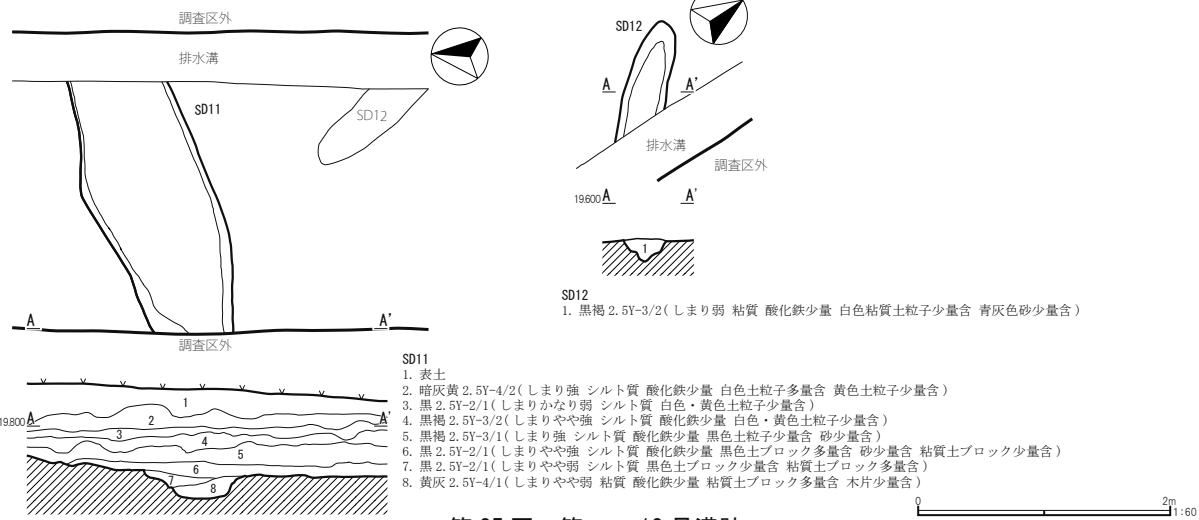
0 2m 1:80



SD06
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 粘質)

SD07
1. 表土
2. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりかなり強 シルト質
酸化鉄少量 白色・黄色・黒色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 黒色土粒子多量含
白色粘質土ブロック少量含 黄色土ブロック少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 砂少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土ブロック少量含 砂・木片少量含)

SD10
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 青灰色砂少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 砂・木片少量含)
6. 黒 2.5Y-2/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 青灰色砂多量含 木片多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子・ブロック多量含 青灰色砂多量含 木片多量含)
8. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 黒色砂質土多量含)



SD12
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 青灰色砂少量含)

SD11
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 砂少量含)
6. 黒 2.5Y-2/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土ブロック多量含 砂少量含 粘質土ブロック少量含)
7. 黒 2.5Y-2/1(しまりやや弱 シルト質 黒色土ブロック少量含 粘質土ブロック多量含)
8. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 粘質土ブロック多量含 木片少量含)

0 2m 1:60

第 25 図　第６～ 12 号溝跡

第 11 号溝跡（第 25 図）

ＣＵ－ 50 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、東西軸で延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 2.49 ｍ程度、検出幅 0.68 ～ 0.99 ｍを測り、深さは 0.17 ｍを測る。

平面形は歪みを有しながら延伸し、溝幅は伸縮を持っていた。底部は歪みをもち凹凸を多くもち、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、２層確認できた。断面形は船底形で、底部は概ね平坦で、中央に幅 0.45 ｍの溝状の窪み、端部は緩やかな掘り方であった。堆積状況はレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 12 号溝跡（第 25 図）

ＣＵ－ 50 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、北西軸方向に延伸し、調査区中央で終結していた。

規模は、検出長 1.41 ｍ程度、検出幅 0.27 ～ 0.35 ｍを測り、深さは確認面から 0.18 ｍを測る。

平面形は直線的で、溝幅は一定の間隔を持っていた。底部はわずかに歪みをもち、南東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、１層確認できた。断面形はＶ字状の掘り方で、レンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 13 号溝跡（第 26 図）

ＣＵ－ 51 グリッドから検出された。第５号沼跡と重複関係にあり、第５号沼跡を切っていた。

本遺構は、東西軸で延伸したのち南へ弧を描き、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 2.81 ｍ程度、検出幅 0.47 ～ 0.59 ｍを測り、深さは 0.51 ｍを測る。

平面形は東西軸に直線状に延伸したのち、南にやや湾曲していた。溝幅はほぼ一定間隔で、底部は丸く、傾斜は確認できなかった。

土層は、断面観察から、２層確認でき、いずれも河川氾濫による堆積土と考えられる。断面形から逆台形状の掘り込みの北側にさらにＵ字状の掘り方を設けていた。

出土遺物は、土師器の壺・台付甕などが検出された。

時期は、出土遺物から古墳時代前期と推定される。

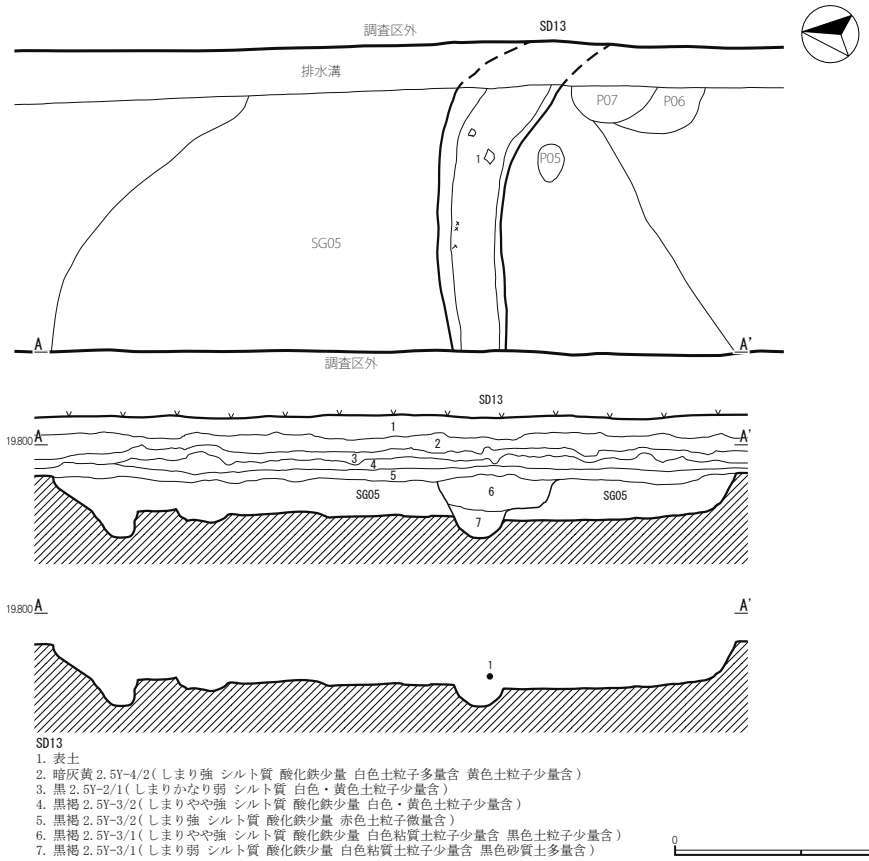
第 14 号溝跡（第 26 図）

ＣＵ－ 51 グリッドから検出された。第１号方形周溝墓と重複関係にあり、第１号方形周溝墓を切っていた。

本遺構は、南西軸で延伸し、調査区域外へと延びていた。

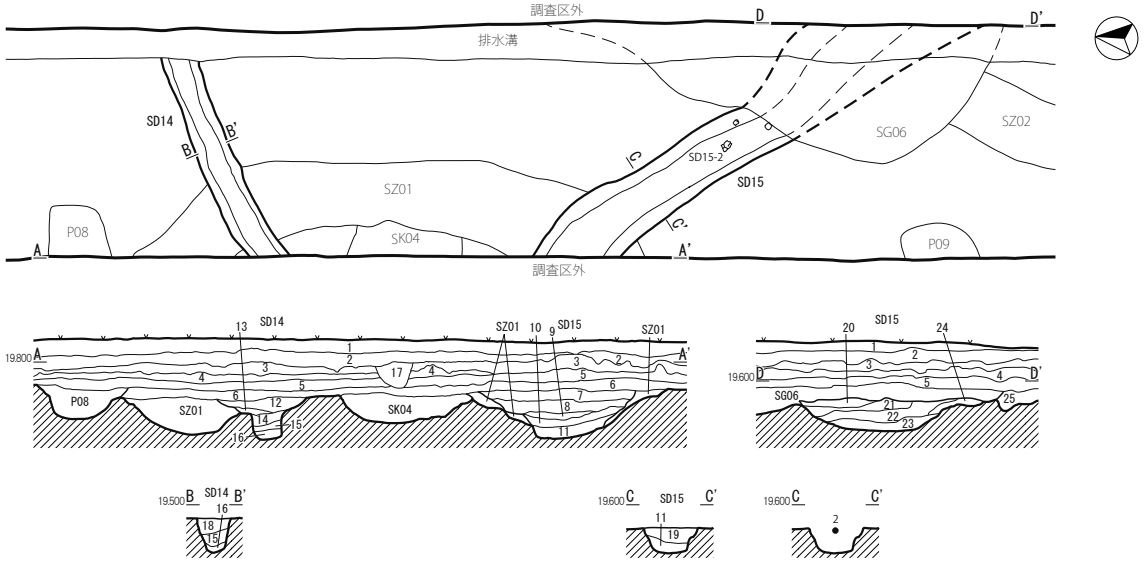
規模は、検出長 2.58 ｍ程度、検出幅 0.32 ～ 0.80 ｍを測り、深さは確認面から 0.33 ｍを測る。

平面形はほぼ直線状に延伸し、溝幅は一定の間隔で、西壁付近でわずかに南方向に屈曲していた。底部は概ね平坦で上部が緩やかに立ち上がっていて、南東へ向かって傾斜していた。



SD13
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 黒色砂質土多量含)

0 2m
1:60



SD14・SD15
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 砂少量含)
9. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 炭化ブロック多量含
白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
11. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり強 粘質 灰白色土含)
12. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 砂少量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 砂少量含)
14. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 黒色土粒子少量含 砂少量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土ブロック少量含 砂・木片少量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土ブロック少量含 砂・木片少量含)
17. 暗灰黄 2.5Y4/2(しまりかなり弱い シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量 白色粒子多量 木片多量 黄粒子少量)
18. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
19. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
20. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土少量含 黒色土粒子微量含)
21. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック少量含
黒色土粒子微量含 砂ブロック多量含)
22. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)
23. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 砂ブロック多量含)
24. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含)
25. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)

0 2m
1:80

第 26 図　第 13 ～ 15 号溝跡

土層は、断面観察から、３層確認できた。断面形から鋭角なU字状の掘り方であり、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 15 号溝跡（第 26 図）

ＣＵ－ 51、52 グリッドから検出された。第１号方形周溝墓、第６号沼跡と重複関係にあり、第１号方形周溝墓を切り、第６号沼跡に切られていた。

本遺構は、検出範囲がわずかなため、断定はできないが、北西軸で延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 4.16 ｍ程度、検出幅 0.57 ～ 0.70 ｍを測り、深さは確認面から 0.39 ｍを測る。

平面形はほぼ直線状に延伸し、溝幅は東壁付近でわずかに広がりをもっていた。底部はやや平坦で、南東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、５層確認できた。黒褐色土、オリーブ黒色土、黒色土で覆われており、断面形は緩やかなU字状の掘り方であり、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、土師器の壺・台付甕が検出され、うち壺は外面に単節縄文、赤彩が施されていた。

時期は、出土遺物から古墳時代前期と推定される。

第 16 号溝跡（第 27 図）

ＣＵ－ 53 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、やや北東軸で延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 2.64 ｍ程度、検出幅 0.35 ～ 0.39 ｍを測り、深さは 0.43 ｍを測る。

平面形は西壁付近に膨らみをもつが、ほぼ直線状に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部は緩やかな落ち込みがみられた。溝は東へ向かって傾斜していた。

土層は断面観察から、３層確認できた。断面形はやや鋭角な掘り込みをもつU字状であり、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、西壁付近から土製の紡錘車が１点検出された。

時期は不明である。

第 17 号溝跡（第 27 図）

ＣＵ－ 53 グリッドから検出された。第３号方形周溝墓、第 12 号ピットと重複関係にあり、第 12 号ピットに切られ、第３号方形周溝墓に接していた。

本遺構は、やや東西軸で延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 2.66 ｍ程度、検出幅 0.15 ～ 0.27 ｍを測り、深さは確認面から 0.08 ｍを測る。

平面形はほぼ直線状に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部は溝の中央から北寄りに直径 10 ～ 15 ㎝の窪みが、一部不明瞭な箇所もあるが、平均 12 ㎝程度の等間隔で複数確認できた。溝は地形に沿って東へ向かって傾斜していた。

断面形は緩やかな逆台形状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 18 号溝跡（第 27 図）

ＣＵ－ 58 グリッドから検出された。第７号沼跡と重複関係にあり、本遺構が第７号沼跡に切られてい

た。

本遺構は、やや北西軸で延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 3.08 m程度、検出幅 3.00 ～ 3.02 mを測り、深さは 0.37 mを測る。

平面形は直線状に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部はほぼ平坦であるが、傾斜方向は確認できなかった。

土層は、断面観察から、上層は重複関係にある第７号沼跡に切られていたため、１層のみ確認できた。断面形は緩やかな逆台形状の掘り方であり、レンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 19 号溝跡（第 27 図）

ＣＵ－60 グリッドから検出された。第10 号土坑、第４号方形周溝墓、第13 号ピットと重複関係にあり、第 13 号ピットに切られ、第 10 号土坑、第４号方形周溝墓を切っていた。

本遺構は、やや北西軸で緩やかな弧を描く形で延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 4.05 m程度、検出幅 1.35 ～ 1.57 mを測り、深さは 0.17 mを測る。

平面形はゆるやかな弧を描く形状で延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部は凹凸を多くもち、南東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から５層確認できた。断面形は緩やかな逆台形状の掘り方であり、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、図化できる土師器坏が１点のみ検出された。内外面とも黒色処理が施されている。

第 20 号溝跡（第 27 図）

ＣＵ－ 60 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、調査区中央から南西方向に延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 1.66 m程度、検出幅 0.28 ～ 0.42 mを測り、深さは 0.30 mを測る。

平面形はほぼ直線状の形状で、溝幅は一定の間隔をもち、底部は平坦で、傾きは確認できなかった。

土層は、断面観察から、３層確認できた。断面形は逆台形状の掘り方であった。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 21 号溝跡（第 28 図）

ＣＵ、ＣＶ－ 61 グリッドから検出された。第 11 号土坑、第 17 号ピットと重複関係にあり、第 11 号土坑に切られ、第 17 号ピットに切られていた。

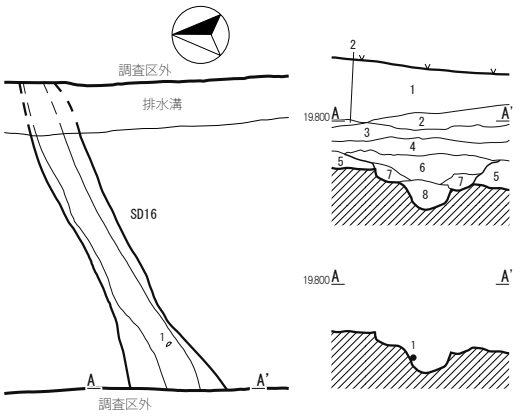
本遺構は、北東方向に延伸していた。

規模は、検出長 2.97 m程度、検出幅 0.38 ～ 0.50 mを測り、深さは 0.48 mを測る。

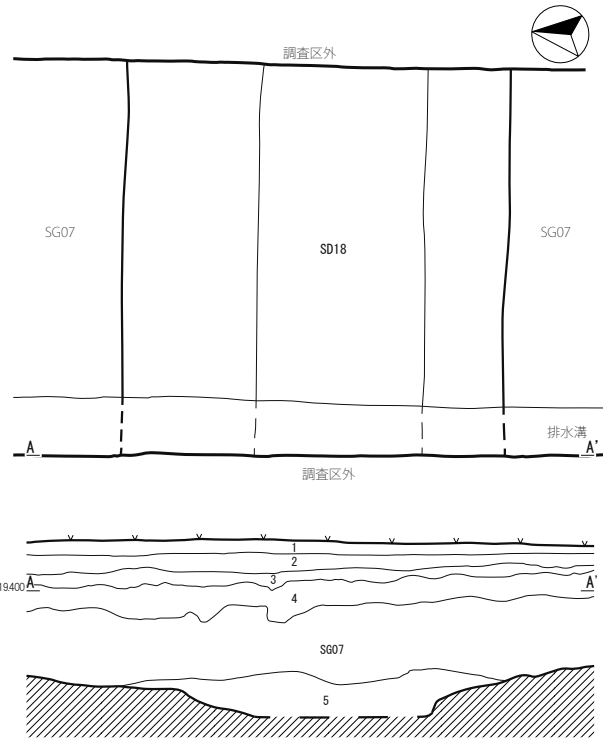
平面形はほぼ直線状の形状で、溝幅は一定の間隔をもち、底部は平坦で、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、４層確認できた。断面形は逆台形状の掘り方であり、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

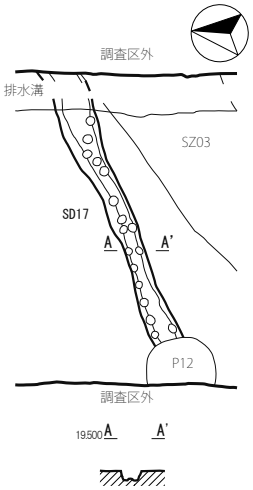
出土遺物は、弥生時代の壺、土師器の甕・小型台付甕・小型鉢・高坏が検出された。出土遺物の大半が土師器であり、弥生土器は流れ込みと考えられる。

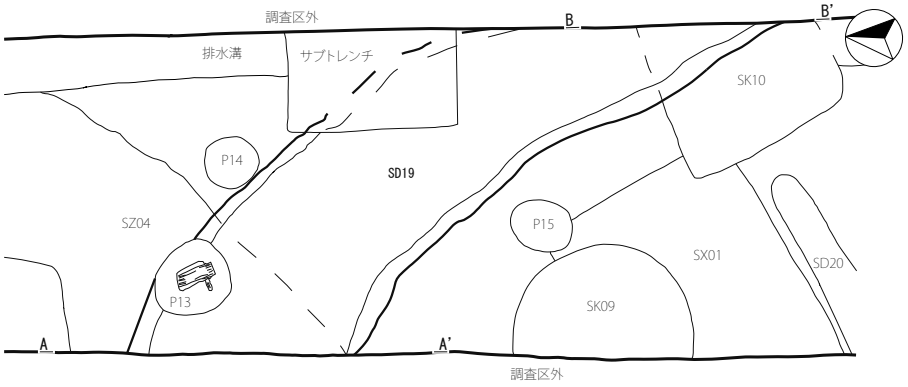


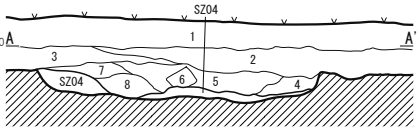
SD16
1. 表土
2. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含 木片多量含 葦片多数含)
3. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子多量含 青灰色砂少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 青灰色砂少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 青灰色砂少量含
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 白色粘質土ブロック多量含
黒色土粒子少量含 青灰色砂少量含)

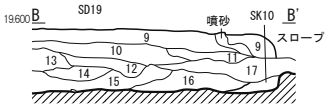


SD18
1. 表土
2. 暗緑灰 7.5GY-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
3. 黒 5Y-2/1(しまり弱 葦片多数含 腐葉土含)
4. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 やや砂質 黒褐色砂質土粒子含 葦片多数含 腐葉土含)
5. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 粘質 黒色土粒子・ブロック多量含 白色粘質土ブロック多量含 葦片少数含)

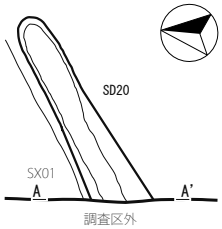


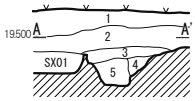






SD19
1. 表土
2. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 ややシルト質 酸化鉄 灰白色土ブロック含)
3. 灰 10Y-6/1(しまり弱 砂質 酸化鉄)
4. 黒 5Y-2/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄微量 灰白色土粒子含)
5. 黒 7.5YR-2/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄微量 灰白色土粒子含)
6. オリーブ灰 5GY-6/1(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)
7. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄微量)
8. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 やや粘質 酸化鉄
灰白色土ブロック含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 やや砂質 酸化鉄微量
灰白色シルト質土ブロック含 土器片含)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 砂質 黒褐色・灰白色土ブロック含)
11. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや強 酸化鉄微量 灰白色土ブロック含)
12. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 やや粘質 灰白色土ブロック含)
13. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 粘質 酸化鉄微量 灰白色土ブロック含)
14. オリーブ黒 5Y-3/1(砂質 酸化鉄)
15. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 砂質 灰白色土ブロック多量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 オリーブ灰色土ブロック含)
17. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり強 灰白色土ブロック含)





SD20
1. 表土
2. 黒 7.5YR-2/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄微量 一部灰白色土ブロック含)
3. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄微量)
4. 灰 5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
5. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 黒褐色土粒子微量含)

0 2m 1:60

第 27 図　第 16 ～ 20 号溝跡

時期は、出土遺物から古墳時代前期である。

第 22 号溝跡（第 28 図）

ＣＵ、ＣＶ－ 61 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、東西軸で、２条の溝跡が平行して延伸していた。（北溝、南溝）

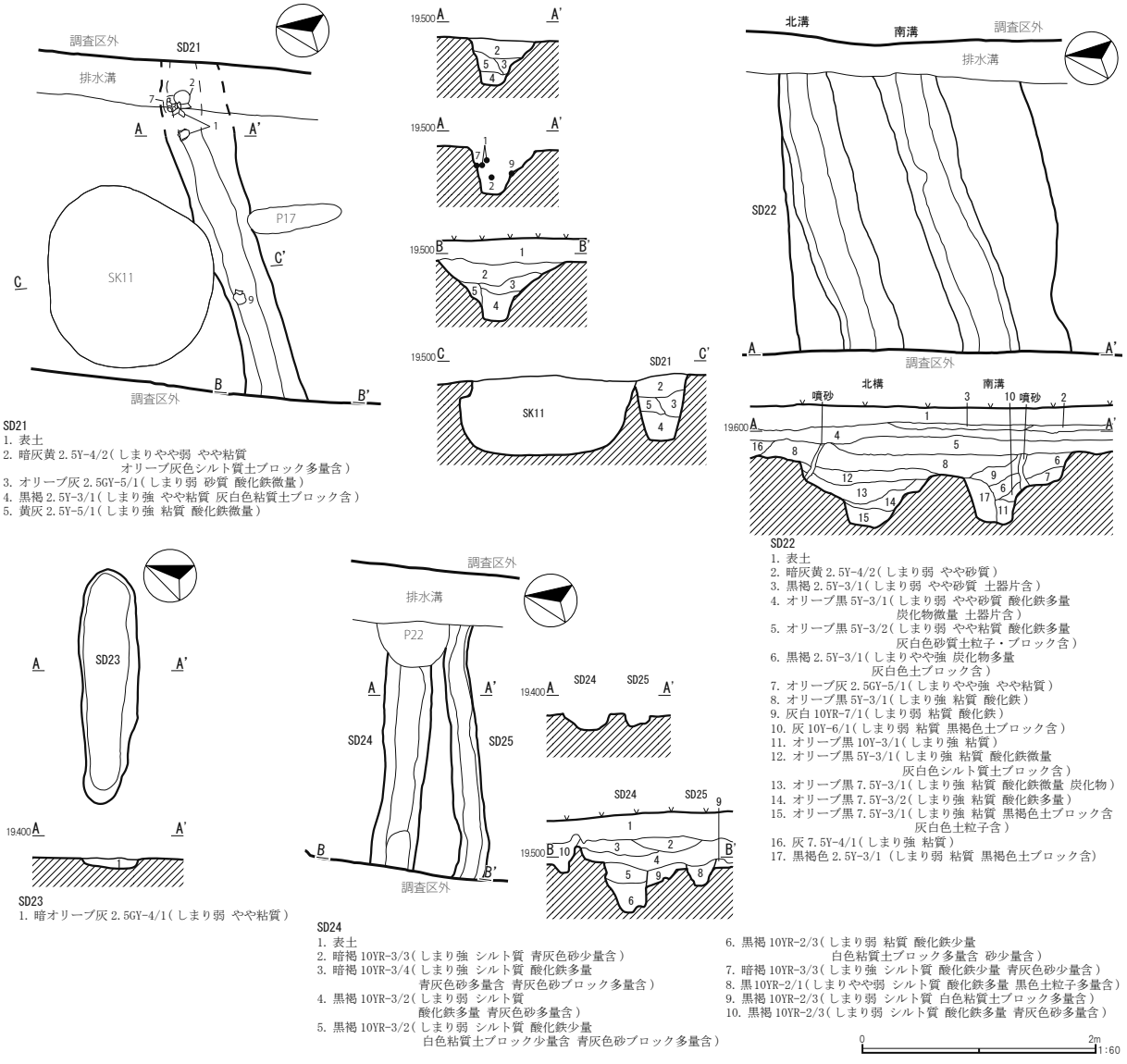
北溝の規模は、検出長 2.78 ｍ程度、検出幅 0.46 ～ 0.54 ｍを測り、深さは 0.62 ｍを測る。

平面形はほぼ直線状の形状で、溝幅は一定の間隔をもち、底部はやや凹凸がみられ、東へ向かって傾斜していた。

一方、南溝の規模は、検出長 2.77 ｍ程度、検出幅 0.45 ～ 0.51 ｍを測り、深さは 0.59 ｍを測る。

平面形は直線状で、溝幅は一定の間隔をもち、底部は絶えず湧水の影響で正確に確認できなかったが、やや凹凸を残す掘り方で、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、11 層確認できた。断面形は、船底形の掘り込みに更に逆台形状に掘られていて、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。



SD21
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや弱 やや粘質
オリーブ灰色シルト質土ブロック多量含）
3. オリーブ灰 2.5GY-5/1（しまり弱 砂質 酸化鉄微量）
4. 黒褐 2.5Y-3/1（しまり強 やや粘質 灰白色粘質土ブロック含）
5. 黄灰 2.5Y-5/1（しまり強 粘質 酸化鉄微量）

SD22
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 やや砂質）
3. 黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 やや砂質 土器片含）
4. オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 やや砂質 酸化鉄多量
炭化物微量 土器片含）
5. オリーブ黒 5Y-3/2（しまり弱 やや粘質 酸化鉄多量
灰白色砂質土粒子・ブロック含）
6. 黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 炭化物多量
灰白色土ブロック含）
7. オリーブ灰 2.5GY-5/1（しまりやや強 やや粘質）
8. オリーブ黒 5Y-3/1（しまり強 粘質 酸化鉄）
9. 灰白 10YR-7/1（しまり弱 粘質 酸化鉄）
10. 灰 10Y-6/1（しまり弱 粘質 黒褐色土ブロック含）
11. オリーブ黒 10Y-3/1（しまり強 粘質）
12. オリーブ黒 5Y-3/1（しまり強 粘質 酸化鉄微量
灰白色シルト質土ブロック含）
13. オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 粘質 酸化鉄微量 炭化物）
14. オリーブ黒 7.5Y-3/2（しまり強 粘質 酸化鉄多量）
15. オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 粘質 黒褐色土ブロック含
灰白色土粒子含）
16. 灰 7.5Y-4/1（しまり強 粘質）
17. 黒褐色 2.5Y-3/1（しまり弱 粘質 黒褐色土ブロック含）

SD23
1. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまり弱 やや粘質）

SD24
1. 表土
2. 暗褐 10YR-3/3（しまり強 シルト質 青灰色砂少量含）
3. 暗褐 10YR-3/4（しまり強 シルト質 酸化鉄多量
青灰色砂多量含 青灰色砂ブロック多量含）
4. 黒褐 10YR-3/2（しまり弱 シルト質
酸化鉄多量 青灰色砂多量含）
5. 黒褐 10YR-3/2（しまり弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 青灰色砂ブロック多量含）
6. 黒褐 10YR-2/3（しまり弱 粘質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 砂少量含）
7. 暗褐 10YR-3/3（しまり強 シルト質 酸化鉄少量 青灰色砂少量含）
8. 黒10YR-2/1（しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含）
9. 黒褐 10YR-2/3（しまり弱 シルト質 白色粘質土ブロック多量含）
10. 黒褐 10YR-2/3（しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 青灰色砂多量含）

0 2m 1:60

第 28 図　第 21 ～ 25 号溝跡

出土遺物は、土師器坏が１点のみ検出された。

出土遺物の量が少ないので時期は断定できず、不明である。

第 23 号溝跡（第 28 図）

ＣＵ、ＣＶ－ 61 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、東西軸で延伸し、西壁手前で消滅していた。

規模は、長さ 2.01 ｍ、幅 0.32 ～ 0.52 ｍを測り、深さは確認面から 0.09 ｍを測る。

平面形はほぼ直線状の形状で、溝幅は一定の間隔をもち、底部はやや凹凸を残す掘り方で、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。断面形は皿状の掘り方であり、レンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 24 号溝跡（第 28 図）

ＣＵ、ＣＶ－ 62 グリッドから検出された。第 22 号ピットと重複関係にあり、第 22 号ピットが本遺構を切っていた。

本遺構は、東西軸で第 25 号溝跡と平行に延伸していた。

規模は、検出長 2.58 ｍ程度、検出幅 0.33 ～ 0.40 ｍを測り、深さは 0.56 ｍを測る。

平面形はほぼ直線状の形状で、溝幅は一定の間隔をもち、底部はほぼ平らな掘り方で、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、２層のみ確認できた。断面形から壁面が垂直に近い掘り方であり、いずれも水平堆積であることから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 25 号溝跡（第 28 図）

ＣＵ、ＣＶ－ 62 グリッドから検出された。

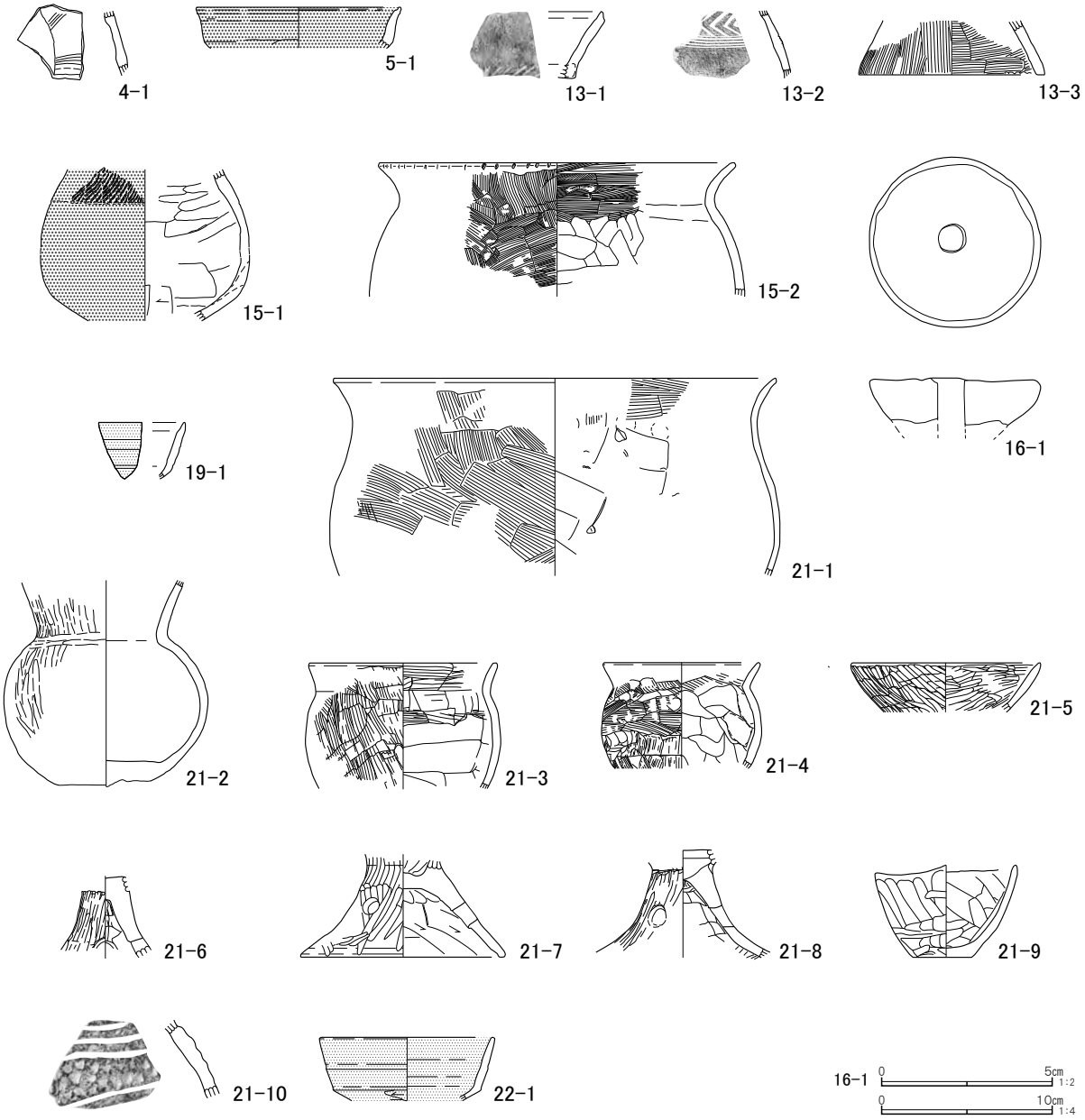
本遺構は、東西軸で第 24 号溝跡と平行に延伸していた。

規模は、検出長 2.64 ｍ程度、検出幅 0.22 ～ 0.25 ｍを測り、深さは 0.23 ｍを測る。

平面形は蛇行していて、溝幅は一定の間隔をもち、底部はほぼ平らな掘り方で、東へ向かって傾斜していた。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。断面形はＶ字状の掘り方であり、自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。



第 29 図　溝跡出土遺物

第 4 表　溝跡出土遺物観察表（第 29 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD04	4-1	弥生土器 甕	-	-	-	ADKM	黒褐 7.5YR-3/1	B	胴部片	外面：櫛描文	
SD05	5-1	土師器 坏	(12.0)	(2.3)	-	ABJM	外面：にぶい赤褐 2.5YR-4/4 内面：赤褐 2.5YR-4/6	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ	比企型坏 内外面赤彩
SD13	13-1	土師器 壺	-	-	-	ABDIMN	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：下位刺突文	13-2 と同一個体カ
SD13	13-2	土師器 壺	-	-	-	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	胴部片	外面：綾杉文、5 条の平行沈線	13-1 と同一個体カ
SD13	13-3	土師器 台付甕	-	(3.2)	10.9	AM	にぶい橙 7.5YR-7/4	A	台部 10%	内外面：ハケ目 (9 本 /1cm)	
SD15	15-1	土師器 壺	-	(8.8)	-	ABIM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 明赤褐 5YR-5/6 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	胴部片	外面：単節縄文 LR 内面：ナデ	外面赤彩
SD15	15-2	土師器 台付甕	(20.7)	(7.8)	-	ABIN	にぶい赤褐 5YR-5/4	B	口縁～胴部 20%	外面：口縁端部刻み目、ハケ目 内面：指ナデ	
SD16	16-1	土製品 紡錘車	上径 5.0　下径 (3.5)　器高 (1.4)　孔径 0.8　重さ (36.4g)						80% 下面剥離	上面：ナデ 下面：剥離 側面：無調整	

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD19	19-1	土師器 坏	-	-	-	ABD	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ	内外面黒色処理
SD21	21-1	土師器 甕	(25.9)	(11.6)	-	AGI	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：黒褐 7.5YR-3/1	A	20%	外面：口縁上部ヨコナデ 内面：ヘラナデ	内面スス付着
SD21	21-2	土師器 台付坩	8.8	(12.1)	(5.3)	CDEGH	赤橙 10R-6/6	B	80%	外面：口縁～胴部ミガキ (大部分摩滅により不明瞭) 台部剥離痕有 内面：ヘラナデ	
SD21	21-3	土師器 小型甕	(11.0)	(7.4)	-	ABHMN	褐灰 7.5YR-5/1	B	20%	外面：ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：ハケ目 (5 本 /1cm)、ナデ	
SD21	21-4	土師器 小型甕	(9.0)	(6.3)	-	ABDHI	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～胴部 40%	外面：ハケ目 (8 本 /1cm) 内面：指ナデ	
SD21	21-5	土師器 小型鉢	(11.0)	(2.9)	-	ABDGHKM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	30%	内外面：ミガキ	
SD21	21-6	土師器 高坏	-	(4.9)	-	ABIN	灰褐 7.5YR-5/2	B	脚部片	外面：ミガキ	脚部 4 箇所の円形透かし
SD21	21-7	土師器 高坏	-	(6.0)	12.0	ABIN	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	脚部 20%	外面：ヘラミガキ、ヨコナデ 内面：ヘラケズリ	脚部 3 箇所の円形透かし
SD21	21-8	土師器 高坏	-	(6.3)	-	ABHI	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	脚部 20%	外面：ミガキ	脚部 3 箇所の円形透かし
SD21	21-9	土師器 小型鉢	(8.0)	5.4	3.4	ABHM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	60%	口縁不整形 外面：指ナデ、ヘラミガキ 内面：指ナデ	
SD21	21-10	弥生土器 壺	-	-	-	ABHKM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部片	外面：平行沈線文、列点文	
SD22	22-1	土師器 坏	(10.0)	(3.7)	-	ABJM	黒褐 10YR-3/1	B	10%	外面：ヘラケズリ	内外面黒色処理

4　沼跡

第１号沼跡（第 30 図）

ＣＴ、ＣＵ－ 43 ～ 47 グリッドから検出された。第１号土坑と重複関係にあり、本遺構が第１号土坑に切られていた。

規模は、検出長 35. 95 ｍ、検出幅 2. 48 ｍ、深さは最大 1. 79 ｍであった。

大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが検出範囲とその断面観察から東西に広がる規模の大きな沼跡と推定できるが、その規模から河川跡の可能性も考えられる。

土層は、断面観察から、最深部は７～８層に渡る堆積がみられ、全体では少なくとも 15 層程度の土層が確認できた。堆積土は粘質の黄灰色・暗緑灰色の氾濫土や、シルト質のオリーブ黒色・黒色・黒褐色などの腐植土が確認できた。また砂質のオリーブ灰色土・黒褐色土なども確認でき、それらが交互に堆積していたことから、沼地が埋没を繰り返していたことがわかる。

なお、本遺構は北側で立ち上がりは 45° の傾斜角であるが、南側は重複する第１号土坑に切られており、詳細は不明である。

出土遺物は、土師器の坏・高坏・器台、須恵器の蓋・平瓶などが検出された。

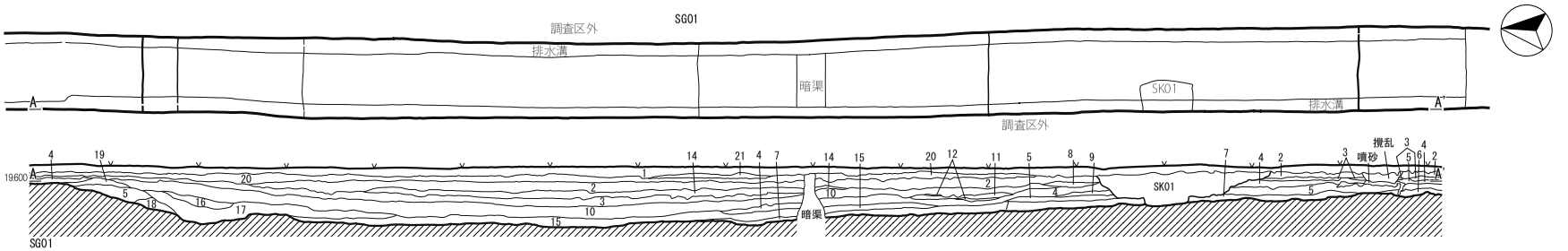
時期は、出土遺物から古墳時代前期～奈良、平安時代と推定される。

第２号沼跡（第 30 図）

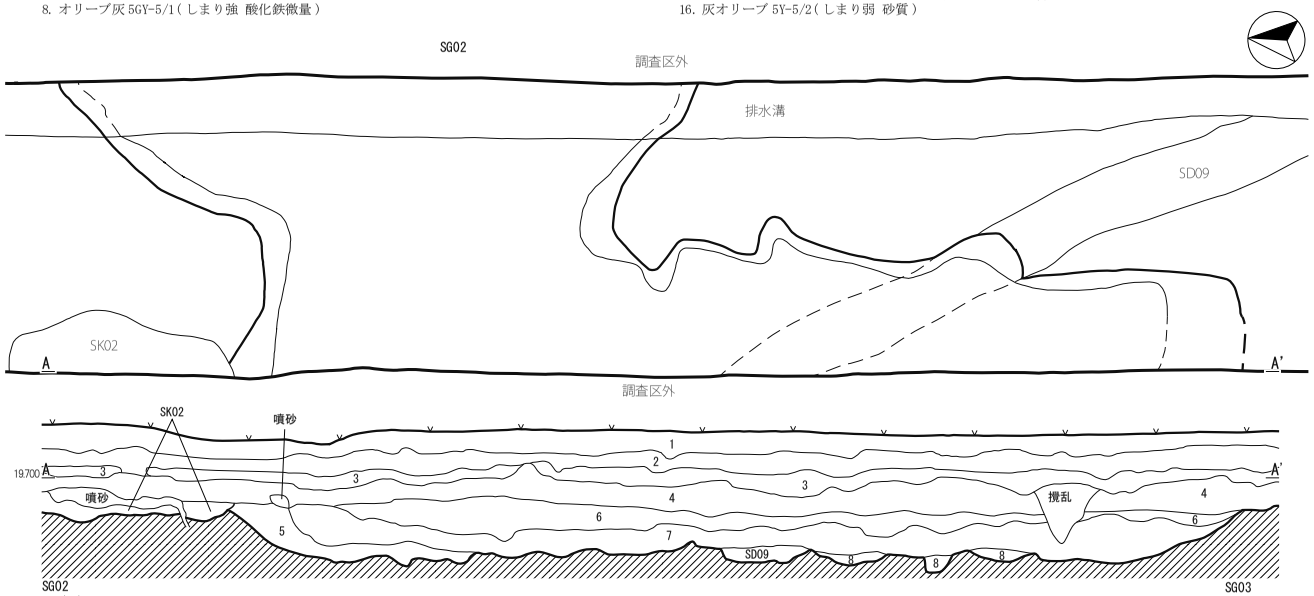
ＣＴ、ＣＵ－ 48、49 グリッドから検出された。本遺構は第９号溝跡、第２号土坑と重複関係にあり、本遺構が第２号土坑に切られ、第９号溝跡を切っていた。

規模は、詳細は不明であるが、検出最大長 7. 89 ｍ、検出幅 2. 34 ｍを測り、深さは確認面から平均で 0. 44 ｍを測る。

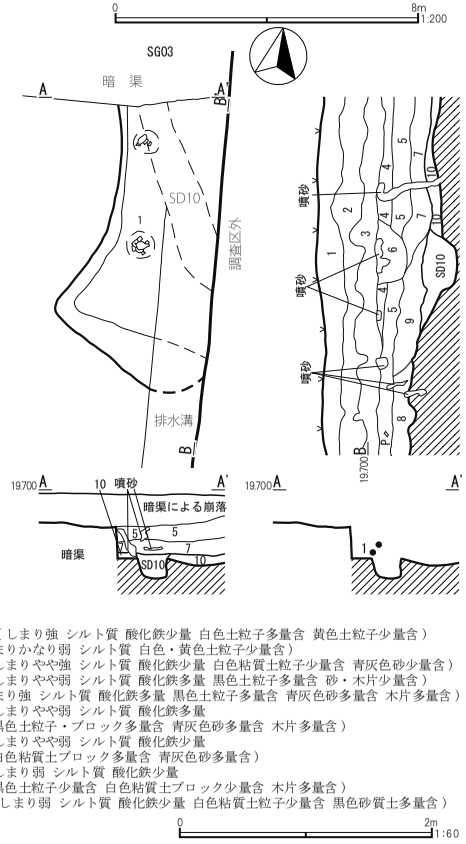
平面形は不明であるが、かなり不整形な形状をもつと推定される。



SG01
1. 表土
2. 灰 10Y-6/1(しまり弱 やや砂質)
3. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 灰白色土ブロック含 腐葉土含)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 やや粘質 酸化鉄)
5. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄)
6. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 腐葉土含)
7. 灰 10Y-4/1(しまりやや強 ややシルト質)
8. オリーブ灰 5GY-5/1(しまり強 酸化鉄微量)
9. 暗緑灰 7.5GY-3/1(しまり強 やや粘質)
10. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり弱 ややシルト質 灰白色シルト質土粒子・ブロック微量含)
11. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 腐植土含)
12. オリーブ灰 5GY-6/1(しまり弱 砂質 黒褐色土粒子微量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 砂質 灰白色シルト質土粒子・ブロック含)
14. 青灰 5BG-5/1(しまり弱 シルト質)
15. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 ややシルト質 灰白色土ブロック含)
16. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 砂質)
17. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 シルト質 一部灰白色粘質土粒子・ブロック含)
18. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質)
19. 黒褐 10YR-3/1(しまり強 酸化鉄多量)
20. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 酸化鉄微量)
21. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強)



SG02
1. 表土
2. 灰 10Y-6/1(しまり弱 やや砂質)
3. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 やや粘質 酸化鉄微量)
5. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 青砂粒子少量含 木片多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量 白色粘質土ブロック少量 木片多量)
8. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒土粒子少量含 白色粘土ブロック少量含 青砂少量含 木片少量含)



SG03
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 青灰色砂少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 砂・木片少量含)
6. 黒 2.5Y-2/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 青灰色砂多量含 木片多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子・ブロック多量含 青灰色砂多量含 木片多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 青灰色砂多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 木片多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 黒色砂質土多量含)

第30図　第１～３号沼跡

土層は、最大３～４層程度であり、大部分は北側からの流れ込みで、レンズ状に堆積していた。

堆積土は、その多くが木片を含むしまりの弱いシルト質土であった。

出土遺物は、土師器甑、土錘がそれぞれ１点ずつ検出された。

時期は、出土遺物から古墳時代前期と推定される。

第３号沼跡（第 30 図）

ＣＵ－49 グリッドから検出された。本遺構と第 10 号溝跡と重複関係にあり、第 10 号溝跡を切っていた。

規模は、詳細は不明であるが、検出最大長 2.37 ｍ、検出幅 1.24 ｍを測り、深さは確認面から平均で 0.31 ｍを測る。

平面形は不明であるが、かなり不整形な形状をもつと推定される。

土層は、第 10 号溝跡によって切られているが、第 10 号溝跡の下層にもう１層沼跡と推定される堆積層があることから、沼が形成されたのち、沼が一旦埋没し、溝が掘られ、その後再び沼によって埋没したものと推定される。

出土遺物は、土師器台付甕（Ｓ字口縁甕）が１点のみ検出された。

出土遺物量が少なく、時期は断定できず、不明である。

第４号沼跡（第 31 図）

ＣＴ、ＣＵ－ 49、50 グリッドから検出された。本遺構と第３号土坑が重複関係にあり、本遺構が第３号土坑に切られていた。

規模は、詳細は不明であるが、検出最大長 5.20 ｍ、検出幅 1.3 ｍを測り、深さは確認面から平均で 0.49 ｍを測る。

平面形は不明であるが、かなり不整形な形状をもつと推定される。

土層は、最大３層であり、大部分は水平堆積で、しまりの弱い暗オリーブ灰色土の堆積であった。

出土遺物は、土師器坏が１点のみ検出された。

時期は不明である。

第５号沼跡（第 31 図）

ＣＵ－ 50、51 グリッドから検出された。本遺構と第 14 号溝跡、第５、７号ピットが重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

規模は、詳細は不明であるが、検出最大長 5.43 ｍ、検出幅 2.13 ｍを測り、深さは確認面から平均で 0.32 ｍを測る。

平面形は不明であるが、西に広がり、東に窄まる不整形な形状をもつと推定される。

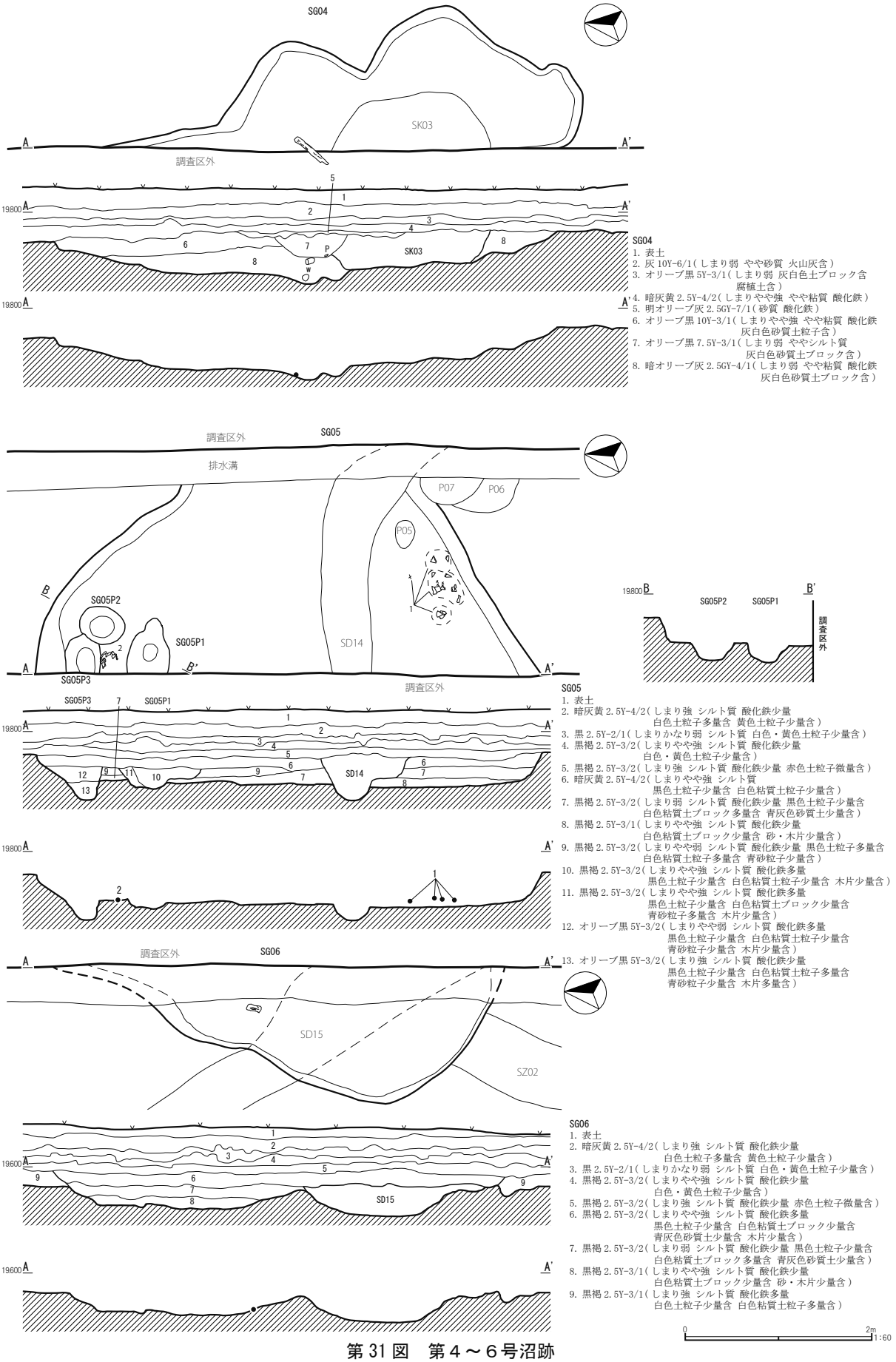
土層は、最大３～４層程度であり、水平堆積とレンズ状堆積が確認でき、堆積土はその多くが木片を含むしまりの弱いシルト質土であった。

出土遺物は、土師器の甕（Ｓ字口縁甕）・高坏がそれぞれ１点ずつ検出された。うち、甕の胴部外面に炭化米が付着しており、放射性炭素年代測定の結果、３世紀前後と判定された。

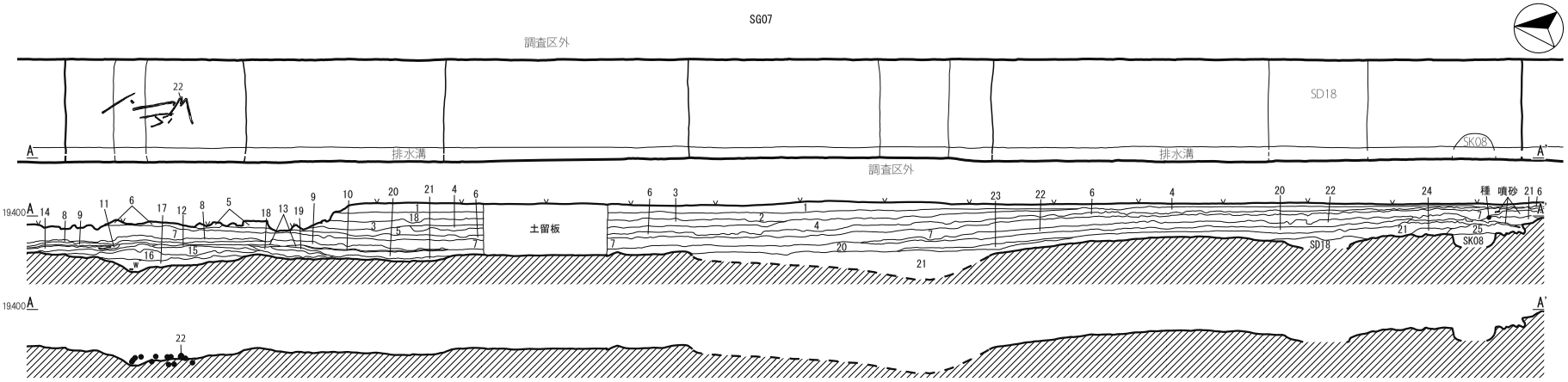
時期は出土遺物、および年代測定の結果、古墳時代前期と考えられる。

第６号沼跡（第 31 図）

ＣＵ－ 51、52 グリッドから検出された。本遺構と第２号方形周溝墓、第 15 号溝跡が重複関係にあり、

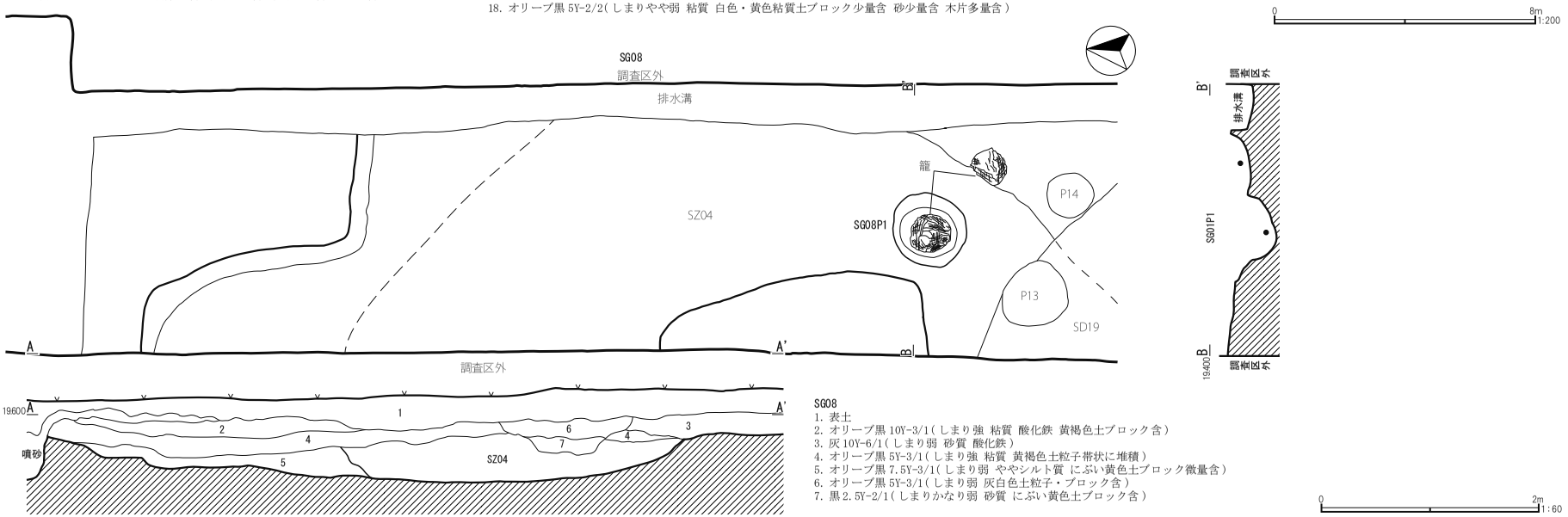

SG04
SK03
調査区外
A
A'
19800
SG04
1. 表土
2. 灰 10Y-6/1(しまり弱 やや砂質 火山灰含)
3. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 灰白色土ブロック含 腐植土含)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄)
5. 明オリーブ灰 2.5GY-7/1(砂質 酸化鉄)
6. オリーブ黒 10Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄 灰白色砂質土粒子含)
7. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質 灰白色砂質土ブロック含)
8. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり弱 やや粘質 酸化鉄 灰白色砂質土ブロック含)
調査区外
排水溝
SG05
P07
P06
P05
SG05P2
SG05P1
SG05P3
SD14
B
B'
19800
SG05P2
SG05P1
調査区外
SG05
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 青灰色砂質土少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック少量含 砂・木片少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 青砂粒子少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 青砂粒子多量含 木片少量含)
12. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 青砂粒子少量含 木片少量含)
13. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 青砂粒子少量含 木片多量含)
調査区外
SG06
SD15
SZ02
19600
SG06
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 青灰色砂質土少量含 木片少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 青灰色砂質土少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック少量含 砂・木片少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
0
2m
1:60

第 31 図　第４～６号沼跡



SG07
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 やや砂質 酸化鉄少量 火山灰多量含)
3. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
4. 暗緑灰 7.5GY-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
5. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1(しまり弱 砂質 薫片含)
6. 黒 5Y-2/1(しまり弱 薫片多数含 腐葉土含)
7. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 やや砂質 黒褐色砂質土粒子含 薫片多数含 腐葉土含)
8. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや弱 シルト質 白色砂質土ブロック多量含
白色粘質土ブロック少量含 木片多量含)
9. 黒褐 5YR-3/1(しまり無 腐葉土含 木片多量含 薫片多数含 砂少量含)
10. 黒褐 5YR-3/1(白色砂質土ブロック多量含)
11. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 白色・黄色砂質土ブロック多量含
白色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
12. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 シルト質 白色・黄色砂質土ブロック多量含 木片多量含)
13. 黒褐 5YR-3/1(しまりやや弱 シルト質 薫片 腐葉土含)
14. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 粘質 白色砂質土ブロック少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
15. 黒 5Y-2/1(しまり弱 粘質 白色砂質・粘質土ブロック少量含
黒色土粒子多量含 黄色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
16. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子多量含 木片多量含)
17. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 白色・黒色粘質土ブロック多量含 黒色土粒子多量含)
18. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや弱 粘質 白色・黄色粘質土ブロック少量含 砂少量含 木片多量含)
19. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 白色砂質土ブロック少量含
黄色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
20. 黒褐 5YR-3/1(しまり弱 薫片わずか含 腐葉土含)
21. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや粘質)
22. オリーブ黒 5Y-2/2(しまり無 腐葉土含 木片多量含 薫片多数含 白色砂質土ブロック含)
23. 黒 2.5Y-2/1(しまり無 シルト質 腐葉土含 薫片多数含
木片多量含 白色粘質土ブロック多量含)
24. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 粘質 黒色土ブロック多量含 白色粘質土ブロック多量含)
25. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりかなり弱 シルト質 酸化鉄少量 砂質土ブロック少量含)

0 8m 1:200



SG08
1. 表土
2. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄 黄褐色土ブロック含)
3. 灰 10Y-6/1(しまり弱 砂質 酸化鉄)
4. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 黄褐色土粒子帯状に堆積)
5. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質 にぶい黄色土ブロック微量含)
6. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 灰白色土粒子・ブロック含)
7. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 砂質 にぶい黄色土ブロック含)

0 2m 1:60

第 32 図　第７、８号沼跡

第２号方形周溝墓を切っていた。第 15 号溝跡との関係は、本遺構が沼として機能していた後に、第 15 号溝跡に切られたが、その後本遺構が切ったと考えられる。

規模は、詳細は不明であるが、検出最大長 2.78 m、検出幅 1.47 mを測り、深さは最深部で 0.48 mを測る。

平面形は不明であるが、東に広がる不整形な形状をもつと推定される。

土層は、最大３層程度であり、一度２層分の堆積があった後、第 15 号溝跡に切られるが、埋没し、再び沼として機能した後、埋まったと考えられる。

堆積土はその多くが木片を含むしまりの弱いシルト質土であった。

出土遺物は、検出できなかった。

第７号沼跡（第 32 図）

ＣＵ－ 54 ～ 59 グリッドから検出された。第８号土坑、第 18 号溝跡と重複関係にあった。

規模は、詳細は不明であるが、検出最大長 43.70 mを測り、深さは最大 1.90 m、平均 1.14 mを測る。また、北から 3.5 m付近、南から 21.3 m付近に落ち込みを有しており、それぞれの落ち込みの深さは確認面から 1.66 ～ 1.90 mを測る。

平面形は不明であるが、東西軸に広がる沼跡、もしくは河川跡とも考えられる。

土層は、最大 20 層前後の堆積が確認でき、大部分は水平堆積であった。基本土層は表土から 10 層に分層化され、６～ 10 層は黒褐色砂質土で葦などの腐葉土が堆積しており、長年にわたり湿地帯のような沼、もしくは河川跡であったことが推定される。

なお、覆土の堆積からこの沼跡は２箇所の異なった堆積が確認できた。一つは南からの水平堆積であり、もう一つはその堆積より古い時期に埋没した北側のやや変則的な水平堆積であった。これらの堆積状況から沼は北側から少しづつ埋没していき、その後、沼としての機能を有しながら次第に埋没していったことが推測できる。

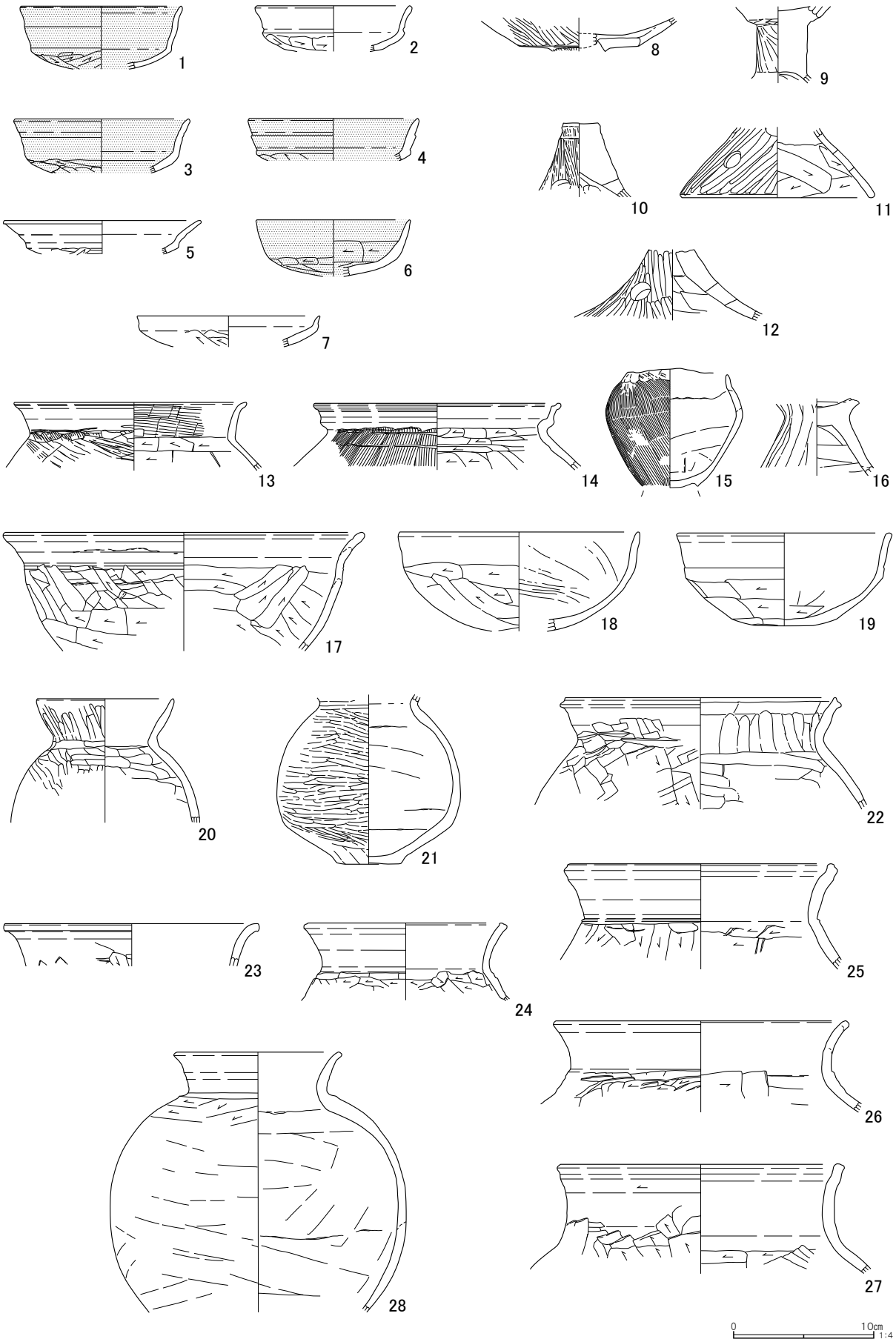
出土遺物は、弥生土器の甕・壺、土師器の甕・壺・坩・鉢（有段口縁）・台付甕（Ｓ字口縁甕）・小型甕・高坏・器台・手捏ね土器、木製品の槽・飾り弓・鍬・板材などが検出された。47 の外面には擬縄文と考えられる文様、30 などのように東海地方の影響をもつ土器も検出された。また、土師器甕や台付甕はほとんどがＳ字口縁甕で、１点はほぼ完形品である。木製品は実測したもの以外にも第 32 図のとおり棒状加工された木製品が北側に集中して複数検出されたが、耐久性の問題から取り上げはできなかった。木製品のうち飾り弓は弭の一方を枝の節で利用し、もう一方は削り弦を掛けられるよう調整されている。槽は一木から削り出した容器で、大部分が欠損している。

時期は、出土遺物に時期があることから、弥生時代中期～古墳時代前期まで沼として存続していたと推定される。

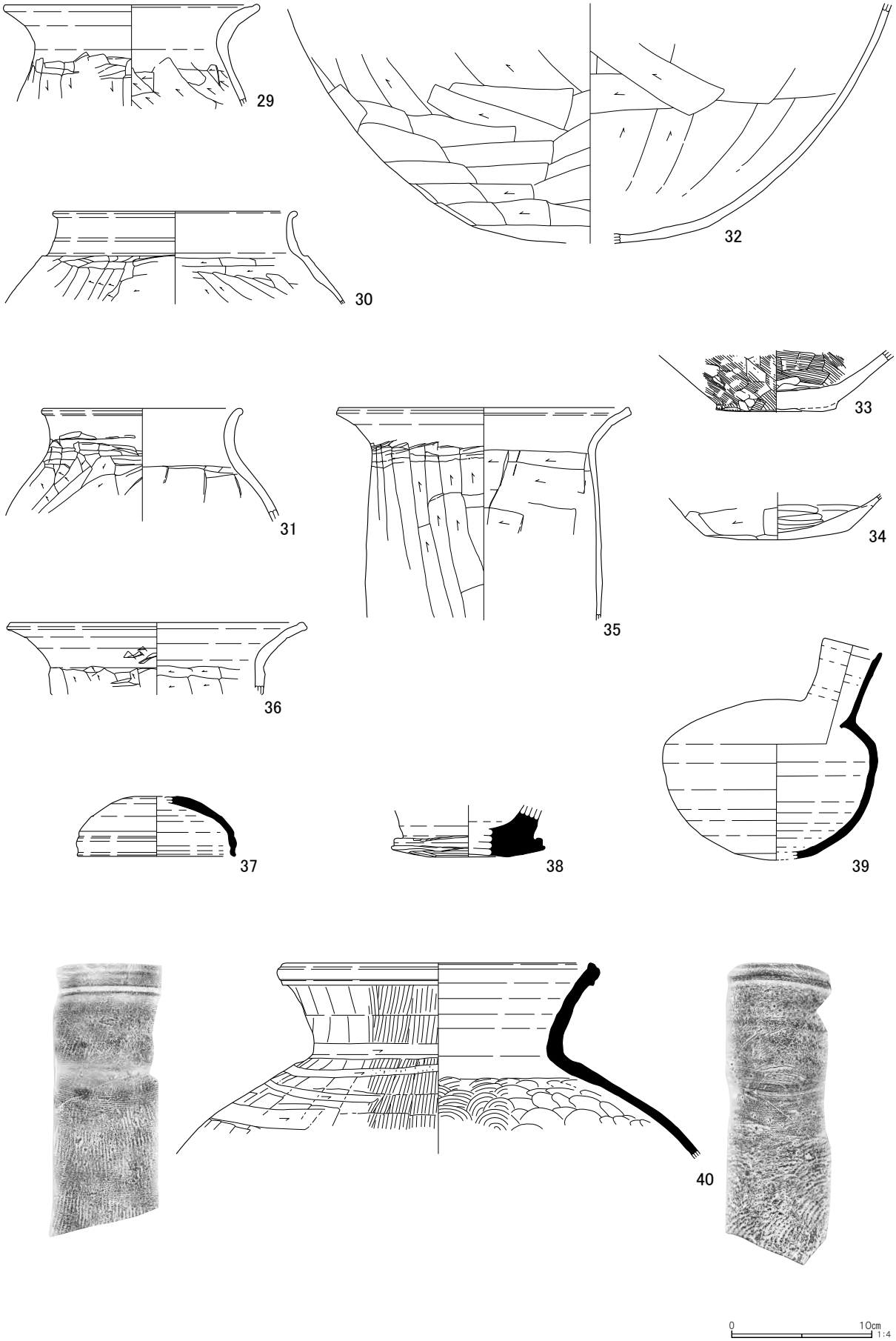
第８号沼跡（第 32 図）

ＣＵ－ 59、60 グリッドから検出された。第４号方形周溝墓と重複関係にあり、本遺構が第４号方形周溝墓に切られていた。

規模は、詳細は不明であるが、検出長軸最大長 8.24 m、同短軸最大長 2.46 mを測る。深さは最深部で 0.29 mを測る。



第 33 図　第 1 号沼跡出土遺物(1)



第 34 図　第 1 号沼跡出土遺物(2)

第５表　第１号沼跡出土遺物観察表(1)（第 33、34 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	土師器 坏	(11.4)	(4.5)	-	ABI	褐灰 10YR-4/1	B	口縁～底部 30%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
2	土師器 坏	10.8	(3.3)	-	ABDHJM	橙 5YR-7/6	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
3	土師器 坏	(12.3)	(3.9)	-	ABDJ	褐灰 5YR-4/1	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	内外面黒色処理
4	土師器 坏	(12.0)	(3.0)	-	ABDKM	黒褐 5YR-3/1	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
5	土師器 坏	(14.0)	(2.4)	-	BDHMN	橙 2.5YR-6/6	A	口縁～体部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
6	土師器 坏	(10.9)	(4.1)	-	ABHKM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	内外面黒色処理
7	土師器 坏	(12.9)	(2.7)	-	ABJM	橙 7.5YR-6/6	C	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
8	土師器 高坏	-	(2.6)	-	ABDHL	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	坏部 20%	外面：ミガキ	
9	土師器 高坏	-	(5.1)	-	ABHIN	にぶい橙 5YR-6/4	B	脚部 90%	外面：ヘラナデ 内面：ナデ	
10	土師器 高坏	-	(5.2)	-	ABHIN	外面：橙 2.5YR-6/6 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	脚部片	外面：ハケ目	脚部 4 箇所の円形透かし
11	土師器 高坏	-	(5.0)	(13.7)	ABIKMN	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	脚部 30%	外面：ミガキ 内面：ナデ	2 段透かし孔
12	土師器 器台	-	(5.2)	-	DIN	にぶい赤褐 5YR-5/3	B	脚部 90%	外面：ミガキ 内面：ナデ	内側全面にスス付着 脚部 3 箇所の円形透かし
13	土師器 台付甕	(17.0)	(5.8)	-	ABDIKM	灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部 30%	外面：ハケ目 (8 本 /1cm) 後ヘラケズリ 内面：ナデ	
14	土師器 台付甕	(17.5)	(4.8)	-	ABIJMN	にぶい褐 7.5YR-6/4	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 (7 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕
15	土師器 小型台付甕	7.1	(8.5)	-	ADGM	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～胴部 70%	外面：口縁部指調整圧痕 胴部ハケ目 (9 本 /1cm) 内面：ヘラナデ	底部剥離痕有
16	土師器 台付甕	-	(5.5)	-	ABDIJM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：明赤褐 2.5YR-5/6	B	台脚部 100%	外面：ヘラナデ 内面：ナデ	
17	土師器 鉢	(25.4)	(8.9)	-	ABIJM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
18	土師器 鉢	(17.0)	(7.0)	(7.8)	ABHKM	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：橙 5YR-6/6	B	40%	外面：ヘラケズリ 内面：器面調整工具痕	
19	土師器 鉢	(15.0)	(6.6)	(7.5)	ABDHM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	40%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
20	土師器 小型壺	(9.6)	(8.8)	-	ABIN	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～胴部 40%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、ナデ	
21	土師器 小型壺	-	(12.1)	4.6	ABGIM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部～底部 60%	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	
22	土師器 甕	(19.2)	(8.0)	-	ABDI	灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁～胴部 50%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	
23	土師器 甕	(18.0)	(3.0)	-	ABMN	灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ	
24	土師器 甕	(13.5)	(5.5)	-	AIN	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：褐灰 10YR-4/1	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
25	土師器 甕	(18.5)	(7.5)	-	ABDIKM	灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
26	土師器 甕	(20.7)	(6.5)	-	ABCJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：灰褐 7.5YR-6/2	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ、ナデ 内面：ナデ	
27	土師器 甕	(17.7)	(7.8)	-	ABDGIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
28	土師器 壺	(11.6)	(18.5)	-	ABIJM	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～胴部 40%	外面：胴部ナデ (摩耗著しい) 内面：胴部ヘラナデ	
29	土師器 甕	(18.0)	(7.2)	-	ABKM	灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
30	土師器 甕	(17.0)	(6.6)	-	ABHI	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁部 40%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
31	土師器 甕	(14.0)	(8.0)	-	ABHIKMN	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ、指ナデ 内面：ナデ	
32	土師器 甕	-	(17.2)	-	ABDJMN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
33	土師器 甕	-	(4.4)	8.5	ABDIMN	外面：にぶい橙 5YR-6/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	底部 100%	内外面：ハケ目 (6 本 /1cm)	

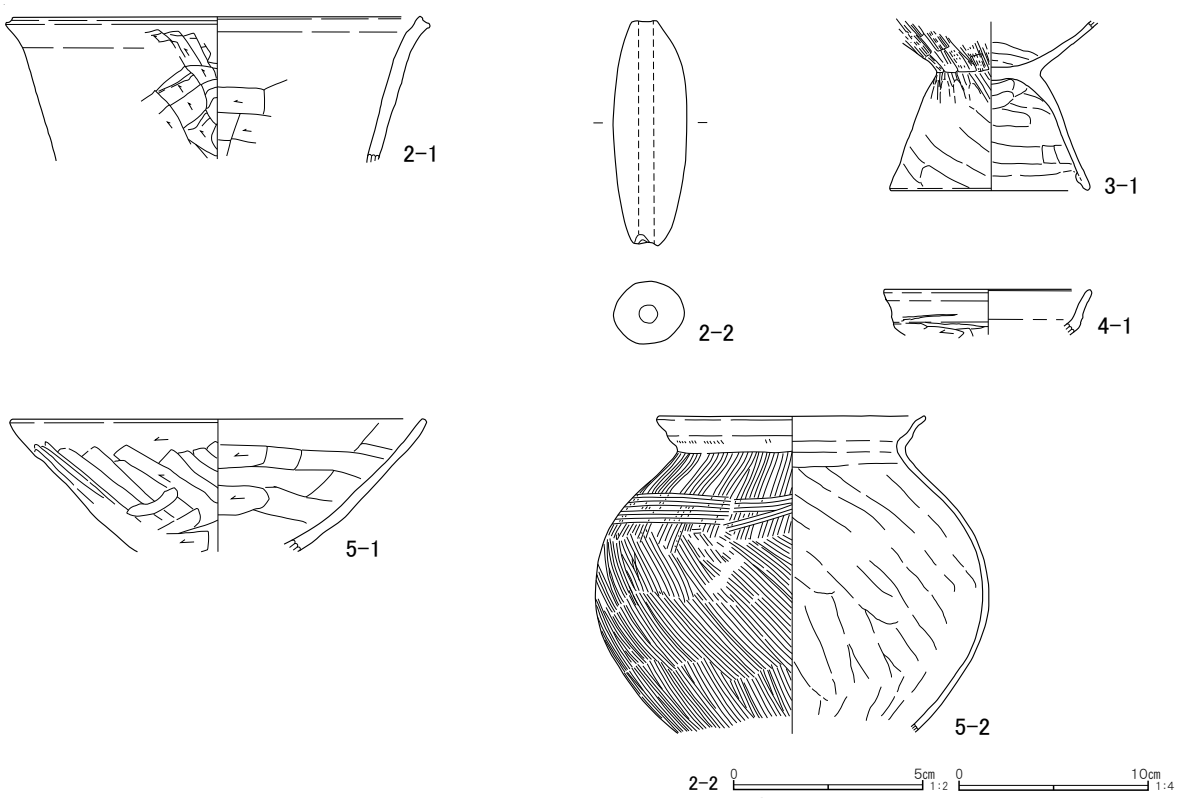
平面形は不明である。

土層は、オリーブ黒色シルト質土の１層のみでほぼ水平に堆積していたが、第４号方形周溝墓に切られていることから、詳細は確認できなかった。

出土遺物は、本遺構Ｐ１と東側の立ち上がり付近から、木製の籠が１点ずつ検出した。しかし、非常にもろく、取り上げることはできなかった。

第５表　第１号沼跡出土遺物観察表(2)（第 33、34 図）

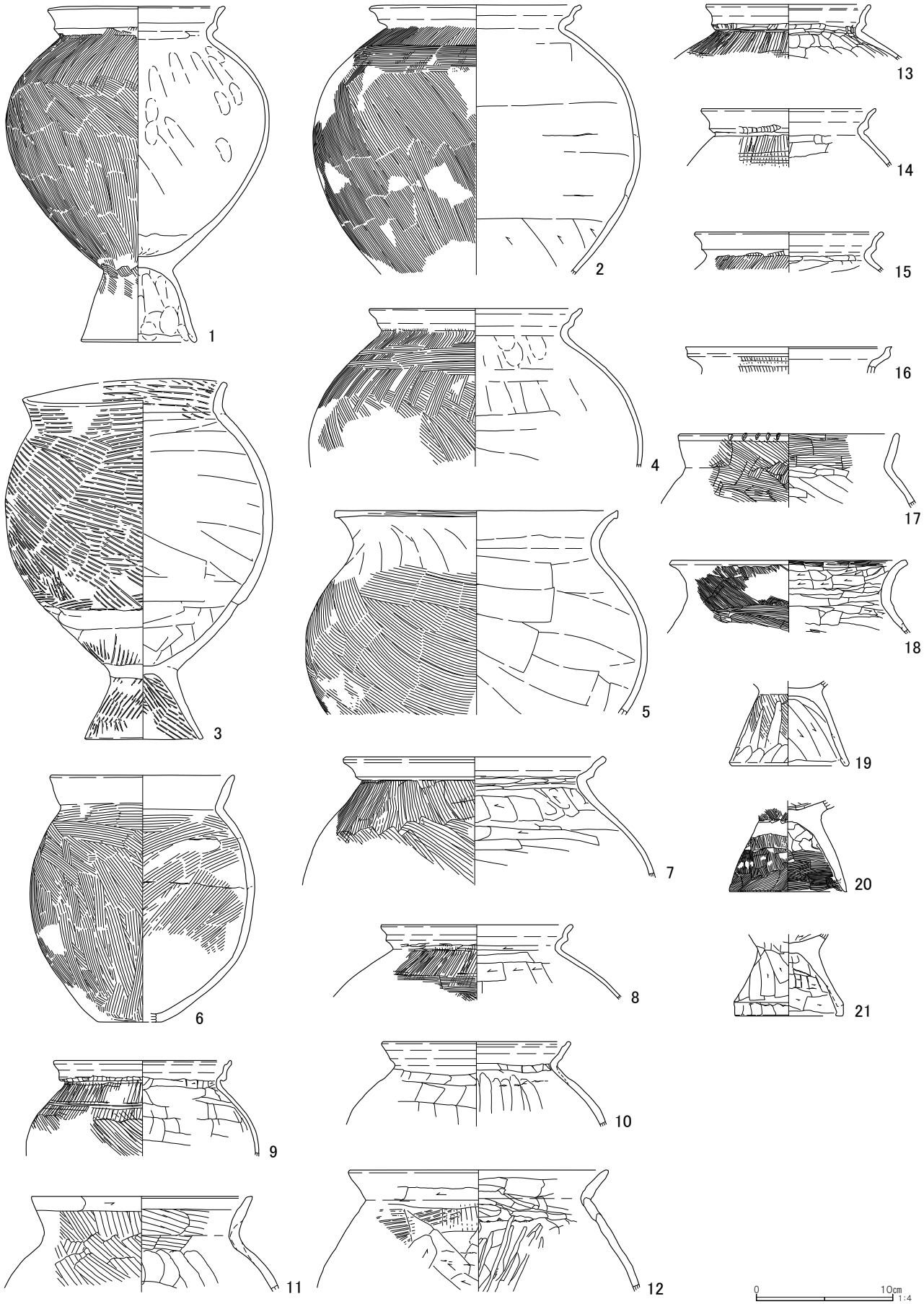
No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
34	土師器 甕	-	(3.3)	10.2	ABIM	褐灰 10YR-6/1	A	底部 100%	外面：ヘラケズリ、底面ヘラケズリ 内面：ナデ	
35	土師器 甕	(20.7)	(15.1)	-	ABJM	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
36	土師器 甕	(21.0)	(5.1)	-	ABIN	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
37	須恵器 蓋	(11.0)	(4.3)	-	ABFHM	灰 5Y-6/1	A	30%	外面：天井部指ナデ 口縁部と体部の境に沈線 内面：口縁部に凹線	湖西産
38	須恵器 擂鉢	-	(3.3)	(10.7)	ABFGMN	褐灰 10YR-6/1	A	底部 30%	外面：底面指ナデ	南比企産
39	須恵器 平瓶	4.2	(15.8)	-	AM	灰白 7.5Y-7/1	A	70%	外面：口縁～体部上位にかけて施釉 施釉方法はツケガケ	O53 窯式期に相当 東海産
40	須恵器 甕	(21.7)	(13.9)	-	ABJM	外面：灰 N-6/ 内面：灰 N-5/	A	口縁～胴部 30%	外面：細かい平行タタキ目 内面：同心円タタキ目	末野産



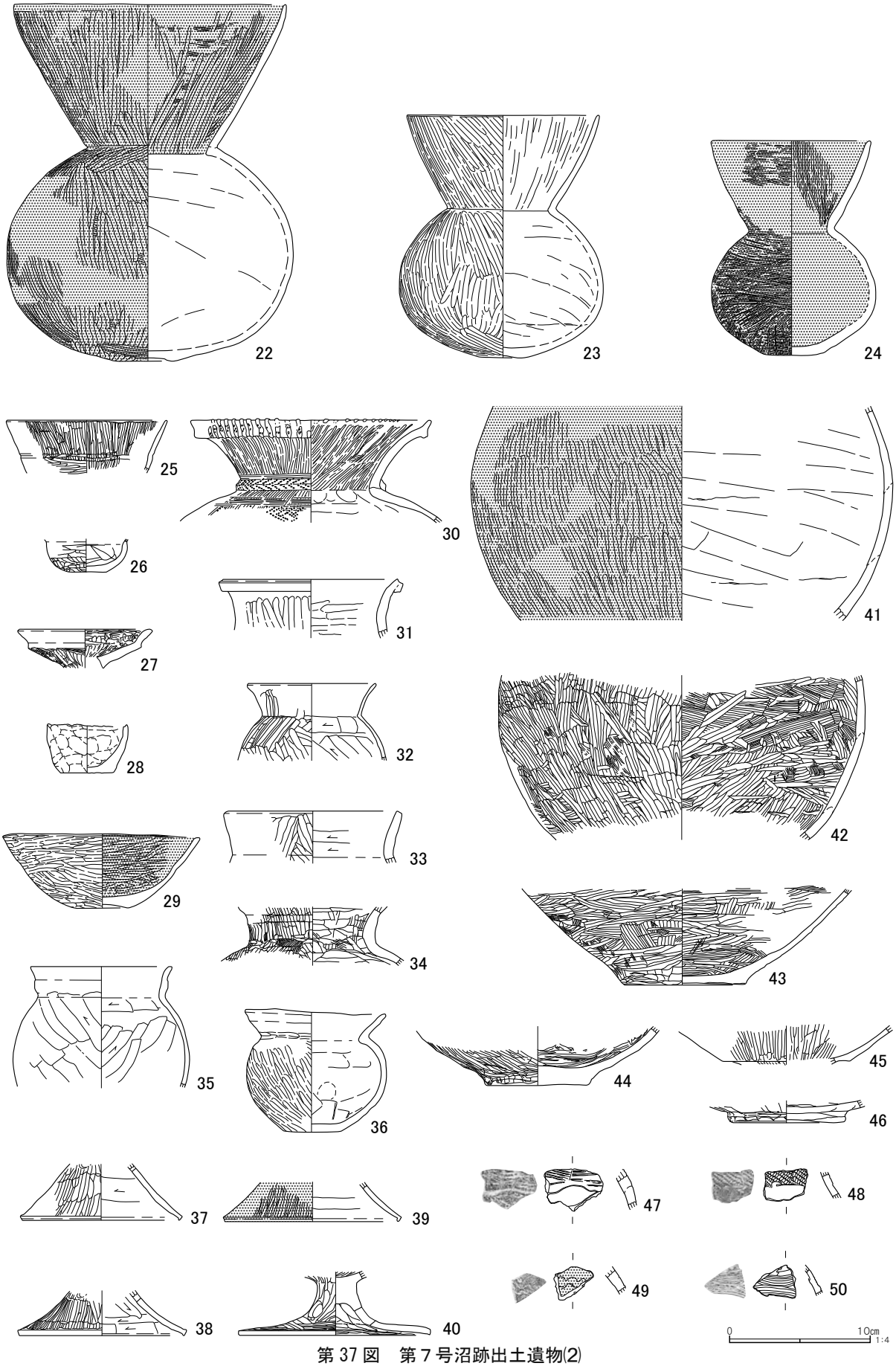
第 35 図　第２～５号沼跡出土遺物

第６表　第２～５号沼跡出土遺物観察表（第 35 図）

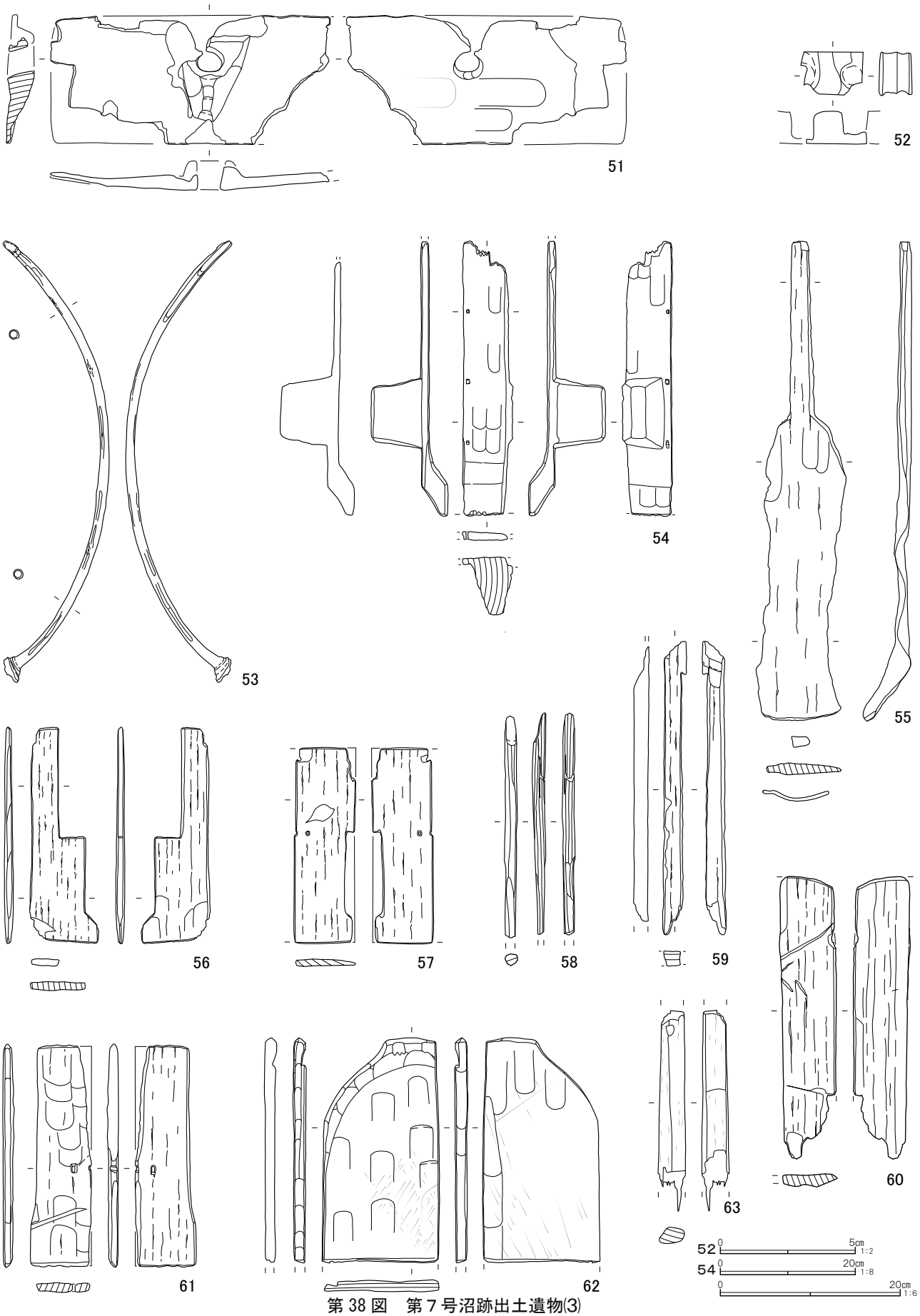
遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SG02	2-1	土師器 甑	(21.4)	(7.5)	-	ABIM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SG02	2-2	土製品 土錘	最大長 5.9　最大幅 1.9　孔径 0.4　重さ 19.3g						完形	外面：ナデ	
SG03	3-1	土師器 台付甕	-	(8.9)	(9.6)	ABI	褐灰 10YR-6/1	B	30%	外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：指ナデ、ヘラナデ	S 字甕 外面スス付着
SG04	4-1	土師器 坏	(10.8)	(2.4)	-	ABIK	橙 5YR-6/6	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SG05	5-1	土師器 高坏	21.7	(7.0)	-	ABDI	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部 70%	内外面：ナデ	
SG05	5-2	土師器 甕	14.0	(16.8)	-	ABGM	外面：黒 10YR-2/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～胴部 40%	外面：胴部ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕、炭化米付着 外面全体スス付着



第 36 図　第 7 号沼跡出土遺物(1)



第 37 図　第 7 号沼跡出土遺物(2)



第 38 図　第 7 号沼跡出土遺物(3)

第７表　第７号沼跡出土遺物観察表（第 36 ～ 38 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	土師器 甕	12.7	24.6	8.2	ADGIM	暗オリーブ 5Y-4/3	B	90%	外面：胴部ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：全面ナデ調整	S 字甕 外面スス付着
2	土師器 甕	15.2	(19.8)	-	ABEM	褐灰 10YR-5/1	A	口縁～胴部 70%	外面：胴部ハケ目 (7 本 /1cm) 内面：胴部ヘラナデ、ヘラケズリ	S 字甕 外面スス付着
3	土師器 台付甕	14.8	26.4	8.5	DGHIMN	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	80%	外面：ハケ目 (4 本 /1cm) 内面：口縁部ハケ目 胴部ヘラナデ	器形全体に歪み有
4	土師器 台付甕	(15.4)	(11.6)	-	DGM	外面：黒褐 2.5Y-3/1 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	口縁～胴部 40%	外面：胴部ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：胴部ヘラナデ	S 字甕
5	土師器 甕	(20.6)	(15.0)	-	ACDGHIJM	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～胴部 30%	外面：頸部ナデ調整、胴部ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：胴部ヘラナデ	内外面スス付着
6	土師器 平底甕	13.3	18.1	(4.6)	ADGM	灰 7.5Y-5/1	B	70%	外面：胴部～底部ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：胴部ハケ目	内外面スス付着
7	土師器 台付甕	(18.8)	(9.9)	-	ABDJM	灰黄 2.5Y-6/2	A	口縁～胴部 70%	外面：ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕
8	土師器 台付甕	(14.0)	(5.5)	-	ABHKM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：褐灰 10YR-6/1	B	口縁～胴部 20%	外面：ハケ目 (6 本 /1.1cm) 内面：ナデ	S 字甕
9	土師器 台付甕	(12.8)	(7.0)	-	AIM	褐灰 10YR-4/1	B	口縁～胴部 30%	外面：ハケ目 (3 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕
10	土師器 台付甕	(13.9)	(6.2)	-	ABIJM	外面：灰白 10YR-8/1 内面：灰白 2.5Y-7/1	B	口縁～胴部 30%	外面：ナデ 内面：指ナデ	S 字甕
11	土師器 台付甕	(16.0)	(7.0)	-	DHIMN	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：灰褐 7.5YR-6/2	B	口縁～胴部 20%	外面：ハケ目 内面：指ナデ	胎土の雲母粒が顕著
12	土師器 台付甕	(18.8)	(8.9)	-	ABDIJMN	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～胴部 20%	外面：平行タタキ目後ナデ 内面：ナデ	
13	土師器 台付甕	(12.0)	(4.0)	-	ABHKM	黄灰 2.5Y-5/1	B	口縁～胴部 30%	外面：ハケ目 (6 本 /1.4cm) 内面：ナデ	S 字甕
14	土師器 台付甕	(12.6)	(4.3)	-	ABIMN	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～胴上部片	外面：ハケ目 (5 本 /1cm) 肩部横線あり 内面：ナデ	S 字甕
15	土師器 台付甕	(13.6)	(3.0)	-	ABDIJM	外面：にぶい黄褐 10YR-5/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：ナデ	S 字甕
16	土師器 台付甕	(15.0)	(1.9)	-	ABGHKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁部 10%	外面：ハケ目 内面：ヨコナデ	受口状口縁
17	土師器 台付甕	(15.8)	(5.4)	-	IN	黄灰 2.5Y-5/1	B	口縁～胴上部片	外面：口縁端部刻み目、ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：ナデ	
18	土師器 台付甕	17.0	(5.3)	-	ABEGMN	褐灰 10YR-4/1	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 (口縁部 13 本 /1cm・胴部 8 本 /1cm) 内面：ハケ目後ミガキ	
19	土師器 台付甕	-	(6.2)	8.4	ABHKN	灰黄褐 10YR-5/2	A	脚部 100%	外面：ハケ目後指ナデ 内面：指ナデ	S 字甕
20	土師器 台付甕	-	(6.0)	(8.6)	ABM	にぶい黄 2.5Y-6/4	A	脚部 100%	端部折り返し 内外面：ハケ目	
21	土師器 台付甕	-	(6.0)	7.8	ABIN	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	脚部 100%	内外面：ヘラケズリ	
22	土師器 坩	(19.2)	25.4	3.7	ABGIM	にぶい赤褐 2.5YR-5/4	B	60%	外面：ヘラミガキ 内面：口縁部ハケ目調整後ヘラミガキ 胴部ナデ調整	外面および口縁内面に赤彩
23	土師器 坩	13.6	17.2	2.8	ADIN	明黄褐 10YR-6/6	B	90%	外面：ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ	外面スス付着
24	土師器 坩	11.2	15.3	3.5	BMN	赤 10R-4/6	A	60%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	内外面赤彩
25	土師器 小型坩	(11.4)	(5.5)	-	ABJM	黄褐 2.5Y-5/3	B	口縁部片	内外面：ヘラミガキ	
26	土師器 小型坩	-	(2.4)	(2.9)	ABIJM	にぶい赤褐 5YR-5/3	B	底部片	外面：ミガキ 内面：指ナデ	
27	土師器 器台	9.2	(2.8)	-	ABDJ	黄灰 2.5Y-5/1	A	器受部 100%	内外面：ミガキ	
28	土師器 手捏ね土器	5.6	3.4	3.8	ABM	灰黄 2.5YR-6/2	A	100%	内外面：指頭圧痕	
29	土師器 鉢	13.9	5.3	3.7	BDGI	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	100%	内外面：ヘラミガキ	内面赤彩
30	土師器 壺	(17.0)	(7.4)	-	AEIJMN	灰黄褐 10YR-6/2	A	口縁部 20%	櫛歯状工具による施文。口縁部棒状浮文に刺突。頸部突帯に綾杉文。肩部に平行線文と綾杉文。	
31	土師器 壺	(13.0)	(4.2)	-	ABIJM	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁部 20%	内外面：ヘラナデ	折返し口縁
32	土師器 小型壺	(9.0)	(5.5)	-	AGHIM	暗灰 N-3/1	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
33	土師器 壺	(12.0)	(3.7)	-	ABIM	にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁部 10%	外面：ミガキ 内面：ナデ	
34	土師器 壺	-	(4.2)	-	ABMN	外面：黄灰 2.5Y-5/1 内面：灰黄 2.5Y-6/2	B	頸部 30%	外面：ハケ目 (9 本 /1cm) 後ヘラミガキ 内面：ハケ目後ヘラミガキ	
35	土師器 小型甕	(10.0)	(8.6)	-	ABHKMN	にぶい黄 2.5Y-6/3	B	口縁～胴部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	外面スス付着
36	土師器 小型甕	9.7	8.7	4.0	ABCDGIM	灰黄褐 10YR-6/2	B	90%	外面：胴部ヘラミガキ 内面：胴部指頭圧痕、ナデ	底部工具調整痕有
37	土師器 高坏	-	(4.0)	(11.0)	ABDIM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	脚部 20%	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	脚部 3 ヶ所の円形透かし
38	土師器 高坏	-	(3.2)	(11.8)	ABI	灰黄褐 10YR-6/2	A	脚部 20%	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	脚部 3 ヶ所の円形透かし
39	土師器 高坏	-	(2.8)	(12.2)	ABM	外面：にぶい橙 2.5YR-6/4 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	脚部 10%	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	外面赤彩
40	土師器 高坏	-	(4.2)	13.6	ABDGIM	にぶい黄 2.5Y-6/3 黄灰 2.5Y-5/1	B	脚部 100%	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	脚部 3 ヶ所の円形透かし
41	土師器 壺	-	(15.3)	-	ADGM	にぶい赤褐 5YR-5/3	B	胴部 30%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	外面赤彩
42	土師器 壺	-	(11.7)	-	ABIM	褐灰 10YR-6/1	B	胴部片	内外面：ハケ目 (8 本 /1cm) 後ミガキ	
43	土師器 壺	-	(6.8)	8.7	BDKMN	外面：褐灰 5YR-6/1 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	胴部～底部片	内外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 後ミガキ	
44	土師器 壺	-	(4.2)	7.1	ABGJN	灰 7.5Y-4/1	B	底部 100%	外面：ミガキ 内面：ハケ目 (6 本 /1cm) 後ミガキ	
45	土師器 高坏	-	(3.7)	-	DHIKM	外面：黄灰 2.5Y-4/1 内面：暗灰黄 2.5Y-5/2	B	坏部 20%	内外面：ミガキ	
46	土師器 壺	-	(1.6)	(8.2)	ABIM	黄灰 2.5Y-4/1	B	底部 60%	内外面：ナデ	
47	土師器 甕	-	-	-	ABIM	外面：赤褐 2.5YR-4/6 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	胴部片	外面：擬縄文ヵ	
48	弥生土器 壺	-	-	-	ABM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：RL 単節縄文	
49	弥生土器 壺	-	-	-	ABM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：結節文	外面赤彩
50	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	黒褐 10YR-3/2	B	胴部片	外面：櫛描文	
51	木製品 横鍬	最大長 (31.3)　最大幅 (14.2)　最大厚 (2.6)							木取：柾目 中央に逆三角形の突起部を設け、その中央に柄孔を設け柄を入れ込むため穿孔している 横鍬	アカガシ亜属
52	火鑽臼	最大長 (1.5)　最大幅 (2.3)　最大厚 (1.2)							木取：板目 2 ヶ所凹み有 凹片の底面が炭化している	
53	木製品 弓 (飾弓？)	最大長 55.5　最大幅 1.2　最大厚 1.0							木取：芯持材 木の枝分かれ部分をあえて残し利用 法量が小型のため、実用品ではなく飾弓と考える	カヤ
54	木製品 槽	最大長 (40.9)　最大幅 7.3　最大厚 8.7							木取：柾目	スギ
55	木製品 鍬	最大長 53.3　最大幅 8.9　最大厚 1.6							木取：柾目	アカガシ亜属
56	木製品 板材	最大長 24.0　最大幅 6.0　最大厚 1.0							木取：柾目 元の長方形の板材を、両側縁を二次加工	針葉樹
57	木製品 板材	最大長 21.8　最大幅 (6.5)　最大厚 0.8						左側縁が欠損	木取：柾目 1 ヶ所穿孔し、その左側に紐かけ痕が見える	針葉樹
58	木製品 棒材	最大長 (24.7)　最大幅 1.3　最大厚 1.5						下端部欠損	木取：板目 先端と基部の一部を加工。一部炭化	燃えさしの可能性 針葉樹
59	木製品 槽	最大長 (33.6)　最大幅 (2.5)　最大厚 1.6							木取：板目 脚部の一部	スギ
60	木製品 鍬	最大長 (31.5)　最大幅 (6.1)　最大厚 1.5						一部のみ残存	木取：柾目 下端部にかけて薄く加工	未製品
61	木製品 板材	最大長 24.6　最大幅 6.7　最大厚 1.1						側面の一部欠損	木取：柾目 片方 (表面) に割った後に「鉈 (ヤリガンナ)」で整材 中央に穿孔が 1 ヶ所、その右脇に紐かけ痕が見える	
62	木製品 曲物底板	最大長 (25.0)　最大幅 12.8　最大厚 1.3							木取：板目 刃物痕が表裏に多数あり、両端を破損後二次加工	スギ
63	木製品 棒材	最大長 (22.3)　最大幅 3.0　最大厚 1.8						上下端欠損	木取：板目	柄の可能性

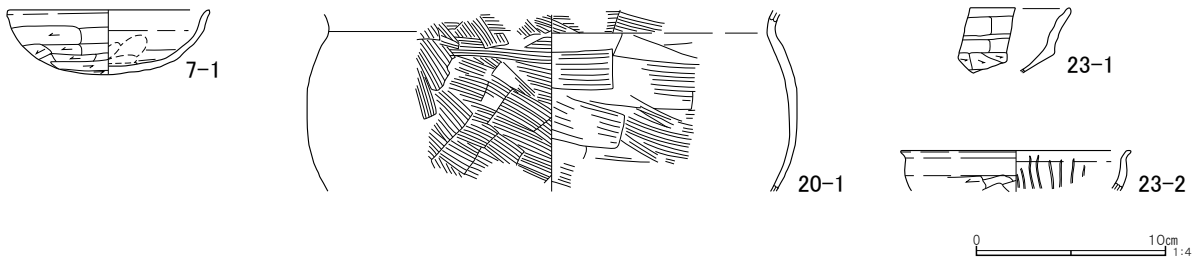
5　ピット

ピットは調査区を通じて総数 23 基検出された。

以下、紙面の都合から、ピットの特徴等について一覧表で掲載する。（第 40 図・第８表）

第８表　ピット一覧表（第 40 図）

遺構名	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
P01	CT-39	円形	0.29 × 0.27 × 0.06			
P02	CT-39	楕円形	1.02 × 0.69 × 0.33		SD02	
P03	CT-39・40	楕円形	0.32 × 0.28 × 0.08			
P04	CT-41	円形	0.20 × 0.20 × 0.09			
P05	CU-51	楕円形	0.30 × 0.21 × 0.29		SG05	
P06	CU-51	(楕円形)	(0.41) × (0.36) × 0.09		P07	
P07	CU-51	(楕円形)	(0.29) × 0.68 × 0.11	土師器坏	P06・SG05	
P08	CU-51	(隅丸方形)	(0.54) × 0.67 × 0.36			
P09	CU-52	(楕円形)	(0.4) × 0.73 × 0.32			
P10	CU-52	(楕円形)	0.70 × (0.29) × 0.14			
P11	CU-53	楕円形	0.44 × 0.25 × 0.09			
P12	CU-53	(楕円形)	(0.37) × 0.55 × 0.17		SD17	
P13	CU-60	楕円形	0.62 × 0.56 × 0.28		SZ04・SD19	
P14	CU-60	円形	0.43 × 0.41 × 0.21			
P15	CU-60	楕円形	0.50 × 0.40 × 0.17		SX01	
P16	CU-61	円形	0.33 × 0.32 × 0.13			
P17	CU-61	楕円形	0.81 × 0.21 × 0.04		SD21	
P18	CU・CV-61	(楕円形)	(0.24) × 0.42 × 0.19			
P19	CU-61	円形	0.42 × 0.39 × 0.13			
P20	CU-61	楕円形	0.40 × 0.34 × 0.45	土師器甕		
P21	CU-62	楕円形	0.56 × 0.32 × 0.16			
P22	CV-62	(楕円形)	(0.39) × 0.62 × 0.15		SD24	
P23	CU-62	(楕円形)	(0.60) × 0.42 × 0.35	土師器坏		



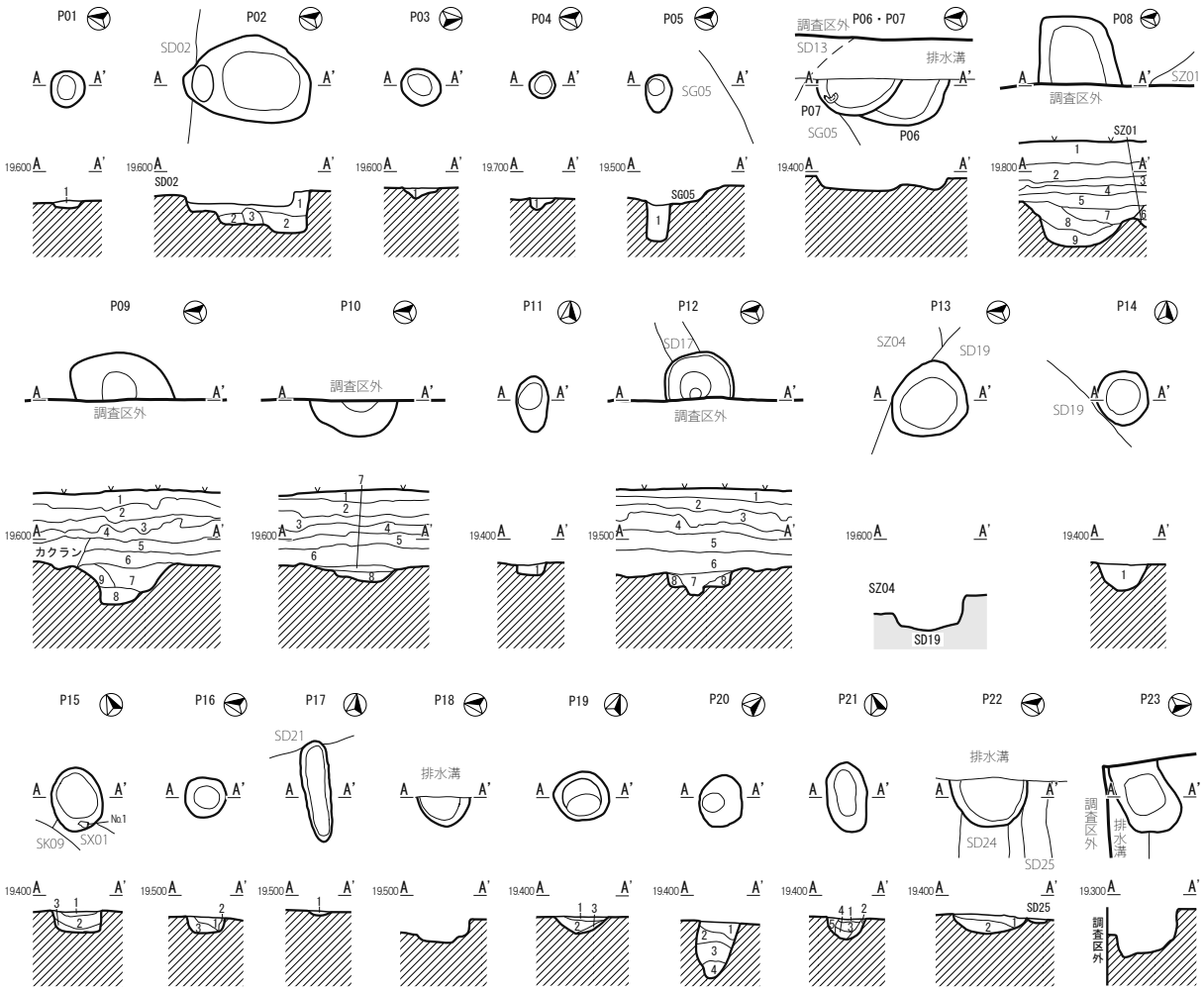
第 39 図　ピット出土遺物

第９表　ピット出土遺物観察表（第 39 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
P07	7-1	土師器 坏	10.6	3.4	-	AJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：橙 5YR-6/8	A	80%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	
P20	20-1	土師器 甕	-	(9.5)	-	DGIM	外面：にぶい橙 5YR-7/4 にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	胴部 10%	外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：ハケ目	
P23	23-1	土師器 坏	-	-	-	ABDI	橙 5YR-6/6	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ	有段口縁
P23	23-2	土師器 坏	(12.0)	(2.2)	-	AKM	橙 2.5YR-6/6	A	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	

6　遺構外出土遺物

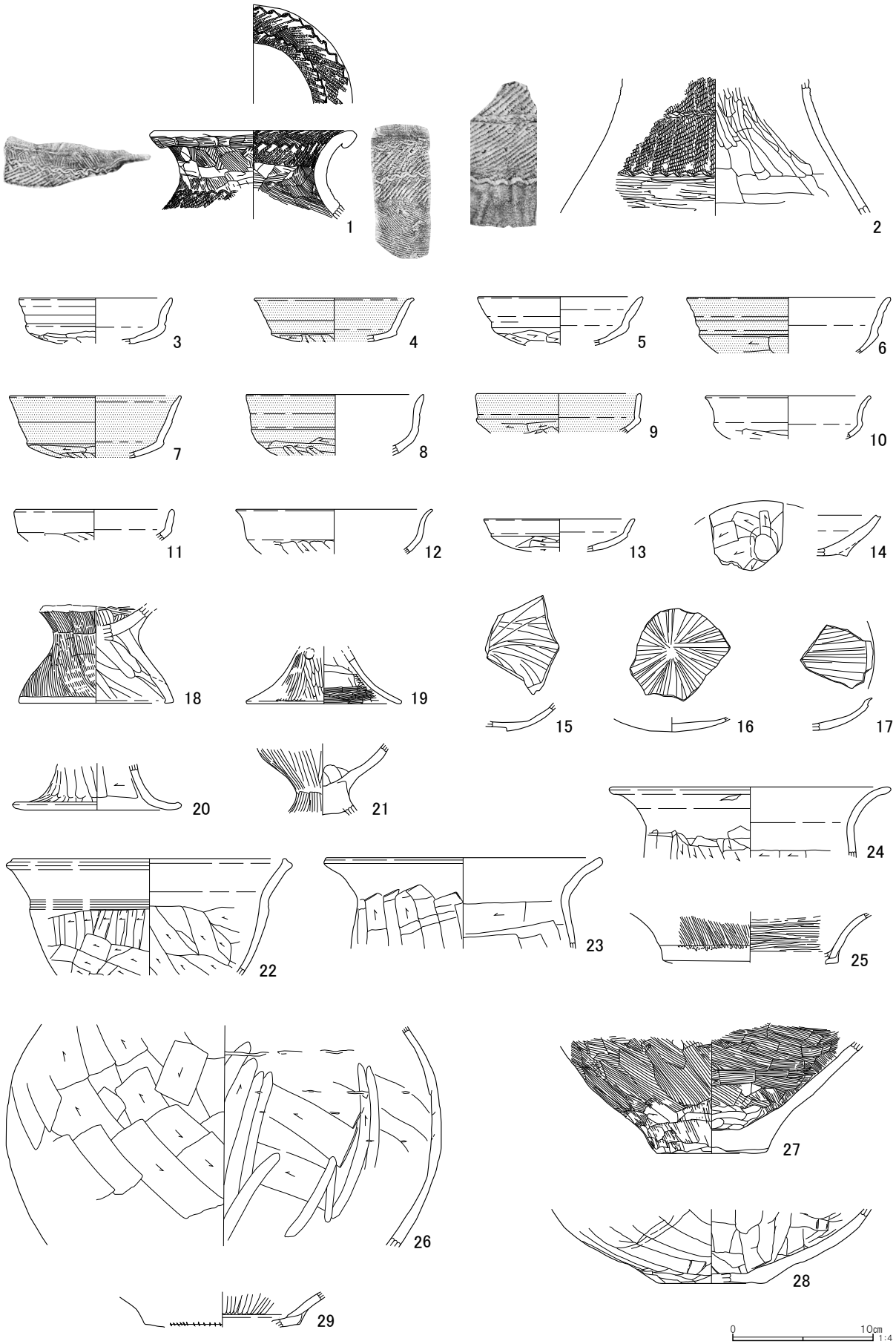
遺構外から出土した遺物については、主に事前調査による試掘調査や、表土剥ぎ時の遺物である。以下、遺構外出土遺物として掲載する。（第 41、42 図・第 10 表）



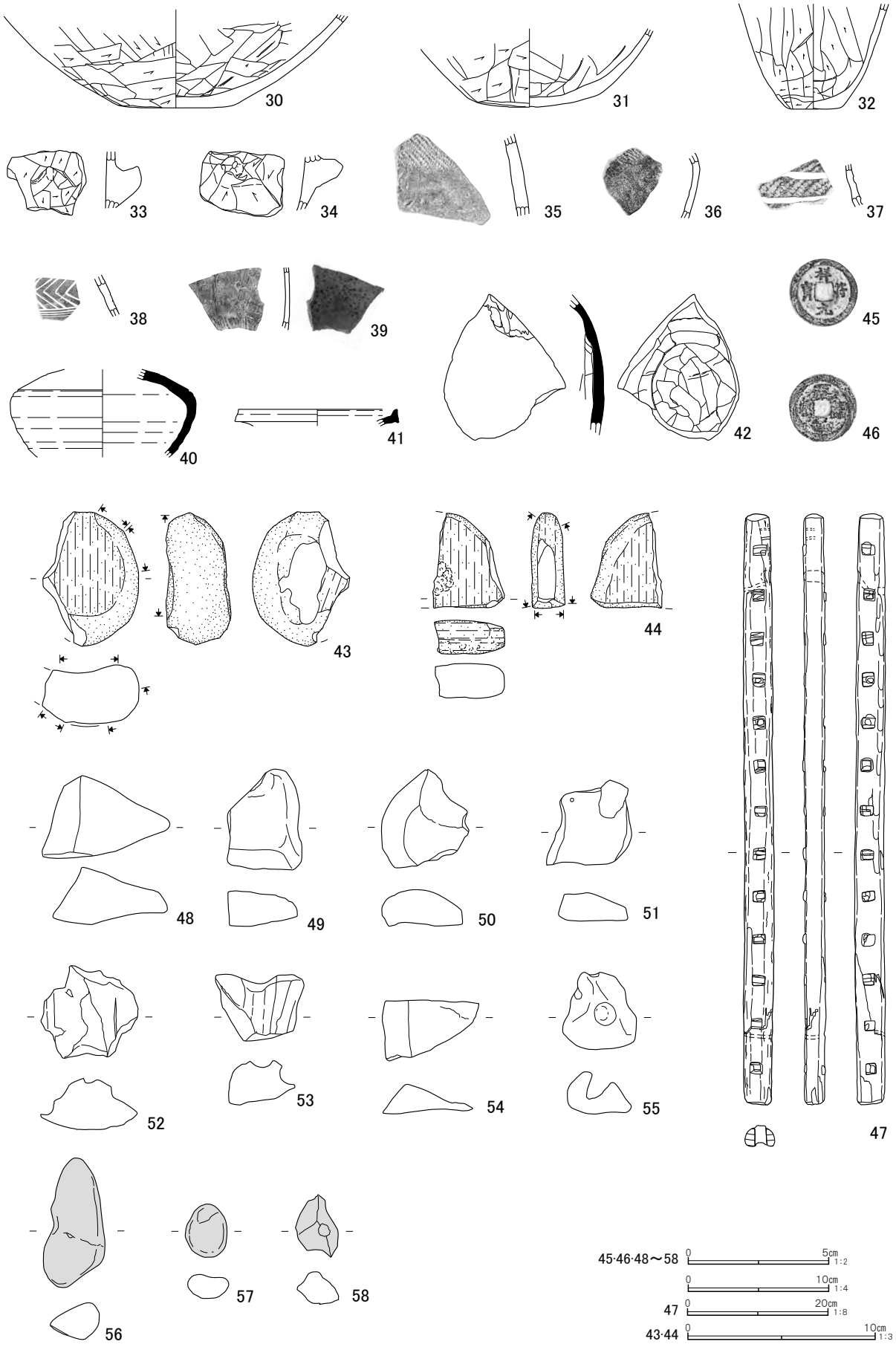
P01
1. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強 粘質)
P02
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質)
2. 灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまり強 粘質)
3. オリーブ灰 5GY-5/1(しまりやや弱 粘質)
P03
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 やや粘質)
P04
1. 灰 7.5Y-4/1(しまり強 粘質)
P05
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含)
P08
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含 砂少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック少量含 砂ブロック少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック少量含 砂少量含)
P09
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)
7. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 黒色土粒子少量含 木片少量含)
8. 黒褐 10YR-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック多量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
9. 黒褐 10YR-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含 砂少量含)
P10
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
7. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含)
P11
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 青灰色砂少量含 白色粘質土ブロック少量含)
P12
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまりかなり弱 シルト質 白色・黄色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色土粒子少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 赤色土粒子微量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック少量含 砂少量含 木片多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 粘質土ブロック少量含 砂・木片少量含)
8. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 粘質土ブロック多量含 砂少量含)
P14
1. 黒 2.5Y-2/1(腐植土含 灰白色土含 土器片含)
P15
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 やや粘質)
2. 灰白 7.5Y-7/1(しまり強 粘質)
3. 黒 2.5Y-2/1
P16
1. 灰 7.5Y-5/1(粘質 酸化鉄)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2(砂質 酸化鉄多量)
3. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強 やや粘質 黒褐色土ブロック含)
P17
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱)
P19
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 灰白色土粒子含)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや粘質)
3. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 粘質)
P20
1. 灰オリーブ 7.5Y-4/2(やや粘質 灰白色・黒褐色土粒子含)
2. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 木片含)
3. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 やや粘質)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 砂質)
P21
1. 黒褐 5YR-3/1(しまり弱 やや粘質)
2. 黒褐 2.5Y-3/1(やや粘質 灰白色土粒子含)
3. 灰白 7.5Y-7/2(砂質 酸化鉄)
4. 灰 10Y-5/1(酸化鉄)
5. 灰オリーブ 7.5Y-6/2(酸化鉄)
P22
1. 黒 10YR-2/1(しまり弱 やや粘質)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱)

0 2m 1:60

第 40 図　ピット



第 41 図　遺構外出土遺物(1)



第 42 図　遺構外出土遺物(2)

第 10 表　遺構外出土遺物観察表（第 41、42 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	(14.0)	(6.3)	-	ABDGJN	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～頸部 30%	外面：頸部縦羽状のハケ目 (8 本 /1cm) 後、単節縄文 LR(0 段多条) で末端結節 内面：口縁上半部同一原体で 2 段に施す	折返し口縁
2	弥生土器 壺	-	(9.7)	-	ABDGHIMN	外面：明褐灰 7.5YR-7/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	頸部片	外面：頸部単節縄文 LR(0 段多条)、末端結節 内面：上半部ミガキ、下半部ナデ	
3	土師器 坏	(10.8)	3.3	-	ABDGJKM	明赤褐 2.5YR-5/6	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁
4	土師器 坏	(11.0)	(3.1)	-	BDKM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
5	土師器 坏	(11.6)	(3.5)	-	ABM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁
6	土師器 坏	(14.3)	(4.0)	-	ABGI	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 外面黒色処理
7	土師器 坏	(12.0)	(4.4)	-	ABIJM	黒褐 2.5Y-3/1	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
8	土師器 坏	(12.6)	(4.3)	-	ABIJM	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁 外面黒色処理
9	土師器 坏	(11.6)	(3.0)	-	ABDJM	褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁～体部 10%	外面：ヘラケズリ	内外面黒色処理
10	土師器 坏	(11.6)	(3.1)	-	ABDGHM	にぶい褐色 7.5YR-6/3	A	口縁～体部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
11	土師器 坏	(11.1)	(2.2)	-	ABI	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
12	土師器 坏	(13.8)	(3.2)	-	ABIJM	橙 5YR-6/6	A	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
13	土師器 坏	(10.6)	(2.3)	-	ABI	にぶい橙 7.5YR-6/4	A	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
14	土師器 脚付皿	-	-	-	ABHIM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
15	土師器 埦	-	-	-	ABDKM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：橙 5YR-6/6	B	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
16	土師器 坏	-	(1.0)	-	ABEJK	橙 5YR-6/6	A	底部 80%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
17	土師器 坏	-	-	-	ABDI	にぶい橙 5YR-6/4	A	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
18	土師器 台付甕	-	(6.8)	(11.0)	ABDGHIMN	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：にぶい橙 5YR-7/3	B	台脚部 30%	外面：ハケ目 内面：指ナデ	
19	土師器 高坏	-	(4.1)	(11.0)	ABKMN	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	脚部片	外面：ミガキ 内面：ハケ目	
20	土師器 高坏	-	(3.3)	(6.0)	ABEKM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	脚部 20%	外面：ヘラナデ 内面：ヘラケズリ、ナデ	
21	土師器 台付甕	-	(5.0)	-	ABDN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	台脚部 20%	外面：ハケ目 内面：指ナデ	
22	土師器 鉢	(19.2)	(8.3)	-	ABHKM	にぶい黄橙 10YR-7/3 褐灰 10YR-4/1	B	口縁 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
23	土師器 甕	(19.5)	(6.5)	-	ABIMN	褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁～胴上部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
24	土師器 甕	(19.6)	(5.0)	-	ABDIM	褐灰 10YR-4/1	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
25	土師器 壺	-	(3.6)	-	ABIKM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/4 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	口縁部 10%	内外面：ヘラミガキ	
26	土師器 甕	-	(15.6)	-	ABIJM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 黒 10YR-2/1 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ、指ナデ	
27	土師器 壺	-	(8.0)	8.0	ABHIN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部～底部片	外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：ハケ目 (6 本 /1cm) 後指ナデ	
28	土師器 壺	-	(5.3)	(7.9)	ABEIJMN	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	胴部～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
29	土師器 高坏	-	(2.5)	-	ABDIM	灰白 10YR-8/2	A	坏部 10%	外面：刻み目 内面：ヘラミガキ	
30	土師器 甕	-	(6.7)	8.1	ABDIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：灰白 10YR-8/2	B	胴部～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
31	土師器 甕	-	(5.6)	9.2	AB	にぶい黄橙 10YR-6/3 褐灰 10YR-4/1	B	胴部～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	内面炭化物付着
32	土師器 甕	-	(7.5)	(3.9)	ABHKM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい黄褐 10YR-6/3	B	胴部～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
33	土師器 甑	-	-	-	ABDHI	にぶい赤褐 5YR-5/3	B	把手部片	外面：ヘラケズリ	
34	土師器 甑	-	-	-	ABDM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/4 内面：褐灰 10YR-5/1	B	把手部片	外面：把手取り付け後ヘラケズリ	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
35	弥生土器 壺	-	-	-	ABDGJ	にぶい褐 7.5YR-5/3	A	胴部片	胎土に雲母粒子含む 外面：単節縄文 RL、ヘラミガキ 内面：ナデ	
36	弥生土器 壺	-	-	-	ABGL	にぶい褐 7.5YR-5/3	B	胴部片	胎土に雲母粒含む 外面：単節縄文 RL 内面：ナデ	
37	弥生土器 壺	-	-	-	ABLM	灰黄褐 10YR-5/2	B	頸部片	胎土に雲母粒含む 外面：単節縄文 LR 後沈線 内面：ナデ	
38	土師器 壺	-	-	-	ABDG	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	胴部片	外面：櫛歯状工具による綾杉刺突文と平行線文	
39	土師器 甕	-	-	-	ABIM	外面：黒 7.5YR-2/1 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部片	内面：胴部下位に穀物の痕跡が黒粒状に残る	S 字甕
40	須恵器 平瓶	-	(6.3)	-	A	灰白 10YR-7/1	A	胴部 20%	口縁部剥離痕あり 外面：肩部に自然釉	南比企産
41	須恵器 長頸瓶	(11.2)	(1.2)	-	AB	灰 5Y-6/1	A	口縁部片		
42	須恵器 横瓶	-	-	-	ABM	外面：灰白 N-8/ 内面：灰 N-5/	B	胴部片	外面：指ナデ、自然釉 内面：指ナデ	末野産
43	石製品 砥石	最大長 (7.1)　最大幅 (5.1)　最大厚 (2.8)　重さ 81.2g							磨り面多数	角閃石安山岩
44	石製品 磨石	最大長 (5.1)　最大幅 (3.8)　最大厚 (1.9)　重さ 45.2g							磨り面 3 面	砂岩
45	祥符元寶									初鋳 1008 年
46	元祐通寶									初鋳 1086 年
47	木製品 田下駄枠	最大長 84.2　最大幅 4.8　最大厚 3.1							大足枠の縦木 13 ヶ所方形に穿孔し、すべて横木がはまった状態 横木には楔を打ち込み抜けないようにしている 上下端部に紐かけ痕有	スギ
48	軟質泥岩	最大長 3.0　最大幅 4.5　最大厚 2.0								
49	軟質泥岩	最大長 3.5　最大幅 2.8　最大厚 1.2								
50	軟質泥岩	最大長 3.5　最大幅 3.1　最大厚 1.2								
51	軟質泥岩	最大長 3.1　最大幅 3.0　最大厚 1.0							穿孔貝巣穴痕跡有	
52	軟質泥岩	最大長 3.4　最大幅 3.4　最大厚 1.8							穿孔貝巣穴痕跡有	
53	軟質泥岩	最大長 2.4　最大幅 3.2　最大厚 1.6							穿孔貝巣穴痕跡有	
54	軟質泥岩	最大長 2.2　最大幅 3.4　最大厚 1.1							穿孔貝巣穴痕跡有	
55	軟質泥岩	最大長 1.7　最大幅 2.6　最大厚 1.5							穿孔貝巣穴痕跡有	
56	赤色顔料付着礫	最大長 5.1　最大幅 2.2　最大厚 1.3								
57	赤色顔料付着礫	最大長 1.9　最大幅 1.5　最大厚 0.9								
58	赤色顔料付着礫	最大長 2.2　最大幅 1.5　最大厚 1.1								

池　上　遺　跡

Ⅴ　遺跡の概要

１　池上遺跡について

池上遺跡は、鶴巻遺跡と同様、市の東部に位置する集落遺跡で、規模にして、570,000 ㎡で、上之、下川上、池上地区にまたがる、縄文時代の後・晩期から近世に至る複合遺跡である。これまでに数度にわたり発掘調査が実施されており、いずれも、国道バイパス建設、県道建設等道路工事に伴う調査である。

調査の始まりは国道 125 号線（旧国道 125 号線バイパス）建設に伴うもので、県立さきたま資料館によって実施された。この調査は熊谷市の池上遺跡、行田市の池守遺跡にまたがっての調査で、総面積約 25,600 ㎡を昭和 53 年 12 月～ 57 年４月にかけて実施された。池上遺跡とは、この調査によって池守遺跡の以西にも遺跡が広がっていることから新たに命名された遺跡名である。

この調査の結果、弥生時代中期の環濠集落（竪穴式住居跡 11 棟、貯蔵用土坑など）が確認され、水稲農耕集落の定着を証明した遺跡であり、関東で確認されている環濠集落の中でも古い段階と考えられている。

続いて、ほぼ同時期に国道 17 号熊谷バイパス建設に伴う調査が、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって実施された。この調査は池上西遺跡（現池上遺跡）で、総面積約 5,000 ㎡を昭和 56 年 10 月から 57 年３月まで実施された。

この調査では弥生時代中期の竪穴式住居跡が１軒、溝跡２条が検出された。この調査では土壌サンプルのプラントオパール分析により、水稲農耕の存在が再度、証明された。

さらに、県道建設に伴う調査が、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって実施された。この調査は池上遺跡と西接する諏訪木遺跡にまたがっての調査で、池上遺跡は、面積約 16,045 ㎡を平成 13 年４月～ 14 年５月にかけて実施された。

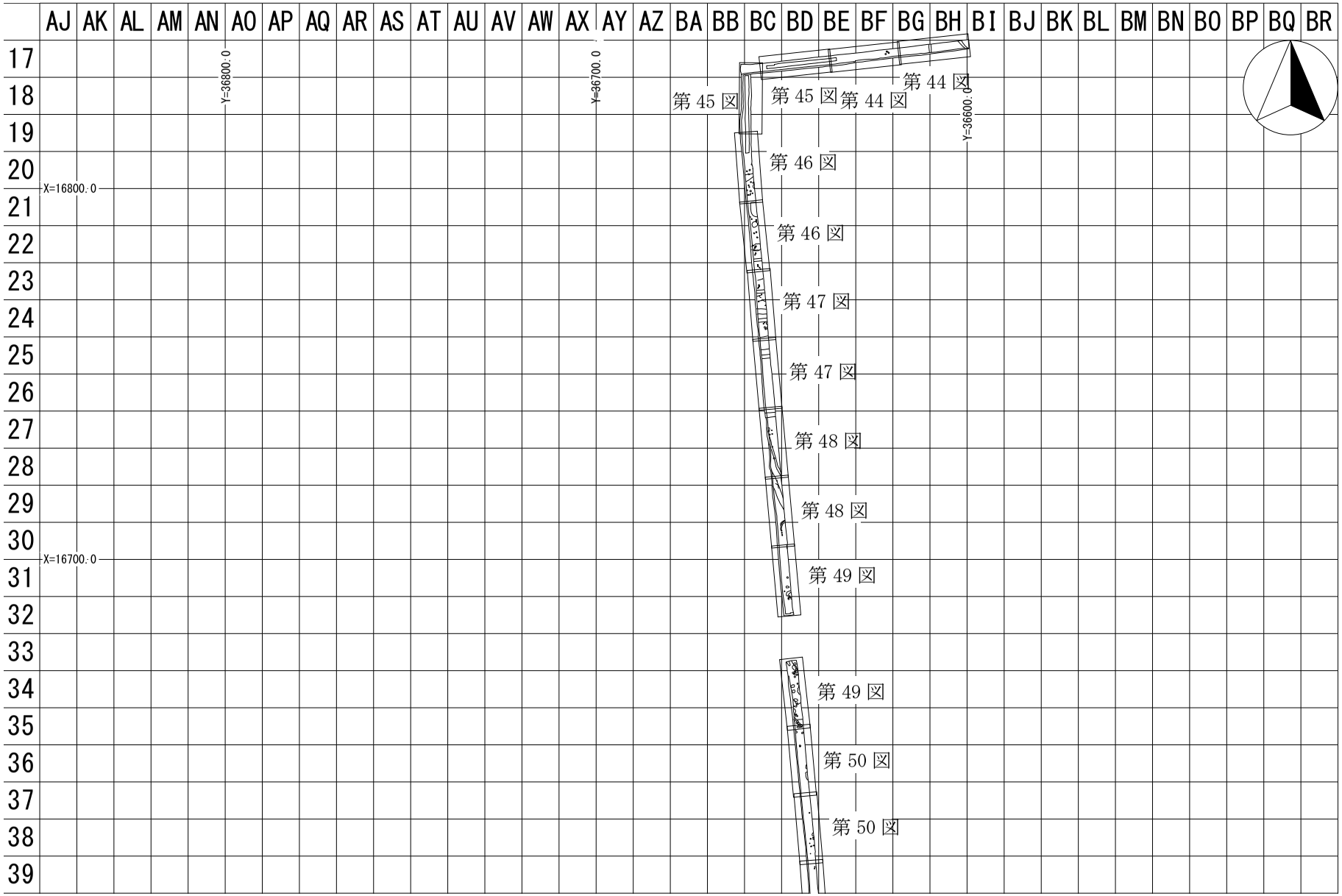
この調査では主に縄文時代の土器集積遺構、古墳時代後期、平安時代の水田遺構が確認された。水田跡はこれまでの調査から推測できる古代の条里地割りの坪境に重なる形で当時の大畦畔の畔部が検出されている。

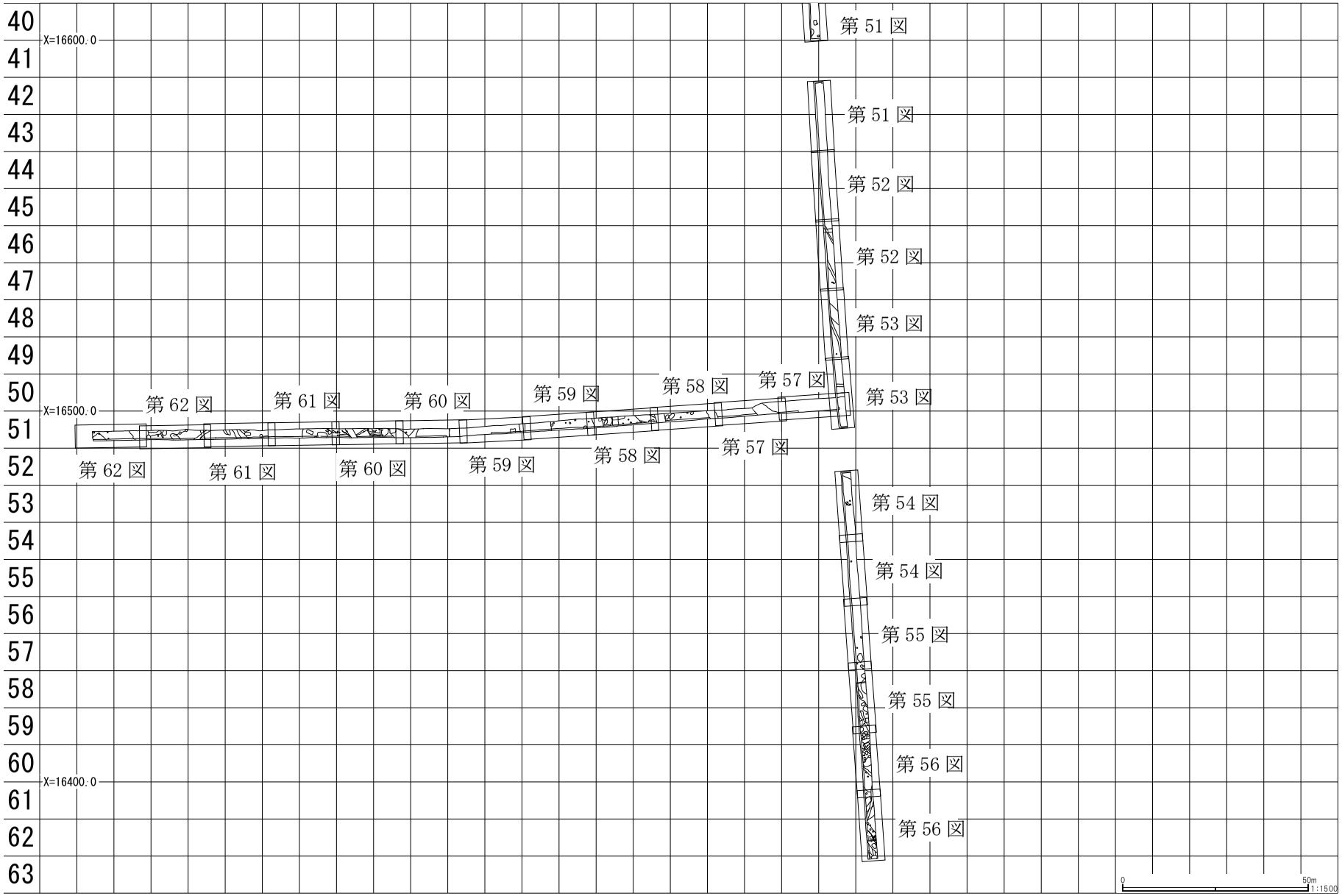
今回報告する鶴巻、池上遺跡周辺には弥生時代の遺跡が集中しており、西には弥生時代中期の前中西遺跡、諏訪木遺跡、北には古宮遺跡、北島遺跡があり、南には行田市の小敷田遺跡、東には池守遺跡が所在している。特に池上遺跡と南接する行田市の小敷田遺跡の調査では、関東最古級の方形周溝墓が３基確認されており、上述した昭和 53 年～ 57 年の池上遺跡での調査で検出された環濠集落の墓域ととらえることができる。

２　調査の方法

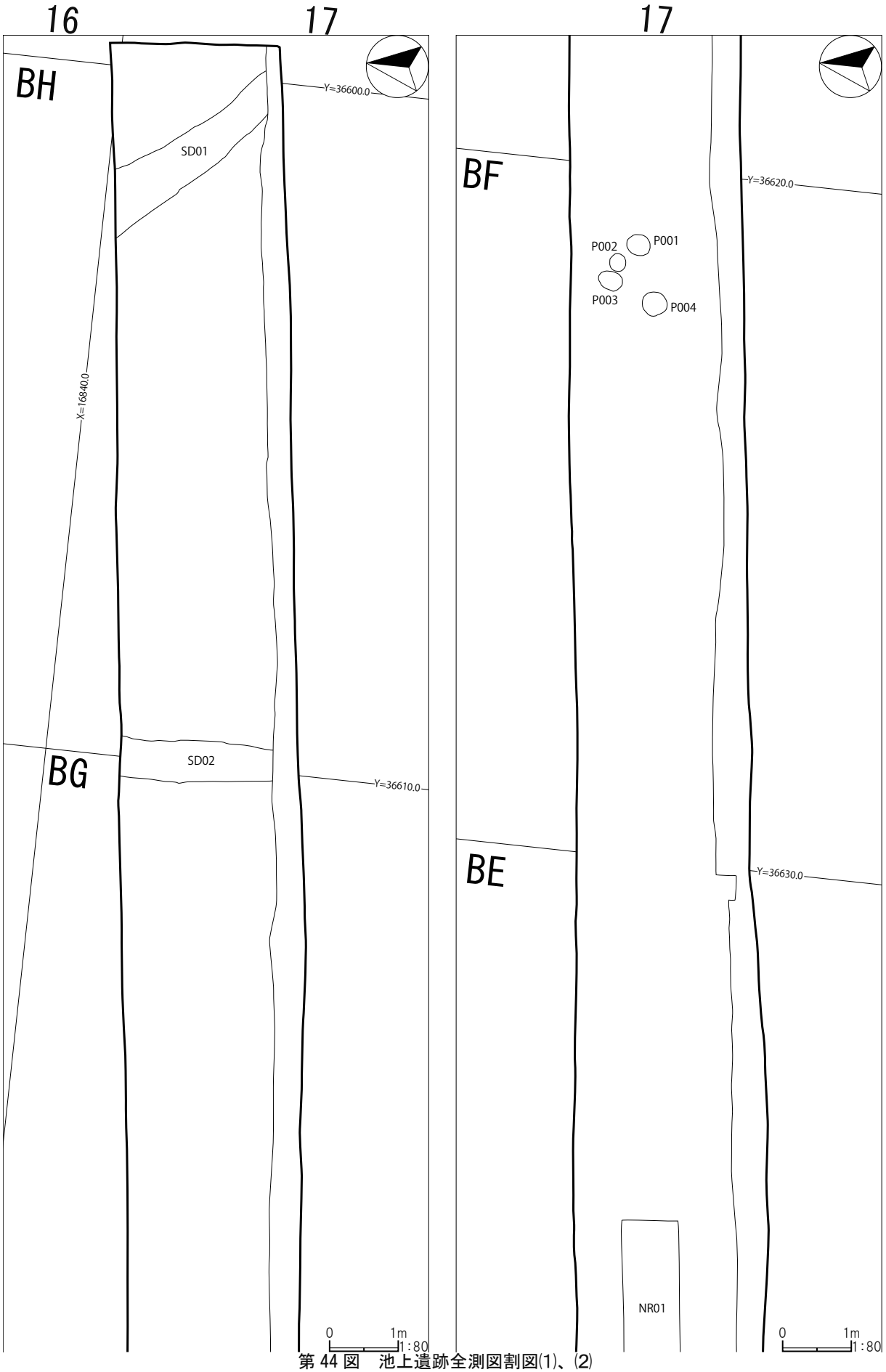
発掘調査の方法は、１辺 10 ｍのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、北西隅をＡ－１として東へＡ・Ｂ・Ｃ、南へ１・２・３とし、Ａラインは北から南へＡ－１・Ａ－２・Ａ－３・・・と呼称した。Ｂライン以東もＡラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

なお、座標は、周辺の過去の発掘調査地点との照会を容易にするため、世界測地系による国家方眼座

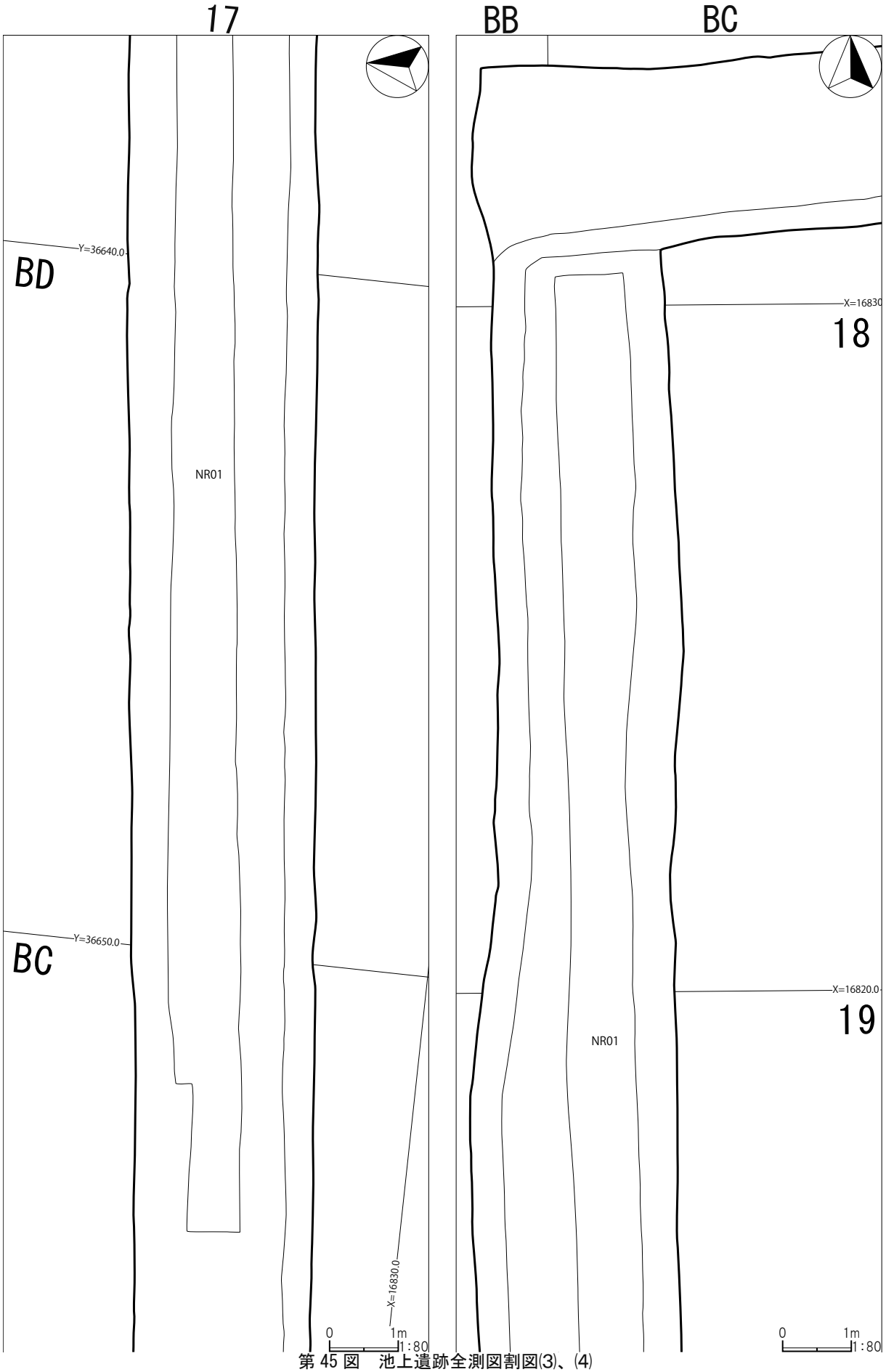

AJ AK AL AM AN AO AP AQ AR AS AT AU AV AW AX AY AZ BA BB BC BD BE BF BG BH BI BJ BK BL BM BN BO BP BQ BR
17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39
Y=36800.0
Y=36700.0
Y=36600.0
X=16800.0
X=16700.0
第 44 図
第 45 図
第 45 図
第 44 図
第 46 図
第 46 図
第 47 図
第 47 図
第 48 図
第 48 図
第 49 図
第 49 図
第 50 図
第 50 図



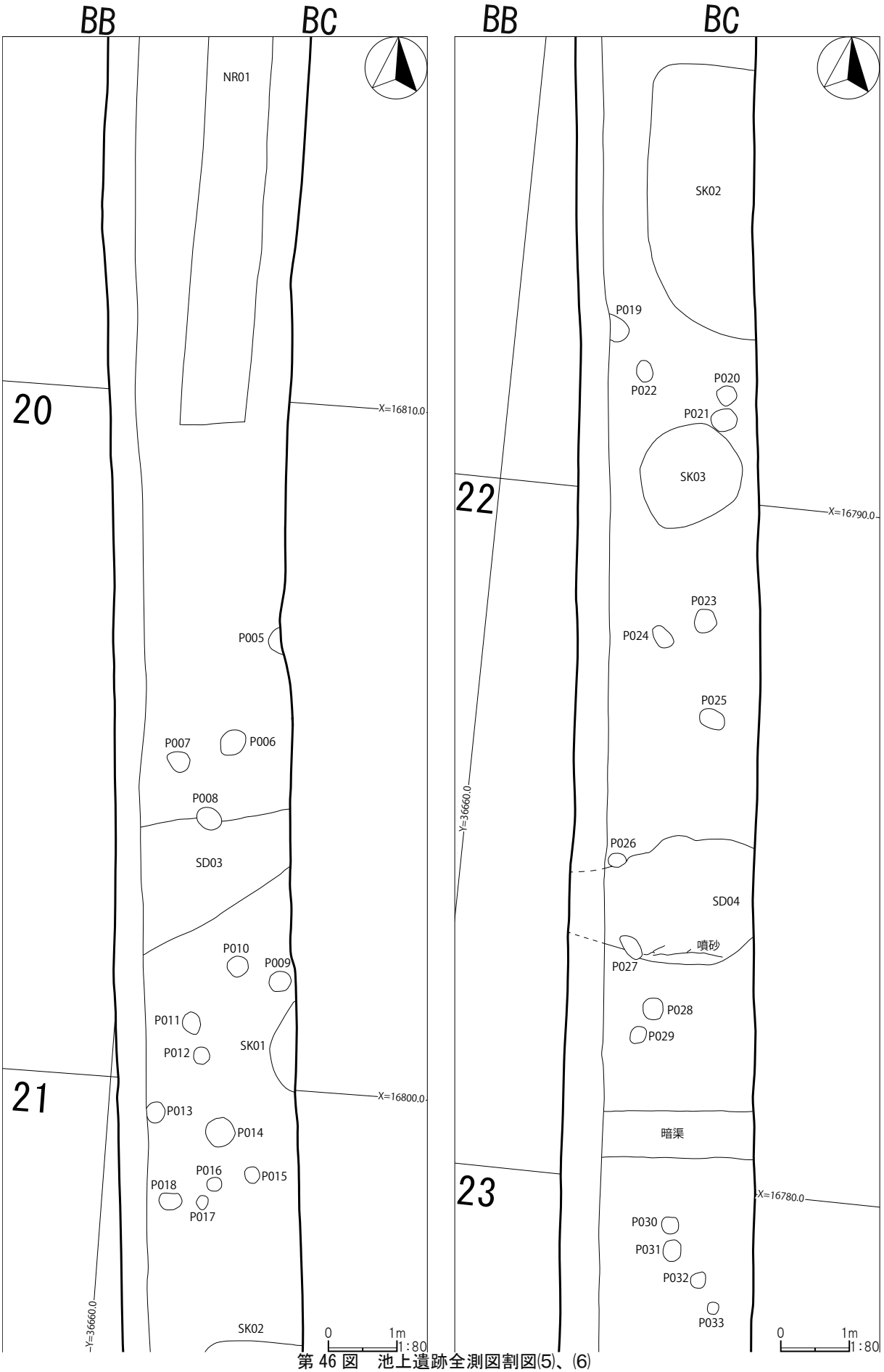
第 43 図　池上遺跡調査区配置図



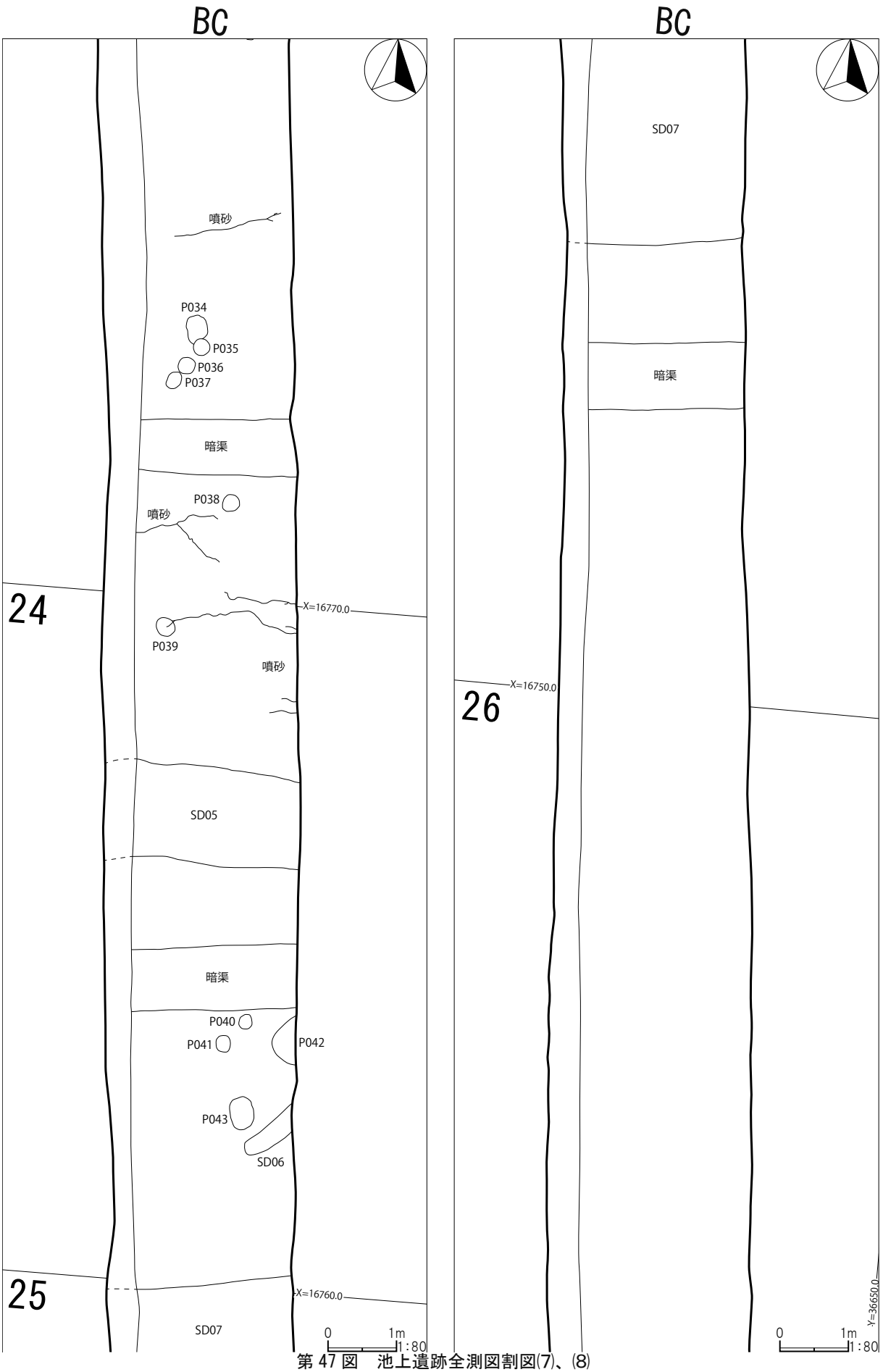
第 44 図　池上遺跡全測図割図(1)、(2)



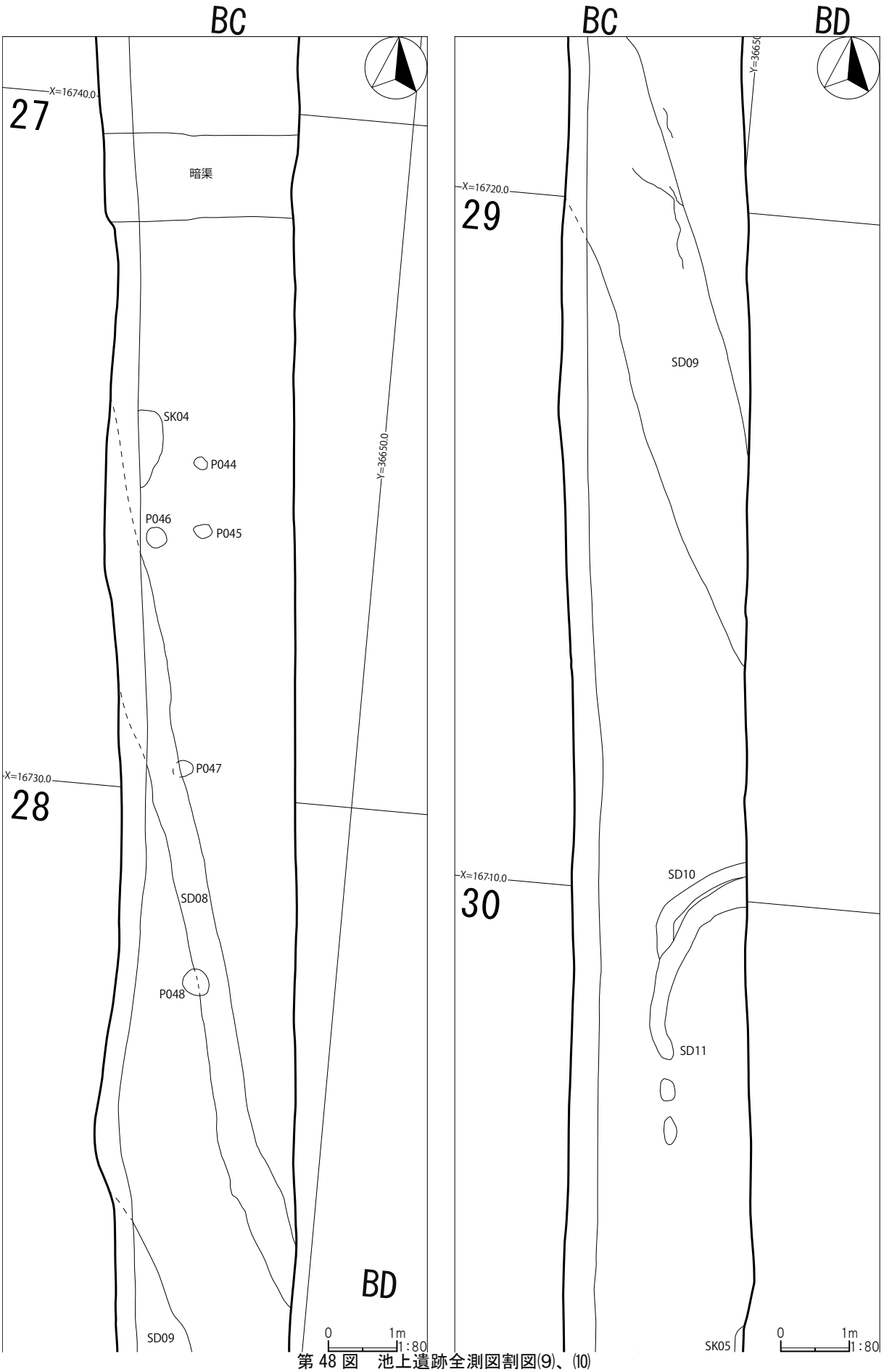
第 45 図　池上遺跡全測図割図(3)、(4)



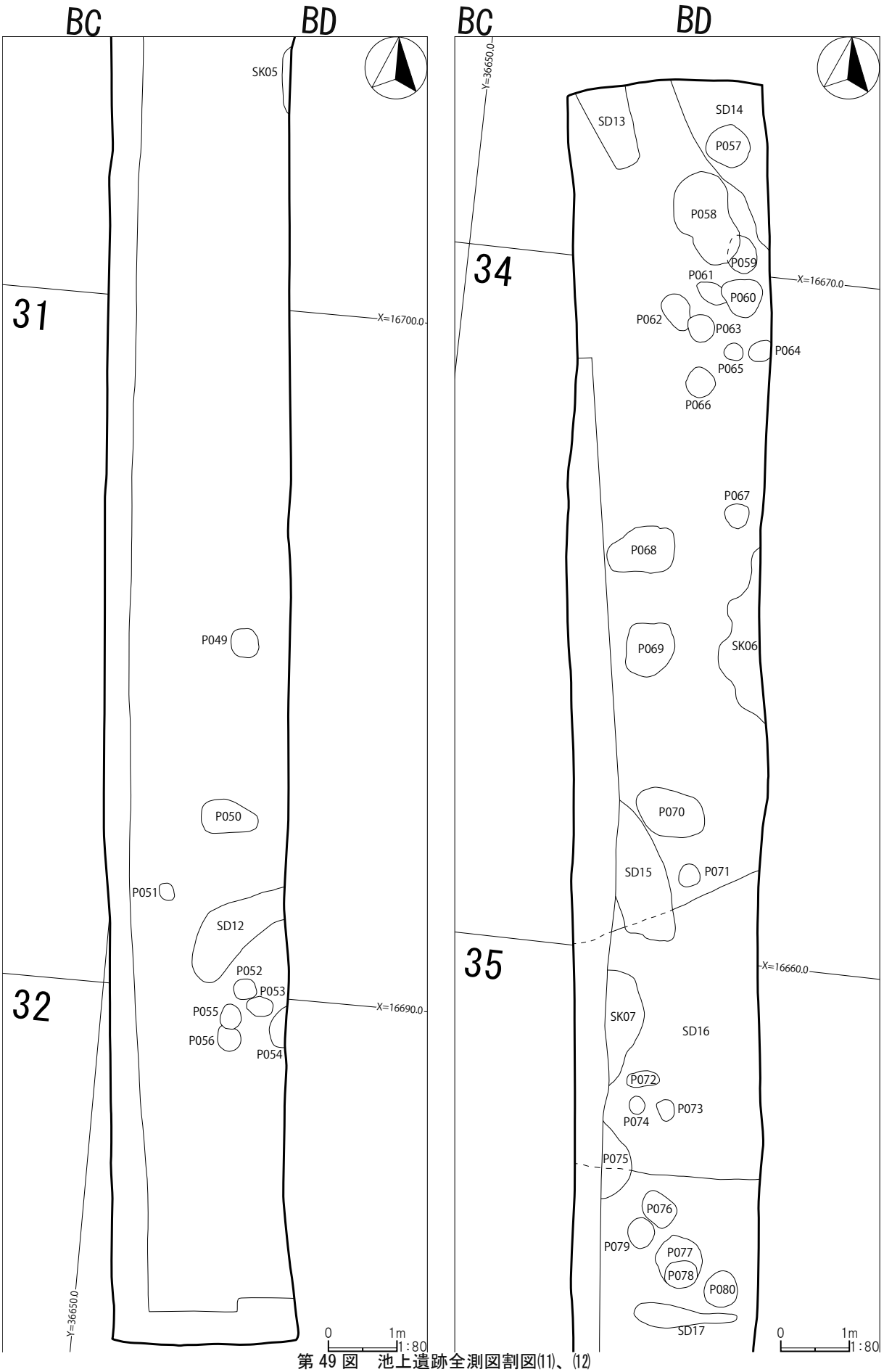
第 46 図　池上遺跡全測図割図⑸、⑹



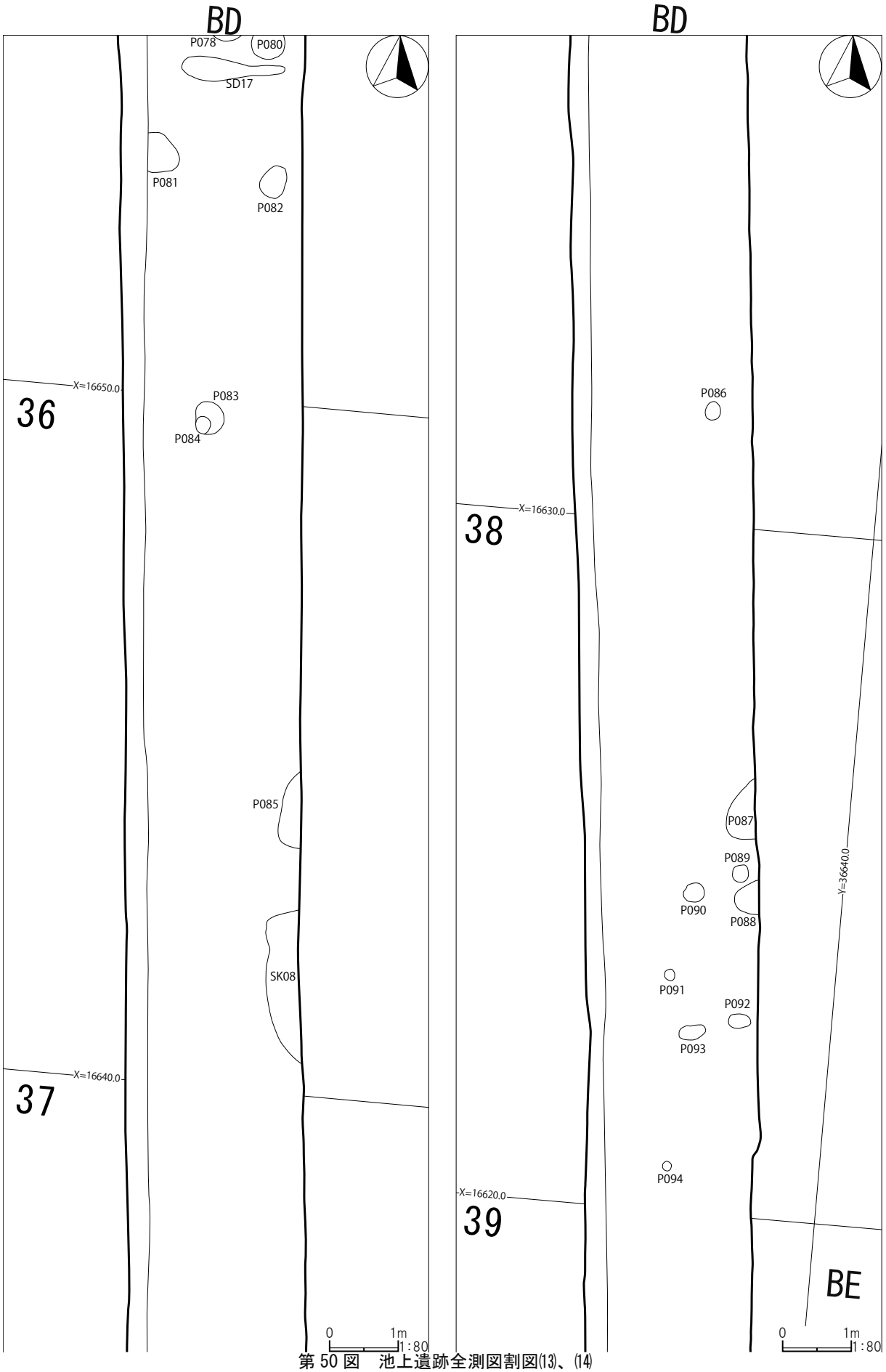
第 47 図　池上遺跡全測図割図(7)、(8)



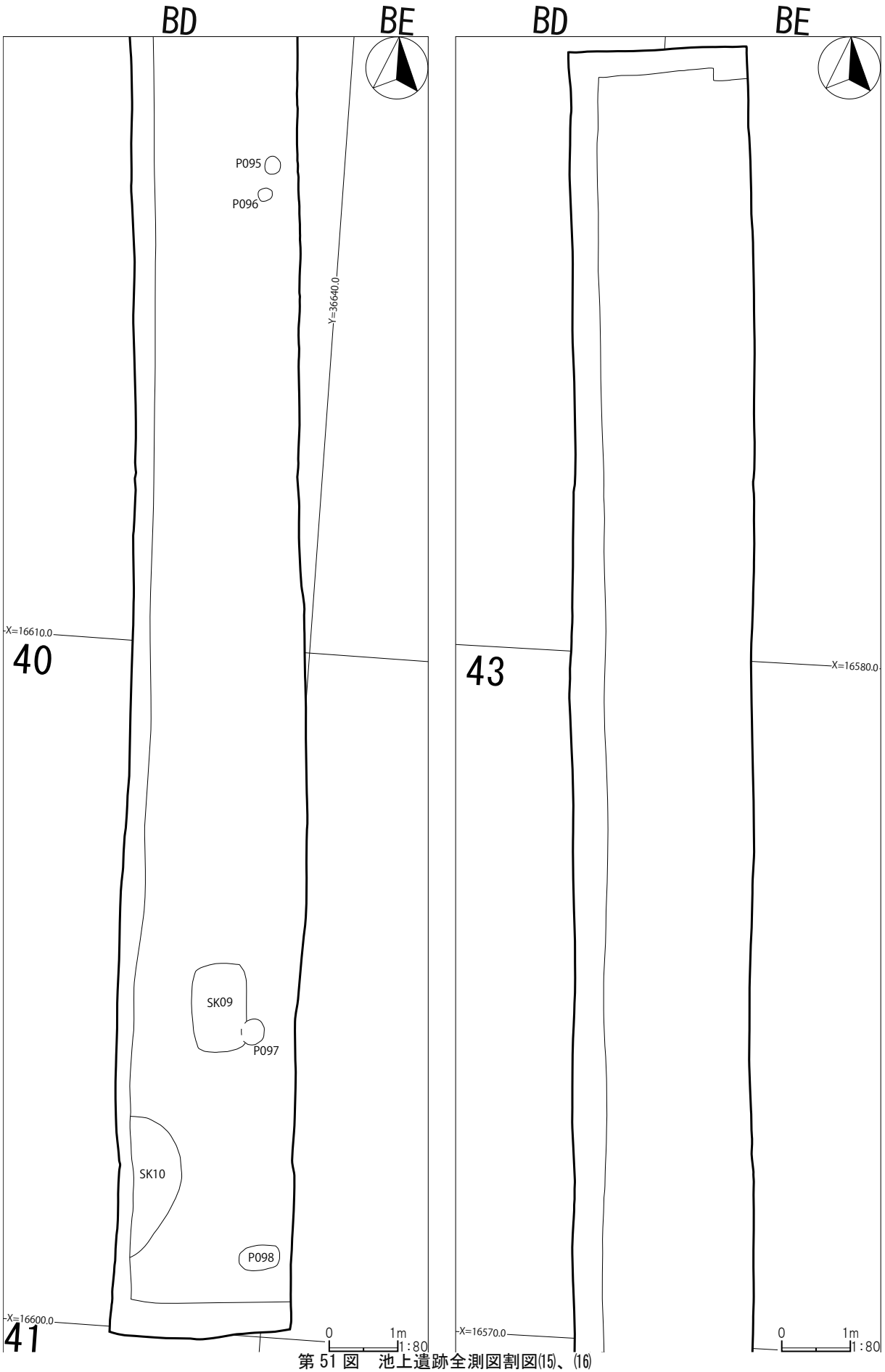
第 48 図　池上遺跡全測図割図(9)、(10)



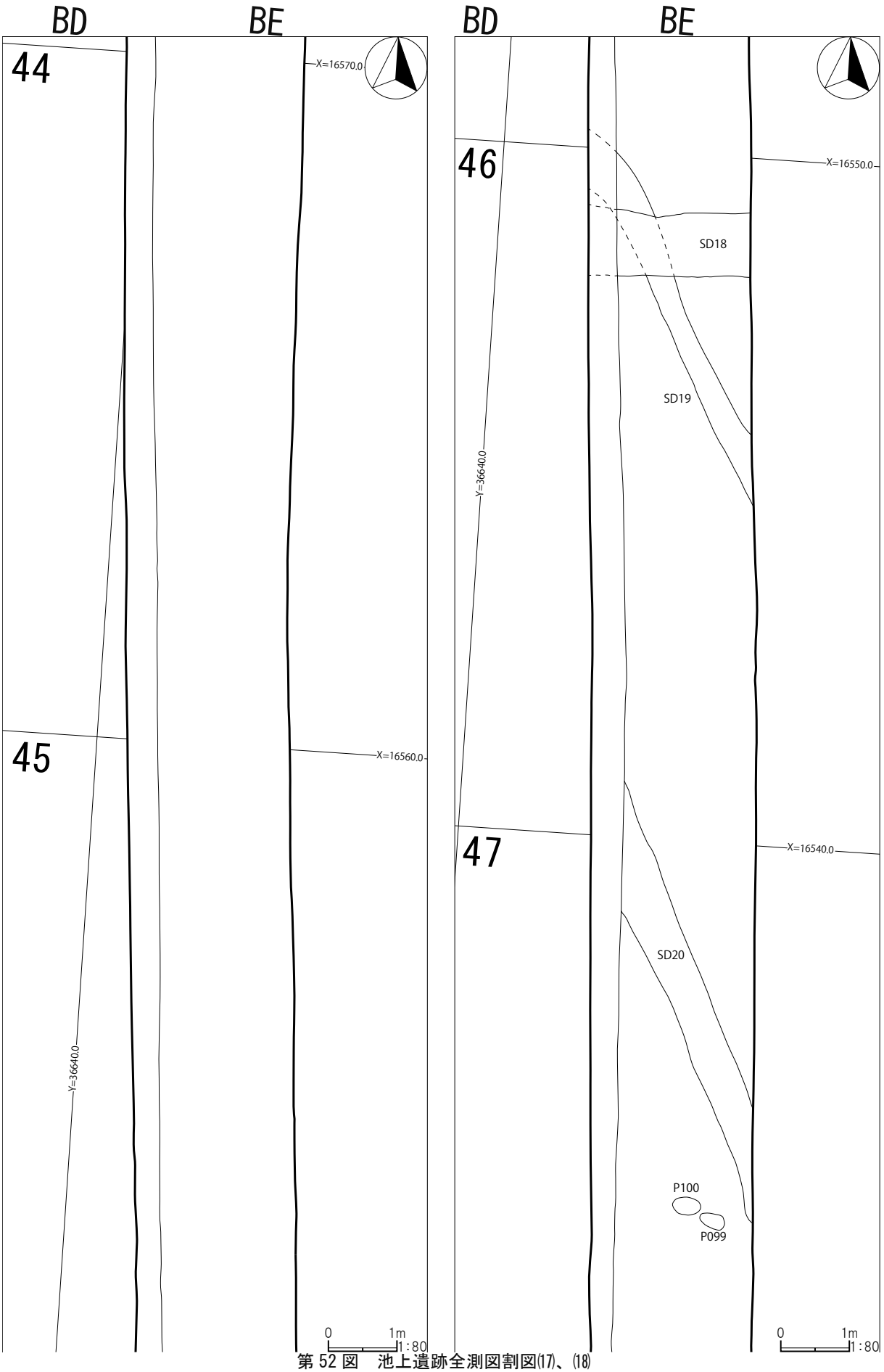
第 49 図　池上遺跡全測図割図(11)、(12)



第 50 図　池上遺跡全測図割図(13)、(14)

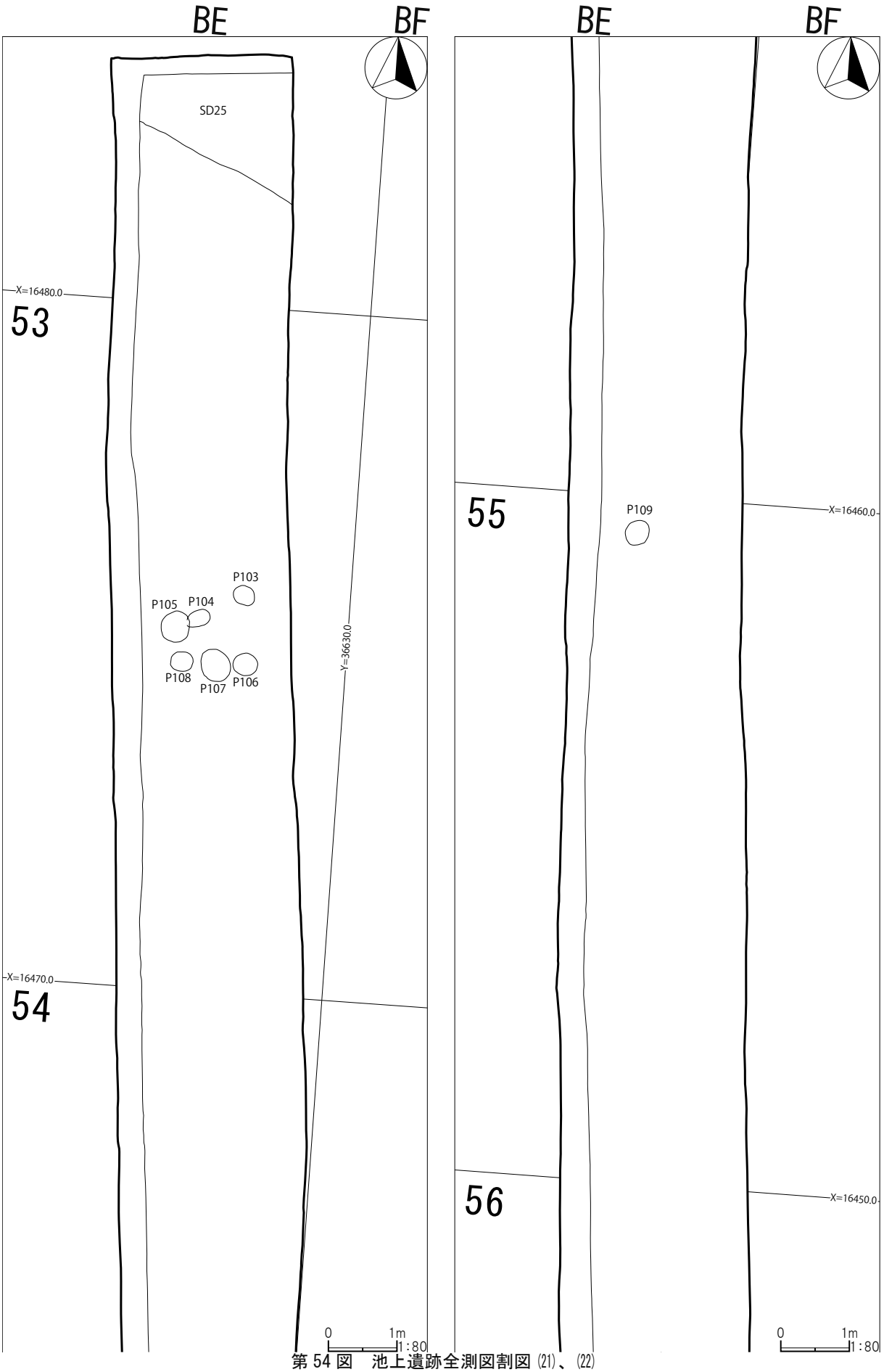


第 51 図　池上遺跡全測図割図(15)、(16)

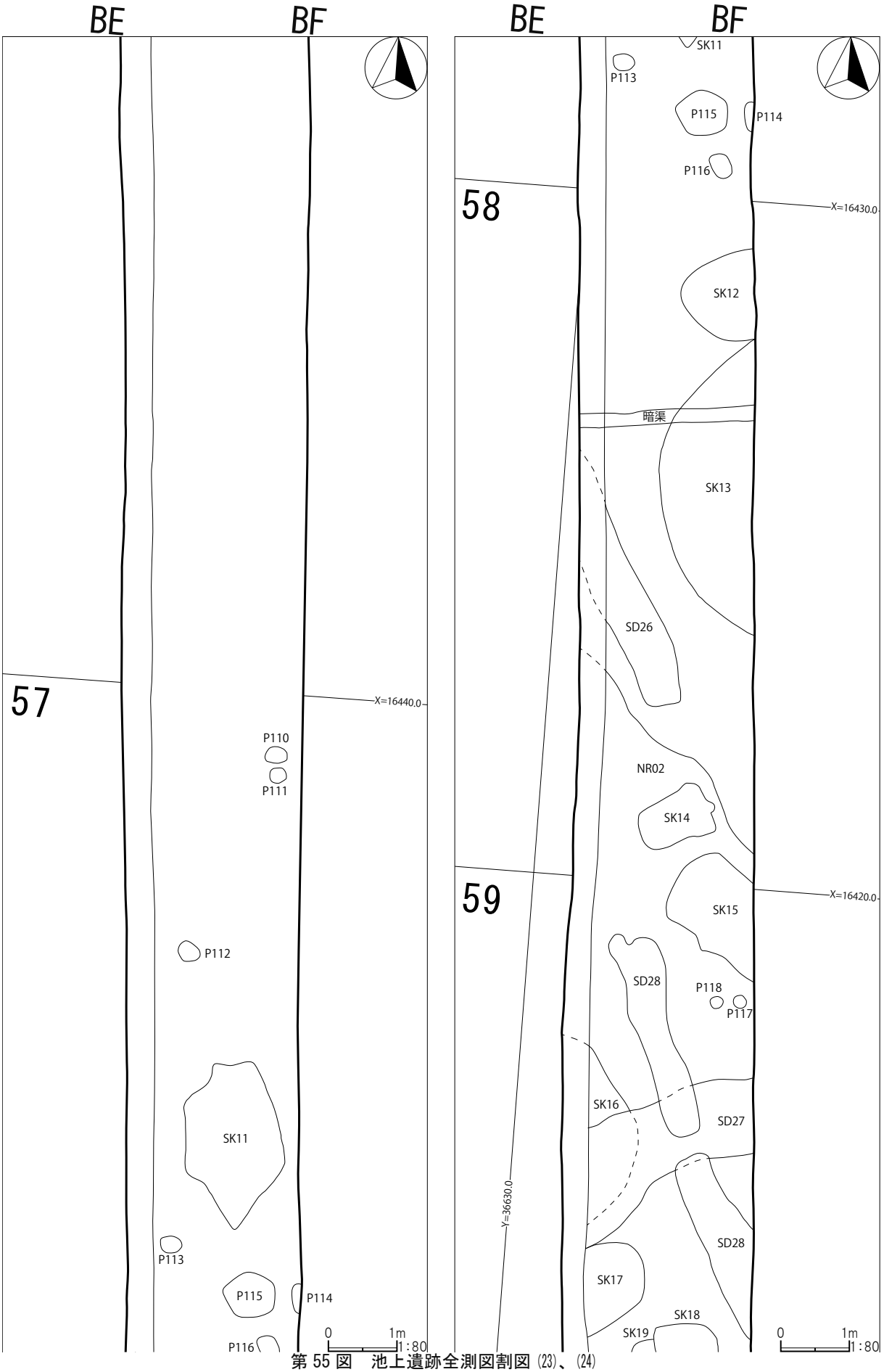


第 52 図　池上遺跡全測図割図(17)、(18)

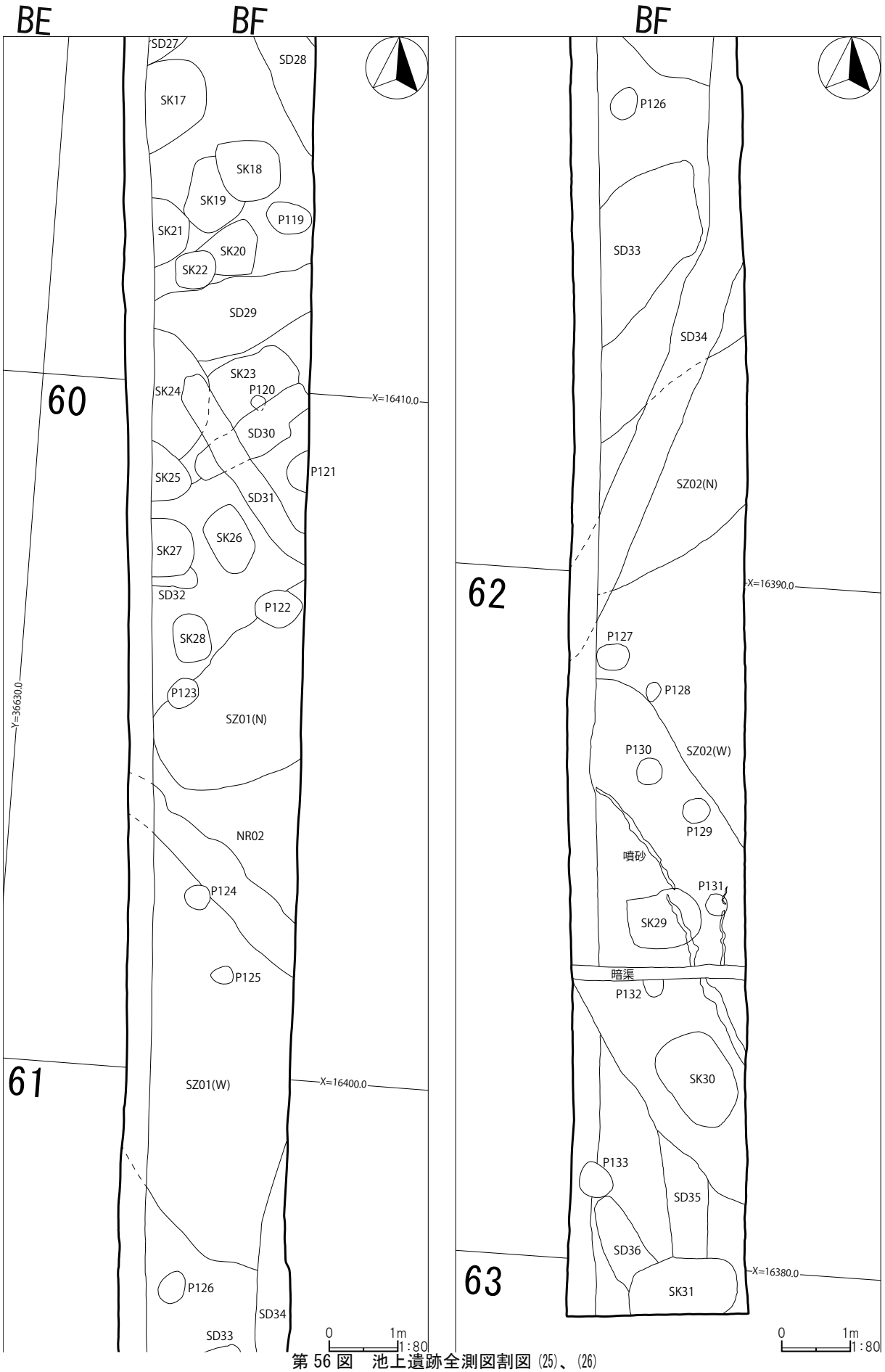
第 53 図　池上遺跡全測図割図⑲、⑳



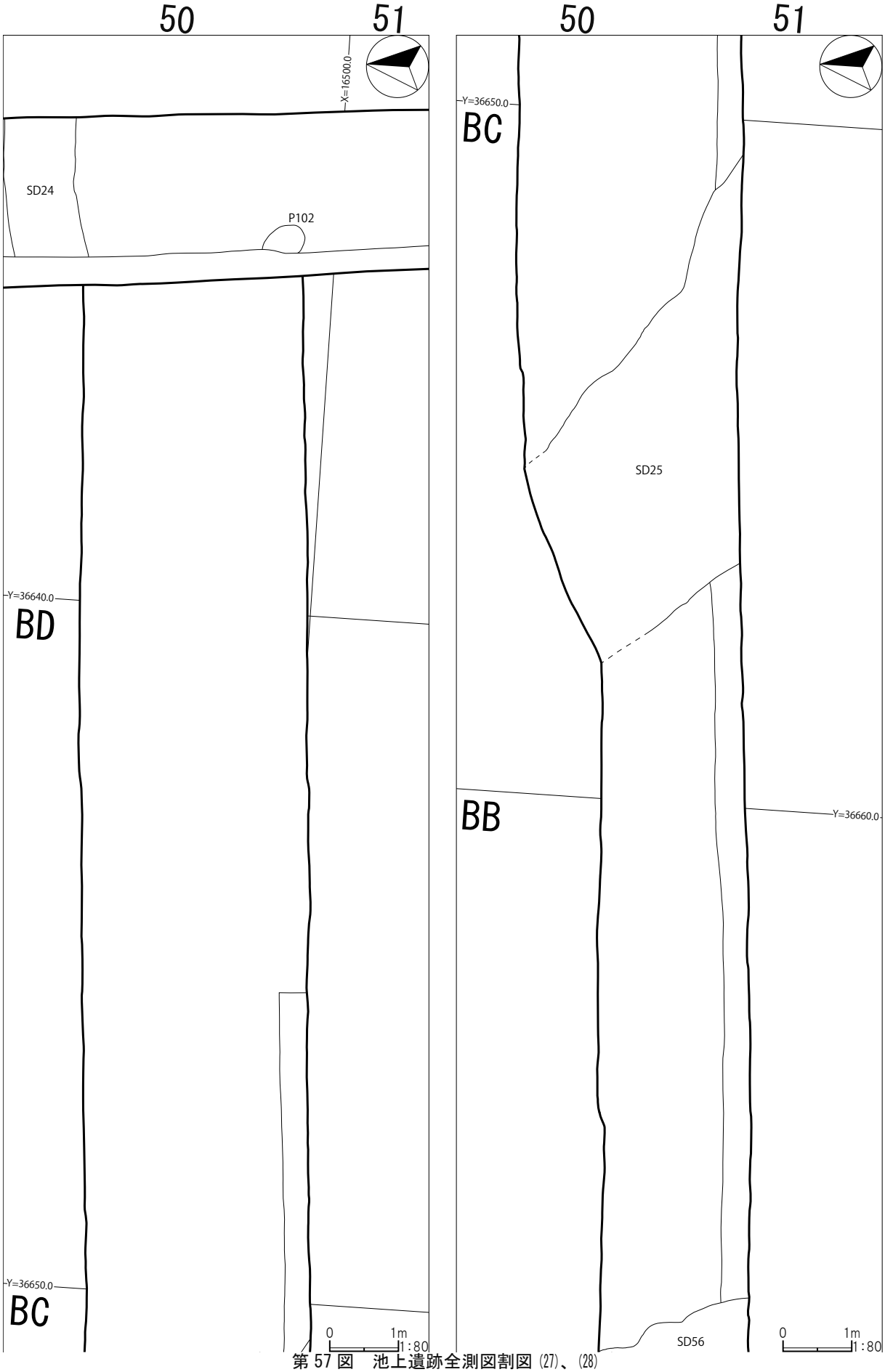
第 54 図　池上遺跡全測図割図 (21)、(22)



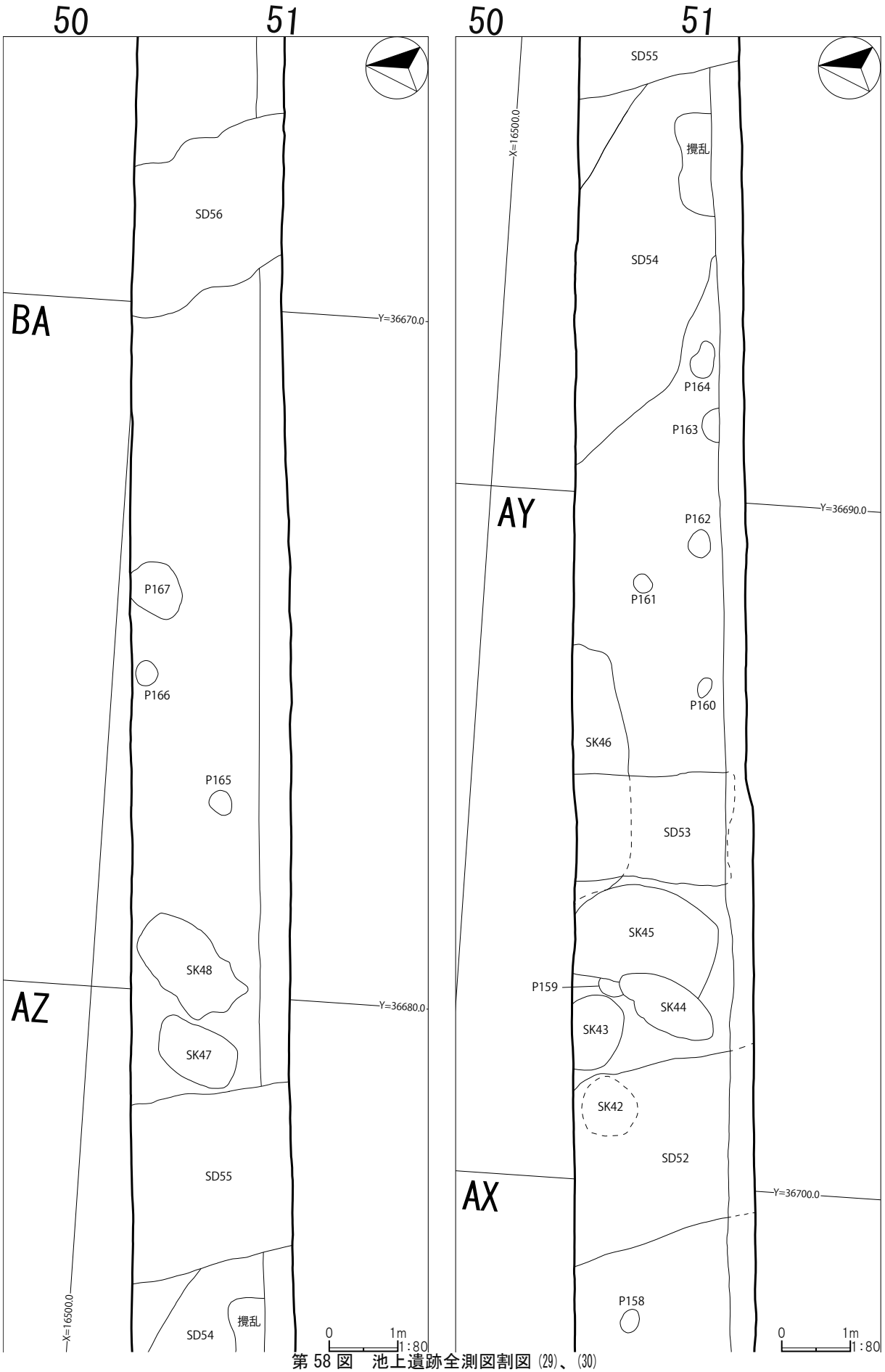
第 55 図　池上遺跡全測図割図 (23)、(24)



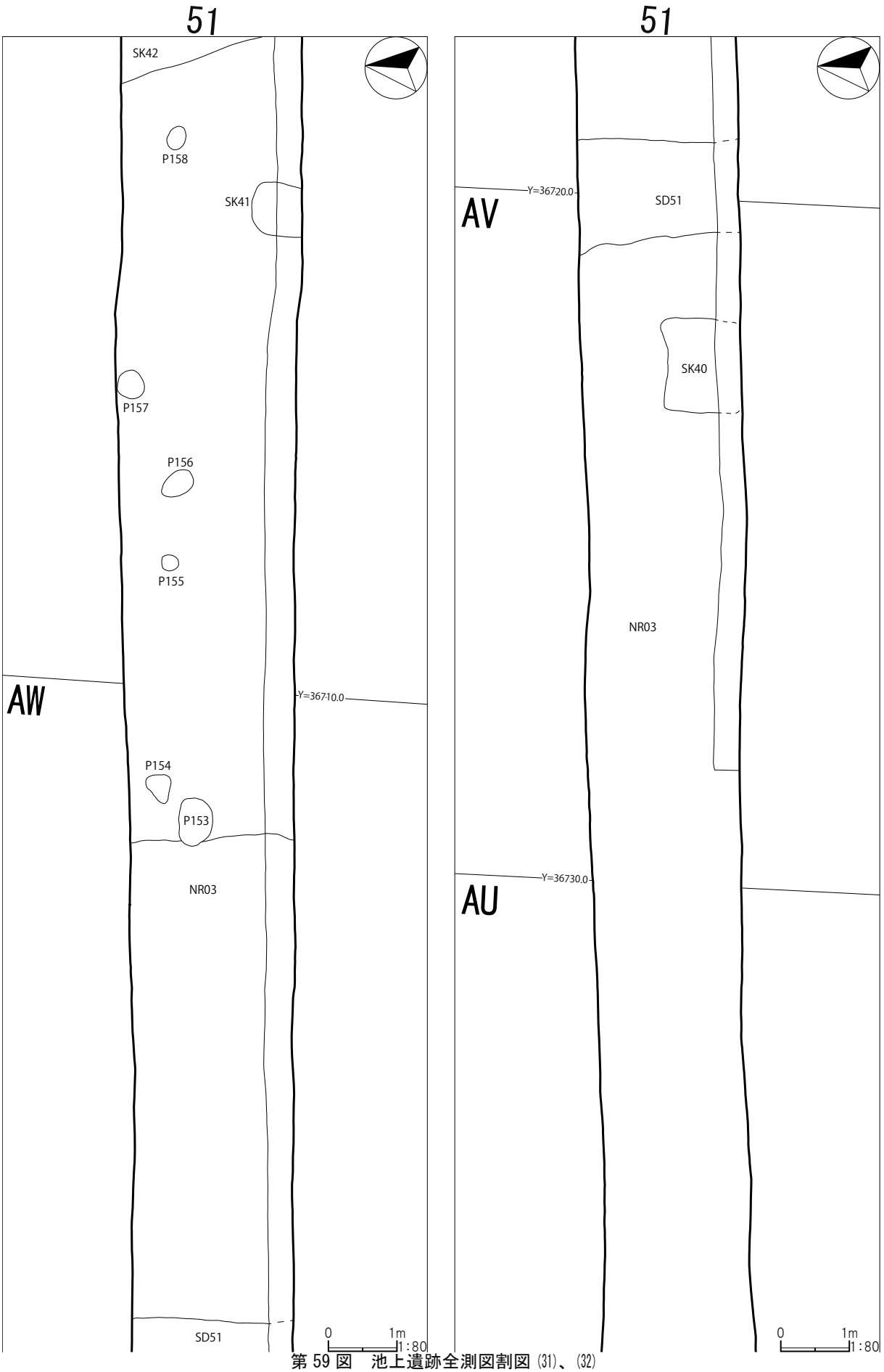
第 56 図　池上遺跡全測図割図 (25)、(26)



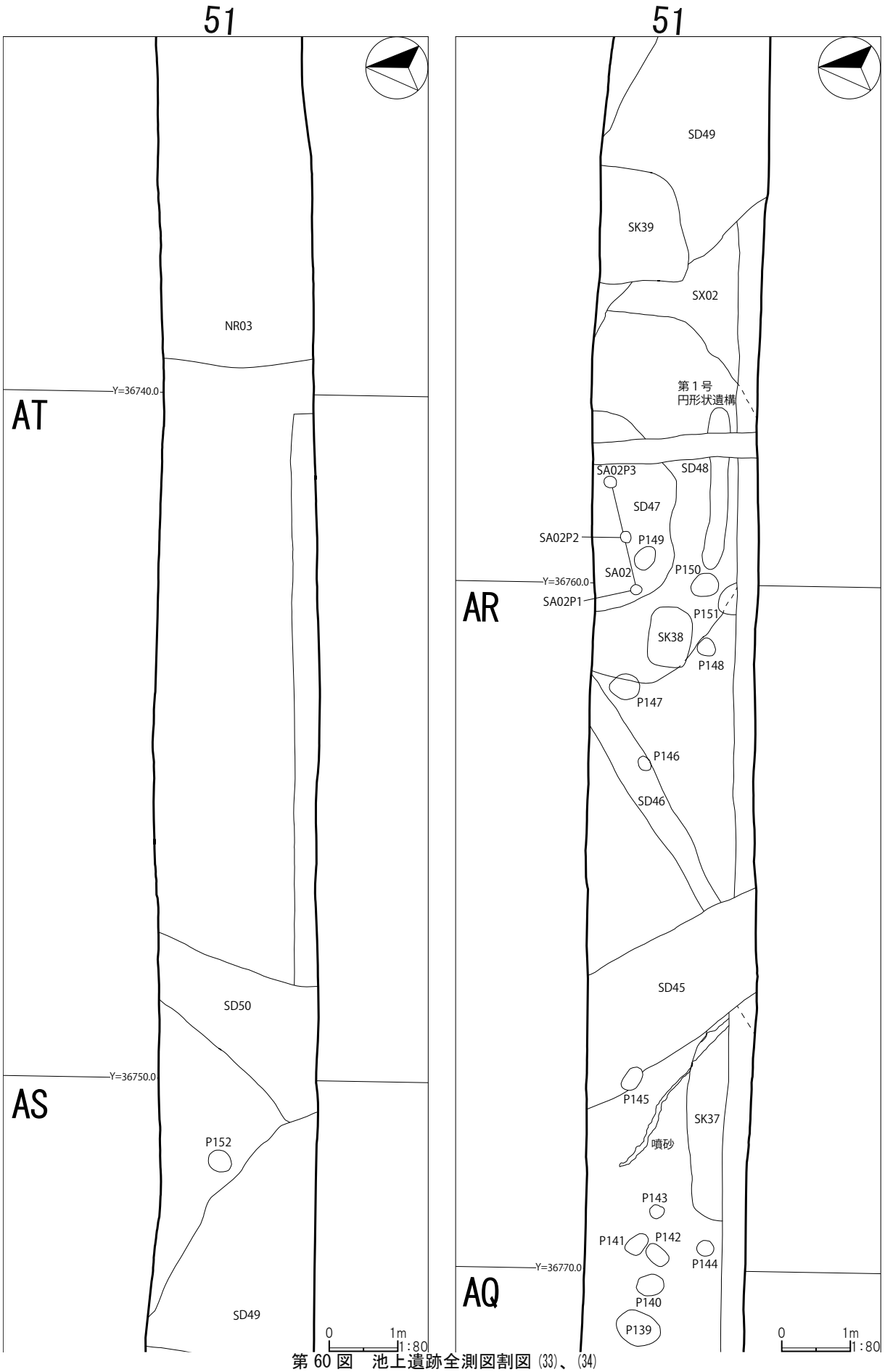
第 57 図　池上遺跡全測図割図 (27)、(28)



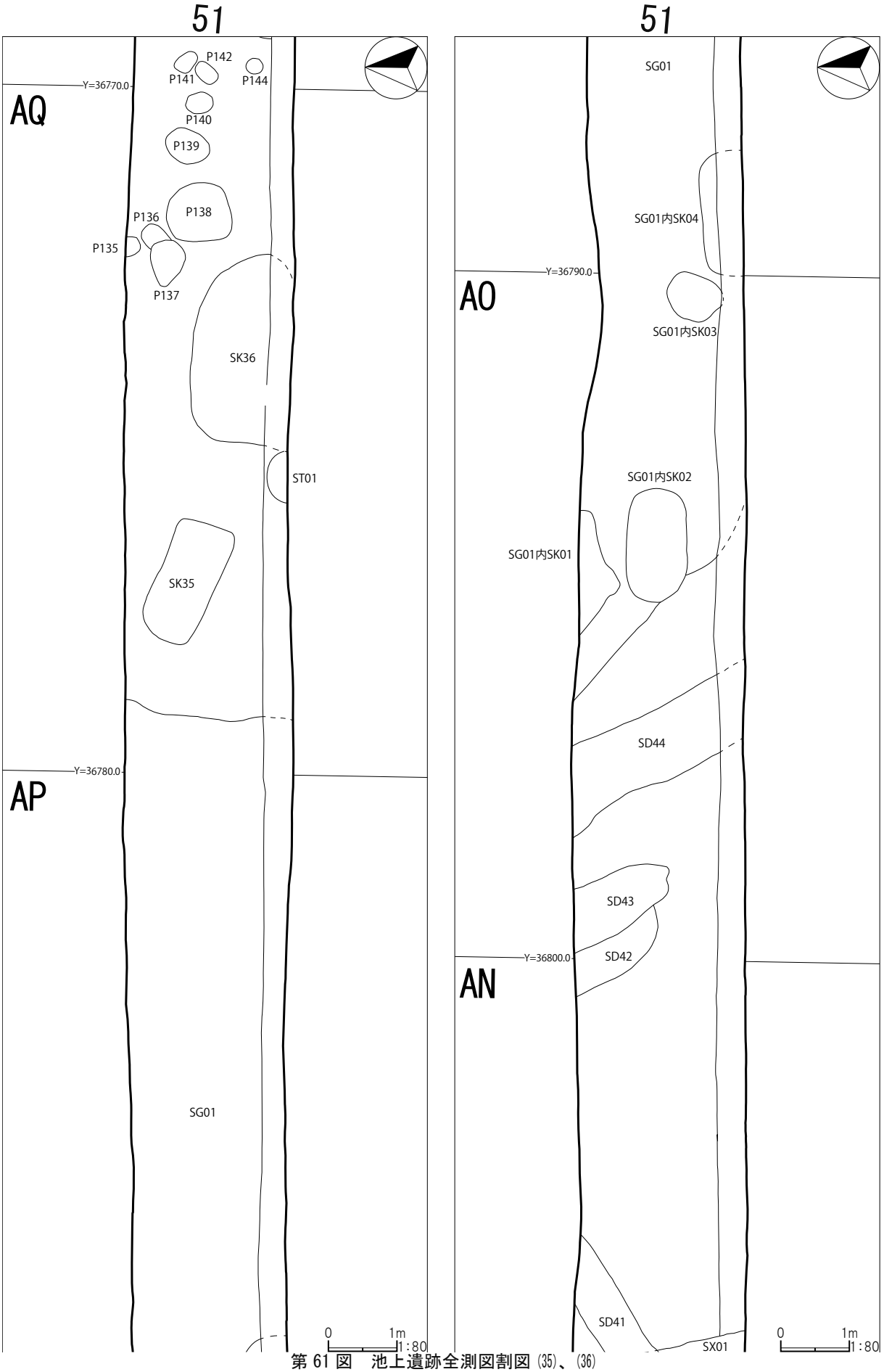
第 58 図　池上遺跡全測図割図 (29)、(30)



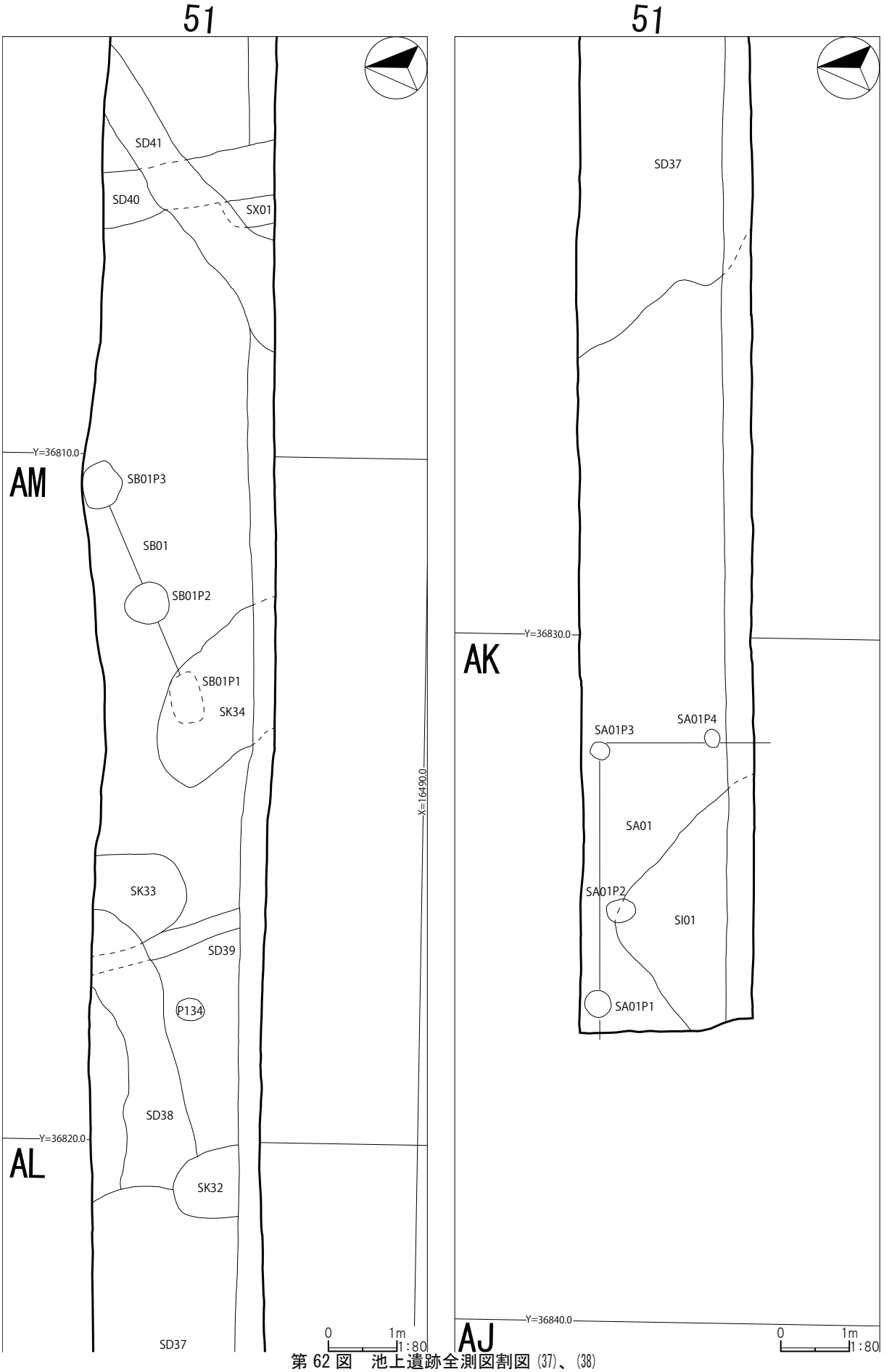
第 59 図　池上遺跡全測図割図 (31)、(32)



第 60 図　池上遺跡全測図割図 (33)、(34)



第 61 図　池上遺跡全測図割図 (35)、(36)



第 62 図　池上遺跡全測図割図 (37)、(38)

標に基づく基準点測量による。

調査は農道を境に分割し、北からＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ区、西にＥ区と調査区を設定して、Ｅ、Ｂ、Ａ、Ｃ、Ｄ区の順で調査を実施した。

各区とも、重機による表土剥ぎを実施し、その後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手掘りを行った。原則として、遺物は必要に応じて写真撮影、実測後、遺構ごとに一括して慎重に取り上げた。遺構は、写真撮影した後、実測を行った。そして、最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

３　検出された遺構と遺物

本調査によって検出された遺構は、竪穴式住居跡１軒、掘立柱建物跡１軒、柵状遺構２列、方形周溝墓２基、河川跡３条、沼跡１箇所、溝跡 56 条、土坑 48 基、土器棺墓１基、円形状遺構１基、ピット 167 基、性格不明遺構２基である。

Ａ区の北では東へ流れる河川跡が検出され、Ｄ区では南端に弥生時代中期前葉の方形周溝墓が２基確認でき、同区の中央には大きな流路痕があり、墨書土器など多量の遺物が検出された。Ｅ区の中央やや西では大きな沼跡が検出され、木製品（木鋤）が残存していた。同区中央付近にはやや崩れているが、方形の第 48 号土坑は貯木遺構と推定され、遺構内に多量の木製品が残在していた。検出された遺物量はコンテナ（大きさ:縦 34 ㎝、横 54 ㎝、深さ 15 ㎝）にして平成 30 年度、令和元年度合わせて 36 箱であった。以下、調査の詳細を述べる。

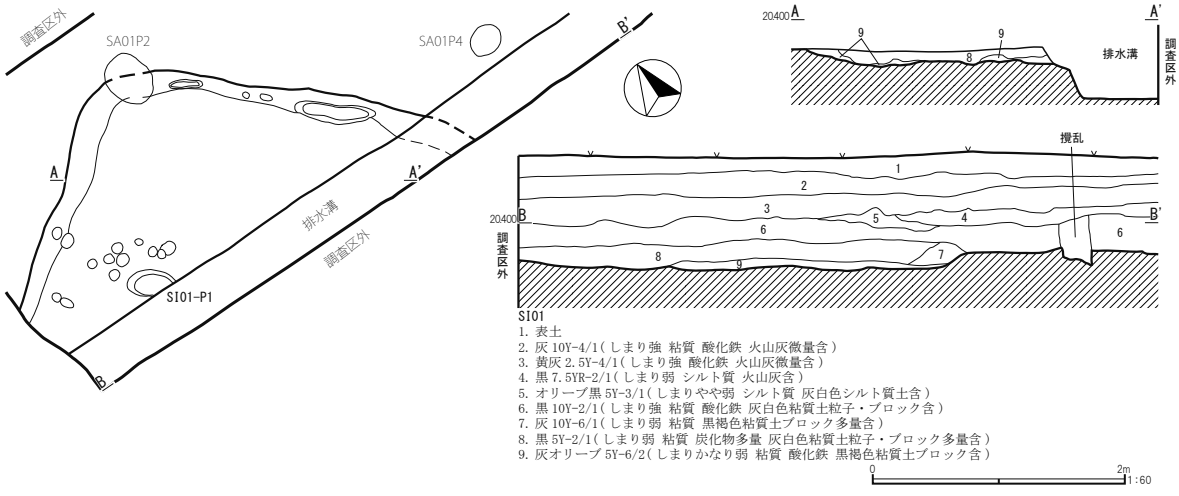
Ⅵ　遺構と遺物

１　竪穴式住居跡

第１号住居跡（第 63 図）

Ｅ区、ＡＫ－ 51 グリッドから検出された。第１号柵状遺構と重複しており、本遺構が第１号柵状遺構Ｐ２に切られていた。

平面形は、一部が調査区外であるが隅丸方形と推定される。



第 63 図　第１号竪穴式住居跡

規模は、検出長軸が2.49ｍ、短軸1.88ｍ、深さは0.23ｍを測り、主軸方向は、Ｎ-40°-Ｅを指していた。

床面は、西寄りに凹凸があり、断面から南東方向に方形の土坑状の落ち込みが確認できる。断面から残存状態が悪いが、レンズ状の堆積が３層確認できた。

東壁付近には壁溝の痕跡と考えられる溝状の落ち込みも確認できた。

炉跡は検出されなかった。

柱穴は１基のみ確認された。

出土遺物は、検出されなかった。

２　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第64図）

Ｅ区、ＡＭ－51グリッドから検出された。第34号土坑と直接重複関係にあり、本遺構が、第34号土坑を一部切っていた。

建物跡は、主軸方位が、Ｎ－　120°－Ｗで北西方向を指す掘立柱建物跡と推測され、規模は、梁の２間のみ、 梁行3.49ｍ（11.5尺）、面積は不明である。

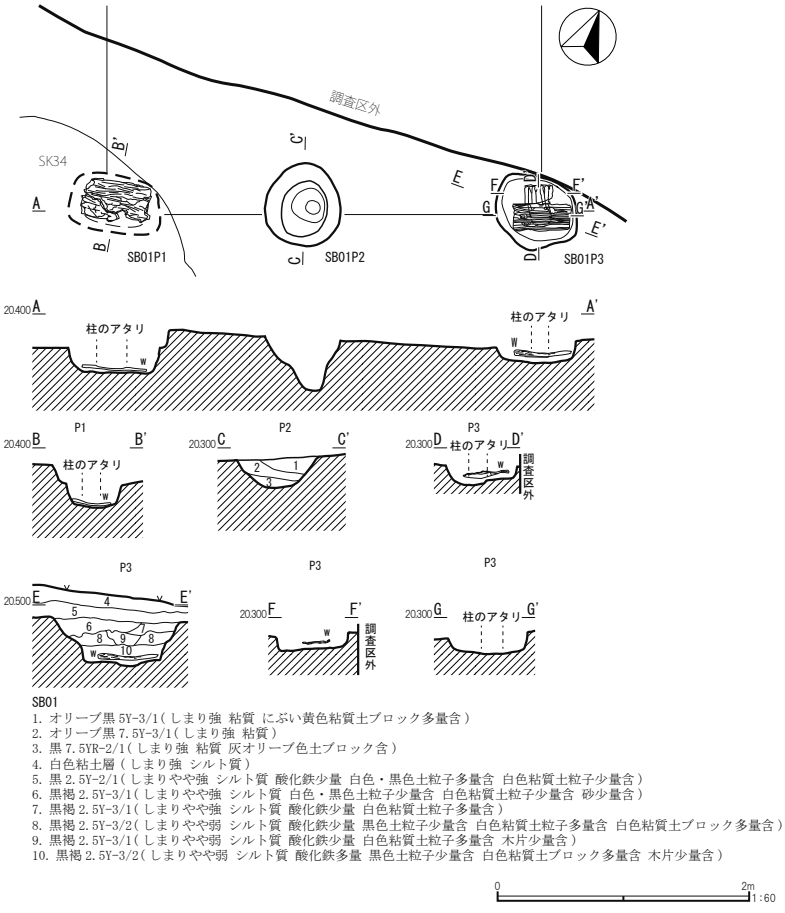
柱間は、梁行が西から南面で1.7ｍ－1.82ｍ（5.5尺－６尺）であった。なお、西からＰ１、Ｐ２、Ｐ３と呼称した。

柱穴は方形から楕円形の掘り方があり、長軸0.65～0.72ｍ、短軸0.45～0.61ｍを測る。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が34㎝、Ｐ２が41㎝、Ｐ３が35㎝を測る。

柱痕跡は、平面及び断面から確認することはできず、唯一Ｐ３の断面における第９層が柱の抜き取りによる痕跡と推定される。また、Ｐ１、Ｐ３はともに底部付近に平板を交差上に平置きした痕跡が残存しており、礎板として利用していたことがわかる。Ｐ１では0.23ｍ、Ｐ３では0.16ｍの直径で板の中央部に窪みがあり、それがそのまま柱の直径であると考えられる。

その中心から柱筋を見ると、ほぼ直線状に筋がとおる概ね良い建物であると考えられる。

出土遺物は検出されなかった。



第64図　第１号掘立柱建物跡

3　柵状遺構

第１号柵状遺構（第 65 図）

Ｅ区、ＡＫ－51 グリッドから検出された。第１号住居跡と重複関係にあり、第１号住居跡を切っていた。

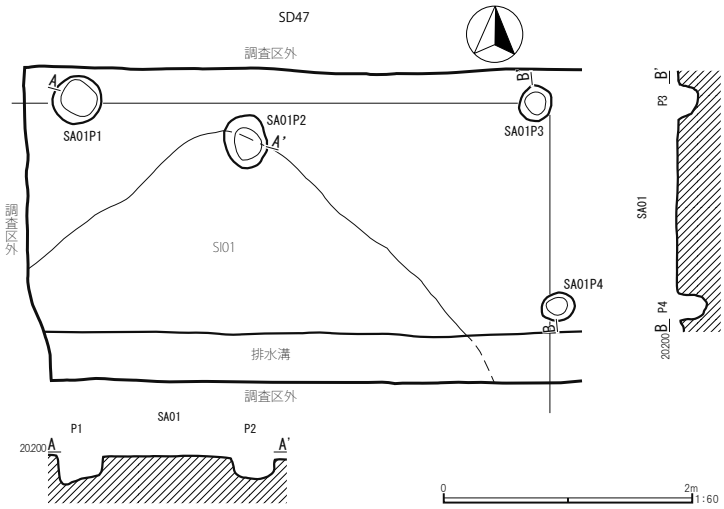
主軸をＮ－２°－Ｅ（東西軸）からＮ-98°－Ｗ（南北軸）にとるＬ字状に屈曲する柵状遺構と考えられる。規模は柱穴が４基検出され、３間分で、西から 1.42 m -2.34 m -1.64 m（4.68 尺 -7.7 尺 -5.4 尺）であり、同じく西からＰ１、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ４と呼称した。

柱穴はいずれも円形状の掘り方で、長軸 0.27 ～ 0.42 m、短軸 0.22 ～ 0.39 mを測る。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が 23 ㎝、Ｐ２が 16 ㎝、Ｐ３が 16 ㎝、Ｐ４が 23 ㎝を測り、ほぼ一定の深さであった。

柱痕跡は、平面上からも断面上からも確認することができなかったため不明である。

柱筋は、Ｐ２が大きく南へ張り出しているのを除けば、Ｐ１-Ｐ３、屈曲しＰ３-Ｐ４となり、ほぼ直角に屈曲している柱筋であった。

出土遺物は検出されなかった。



第 65 図　第１号柵状遺構

第２号柵状遺構（第 66 図）

Ｅ区、ＡＲ－51 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

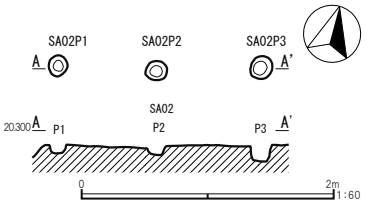
主軸をＮ-105°－Wにとる柵状遺構と考えられる。規模は柱穴が３基検出され、２間分であり、西から 0.78 m -0.81 m（2.5 尺 -2.6 尺）であった。

柱穴はいずれも円形状の掘り方で、長軸 0.17 ～ 0.19 m、短軸 0.15 ～ 0.17 mを測る。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が７㎝、Ｐ２が７㎝、Ｐ３が 13 ㎝を測る。

柱痕跡は、平面上からも断面上からも確認することができなかったが、柱穴の規模からして、直径 10 ㎝以下の柱であったと推定できる。

柱筋は、柱穴が３基のみのため詳細は不明であるが、ほぼ直線であった。

出土遺物は検出されなかった。



第 66 図　第２号柵状遺構

4　方形周溝墓

第１号方形周溝墓（第 67 図）

Ｄ区、ＢＦ－60、61 グリッドから検出された。検出されたのは北溝、西溝の一部の周溝であった。また方台部は検出されず、崩落や、後世の撹乱を受けていると推定される。

本遺構の北溝が第 122、123 号ピットと、西溝が第 34 号溝跡、第 124、125 号ピットと重複関係にあり、本遺構が第 122 号ピットを切っていたが、それ以外のすべての重複する遺構に本遺構は切られてい

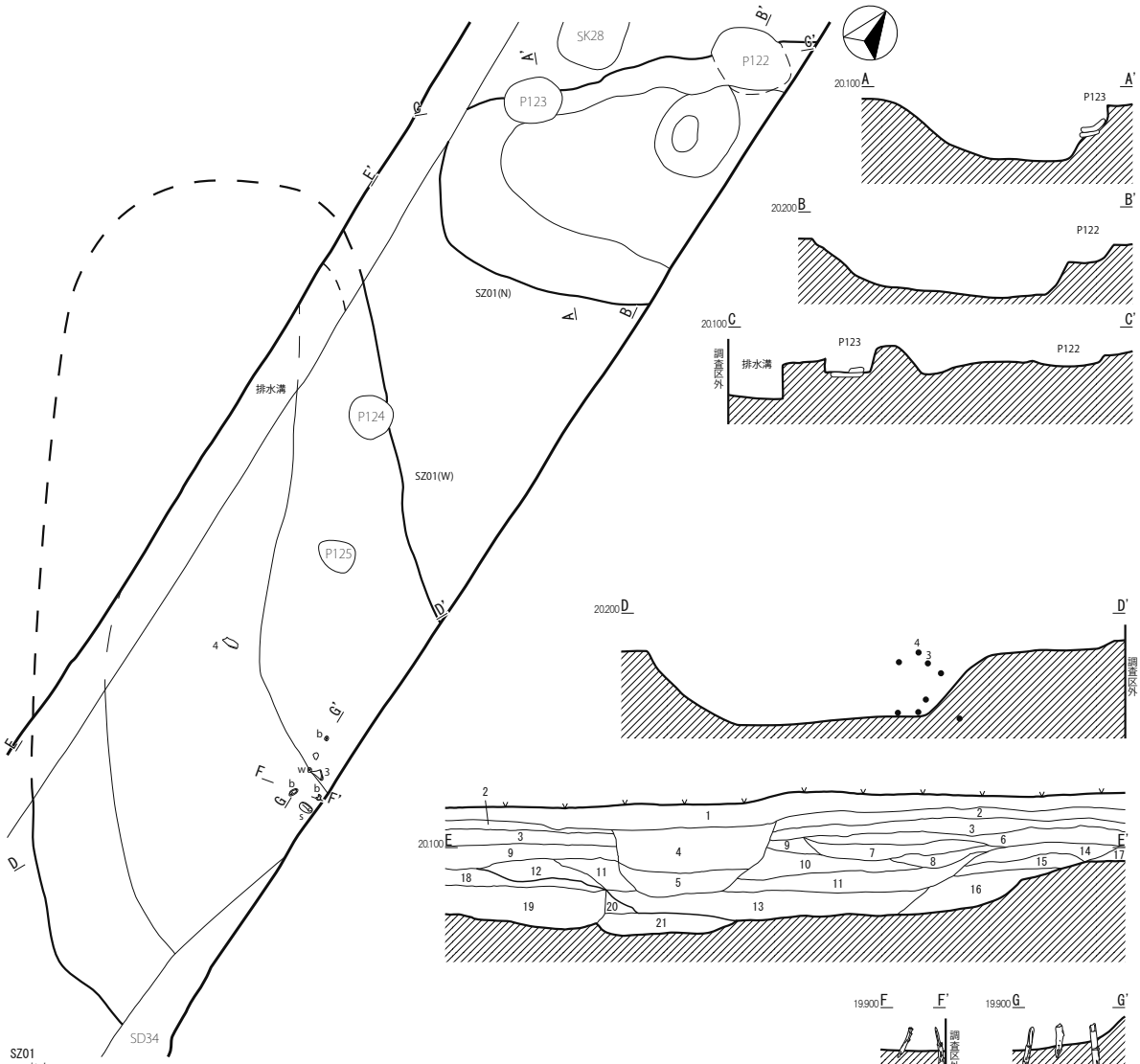
た。また、西溝は壁面上で、土坑と重複関係にあった。

主軸は、N－54°－Wを指し、検出された長さ、幅は北周溝が 2.32 m、最大幅 1.68 ～ 2.15 m、確認面からの深さは最深部 0.48 m、西周溝は 3.76 m、最大幅 3.73 m、深さは 0.48 mを測る。

平面形は四隅の切れるタイプだが、復元規模等は不明で、南側の第２号方形周溝墓と隣接していた。

立ち上がりは外側が鋭角であり、方台部側はやや緩やかであった。底面はほぼ平坦であるが、西溝は方台部側から外側にわずかに傾斜していた。

土層は北溝は壁面崩落などの影響で確認できなかったが、西溝はいずれも６～８層確認され、特に 14 ～ 16 層は方台部からの堆積と推測できる。それ以外はやや内容が異なるが、いずれも木片を多く含



SZ01
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 赤色土粒子少量含)
4. 灰黄褐 10YR-4/2(しまりかなり弱 シルト質 酸化鉄多量 白色砂質・粘質土ブロック多量含)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり弱 砂質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 砂ブロック多量含)
6. 黒褐 10YR-2/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子多量含 木片少量含 土器片多量含 砂粒子少量含)
7. 黒褐 10YR-2/2(しまりやや弱 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 木片多量含 葦片多数含 土器片少量含)
8. 黒褐 10YR-2/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
10. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 木片少量含)
11. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 木片多量含)
12. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含)
13. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 木片多量含)
14. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)
15. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
16. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)
17. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片多量含)
18. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりかなり弱 砂質 酸化鉄少量 黒色土ブロック少量含 木片少量含)
19. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 砂質 黒色土粒子・ブロック多量含 木片微量含)
20. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 砂粒子少量含 木片多量含)
21. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 青色砂ブロック多量含 木片多量含)

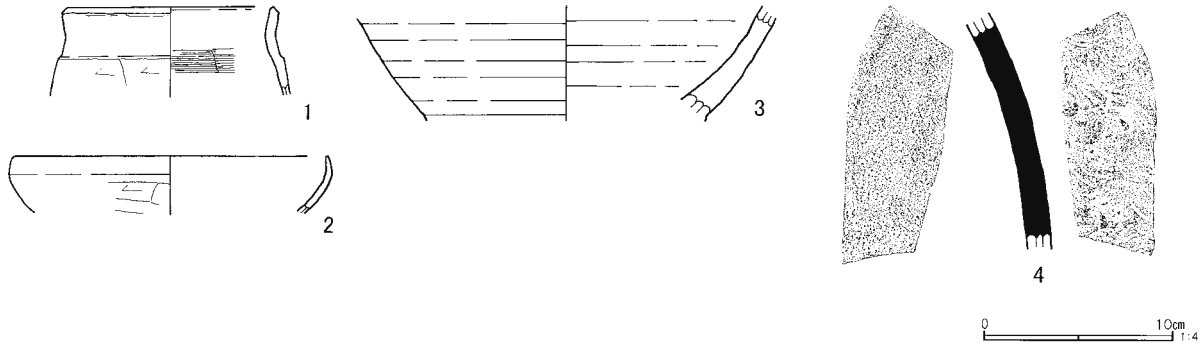
0 2m 1:60

第 67 図　第１号方形周溝墓

んだ氾濫土による水平堆積であった。

出土遺物はいずれも西周溝から検出された。土師器の甕・坏、須恵器甕、陶器甕などである。本遺構が方形周溝墓であることからいずれも流れ込みと推定される。北周溝からは検出されなかった。

時期は、隣接する第２号方形周溝墓と同時期と推定される。



第 68 図　第１号方形周溝墓出土遺物

第 11 表　第１号方形周溝墓出土遺物観察表（第 68 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	土師器 甕	(10.9)	(4.8)	-	ABIKM	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁部片	外面：口縁ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
2	土師器 坏	(16.7)	(3.1)	-	AEJKM	橙 5YR-6/6	A	10%	外面：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	
3	陶器 甕	-	(6.1)	-	ABM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部 30%		中世陶器
4	須恵器 甕	-	-	-	ABIM	灰 N-6/	B	胴部片		自然釉かかる 末野産

第２号方形周溝墓（第 69 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 61、62 グリッドから検出された。

検出されたのは北溝、西溝の一部の周溝である。また方台部は検出されず、崩落や、後世の撹乱を受けていると推定される。

本遺構の北溝が第 34 号溝跡、西溝が第 35 号溝跡、第 29、30 号土坑、第 129 ～ 132 号ピットと重複関係にあり、本遺構が第 35 号溝跡を切っていて、残りのすべての重複する遺構に切られていた。また、直接の切り合い関係にはないが、第 127、128 号ピットと重複関係にあった。

主軸は、Ｎ -60° －Ｗを指し、北周溝は、検出された長さ 3.16 ｍ、最大幅 2.01 ～ 2.05 ｍ、深さは 0.62 ｍ、西周溝は検出された長さ 6.08 ｍ、最大幅 3.19 ｍ、深さは 0.58 ｍを測る。西周溝は南北両端部の縁の様子から推定長軸は 9 ｍ～ 10 ｍ程度と考えられる。

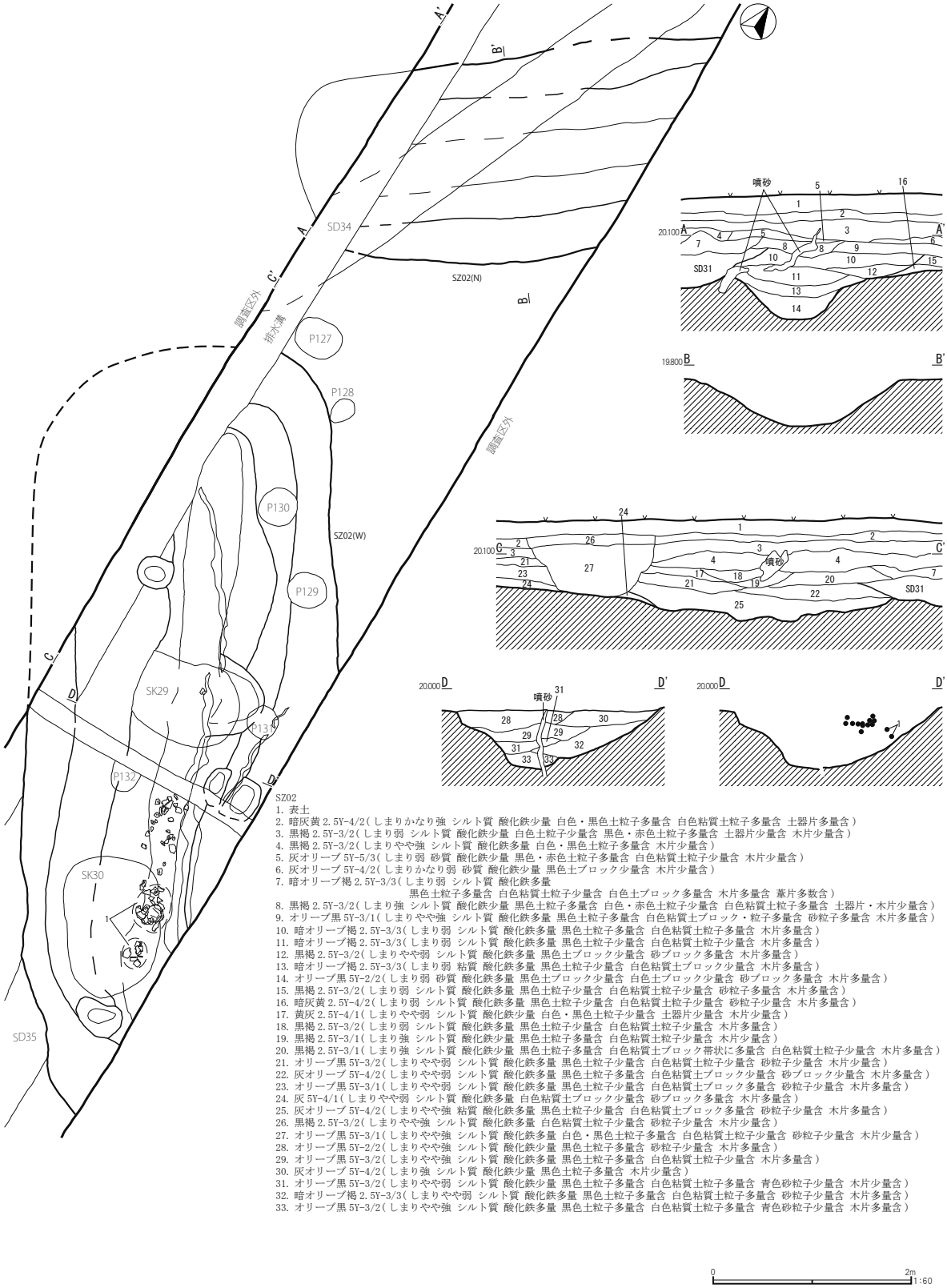
平面形は四隅の切れるタイプで、復元すると外縁の規模は 12.76 ｍ、方台部は 11 ｍ程と推定され、北側の第１号方形周溝墓と隣接していた。

周溝の立ち上がりの特徴は特に西溝が顕著であるが、外側が鋭角であり、方台部側はやや緩やかであった。底面はほぼ平坦であるが、西溝は方台部側から内側にわずかに傾斜していた。

土層は断面観察から、いずれも５～７層程度確認され、シルト質で多くのブロック土や木片を多く含んだ氾濫土によるレンズ状堆積であった。

出土遺物は西周溝のほぼ中央に散乱した形で検出されており、それらを接合すると、一個体の弥生土器壺となった。壺はほぼ完形に近く、外面には口縁～胴部に単節縄文を施文したのち、頸部から胴部にヘラ描の重菱形文を施されている。北周溝からは検出されなかった。

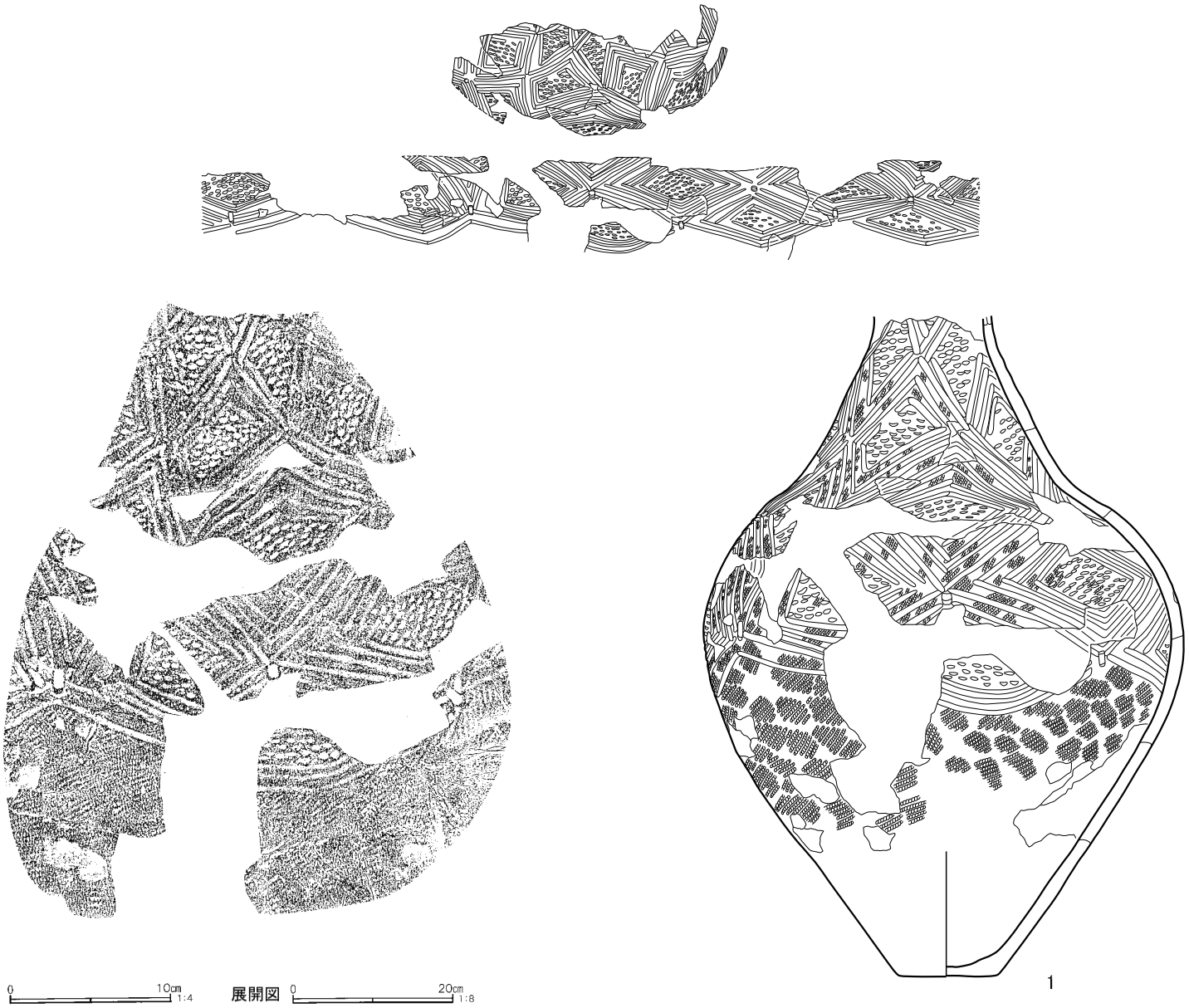
時期は、出土遺物から弥生時代中期前葉と考えられる。



SZ02
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子多量含 木片少量含)
5. 灰オリーブ 5Y-5/3(しまり弱 砂質 酸化鉄少量 黒色・赤色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
6. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりかなり弱 砂質 酸化鉄少量 黒色土ブロック少量含 木片少量含)
7. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 白色土ブロック多量含 木片多量含 葦片多数含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色・赤色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 土器片・木片少量含)
9. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック・粒子多量含 砂粒子多量含 木片多量含)
10. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
11. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
12. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土ブロック少量含 砂ブロック多量含 木片多量含)
13. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 木片多量含)
14. オリーブ黒 5Y-2/2(しまり弱 砂質 酸化鉄多量 黒色土ブロック少量含 白色土ブロック少量含 砂ブロック多量含 木片多量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)
16. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片多量含)
17. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含 土器片少量含 木片少量含)
18. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
19. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
20. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック帯状に多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
21. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
22. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 砂ブロック少量含 木片多量含)
23. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
24. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック少量含 砂ブロック多量含 木片多量含)
25. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
26. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
27. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
28. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
29. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
30. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 木片少量含)
31. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 青色砂粒子少量含 木片少量含)
32. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
33. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 青色砂粒子少量含 木片多量含)

0 2m 1:60

第 69 図　第２号方形周溝墓



第 70 図　第２号方形周溝墓出土遺物

第 12 表　第２号方形周溝墓出土遺物観察表（第 70 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	(42.7)	6.3	ABDIKM	にぶい橙 5YR-6/4	B	80%	外面：口縁～下胴部にかけ単節縄文 LR(0 段多条) を施文 (下胴部は縦ないし斜方向) 後、頸部～胴部にヘラ描重菱形文 (内部に半円形刺突文を充填する)6 段に亘り施す 胴部最大径部で重菱形文が 5 単位 胴部菱形文頂部に方形工具押し当て痕 底部付近はミガキ調整	

5　土器棺墓

第１号土器棺墓（第 71 図）

Ｅ区、ＡＱ－51 グリッドから検出された。第 36 号土坑と重複関係にあり、第 36 号土坑が、本遺構を切っていた。

墓坑は、大部分が調査区域外であるが、径約 0.8 ｍの円形を呈するものと推定される。

深さは 44 ㎝を測る。

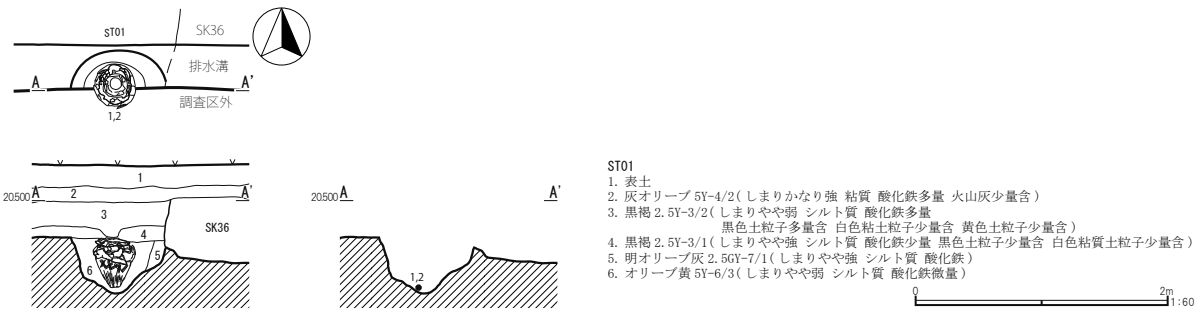
断面観察から立ち上がりは、ほぼ垂直に近く、底部は中央部が窪んでいて、棺身である甕底部を納めやすい形状をとっていた。

土器棺は、墓坑の中央に納められ、下位の甕はほぼ完形に近い遺存度で正位の状態で埋設されていた。その甕の口縁部付近には複数の別個体の甕胴部土器片が貼り付いていており、口縁内には逆位の状態で壺底が確認できた。復元した結果、上位の甕は胴部以下のみであることから、胴部以上は意図的に打ち欠き、逆位にして蓋として使用したと推定される。

棺身内には土や植物片などが含まれており、精査を行ったが、骨等は検出されなかった。

上位の甕は、摩耗がひどく、明瞭ではないが外面はハケ目調整後にヘラナデが施されたものと考えられる。一方、下位の甕の外面は、頸部に櫛描簾状文、胴部には櫛描羽状文を、下部はヘラミガキが施されていた。

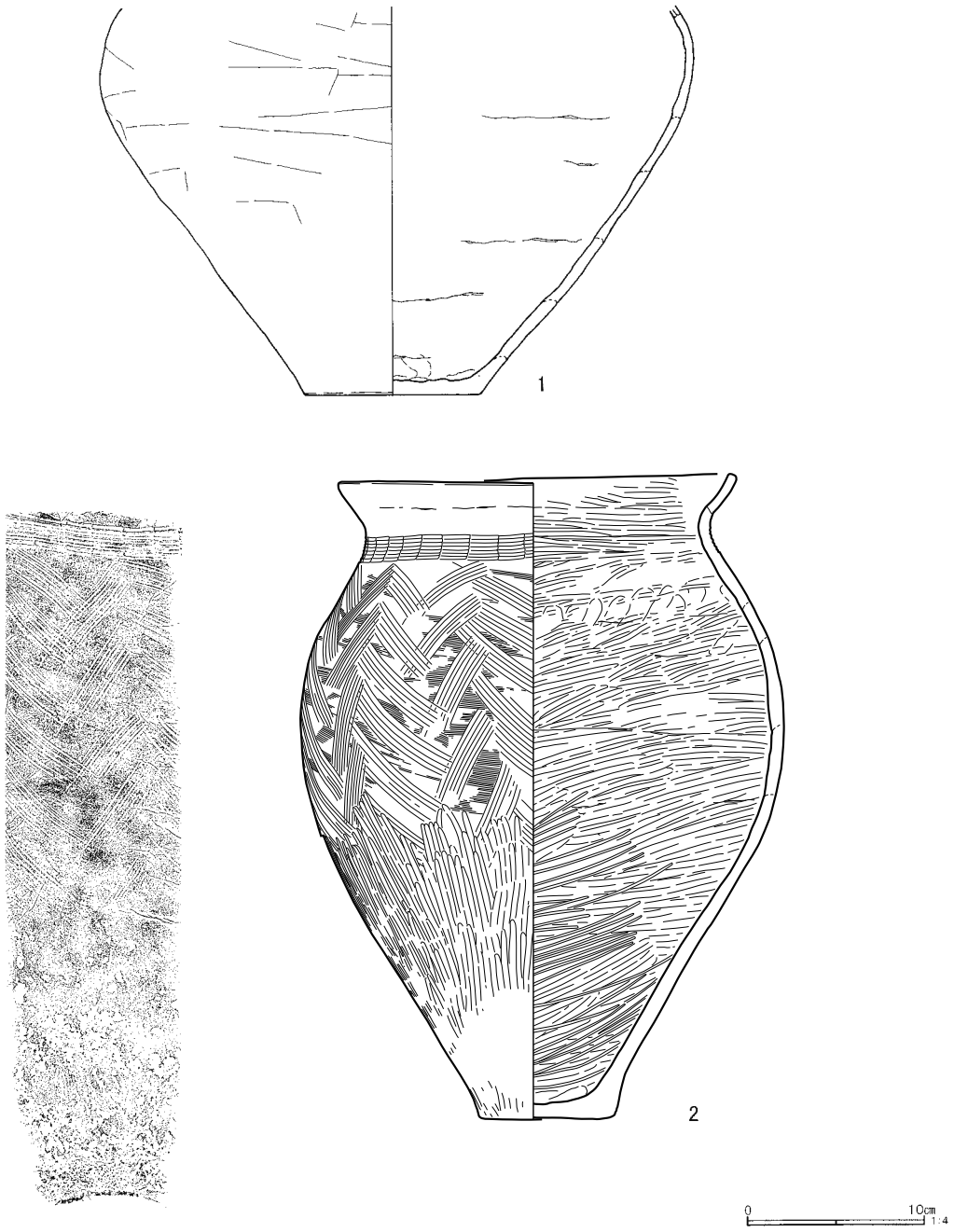
時期は、弥生時代中期中葉から後葉と考えられる。



第 71 図　第１号土器棺墓

第 13 表　第１号土器棺墓出土遺物観察表（第 72 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 甕	-	(22.0)	9.9	ADM	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部 50%	外面：ハケ目後ヘラナデ	摩耗により不明瞭
2	弥生土器 甕	22.8	38.1	8.0	AGIN	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	90%	外面：口縁部ヨコナデ 頸部櫛描簾状文 (7 本一単位) 胴上部ハケ目 (10 本 /1cm) 後櫛描縦羽状文 胴下部ヘラミガキ 内面：口縁部・胴部ヘラミガキ 頸部指頭圧痕	外面胴部スス付着 外面底部剥離顕著



第 72 図　第１号土器棺墓出土遺物

６　土坑

第１号土坑（第 73 図）

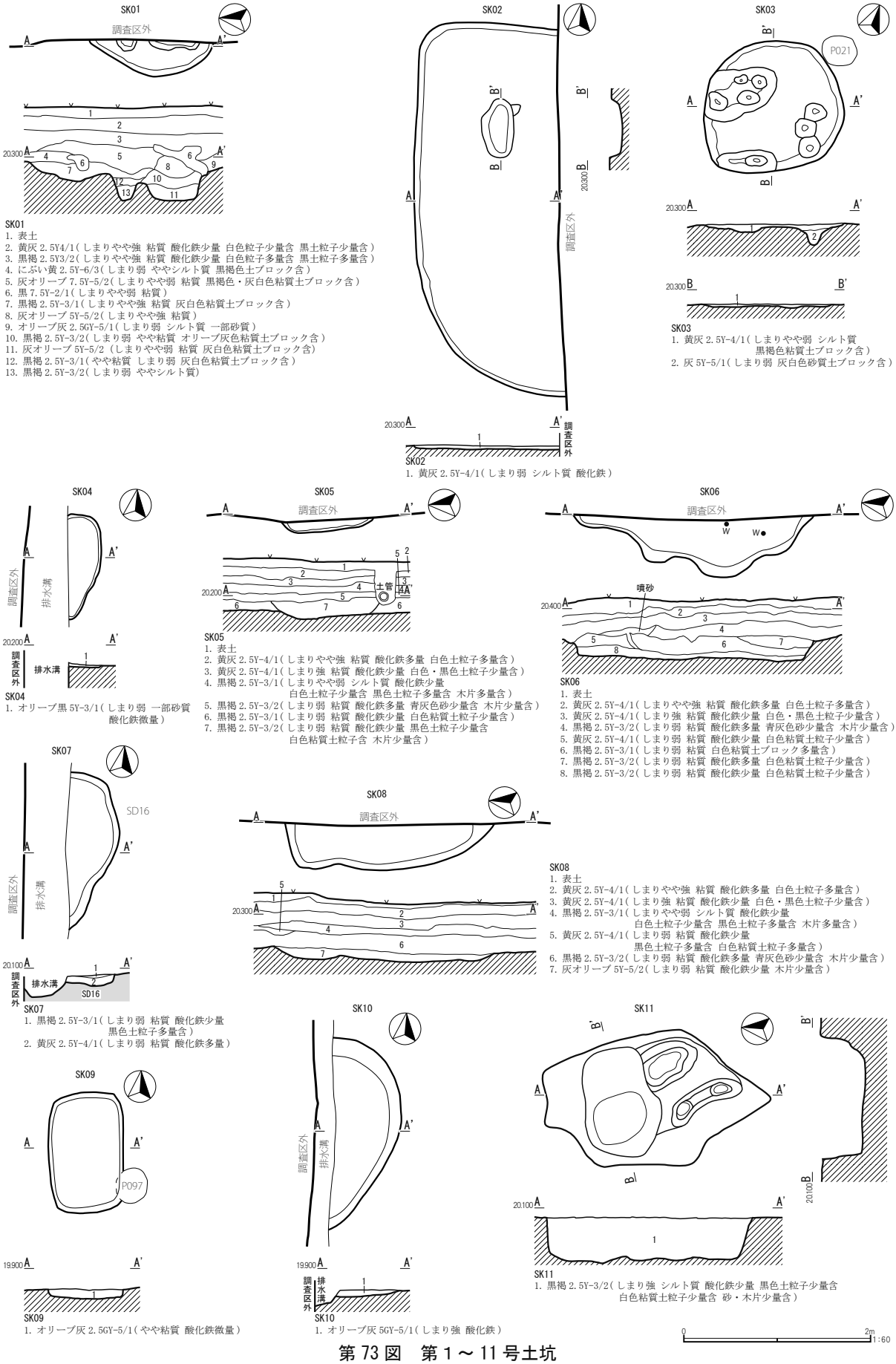
Ａ区、ＢＣ－ 20 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、大部分が調査区域外であり、詳細は不明である。

規模は、検出長軸が 1.33 ｍ、検出短軸 0.38 ｍを測り、深さは 24 ㎝を測る。

断面形は、壁面観察から緩やかなレンズ状の落ち込みの下にさらに２箇所の落ち込みをもつ形であった。南は逆台形状、北はＶ字状の落ち込みで、それぞれ深さは 19 ㎝であった。

土層は、断面観察から、８層程度の堆積が確認でき、堆積状況から底部北の落ち込みは本遺構が埋没した後、改めて掘り直されたものであることがわかる。



SK01
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色粒子少量含 黒土粒子少量含)
3. 黒褐 2.5Y3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色粒子多量含 黒土粒子多量含)
4. にぶい黄 2.5Y-6/3(しまり弱 ややシルト質 黒褐色土ブロック含)
5. 灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまりやや弱 粘質 黒褐色・灰白色粘質土ブロック含)
6. 黒 7.5Y-2/1(しまりやや弱 粘質)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 灰白色粘質土ブロック含)
8. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまりやや強 粘質)
9. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり弱 シルト質 一部砂質)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 やや粘質 オリーブ灰色粘質土ブロック含)
11. 灰オリーブ 5Y-5/2 (しまりやや弱 粘質 灰白色粘質土ブロック含)
12. 黒褐 2.5Y-3/1(やや粘質 しまり弱 灰白色粘質土ブロック含)
13. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 ややシルト質)

SK02
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄)

SK03
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 黒褐色粘質土ブロック含)
2. 灰 5Y-5/1(しまり弱 灰白色砂質土ブロック含)

SK04
1. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 一部砂質 酸化鉄微量)

SK05
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子含 木片少量含)

SK06
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
5. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 白色粘質土ブロック多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)

SK07
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量)

SK08
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
7. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 木片少量含)

SK09
1. オリーブ灰 2.5GY-5/1(やや粘質 酸化鉄微量)

SK10
1. オリーブ灰 5GY-5/1(しまり強 酸化鉄)

SK11
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂・木片少量含)

0 2m 1:60

第 73 図　第 1 ～ 11 号土坑

出土遺物は検出されなかった。

第２号土坑（第 73 図）

Ａ区、ＢＣ－ 21 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、一部が調査区域外であるが、南北に長軸をもつ隅丸方形を呈すると推定される。

規模は、検出長軸が 3.92 ｍ、検出短軸 1.56 ｍを測り、深さは 4 ㎝を測る。

断面形は浅い皿状で､底部は平坦であり､床面には１箇所ピット状の落ち込み（深さ 12 ㎝）があった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認でき、レンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は検出されなかった。

第３号土坑（第 73 図）

Ａ区、ＢＣ－ 21、22 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、やや不整形な円形をしていた。

規模は、長軸が 1.5 ｍ、短軸 1.38 ｍを測り、深さは５～ 20 ㎝を測る。

断面形は浅い皿状で、底部は平坦であるが、数箇所に湧泉痕を有していた。

土層は、断面観察から、２層の堆積が確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第４号土坑（第 73 図）

Ａ区、ＢＣ－ 27 グリッドから検出された。重複する遺構は確認されなかった。

平面形は、大半が調査区域外であるが、楕円形を呈すると推定される。

規模は、検出長軸が 0.92 ｍ、検出短軸 0.36 ｍを測り、深さは 2.5 ㎝を測り、底部は平坦であった。

断面形は浅い皿状であった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第５号土坑（第 73 図）

Ａ区、ＢＤ－ 30 グリッドから検出された。重複する遺構は確認されなかった。

平面形は、大半が調査区域外であるが、楕円形、もしくは隅丸方形を呈すると推定される。

規模は、検出長軸が 0.99 ｍ、検出短軸 0.12 ｍを測り、深さは 19 ㎝を測り、底部は平坦であった。

断面形は浅い皿状であった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認でき、自然堆積であった。

出土遺物は検出されなかった。

第６号土坑（第 73 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 34 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、一部が排水溝により消滅しているが、南北に長軸をもつ楕円形を呈するものと推定される。

規模は、検出長軸が 2.58 ｍ、検出短軸 0.61 ｍを測り、深さは 23 ㎝を測る。底部はほぼ平坦であった。

土層は、断面観察から、４層の堆積が確認でき、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第７号土坑（第 73 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 35 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、後世の壁面の崩落により形状が不整形となり、また大部分が調査区域外であることから不明である。

規模は、検出長軸が 1.12 ｍ、検出短軸 0.34 ｍを測り、深さは 12 ㎝を測る。

断面形は皿状で、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、２層にわたる堆積が確認でき、一部は噴砂の影響もあるが、黒褐色土、黄灰色土などの氾濫土による堆積であり、レンズ状に堆積していて、自然堆積であったと考えられる。

出土遺物は検出されなかった。

第８号土坑（第 73 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 36 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、大部分が調査区域外であるため、不明である。

規模は、検出長軸が 2.21 ｍ、検出短軸 0.48 ｍを測り、深さは 13 ㎝を測る。

断面形は立ち上がりが緩やかな皿状で、南北両壁面付近にこぶをもち、底部はほぼ平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第９号土坑（第 73 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 40 グリッドから検出された。第 97 号ピットと重複遺構にあり、本遺構が第 97 号ピットを切っていた。

平面形は、東西に長軸をもつ方形を呈していた。

規模は、長軸が 1.29 ｍ、短軸 0.80 ｍを測り、深さは 10 ㎝を測る。底部はほぼ平坦であった。

断面形は、両壁面とも掘り方が垂直であった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認でき、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 10 号土坑（第 73 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 40 グリッドから検出された。重複する遺構は検出されなかった。

平面形は、一部が調査区域外であるが、楕円形を呈すると推定される。

規模は、検出長軸が 1.95 ｍ、検出短軸 0.66 ｍを測り、深さは 7 ㎝を測り、底部は平坦であった。

断面形は、立ち上がりが緩やかな皿状であった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認でき、自然堆積であった。

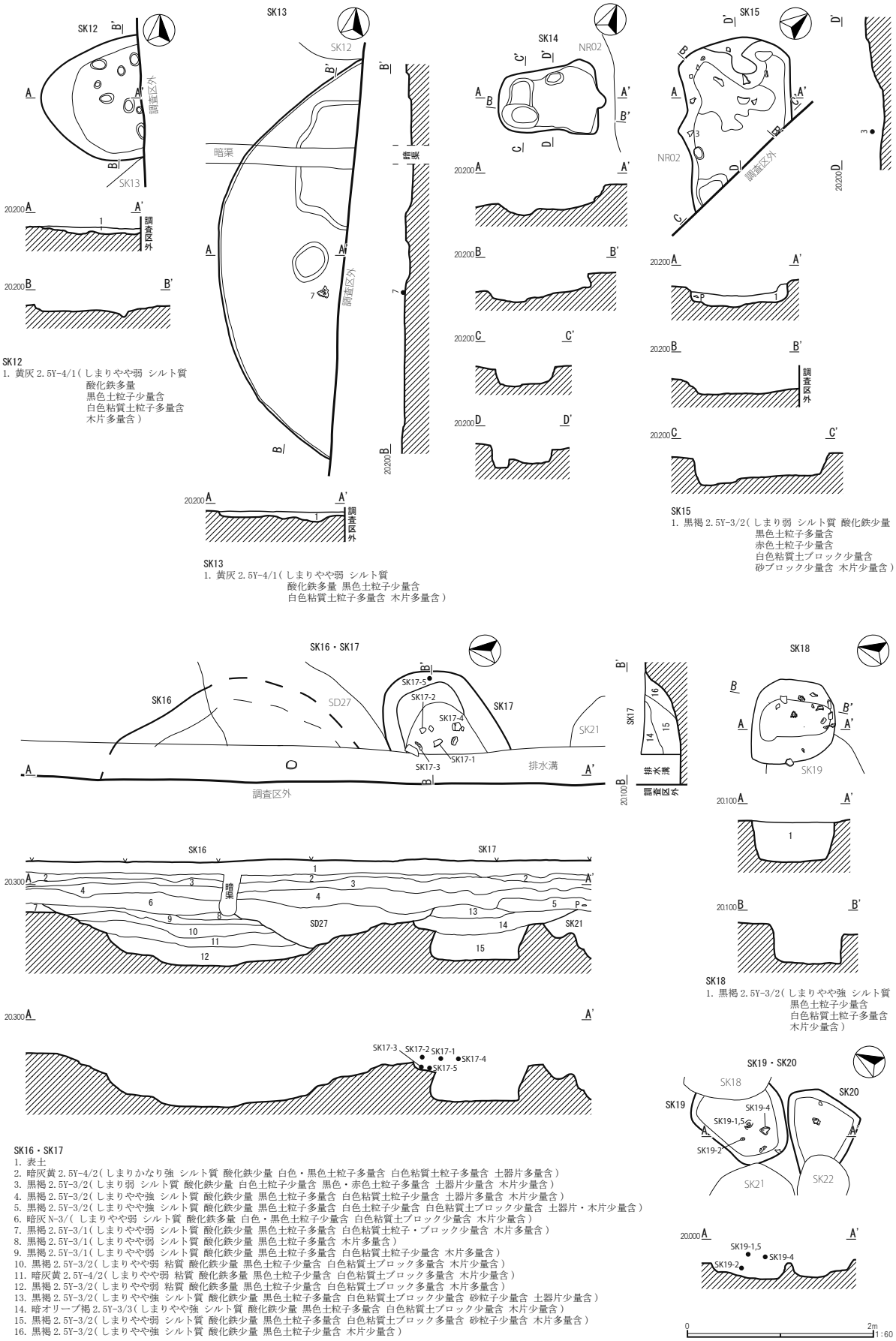
出土遺物は検出されなかった。

第 11 号土坑（第 73 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 57 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、南北に長軸をもつ不整形な方形を呈していた。

規模は、長軸が 2.3 ｍ、短軸 1.4 ｍを測り、最深部の深さは 49 ㎝を測る。底部は、ピット状・土坑状の落ち込みを有していた。



SK12
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質
酸化鉄多量
黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子多量含
木片多量含)

SK13
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質
酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子多量含 木片多量含)

SK15
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒多量含
赤色土粒子少量含
白色粘質土ブロック少量含
砂ブロック少量含 木片少量含)

SK16・SK17
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 土器片多量含 木片少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 土器片・木片少量含)
6. 暗灰 N-3/(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 木片少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子・ブロック少量含 木片多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 木片多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
11. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
12. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 砂粒子少量含 土器片少量含)
14. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 木片少量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 木片少量含)

SK18
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質
黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子多量含
木片少量含)

第 74 図　第 12 ～ 20 号土坑

断面形は、逆台形状である。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認でき、シルト質で木片などが混入する氾濫土と推定される。

出土遺物は末野産の須恵器蓋が２点検出された。

時期は、出土遺物から８世紀初頭と推定される。

第 12 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 58 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構はなかったが、第 13 号土坑と接していた。

平面形は、大部分が調査区域外であるが、楕円形を呈すると推測される。

規模は、検出長軸が 1.07 ｍ、検出短軸 1.28 ｍを測り、深さは 7 ㎝を測る。

断面形は、浅い皿状で、底部にはピット状の凹凸を多く有していた。

土層は、壁面崩落により壁面での確認ができなかったが、断面観察から、１層のみの堆積が確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第 13 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 58 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構はなかったが、第 12 号土坑と接していた。平面形は、大部分が調査区域外であるが、大きな楕円形を呈すると推測される。

規模は、検出長軸が 4.32 ｍ、検出短軸 1.37 ｍを測り、深さは 9 ㎝を測る。

断面形は、浅い皿状で、底部には土坑状の落ち込みを有し、凹凸があった。

土層は壁面崩落により壁面での確認ができなかったが、断面観察から、１層のみの堆積が確認できた。

出土遺物は土師器の甕・鉢・坏、須恵器の甕・坏であった。１は坏の口縁部から刃物などで打ち下ろしたような打撃痕がある。５、６は底部調整が糸切り後、周辺ヘラケズリである。この坏２点は南比企産であるが、それ以外の須恵器は末野産である。

時期は、出土遺物から８世紀後半から９世紀初頭とみられる。

第 14 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 58 グリッドから検出された。本遺構は第２号河川跡と重複関係にあり、本遺構が第２号河川跡に切られていた。

本遺構は桃の種子、臼玉（出土地点は第２号河川跡）、湧泉痕が確認されたことから、湧泉祭祀跡と推定される。

平面形は、東西に長軸をもつ隅丸方形と推定され、一部東側の角隅は後世に崩落したものと考えられる。

規模は、検出長軸が 1.07 ｍ、検出短軸 0.67 ｍを測り、深さは 27 ㎝を測る。底部西寄りには湧泉痕が３箇所確認された。

断面形は船底状の掘り方で、底部は平坦であった。

土層は断面観察ができなかったが、しまりのない黒色砂質土であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 15 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 58、59 グリッドから検出された。本遺構は第２号河川跡と重複関係にあり、本遺構が

第２号河川跡に切られていた。

本遺構は桃の種子、臼玉（出土地点は第２号河川跡）、湧泉痕を有していることから、湧泉祭祀跡と推定される。

平面形は、一部調査区域外であるが、東西に長軸をもつ隅丸方形を呈すると考えられる。

規模は、検出長軸が 1.39 ｍ、検出短軸 1.12 ｍを測り、深さは確認面から 20 ㎝を測る。底部東壁面付近には湧泉痕が確認でき、多量の桃の種子が検出された。

断面形は船底状の掘り方で、底部は不整形の土坑状の落ち込みがあるほかは平坦であった。

土層は、一部のみ断面観察から確認でき、しまりのないシルト質で複数の粒子、ブロック土を含む覆土が１層のみ確認できた。

出土遺物は土師器の坏・鉢等が検出された。

第 16 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 59 グリッドから検出された。本遺構と第 27 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 27 号溝跡に切られていた。

平面形は、大部分が調査区域外であるが、楕円形を呈するものと推定される。

規模は、検出長軸が 2.64 ｍ、検出短軸 0.73 ｍを測り、深さは 67 ㎝を測る。

断面形はレンズ状で、底部は丸味を帯びていた。

土層は、断面観察から、４～５層程度にわたる堆積が確認でき、シルト質や粘質で粒子、ブロック土、木片が多く混ざる氾濫土による堆積であり、堆積状況は水平状の自然堆積であった。

出土遺物は土師器坏のみであった。

時期は、出土遺物がわずかのため不明である。

第 17 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 59 グリッドから検出された。本遺構は第 27 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 27 号溝跡に切られていた。なお断面上では隣接する第 21 号土坑を切っていた。

平面形は、大部分が調査区域外であるが、東西に長軸をもつ隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸が 0.94 ｍ、検出短軸 1.14 ｍを測り、深さは 60 ㎝を測る。

断面形はレンズ状の落ち込みを掘った後、逆台形状の落ち込みをもつ掘り方で、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、３層確認でき、シルト質で粒子、ブロック土、木片が多く混ざる氾濫土による堆積であった。

出土遺物は土師器の甕・台付甕・坏、石製の臼玉であった。

時期は、出土遺物から、７世紀末から８世紀初頭と推定される。

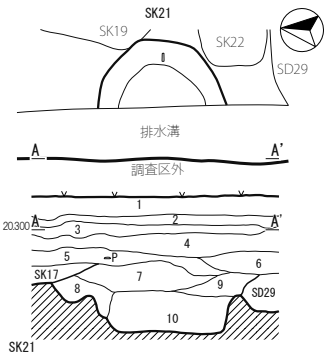
第 18 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 59 グリッドから検出された。本遺構は第 19 号土坑と重複関係にあり、本遺構が第 19 号土坑を切っていた。

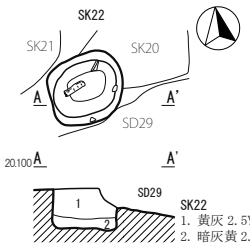
平面形は、南北に長軸をもつ、いびつな楕円形を呈していた。

規模は、長軸が 1.12 ｍ、短軸 0.82 ｍを測り、深さは確認面から 43 ㎝を測る。

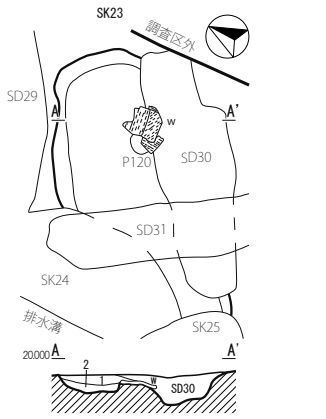
断面形は逆台形状の掘り方で、底部は平坦であった。



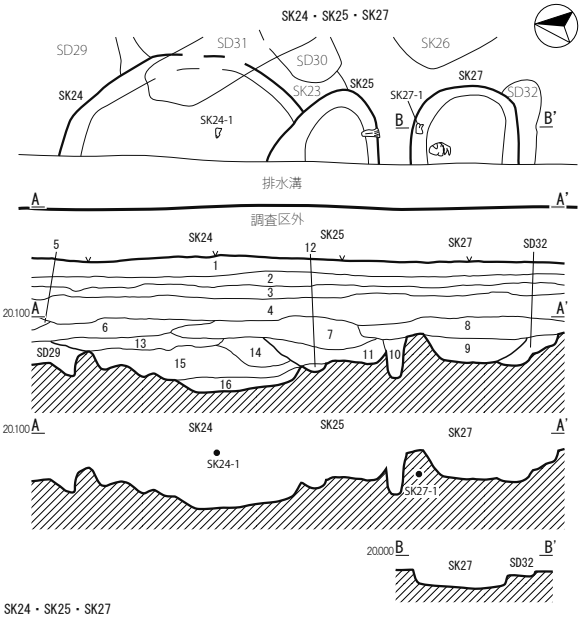
SK21
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 土器片多量含 木片少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 土器片・木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土ブロック帯状に多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
8. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック少量含 木片多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 砂粒子多量含 木片多量含)



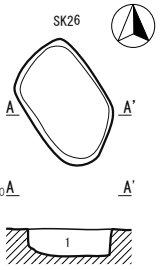
SK22
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 木片含)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや砂質 木片含)



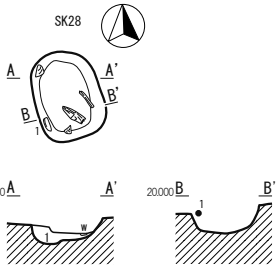
SK23
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含
砂粒子少量含 木片少量含)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含
砂粒子多量含 木片少量含)



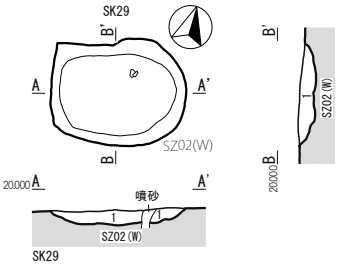
SK24・SK25・SK27
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 土器片多量含 木片少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 白色粘質土ブロック帯状に多量含 木片少量含)
6. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 砂粒子少量含 木片少量含)
7. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック多量含 木片少量含)
9. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
10. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 砂粒子多量含 木片少量含)
11. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック多量含 木片少量含)
12. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄微量含 木片微量含)
13. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
14. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片多量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子・ブロック多量含 砂ブロック多量含 木片多量含)
16. 黒 2.5Y-2/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 砂粒子少量含 木片多量含)



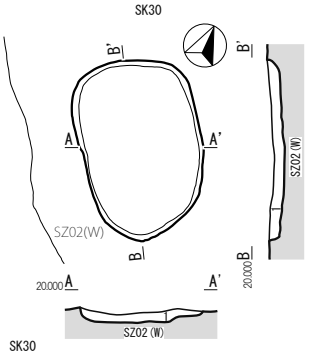
SK26
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質
酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘質土ブロック少量含
木片多量含)



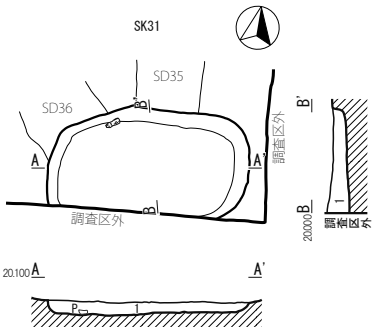
SK28
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質
酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土ブロック少量含
木片少量含)



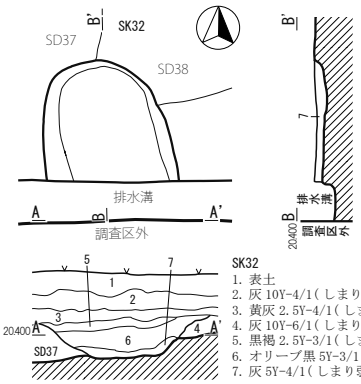
SK29
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質
酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
炭化粒子少量含 木片多量含)



SK30
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子多量含
白色粘質土粒子少量含
砂少量含 木片多量含)



SK31
1. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質
黒色土粒子多量含 炭化粒子多量含
白色粘質土粒子少量含 木片多量含)



SK32
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄 火山灰微量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 酸化鉄 火山灰微量含)
4. 灰 10Y-6/1(しまり弱 粘質 黒褐色粘質土ブロック多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 にぶい黄色粘質土ブロック含)
6. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 粘質 灰白色・にぶい黄色粘質土粒子・ブロック含)
7. 灰 5Y-4/1(しまり弱 シルト質 黒褐色粘質土粒子含)

0 2m
1:60

第 75 図　第 21 ～ 32 号土坑

土層は、断面観察から、堆積が１層確認でき、黒褐色シルト質土で、白色粘質土粒子や木片等を含む氾濫土の覆土であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 19 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－59 グリッドから検出された。本遺構と第 18 号土坑が重複関係にあり、本遺構が第 18 号土坑に切られていた。

平面形は、南北に長軸をもつ不整形の隅丸方形を呈すると推定される。

規模は、長軸が 0.74 ｍ、短軸 0.73 ｍを測り、深さは確認面から 19 ㎝を測る。

断面形は船底状であった。

出土遺物は土師器坏、須恵器提瓶、木製品火鑽臼であった。うち土師器坏１点の底部外面には墨書痕が確認できる。

時期は、出土遺物から７世紀末から８世紀初頭と推定される。

第 20 号土坑（第 74 図）

Ｄ区、ＢＦ－59 グリッドから検出された。本遺構と第 22 号土坑が重複関係にあり、第 22 号土坑が本遺構を切っていた。

平面形は、東西に長軸をもち、西へ窄まる隅丸三角形であった。

規模は、検出長軸が 0.72 ｍ、検出短軸 0.78 ｍを測り、深さは確認面から 18 ㎝を測る。

断面形は船底状で、底部はやや起伏をもっていた。

出土遺物は検出されなかった。

第 21 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－59 グリッドから検出された。本遺構と重複遺構にある遺構はないが、第 19 号土坑と接していた。

平面形は、大部分が調査区域外であるため、詳細は不明である。

規模は、検出長軸が 0.53 ｍ、検出短軸 1.01 ｍを測り、深さは 56 ㎝、確認面から 35 ㎝を測る。底部は平坦であった。

断面形は逆台形状であった。

土層は、断面観察から、４層の堆積が確認でき、いずれもシルト質で、白色ブロックや黒粒子を多く含む氾濫土であり、堆積は自然堆積と推定される。

出土遺物は土師器坏、須恵器蓋、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩が検出された。

第 22 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－59 グリッドから検出された。本遺構と第 29 号溝跡、第 20 号土坑が重複関係にあり、第 29 号溝跡に切られ、第 20 号土坑を切っていた。

平面形は、隅丸方形であった。

規模は、長軸が 0.68 ｍ、短軸 0.54 ｍを測り、深さは確認面から 32 ㎝を測る。

断面形は一部消失しているが、両壁面とも垂直に落ち込み、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、最大２層の堆積が確認できた。覆土はシルト質や砂質で木片を含む氾濫土で

あった。

出土遺物は検出されなかった。

第 23 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 59、60 グリッドから検出された。第 30、31 号溝跡、第 24、25 号土坑、第 120 号ピットと重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

平面形は、大半を他遺構に切られているため詳細は不明だが、隅丸方形を呈すると推定される。

規模は、検出長軸が 2.19 ｍ、検出短軸 0.80 ｍを測り、確認面からの深さは 13.4 ㎝を測り、底部は凹凸を多く確認できた。

断面形はレンズ状と推定される。

土層は、断面観察から、２層のみ残存する堆積が確認でき、いずれも自然堆積であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 24 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 59、60 グリッドから検出された。本遺構と第 29、31 号溝跡、第 23、25 号土坑が重複関係にあり、第 31 号溝跡、第 25 号土坑に切られ、第 29 号溝跡、第 23 号土坑を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、楕円形を呈すると推定される。

規模は、検出長軸が 0.82 ｍ、検出短軸 1.96 ｍを測り、深さは 43 ㎝を測る。

断面形はレンズ状で、底部は凹凸があった。

土層は、断面観察から、４層の堆積が確認でき、いずれもシルト質でブロック土、木片を含む氾濫土であった。

出土遺物は須恵器坏が１点のみ検出された。

第 25 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 60 グリッドから検出された。本遺構と第 23、24 号土坑が重複関係にあり、本遺構が重複するすべての遺構を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、東西に長軸をもついびつな楕円形と推定される。

規模は、検出長軸が 0.58 ｍ、検出短軸 0.84 ｍを測り、深さは 19 ㎝を測る。

断面形は船底状で、底部はわずかに凹凸があった。

土層は、断面観察から、３層程度の堆積が確認できた。一部は樹木の根による攪乱を受けているが、シルト質でブロック土、木片を含む氾濫土の堆積であった。

出土遺物は須恵器甕が１点のみ検出された。

第 26 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 60 グリッドから検出された。重複する遺構は確認されなかった。

平面形は隅丸方形を呈する。

規模は、長軸が 0.86 ｍ、短軸 0.61 ｍを測り、確認面からの深さは 21 ㎝を測り、底部は平坦であった。

断面形は壁面が垂直状の立ち上がりである。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認でき、自然堆積であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 27 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 60 グリッドから検出された。本遺構と第 32 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 32 号溝跡を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、東西に長軸をもつ楕円形と推定される。

規模は、検出長軸が 0.61 ｍ、検出短軸 0.73 ｍを測り、深さは 19 ㎝を測る。

断面形は逆台形状で、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみ堆積が確認でき、シルト質で黒色土粒子、木片等を含む氾濫土の堆積であった。

出土遺物は砥石が１点のみ検出された。

第 28 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 60 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、やや東西に長い隅丸方形を呈する。

規模は、検出長軸が 0.71 ｍ、検出短軸 0.53 ｍを測り、深さは確認面から 16 ㎝を測る。

断面形は逆台形状で、底部は丸味を帯びていた。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認できた。

出土遺物は土師器坏が１点のほか、図化できなかったが木製品が検出された。

第 29 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 62 グリッドから検出された。本遺構と第３号方形周溝墓が重複関係にあり、本遺構が第３号方形周溝墓を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、東西に長軸をもつ隅丸方形と推定される。

規模は、長軸が 1.06 ｍ、短軸 0.85 ｍを測り、深さは確認面から 13 ㎝を測る。

断面形は船底状で、底部は平坦である。

土層は、断面観察から、１層のみ堆積が確認でき、粘質で黒色土粒子、木片等を含む氾濫土の堆積であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 30 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 62 グリッドから検出された。本遺構と第２号方形周溝墓が重複関係にあり、本遺構が第２号方形周溝墓を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、南北に長軸をもつ楕円形と推定される。

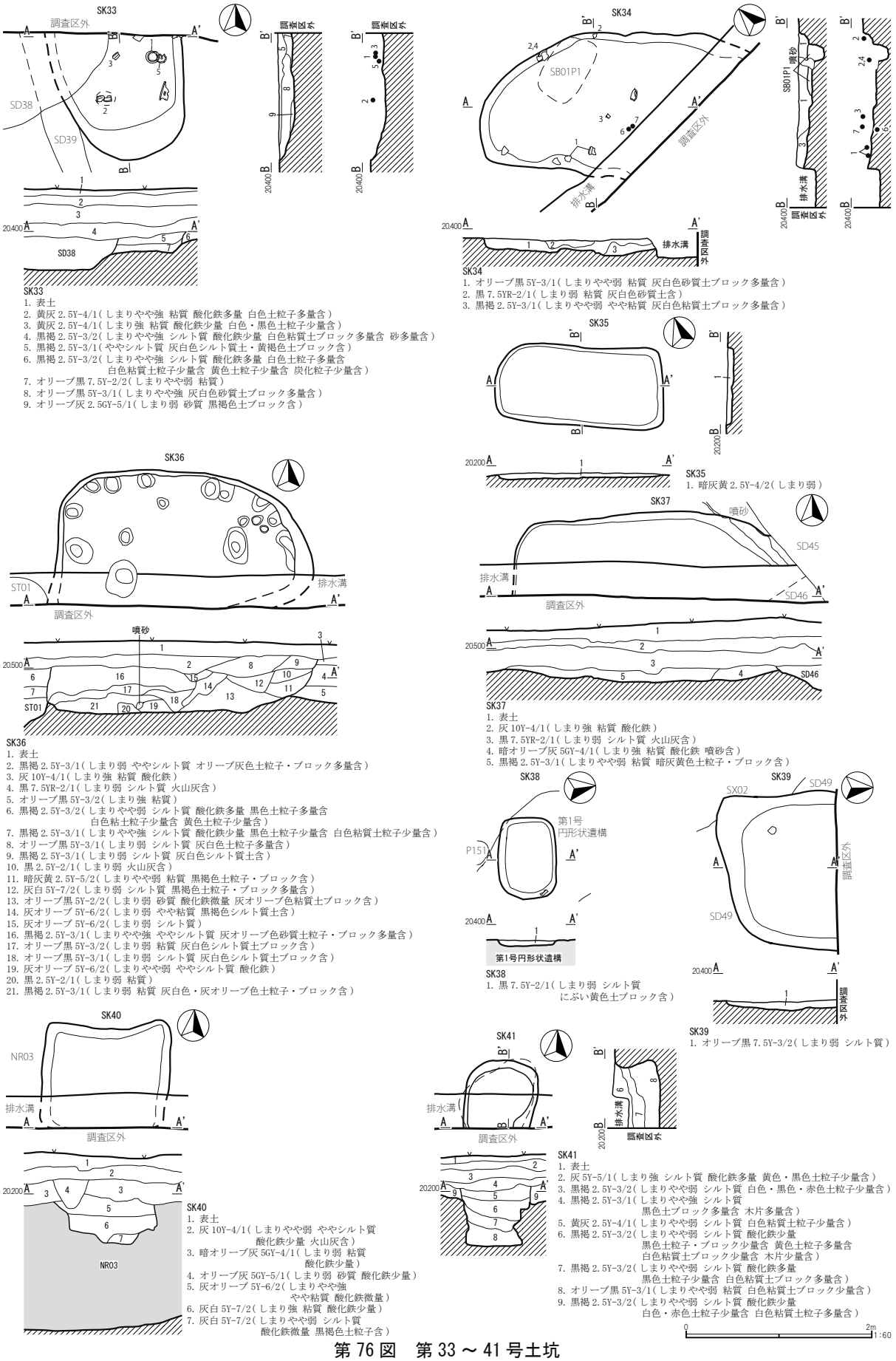
規模は、長軸が 1.41 ｍ、短軸 0.95 ｍを測り、深さは確認面から９㎝を測る。

断面形は船底状で、底部は平坦である。

土層は、断面観察から、１層のみ堆積が確認でき、シルト質で黒色土粒子、木片等を含む氾濫土の堆積であった。

出土遺物は土師器坏、末野産須恵器甕が検出された。

時期は、出土遺物から７世紀後半と推定できる。



SK33
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 砂多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(ややシルト質 灰白色シルト質土・黄褐色土ブロック含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含
白色粘質土粒子少量含 黄色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
7. オリーブ黒 7.5Y-2/2(しまりやや弱 粘質)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 灰白色砂質土ブロック多量含)
9. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり弱 砂質 黒褐色土ブロック含)

SK34
1. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 灰白色砂質土ブロック多量含)
2. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 粘質 灰白色砂質土含)
3. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 やや粘質 灰白色粘質土ブロック多量含)

SK35
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱)

SK36
1. 表土
2. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質 オリーブ灰色土粒子・ブロック多量含)
3. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
4. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 シルト質 火山灰含)
5. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり強 粘質)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘土粒子少量含 黄色土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 シルト質 灰白色土粒子多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 灰白色シルト質土含)
10. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 火山灰含)
11. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや弱 粘質 黒褐色土粒子・ブロック含)
12. 灰白 5Y-7/2(しまり弱 シルト質 黒褐色土粒子・ブロック多量含)
13. オリーブ黒 5Y-2/2(しまり弱 砂質 酸化鉄微量 灰オリーブ色粘質土ブロック含)
14. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまり弱 やや粘質 黒褐色シルト質土含)
15. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまり弱 シルト質)
16. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 ややシルト質 灰オリーブ色砂質土粒子・ブロック多量含)
17. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 粘質 灰白色シルト質土ブロック含)
18. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 シルト質 灰白色シルト質土ブロック含)
19. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄)
20. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 粘質)
21. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 灰白色・灰オリーブ色土粒子・ブロック含)

SK37
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
3. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 シルト質 火山灰含)
4. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄 噴砂含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 暗灰黄色土粒子・ブロック含)

SK38
1. 黒 7.5Y-2/1(しまり弱 シルト質
にぶい黄色土ブロック含)

SK39
1. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり弱 シルト質)

SK40
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質
酸化鉄少量 火山灰含)
3. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 粘質
酸化鉄少量)
4. オリーブ灰 5GY-5/1(しまり弱 砂質 酸化鉄少量)
5. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまりやや強
やや粘質 酸化鉄微量)
6. 灰白 5Y-7/2(しまり強 粘質 酸化鉄少量)
7. 灰白 5Y-7/2(しまりやや弱 シルト質
酸化鉄微量 黒褐色土粒子含)

SK41
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黄色・黒色土粒子少量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 白色・黒色・赤色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質
黒色土ブロック多量含 木片多量含)
5. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 白色粘質土粒子少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子・ブロック少量含 黄色土粒子多量含
白色粘質土ブロック少量含 木片少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 白色粘質土ブロック少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色・赤色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)

0 2m
1:60

第 76 図　第 33 ～ 41 号土坑

第 31 号土坑（第 75 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 62、63 グリッドから検出された。本遺構と第 35、36 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 35、36 号溝跡を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、東西に長軸をもつ隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸が 1.60 ｍ、検出短軸 0.83 ｍを測り、深さは確認面から 10 ㎝を測る。

断面形は皿状で、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみ堆積が確認でき、非常にしまりのないシルト質で黒色土粒子、木片等を含む氾濫土の堆積であった。

出土遺物は軟質泥岩が１点検出された。

第 32 号土坑（第 75 図）

Ｅ区、ＡＬ－ 51 グリッドから検出された。第 37、38 号溝が重複関係にあり、本遺構が重複関係にあるすべての遺構を切っていた。

平面形は、大半が調査区域外であるが、楕円形、もしくは隅丸方形を呈すると推定される。

規模は、検出長軸が 0.96 ｍ、短軸 1.03 ｍを測り、深さは 67 ㎝を測り、底部は平坦であった。

断面形は逆台形状である。

土層は、断面観察から、３層の堆積が確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第 33 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＭ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 38、39 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 39 号溝跡を切り、第 38 号溝跡に切られていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、南北に長軸をもついびつな楕円形であるが、溝跡としても推定可能である。

規模は、検出長軸が 1.37 ｍ、検出短軸 1.32 ｍを測り、深さは 21 ㎝を測る。

断面形は緩やかなレンズ状で、底部は凹凸があった。

土層は、断面観察から、４層の堆積が確認できた。堆積は一定ではなかった。

出土遺物は土師器の壺・台付甕・坏であった。壺は赤彩が施され、坏はいずれも模倣坏であり、有段口縁坏が多い。

時期は、出土遺物から７世紀後半である。

第 34 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＭ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第１号掘立柱建物跡Ｐ１が重複関係にあり、第１号掘立柱建物跡Ｐ１が本遺構に切られていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、南北に長軸をもついびつな楕円形であるが、溝跡としても推定可能である。

規模は、検出長軸が 2.23 ｍ、検出短軸 1.56 ｍを測り、深さは確認面から 18 ㎝を測る。

断面形は皿状で、底部は凹凸があった。

土層は、断面観察から、３層の堆積が確認できた。堆積は一定ではなかった。

出土遺物は土師器の高坏・坏、須恵器横瓶であった。坏はいずれも模倣坏であり、ほぼすべて有段口縁坏であった。横瓶は産地不明であるが、ロクロによるナデ調整が見事であり、完形品で出土した。

時期は、出土遺物から７世紀後半である。

第 35 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＱ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、東西に長軸をもつ隅丸方形であった。

規模は、長軸が 1.82 ｍ、短軸 0.84 ｍを測り、深さは確認面から６㎝を測る。

断面形は浅い皿状で、底部はやや起伏をもっていた。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第 36 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＱ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第１号土器棺墓が重複関係にあり、本遺構が第１号土器棺墓を切っていた。

平面形は、東西に長軸をもつ半月状と推定される。

規模は、長軸が 2.78 ｍ、短軸 1.47 ｍを測り、深さは 61 ㎝を測る。

断面形は西壁はほぼ垂直で、東壁はほぼ 45° の角度で立ち上がっていた。底部はやや凹凸があり、壁際に集中して、複数の落ち込みが確認できた。

土層は、断面観察から、15 ～ 17 層の堆積が確認できるが、全て人工的な埋土であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 37 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＲ－ 51 グリッドから検出された。本遺構は第 45 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 45 号溝跡に切られていた。また、直接の重複関係ではないが、壁面上で第 46 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 46 号溝跡を切っていた。

平面形は、一部が調査区域外であるものの、東西に長軸をもつ不整形な方形と推定される。

規模は、長軸が 2.94 ｍ、短軸 0.57 ｍを測り、深さは 15 ㎝を測る。

断面形は浅いレンズ状の掘り方で、底部は凹凸があった。

土層は、断面観察から、黒褐色粘質土などの堆積が２層にわたり確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第 38 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＲ－ 51 グリッドから検出された。本遺構は第１号円形状遺構と重複関係にあり、本遺構が第１号円形状遺構を切っていた。

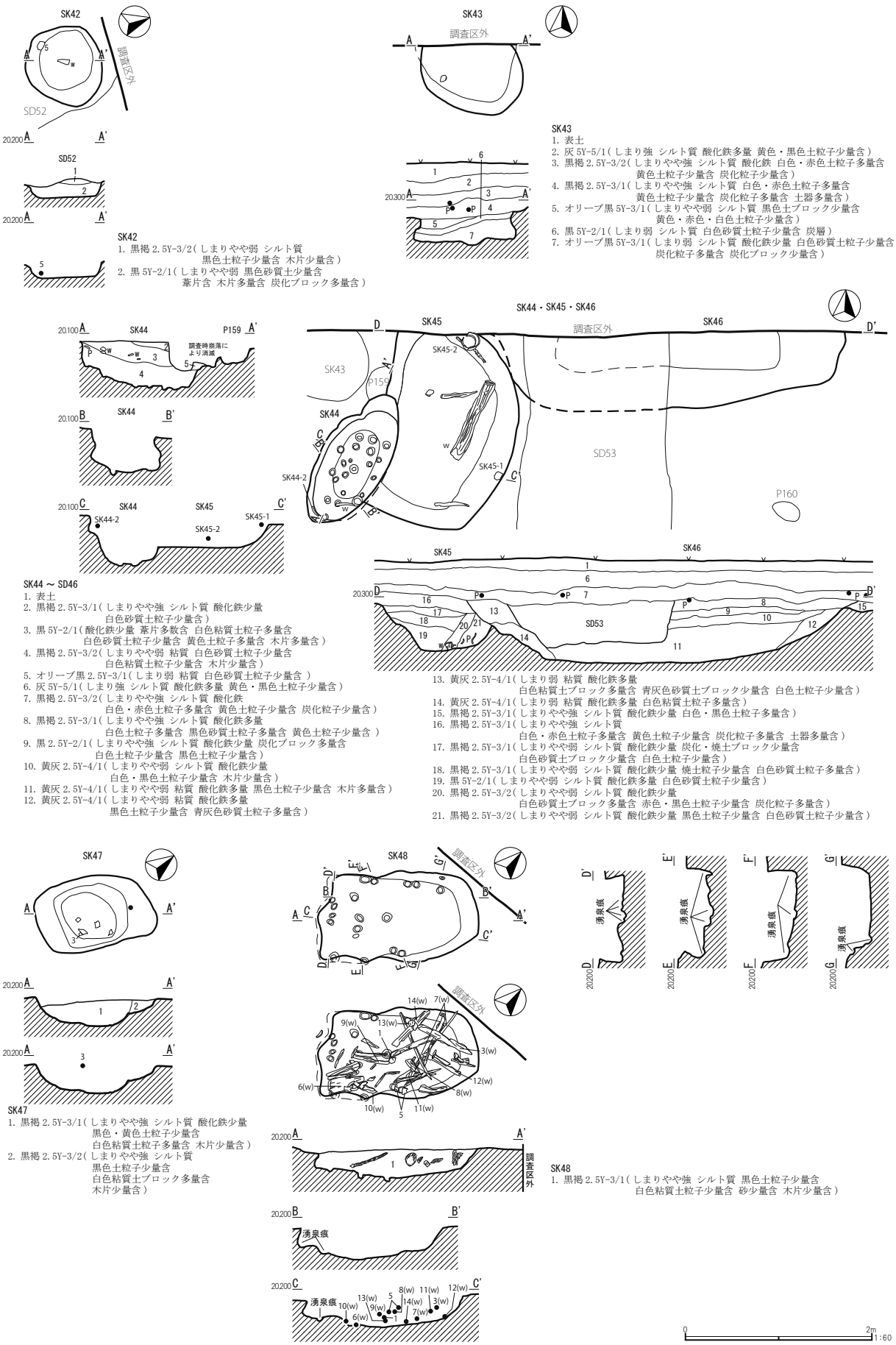
平面形は、東西に長軸をもつ隅丸方形である。

規模は、長軸が 0.88 ｍ、短軸 0.63 ｍを測り、深さは確認面から７㎝を測る。

断面形は浅い皿状の掘り方で、底部はわずかに凹凸があった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。

出土遺物は検出されなかった。



SK42
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質
黒色土粒子少量含 木片少量含)
2. 黒 5Y-2/1(しまりやや弱 黒色砂質土少量含
葦片含 木片多量含 炭化ブロック多量含)

SK43
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黄色・黒色土粒子少量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄 白色・赤色土粒子多量含
黄色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 白色・赤色土粒子多量含
黄色土粒子少量含 炭化粒子多量含 土器多量含)
5. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 黒色土ブロック少量含
黄色・赤色・白色土粒子少量含)
6. 黒 5Y-2/1(しまり弱 シルト質 白色砂質土粒子少量含 炭層)
7. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色砂質土粒子少量含
炭化粒子多量含 炭化ブロック少量含)

SK44 ～ SD46
1. 表土
2. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色砂質土粒子少量含)
3. 黒 5Y-2/1(酸化鉄少量 葦片多数含 白色粘質土粒子多量含
白色砂質土粒子少量含 黄色土粒子多量含 木片多量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 白色砂質土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
5. オリーブ黒 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 白色砂質土粒子少量含)
6. 灰 5Y-5/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黄色・黒色土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄
白色・赤色土粒子多量含 黄色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
白色土粒子多量含 黒色砂質土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
9. 黒 2.5Y-2/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 炭化ブロック多量含
白色土粒子少量含 黒色土粒子少量含)
10. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色・黒色土粒子少量含 木片少量含)
11. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 木片多量含)
12. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量
黒色土粒子少量含 青灰色砂質土粒子多量含)
13. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック多量含 青灰色砂質土ブロック少量含 白色土粒子少量含)
14. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質
白色・赤色土粒子多量含 黄色土粒子少量含 炭化粒子多量含 土器多量含)
17. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 炭化・焼土ブロック少量含
白色砂質土ブロック少量含 白色土粒子少量含)
18. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 焼土粒子少量含 白色砂質土粒子多量含)
19. 黒 5Y-2/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色砂質土粒子少量含)
20. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色砂質土ブロック多量含 赤色・黒色土粒子少量含 炭化粒子多量含)
21. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色砂質土粒子少量含)

SK47
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
黒色・黄色土粒子少量含
白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
2. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質
黒色土粒子少量含
白色粘質土ブロック多量含
木片少量含)

SK48
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 砂少量含 木片少量含)

0 2m
1:60

第 77 図　第 42 ～ 48 号土坑

第 39 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＳ－ 51 グリッドから検出された。本遺構は第 49 号溝跡、第２号性格不明遺構と重複関係にあり、本遺構が重複するすべての遺構を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、不整形な隅丸方形と推定される。

規模は、推定長軸が 1.17 ｍ、推定短軸 1.71 ｍを測り、深さは確認面から 10 ㎝を測る。

断面形は浅いレンズ状の掘り方で、底部はやや凹凸があった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。オリーブ黒色土の堆積土であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 40 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＶ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第３号河川跡が重複遺構であり、第３号河川跡が本遺構に切られていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが方形を呈するものと推定される。

規模は、検出長軸が 1.07 ｍ、短軸 1.38 ｍを測り、深さは 49 ㎝を測る。底部はやや起伏があるものの、平坦であった。

断面形は掘り方が垂直で、底部中央が一段掘り下がっていた。

土層は、断面観察から、３層にわたる堆積が確認できた。いずれも氾濫土の堆積によるもので、水平状の自然堆積であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 41 号土坑（第 76 図）

Ｅ区、ＡＸ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、一部調査区域外であるが、不整形な方形であった。

規模は、検出長軸が 0.73 ｍ、短軸 0.70 ｍを測り、深さは 62 ㎝を測る。

断面形はフラスコ状の掘り方で、底部付近が抉れており、上部は崩落により広がったものと推定される。底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、最大４層の堆積が確認できた。堆積はしまりの弱い、粘質土ブロックを含むオリーブ黒色土や黒褐色土であった。いずれも氾濫土の堆積によるもので、水平状の堆積であった。

出土遺物は穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩が検出された。

第 42 号土坑（第 77 図）

Ｅ区、ＡＹ－ 51 グリッドから検出された。本遺構は第 52 号溝跡と重複関係にあり、第 52 号溝跡に本遺構は切られていた。

平面形は、いびつな楕円形であった。

規模は、長軸が 0.86 ｍ、短軸 0.82 ｍを測り、深さは確認面から 20 ㎝を測る。

断面形は逆台形状の掘り方で、底部はやや平坦であった。

土層は、重複する第 52 号溝跡に切られているものの、断面観察から、２層の堆積が確認できた。覆土は黒褐色土と黒色土であり、木片なども包含することから氾濫土と推定される。

出土遺物は土師器の甕・坏、須恵器の蓋・盤であった。

時期は、出土遺物から７世紀末から８世紀初めと推定される。

第 43 号土坑（第 77 図）

Ｅ区、ＡＹ－ 51 グリッドから検出された。重複関係にある遺構は検出されなかった。

平面形は、一部調査区域外であるが、楕円形を呈すると推定される。

規模は、推定長軸が 1.14 ｍ、推定短軸 0.84 ｍを測り、深さは 30 ㎝を測る。底部はやや凹凸をもっていた。

断面形は両壁面とも上部は垂直の掘り方で、底部付近はオーバーハングとなっていた。

土層は、断面観察から、３層にわたる堆積が確認でき、オリーブ黒色シルト質土の堆積に挟まれる形で炭化物層が傾斜した状態で検出された。

出土遺物は検出されなかった。

第 44 号土坑（第 77 図）

Ｅ区、ＡＹ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 45 号土坑、第 159 号ピットが重複関係にあり、第 45 号土坑、第 159 号ピットを切っていた。

平面形は、南北に長軸をもつ楕円形を呈していた。

規模は、長軸が 1.58 ｍ、短軸 0.72 ｍを測り、深さは確認面から 47 ㎝を測る。底部はやや凹凸をもち、複数箇所に湧水痕と推定される穿孔が確認できた。

断面形はいずれもほぼ垂直の掘り方で、底部はレンズ状であった。

土層は、断面観察から、３層にわたる堆積が確認でき、木片、植物片を多く含む黒褐色土などの氾濫土による堆積であり、堆積はレンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は土師器の高坏・坏であった。坏は内外面とも煤が付着している有段口縁坏であった。

時期は、出土遺物から７世紀後半である。

第 45 号土坑（第 77 図）

Ｅ区、ＡＹ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 44、46 号土坑、第 159 号ピットが重複関係にあり、第 159 号ピットを切り、第 44、46 号土坑に切られていた。

平面形は、一部が調査区域外であるが、隅丸方形を呈するものと推定される。

規模は、検出長軸が 2.13 ｍ、短軸 1.45 ｍを測り、深さは 47 ㎝を測る。

断面形は立ち上がりがおよそ 45° の掘り方で逆台形状で、底部は平坦であった。

土層は、北壁の観察から、５層にわたる堆積が確認でき、複数の水平堆積土層には、含有物に焼土を確認できた。いずれも黒色シルト質で、焼土以外にも複数の含有物を含む。

なお、水平堆積後にほぼ縦に掘り込みがあったようで、第 19、20 層にそれが確認できる。

出土遺物は土師器甕が２点のみ図化できた。

時期は、出土遺物から７世紀中葉と推定される。

第 46 号土坑（第 77 図）

Ｅ区、ＡＹ－ 51 グリッドから検出された。本遺構は第 53 号溝跡、第 45 号土坑と重複関係にあり、本遺構は第 45 号土坑を切り、第 53 号溝跡に切られていた。

平面形は、大部分が調査区域外であるため不明である。

規模は、推定長軸が 3.81 m、推定短軸 0.80 mを測り、深さは 68 cmを測る。

断面形はレンズ状の掘り方で、底部はやや平坦であった。

土層は、一部重複関係にある第 53 号溝跡に切られているが、断面観察から、約 7 層にわたる堆積が確認でき、レンズ状堆積から、水平堆積を経て埋没していくことが分かる。覆土の多くは黒褐色、黄灰色などの粘質土やシルト質土であり、木片なども包含することから氾濫土と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 47 号土坑（第 77 図）

Ｅ区、ＡＺ－ 51 グリッドから検出された。重複する遺構は確認されていないが第 48 号土坑と接していた。

平面形は、南北軸に長い隅丸方形を呈していた。

規模は、長軸が 1.22 m、短軸 0.78 mを測り、深さは確認面から 28 cmを測る。底部は丸味を帯びていた。

断面形はレンズ状で、東側の立ち上がりは一段掘り下がっていた。

土層は、断面観察から、２層にわたる堆積が確認でき、レンズ状の自然堆積であった。

第 48 号土坑に隣接していることから、貯木施設として掘り下げたことも考えられる。

出土遺物は土師器の坏･鉢で、坏はすべて模倣坏と考えられ、１点は内面に放射線状暗文が残存する。

時期は、出土遺物から 7 世紀後半である。

第 48 号土坑（第 77 図）

Ｅ区、ＡＺ、ＢＡ－ 51 グリッドから検出された。重複する遺構は確認されなかったが、第 47 号土坑と接していた。

本遺構は部材や木製品を水漬けした貯木遺構と推定される。

平面形は、東西軸に長い隅丸方形を呈していた。

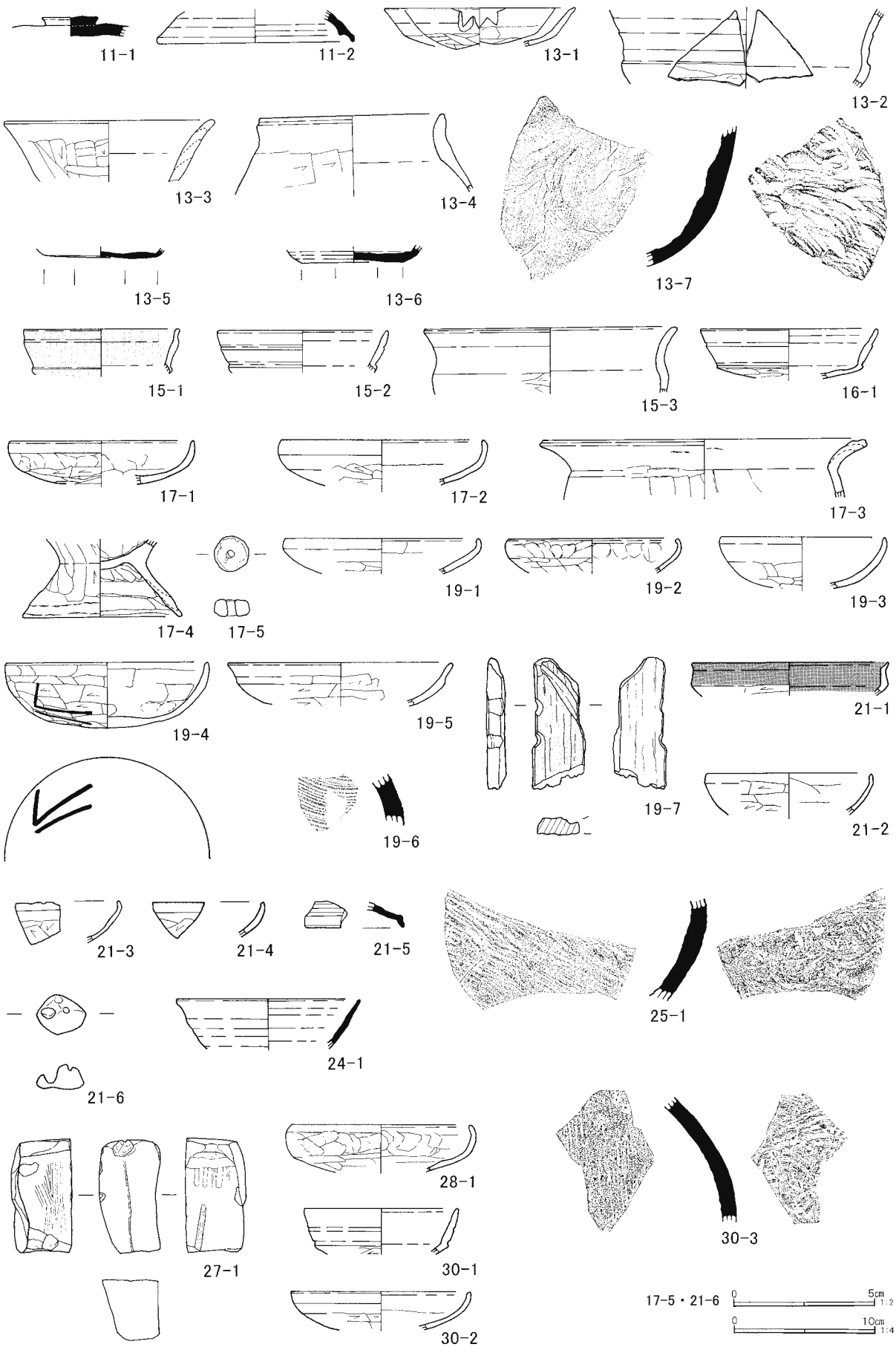
規模は、長軸が 1.72 m、短軸 0.97 mを測り、深さは確認面から 31 cmを測る。底部はほぼ平坦であり、複数箇所に湧水痕と推定される穿孔が確認できた。よって本遺構は流水中の貯木ではなく、湧水による貯木施設と考えられる。

断面形は東西軸は約 45° の角度で立ち上がり、南北軸には逆台形状で、西側の立ち上がりは袋状の掘り方であった。

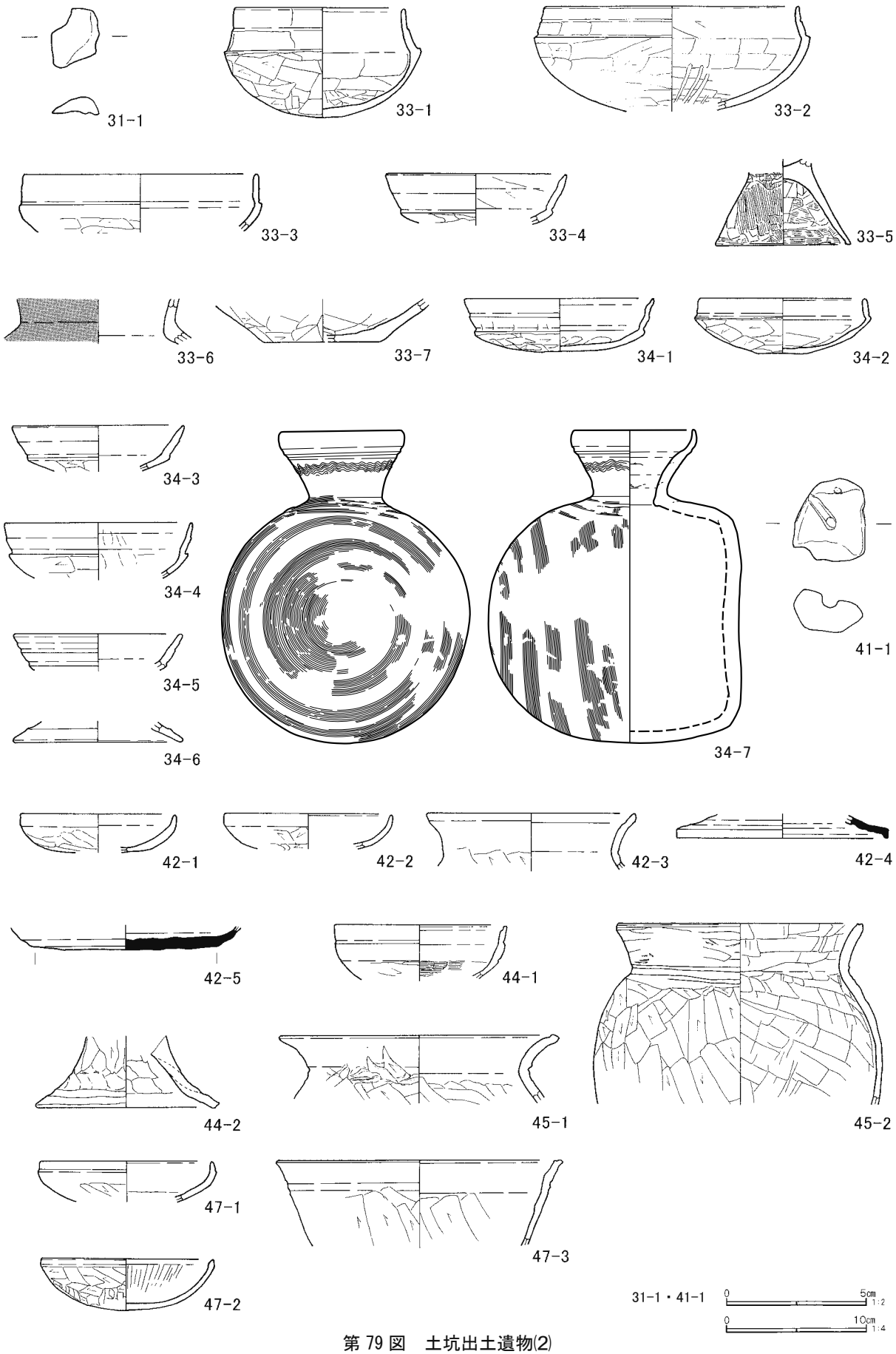
出土遺物は土師器の坏・甕や須恵器蓋が検出されたが、大部分は部材などの木製品であった。土器では、土師器坏はいずれも有段口縁坏であり、須恵器蓋は湖西産である。木製品は鋤、壺鐙、建築材、布巻具、杭など多様な種類が検出された。いずれも散逸した状態で検出され、特に６の鋤、13 の垂木は２次加工が施された可能性、14 の建築材は継手加工痕があることから、加工品の一時保管場所としての性格を有していた可能性が考えられる。

一方で、８の建築材は一部炭化していることから、廃材を遺棄した廃棄土坑という可能性も考えられる。

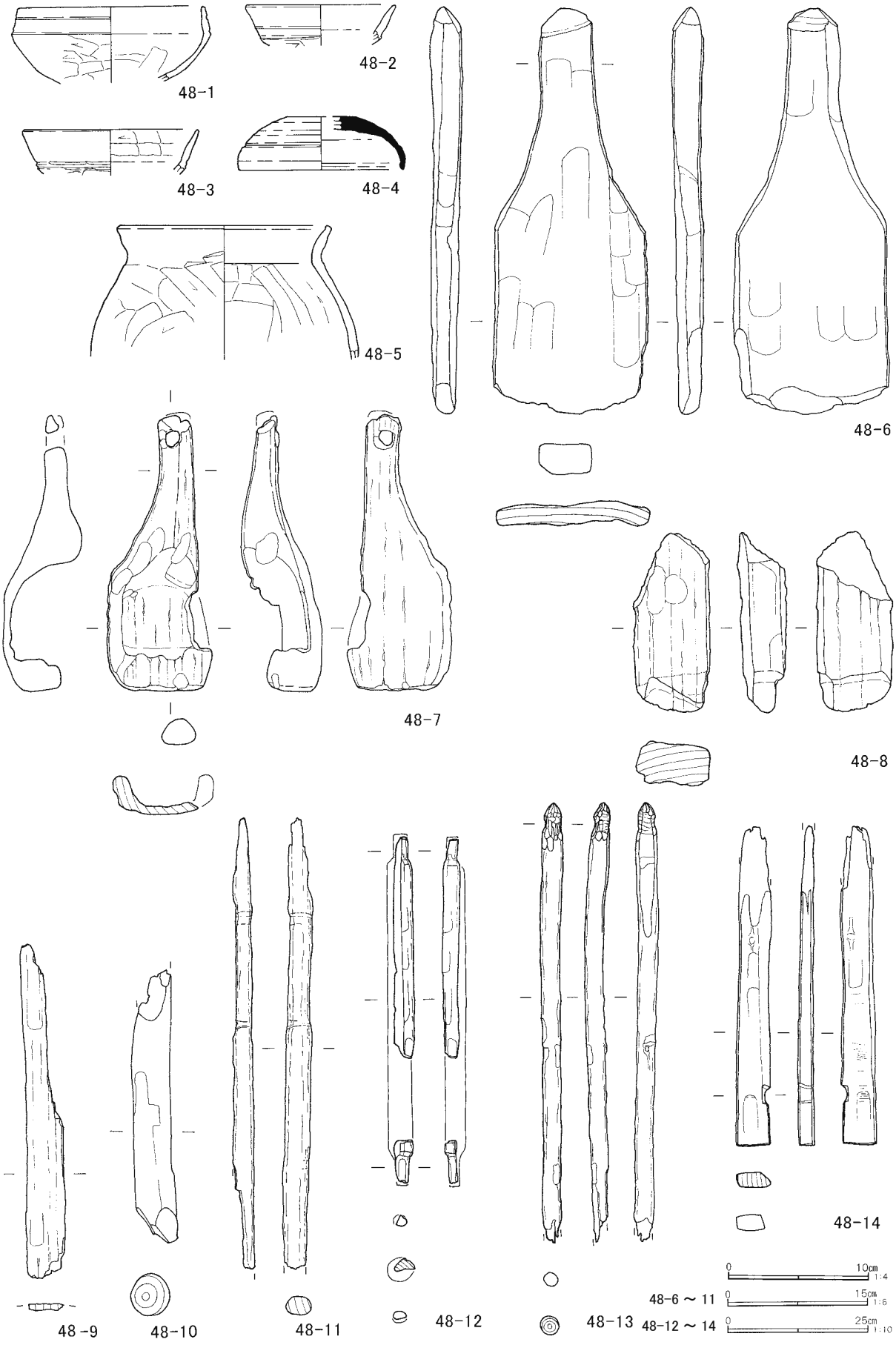
時期は、出土遺物などから 7 世紀中葉と推定される。



第 78 図　土坑出土遺物(1)



第 79 図　土坑出土遺物(2)



第 80 図　土坑出土遺物(3)

第 14 表　土坑出土遺物観察表(1)（第 78 ～ 80 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SK11	11-1	須恵器 蓋	鈕径 3.8	(1.4)	-	ABM	外面：灰白 5Y-7/1 灰 N-5/ 内面：灰白 2.5Y-7/1	B	鈕部片		末野産
SK11	11-2	須恵器 蓋	(14.0)	(1.4)	-	ABM	灰白 10YR-7/1	B	口縁部片		末野産
SK13	13-1	土師器 坏	(13.4)	(2.7)	-	ABDI	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	刃物による打撃痕 有
SK13	13-2	土師器 鉢	-	(5.5)	-	ABIKM	灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁
SK13	13-3	土師器 鉢	(14.8)	(4.4)	-	DEMN	にぶい赤褐 5YR-4/3	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK13	13-4	土師器 甕	(13.0)	(5.7)	-	ABDMN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK13	13-5	須恵器 坏	-	(0.5)	(8.0)	AFMN	灰白 10YR-7/1	B	底部 30%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
SK13	13-6	須恵器 坏	-	(1.1)	7.2	ABFM	灰 N-6/	A	底部 100%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
SK13	13-7	須恵器 甕	-	-	-	ABMN	灰 5Y-6/1	B	胴部片	外面：ナデ 内面：同心円タタキ目	末野産
SK15	15-1	土師器 坏	(11.0)	(3.2)	-	ABDI	黒 7.5YR-2/1	B	口縁～体部片		有段口縁 内外面黒色処理
SK15	15-2	土師器 坏	(12.0)	(3.0)	-	ABDK	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～体部片		有段口縁
SK15	15-3	土師器 鉢	(18.0)	(4.7)	-	BIKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：橙 7.5YR-6/6	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ	
SK16	16-1	土師器 坏	(12.4)	(3.5)	-	ABDI	褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁 内外面スス付着
SK17	17-1	土師器 坏	(13.0)	(3.0)	-	ABIKMN	橙 5YR-7/6	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK17	17-2	土師器 坏	(15.8)	(3.3)	-	ABIKMN	にぶい褐 7.5YR-5/3	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK17	17-3	土師器 甕	(26.0)	(4.7)	-	BDKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK17	17-4	土師器 台付甕	-	(5.6)	11.2	ABEIM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	脚部 60%	外面：ヘラケズリ、端部ヨコナデ 内面：ナデ	外面スス付着
SK17	17-5	石製品 臼玉	最大長 1.3　最大幅 1.2　最大厚 0.6　孔径 0.3　重さ 1.1g						一部欠損	外面：穿孔後研磨	
SK19	19-1	土師器 坏	(13.6)	(2.5)	-	ABIKM	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK19	19-2	土師器 坏	(12.0)	(2.4)	-	ABIKM	橙 5YR-6/6	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK19	19-3	土師器 坏	(11.8)	(3.6)	-	AEIM	にぶい黄橙 10YR-7/2	A	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK19	19-4	土師器 坏	(14.3)	(4.7)	-	AIM	外面：橙 5YR-7/6 内面：浅黄橙 7.5YR-8/6	A	40%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ、指頭圧痕	外面底部墨書
SK19	19-5	土師器 坏	(15.8)	(3.0)	-	ABDI	橙 5YR-7/6	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK19	19-6	須恵器 提瓶	-	(3.6)	-	AM	外面：灰 10Y-6/1 内面：灰 N-5/	B	胴部片	外面：カキ目	末野産
SK19	19-7	木製品 火鑽臼	最大長 (9.4)　最大幅 (3.8)　最大厚 1.5							木取：柾目 曲物底板→火鑽臼→燃えさしと転用	炭化物付着
SK21	21-1	土師器 坏	(13.9)	(2.4)	-	AMN	にぶい橙 7.5YR-7/4	A	口縁～体部片	外面：ヘラケズリ	比企型坏 内外面赤彩
SK21	21-2	土師器 坏	(11.8)	(3.0)	-	AIM	にぶい黄橙 5YR-7/4	A	口縁～体部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK21	21-3	土師器 坏	-	-	-	ABKM	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ	
SK21	21-4	土師器 坏	-	-	-	ABDIMN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ	
SK21	21-5	須恵器 蓋	-	-	-	AFGH	褐灰 10YR-6/1	A	口縁部片		南比企産
SK21	21-6	軟質泥岩	最大長 1.4　最大幅 1.8　最大厚 0.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
SK24	24-1	須恵器 坏	(13.0)	(3.5)	-	AB	灰白 N-7/	B	口縁 30%		南比企産
SK25	25-1	須恵器 甕	-	-	-	ABN	灰 N-5/	B	胴部片	外面：平行タタキ目 内面：同心円タタキ目	末野産

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SK27	27-1	石製品 砥石	最大長 8.1　最大幅 4.3　最大厚 4.4　重さ 220g								凝灰岩
SK28	28-1	土師器 坏	(14.6)	(3.3)	-	AIM	明褐灰 7.5YR-7/2	A	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK30	30-1	土師器 坏	(11.0)	(3.2)	-	BDIKM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SK30	30-2	土師器 坏	(12.6)	(2.7)	-	ABK	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK30	30-3	須恵器 甕	-	-	-	ABM	灰 N-6/	B	胴部片	外面：平行タタキ目 内面：同心円タタキ目	末野産
SK31	31-1	軟質泥岩	最大長 2.1　最大幅 1.7　最大厚 0.6								
SK33	33-1	土師器 坏	12.0	7.9	-	ABIK	褐灰 10YR-5/1	B	90%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ、指頭圧痕	内外面スス付着
SK33	33-2	土師器 坏	(18.0)	(7.4)	-	BDIKMN	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～底部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	内外面スス付着
SK33	33-3	土師器 坏	(16.6)	(4.2)	-	ABDHKM	にぶい橙 5YR-6/4	B	口縁～体部片	外面：ヘラケズリ	
SK33	33-4	土師器 坏	(12.8)	(3.6)	-	ABIM	黒褐 7.5YR-3/1	B	10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁 内外面スス付着
SK33	33-5	土師器 台付甕	-	6.1	9.7	ABDHIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	脚部 70%	内外面：ハケ目	
SK33	33-6	土師器 壺	-	(3.2)	-	EM	外面：赤 10R-4/8 内面：浅黄橙 10YR-8/3	C	頸部片	外面：ヨコナデ	外面赤彩
SK33	33-7	土師器 壺	-	(3.1)	(8.5)	ABJM	外面：灰白 10YR-8/2 褐灰 10YR-4/1 内面：灰白 2.5Y-8/1	B	底部 50%	外面：胴部・底面ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK34	34-1	土師器 坏	(13.4)	(3.8)	-	ABDK	にぶい橙 5YR-7/4	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁
SK34	34-2	土師器 坏	(11.8)	3.9	(3.4)	AEIM	明赤褐 2.5YR-5/8 底部外面：にぶい黄橙 10YR-7/4	A	50%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
SK34	34-3	土師器 坏	(12.2)	(3.3)	-	ABEKM	橙 5YR-6/8	B	10%	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SK34	34-4	土師器 坏	(13.3)	(4.0)	-	AEIM	橙 5YR-6/6 にぶい橙 7.5YR-7/4	A	20%	外面：ヘラケズリ 内面：指頭圧痕	有段口縁
SK34	34-5	土師器 坏	(12.0)	(2.6)	-	BDIM	黒褐 10YR-3/1	B	口縁～体部片		有段口縁 内外面スス付着
SK34	34-6	土師器 高坏	-	(1.5)	(11.8)	ABIK	橙 2.5YR-6/6	B	脚部 20%	内外面：ナデ	
SK34	34-7	須恵器 横瓶	8.8	23.0	-	AGHM	灰 10Y-5/1	B	90%	外面：口縁部櫛描波状文 (7 条) ロクロによる櫛描工具でのナデ調整 同一工具によるカキ目痕有 側面平行タタキ後ナデ調整 内面：一部に同心円状アテ具痕及びナデ 側面塞ぎ痕有	産地不明
SK41	41-1	軟質泥岩	最大長 3.0　最大幅 2.6　最大厚 1.5							穿孔貝巣穴痕跡有	
SK42	42-1	土師器 坏	(11.0)	(2.8)	-	ABIMN	にぶい橙 7.5YR-6/3	B	40%	外面：ヘラケズリ後ナデ	
SK42	42-2	土師器 坏	(12.0)	(2.5)	-	ABIM	橙 5YR-6/6	B	10%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
SK42	42-3	土師器 甕	(14.6)	(4.0)	-	ABDMN	灰黄褐 10YR-5/2 黒褐 10YR-3/1	B	口縁～頸部 20%	外面：ヘラケズリ	
SK42	42-4	須恵器 蓋	(15.0)	(1.7)	-	M	外面：灰 N-4/ 内面：灰白 10YR-8/1	B	口縁部片		末野産
SK42	42-5	須恵器 盤	-	(1.5)	(13.1)	ABMN	灰褐 5YR-6/2	B	底部 20%	外面：底面糸切後全面ヘラケズリ	末野産
SK44	44-1	土師器 坏	(12.2)	(3.9)	-	ABJM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 黒褐 10YR-3/2 内面：褐灰 10YR-4/1	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ハケ目	有段口縁 内外面スス付着
SK44	44-2	土師器 高坏	-	(5.2)	(12.6)	M	外面：橙 5YR-6/6 内面：明赤褐 2.5YR-5/6	B	脚部 20%	外面：ヘラケズリ後端部ヨコナデ 内面：ナデ	
SK45	45-1	土師器 甕	(19.0)	(4.9)	-	ABDI	外面：明褐灰 7.5YR-7/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK45	45-2	土師器 甕	17.1	(13.0)	-	AEJM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	70%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	

第 14 表　土坑出土遺物観察表(2)（第 78 ～ 80 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SK47	47-1	土師器 坏	(12.0)	(2.7)	-	ABIM	橙 5YR-6/6	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK47	47-2	土師器 坏	12.2	3.7	-	ABDK	橙 5YR-6/6	B	70%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文一部残存	
SK47	47-3	土師器 鉢	(20.4)	(6.3)	-	ABDIMN	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK48	48-1	土師器 坏	(13.2)	(5.3)	-	ABIKM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：橙 5YR-7/6	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁
SK48	48-2	土師器 坏	(10.6)	(2.9)	-	ABDI	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～体部片	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SK48	48-3	土師器 坏	(12.4)	(3.1)	-	AI	褐灰 10YR-4/1	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	内外面スス付着
SK48	48-4	須恵器 蓋	(11.6)	(3.8)	-	ABM	灰 7.5Y-6/1	B	天井部～口縁 部片	外面：天井部糸切後全面ヘラケズリ	湖西産
SK48	48-5	土師器 甕	(14.8)	(9.6)	-	ABEMN	灰褐 7.5YR-4/2 明赤褐 2.5YR-5/8	B	口縁～頸部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SK48	48-6	木製品 鋤	最大長 43.6　最大幅 16.4　最大厚 2.8							木取：板目 一本鋤 上端部を先鋭に尖らせている (二次加工カ)	
SK48	48-7	木製品 壺鐙	最大長 (29.7)　最大幅 (11.1)　最大厚 (2.4)							木取：横木 みかん割を使用	
SK48	48-8	木製品 建築材	最大長 19.0　最大幅 8.1　最大厚 4.6						上下端欠損	木取：板目 上端は炭化	
SK48	48-9	木製品 板材	最大長 (35.7)　最大幅 (3.8)　最大厚 (0.8)						全面欠損	木取：柾目	
SK48	48-10	木製品 杭	最大長 (29.5)　最大幅 4.3　最大厚 4.6							木取：芯持丸木	
SK48	48-11	木製品 棒材	最大長 (48.5)　最大幅 2.7　最大厚 2.0						下半部欠損	木取：柾目 数ヶ所紐かけ痕 弓の可能性有	
SK48	48-12	木製品 織機　布巻具	最大長 63.0(復元値)　最大幅 (3.8)　最大厚 (2.0)						一部のみ欠損	木取：柾目 棒状に加工し、上下両端を細く加工して持ち手としている	
SK48	48-13	木製品 垂木	最大長 (78.2)　最大幅 3.8　最大厚 3.3						下半部欠損	上端を先鋭に加工	
SK48	48-14	木製品 建築材	最大長 (57.2)　最大幅 6.0　最大厚 2.7						上端部欠損	木取：柾目 上端部は欠損 下方に鑿で加工、相欠き継ぎの加工がある	

7　溝跡

第１号溝跡（第 81 図）

Ａ区、ＢＨ、ＢＩ－17 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は大きく南東へ傾いた南北軸方向に延伸していた。

規模は、検出長 3.04 ｍ程度、検出幅 0.50 ～ 0.79 ｍを測り、深さは確認面から 0.19 ｍを測る。

平面形は、直線状に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部は丸かった。

土層は、断面観察から、２層のみであった。

断面形は両壁面とも 45° 程度の傾きで立ち上がっていた。

出土遺物は、検出されなかった。

第２号溝跡（第 81 図）

Ａ区、ＢＨ、ＢＩ－17 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構はほぼ南北軸に延伸し、南へわずかに傾斜していた。

規模は、検出長 2.59 ｍ程度、検出幅 0.45 ～ 0.59 ｍを測り、深さは確認面から 0.20 ｍを測る。

平面形は、直線状に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部はやや平坦であった。

土層は、断面観察から、堆積は２層のみであった。

断面形は逆台形状であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第３号溝跡（第 81 図）

Ａ区、ＢＣ－20 グリッドから検出された。第８号ピットと重複関係にあり、本遺構が第８号ピットに切られていた。

本遺構はほぼ東西軸に延伸していた。

規模は、検出長 2.70 ｍ程度、検出幅 0.82 ～ 1.69 ｍを測り、深さは 0.30 ｍを測る。

平面形は、直線状に延伸し、溝幅は西から東へと狭くなり、底部は凹凸を多くもっていた。

土層は、断面観察から、１層のみで、一部噴砂により消滅していた。氾濫土によって埋没したものと推定される。

断面形はレンズ状であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第４号溝跡（第 81 図）

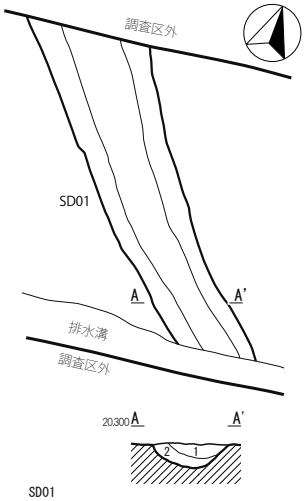
Ａ区、ＢＣ－22 グリッドから検出された。第 26、27 号ピットと重複関係にあり、本遺構が第 26、27 号ピットに切られていた。

本遺構はほぼ東西軸に延伸していた。

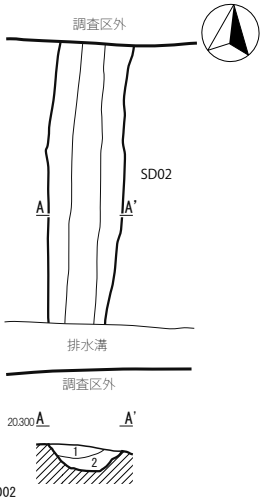
規模は、検出長 2.68 ｍ程度、検出幅 1.28 ～ 1.87 ｍを測り、深さは 0.38 ｍを測る。

平面形は、直線状に延伸し、溝幅は東から西に窄まり、底部は平坦であった。

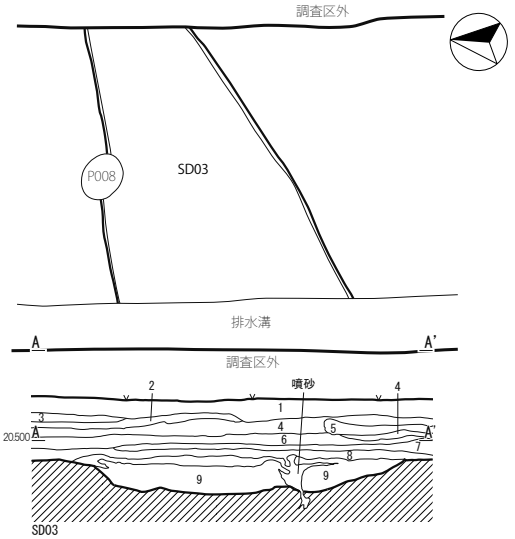
土層は、断面観察から、５～６層確認でき、平面上で確認できたのは第 10 層のみであった。



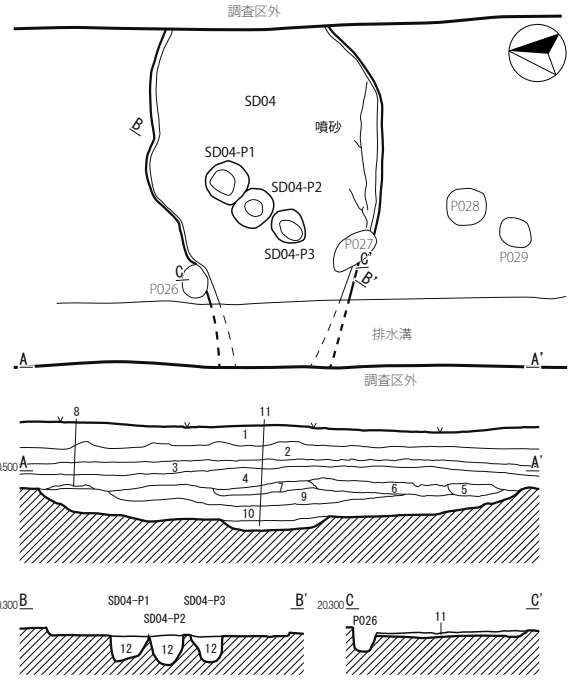
SD01
1. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄)
2. 灰 5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄)



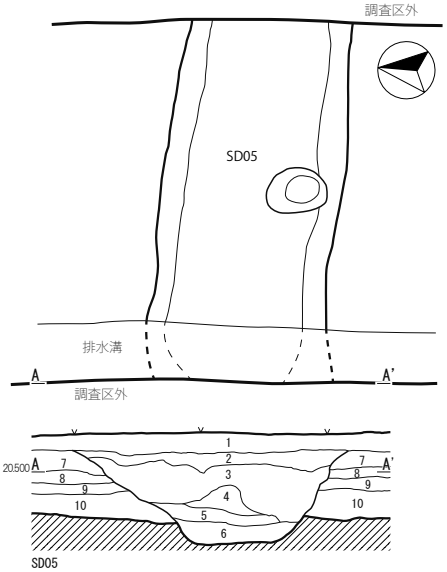
SD02
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 ややシルト質
一部灰白色粘質土ブロック含)
2. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 やや粘質
黒褐色・灰白色粘質土ブロック含)



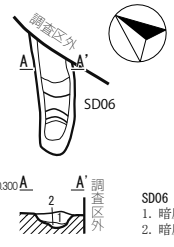
SD03
1. 表土
2. オリーブ褐 2.5Y-4/3(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量
白色土粒子多量含 黒色土粒子少量含)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 粘質 白色・黒色土粒子多量含 酸化鉄多量含)
4. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
5. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量
白色・黒色土粒子少量含 砂少量含 木片多量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含)
7. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
白色土粒子多量含 黒色土粒子少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
9. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 砂少量含 木片多量含)



SD04
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含 黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色・赤色土粒子多量含
白色・黄色土粒子少量含 木片少量含)
8. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや強 やや砂質)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 木片少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 砂少量含 木片多量含)
11. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 砂多量含 木片少量含)
12. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 砂多量含)



SD05
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄 黒褐色土ブロック含)
3. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 黒褐色粘質土粒子・ブロック多量含)
4. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 一部灰白色粘質土ブロック含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 灰白色シルト質土ブロック含)
6. 緑灰 7.5GY-5/1(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)
7. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
8. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)



SD06
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 砂質)

0 2m
1:60

第 81 図　第１～６号溝跡

断面形は立ち上がりが緩やかな逆台形状の落ち込み（深さ 8 ㎝）の中央にさらに落ち込み（深さ 27 ㎝）を有していた。

出土遺物は、検出されなかった。

第５号溝跡（第 81 図）

Ａ区、ＢＣ－ 24 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構はほぼ東西軸で延びていた。

規模は、検出長 2.88 ｍ程度、検出幅 1.28 ～ 1.42 ｍを測り、深さは 0.72 ｍを測る。

平面形は、直線状に延伸し、溝幅は一定の間隔をもっていて、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、５層確認でき、第３層が著しくいびつな堆積をしているが、それ以外は水平状の自然堆積であった。

断面形は壁面がおよそ 45° に傾斜しＶ字に近い、逆台形状であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第６号溝跡（第 81 図）

Ａ区、ＢＣ－ 24 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は南西方向に延び、調査区中央手前で終結していた。

規模は、検出長 0.83 ｍ程度、検出幅 0.25 ～ 0.30 ｍを測り、深さは確認面から 0.13 ｍを測る。東側と西側で落ち込みがみられた。

平面形は、ほぼ直線状に延伸し、溝幅は一定の間隔をもち、底部は丸味を帯びていた。

土層は、断面観察から、２層のみ確認できた。

出土遺物は、検出されなかった。

第７号溝跡（第 82 図）

Ａ区、ＢＣ－ 24、25 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は東西軸で延びていた。

規模は、検出長 2.68 ｍ程度、検出幅 3.36 ～ 3.45 ｍを測り、深さは 0.14 ｍを測る。

平面形は、直線状に延伸し、溝幅は一定の間隔をもち、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。

断面形は皿状であった。

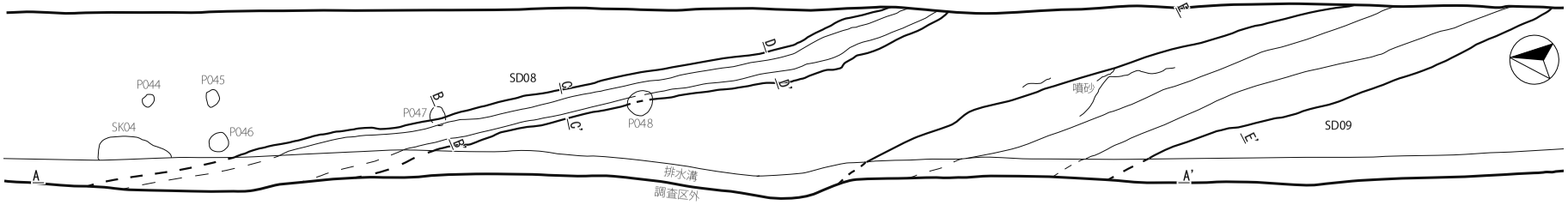
出土遺物は、検出されなかった。

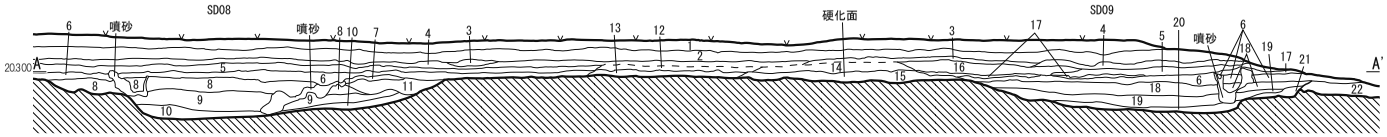
第８、９号溝跡（第 82 図）

Ａ区、ＢＣ－ 27 ～ 29、ＢＤ -29 グリッドから検出された。本遺構と第 47、48 号ピットが重複関係にあり、本遺構の北溝が第 47 号ピットを切り、第 48 号ピットに切られていた。

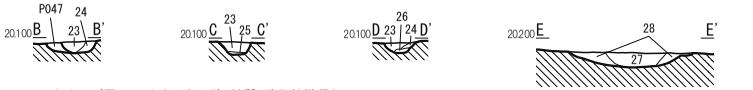
両溝とも平行しては大きく南東へ傾いた南北軸方向に延伸していた。

規模は、第８号溝跡が検出長 11.37 ｍ、検出幅 0.43 ～ 0.66 ｍを測り、深さは 0.55 ｍ、第９号溝跡が検出長 8.26 ｍ、検出幅 1.31 ～ 1.42 ｍを測り、深さは 0.44 ｍを測る。両溝とも軸方向はいずれもＮ -113° －Ｗを指し、平行に延び、両溝の間隔は両溝内端で 1.45 ～ 2.09 ｍ、外端で 4.29 ～ 4.82 ｍであった。



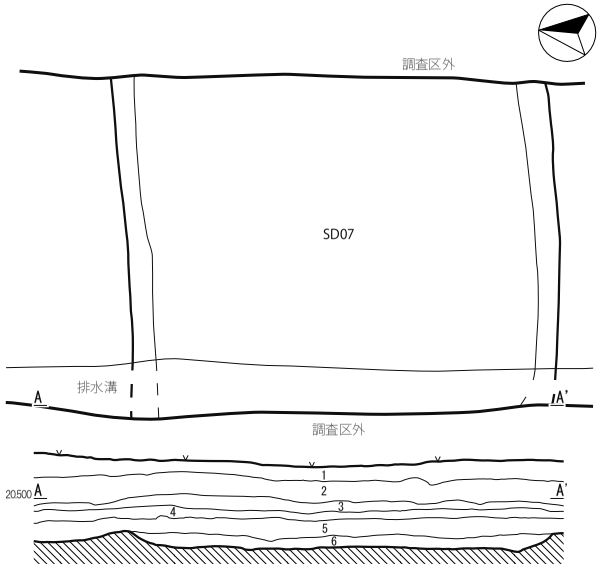


SD08・SD09
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 砂多量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)
7. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂・木片少量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂・木片少量含)
9. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 砂少量含 木片多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまり弱 粘質 白色粘質土粒子含 木片少量含)
11. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
12. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 砂粒子少量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量)
14. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 砂粒子多量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりかなり強 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 砂ブロック多量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂多量含 白色土粒子少量含 木片少量含 砂粒子多量含)
17. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色砂質土ブロック多量含 木片多量含)
18. 黒 5Y-2/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂少量含 木片多量含)
19. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 木片多量含)
20. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子含)
21. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土多量含 木片多量含)
22. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 φ5～40㎜小石少量含)



23. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
24. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 粘質)
25. 灰 5Y-4/1(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)
26. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 黒色砂質土ブロック含)

27. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂・木片少量含)
28. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂・木片多量含)



SD07
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)

0 4m 1:100
0 2m 1:60

第82図　第７～９号溝跡

溝の平面形は、第８号溝跡は東壁付近でやや屈曲するが、ほぼ直線に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔であった。第９号溝跡は西壁付近でわずかに屈曲するが、直線的であり、溝幅も一定の間隔であった。底部は両溝とも丸味を帯びていた。

断面形は、壁面観察から確認すると、どちらも互いに接する側が緩やかな立ち上がりで、外側は急な角度で立ち上がっていた。

土層は断面観察から４～５層の堆積が確認でき、いずれも木片を含む氾濫土による水平堆積であった。

本遺構には硬化面が確認でき、壁面観察から、重なり合う状態で２層確認でき、含有物の違いでさらに分層できた。第 12、13 層硬化帯は幅 18 ㎝、第 14、15 層硬化帯は幅 25 ㎝とほぼ同じ厚さであった。さらに下層の第 17 層は含有物から氾濫土であるが、やや硬化しているため、氾濫土をそのまま突き固めた可能性も考えられる。

このことから、本遺構は道路状遺構の側溝もしくは、硬化面は畦畔であり、灌漑水路として本遺構を利用した可能性が考えられる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 10 号溝跡（第 83 図）

Ａ区、ＢＣ、ＢＤ－ 29、30 グリッドから検出された。本遺構と第 11 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 11 号溝跡に切られていた。なお、この遺構付近は周辺に比べやや確認面が高かった。

本遺構は流路を西から南へ屈曲させながら延び、調査区中央付近で第 11 号溝跡に切られていた。

規模は、検出長 1.84 ｍ程度、検出幅 0.25 ～ 0.26 ｍを測り、深さは 0.10 ｍを測る。

平面形は、大きく屈曲しながら延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は緩やかな丸みをもっていた。

土層は、壁面観察から１層のみ検出された。

出土遺物は、検出されなかった。

第 11 号溝跡（第 83 図）

Ａ区、ＢＣ－ 30、ＢＤ -29、30 グリッドから検出された。本遺構と第 10 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 10 号溝跡を切っていた。なお、この遺構付近は周辺に比べやや確認面が高かった。

本遺構はやや進路を西から南へ屈曲させながら延び、調査区中央付近で終結していた。

規模は、検出長 4.26 ｍ程度、検出幅 0.27 ～ 0.39 ｍを測り、深さは 0.20 ｍを測る。

平面形は、四半円状の弧を描くように屈曲しながら延伸し、溝幅は一定の間隔をもっていた。断面形は、Ｖ字状であった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。

出土遺物は、検出されなかった。

第 12 号溝跡（第 83 図）

Ａ区、ＢＤ－ 31 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は東西軸方向で検出され、調査区中央で終結していた。

規模は、検出長 1.75 ｍ程度、検出幅 0.47 ～ 0.72 ｍを測り、深さは確認面から 0.13 ｍを測る。

平面形はわずかに屈曲しながら延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔で、底部は凹凸が目立っていた。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。

出土遺物は、検出されなかった。

第 13 号溝跡（第 83 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 33 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構はないが、後世に掘り込まれた攪乱が直上にあった。

本遺構は流路を北に向け、南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 1.22 ｍ程度、検出幅 0.40 ～ 0.70 ｍを測り、深さは 0.32 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅は北に向かって広がり、底部は丸味を帯びていた。

土層は、断面観察から、２層のみ確認できたが、攪乱による影響で詳細は不明であった。断面形は、Ｕ字状の掘り方であった。

出土遺物は、１点のみ土師器壺が検出された。

時期は出土遺物がわずかのため不明である。

第 14 号溝跡（第 83 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 33 グリッドから検出された。本遺構と第 57 号ピットが重複関係にあり、本遺構が第 57 号ピットに切られていた。また、断面上でのみ、後世に掘り込まれた攪乱が直上にあった。

本遺構は流路は不明だが、南北軸方向に延びると考えられる。

規模は、検出長 2.89 ｍ程度、検出幅 1.24 ｍを測り、深さは確認面から 0.31 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅の状況は不明であったが、底部は凹凸があるものの、ほぼ平坦であった。

土層は、断面観察から、２層のみ確認できたが、攪乱による影響で詳細は不明であった。断面形は、逆台形状の掘り方であった。

出土遺物は、１点のみ土師器壺が検出された。

時期は出土遺物がわずかのため不明である。

第 15 号溝跡（第 83 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 34 グリッドから検出された。第 16 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 16 号溝跡を切っていた。

平面形は、一部排水溝に切られていたが、北西に延伸し、調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長が 2.07 ｍ、検出幅 0.81 ｍを測り、深さは確認面から 0.11 ｍを測る。底部はやや平坦であった。

平面形は、やや湾曲しながらも直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定で、底部は平坦であった。

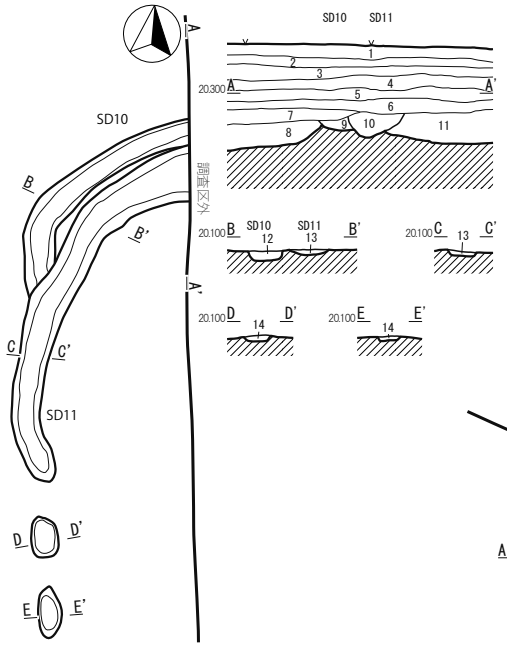
断面形は壁面が垂直の掘り方であった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認できた。

出土遺物は検出されなかった。

第 16 号溝跡（第 83 図）

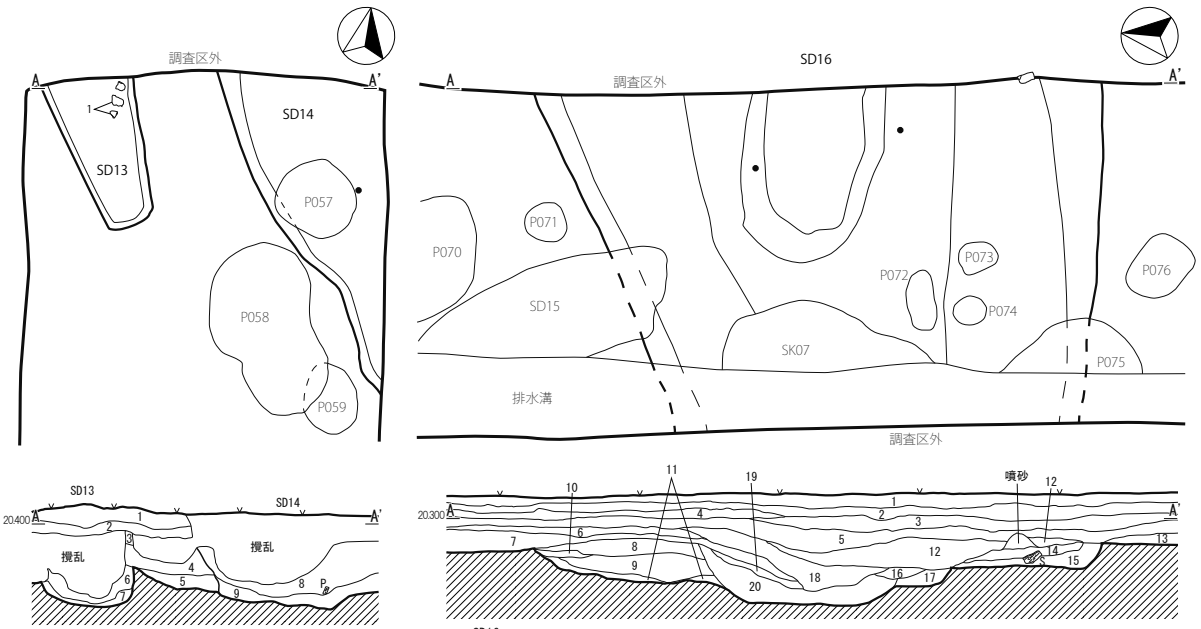
Ｂ区、ＢＤ－ 34、35 グリッドから検出された。本遺構と第 15 号溝跡、第 7 号土坑、第 72 ～ 75 号ピットが重複関係にあり、本遺構は重複するすべての遺構に切られていた。

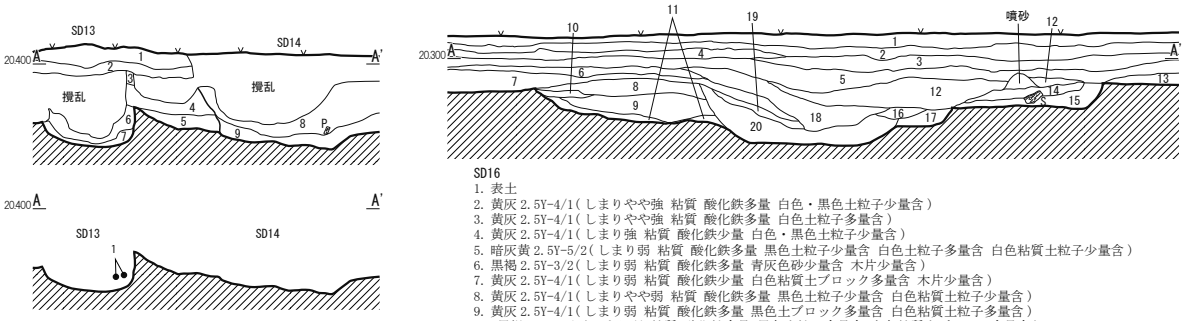


SD10・SD11
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色土粒子少量含 砂少量含 木片多量含)
7. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂少量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色粘質土粒子多量含 砂少量含 木片多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含)
11. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
12. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質 にぶい黄色・灰白色粘質土含)
13. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄)
14. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや粘質 灰白色粘質土含)

SD12
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含

SD15
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質
酸化鉄多量)





SD13・SD14
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色・赤色土粒子少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 青灰色砂少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子多量含)
9. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 青灰色砂少量含 木片多量含)

SD16
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
4. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
5. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
7. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
8. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
9. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土ブロック多量含 白色粘質土粒子多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含)
11. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含)
12. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 灰色砂多量含 木片少量含)
13. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
14. 暗灰黄 2.5Y-4/2
15. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 灰色砂少量含)
16. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含 灰色砂少量含)
17. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
18. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 黒色土ブロック多量含
白色粘質土ブロック少量含 灰色砂少量含 木片少量含)
19. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土ブロック多量含)
20. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 木片少量含)

0 2m
1:60

第 83 図　第 10 ～ 16 号溝跡

本遺構はやや流路を北東に向け、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.77 m程度、検出幅 3.54 ～ 3.91 mを測り、深さは 0.48 mを測る。

平面形は、ほぼ直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。東壁手前に土坑状の落ち込みがある以外は、底部はほぼ平坦であった。

土層は、断面観察から、15 層程度確認できた。本遺構は一度埋没した後、再度掘り直した痕跡が確認でき、当初の溝跡の断面形は、緩やかなレンズ状の掘り方であったが、掘り直し後の断面形は、北側が緩やかで、南側が約 45° で立ち上がる掘り方であった。いずれも木片などを含んだ氾濫土の堆積と思われる。

出土遺物は、焙烙が 1 点のみ検出された。

時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。

第 17 号溝跡（第 84 図）

Ｂ区、ＢＤ－ 35 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は流路を東西に向け、調査区西壁手前で終結していた。

規模は、検出長 1.50 m程度、検出幅 0.14 ～ 0.32 mを測り、深さは確認面から 0.14 mを測る。

平面形は細長いひょうたん形で、溝幅は東へ収縮するように延び、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。

出土遺物は、検出されなかった。

第 18 号溝跡（第 84 図）

Ｃ区、ＢＥ－ 46 グリッドから検出された。本遺構と第 19 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 19 号溝跡を切っていた。

本遺構は東西軸方向に検出され、傾斜方向は不明であった。

規模は、検出長 2.36 m程度、検出幅 0.85 ～ 0.93 mを測り、深さは 0.78 mを測る。

平面形は直線状に延伸し、溝幅は一定の間隔であった。底部は凹凸が目立ち、一部には湧泉痕も確認できた。

土層は、断面観察により人工的な埋土であり、一括して本遺構を廃棄したものと推定できる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 19 号溝跡（第 84 図）

Ｃ区、ＢＥ－ 45、46 グリッドから検出された。本遺構と第 18 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 18 号溝跡に切られていた。

本遺構は流路を北西から南東へと延伸していた。

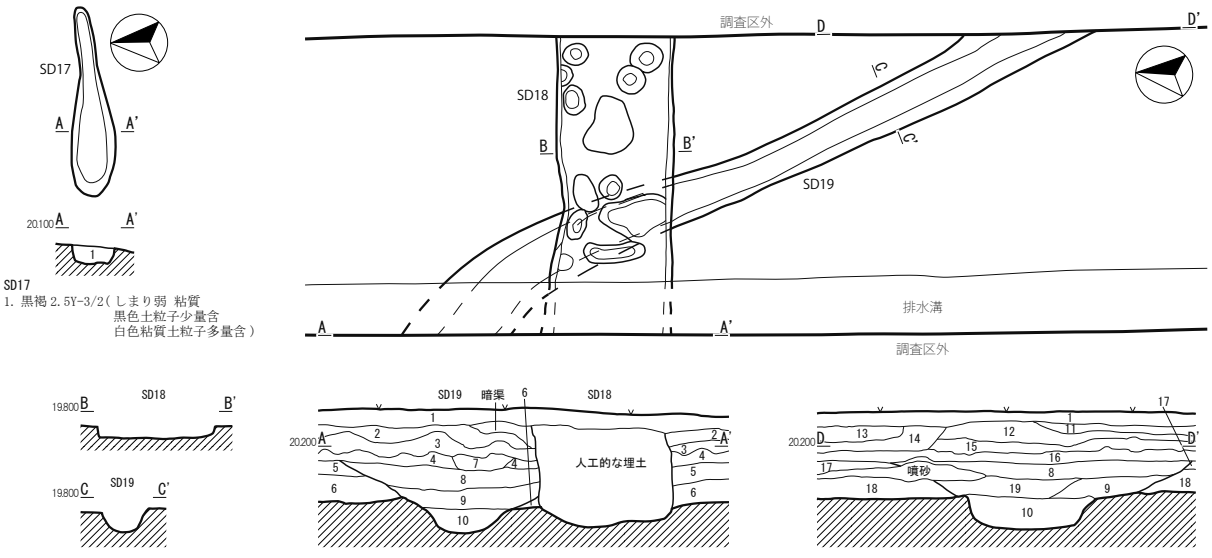
規模は、検出長 5.15 m程度、検出幅 0.34 ～ 0.41 mを測り、深さは 0.51 mを測る。

平面形は、ほぼ直線状に延伸し、溝幅は一定の間隔をもち、底部は丸味を帯びていた。

土層は、断面観察から、４層確認できた。いずれも水平状の自然堆積であった。

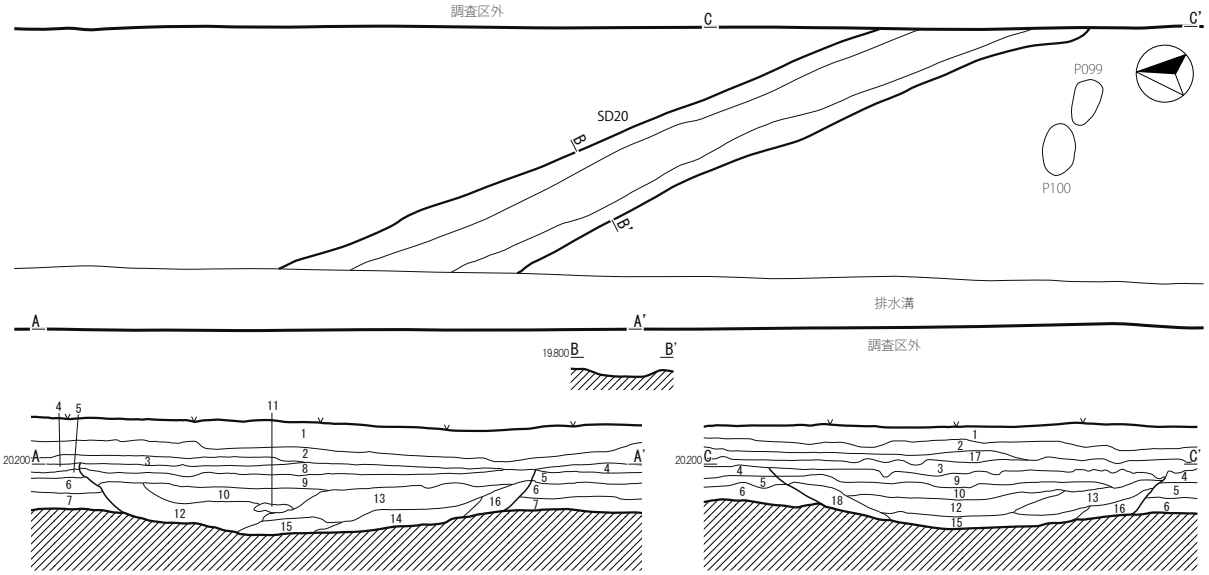
断面形は、やや立ち上がりが緩やかなＶ字状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。



SD17
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質
黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子多量含)

SD18・SD19
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 にぶい黄色土粒子・ブロック含)
4. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄微量)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 灰白色土粒子・ブロック含)
6. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量 灰白色粘質土ブロック含)
7. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 青砂粒子少量含 木片少量含)
9. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
10. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
11. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
12. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色土粒子多量含)
14. 灰 5Y-5/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色土粒子少量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
17. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)
18. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
19. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 木片少量含)



SD20
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
3. 灰 5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量 火山灰含)
4. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 にぶい黄色土粒子・ブロック含)
5. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄微量)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 灰白色土粒子・ブロック含)
7. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量 灰白色粘質土ブロック含)
8. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 シルト質 一部砂質 灰白色土ブロック含)
9. 灰 10Y-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄粒子微量含)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり弱 シルト質 灰白色・黒褐色シルト質土ブロック含)
11. 灰白 2.5Y-8/2(しまり弱 シルト質)
12. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 やや粘質 酸化鉄微量 灰白色粘質土ブロック含)
13. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 やや粘質 黒褐色シルト質土粒子・ブロック含 灰白色粘質土含)
14. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 粘質 酸化鉄微量 灰白色粘質土ブロック含)
15. 黒 10YR-2/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄微量)
16. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
17. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
18. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)

0 2m
1:60

第 84 図　第 17 ～ 20 号溝跡

第 20 号溝跡（第 84 図）

Ｃ区、ＢＥ－ 46、47 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は流路を北西から南東へと延伸していた。

規模は、検出長 6.00 ｍ程度、検出幅 0.54 ～ 0.67 ｍを測り、深さは 0.55 ｍを測る。

土層は、断面観察から、およそ５～６層確認できた。両端からレンズ状に堆積し、その後、水平状に自然堆積していた。

断面形は、やや立ち上がりが緩やかな船底状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 21 号溝跡（第 85 図）

Ｃ区、ＢＥ－ 48 グリッドから検出された。本遺構と第 22 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 22 号溝跡を切っていた。

本遺構は流路を北西から南東へと延伸していた。

規模は、検出長 3.62 ｍ程度、検出幅 2.50 ～ 2.54 ｍを測り、深さは 0.53 ｍを測る。

土層は、断面観察から、およそ 10 層程度確認できた。入り乱れた堆積状態ではあるが、いずれもレンズ状の自然堆積であった。覆土には噴砂も確認でき、本遺構の覆土の上段まであった。

断面形は、やや立ち上がりが緩やかなレンズ状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 22 号溝跡（第 85 図）

Ｃ区、ＢＥ－ 48、49 グリッドから検出された。本遺構と第 21 号溝跡が重複関係にあり、本遺構が第 21 号溝跡に切られていた。

本遺構は流路を北西から南東へと延伸していた。

規模は、検出長 8.29 ｍ程度、検出幅 0.55 ～ 0.66 ｍを測り、深さは 0.40 ｍを測る。

土層は、断面観察から、およそ 10 層程度確認できた。立ち上がり付近はいずれもレンズ状で、それ以外は水平状の自然堆積であった。覆土には噴砂も確認でき、本遺構の覆土の上段まであった。

断面形は、立ち上がりが緩やかな皿状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 23 号溝跡（第 85 図）

Ｃ区、ＢＥ -50 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

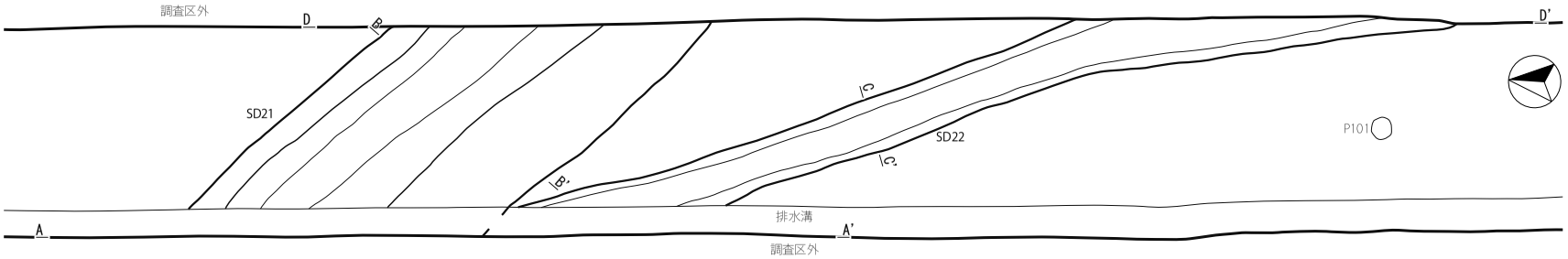
本遺構は流路を西から東へと延伸していた。

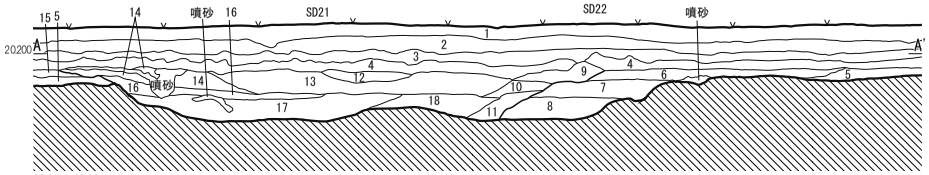
規模は、検出長 2.43 ｍ程度、検出幅 0.68 ～ 0.73 ｍを測り、深さは 0.13 ｍを測る。

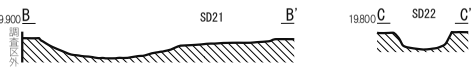
土層は、断面観察から、３層程度確認できた。いずれもレンズ状堆積であり、自然堆積であった。

断面形は、立ち上がりが緩やかなレンズ状の掘り方であった。

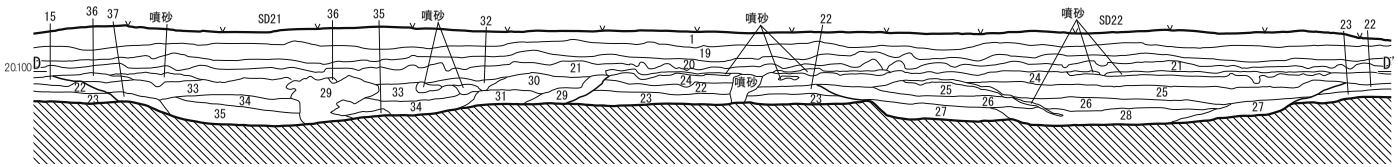
出土遺物は、検出されなかった。



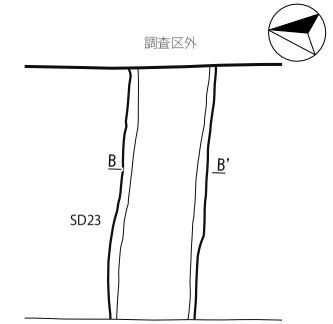


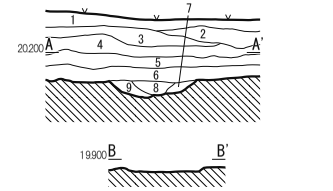


SD21・SD22
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
3. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 にぶい黄色土粒子・ブロック含)
4. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄微量)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 灰白色土粒子・ブロック含)
6. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 粘質 砂粒子少量含 酸化鉄ブロック多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 白色粘質土粒子多量含 酸化鉄ブロック・粒子少量含 木片多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 木片多量含)
9. 暗褐 10YR-3/3(しまり弱 粘質 砂ブロック少量含 木片多量含 酸化鉄ブロック多量含)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
12. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 粘質 白色粘質土粒子少量含 木片少量含 酸化鉄ブロック少量含)
13. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
14. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 砂ブロック多量含 木片多量含)
15. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 砂粒子少量含 木片多量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 木片多量含 白色粘質土ブロック帯状に多量含)
17. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)
18. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)

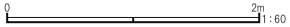


19. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
20. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
21. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
22. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)
23. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
24. 灰 5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
25. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
26. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
27. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 砂粒子多量含 木片多量含)
28. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
29. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
30. 暗褐 10YR-3/3(しまりやや強 粘質
白色粘質土粒子多量含 砂粒子少量含 木片少量含 酸化鉄ブロック多量含)
31. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
32. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
33. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
34. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 砂粒子少量含 木片多量含)
35. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂ブロック少量含 木片多量含)
36. 灰 5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 砂粒子少量含 木片少量含)
37. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)





SD23
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
3. 灰 5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量 火山灰含)
4. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質
にぶい黄色土粒子・ブロック含)
5. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱
ややシルト質 酸化鉄微量)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質
灰白色土粒子・ブロック含)
7. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 粘質
酸化鉄多量)
8. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 粘質 酸化鉄多量)
9. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 粘質
一部砂質 酸化鉄多量)



第 85 図　第 21 ～ 23 号溝跡

第 24 号溝跡（第 86 図）

Ｃ区、ＢＥ -50 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、流路を西から東へと延伸していた。

規模は、検出長 2.46 ｍ程度、検出幅 1.04 ～ 1.05 ｍを測り、深さは 0.21 ｍを測る。

土層は、断面観察から、上層は攪乱によって消失しており、かろうじて１層のみ確認できた。

断面形は、若干、底面に凸凹があるが、レンズ状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 25 号溝跡（第 86 図）

Ｄ区、ＢＥ－ 52 グリッド、また、Ｅ区、ＢＣ－ 50、51 グリッドから検出された。重複関係にある遺構、遺物は検出されなかった。

大半が調査区域外であり、検出範囲が狭小であったので、正確な様相は不明であるが、周辺の地形から推定し北から南への流路と推定される。

規模は、検出長３ｍ（Ｄ区）、検出長４ｍ（Ｅ区）、検出幅３～ 3.5 ｍ、深さは 1.12 ｍであった。

本溝跡はＤ区とＥ区にわたって検出されており、それらの推定総延長は 33 ｍを測る。

土層断面を観察すると、15 ～ 19 層に渡る堆積がみられ、レンズ状に堆積しているので自然堆積と考えられる。下層付近は層単位の堆積が厚い粘質土であり、中層付近は包含物に酸化鉄を多く含んだ赤色土壌の堆積が多かった。その堆積状況は不規則であることから、この時期には水量が一定に流れており酸化集積物が多く滞留していたと考えられる。

また、一部の層中からは樹木片の残骸なども検出された。

出土遺物はＥ区側でのみ検出され、土師器の甕・壺・坏、木製品などが検出された。

時期は出土遺物から古墳時代後期である。

第 26 号溝跡（第 86 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 58 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は、北西方向から延び、調査区中央付近で終結していた。

規模は、検出長 2.49 ｍ程度、検出幅 0.60 ～ 0.70 ｍを測り、深さは 0.17 ｍを測る。

平面形は、直線状で、溝幅もほぼ一定であり、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認でき、断面形は、皿状の掘り方であった。

出土遺物は、土師器甕、須恵器坏が１点ずつ検出された。須恵器坏は底部のみであるが、手持ち全面ヘラケズリ調整である。

時期は、出土遺物から古墳時代後期と推定される。

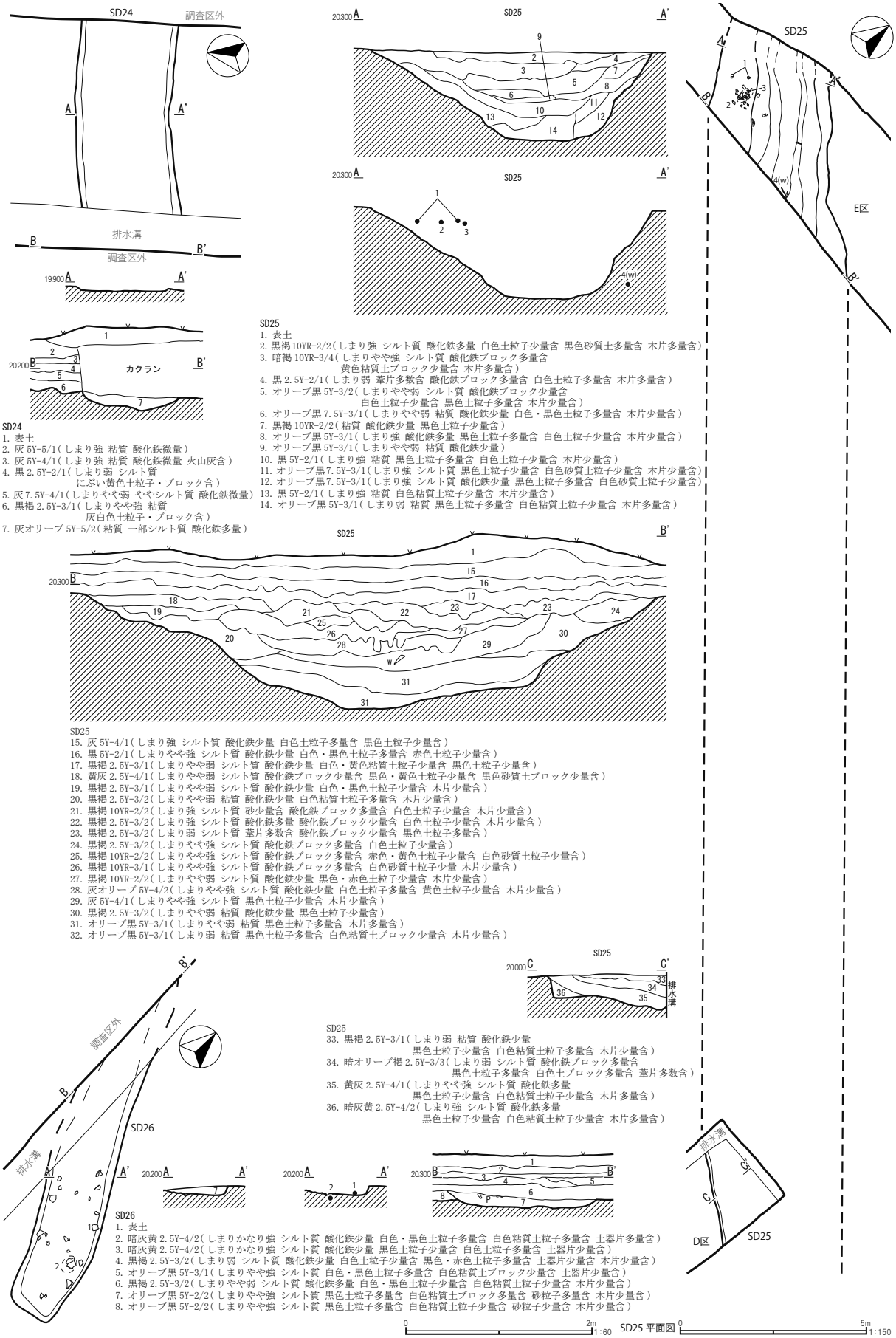
第 27 号溝跡（第 87 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 59 グリッドから検出された。本遺構と第２号河川跡、第 28 号溝跡、第 16 号土坑が重複関係にあり、第 28 号溝跡に切られ、第 16 号土坑を切っていた。

本遺構はやや流路を南西に向け、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 3.17 ｍ程度、検出幅 1.11 ～ 1.13 ｍを測り、深さは 0.67 ｍを測る。

平面形は、わずかに弧を描きながら延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部はほぼ平坦であった。



SD24
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)
3. 灰 5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量 火山灰含)
4. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質
にぶい黄色土粒子・ブロック含)
5. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄微量)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質
灰白色土粒子・ブロック含)
7. 灰オリーブ 5Y-5/2(粘質 一部シルト質 酸化鉄多量)

SD25
1. 表土
2. 黒褐 10YR-2/2(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 黒色砂質土多量含 木片多量含)
3. 暗褐 10YR-3/4(しまりやや強 シルト質 酸化鉄ブロック多量含
黄色粘質土ブロック少量含 木片多量含)
4. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 塞片多数含 酸化鉄ブロック多量含 白色土粒子多量含 木片多量含)
5. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄ブロック少量含
白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片少量含)
6. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 木片少量含)
7. 黒褐 10YR-2/2(粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 木片少量含)
9. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量)
10. 黒 5Y-2/1(しまり強 粘質 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 木片少量含)
11. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 シルト質 黒色土粒子少量含 白色砂質土粒子少量含 木片少量含)
12. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色砂質土粒子少量含)
13. 黒 5Y-2/1(しまり強 粘質 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
14. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)

SD25
15. 灰 5Y-4/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黒色土粒子少量含)
16. 黒 5Y-2/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 赤色土粒子少量含)
17. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色・黄色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含)
18. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄ブロック少量含 黒色・黄色土粒子少量含 黒色砂質土ブロック少量含)
19. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含 木片少量含)
20. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
21. 黒褐 10YR-2/2(しまり強 シルト質 砂少量含 酸化鉄ブロック多量含 白色土粒子少量含 木片少量含)
22. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 酸化鉄ブロック少量含 白色土粒子少量含 木片少量含)
23. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 塞片多数含 酸化鉄ブロック少量含 黒色土粒子多量含)
24. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄ブロック多量含 白色土粒子少量含)
25. 黒褐 10YR-2/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄ブロック多量含 赤色・黄色土粒子少量含 白色砂質土粒子少量含)
26. 黒褐 10YR-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄ブロック多量含 白色砂質土粒子少量 木片少量含)
27. 黒褐 10YR-2/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色・赤色土粒子少量含 木片少量含)
28. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黄色土粒子少量含 木片少量含)
29. 灰 5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子少量含 木片少量含)
30. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)
31. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子多量含 木片多量含)
32. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 木片少量含)

SD25
33. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
34. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり弱 シルト質 酸化鉄ブロック多量含
黒色土粒子多量含 白色土ブロック多量含 塞片多数含)
35. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
36. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)

SD26
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色土粒子多量含 土器片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
5. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 土器片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
7. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含 砂粒子多量含 木片少量含)
8. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)

第 86 図　第 24 ～ 26 号溝跡

土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。

断面形は逆台形状であった。

出土遺物は、土師器の甕・甑、須恵器甕が検出された。

時期は出土遺物が少量ではあるが、７世紀後半と推定される。

第 28 号溝跡（第 87 図）

Ｄ区、ＢＦ－59 グリッドから検出された。本遺構は第 27 号溝跡と重複関係にあり、第 27 号溝跡を切っていた。

本遺構は、やや西へ傾くが、南北軸方向に延び、第 15 号土坑手前で終結していた。

規模は、第 27 号溝跡との重複地点で切れるが、検出長 5.33 ｍ程度、検出幅 0.44 ～ 0.76 ｍを測り、深さは確認面から 0.13 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅は検出された北端と南端の幅が少し広いがほぼ等間隔であり、底部はやや平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみであった。断面形は、逆台形状の掘り方であった。

出土遺物は、土師器の甑・皿、須恵器の壺・坏などが検出された。土師器皿は内面に放射状暗文を施し、内外面ともススが付着している。須恵器坏は南比企産で欠損が多いため確定はできないが、底部調整は糸切り後全面ヘラケズリ調整と推定される。

時期は、出土遺物から７世紀後半から８世紀前半と推定される。

第 29 号溝跡（第 87 図）

Ｄ区、ＢＦ－59 グリッドから検出された。本遺構と第 24 号土坑が重複関係にあり、本遺構が第 24 号土坑に切られていた。

本遺構は流路は不明だが、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.75 ｍ程度、検出幅 0.68 ～ 1.11 ｍを測り、深さは 0.31 ｍ前後を測る。

平面形は、直線状だが、南へ大きく張り出しをもち、溝幅もそれにより南端へ大きく広がっていた。底部は凹凸を多くもっていた。

土層は、断面観察から、３層程度確認でき、シルト質のオリーブ黒色土・灰オリーブ色土の氾濫土の堆積によるものであった。断面形は、不整形だが、おおよそ逆台形状の掘り方であった。

出土遺物は、土師器の甕・坏・皿、須恵器坏、軟質泥岩が検出された。土師器坏のうち５は内面に放射状暗文が施され、１は口縁部周辺に赤彩が施された比企型坏である。須恵器の坏はいずれも南比企産で、底部周辺へラケズリ調整であり、８は判読不能な墨書、刻書が確認できる。

時期は、出土遺物から８世紀中葉から末と推定される。

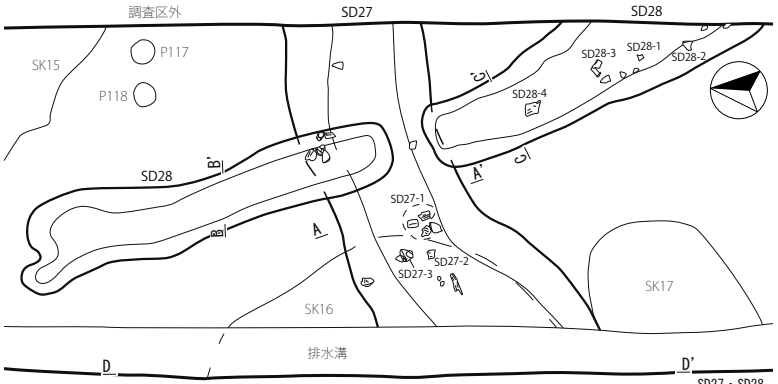
第 30 号溝跡（第 87 図）

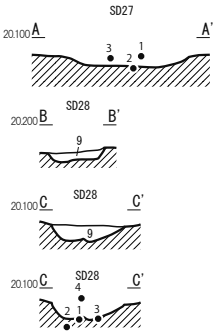
Ｄ区、ＢＦ－59、60 グリッドから検出された。本遺構は、第 31 号溝跡、第 23 号土坑、第 120 号ピットと重複関係にあり、本遺構が第 31 号溝跡に切られ、第 23 号土坑、第 120 号ピットを切っていた。

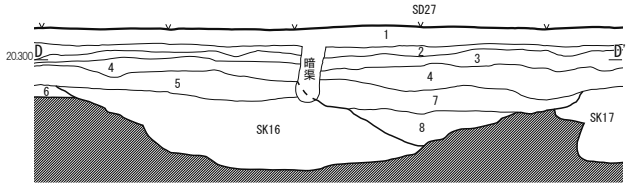
本遺構は南西方向に延伸し、第 25 号土坑手前で終結していた。

規模は、検出長 1.98 ｍ程度、検出幅 0.42 ～ 0.61 ｍを測り、深さは確認面から 0.22 ｍを測る。

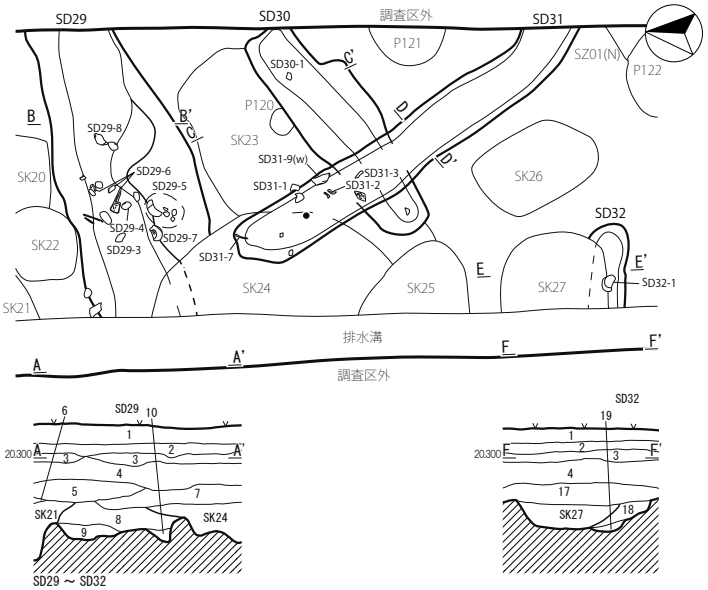
平面形は、ほぼ直線状であるが、溝幅は一定でなく、検出されたうち、中央部の幅が広くなっていた。

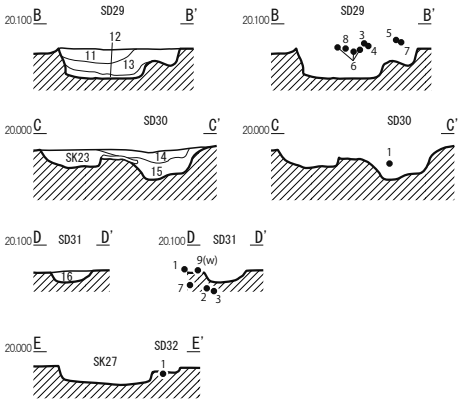






SD27・SD28
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量
白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含
黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色粘質土粒子少量含 土器片多量含 木片少量含)
5. 暗灰 N3/(シルト質 しまりやや弱い 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
白色粒子少量含 白色粘土ブロック少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色粘質土粒子・ブロック少量含 木片多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 木片多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子少量含 砂ブロック多量含 木片多量含)





SD29 ～ SD32
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量
白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 土器片多量含 木片少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土ブロック帯状に多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 土器片・木片少量含)
7. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 砂粒子少量含 木片少量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
9. 灰オリーブ 5Y-4/2(シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含
砂ブロック多量含 木片多量含)
10. 灰オリーブ 5Y-4/2(シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック少量含 砂ブロック多量含 木片多量含)
11. 灰白 7.5Y-8/2(しまり弱 砂質 酸化鉄 黒褐色土ブロック含)
12. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 灰白色土ブロック含)
13. 灰白 7.5Y-7/2(しまり弱 シルト質 黒褐色砂質土ブロック含)
14. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまりやや強 シルト
黒色土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
15. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘質土ブロック少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック多量含 木片少量含)
17. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック多量含 木片少量含)
18. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
19. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)

0 2m
1:60

第 87 図　第 27 ～ 32 号溝跡

断面形は船底状であった。

土層は、断面観察から、２層のみ確認でき、レンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、図化できる土師器坏１点のみであった。

時期は出土遺物がわずかのため、不明である。

第 31 号溝跡（第 87 図）

Ｄ区、ＢＦ－59、60 グリッドから検出された。本遺構は、第 23、24 号土坑、第 30 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が重複するすべての遺構を切っていた。

本遺構は、調査区域外である東方向から延び、重複する第 24 号土坑の直上で終結していた。

規模は、検出長 3.6 ｍ程度、検出幅 0.38 ～ 0.41 ｍを測り、深さは確認面から 0.08 ｍを測る。

平面形は、やや屈曲して東壁から延伸し、ほぼ直線状に延びていた。溝幅はほぼ一定で、底部はやや丸みをもっていた。

土層は、断面観察から、黒褐色土の１層のみ確認でき、断面形はレンズ状であった。

出土遺物は、土師器の甑・高坏・坏・皿、須恵器の甕・蓋、木製品曲物、軟質泥岩が検出された。坏はいずれも器高がやや低く、底部は平底に近く、一部は口縁が内湾気味である。４は底部内面に放射状暗文が施され、須恵器はいずれも末野産であった。

時期は出土遺物にやや時期差がみられるが、主体となるのは８世紀前葉から中葉と推定される。

第 32 号溝跡（第 87 図）

Ｄ区、ＢＦ－60 グリッドから検出された。本遺構は、第 27 号土坑と重複関係にあり、本遺構が第 27 号土坑に切られていた。

本遺構は、調査区域外である西方向から延び、第 26 号土坑の手前で終結していた。

規模は、検出長 1.01 ｍ程度、検出幅 0.33 ｍを測り、深さは 0.24 ｍを測る。

平面形は、ほぼ直線状に延び、溝幅はほぼ一定で、底部はやや丸みをもっていた。

土層は、断面観察から、２層程度確認でき、シルト質で黒色土粒子や木片を含む氾濫土の堆積であった。

断面形は、他遺構に切られているため、詳細は不明であるが、船底状の掘り方と推定される。

出土遺物は、土師器坏が１点のみであった。

時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。

第 33 号溝跡（第 88 図）

Ｄ区、ＢＦ－61 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

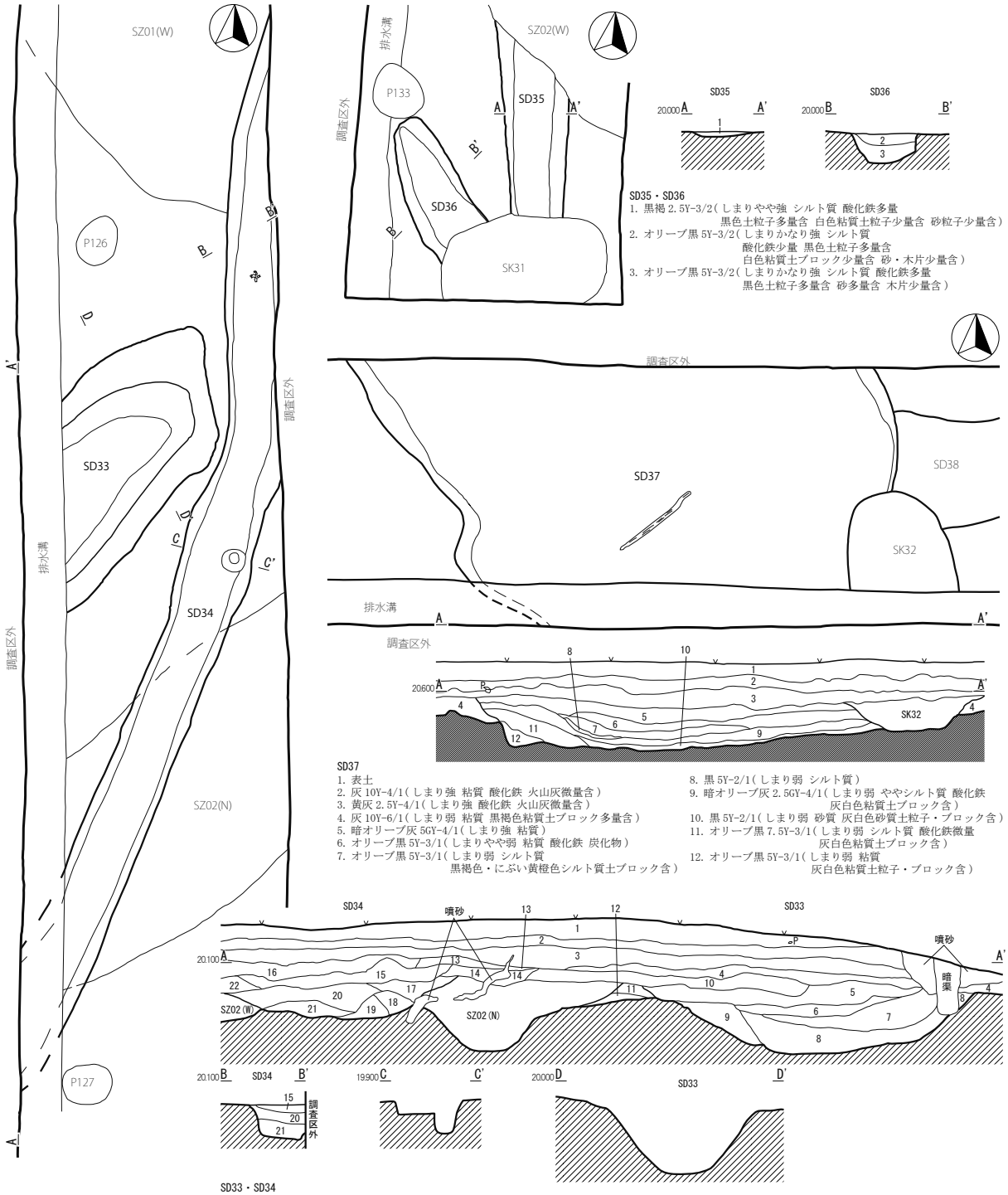
本遺構は、南西方向から延び、第 34 号溝跡の手前で終結していた。

規模は、検出長 2.22 ｍ程度、検出幅 1.38 ～ 1.45 ｍを測り、深さは 0.60 ｍを測る。

平面形は、ほぼ直進する東西に長軸をもつ方形状であり、溝幅はほぼ一定で、底部はやや丸みをもっていた。

土層は、断面観察から、５層程度確認でき、シルト質の黒褐色土や粘質の灰オリーブ土で、木片等を含む氾濫土の堆積であった。第９層は壁面崩落による堆積と考えられるが、それ以外はレンズ状の堆積であった。

断面形は、逆台形状の掘り方であった。



SD35・SD36
1. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含)
2. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりかなり強 シルト質
酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色粘質土ブロック少量含 砂・木片少量含)
3. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 砂多量含 木片少量含)

SD37
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄 火山灰微量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 酸化鉄 火山灰微量含)
4. 灰 10Y-6/1(しまり弱 粘質 黒褐色粘質土ブロック多量含)
5. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり強 粘質)
6. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄 炭化物)
7. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 シルト質
黒褐色・にぶい黄橙色シルト質土ブロック含)
8. 黒 5Y-2/1(しまり弱 シルト質)
9. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり弱 ややシルト質 酸化鉄
灰白色粘質土ブロック含)
10. 黒 5Y-2/1(しまり弱 砂質 灰白色砂質土粒子・ブロック含)
11. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄微量
灰白色粘質土ブロック含)
12. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 粘質
灰白色粘質土粒子・ブロック含)

SD33・SD34
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりかなり弱 砂質 酸化鉄少量 黒色土ブロック少量含 木片少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 木片少量含)
6. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 砂ブロック多量含 木片多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 砂粒子少量含 木片少量含)
9. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 砂ブロック多量含 木片少量含)
10. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック・粒子多量含 砂粒子多量含 木片多量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)
12. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片多量含)
13. 灰オリーブ 5Y-5/3(しまり弱 砂質 酸化鉄少量 黒色・赤色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
14. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色・赤色土粒子少量含白色粘質土粒子多量含 土器片・木片少量含)
15. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 白色土ブロック多量含木片多量含 葦片多数含)
16. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子多量含 木片少量含)
17. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 砂粒子少量含 木片多量含)
18. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 砂質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 砂粒子多量含 木片少量含)
19. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック少量含 木片多量含)
20. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含砂ブロック少量含 木片多量含)
21. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
22. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック帯状に多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)

0 2m
1:60

第 88 図　第 33 ～ 37 号溝跡

出土遺物は、灰釉陶器長頸瓶が１点のみであった。胴部片であるが、回転ヘラケズリによるナデ痕が外面に残っている。

時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。

第 34 号溝跡（第 88 図）

Ｄ区、ＢＦ－61、62 グリッドから検出された。本遺構は第１、２号方形周溝墓と重複関係にあり、本遺構がすべての重複する遺構を切っていた。

本遺構は、北東方向から延び、第２号方形周溝墓の手前で調査区域外へと延びていた。

規模は、検出長 9.15 ｍ程度、検出幅 0.59 ～ 0.69 ｍを測り、深さは 0.42 ｍを測る。

平面形は、やや蛇行しながら延伸するが、溝幅はほぼ一定で、底部も平坦であった。

土層は、断面観察から、５層程度確認でき、シルト質の暗オリーブ褐色土やオリーブ黒色土で、木片などが多く混ざる氾濫土の堆積であった。断面形は、レンズ状の掘り方であった。

出土遺物は、土師器甕、須恵器坏が１点ずつ検出されたのみであった。２は南比企産で全面ヘラケズリ調整が確認できる。

時期は出土遺物がわずかのため、不明である。

第 35 号溝跡（第 88 図）

Ｄ区、ＢＦ－62 グリッドから検出された。本遺構は、第２号方形周溝墓、第 31 号土坑と重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

本遺構は第２号方形周溝墓と第 31 号土坑を南北に横断する形で検出された。

規模は、検出長 1.52 ｍ程度、検出幅 0.50 ～ 0.64 ｍを測り、深さは確認面から 0.05 ｍを測る。

平面形は、ほぼ直線状に延び、溝幅はほぼ一定で、底部はやや平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみ確認でき、レンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 36 号溝跡（第 88 図）

Ｄ区、ＢＦ－62、63 グリッドから検出された。本遺構は、第 31 号土坑と重複関係にあり、本遺構は第 31 号土坑に切られていた。

本遺構は第 31 号土坑から北西方向に延伸し、第 133 号ピット手前で終結していた。

規模は、検出長 1.20 ｍ程度、検出幅 0.42 ～ 0.61 ｍを測り、深さは確認面から 0.28 ｍを測る。平面形は、ほぼ直線状に延び、溝幅はほぼ一定で、底部は丸味を帯びていた。

断面形は船底状であった。

土層は、断面観察から、２層のみ確認でき、レンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 37 号溝跡（第 88 図）

Ｅ区、ＡＬ－51 グリッドから検出された。本遺構と第 38 号溝跡、第 32 号土坑が重複関係にあり、第 38 号溝跡を切り、第 32 号土坑に切られていた。

本遺構は流路を北東に向け、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.57 ｍ程度、検出幅 4.24 ～ 4.68 ｍを測り、深さは 0.51 ｍを測る。

平面形は、ややいびつながら直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部はわずかに起伏をもっていた。

土層は、断面観察から、最大７～８層にわたる堆積が確認できた。堆積土の多くは黒色で粘質、シルト質、砂質の土層が確認でき、いずれも氾濫土の堆積によるものであった。

断面形は、一部東側の立ち上がりが第 32 号土坑により消滅していたが、断面観察、検出状況から緩やかな立ち上がりのレンズ状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 38 号溝跡（第 89 図）

Ｅ区、ＡＬ、ＡＭ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 37、39 号溝跡、第 32、33 号土坑が重複関係にあり、第 39 溝跡、第 33 土坑を切り、第 37 溝跡、第 32 号土坑に切られていた。

本遺構は進路を北東に向け、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 3.62 ｍ程度、検出幅 0.62 ～ 1.01 ｍを測り、深さは 0.36 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、第 39 号溝跡付近で北へ屈曲していき、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は丸味を帯びていた。

土層は、断面観察から、３層にわたる堆積が確認できた。

断面形は、北側にテラスをもつ逆台形状の掘り方であった。

出土遺物は、土師器の坏・高坏のみであった。２の坏の内面には穀物粒の圧痕が確認できる。

時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。

第 39 号溝跡（第 89 図）

Ｅ区、ＡＭ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 38 号溝跡、第 33 号土坑が重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

本遺構は流路を南東に向け、南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.67 ｍ程度、検出幅 0.28 ～ 0.35 ｍを測り、深さは確認面から 0.08 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は丸かった。

土層は、断面観察から、１層のみ堆積が確認できた。

断面形は、レンズ状の掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 40 号溝跡（第 89 図）

Ｅ区、ＡＮ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 41 号溝跡、第１号性格不明遺構が重複関係にあり、第１号性格不明遺構を切り、第 41 号溝跡に切られていた。

本遺構は流路を南東に向け、やや傾いた南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.54 ｍ程度、検出幅 0.74 ～ 0.78 ｍを測り、深さは 0.78 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は丸味を帯びていた。

土層は、断面観察から、最大５層にわたる堆積が確認でき、底部付近はしまりのない黒褐色のシルト質土で植物片を多く含むことから､氾濫土の堆積であることが分かる。上層は６層をみて分かるとおり、本遺構が埋没した後も、本遺構が利用されていたことが考えられる。

断面形は、Ｖ字状の掘り方で、土層から判断して、水平状の自然堆積であった。

出土遺物は、須恵器壺が１点のみであった。

時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。

第 41 号溝跡（第 89 図）

Ｅ区、ＡＮ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 40 号溝跡、第１号性格不明遺構が重複関係にあり、重複関係にあるすべての遺構を切っていた。

本遺構は流路を南西に向け、やや傾いた東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 4.02 ｍ程度、検出幅 0.67 ～ 0.78 ｍを測り、深さは確認面から 0.15 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は丸かった。

土層は、断面観察から、最大４層にわたる堆積が確認できる。

断面形は、緩やかなＵ字状の掘り方で、土層から判断して、自然堆積であった。

出土遺物は、土師器の甕・坏が検出された。１は有段口縁坏である。

時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。

第 42 号溝跡（第 89 図）

Ｅ区、ＡＮ、ＡＯ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 43 号溝跡が重複関係にあり、第 43 号溝跡が本遺構を切っていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、南北に長軸をもついびつな楕円形であるが、溝跡としても推定可能である。

規模は、検出長軸 1.46 ｍ、検出短軸 0.55 ｍを測り、深さは確認面から 0.22 ｍを測る。

断面形はレンズ状で、底部は凹凸があった。

土層は、断面観察から、２層の堆積が確認できた。堆積は水平状で、自然堆積であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 43 号溝跡（第 89 図）

Ｅ区、ＡＯ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 42 号溝跡が重複関係にあり、第 42 号溝跡が本遺構に切られていた。

平面形は、一部調査区域外であるが、南北に長軸をもつ楕円形であるが、土坑としても推定可能である。

規模は、検出長軸が 1.54 ｍ、検出短軸 0.83 ｍを測り、深さは確認面から 0.28 ｍを測る。

断面形は、逆台形状で、底部は平坦であった。

土層は、湧水がひどく、困難であったが、断面観察から、最大４層の堆積が確認できた。堆積は底部に至っていずれも黒褐色粘質土であった。

出土遺物は検出されなかった。

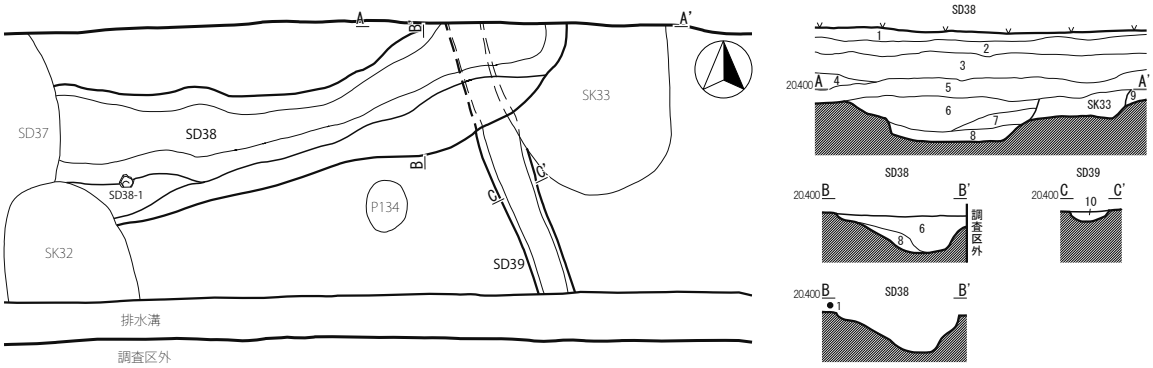
第 44 号溝跡（第 89 図）

Ｅ区、ＡＯ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構はなかった。

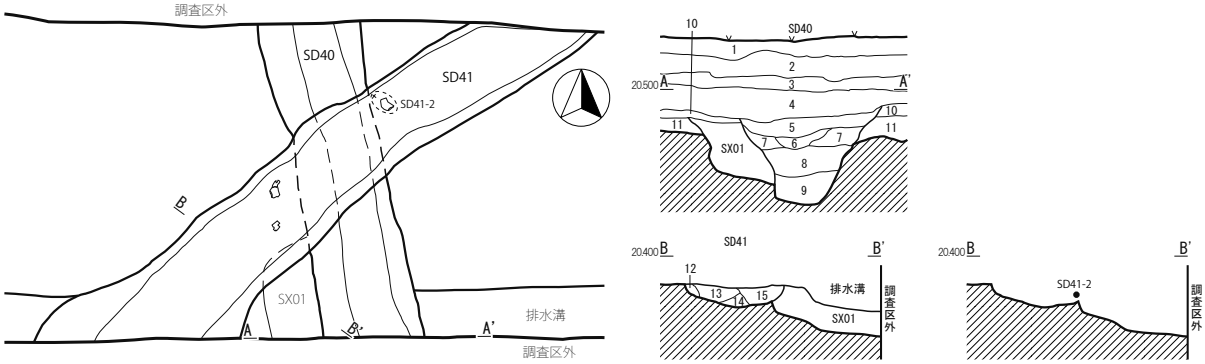
本遺構は流路を南東に向け、南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.86 ｍ程度、検出幅 0.96 ～ 1.00 ｍを測り、深さは 0.42 ｍを測る。

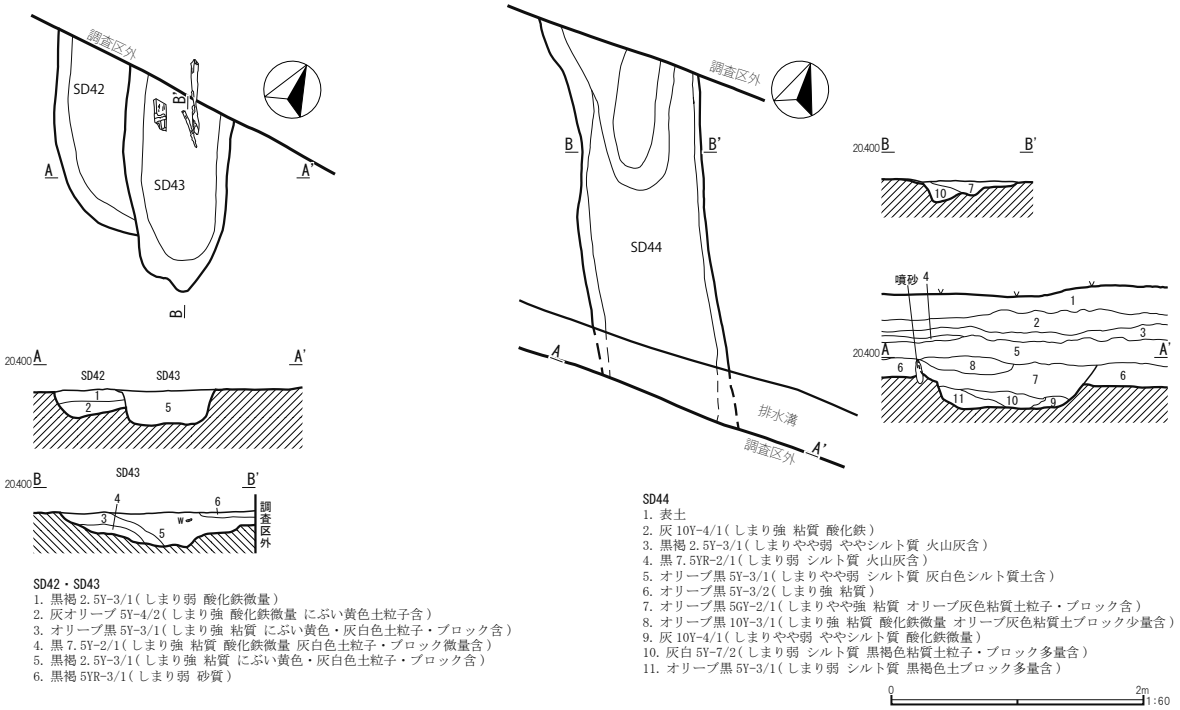
平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は全体的に平坦であるが、北壁付近



SD38・SD39
1. 表土
2. 白色粘土層
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含
白色粘質土粒子少量含 黄色土粒子少量含 炭化粒子少量含 砂少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 砂少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 砂多量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 砂少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 砂少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子多量含 砂少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含
白色粘質土粒子少量含 黄色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 やや粘質 酸化鉄微量)



SD40・SD41
1. 表土
2. 白色粘土層
3. 黒 5Y-2/1(しまりやや弱 シルト質 白色・黒色土粒子多量含 黄色・赤色土粒子少量含 土器少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
5. 黒 2.5Y-2/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 炭化ブロック多量含 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
6. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 炭化ブロック多量含 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
10. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 黒色土粒子多量含 木片少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
12. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや弱 酸化鉄微量)
13. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質
灰白色・にぶい黄色土ブロック含)
14. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 ややシルト質
灰オリーブ色砂質土ブロック含)
15. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり強 粘質
灰オリーブ色・にぶい黄色土ブロック含)



SD42・SD43
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 酸化鉄微量)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 酸化鉄微量 にぶい黄色土粒子含)
3. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 にぶい黄色・灰白色土粒子・ブロック含)
4. 黒 7.5Y-2/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量 灰白色土粒子・ブロック微量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 粘質 にぶい黄色・灰白色土粒子・ブロック含)
6. 黒褐 5YR-3/1(しまり弱 砂質)

SD44
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
3. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 ややシルト質 火山灰含)
4. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 シルト質 火山灰含)
5. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 灰白色シルト質土含)
6. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり強 粘質)
7. オリーブ黒 5GY-2/1(しまりやや強 粘質 オリーブ灰色粘質土粒子・ブロック含)
8. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量 オリーブ灰色粘質土ブロック少量含)
9. 灰 10Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄微量)
10. 灰白 5Y-7/2(しまり弱 シルト質 黒褐色粘質土粒子・ブロック多量含)
11. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 シルト質 黒褐色土ブロック多量含)

0 2m
1:60

第 89 図　第 38 ～ 44 号溝跡

には落ち込みが確認できた。

土層は、断面観察から、最大５層にわたる堆積が確認でき、オリーブ黒色粘質土や灰白色シルト質土などの氾濫土による堆積であった。

断面形は、逆台形状の掘り方で、レンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 45 号溝跡（第 90 図）

Ｅ区、ＡＲ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 46 号溝跡、第 37 号土坑、第 145 号ピットが重複関係にあり、第 46 号溝跡、第 37 号土坑を切り、第 145 号ピットに切られていた。

本遺構は流路をやや南東に向け、南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.89 ｍ程度、検出幅 1.41 ～ 1.61 ｍを測り、深さは 0.61 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は丸かった。

土層は、断面観察から、最大４層にわたる堆積が確認でき、暗オリーブ灰色粘質土や黄灰色シルト質土などの氾濫土による堆積であった。

断面形は、西側にテラスをもつＶ字状の掘り方で、レンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、土師器の壺・台付甕が検出されており、２の壺は外面上部にヘラ描による平行沈線と単節縄文ＬＲが施され、１の台付甕は外面にハケ目が施されている。

時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。

第 46 号溝跡（第 90 図）

Ｅ区、ＡＲ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 45 号溝跡、第 146 号ピットが重複関係にあり、第 45 号溝跡、第 146 号ピットに本遺構が切られていた。

本遺構は流路を南西に向け、やや傾いた東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 5.04 ｍ程度、検出幅 0.27 ～ 0.51 ｍを測り、深さは 0.29 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は丸みをもっていた。

土層は、断面観察から、最大２～３層にわたる堆積が確認でき、粘質やシルト質土などによる堆積であった。

断面形は、Ｕ字状の掘り方で、レンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 47 号溝跡（第 90 図）

Ｅ区、ＡＳ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 48 号溝跡、第１号円形状遺構が重複関係にあり、いずれの遺構も本遺構が切っていた。

本遺構は流路を南に向け、南北軸方向に延びていた。

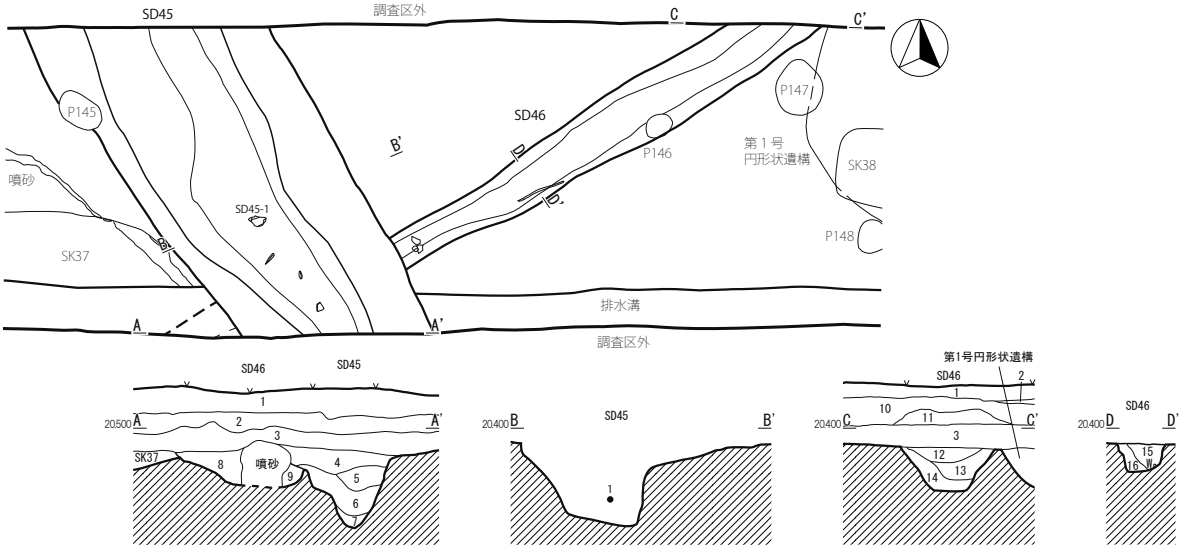
規模は、検出長 2.39 ｍ程度、検出幅 0.32 ～ 0.37 ｍを測り、深さは 0.24 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は平坦であった。

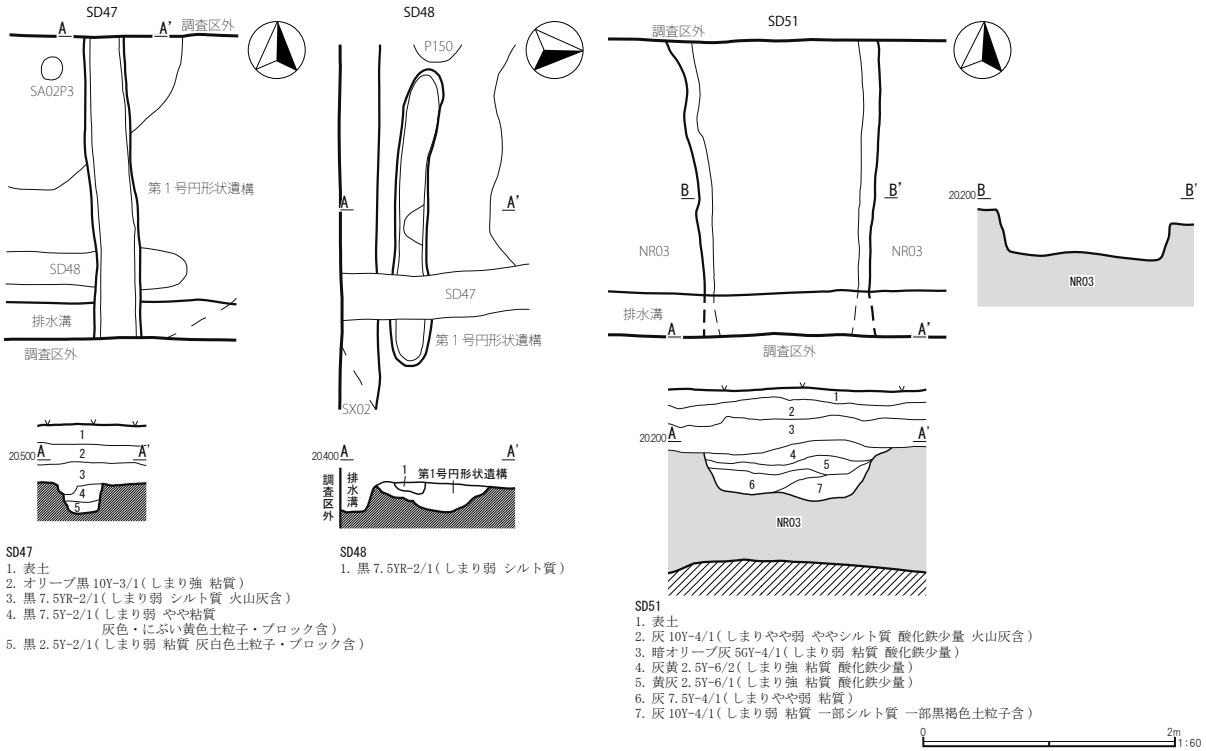
土層は、断面観察から、最大２層にわたる堆積が確認でき、いずれも黒色の粘質土であった。

断面形は、逆台形状の掘り方で、覆土は水平に堆積していた。

出土遺物は、検出されなかった。



SD45・SD46
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
3. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 シルト質 火山灰含)
4. 暗オリーブ灰 5GY-3/1(しまりやや弱 やや粘質 灰オリーブ色土粒子・ブロック含)
5. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 炭化物 黄褐色粘質土粒子・ブロック含)
6. オリーブ黒 10Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄多量
灰白色・黄褐色粘質土粒子・ブロック含)
7. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 ややシルト質 灰白色土ブロック含)
8. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり強 やや粘質 酸化鉄微量)
9. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり強 粘質 黒褐色粘質土粒子含)
10. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質)
11. 人工的な埋土とする
12. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 赤褐色シルト質土含)
13. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 炭化物 黄褐色土粒子・ブロック含)
14. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質 灰白色粘質土粒子・ブロック含)
15. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 砂少量含)
16. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 砂質 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 砂多量含)



SD47
1. 表土
2. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質)
3. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 シルト質 火山灰含)
4. 黒 7.5Y-2/1(しまり弱 やや粘質
灰色・にぶい黄色土粒子・ブロック含)
5. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 粘質 灰白色土粒子・ブロック含)

SD48
1. 黒 7.5YR-2/1(しまり弱 シルト質)

SD51
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄少量 火山灰含)
3. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量)
4. 灰黄 2.5Y-6/2(しまり強 粘質 酸化鉄少量)
5. 黄灰 2.5Y-6/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量)
6. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質)
7. 灰 10Y-4/1(しまり弱 粘質 一部シルト質 一部黒褐色土粒子含)

0 2m
1:60

第 90 図　第 45 ～ 48、51 号溝跡

第 48 号溝跡（第 90 図）

Ｅ区、ＡＳ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 47 号溝跡、第１号円形状遺構が重複関係にあり、第１号円形状遺構を切り、第 47 号溝跡に切られていた。

本遺構は、東西軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.37 ｍ程度、検出幅 0.25 ～ 0.28 ｍを測り、深さは確認面から 0.10 ｍを測る。

平面形は、円形状遺構内で終結する直線的に延伸する棒状の遺構で、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、１層のみの堆積が確認でき、黒色のシルト質土であった。

断面形は浅く緩やかな掘り方であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 49 号溝跡（第 91 図）

Ｅ区、ＡＳ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 50 号溝跡、第 39 号土坑、第１号円形状遺構、第２号性格不明遺構が重複関係にあり、第 50 号溝跡、第１号円形状遺構、第２号性格不明遺構を切り、第 39 号土坑に切られていた。

本遺構は流路を南東に向け、南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 4.12 ｍ程度、検出幅 2.63 ｍを測り、深さは 0.12 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部はわずかに起伏があるが平坦であった。

土層は、断面観察から、２層にわたる堆積が確認でき、黒色と暗灰黄色のシルト質土であった。断面形は、緩やかなレンズ状の掘り方で、覆土は自然堆積であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 50 号溝跡（第 91 図）

Ｅ区、ＡＳ、ＡＴ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 49 号溝跡が重複関係にあり、第 49 号溝跡に本遺構が切られていた。

本遺構は流路を南西に向け、南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.67 ｍ程度、検出幅 0.92 ～ 1.89 ｍを測り、深さは 0.25 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅は南に向かうにつれ広がっていき、底部は凸凹で起伏が激しかった。

土層は、断面観察から、東接する第３号河川跡の影響で氾濫土の堆積が確認できるが、その後掘り直し、再度利用していたようである。断面形は、緩やかなレンズ状の掘り方で、覆土は自然堆積であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 51 号溝跡（第 90 図）

Ｅ区、ＡＶ、ＡＷ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第３号河川跡が重複関係にあり、第３号河川跡を本遺構が切っていた。

本遺構は流路を南に向け、ほぼ南北軸方向に延びていた。一部を後世の攪乱に切られているため詳細は不明であった。

規模は、検出長 2.33 ｍ程度、検出幅 1.32 ～ 1.54 ｍを測り、深さは 0.48 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は若干凹凸があるが平坦であった。

土層は、断面観察から、４層確認できた。断面形は、逆台形状での掘り方で、覆土はレンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 52 号溝跡（第 91 図）

Ｅ区、ＡＸ、ＡＹ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 42 号土坑が重複関係にあり、第 42 号土坑を本遺構が切っていた。

本遺構は流路を南に向け、ほぼ南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.70 ｍ程度、検出幅 2.39 ～ 2.61 ｍを測り、深さは 0.86 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は丸みをもっていた。

土層は、断面観察から、９層確認でき、堆積土の多くは氾濫土であり、植物片を多く含む黒色や黒褐色のシルト質土であった。断面形は、東側にテラスを持つＵ字状の掘り方で、覆土はレンズ状の自然堆積であった。

出土遺物は、土師器の甑・坏・皿、須恵器の甕・高坏・長頸瓶・蓋、木製品が検出された。土師器坏のうち３点は内面に放射状暗文を有し、１は１点のみ有段口縁坏である。

時期は、出土遺物にややばらつきがあるものの、主体的な時期は、８世紀前半と推定される。

第 53 号溝跡（第 91 図）

Ｅ区、ＡＹ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 46 号土坑が重複関係にあり、第 46 号土坑を本遺構が切っていた。

本遺構は流路を南に向け、ほぼ南北軸方向に延び、南壁の 0.4 ｍ手前で終結していた。

規模は、検出長 2.26 ｍ程度、検出幅 1.46 ～ 1.65 ｍを測り、深さは 0.51 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもつ長方形状で、底部は平坦であった。

土層は、断面観察から、黒褐色シルト質土の３層が確認できた。断面形は、逆台形状での掘り方で、覆土は水平状の自然堆積であった。

出土遺物は、土師器坏が３点検出された。２・３は内面に放射状暗文を有し、１は有段口縁の模倣坏である。

時期は、出土遺物から７世紀後半から８世紀初頭と推定される。

第 54 号溝跡（第 92 図）

Ｅ区、ＡＺ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 55 号溝跡が重複関係にあり、第 55 号溝跡に本遺構が切られていた。

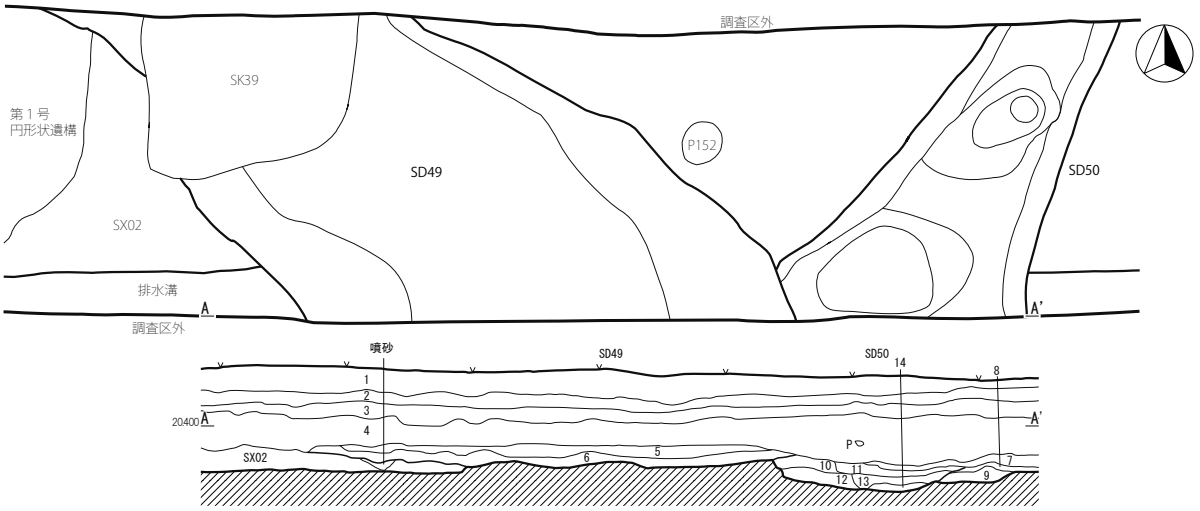
本遺構は流路をやや南東に向け、東西軸方向に延びていた。一部を後世の攪乱に切られているため詳細は不明であった。

規模は、検出長 4.43 ｍ程度、検出幅 2.23 ～ 2.40 ｍを測り、深さは確認面から 0.17 ｍを測る。

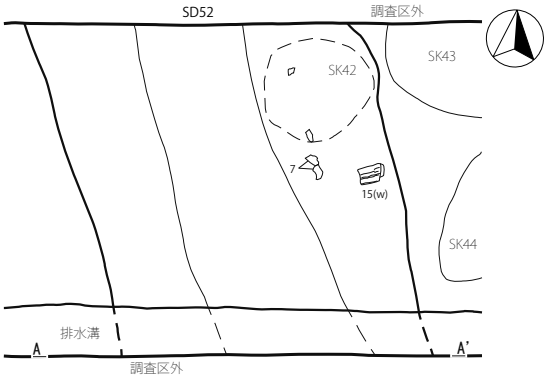
平面形は、直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもち、底部は凹凸が多く、平坦ではなかった。

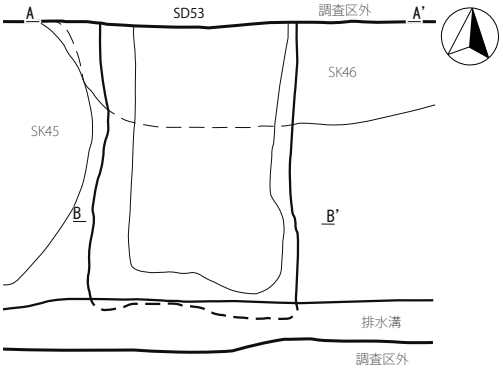
土層は、断面観察から、１層のみ確認できた。断面形は、緩やかで浅い掘り方であった。

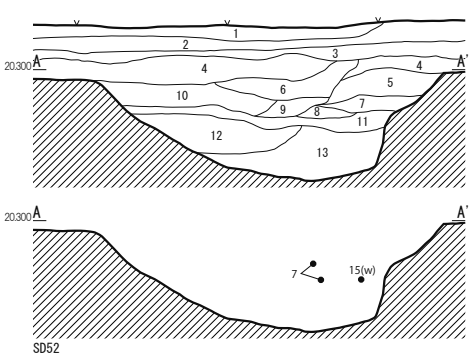
出土遺物は、土師器坏、須恵器甕がそれぞれ１点ずつ検出された。

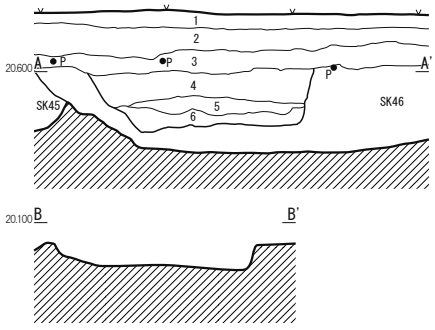


SD49・SD50
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
3. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質)
4. 黒 7.5YR-2/1(しまり強 シルト質 火山灰含)
5. 黒 5Y-2/1(しまり弱 シルト質 にぶい黄色・灰黄色土粒子・ブロック含 木片含)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2(やや粘質 シルト質 オリーブ灰色砂質土粒子・ブロック含)
7. オリーブ灰 5GY-5/1(しまり弱 一部粘質 砂質 酸化鉄)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 やや粘質 灰白色粘質土ブロック多量含)
9. オリーブ灰 5GY-5/1(しまり弱 砂質 黒褐色粘質土ブロック含)
10. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 やや粘質 灰白色粘質土ブロック微量含)
12. 青黒 5BG-2/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄微量)
11. 暗青灰 5BG-3/1(しまり弱 粘質 オリーブ灰色砂質土粒子含)
13. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 ややシルト質 灰白色シルト質土ブロック含)
14. 灰 10Y-4/1(しまり弱 砂質 酸化鉄)









SD52
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 白色・黒色・赤色土粒子多量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子多量含
白色・赤色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子・ブロック多量含
白色粒子少量含 炭化粒子多量含 木片少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 木片少量含)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 白色土ブロック多量含
黒色土粒子多量含 木片多量含)
9. 黒 5Y-2/1(しまりやや弱 シルト質 白色土ブロック少量含
黒色土粒子多量含 炭化ブロック多量含 木片多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質黒色・赤色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子少量含 木片多量含)
12. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄多量)
13. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄微量)

SD53
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黄色・黒色土粒子少量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄 白色・赤色土粒子多量含
黄色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含
黒色・赤色・黄色土粒子少量含 白色砂質土粒子少量含 土器少量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色・黒色土粒子少量含 白色砂質・粘質土粒子少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量
白色・黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)

第91図　第49、50、52、53号溝跡

時期は、出土遺物から、７世紀後半から８世紀初頭と推定される。

第 55 号溝跡（第 92 図）

Ｅ区、ＳＺ－51 グリッドから検出された。本遺構と第 54 号溝跡が重複関係にあり、第 54 号溝跡を切っていた。

本遺構は流路をやや南東に向け、南北軸方向に延びていた。

規模は、検出長 2.36 ｍ程度、検出幅 2.43 ～ 2.53 ｍを測り、深さは 0.59 ｍを測る。

平面形は、直線的に延伸し、南に向かって溝幅が狭くなっていき、底部は緩やかに南へ傾斜して、平坦であった。

土層は、断面観察から、４層程度確認できた。断面形は、緩やかなＵ字状で、覆土は氾濫土の堆積による水平堆積と思われる。

出土遺物は、土師器坏、須恵器の甕・壺・横瓶が検出された。坏の２・３は黒色処理が施された有段口縁坏で、破片ではあるが、内面に放射状暗文が施された坏もある。須恵器はいずれも末野産である。

時期は、出土遺物から、７世紀後半と推定される。

第 56 号溝跡（第 92 図）

Ｅ区、ＢＡ、ＢＢ－50、51 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

本遺構は流路をやや南東に向け、南北軸方向に延びていた。

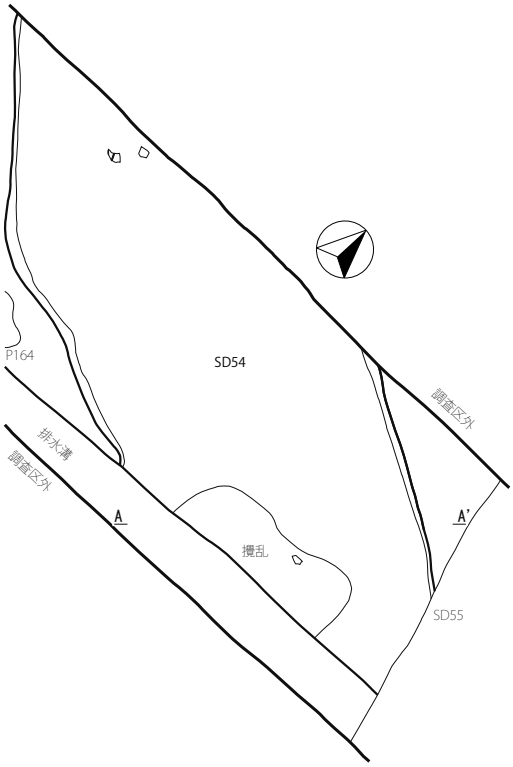
規模は、検出長 2.43 ｍ程度、検出幅 2.11 ～ 2.15 ｍを測り、深さは 0.88 ｍを測る。

平面形は不整形であるが直線的に延伸し、溝幅はほぼ一定の間隔をもっていた。底部は南壁面付近から調査区中間にかけて平坦であるが、そこから北壁に向かうにつれかなりの凹凸をもっていた。

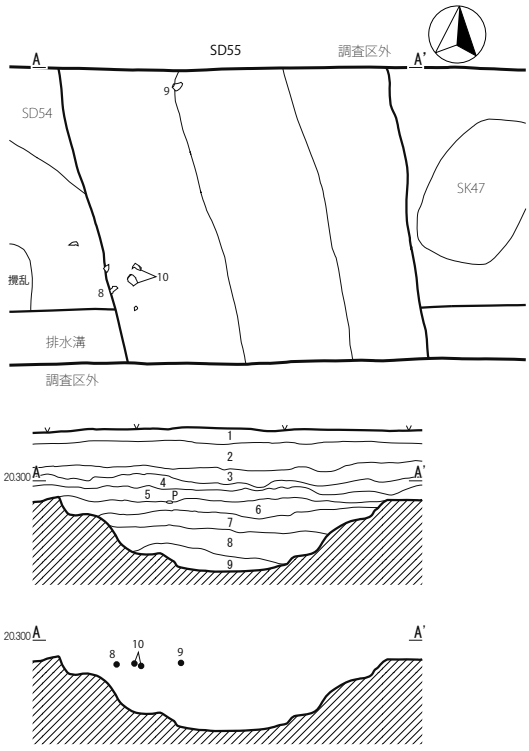
土層は、断面観察から、６層確認できた。断面形は、南壁では緩やかなＶ字状に掘り込んだ後、底部にコの字状の落ち込みをもち、覆土は洪水などの氾濫土の堆積による自然堆積と思われる。

出土遺物は、土師器坏、木製品板材が検出された。１は内面に放射状暗文を施文後、格子目状暗文が施され、穀物粒圧痕も確認できる。木製品はいずれも形状が板状で中央に１～２箇所の穿孔を有している。編み具の可能性が考えられる。

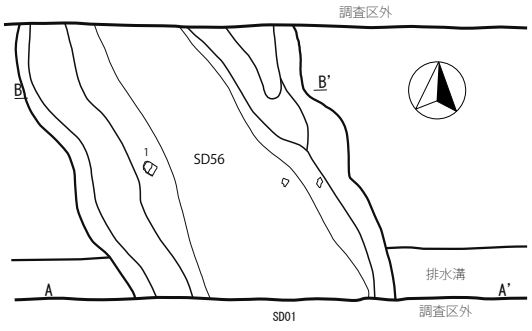
時期は、出土遺物がわずかのため、不明である。



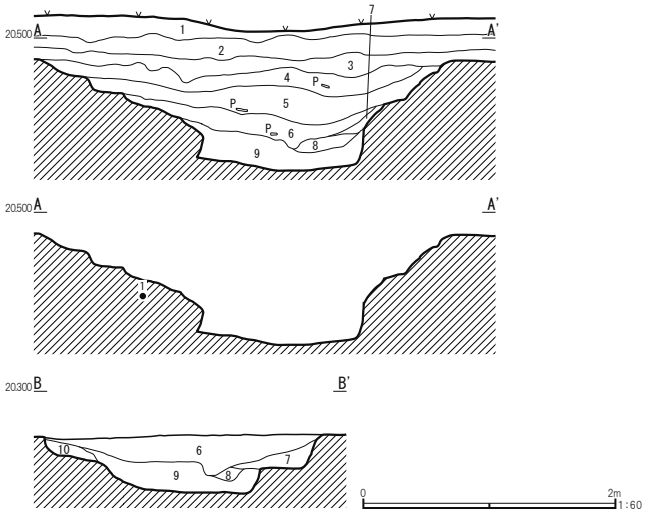
SD54
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
黒色・赤色土粒子少量含 白色砂質土ブロック少量含 木片少量含)



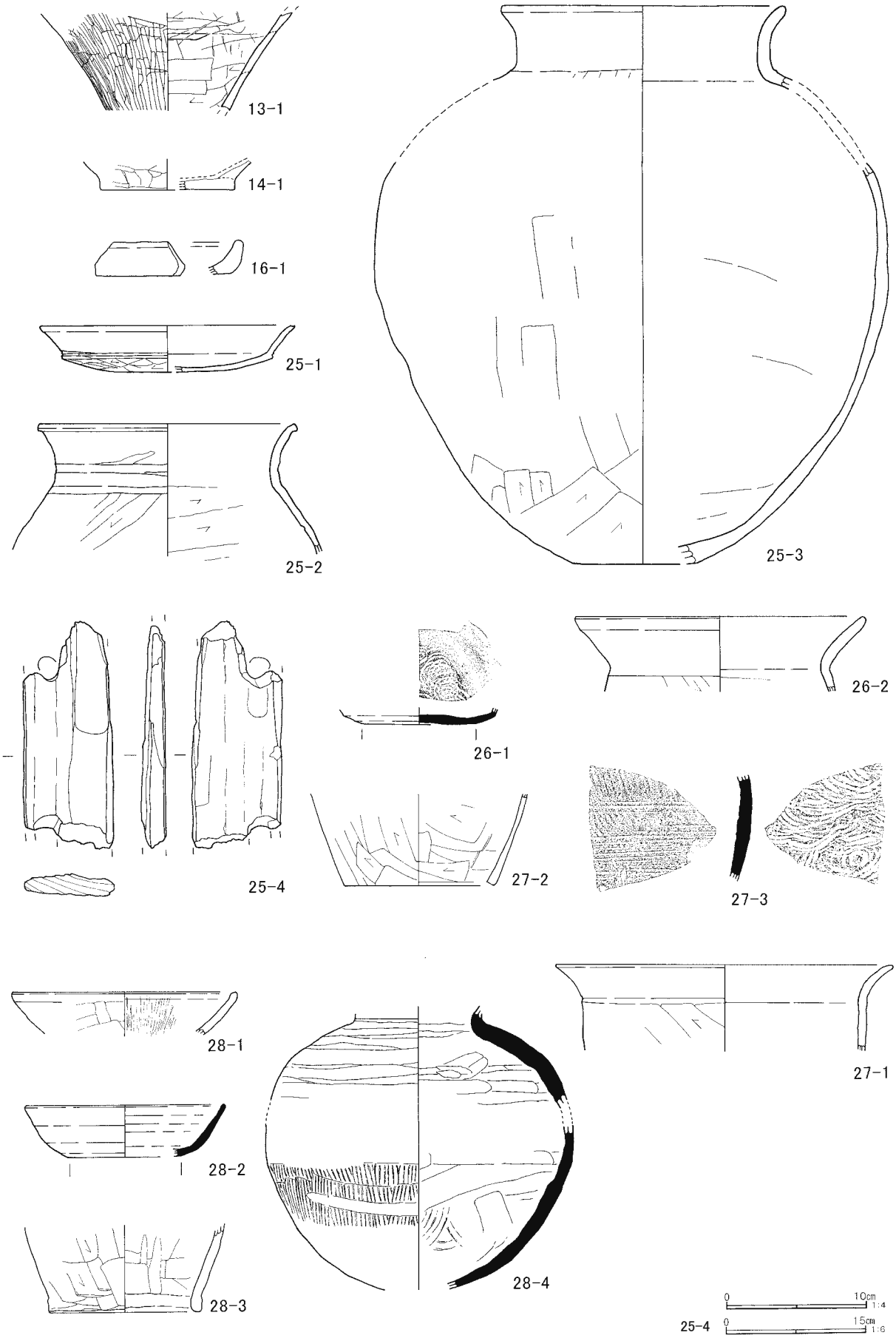
SD55
1. 表土
2. 灰 5Y-5/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黄色・黒色土粒子少量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 黒色土ブロック多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片少量含)
8. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3(しまり強 粘質 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
9. 黒 2.5Y-2/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 木片多量含)



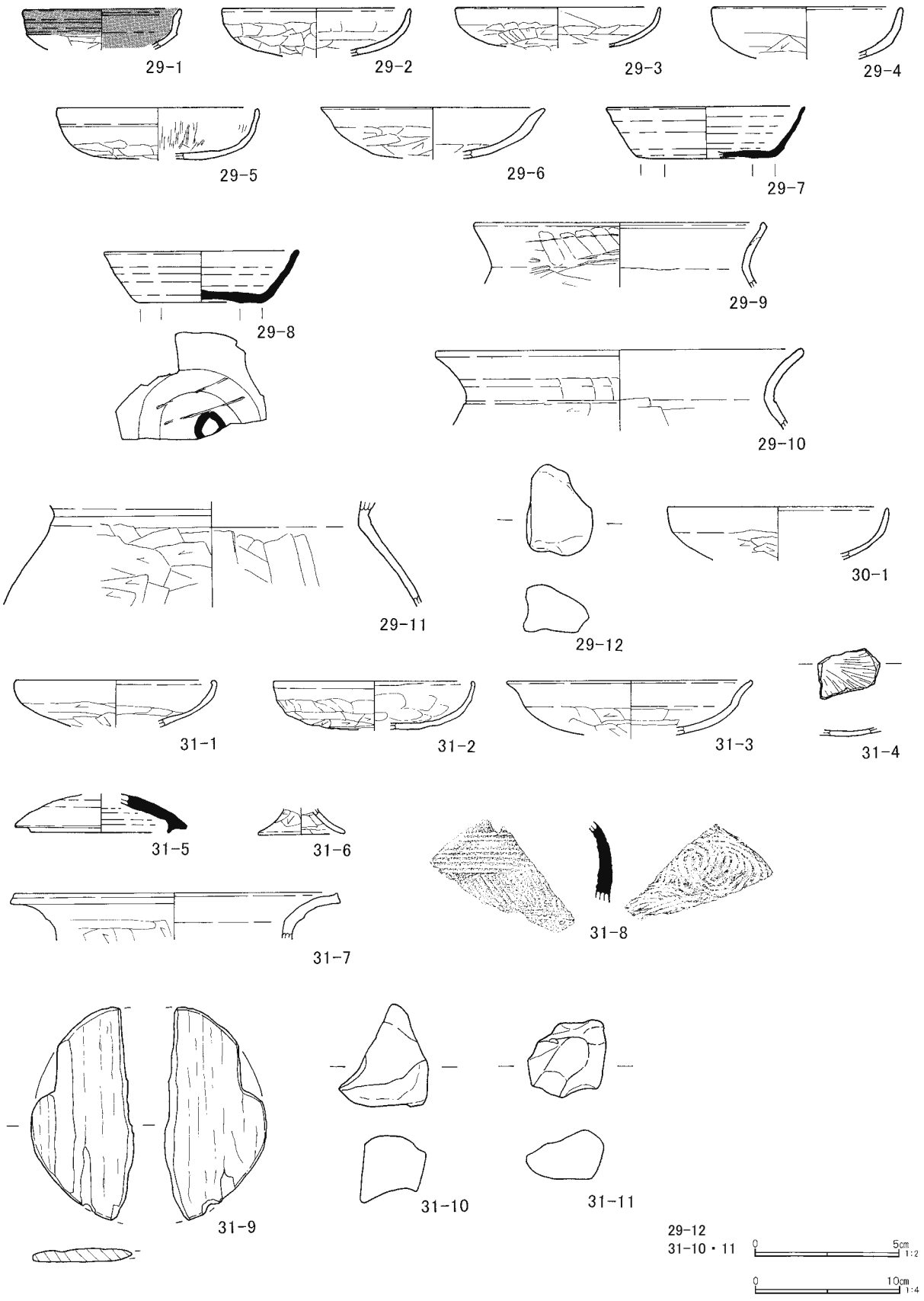
SD56
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
3. 黒 7.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 火山灰含)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 ややシルト質)
5. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄微量)
6. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄微量)
7. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 緑灰色シルト質土多量含)
8. 緑灰 7.5GY-6/1(しまり弱 シルト質)
9. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質)



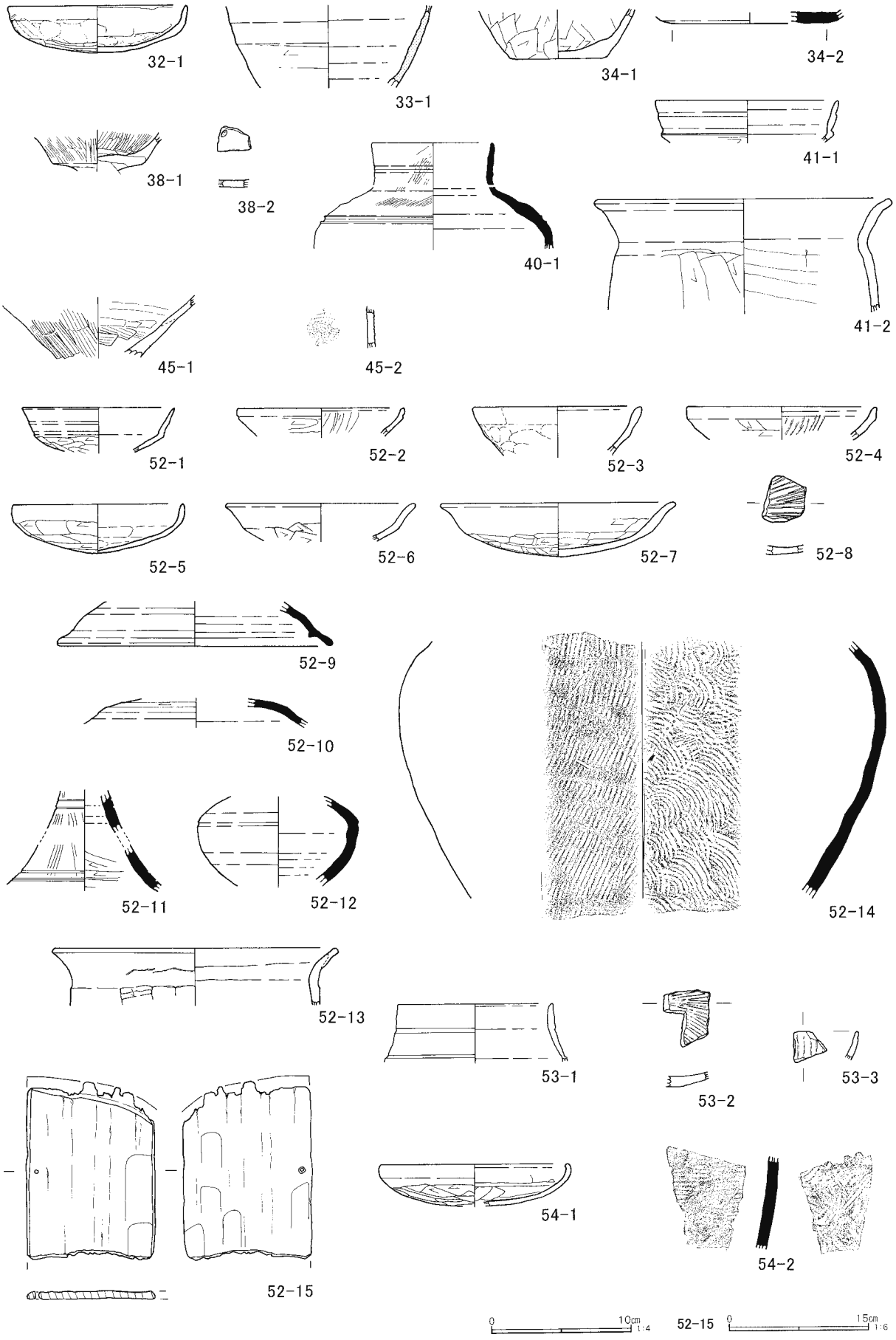
第 92 図　第 54 ～ 56 号溝跡



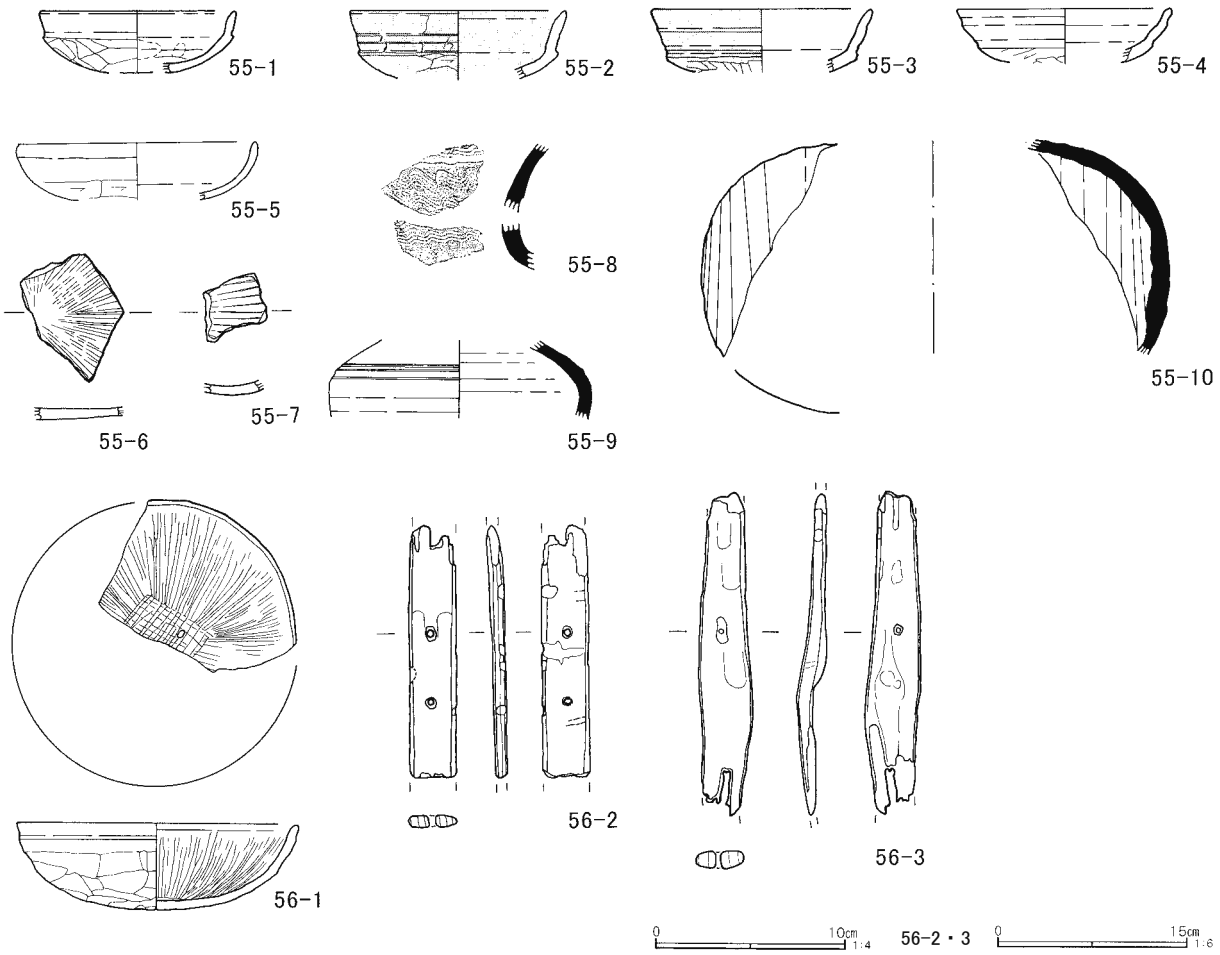
第 93 図　溝跡出土遺物(1)



第 94 図　溝跡出土遺物(2)



第 95 図　溝跡出土遺物(3)



第 96 図　溝跡出土遺物(4)

第 15 表　溝跡出土遺物観察表(1)（第 93 ～ 96 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD13	13-1	土師器 壺	-	(7.0)	-	ABIJM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	胴部 30%	外面：ミガキ 内面：ナデ	
SD14	14-1	土師器 壺	-	(2.2)	(9.6)	ABIMN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	20%	外面：ヘラケズリ、底面ミガキ	
SD16	16-1	瓦質土器 焙烙	-	-	-	ABDJKM	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部片		
SD25	25-1	土師器 坏	(18.3)	(3.3)	-	ABJM	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～底部 20%	口縁端部に凹線 外面：ヘラケズリ	
SD25	25-2	土師器 甕	(18.0)	(9.4)	-	ABCDHIMN	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～胴部片	内外面：ナデ	
SD25	25-3	土師器 壺	(20.0)	(40.0)	(8.0)	ABGHMN	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁部片及び胴部下位 40%	外面：口縁部ナデ、わずかに外反する 胴部ヘラケズリ（縦位・斜位）（摩耗著しい） 内面：口縁部ナデ、わずかに外反する 胴部ナデ調整痕	外面一部スス付着 推定復元
SD25	25-4	木製品 建築材	最大長 (24.5)　最大幅 (9.5)　最大厚 (2.5)						上下端部欠損	木取：板目 建築材カ 一部穿孔している	
SD26	26-1	須恵器 坏	-	(1.1)	(8.2)	ABIMN	褐灰 7.5YR-6/1	B	底部 20%	外面：底部糸切り後全面手持ちヘラケズリ 内面：底部に同心円タタキ目	末野産
SD26	26-2	土師器 甕	(20.4)	(5.4)	-	ABDIKM	橙 5YR-6/6	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD27	27-1	土師器 甕	(24.0)	(6.2)	-	ABJMN	にぶい褐 7.5YR-5/4	B	口縁～胴部 30%	外面：ヘラケズリ	
SD27	27-2	土師器 甑	(15.4)	(6.6)	(10.6)	ABDIMN	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
SD27	27-3	須恵器 甕	-	-	-	ABMN	外面：灰 N-5/ 内面：灰 N-6/	B	胴部片	外面：平行タタキ目後カキ目 内面：同心円タタキ目	末野産

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD28	28-1	土師器 皿	(16.0)	(3.0)	-	ABI	褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	内外面スス付着
SD28	28-2	須恵器 坏	(14.2)	(3.7)	(8.0)	ABEM	灰 N-6/	B	口縁～底部片	底部糸切り後全面ヘラケズリ	南比企産
SD28	28-3	土師器 甑	-	(6.3)	(10.8)	ABDI	橙 5YR-6/6	B	底部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD28	28-4	須恵器 壺	-	(20.3)	-	ADIMN	黄灰 2.5Y-6/1	B	頸部～胴部 30%	外面：上半ヨコナデ 中位平行タタキ目 下位ナデ 内面：ナデ 下位同心円タタキ目	末野産
SD29	29-1	土師器 坏	(10.8)	(2.8)	-	ABDM	にぶい赤褐 2.5YR-5/4 にぶい褐 7.5Y-6/3	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ	比企型坏 内外面赤彩
SD29	29-2	土師器 坏	(12.8)	(3.3)	-	ABDIK	灰黄褐 10YR-6/2	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD29	29-3	土師器 坏	(14.0)	(2.7)	-	ABIJM	外面：橙 2.5YR-6/6 橙 5YR-6/6 内面：橙 5YR-6/6	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD29	29-4	土師器 坏	(13.0)	(3.6)	-	ABDIKMN	外面：橙 10YR-6/6 にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：橙 10YR-6/6	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ	
SD29	29-5	土師器 坏	(13.8)	(3.6)	-	ABJM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	40%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD29	29-6	土師器 皿	(15.5)	(3.5)	-	EKMN	橙 5YR-6/8	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD29	29-7	須恵器 坏	(13.6)	(3.6)	(9.4)	ABFM	外面：灰白 N-7/ 内面：灰白 7.5Y/7/1	B	口縁～底部 40%	外面：底面糸切後周辺ヘラケズリ	南比企産
SD29	29-8	須恵器 坏	(13.4)	(3.6)	(8.4)	ABDGHMN	灰白 N-7/	B	口縁～底部 30%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部墨書、刻書 南比企産
SD29	29-9	土師器 甕	(20.0)	(4.5)	-	ABI	灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD29	29-10	土師器 甕	(25.4)	(5.7)	-	ABEIM	外面：橙 5YR-7/6 内面：一部 褐灰 5YR-5/1	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
SD29	29-11	土師器 甕	-	(7.4)	-	EIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：明褐灰 7.5YR-7/2	B	頸部～胴部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
SD29	29-12	軟質泥岩	最大長 3.1　最大幅 2.3　最大厚 1.6								
SD30	30-1	土師器 坏	(15.2)	(3.7)	-	ABIKMN	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部片	外面：ヘラケズリ	
SD31	31-1	土師器 坏	(13.8)	(3.2)	-	BDIKM	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD31	31-2	土師器 坏	(13.9)	(3.3)	-	AHJKM	橙 5YR-6/6	A	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ、指頭圧痕	
SD31	31-3	土師器 皿	(17.0)	(3.7)	-	ABIMN	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD31	31-4	土師器 坏	-	-	-	ABDM	橙 5YR-6/6	B	底部片	内面：放射状暗文	
SD31	31-5	須恵器 蓋	(11.9)	(2.7)	-	ABM	灰白 10YR-7/1	B	口縁部片		末野産
SD31	31-6	土師器 高坏	-	(1.8)	(6.0)	AHKM	にぶい赤褐 5YR-5/4	A	脚部片	内外面：ヘラケズリ	
SD31	31-7	土師器 甑	(22.4)	(3.2)	-	ABIM	橙 5YR-6/6	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD31	31-8	須恵器 甕	-	-	-	ABM	外面：灰 5Y-4/1 内面：灰 N-6/	B	胴部片	外面：平行タタキ目後カキ目 内面：同心円タタキ目	末野産
SD31	31-9	木製品 曲物底板	最大長 14.8　最大幅 7.0　最大厚 1.0							木取：柾目	
SD31	31-10	軟質泥岩	最大長 3.6　最大幅 3.1　最大厚 2.3								
SD31	31-11	軟質泥岩	最大長 2.6　最大幅 2.7　最大厚 1.7								
SD32	32-1	土師器 坏	12.8	3.4	-	AEIKM	にぶい褐 7.5YR-6/3	A	70%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD33	33-1	灰釉陶器 長頸瓶	-	(5.9)	-	ABI	灰白 2.5Y-7/1	B	胴部片	外面：下部回転ヘラケズリ	
SD34	34-1	土師器 甕	-	(3.6)	(6.8)	ABEIMN	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい橙 7.5YR-6/3	B	底部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
SD34	34-2	須恵器 坏	-	(0.8)	(11.0)	FM	灰 5Y-6/1	B	底部片	底部糸切り後全面ヘラケズリ	南比企産
SD38	38-1	土師器 高坏	-	(2.9)	-	ABGHIKLM	明褐灰 7.5YR-7/2	B	坏部片	内外面：ヘラミガキ	
SD38	38-2	土師器 坏	-	-	-	ABDMN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	底部片		内面穀物粒圧痕
SD40	40-1	須恵器 壺	-	-	-	ABIM	外面：灰白 N-7/ 内面：灰 N-5/	B	口縁～胴部片	外面：平行タタキ目、2 条凹線	末野産
SD41	41-1	土師器 坏	(13.0)	(3.0)	-	AIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：褐灰 7.5YR-4/1	A	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SD41	41-2	土師器 甕	(21.0)	(8.2)	-	AEM	にぶい黄橙 10YR-7/2	A	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD45	45-1	土師器 台付甕	-	(4.4)	-	ABIMN	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：にぶい橙 10YR-6/3	B	胴部片	外面：ハケ目 (5 本 /1cm) 内面：ハケ目、ナデ (5 本 /1cm)	S 字甕

第 15 表　溝跡出土遺物観察表(2)（第 93 ～ 96 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD45	45-2	土師器 壺	-	-	-	ABM	外面：黄灰 2.5Y-6/1 黒褐 2.5Y-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：平行沈線、単節縄文 LR	
SD52	52-1	土師器 坏	(11.0)	(3.2)	-	AIM	橙 5YR-6/8	A	40%	外面：ヘラケズリ	有段口縁
SD52	52-2	土師器 坏	(12.0)	(2.0)	-	ADKM	外面：にぶい橙 5YR-6/3 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁～体部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD52	52-3	土師器 坏	(12.0)	(3.5)	-	AM	外面：口縁部 黒褐 2.5Y-3/1 体部 灰褐 7.5YR-6/2 内面：黒 5YR-1.7/1	B	20%	外面：ナデ、指頭圧痕	内面スス付着
SD52	52-4	土師器 坏	(13.5)	(2.4)	-	ABJM	橙 5YR-6/6	B	口縁～体部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD52	52-5	土師器 坏	(12.0)	3.0	-	AGIM	外面：橙 7.5YR-6/6 内面：橙 7.5YR-7/6	A	50%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	
SD52	52-6	土師器 坏	(13.4)	(2.7)	-	ABJMN	にぶい赤褐 5YR-5/4	B	口縁～体部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD52	52-7	土師器 皿	(16.8)	(3.8)	-	ABJM	橙 2.5YR-6/8	B	40%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD52	52-8	土師器 坏	-	-	-	ABDI	にぶい橙 5YR-6/4	B	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD52	52-9	須恵器 蓋	(19.6)	(3.2)	-	AGM	灰褐 7.5YR-5/2	A	10%		末野産
SD52	52-10	須恵器 蓋	-	(1.8)	-	ABIJM	外面：灰黄 2.5Y-6/2 内面：黄灰 2.5Y-6/1	B	体部 10%		南比企産
SD52	52-11	須恵器 高坏	-	(7.3)	-	ABGM	外面：灰 7.5Y5/1 内面：灰 N-6/	B	脚部 20%	外面：ハケ目 内面：ナデ	
SD52	52-12	須恵器 長頸瓶	-	(6.4)	-	AB	灰白 N-7/	B	胴部 20%		肩部に自然釉付着 末野産
SD52	52-13	土師器 甑	(20.0)	(4.1)	-	ABDIN	灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD52	52-14	須恵器 甕	-	(18.5)	-	ABMN	灰 N-5/	A	胴部片	外面：平行タタキ目後指頭横線 内面：同心円タタキ目	末野産
SD52	52-15	木製品 曲物底板	最大長 (18.4)　最大幅 (13.7)　最大厚 (0.8)							木取：柾目 側板と接触する部分はほとんど欠損 左側中央に木釘用穿孔 表裏ともに入念に整形	
SD53	53-1	土師器 坏	(11.0)	(4.2)	-	FJM	橙 5YR-6/6	A	口縁部 20%	外面：ナデ	有段口縁
SD53	53-2	土師器 坏	-	-	-	ABDK	橙 5YR-7/6	B	体部～底部片	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD53	53-3	土師器 坏	-	-	-	ABI	橙 5YR-7/6	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD54	54-1	土師器 坏	(13.3)	(3.0)	-	ABIKM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD54	54-2	須恵器 甕	-	-	-	ABDMN	外面：灰 N-5/ 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	胴部片	外面：平行タタキ目 内面：同心円タタキ目	末野産
SD55	55-1	土師器 坏	(10.2)	(3.2)	-	ABJM	にぶい橙 5YR-7/4	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
SD55	55-2	土師器 坏	(11.2)	(3.6)	-	ABDI	褐灰 10YR-4/1	B	20%	外面：ヨコナデ、ヘラケズリ	有段口縁 内外面黒色処理
SD55	55-3	土師器 坏	(11.4)	(3.3)	-	ABI	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～体部片	外面：ヘラケズリ	有段口縁 外面黒色処理
SD55	55-4	土師器 坏	(11.2)	(3.8)	-	ABIM	明褐灰 7.5YR-7/2	B	口縁～体部片	外面：ヘラケズリ	有段口縁 内外面スス付着
SD55	55-5	土師器 坏	(12.4)	(3.0)	-	ABK	にぶい褐 7.5YR-6/4	B	口縁～体部片	外面：ヘラケズリ	
SD55	55-6	土師器 坏	-	-	-	ABDIKN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：橙 5YR-6/6	B	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD55	55-7	土師器 坏	-	-	-	ABDK	橙 5YR-7/6	B	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
SD55	55-8	須恵器 甕	-	-	-	AB	外面：灰 N-6/ 内面：灰白 10YR-7/1	B	頸部片	外面：波状文	末野産
SD55	55-9	須恵器 壺	-	(4.1)	-	AB	灰 N-4/	B	胴部片	外面：肩部に凹線とカキ目	外面肩部に自然釉付着 末野産
SD55	55-10	須恵器 横瓶	-	(11.3)	-	ABM	灰 N-7/	B	胴部片	外面：ヘラケズリ、ナデ	外面自然釉付着 末野産
SD56	56-1	土師器 坏	(14.8)	(4.5)	(8.6)	ABCDIKM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：橙 5YR-6/6	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文後に格子目状暗文	内面穀物粒圧痕
SD56	56-2	木製品 板材	最大長 (20.0)　最大幅 3.6　最大厚 1.1						上下端欠損	木取：柾目 中央に 2 ヶ所穿孔	編み具の可能性
SD56	56-3	木製品 板材	最大長 (25.5)　最大幅 4.0　最大厚 1.4						上下端欠損	木取：柾目 中央に 1 ヶ所穿孔	編み具の可能性

８　河川跡

第１号河川跡（第 97 図）

Ａ区、ＢＣ～ＢＥ－17 ～ 20 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが、本調査区を南西から北東へ横断する流路であった。周辺の地形を考え、かなり蛇行している河川であっただろうと推定される。

規模は、トレンチ２箇所のみの掘削のため、不正確ではあるが、推定検出長 29 ｍ、検出幅 25.8 ～ 26.2 ｍ、最大の深さは遺構確認面から最深部で１ｍ前後であった。

土層断面を観察すると、15 ～ 18 層程度に渡る堆積がみられ、上層付近は水平堆積であるが、中層付近から不規則な堆積状況に変化していた。いずれも粘質やシルト質の氾濫土が相互に折り重なって堆積していた。中層付近の堆積土内には木片や植物繊維などが多く含まれることから、川が滞留していた時期があったことも推定される。両岸付近はレンズ状に堆積し、河川氾濫などを繰り返し、埋まっていったものと考えられる。

なお、本遺構は崩落の危険性があったことから、最下層までの掘削は行わなかった。

出土遺物は検出されなかった。

第２号河川跡（第 98 図）

Ｄ区、ＢＦ－ 58 ～ 60 グリッドから検出された。第 27 ～ 32 号溝跡、第 14 ～ 28 号土坑、第 117 ～ 121 号ピットの複数の遺構と重複関係にあり、本遺構が重複するすべての遺構を切っていた。

大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが、検出範囲は狭小だが、周辺の地形から推定し西から東へ流れていたものと推定される。

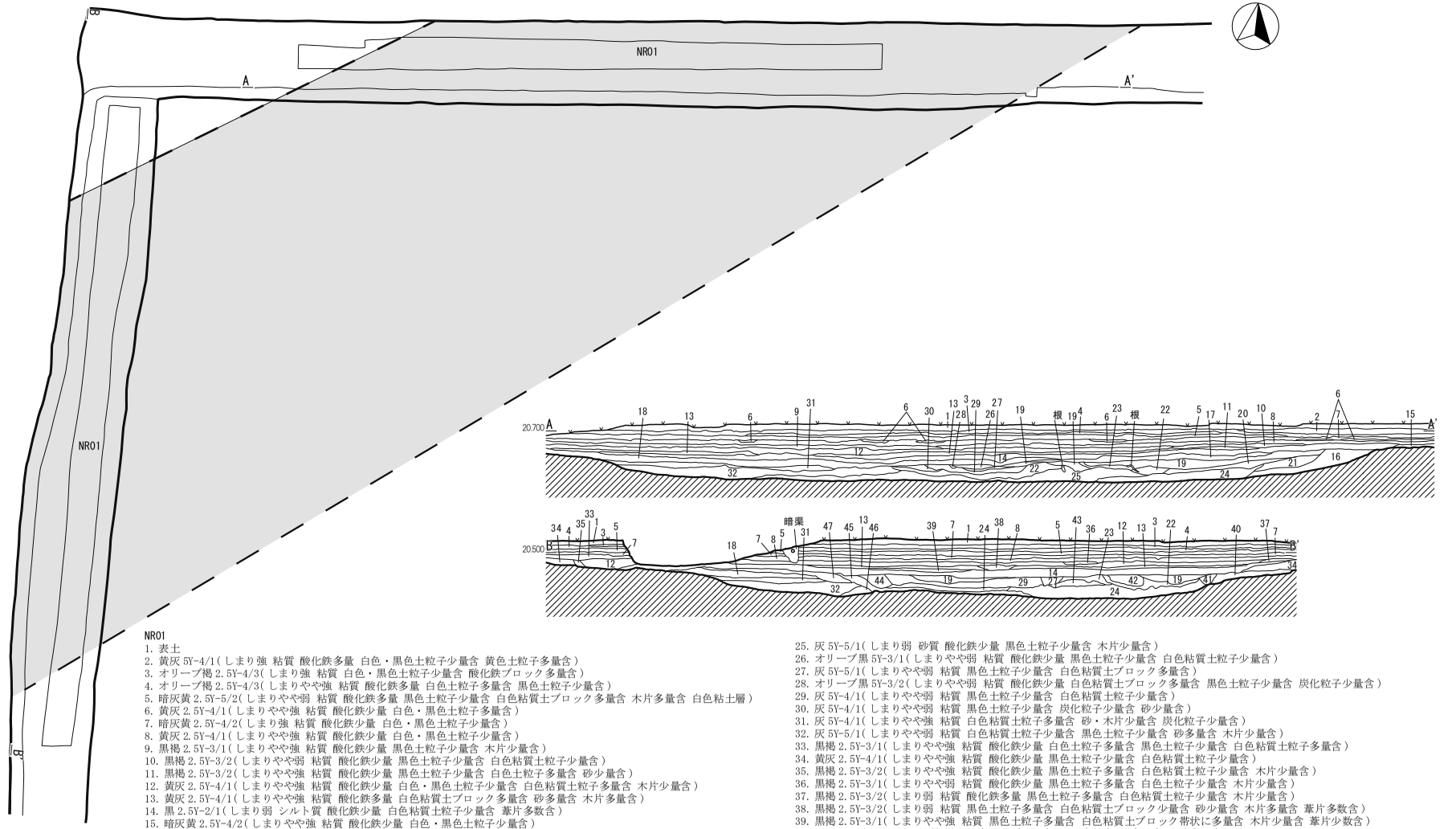
規模は、検出長 2.78 ｍ、検出幅 12.87 ｍ、最大の深さは確認面から 1.1 ｍ、平均 1.08 ｍであった。流路幅、深さから考えて、非常に浅く、緩やかな流路であったことが推定できる。

土層断面を観察すると、十数層に渡る堆積がみられ、重複関係にある遺構の大部分はこの河川流路の堆積により、埋没したものと推定できる。シルト質の黒褐色土やオリーブ黒色土で、木片や酸化鉄などを含む堆積土が大半であることから、河川の氾濫により数度の堆積で埋没したものと推定される。

本遺構の堆積状況は、両岸はレンズ状に堆積しているが、大部分は水平に堆積していた。

覆土内からは大量の遺物が検出され、Ｄ区における出土遺物の大部分が本遺構内から出土したものであった。遺物は本遺構内に点在して検出されたが、特に河川左岸付近の第 14、15 号土坑付近に集中し、まとまった遺物（土師器の甕・壺・坏・高坏、須恵器の甕・横瓶・蓋・長頸壺・坏など）が検出された。これらの遺物の中には、墨書土器、桃の種子、臼玉が検出されており、墨書土器はいずれも底部、もしくは体部側面に「官もしくは宮、豊、里？刀自」など多様であった。後述する第 13、14 号土坑が湧泉祭祀遺構であることから、それを受け継ぎ、河川になってからも引き続き、水辺の祭祀として、土器や種子類などを投げ入れた可能性が考えられる。

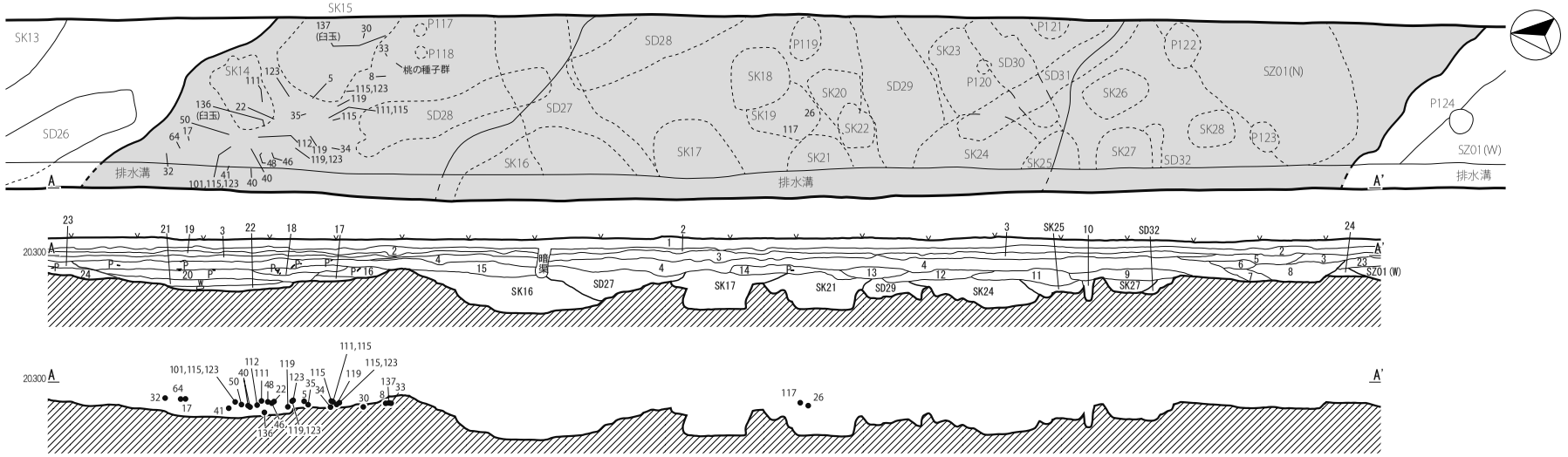
出土遺物は細片なども含めると、500 点以上が検出されており、図化しているものはそのうちの一部で



NR01
1. 表土
2. 黄灰 5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 黄色土粒子多量含)
3. オリーブ褐 2.5Y-4/3(しまり強 粘質 白色・黒色土粒子少量含 酸化鉄ブロック多量含)
4. オリーブ褐 2.5Y-4/3(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含 黒色土粒子少量含)
5. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含 白色粘土層)
6. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含)
7. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
8. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
9. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 木片少量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色土粒子多量含 砂少量含)
12. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
13. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 砂多量含 木片多量含)
14. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 葦片多数含)
15. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
16. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土ブロック多量含 黄色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 葦片多数含)
17. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
18. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子多量含 砂少量含 酸化鉄ブロック多量含 木片多量含)
19. 灰 5Y-5/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂少量含 木片多量含)
20. 灰 5Y-4/1(しまりやや強 粘質 白色粘質土粒子少量含 砂少量含)
21. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
22. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 砂少量含)
23. 灰 5Y-5/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 木片少量含 砂ブロック多量)
24. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 砂質 砂多量含)
25. 灰 5Y-5/1(しまり弱 砂質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 木片少量含)
26. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
27. 灰 5Y-5/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含)
28. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含 黒色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
29. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
30. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 黒色土粒子少量含 炭化粒子少量含 砂少量含)
31. 灰 5Y-4/1(しまりやや強 粘質 白色粘質土粒子多量含 砂・木片少量含 炭化粒子少量含)
32. 灰 5Y-5/1(しまりやや弱 粘質 白色粘質土粒子少量含 黒色土粒子少量含 砂多量含 木片少量含)
33. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 白色土粒子多量含 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
34. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
35. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
36. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 木片少量含)
37. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
38. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 砂少量含 木片多量含 葦片多数含)
39. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック帯状に多量含 木片少量含 葦片少数含)
40. 灰 5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土ブロック多量含 砂多量含 木片多量含)
41. オリーブ黒 5Y-3/1(酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 木片少量含)
42. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
43. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 炭化粒子少量含)
44. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
45. 灰 5Y-5/1(しまり弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 炭化粒子少量含 砂多量含)
46. 灰 5Y-4/1(しまり弱 砂質)
47. 灰 5Y-5/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 砂少量含)

0 8m
1:200

第97図　第1号河川跡

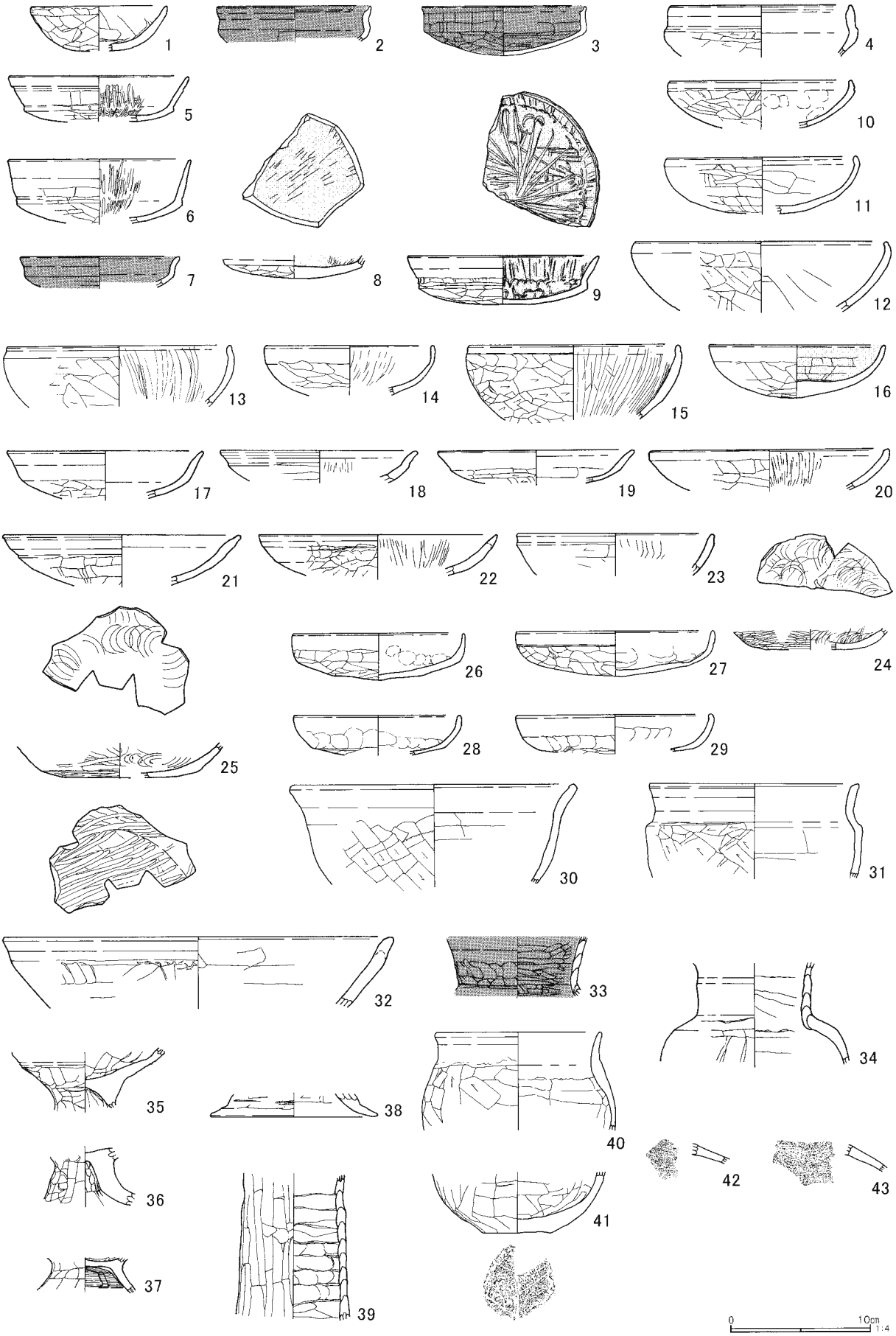


NRO2

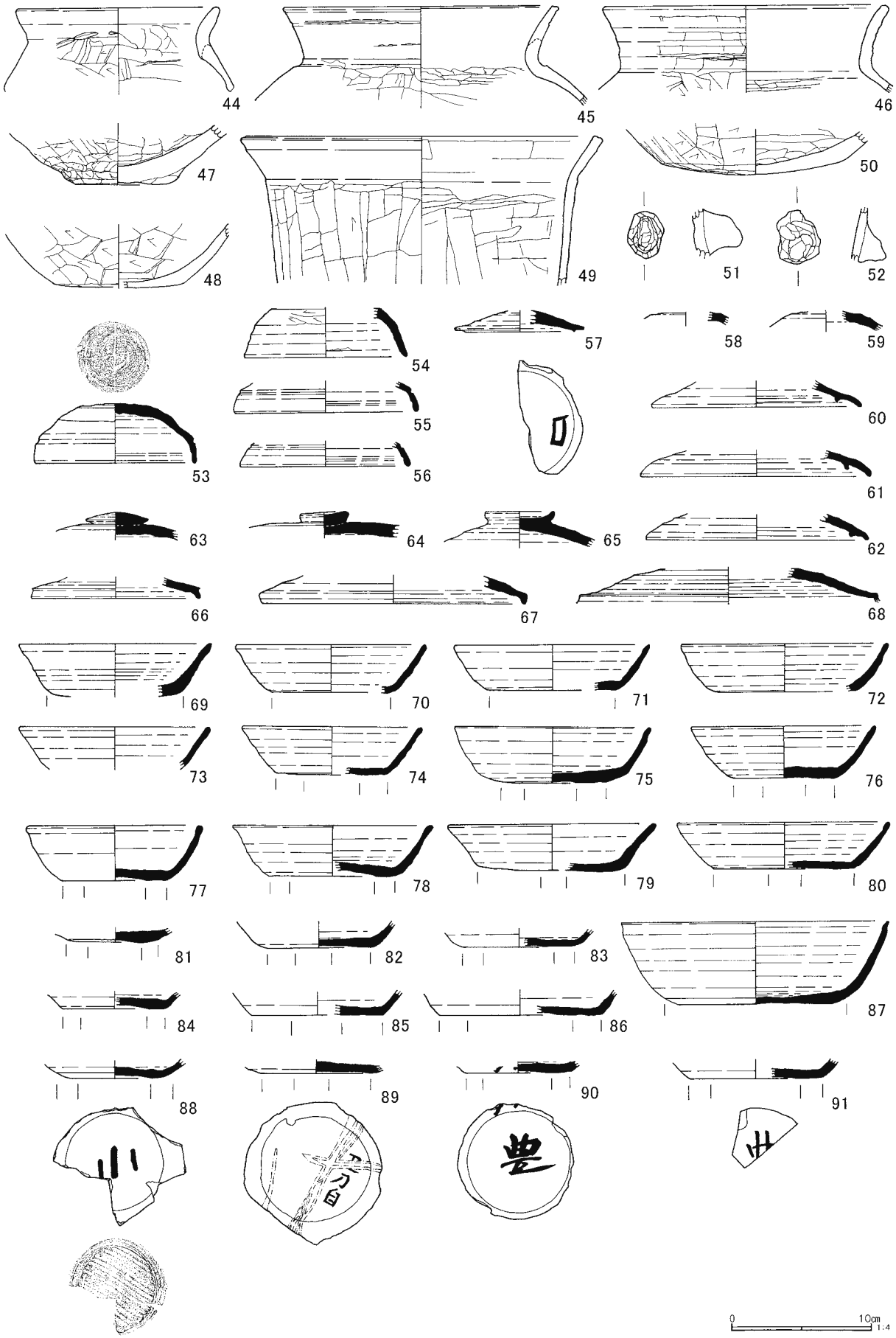
1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 土器片多量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色・赤色土粒子多量含 土器片少量含 木片少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 土器片多量含 木片少量含)
5. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
6. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
7. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 土器片・木片少量含)
9. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック多量含 木片少量含)
10. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 砂粒子多量含 木片少量含)
11. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子多量含 木片多量含)
12. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 砂粒子少量含 木片少量含)
13. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック帯状に多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
14. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 土器片・木片少量含)
15. 暗灰 N-3/(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック少量含 木片少量含)
16. オリーブ黒 5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
17. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
18. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘土粒子少量含 木片少量含)
19. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりかなり強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色土粒子多量含 土器片少量含)
20. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
21. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
22. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
23. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
24. オリーブ黒 5Y-2/2(しまりやや強 シルト質 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 砂粒子少量含 木片少量含)

0 4m
1:100

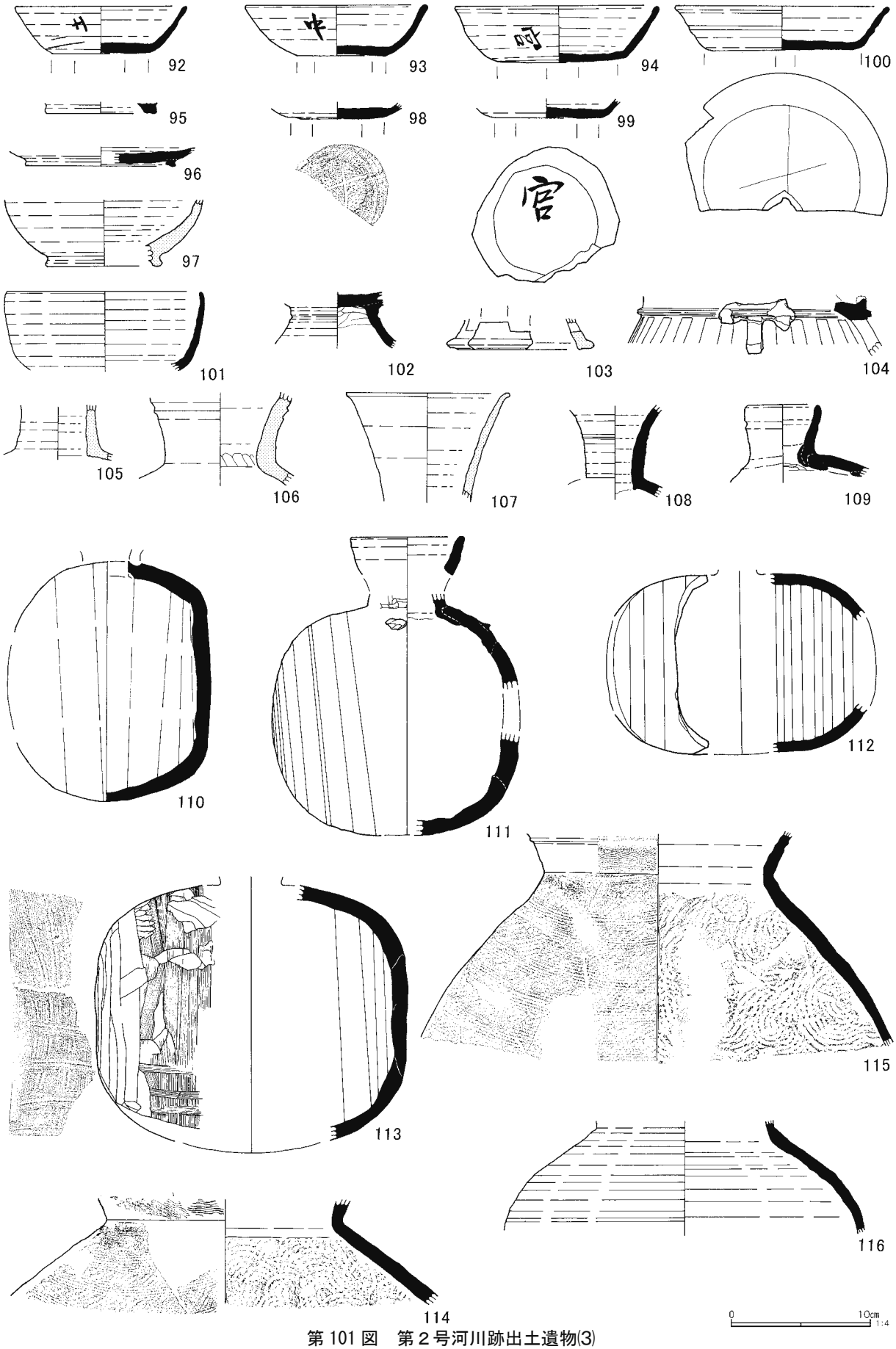
第 98 図　第２号河川跡



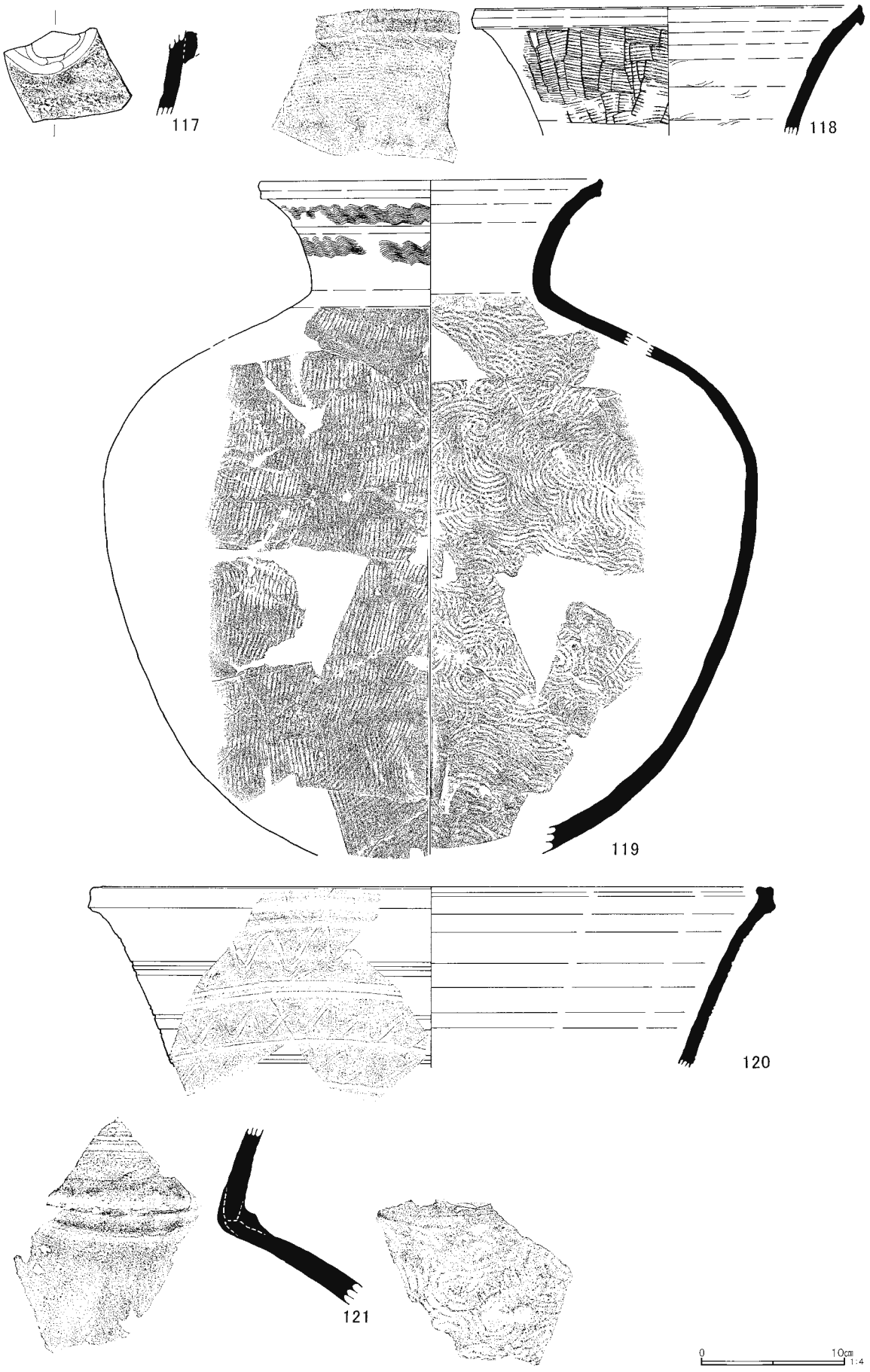
第 99 図　第２号河川跡出土遺物(1)



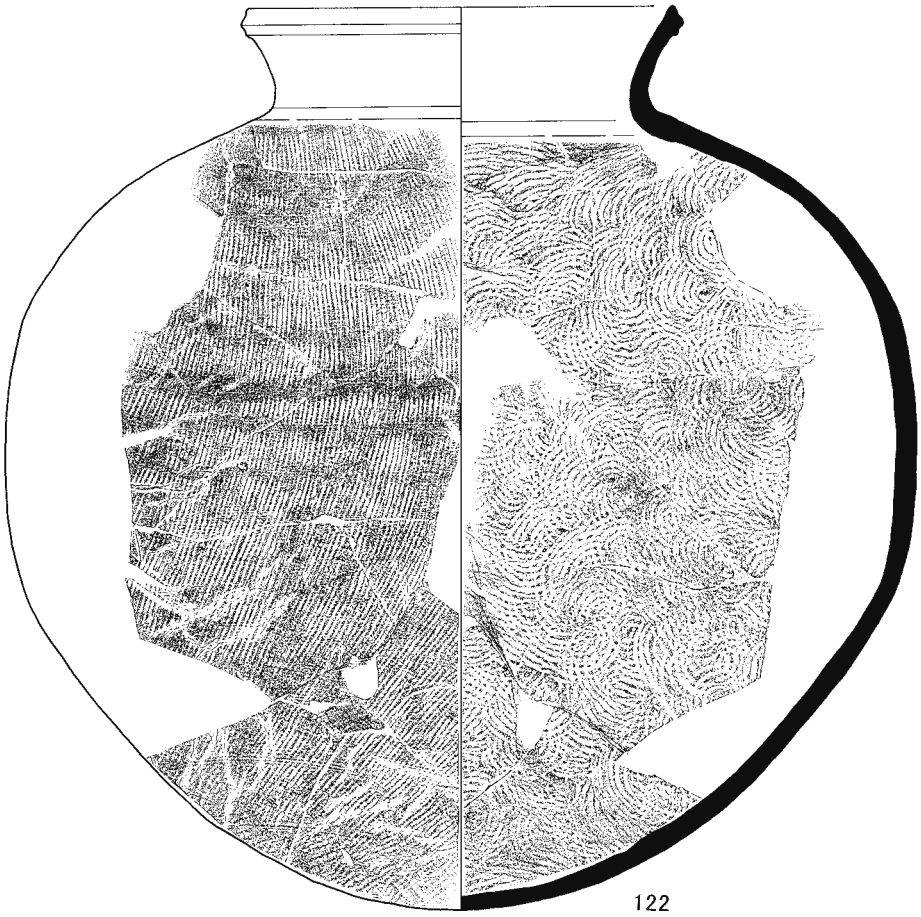
第 100 図　第２号河川跡出土遺物(2)

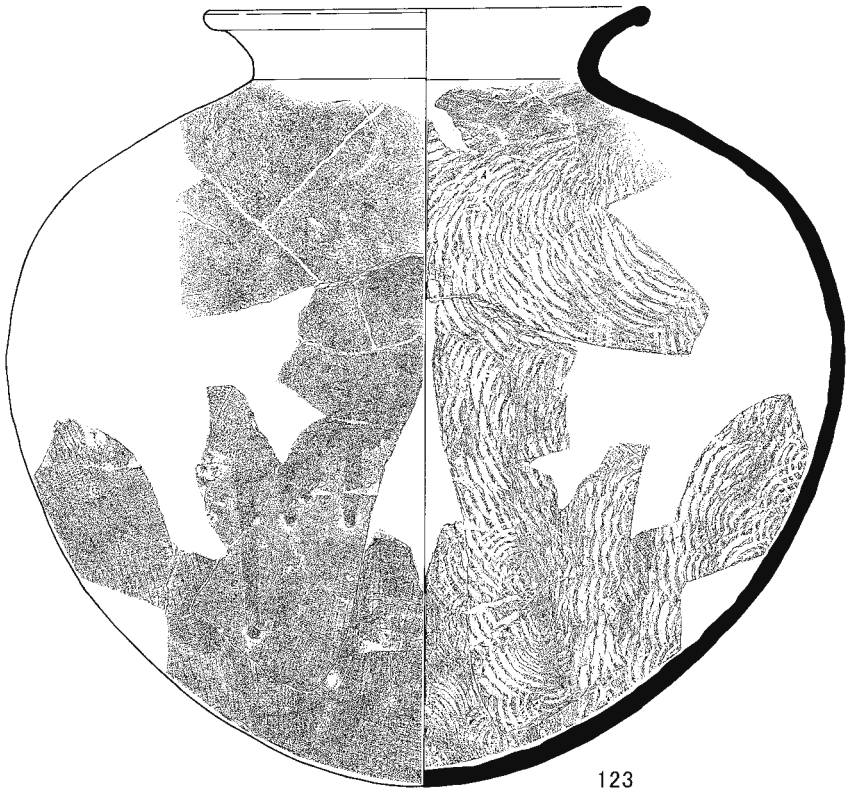


第 101 図　第２号河川跡出土遺物(3)



第 102 図　第２号河川跡出土遺物(4)



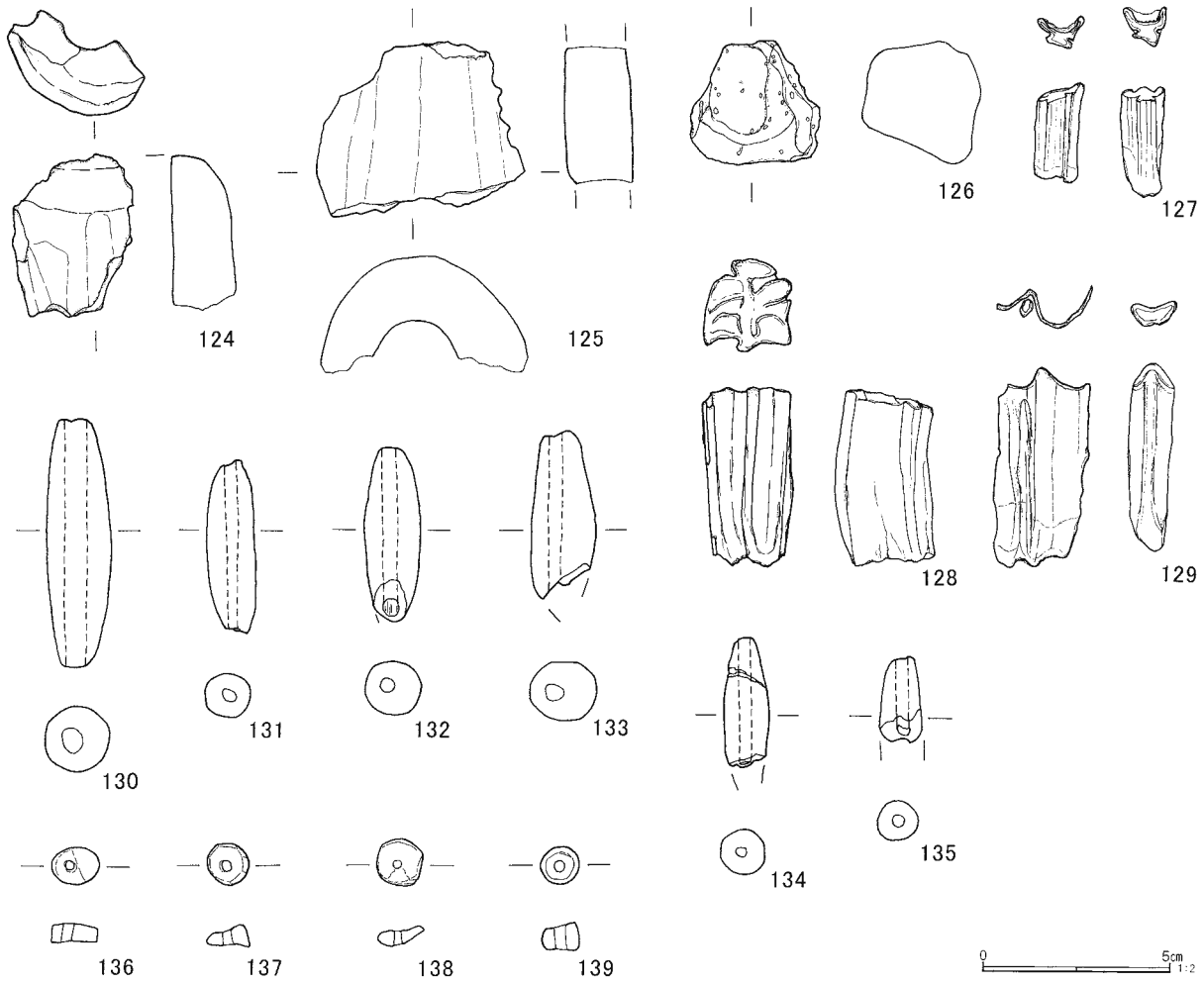


0 10cm 1:4

第 103 図　第２号河川跡出土遺物(5)

あった。検出されたのは、弥生土器が甕、壺、土師器が甕、台付甕、壺、甑、鍋、鉢、高坏、坏、製塩土器で、須恵器が円面硯、甕、鉢、平瓶、横瓶、高盤、蓋、坏であった。また、灰釉陶器が甕、壺、脚付瓶、長頸壺、長頸瓶、甑で、それ以外には羽口、鉄滓、石製臼玉、土錘、馬歯が検出された。

時期は、出土遺物から７世紀後半から８世紀前半と推定される。



第 104 図　第２号河川跡出土遺物(6)

第 16 表　第２号河川跡出土遺物観察表(1)（第 99 ～ 104 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	土師器 坏	(9.6)	(3.2)	-	ABEM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
2	土師器 坏	(10.8)	(2.5)	-	ABM	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：明赤褐 2.5YR-5/6	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ	比企型坏 内外面赤彩
3	土師器 坏	11.6	3.5	-	ABDM	赤褐 10R-5/4	B	60%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	比企型坏 内外面赤彩
4	土師器 坏	(13.0)	(3.5)	-	ABDHKM	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
5	土師器 坏	(13.0)	(3.3)	-	ABIKM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：暗文	有段口縁
6	土師器 坏	(13.0)	(4.6)	-	ABJM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
7	土師器 坏	(11.2)	(2.2)	-	AI	赤 10R-5/6	B	口縁部 10%	外面：ヘラケズリ	比企型坏 内外面赤彩
8	土師器 坏	-	(1.8)	(9.8)	BCDKM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/4 内面：黒 7.5YR-2/1	B	底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	有段口縁 内面黒色処理
9	土師器 坏	(13.6)	(3.5)	-	ABI	外面：橙 2.5YR-6/8 内面：褐灰 10YR-4/1	B	60%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	内面黒色処理

第 16 表　第２号河川跡出土遺物観察表(2)（第 99 ～ 104 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
10	土師器 坏	(13.0)	(3.0)	-	BDM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
11	土師器 坏	(12.5)	(3.6)	-	ABDJM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	10%	内外面：ヘラケズリ	
12	土師器 坏	(18.0)	(5.0)	-	ABJM	橙 5YR-6/6	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
13	土師器 坏	(16.0)	(4.4)	-	ABDKM	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：橙 2.5YR-6/6	B	口縁～体部 20%	外面：ヘラケズリ後指ナデ 内面：放射状暗文	
14	土師器 坏	(12.0)	(2.5)	-	ABHIKM	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
15	土師器 坏	(15.0)	(5.3)	-	ABDGK	橙 5YR-6/6	B	口縁～体部 30%	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：放射状暗文	
16	土師器 坏	(12.4)	3.1	-	ABIM	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：黒褐 2.5Y-3/1	B	30%	内外面：ヘラケズリ	内面黒色処理
17	土師器 坏	(14.0)	(3.4)	-	BDKM	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
18	土師器 坏	(11.0)	(2.2)	-	AEIK	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
19	土師器 坏	(14.0)	(2.3)	-	AIJKM	にぶい褐 7.5YR-5/4	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
20	土師器 坏	(17.0)	(3.0)	-	ABIM	灰褐 7.5YR-5/2	B	10%	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：放射状暗文	
21	土師器 坏	(17.0)	(3.6)	-	AEIK	橙 5YR-6/6	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
22	土師器 坏	(17.0)	(3.0)	-	ABJM	橙 5YR-6/6	B	10%	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：放射状暗文	
23	土師器 坏	(14.0)	(3.0)	-	BKM	外面：灰黄 2.5Y-6/2 内面：黄灰 2.5Y-4/1	B	口縁～底部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
24	土師器 坏	-	(1.5)	(9.0)	ABDIK	にぶい赤褐 5YR-5/4	B	底部 10%	外面：体部ミガキ 底面ヘラケズリ 内面：やや幅広の螺旋状暗文 (2 段)	
25	土師器 坏	-	(2.3)	7.4	ABJM	橙 2.5YR-6/6	B	30%	外面：体部ヘラミガキ 底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：螺線状暗文	
26	土師器 坏	(12.1)	(3.4)	-	ABHKM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	40%	外面：ヘラケズリ 内面：指頭圧痕	
27	土師器 坏	(14.0)	(3.3)	-	ADIJM	橙 7.5YR-6/6	B	口縁～底部 50%	外面：ヘラケズリ 内面：指頭圧痕	
28	土師器 坏	(12.0)	(2.8)	-	ABHKM	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：ナデ	
29	土師器 坏	(14.0)	(2.4)	(11.0)	AIK	橙 5YR-7/6	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：ナデ	
30	土師器 鉢	(20.0)	(7.1)	-	ABIKM	外面：にぶい赤褐 2.5YR-5/3 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	内面炭化物付着
31	土師器 鉢	(14.8)	(6.6)	-	ABDIM	にぶい橙 5YR-6/4	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
32	土師器 鉢	(27.6)	(5.1)	-	ADIJM	外面：浅黄橙 10YR-8/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
33	土師器 壺	-	(4.3)	頸径 (8.4)	ABDM	赤 10R-5/6	B	頸部 20%	外面：ヨコナデ後指ナデ 内面：ミガキ	内外面赤彩
34	土師器 小型壺	-	(7.1)	-	AEIM	外面：灰褐 5YR-5/2 内面：にぶい赤褐 5YR-5/3	B	頸部～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ、ナデ、輪積痕	
35	土師器 高坏	-	(4.2)	-	ABJM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	胴部～接合部 80%	外面：ヘラケズリ 内面：坏部ヨコナデ 脚部指ナデ	
36	土師器 高坏	-	(4.3)	(6.0)	ABCDKM	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：橙 5YR-6/6	B	脚部 40%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	
37	土師器 台付甕	-	(2.5)	-	AB	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	接合部～脚部 80%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ、ナデ後指ナデ	内面スス付着
38	土師器 高坏	-	(1.7)	(11.8)	EKM	外面：赤橙 10R6/8 内面：明赤褐 2.5YR-5/8	B	脚部 20%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヨコナデ	
39	土師器 製塩土器	-	(10.3)	-	ABDIMN	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部 20%	外面：ナデ 内面：輪積痕	
40	土師器 甕	(11.7)	(7.0)	-	AEGM	にぶい黄橙 10YR-7/2	A	口縁～胴上部 40%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	内外面胴部下位に黒斑有
41	土師器 壺	-	(4.9)	5.2	ABDIM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	底部 70%	外面：ヘラケズリ 底部木葉痕 内面：ナデ	
42	弥生土器 甕	-	-	-	ABMN	橙 2.5YR-6/6	B	胴部片	外面：櫛描波状文	
43	弥生土器 壺	-	-	-	ABMN	にぶい橙 5YR-7/4 一部：橙 2.5YR-6/6	B	胴部片	外面：櫛描波状文	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
44	土師器 甕	(14.0)	(6.1)	-	ABIMN	外面：明赤褐 5YR-5/8 内面：褐灰 5YR-4/1	B	口縁～頸部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
45	土師器 甕	(19.6)	(7.1)	-	ABDIMN	外面：明褐灰 7.5YR-7/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁～胴部 20%	外面：沈線 (1 条)、ヘラケズリ後ナデ 内面：ナデ	
46	土師器 甕	(20.0)	(6.3)	-	ABDI	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～頸部 10%	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	
47	土師器 甕	-	(4.3)	8.0	ABI	外面：明褐灰 7.5YR-7/2 内面：灰白 10YR-7/1	B	底部 100%	外面：ヘラナデ後指頭圧痕 底部円環技法 内面：ナデ	
48	土師器 甕	-	(4.3)	(9.2)	ABIMN	にぶい褐 7.5YR-6/3 外面一部：黒 7.5YR-2/1	B	底部 20%	内外面：ヘラケズリ	
49	内耳土器 鍋	(25.2)	(10.6)	-	EM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：褐灰 7.5YR-6/1	B	口縁～胴部 10%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
50	土師器 甕	-	(3.2)	-	ABDHIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：灰 N-5/	B	底部 70%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
51	土師器 甑	-	-	-	ADIM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	把手部片	外面：ヘラケズリ	
52	土師器 甑	-	-	-	ABDIMN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：灰 10Y5/1	B	把手部片	外面：ヘラケズリ	
53	須恵器 蓋	(11.4)	4.2	天井部径 (5.4)	AGMN	外面：灰 N-5/1 内面：灰 N-6/	A	50%	外面：天井部回転ヘラケズリ	外面天井部に刻書「十」 湖西産
54	須恵器 蓋	(11.6)	(3.4)	天井部径 (7.8)	EFM	灰白 2.5Y-8/1 口縁部付近：灰白 2.5Y-7/1	A	20%	外面：天井部手持ちヘラケズリ	南比企産
55	須恵器 蓋	(13.0)	(2.0)	-	ABM	灰 N-6/	B	口縁部 5%		湖西産
56	須恵器 蓋	(12.0)	(1.7)	-	A	灰 N-5/	B	口縁部 5%		湖西産
57	須恵器 蓋	(7.8)	(1.5)	-	BM	灰 N-6/	B	50%		内面墨書カ 外面自然釉付着 産地不明
58	須恵器 蓋	-	(0.9)	-	ABFM	灰 N-6/	B	天井部 5%	外面：天井部ヘラケズリ	南比企産
59	須恵器 蓋	-	(1.5)	-	ADF	外面：灰 N-5/ 内面：灰白 N-7/	B	天井部 10%		南比企産
60	須恵器 蓋	(15.0)	(1.8)	-	ABMN	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：褐灰 7.5YR-5/1	A	口縁部 10%		南比企産
61	須恵器 蓋	(16.2)	(1.8)	-	ABFIMN	褐灰 10YR-6/1	B	口縁部 10%		南比企産
62	須恵器 蓋	(16.0)	(1.9)	-	ABM	灰白 7.5YR-8/1	B	口縁部 10%		産地不明
63	須恵器 蓋	-	(2.0)	鈕径 4.3	ABHIK	明褐灰 7.5YR-7/1	B	天井部 30%	外面：天井部ヘラケズリ	末野産
64	須恵器 蓋	-	2.1	鈕径 3.5	ABFM	灰 N-6/	B	天井部 30%	外面：天井部ヘラケズリ	南比企産
65	須恵器 蓋	-	(2.7)	鈕径 (5.0)	ABFMN	灰 N-6/	A	天井部 20%		南比企産
66	須恵器 蓋	(12.0)	(1.5)	-	ABM	外面：灰白 10YR-7/1 内面：灰白 2.5YR-7/1	B	口縁部 10%		外面自然釉付着 産地不明
67	須恵器 蓋	(19.0)	(2.0)	-	ABFM	灰 N-6/	B	口縁部 10%		南比企産
68	須恵器 蓋	(21.8)	(2.3)	-	ABFMN	灰 N-5/	B	体部 20%	外面：天井部ヘラケズリ	南比企産
69	須恵器 坏	(13.7)	(3.3)	(9.8)	ABFMN	灰白 2.5Y-7/1	A	20%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
70	須恵器 坏	(13.4)	(3.4)	(9.2)	AFGM	灰 N-6/ 外面口縁部：灰 N-5/	A	口縁～体部 30%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
71	須恵器 坏	(14.0)	3.2	(9.0)	AFM	灰白 5Y-7/1	A	20%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
72	須恵器 坏	(14.8)	(3.4)	(10.2)	AEIM	外面：褐灰 10YR-7/1 褐灰 10YR-5/1 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3 褐灰 10YR-7/1	B	口縁～体部 20%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	内面スス付着 末野産
73	須恵器 坏	(13.4)	(3.1)	-	AFM	灰 N-5/ 外面下部：にぶい赤褐 5YR-5/3	A	口縁 20%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
74	須恵器 坏	(12.7)	3.5	(8.0)	AFG	灰白 N-7/ 外面口縁部：灰 N-5/	A	40%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
75	須恵器 坏	(13.2)	4.0	7.6	ABFHKM	外面：灰白 10YR-7/1 内面：灰白 10YR-8/1	C	60%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産

第 16 表　第２号河川跡出土遺物観察表(3)（第 99 ～ 104 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
76	須恵器 坏	(13.2)	3.7	(7.2)	AFM	口縁部：褐灰 10YR-5/1 体部～底部：にぶい橙 7.5YR-6/4	C	50%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
77	須恵器 坏	(12.4)	3.9	7.5	AEFGM	灰褐 5YR-5/2 灰 N-6/1 外面口縁部：10YR-2/1	B	50%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
78	須恵器 坏	(14.2)	(3.7)	(9.0)	ABFJMN	褐灰 10YR-6/1	B	20%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
79	須恵器 坏	(14.8)	3.3	10.5	AEFGMN	灰 N-6/	A	50%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
80	須恵器 坏	(15.2)	(3.2)	(10.0)	ABM	灰白 10YR-7/1	B	口縁～底部 30%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	末野産
81	須恵器 坏	-	(1.0)	6.0	AFMN	灰 N-6/	A	底部 100%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
82	須恵器 坏	-	(1.9)	7.4	FIM	灰 5Y-6/1	A	体部～底部 60%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	内外面スス付着 南比企産
83	須恵器 坏	-	(1.3)	(8.0)	ABFMN	灰白 10YR-7/1	B	底部 40%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
84	須恵器 坏	-	(1.2)	(7.3)	AFG	灰 N-6/	A	底部 40%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
85	須恵器 坏	-	(1.8)	(9.4)	AFGM	灰 N-6/	A	底部 30%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
86	須恵器 坏	-	(1.8)	(11.6)	ABFM	灰白 N-8/	A	底部 20%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	南比企産
87	須恵器 埦	(19.2)	5.9	(10.8)	ABFM	灰 N-6/	A	口縁～底部 30%	外面：底部糸切り後全面ヘラケズリ	南比企産
88	須恵器 坏	-	(1.3)	6.8	AFM	灰 5Y-6/1	B	底部 70%	外面：底部静止糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部墨書 「小」 南比企産
89	須恵器 坏	-	(0.8)	7.8	AFGMN	灰 N-6/	A	底部 100%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部墨書 「里？刀自」 南比企産
90	須恵器 坏	-	(0.8)	7.4	ABFMN	灰 5Y-6/1	A	底部 90%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ スス付着	外面底部墨書 「豊」 外面体部墨書 スス付着 南比企産
91	須恵器 坏	-	(1.3)	(9.6)	ABF	黄灰 2.5Y-6/1	B	底部 10%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部墨書 「豊」 南比企産
92	須恵器 坏	(12.2)	3.4	7.0	ABFM	灰白 N-7/ 外面口唇部の一部：灰 N-5/	A	70%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面体部墨書 「土」 南比企産
93	須恵器 坏	(13.0)	3.6	6.4	ABFM	灰 N-6/	B	口縁～底部 70%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面体部墨書 「中」 南比企産
94	須恵器 坏	14.6	4.0	8.2	ABFM	灰 N-6/	B	70%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部墨書 「宮」 外面底部刻書 南比企産
95	須恵器 高台坏	-	(0.7)	(8.0)	AM	灰 7.5Y-6/1	B	高台部 5%		南比企産
96	須恵器 高台坏	-	(1.3)	(10.6)	AKM	外面：灰 5Y-6/1 内面：灰白 5Y-8/1	B	底部 30%		産地不明
97	灰釉陶器 長頸瓶	-	(4.8)	(8.2)	ABM	灰白 N-7/	B	頸部～底部 30%		内部底面自然釉付着 猿投産（K14 窯期）
98	須恵器 坏	-	(1.1)	(6.8)	ABFMN	灰 N-6/	B	底部 80%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部刻書 「ナ」 南比企産
99	須恵器 坏	-	(1.4)	7.5	ABFGM	灰 N-6/	A	底部 90%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ後粗い手持ちヘラケズリ	外面底部墨書 「官」 南比企産
100	須恵器 坏	(15.3)	3.2	11.3	BFMN	灰白 2.5Y-8/1 灰白 2.5Y-7/1	A	60%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部刻書 「十」 南比企産
101	須恵器 坏	(13.0)	(4.1)	-	AM	灰 N-5/	A	口縁～体部 20%		産地不明
102	須恵器 高盤	-	(4.0)	-	ABM	灰白 N-8/	B	脚部片	内面：指ナデ	末野産
103	灰釉陶器 脚付瓶	-	(2.2)	(10.6)	AH	灰白 10YR-7/1	A	底部 20%		六方透し孔

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
104	須恵器 円面硯	面径 (16.8)	(3.6)	-	ABFM	灰 7.5Y-6/1	B	10%		南比企産
105	灰釉陶器 長頸瓶	-	(3.9)	-	A	外面：灰 5Y-5/1 内面：灰白 N-7/	A	口縁部 20%		外面自然釉付着 猿投産（K14 窯期）
106	灰釉陶器 横瓶	-	(6.5)	-	ABM	灰 N-6/	A	口縁部 70%		
107	灰釉陶器 長頸壺	(11.6)	(7.8)	-	AG	灰 N-6/	A	口縁部 20%		
108	須恵器 平瓶	-	(6.6)	-	AGM	外面：黄灰 2.5Y-5/1 オリーブ黒 5Y-3/1 内面：黄灰 2.5Y-6/1	A	口縁部 30%		内外面自然釉付着
109	須恵器 平瓶	5.0	(5.6)	-	AM	外面：灰 N-4/ 内面：灰 N-6/	B	口縁部 100%		末野産
110	須恵器 横瓶	-	(14.0)	10.7	ABM	外面：灰 10Y-6/1 内面：灰 N-6/	A	40%	外面：口縁部剥離痕有 底部回転ヘラケズリ	末野産
111	須恵器 横瓶	-	(17.3)	胴部径 17.7	GLMN	灰 N-4/	B	70%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	末野産
112	須恵器 横瓶	-	(13.4)	-	ABN	灰 N-6/	B	胴部 10%		外面自然釉付着
113	須恵器 横瓶	-	(18.5)	-	ABDMN	外面：灰 N-6/ 内面：灰 N-5/	B	胴部～底部 20%	外面：胴部カキ目 (7 本 /1cm)、ヘラケズリ	末野産
114	須恵器 甕	-	(7.5)	-	AEFGHLM	外面：灰 N-5/ 内面：灰 7.5Y-6/1	C	頸部～胴上部 20%	外面：頸部波状文 胴部平行タタキ目後カキ目 内面：同心円タタキ目	末野産
115	須恵器 甕	-	(29.7)	-	AEFGHLM	外面：灰 N-5/ 内面：灰 7.5Y-6/1	B	頸部～胴上部 20%	外面：口縁部波状文 胴部平行タタキ目後カキ目 内面：同心円タタキ目	末野産
116	須恵器 壺	頸部径 (12.8)	(8.2)	-	AB	灰 N-6/	B	頸部～胴上部 10%		外面自然釉付着 猿投産（K14 窯期）
117	須恵器 鉢	-	-	-	ABFMN	灰 N-6/	B	把手部片	外面：格子タタキ目 内面：ヨコナデ	南比企産
118	須恵器 甕	(26.8)	(9.0)	-	ABIN	外面：灰 N-4/ 内面：灰 N-6/	B	口縁部 10%	外面：平行タタキ目 内面：ナデ	外面釉薬付着 末野産
119	須恵器 甕	(24.0)	(47.2)	-	BDGLMN	灰 7.5Y-6/1	C	30%	外面：口縁部櫛描波状文 (2 段) 胴部平行タタキ後一部ナデ消し 内面：口縁部ナデ 胴部同心円状アテ具痕	産地不明
120	須恵器 甕	(46.0)	(12.8)	-	ABGMN	外面：灰 N-4/ 内面：灰 N-6/	A	口縁部 20%	外面：櫛描波状文 (5 本 /0.8cm) と平行沈線	末野産
121	須恵器 甕	-	-	-	ABGMN	灰 N-6/	B	頸部片	外面：平行タタキ目後ナデ 内面：同心円タタキ目	末野産
122	須恵器 甕	22.5	(47.8)	-	ABCGMN	灰 5Y-6/1	B	60%	外面：口縁部ナデ 胴部平行タタキ一部ナデ消し 底部平行タタキ後ナデ調整 内面：口縁部ナデ 胴部同心円状アテ具痕	産地不明
123	須恵器 甕	(23.0)	(41.2)	-	ABDGMN	褐灰 10YR-4/1	B	40%	外面：口縁部ヨコナデ 胴部平行タタキ 内面：胴部同心円状アテ具痕	内外面 (口縁・底部) 自然釉付着 産地不明
124	フイゴ羽口	長さ (4.2)　幅 (3.1)　厚さ 1.7　重さ (23.5g)　外径 (4.3)　内径 (1.6)							色調：灰白 5YR-8/2	
125	フイゴ羽口	長さ (4.1)　幅 (5.5)　厚さ 1.7　重さ (47.9g)　外径 (5.7)　内径 (2.3)							色調：灰白 5YR-8/1	
126	鉄滓	長さ 3.2　幅 3.4　厚さ -　重さ 25.9g							発泡痕多数	
127	馬歯	最大長 2.9							上顎歯 2 点同一個体	
128	馬歯	最大長 4.8							右上顎臼歯　奥から 3 本目	
129	馬歯	最大長 5.3							左下顎歯 2 点同一個体	
130	土製品 土錘	最大長 6.7　最大幅 1.7　孔径 0.5　重さ 12.2g						完形		
131	土製品 土錘	最大長 4.7　最大幅 1.2　孔径 0.3　重さ 4.5g						完形		
132	土製品 土錘	最大長 (4.7)　最大幅 1.5　孔径 0.4　重さ (6.4g)						一部欠損		
133	土製品 土錘	最大長 (4.5)　最大幅 1.8　孔径 0.5　重さ (7.3g)						一部欠損		
134	土製品 土錘	最大長 (3.5)　最大幅 1.2　孔径 0.3　重さ (2.9g)						一部欠損		
135	土製品 土錘	最大長 (2.3)　最大幅 1.1　孔径 0.3　重さ (1.3g)						一部欠損		

第 16 表　第２号河川跡出土遺物観察表(4)（第 99 ～ 104 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
136	石製品 臼玉	最大長 1.0　最大幅 1.2　最大厚 0.5　孔径 0.3　重さ 1.1g								滑石
137	石製品 臼玉	最大長 1.1　最大幅 1.1　最大厚 0.6　孔径 0.3　重さ 1.0g								滑石
138	石製品 臼玉	最大長 1.2　最大幅 1.2　最大厚 0.5　孔径 0.2　重さ 1.0g								滑石
139	石製品 臼玉	最大長 1.0　最大幅 1.0　最大厚 0.7　孔径 0.3　重さ 1.2g								蛇紋岩

第３号河川跡（第 105 図）

Ｅ区、ＡＵ～ＡＷ－ 51 グリッドから検出された。第 51 号溝跡、第 40 号土坑、第 153 号ピットと重複関係にあり、重複関係にあるすべての遺構に切られていた。

大半が調査区域外であり、検出範囲が狭小であったので、正確な様相は不明であるが、周辺の地形から推定し北から南へ流れていたと推定される。

規模は、検出長 2.3 m、検出幅 26.1 ～ 26.3 m、最大の深さは 2.04 mで、平均 1.70 mであった。流路の本線は河川跡の中央からやや西側であった。

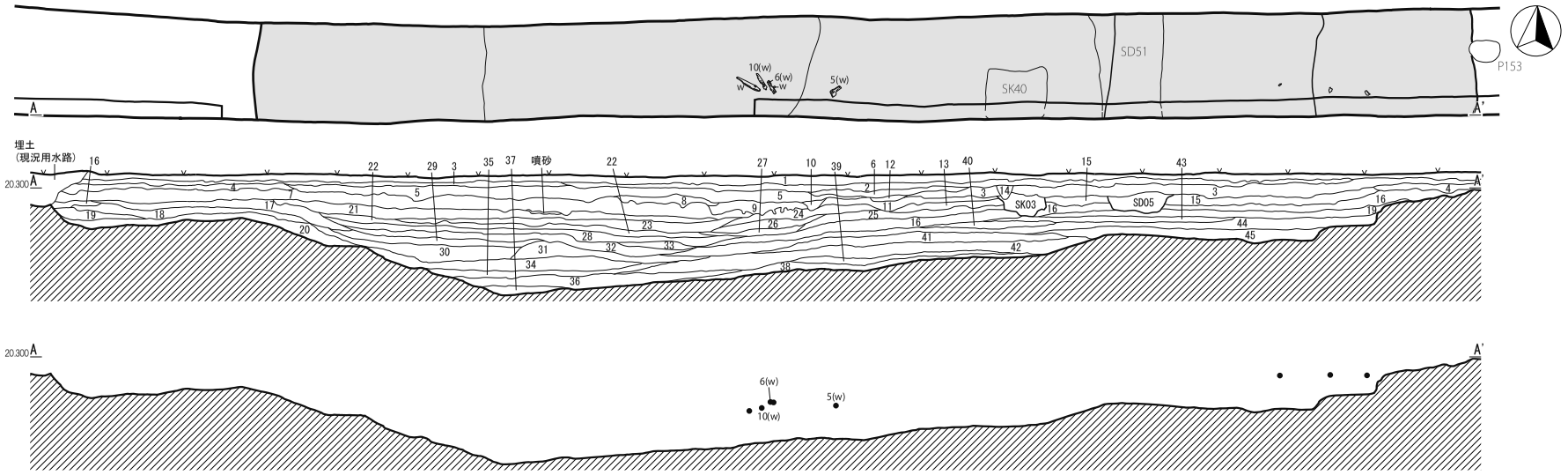
土層断面を観察すると、おおよそ 25 ～ 30 層に渡る堆積がみられ、大部分が水平堆積による粘質氾濫土と推定される。堆積土内には木片や植物繊維などが含まれることから、滞留していた時期があったことも推定される。本遺構の堆積は両岸から少しづつレンズ状に堆積し､河川氾濫などを繰り返し､埋まっていったものと考えられる。

出土遺物は土師器の坏・壺、鉄製品直刀、木製品の鍬・槽・板材などが検出された。

時期は、それを特定できる遺物量が少ないため、判断できかねるが、古墳時代前期～奈良、平安時代の間は流路として流れていたと推定できる。

第 17 表　第３号河川跡出土遺物観察表（第 106 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	土師器 壺	-	(22.5)	6.9	MN	橙 5YR-6/6	B	80%	外面：頸部ミガキ 胴部上位単節縄文 LR、中位ヘラミガキ (摩耗著しい)、下位ナデ調整。胴下部緩い稜をなす 底部木葉痕 内面：ナデ調整	
2	土師器 坏	(12.0)	(3.0)	-	ABDIM	外面：橙 5YR-6/6 内面：橙 5YR-6/6 橙 7.5YR-6/6	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ	
3	鉄器 直刀	最大長 (5.1)　最大幅 3.1　最大厚 0.7　重さ 26.4g						切先片		
4	木製品 編み台	最大長 3.9　最大幅 (43.2)　最大厚 1.4							木取：板目 全体に多数の装着痕有 側面部には、規則的な凹みがある	
5	木製品 板材	最大長 (25.6)　最大幅 12.5　最大厚 3.9							木取：柾目	
6	木製品 板材	最大長 (39.2)　最大幅 5.0　最大厚 1.7							木取：板目 入念に加工	
7	木製品 組合容器　側板	最大長 (6.3)　最大幅 11.6　最大厚 1.3						上半部欠損	木取：柾目 針葉樹カ 四方転びの箱 中央に円形穿孔。また、右側と左側にそれぞれ２箇所穿孔し、四隅は面取りしている	
8	木製品 鍬	最大長 (10.8)　最大幅 (8.4)　最大厚 1.3						鍬先のみ残存	木取：柾目	
9	木製品 槽	最大長 (4.1)　最大幅 (14.0)　最大厚 (2.1)							木取：柾目 針葉樹 槽の一部	
10	木製品 建築材	最大長 (51.2)　最大幅 10.2　最大厚 3.7							木取：板目 板状に加工 中央部分に弧状に凹ませている ①扉材・まぐさ・蹴放し (けはなし) 材カ	

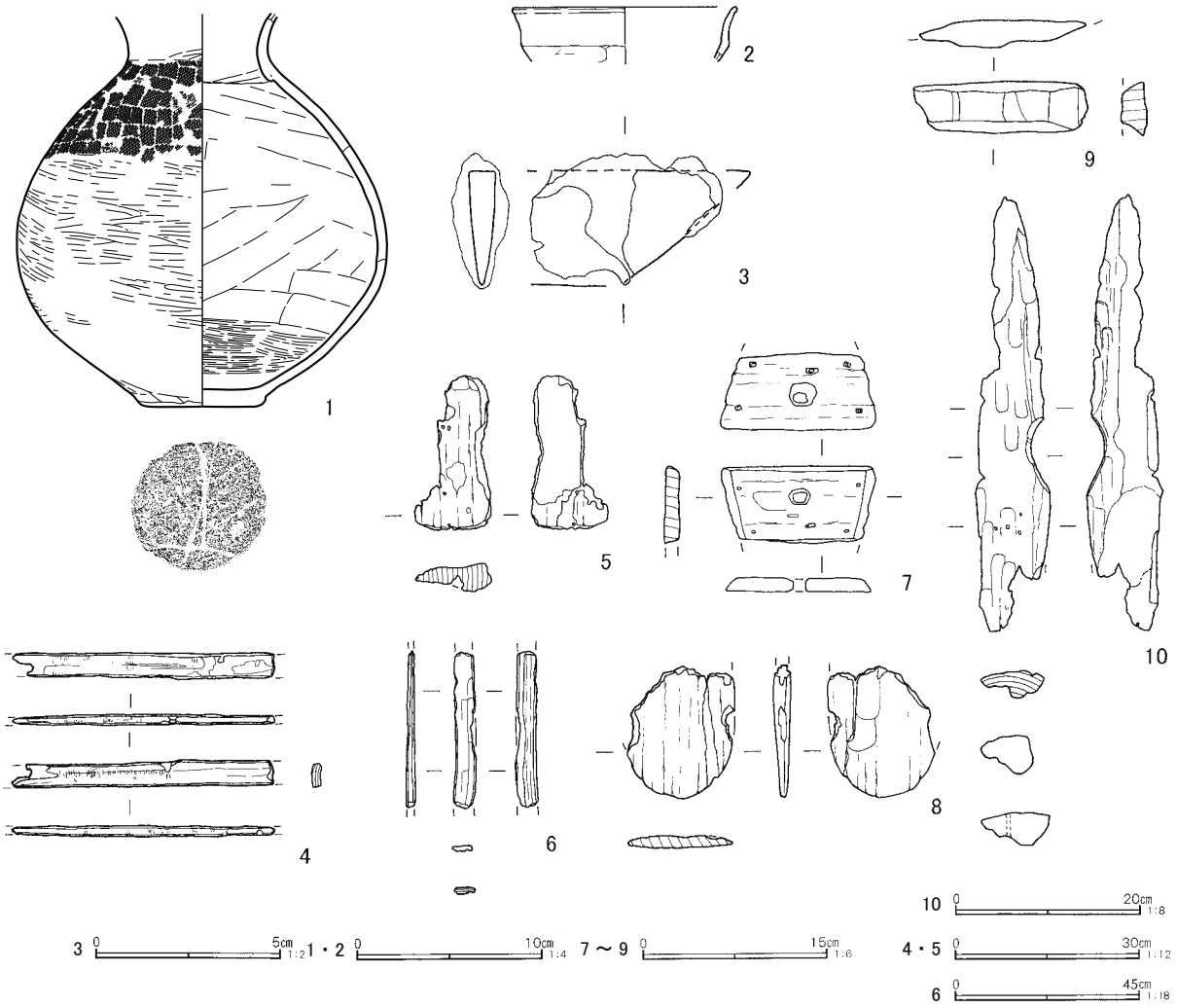


NR03

1. 表土
2. 灰 10Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 酸化鉄少量 火山灰含)
3. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量)
4. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 ややシルト質 浅黄色ブロック混ざる)
5. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまり強 やや粘質 酸化鉄少量)
6. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 黒褐色土粒子含)
7. 黒 7.5Y-2/1(しまり弱 シルト質 白色土ブロック多量含 植物繊維多量含)
8. 灰 7.5Y-4/1(しまり強 粘質 黒褐色土粒子含)
9. 灰黄 2.5Y-6/2(しまりやや弱 粘質 一部シルト質 黒褐色土粒子含)
10. 灰黄 2.5Y-6/2(しまり強 粘質)
11. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり弱 ややシルト質 灰色土粒子わずかに含)
12. オリーブ灰 2.5GY-6/1(しまり弱 ややシルト質 酸化鉄少量)
13. 灰 10Y-4/1(しまりやや強 粘質 黒褐色土粒子含)
14. オリーブ灰 5GY-5/1(しまり弱 砂質 酸化鉄少量)
15. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1(しまり弱 シルト質 にぶい黄色土粒子含 木片含)
16. 灰 10Y-4/1(しまりやや弱 粘質 黒褐色・にぶい黄色土ブロック多量含)
17. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量)
18. 灰 7.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 オリーブ黒土粒子多量含)
19. オリーブ黒 5GY-2/1(しまりやや弱 粘質 灰白色土ブロック含)
20. オリーブ灰 5GY-5/1(しまりやや強 シルト質)
21. 灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまり弱 シルト質 植物繊維含)
22. 黒褐 10YR-3/1(しまりやや弱 ややシルト質 灰白色土粒子・ブロック少量含)
23. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまりやや弱 やや粘質 一部灰白色土ブロック含)
24. 黒 10YR-2/1(しまり弱 シルト質 灰白色土粒子・ブロック含)
25. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 砂質 灰オリーブ砂質土粒子・ブロック含)
26. 黒褐 10YR-3/1(しまり弱 シルト質 一部灰白色土粒子・ブロック多量含)
27. 褐灰 10YR-4/(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 一部灰白色粒子・ブロック多量)
28. 黒 2.5Y-2/1(しまり弱 ややシルト質 灰オリーブ土粒子・ブロック含)
29. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 ややシルト質)
30. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 ややシルト質)
31. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまりやや強 粘質 黒褐色土粒子・ブロック含)
32. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1(しまり弱 砂質)
33. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 やや砂質 黒褐色土ブロック多量含)
34. 緑灰 7.5GY-5/1(しまり強 粘質)
35. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1(しまり強 粘質)
36. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質 砂質)
37. オリーブ黒 5Y-3/1(粘質 砂質 オリーブ灰粘質土ブロック含)
38. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 砂質 木片含)
39. 緑灰 7.5GY-5/1(しまり弱 シルト質 黒褐色シルト質土含)
40. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまりやや強 粘質)
41. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり弱 やや粘質 木片含)
42. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 やや粘質 木片含)
43. 暗緑灰 5G-3/1(しまり弱 シルト質 緑黒色土ブロック含)
44. 暗緑灰 10G-4/1(しまり弱 シルト質)
45. 暗青灰 5BG-4/1(しまりやや弱 やや粘質 酸化鉄)

0 5m 1:150

第 105 図　第３号河川跡



第 106 図　第３号河川跡出土遺物

９　沼跡

第１号沼跡（第 107 図）

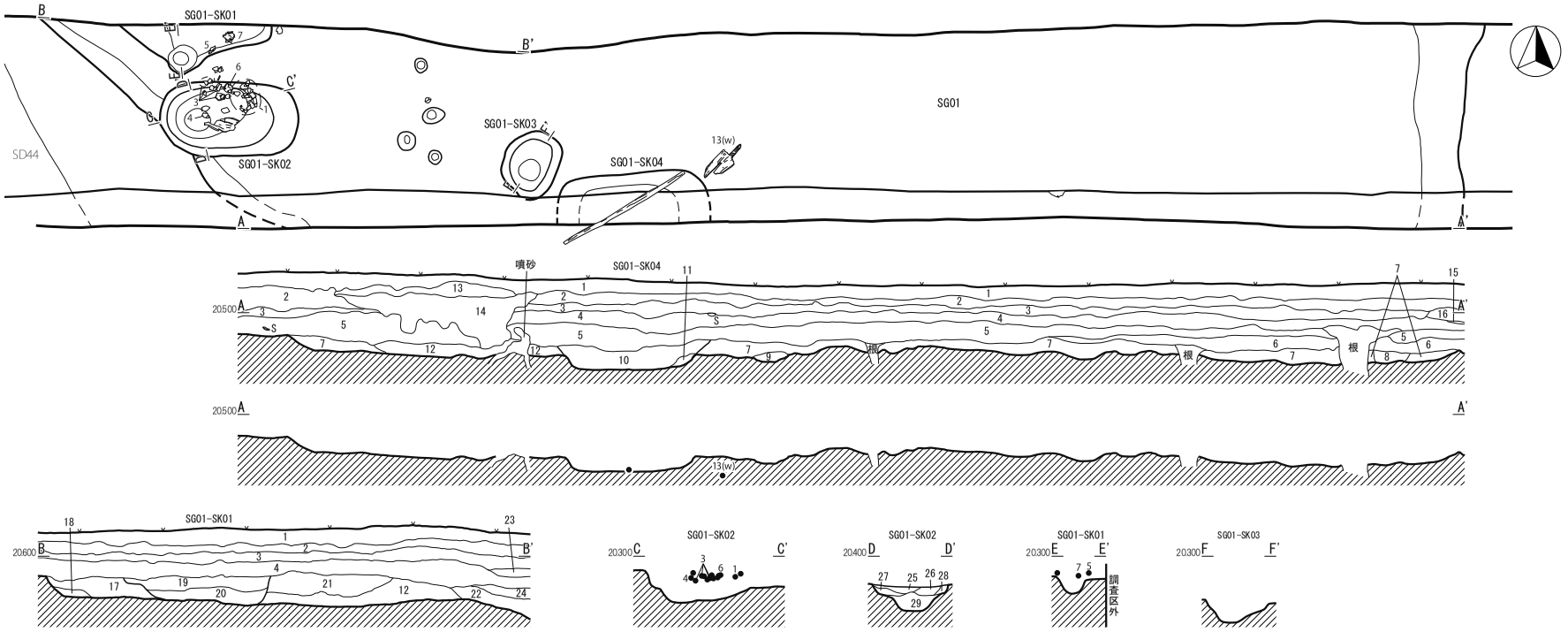
ＡＯ～ＡＱ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と重複関係にある遺構は検出されなかった。

規模は、検出長 17.2 ｍ、検出幅 2.52 ｍ、最大の深さは 0.38 ｍで、平均で 0.35 ｍであった。

大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが、検出範囲とその断面観察から南北に広がる規模の大きな沼跡と推定できる。

土層断面を観察すると、最深部は３～６層程度の堆積がみられ、比較的浅く、湿地としての様相も考えられる。堆積土はレンズ状に岸辺から埋没しており、堆積状況から時間をかけて埋没したと考えられる。埋土は灰オリーブ色や、黒褐色などの粘質土に灰白色、黒褐色のブロックを含む氾濫土が堆積していた。

本遺構内には複数の土坑状の掘り込みがあり、断面から、沼が形成された後に、掘り込んだことがわかる。うち第１、２号土坑は遺物が集中して検出されており、廃棄土坑としての役割があったものと推



SG01
1. 表土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
6. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含)
7. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)
8. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
9. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含)
10. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 炭化粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
11. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含)
12. オリーブ黒 10Y-3/1(しまりやや弱 粘質 灰白色粘質土粒子・ブロック含)
13. オリーブ褐 2.5Y-4/3(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含 木片少量含)
14. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 黒色土ブロック多量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
15. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)
16. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土ブロック多量含 木片少量含)
17. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 炭化物 灰白色砂質土粒子・ブロック含)
18. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 粘質 酸化鉄微量)
19. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 砂質 酸化鉄微量 灰白色砂質土粒子・ブロック多量含)
20. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 粘質 酸化鉄 黒褐色粘質土粒子・ブロック多量含)
21. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 酸化鉄微量 灰白色砂質土粒子・ブロック含)
22. 黒 5Y-2/1(しまり強 粘質 灰白色粘質土ブロック含)
23. 灰オリーブ 7.5Y-6/2(しまり弱 砂質)
24. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 ややシルト質 酸化鉄)
25. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 炭化粒子多量含 木片少量含)
26. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 白色粘質土ブロック少量含 炭化粒子多量含)
27. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄多量 木片少量含)
28. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 白色粘質土ブロック多量含 炭化粒子多量含)
29. 褐灰 10YR-4/1(しまり強 やや粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子含)

0 2m 1:80

第 107 図　第 1 号沼跡

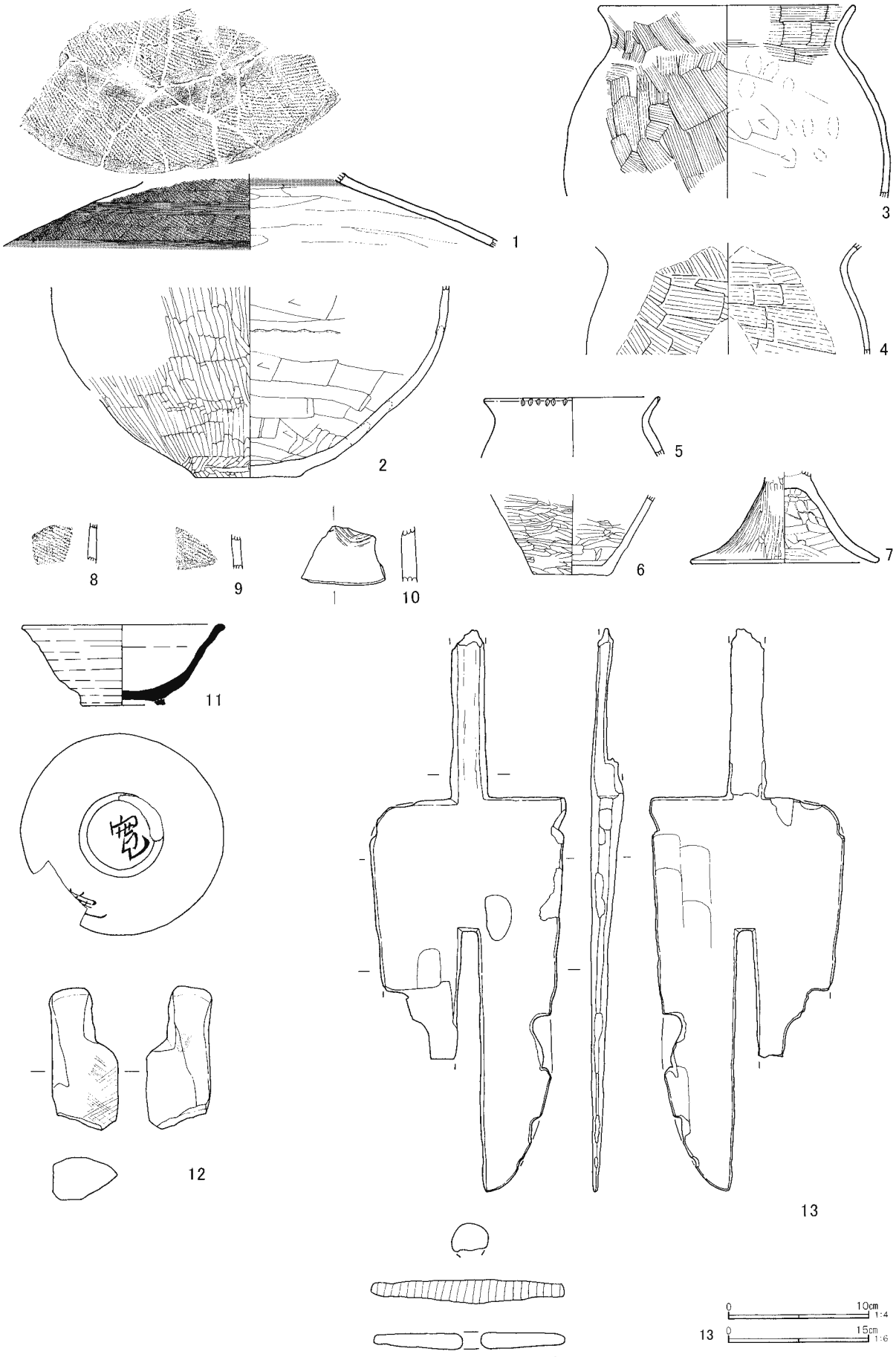
察される。

出土遺物は本遺構の西側周辺にまとまって検出されており、土坑状の掘り込み（第１、２号土坑）周辺に多かった。遺物は、弥生土器壺、土師器の壺・甕・鉢・台付甕・高坏、須恵器高台坏、木製品鋤、砥石が検出された。11 の須恵器高台坏は底部、体部に「竈」が墨書されている。本遺構内での性格は不明であるが、カマドにおける祭祀的な意味合いであろうか。木製品鋤は、先が二又に分かれるもので、先端と柄が欠損しているが、農具として利用していたことがうかがい知れる。

時期は出土遺物の量から判断して、古墳時代前期と推定される。

第 18 表　第１号沼跡出土遺物観察表（第 108 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	(5.3)	-	ABJM	外面：灰黄 2.5Y-7/2 黄灰 2.5Y-6/1 内面：灰黄 2.5Y-7/2	B	頸部～胴上部 40%	外面：単節縄文 RL(0 段多条)2 段に施す 内面：ナデ	外面無文部赤彩 内面頸部赤彩
2	土師器 壺	-	(13.6)	7.4	ABDIKMN	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	30%	胴部下半を鉢として使用 外面：ミガキ 内面：ヘラナデ	
3	土師器 台付甕	(18.0)	(13.7)	-	EGHIM	にぶい黄橙 10YR-7/3	A	口縁～胴上部 20%	外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：ハケ目 (6 本 /1cm)、ナデ、指頭圧痕	
4	土師器 甕	-	(7.8)	-	GHIM	外面：橙 2.5YR-6/6 内面：橙 2.5YR-6/8	B	頸部～胴上部 20%	内外面：ハケ目 (4 本 /1cm)	
5	土師器 甕	(12.2)	(4.2)	-	BDHI	にぶい黄橙 10YR-7/2	C	口縁部 20%	口縁端部に刻み目	
6	土師器 甕	-	(5.7)	5.4	ABHI	褐灰 10YR-4/1	B	10%	内外面：ヘラミガキ	
7	土師器 高坏	-	(6.4)	(13.1)	AEM	灰白 10YR-8/2 にぶい黄橙 10YR-7/2	A	脚部 80%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
8	土師器 壺	-	-	-	ABHMN	灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL	
9	土師器 壺	-	-	-	ABIMN	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL	
10	土師器 壺	-	-	-	ABGHIMN	外面：にぶい黄橙 10YR-6/2 褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：櫛描波状文	
11	須恵器 高台坏	14.2	5.7	5.8	ABDMN	褐灰 5YR-4/1	A	95%		外面体部、底部 墨書「竈」 末野産
12	石製品 砥石	最大長 10.2　最大幅 4.6　最大厚 3.0　重さ 189.8g								砂岩
13	木製品 鋤	最大長 (60.3)　最大幅 (20.6)　最大厚 2.7						柄先と鋤先の一部が欠損	木取：柾目 二又鋤 1 本鋤	



第 108 図　第 1 号沼跡出土遺物

10　円形状遺構

第１号円形状遺構（第 109 図）

Ｅ区、ＡＲ、ＡＳ－ 51 グリッドから検出された。本遺構と第 47 ～ 48 号溝跡、第 38 号土坑、第２号性格不明遺構、第 147、150、151 号ピットが重複関係にあり、本遺構が第２号性格不明遺構を切り、それ以外の重複遺構に切られていた。なお、直接切り合い関係にはないが、第２号柵状遺構、第 149 号ピットと重複関係にあった。

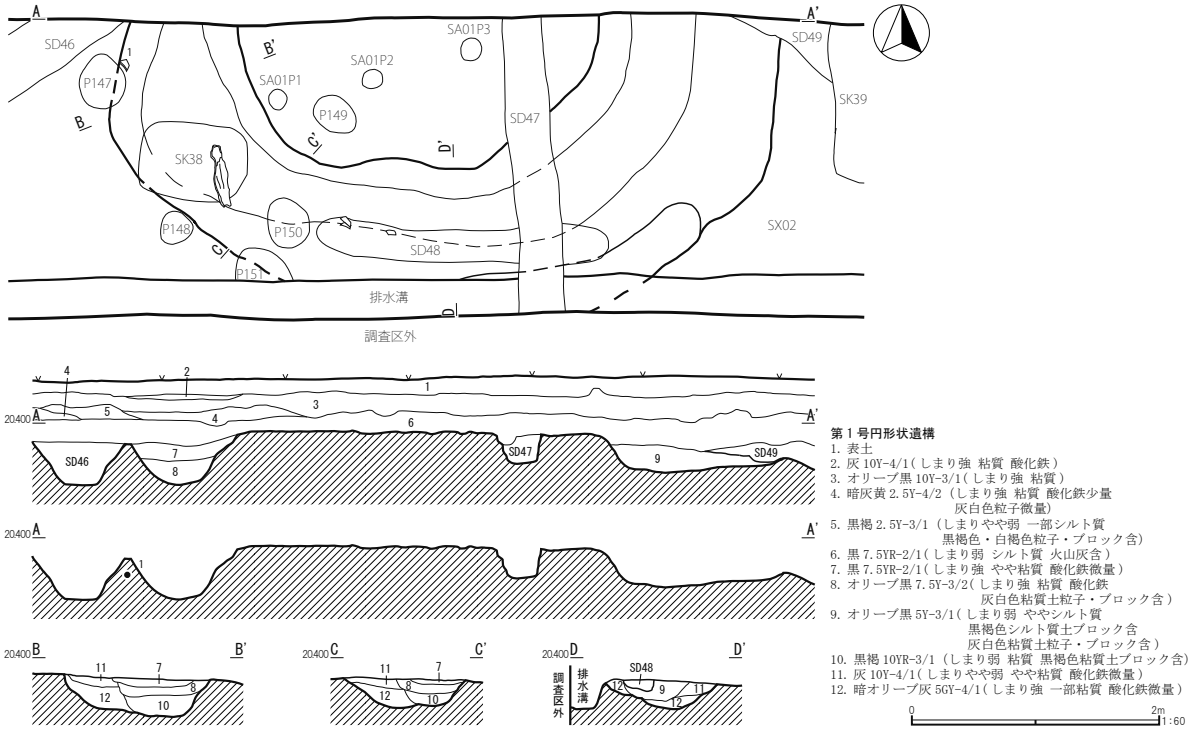
本遺構は一部が調査区域外であるが、円形状の溝を有する遺構であった。

規模は、検出外周 5.08 m程度、検出内周 4.2 m、推定外径 4 m、推定内径 2.4 m、溝幅 0.87 m～ 1.46 mを測り、深さは 0.40 mを測る。

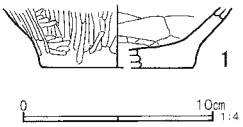
平面形は、ほぼ円形を呈しているが、溝は、反時計回りに辿ると、幅が広がっていき、溝の深さも次第に浅くなっていた。

土層は、壁面観察から、最大３層確認できた。断面形は、緩やかなU字状を呈し、黒褐色粘質土や灰白色土ブロックを含むオリーブ黒色粘質土などが覆土として確認された。

出土遺物は、溝内から土師器壺の底部周辺が１点検出された。１点のみであるため、時期の特定はできないが、古墳時代前期前後と推定される。



第 109 図　第１号円形状遺構



第 110 図　第１号円形状遺構出土遺物

第 19 表　第１号円形状遺構出土遺物観察表（第 110 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	土師器 壺	-	(3.2)	(8.0)	ABDIMN	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	底部 40%	外面：ヘラミガキ 底面ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：ナデ	

11　性格不明遺構

第１号性格不明遺構（第 111 図）

Ｅ区、ＡＮ－ 51 グリッドから検出された。第 40、41 号溝跡と重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

平面形は不明で、規模は、検出長軸 0.79 ｍ、検出短軸 0.42 ｍ、深さは 0.53 ｍであった。

断面形は、大きく第 40 号溝跡に切られているため、全容は不明だが、壁面観察から逆台形状と推定され、底部は平坦であった。

断面観察から３層程度の堆積が確認でき、レンズ状の自然堆積と考えられる。

出土遺物は検出されなかった。

第２号性格不明遺構（第 111 図）

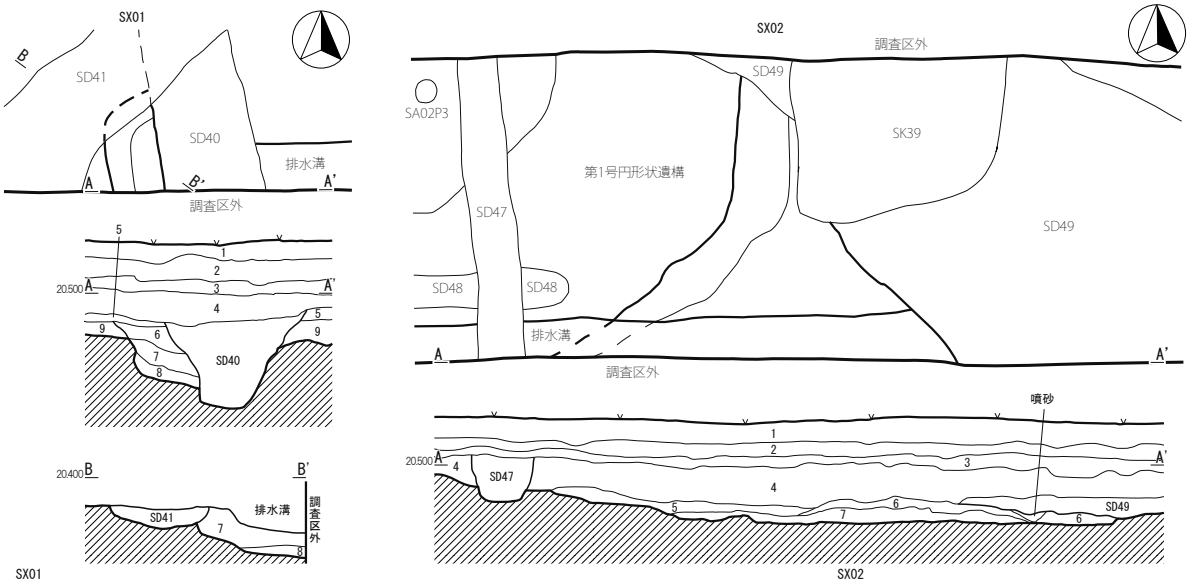
Ｅ区、ＡＮ－ 51 グリッドから検出された。第１号円形状遺構、第 49 号溝跡、第 39 号土坑と重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

平面形は不明で、規模は、検出長軸 1.85 ｍ、検出短軸 1.50 ｍ、深さは 0.26 ｍであった。

立ち上がりは壁面観察からゆるやかな落ち込み、底部は平坦であった。

断面観察から３層程度の堆積が確認できた。レンズ状の自然堆積と考えられる。

出土遺物は検出されなかった。



SX01
1. 表土
2. 白色粘土層
3. 黒 5Y-2/1（しまりやや弱 シルト質 白色・黒色土粒子多量含 黄色・赤色土粒子少量含 土器少量含）
4. 黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含）
5. 黄灰 2.5Y-4/1（しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含 黒色土粒子多量含 木片少量含）
6. 黒褐 2.5Y-3/2（しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含 木片少量含）
7. 黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含 木片多量含）
8. 黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含）
9. 黒褐 2.5Y-3/2（しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含）

SX02
1. 表土
2. 灰 10Y-4/1（しまり強 粘質 酸化鉄）
3. オリーブ黒 10Y-3/1（しまり強 粘質）
4. 黒 7.5YR-2/1（しまり強 シルト質 火山灰含）
5. オリーブ黒 10Y-3/1（しまりやや弱 ややシルト質 オリーブ灰色土ブロック含）
6. オリーブ灰 2.5GY-5/1（しまり弱 砂質 酸化鉄）
7. 暗緑灰 7.5GY-4/1（しまり弱 砂質 酸化鉄微量）

第 111 図　性格不明遺構

12　ピット

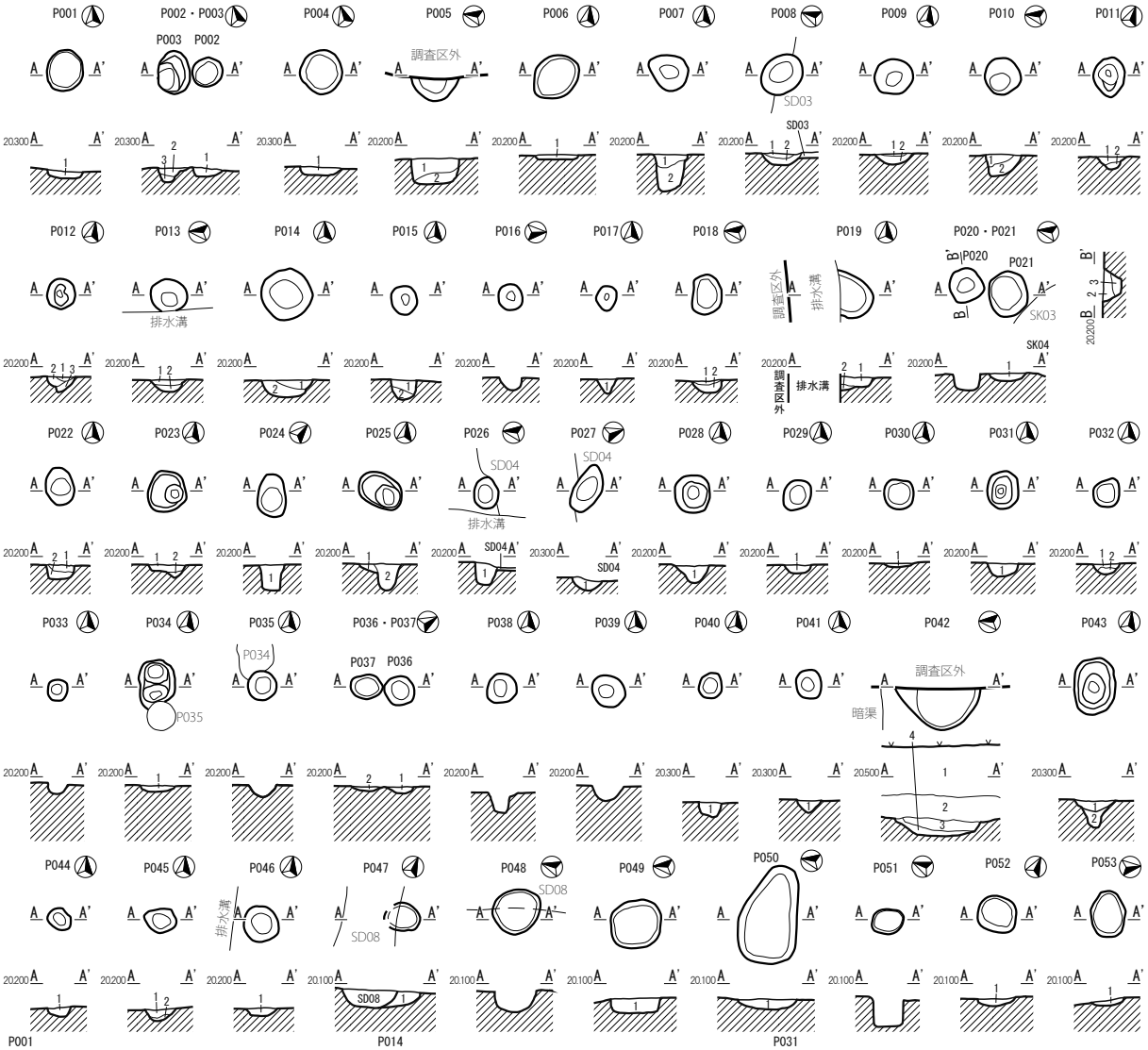
ピットは調査区を通じて総数 167 基検出された。

以下、紙面の都合から、ピットの特徴等について一覧表で掲載する。（第 112 ～ 115 図・第 20 表）

第 20 表　ピット一覧表(1)（第 112 ～ 115 図）

遺構名	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
P001	BF-17	円形	0.35 × 0.31 × 0.06			
P002	BF-17	円形	0.26 × 0.24 × 0.08			
P003	BF-17	楕円形	0.35 × 0.27 × 0.12			
P004	BF-17	円形	0.35 × 0.35 × 0.07			
P005	BC-20	(楕円形)	(0.19) × 0.40 × 0.22			
P006	BC-20	楕円形	0.43 × 0.34 × 0.04			
P007	BC-20	楕円形	0.31 × 0.29 × 0.31			
P008	BC-20	楕円形	0.38 × 0.31 × 0.10		SD03	
P009	BC-20	円形	0.33 × 0.29 × 0.89			
P010	BC-20	円形	0.31 × 0.31 × 0.18			
P011	BC-20	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.10			
P012	BC-20	円形	0.25 × 0.23 × 0.13			
P013	BC-21	円形	0.31 × 0.27 × 0.10			
P014	BC-21	円形	0.43 × 0.42 × 0.14			
P015	BC-21	円形	0.24 × 0.21 × 0.16			
P016	BC-21	円形	0.22 × 0.20 × 0.10			
P017	BC-21	楕円形	0.19 × 0.17 × 0.12			
P018	BC-21	楕円形	0.33 × 0.24 × 0.10			
P019	BC-21	(楕円形)	(0.29) × 0.34 × 0.12			
P020	BC-21	円形	0.27 × 0.27 × 0.15			
P021	BC-21	楕円形	0.36 × 0.33 × 0.07			
P022	BC-21	楕円形	0.32 × 0.24 × 0.12			
P023	BC-22	楕円形	0.34 × 0.32 × 0.11			
P024	BC-22	楕円形	0.36 × 0.23 × 0.21			
P025	BC-22	楕円形	0.39 × 0.27 × 0.22			
P026	BC-22	円形	0.27 × 0.20 × 0.19		SD04	
P027	BC-22	楕円形	0.40 × 0.22 × 0.09		SD04	
P028	BC-22	円形	0.31 × 0.29 × 0.14			
P029	BC-22	楕円形	0.27 × 0.23 × 0.07			
P030	BC-23	円形	0.25 × 0.24 × 0.03			
P031	BC-23	楕円形	0.32 × 0.26 × 0.10			
P032	BC-23	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.08			
P033	BC-23	円形	0.18 × 0.16 × 0.09			
P034	BC-23	楕円形	0.40 × 0.29 × 0.05		P035	
P035	BC-23	円形	0.25 × 0.24 × 0.10		P034	
P036	BC-23	円形	0.25 × 0.24 × 0.06			
P037	BC-23	楕円形	0.27 × 0.20 × 0.04			
P038	BC-23	円形	0.25 × 0.24 × 0.17			
P039	BC-24	円形	0.29 × 0.26 × 0.12			
P040	BC-24	円形	0.23 × 0.19 × 0.13			
P041	BC-24	円形	0.24 × 0.21 × 0.10			
P042	BC-24	(楕円形)	(0.34) × 0.72 × 0.15			
P043	BC-24	楕円形	0.45 × 0.35 × 0.22			
P044	BC-27	楕円形	0.21 × 0.15 × 0.08			
P045	BC-27	楕円形	0.23 × 0.20 × 0.09			
P046	BC-27	円形	0.31 × 0.29 × 0.07			
P047	BC-27	楕円形	0.30 × 0.24 × 0.14		SD08	
P048	BC-28	円形	0.41 × 0.36 × 0.18		SD08	
P049	BD-31	円形	0.43 × 0.40 × 0.13			
P050	BD-31	楕円形	0.83 × 0.48 × 0.08			
P051	BD-31	楕円形	0.27 × 0.21 × 0.23			
P052	BD-31・32	円形	0.32 × 0.30 × 0.06			
P053	BD-32	楕円形	0.39 × 0.28 × 0.04			
P054	BD-32	(楕円形)	0.61 × (0.24) × 0.19			
P055	BD-32	楕円形	0.36 × 0.31 × 0.10		P056	
P056	BD-32	楕円形	0.40 × 0.35 × 0.04		P055	
P057	BD-33	楕円形	0.65 × 0.62 × 0.09		SD14	
P058	BD-33	楕円形	1.38 × 0.76 × 0.09		P059	
P059	BD-33	楕円形	0.57 × 0.42 × 0.11		P058	
P060	BD-34	楕円形	0.56 × 0.53 × 0.08		P061	
P061	BD-34	楕円形	0.50 × 0.28 × 0.11		P060	
P062	BD-34	楕円形	0.57 × 0.38 × 0.08	土師器甕	P063	
P063	BD-34	円形	0.41 × 0.38 × 0.12		P062	
P064	BD-34	(楕円形)	0.38 × 0.30 × 0.09			
P065	BD-34	円形	0.28 × 0.25 × 0.08			
P066	BD-34	円形	0.41 × 0.41 × 0.08			
P067	BD-34	円形	0.36 × 0.36 × 0.09			

遺構名	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
P068	BD-34	楕円形	1.01 × 0.69 × 0.07			
P069	BD-34	楕円形	0.78 × 0.70 × 0.26			
P070	BD-34	楕円形	1.07 × 0.68 × 0.08			
P071	BD-34	楕円形	0.33 × 0.31 × 0.09			
P072	BD-35	楕円形	0.46 × 0.23 × 0.17		SD16	
P073	BD-35	楕円形	0.32 × 0.24 × 0.11		SD16	
P074	BD-35	円形	0.27 × 0.23 × 0.14		SD16	
P075	BD-35	(楕円形)	(0.44) × 1.12 × 0.14		SD16	
P076	BD-35	隅丸方形	0.53 × 0.41 × 0.14			
P077	BD-35	円形	0.78 × 0.66 × 0.19		P078	
P078	BD-35	楕円形	0.48 × 0.39 × 0.14		P077	
P079	BD-35	円形	0.45 × 0.39 × 0.16			
P080	BD-35	円形	0.53 × 0.49 × 0.24			
P081	BD-35	(楕円形)	(0.46) × 0.58 × 0.10			
P082	BD-35	楕円形	0.47 × 0.35 × 0.10			
P083	BD-36	楕円形	0.48 × 0.41 × 0.12		P084	
P084	BD-36	円形	0.25 × 0.22 × 0.05		P083	
P085	BD-36	(楕円形)	1.11 × (0.30) × 0.15			
P086	BD-37	楕円形	0.27 × 0.22 × 0.08			
P087	BD-38	(楕円形)	(0.47) × 0.66 × 0.21			
P088	BD-38	(楕円形)	(0.36) × 0.45 × 0.27			
P089	BD-38	円形	0.25 × 0.24 × 0.05			
P090	BD-38	円形	0.31 × 0.28 × 0.07			
P091	BD-38	円形	0.17 × 0.15 × 0.04			
P092	BD-38	楕円形	0.32 × 0.21 × 0.06			
P093	BD-38	楕円形	0.39 × 0.21 × 0.05			
P094	BD-38	円形	0.14 × 0.13 × 0.10			
P095	BD-39	円形	0.27 × 0.23 × 0.08			
P096	BD-39	円形	0.21 × 0.18 × 0.07			
P097	BD-40	円形	0.39 × 0.34 × 0.06		SK09	
P098	BD・BE-40	楕円形	0.60 × 0.37 × 0.04			
P099	BE-47	楕円形	0.38 × 0.20 × 0.10			
P100	BE-47	楕円形	0.41 × 0.26 × 0.07			
P101	BE-49	円形	0.26 × 0.24 × 0.16			
P102	BE-50	(楕円形)	0.64 × 0.45 × 0.05			
P103	BE-53	楕円形	0.33 × 0.27 × 0.27			
P104	BE-53	楕円形	0.36 × 0.23 × 0.25		P105	
P105	BE-53	円形	0.45 × 0.43 × 0.31		P104	
P106	BE-53	円形	0.36 × 0.33 × 0.09			
P107	BE-53	楕円形	0.49 × 0.42 × 0.06			
P108	BE-53	円形	0.33 × 0.28 × 0.05			
P109	BE-55	円形	0.39 × 0.33 × 0.16			
P110	BF-57	楕円形	0.32 × 0.24 × 0.09			
P111	BF-57	円形	0.24 × 0.22 × 0.04			
P112	BF-57	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.08			
P113	BF-57	楕円形	0.31 × 0.25 × 0.03			
P114	BF-57	(楕円形)	0.34 × (0.13) × 0.35			
P115	BF-57	隅丸方形	0.77 × 0.65 × 0.15			
P116	BF-57	楕円形	0.38 × 0.28 × 0.07			
P117	BF-59	円形	0.20 × 0.18 × 0.02		NR02	
P118	BF-59	円形	0.19 × 0.17 × 0.07		NR02	
P119	BF-59	楕円形	0.66 × 0.45 × 0.10		NR02	
P120	BF-60	楕円形	0.21 × 0.19 × 0.30		SK23・SD30・NR02	
P121	BF-60	(楕円形)	(0.31) × 0.56 × 0.20		NR02	
P122	BF-60	楕円形	0.69 × 0.55 × 0.16		SZ01(N)・NR02	
P123	BF-60	楕円形	0.49 × 0.38 × 0.23		SZ01(N)・NR02	
P124	BF-60	円形	0.37 × 0.37 × 0.07		SZ01(W)	
P125	BF-60	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.12		SZ01(W)	
P126	BF-61	楕円形	0.48 × 0.38 × 0.34			
P127	BF-62	楕円形	0.48 × 0.38 × 0.32	須恵器坏、軟質泥岩		
P128	BF-62	楕円形	0.24 × 0.23 × 0.21			
P129	BF-62	円形	0.41 × 0.35 × 0.12		SZ02(W)	
P130	BF-62	円形	0.40 × 0.37 × 0.08		SZ02(W)	
P131	BF-62	円形	0.31 × 0.30 × 0.06		SZ02(W)	
P132	BF-62	(楕円形)	(0.25) × 0.29 × 0.07		SZ02(W)	
P133	BF-62	楕円形	0.50 × 0.46 × 0.23			
P134	AM-51	楕円形	0.41 × 0.33 × 0.11			
P135	AQ-51	(楕円形)	(0.22) × 0.28 × 0.24			
P136	AQ-51	(楕円形)	(0.30) × 0.33 × 0.08		P137	
P137	AQ-51	楕円形	0.68 × 0.51 × 0.10		P136	
P138	AQ-51	隅丸方形	0.93 × 0.86 × 0.07			
P139	AQ-51	楕円形	0.67 × 0.48 × 0.18			
P140	AQ-51	楕円形	0.40 × 0.31 × 0.05			
P141	AR-51	楕円形	0.36 × 0.24 × 0.03			
P142	AR-51	楕円形	0.37 × 0.24 × 0.04			
P143	AR-51	円形	0.21 × 0.20 × 0.07			
P144	AR-51	円形	0.25 × 0.23 × 0.05			
P145	AR-51	楕円形	0.37 × 0.24 × 0.07		SD45	
P146	AR-51	楕円形	0.23 × 0.18 × 0.04		SD46	



P001
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質
黒褐色粘質土ブロック含)

P002・P003
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質
黒褐色粘質土ブロック含)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質
黒褐色・灰白色土ブロック含)
3. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱 砂質)

P004
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質
黒褐色粘質土ブロック含)

P005
1. にぶい黄 2.5Y-6/3(しまり強 粘質
黒褐色・灰白色粘質土ブロック含)
2. 黄褐 2.5Y-5/3(しまり強 粘質
黒褐色・灰白色土ブロック含)

P006
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)

P007
1. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまりやや強 酸化鉄微量)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄微量)

P008
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 酸化鉄微量)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄微量)

P009
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)
2. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 ややシルト質 酸化鉄少量)

P010
1. オリーブ黒 10Y-3/1(しまりやや強 やや粘質 酸化鉄少量)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量)

P011
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量)
2. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 粘質)

P012
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 ややシルト質
灰白色粘質土ブロック含)
2. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 やや粘質 酸化鉄
灰白色粘質土ブロック含)
3. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 砂質 灰白色土ブロック含)

P013
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質
黒褐色土ブロック含)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 酸化鉄微量)

P014
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 やや砂質 酸化鉄 炭化物)

P015
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)
2. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱 粘質 酸化鉄微量)

P017
1. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)

P018
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや砂質)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 砂質 酸化鉄微量)

P019
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 ややシルト質
黒褐色土ブロック含)
2. 灰 7.5Y-4/1(しまり弱 シルト質)

P020・P021
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 酸化鉄)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 酸化鉄微量)
3. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや弱 酸化鉄)

P022
1. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄)
2. 灰 7.5Y-4/1(しまり弱 酸化鉄微量)

P023
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質)
2. 灰 7.5Y-4/1(しまり弱 シルト質)

P024
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 粘質 一部シルト質 酸化鉄微量)

P025
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 粘質 一部シルト質 酸化鉄微量)

P026
1. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄
灰白色粘質土ブロック含)

P027
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 砂多量含)

P028
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 やや粘質 酸化鉄微量
灰白色土ブロック含)

P029
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 粘質 灰白色土粒子・ブロック含)

P030
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 粘質)

P031
1. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり強 ややシルト質
一部黒褐色ブロック含)

P032
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 酸化鉄微量)
2. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 黄灰色土粒子・ブロック含)

P034
1. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 灰白色土ブロック含)

P036・P037
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 粘質 酸化鉄微量)
2. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質 灰白色土ブロック含)

P040
1. 黄灰 2.5Y-5/1(しまりやや強 酸化鉄微量)

P041
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 酸化鉄微量)

P042
1. 表土
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまりやや強 粘質 酸化鉄微量)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (しまり弱 シルト質 酸化鉄微量)
4. 黄灰 2.5Y-4/1 (しまりやや弱)

P043
1. 黒褐 7.5YR-3/2(しまり弱 砂質
にぶい黄色砂質土ブロック含)

P044
1. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 酸化鉄微量)

P045
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまりやや弱)
2.暗灰黄2.5Y-4/2(しまりやや弱 酸化鉄)

P046
1.黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 灰白色砂質土ブロック含)

P047
1.黄灰2.5Y-4/1(しまりやや弱 酸化鉄)

P049
1.黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含)

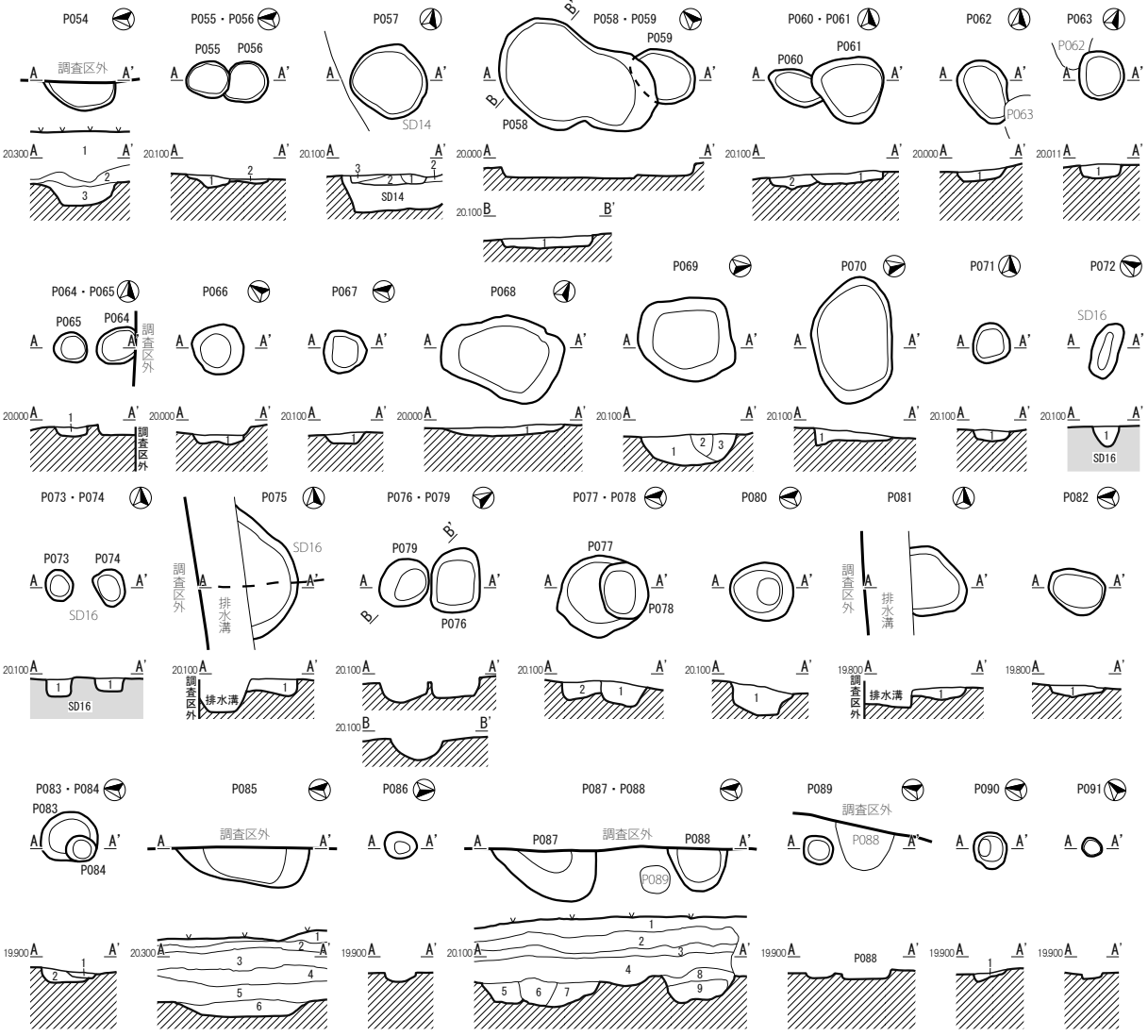
P050
1.黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
白色粘質土ブロック多量含)

P052
1.黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)

P053
1.黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量
黒色土粒子多量含 白色粘質土ブロック多量含)

0 2m
1:60

第 112 図　ピット(1)



P054
1. 表土
2. 黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
3. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)

P055・P056
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土ブロック多量含 白色粘質土ブロック多量含)
2. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土ブロック多量含)

P057
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含)
2. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 白色粘質土ブロック少量含)
3. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)

P058
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)

P060・P061
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック多量含)
2. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)

P062
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)

P063
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 砂少量含)

P064
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)

P066
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子多量含)

P067
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含)

P068
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含)

P069
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
2. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含)
3. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子多量含)

P070
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子少量含)

P071
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土ブロック多量含 白色粘質土粒子多量含)

P072
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含)

P073・P074
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)

P075
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含)

P076
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
2. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)

P077・P078
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)
2. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子多量含)

P080
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 黒色土粒子少量含)

P081
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含)

P082
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)

P083・P084
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量)
2. 暗灰黄2.5Y-5/2 (やや砂質 酸化鉄微量)

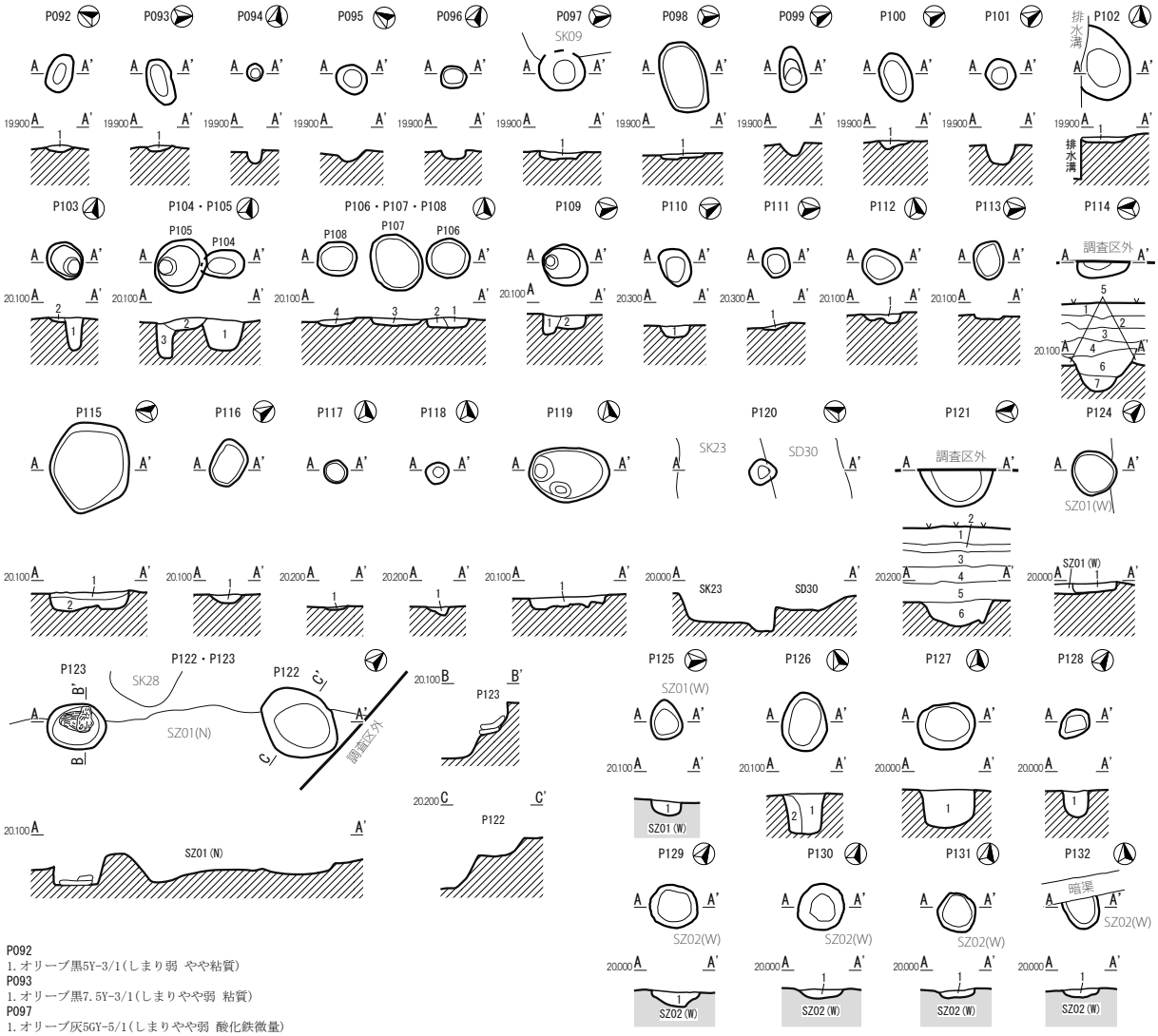
P085
1. 表土
2. 黄灰2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
3. 黄灰2.5Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 白色・黒色土粒子少量含)
4. 黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色土粒子少量含 黒色土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰色砂少量含 木片少量含)
6. 黒褐2.5Y-3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含)

P087・P088
1. 表土
2. 黄灰2.5Y-4/1 (しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含)
3. 黄灰2.5Y-4/1 (しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 白色土粒子多量含)
4. 暗灰黄2.5Y-4/2 (しまり弱 粘質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
白色土粒子多量含 灰色砂多量含 木片少量含)
5. 黒7.5YR-2/1 (しまり弱 シルト質 灰白色粒子少量含)
6. 褐灰7.5YR-4/1 (しまり弱 シルト質 灰白色・黒色粒子少量含)
7. 黒褐7.5YR-3/1 (しまり弱 やや粘質 灰白色ブロック多量)
8. 黄灰2.5Y-4/1 (しまりやや弱 ややシルト質 灰白色粒子少量)
9. オリーブ黒5Y-3/1 (しまりやや弱 粘質 灰白色粒子多量)

P090
1. オリーブ灰5GY-6/1(しまり弱 黒褐色土ブロック含)

0 2m
1:60

第 113 図　ピット(2)

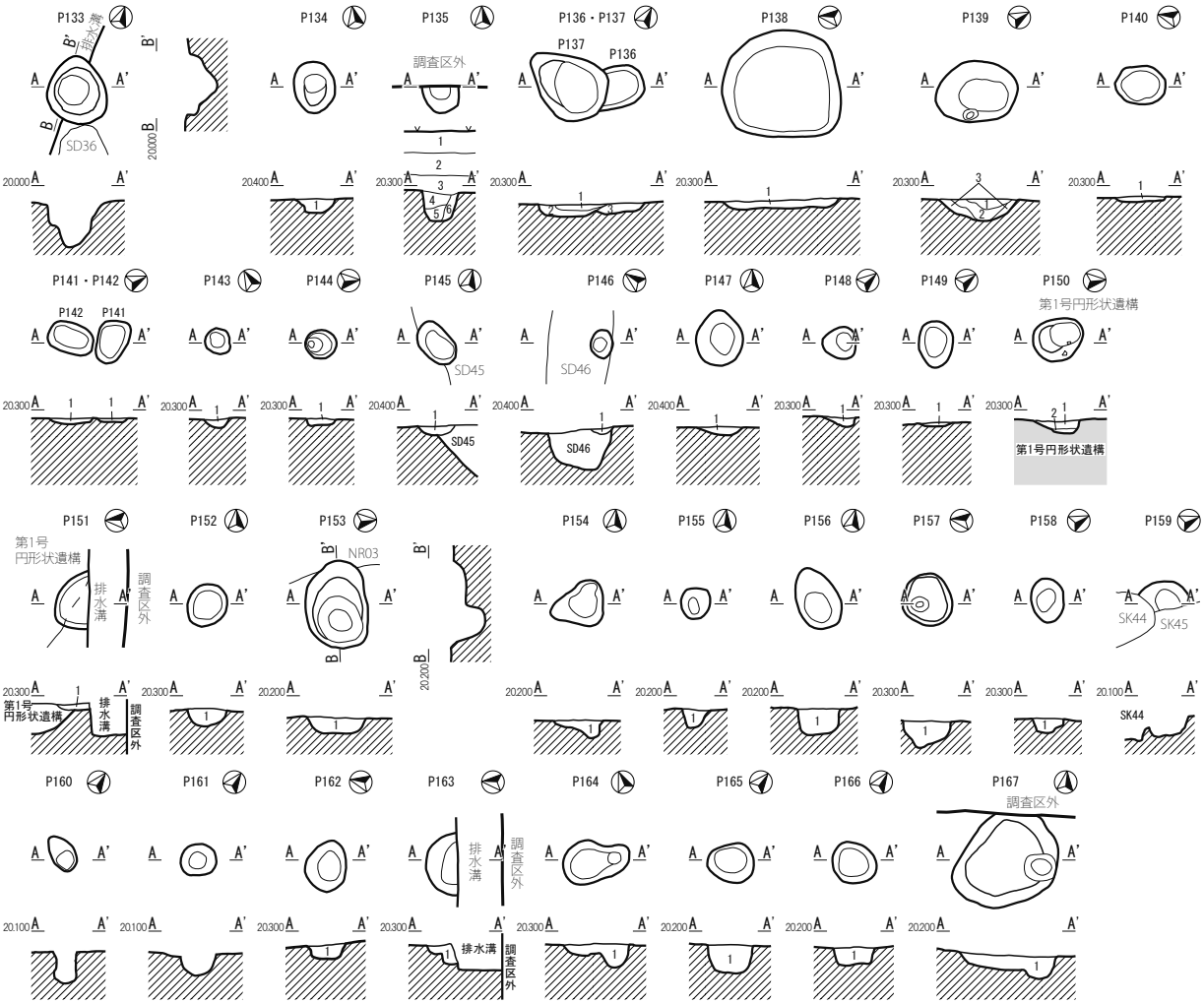


P092
1. オリーブ黒5Y-3/1(しまり弱 やや粘質)
P093
1. オリーブ黒7.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質)
P097
1. オリーブ灰5GY-5/1(しまりやや弱 酸化鉄微量)
P098
1. オリーブ灰5GY-5/1(しまり強 酸化鉄)
P100
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 木片少量含)
P102
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含)
P103
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
2. オリーブ黒5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック多量含 青色砂多量含 木片多量含)
P104・P105
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘質土粒子多量含 木片多量含)
2. オリーブ黒5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
白色粘質土ブロック多量含 青色砂多量含 木片多量含)
3. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
P106・P107・P108
1. 灰オリーブ5Y-4/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 青色砂粒子多量含)
2. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含)
3. オリーブ黒5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含)
4. オリーブ黒5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含)
P109
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 青色砂粒子多量含)
2. 灰5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含 白色粘質土粒子多量含)
P110
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量
黒色土粒子多量含 青色砂粒子少量含 木片多量含)
P111
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含
白色粘質土ブロック多量含 木片少量含)
P112
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
P114
1. 表土
2. 黄灰2.5Y4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 火山灰多量)
3. 黄灰2.5Y4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 火山灰少量 黒色土粒子少量含)
4. 黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量
白色粒子少量含 黒土粒子多量含 木片多量含)
5. 黒褐2.5Y3/2(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 青灰砂少量含 木片少量含)
6. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色粘質土ブロック多量含 木片多量含)
7. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色土粒子少量含 木片少量含)

P115
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 木片少量含)
2. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 砂ブロック多量含 木片少量含)
P116
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
P117
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 木片少量含)
P118
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色土粒子少量含 木片少量含)
P119
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 木片少量含)
P121
1. 表土
2. 黄灰2.5Y4/1(しまりやや強 粘質 酸化鉄多量 火山灰多量含)
3. 黄灰2.5Y4/1(しまり強 粘質 酸化鉄少量 火山灰少量含 黒色土粒子少量含)
4. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 灰白色土ブロック含)
5. オリーブ黒7.5Y-3/1(しまり強 灰白色粘質土ブロック多量含)
6. 灰7.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 オリーブ灰色土ブロック多量含)
P124
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子多量含 木片少量含)
P125
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 木片少量含)
P126
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまり強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子多量含
白色粘質土ブロック多量含 砂ブロック少量含 木片多量含)
2. 黄灰2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 酸化鉄多量 木片少量含)
P127
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子多量含 木片多量含)
P128
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 木片多量含)
P129
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 木片多量含)
P130
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 白色・黒色土粒子少量含 木片少量含)
P131
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含
白色粘質土粒子少量含 木片少量含)
P132
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 粘質 白色・黒色土粒子少量含 木片少量含)

0 2m 1:60

第 114 図　ピット(3)



P134
1. オリーブ黒5Y-3/1(しまり強 ややシルト質 黄褐色土粒子・ブロック含)

P135
1. 表土
2. 灰10Y-4/1(しまり強 粘質 酸化鉄)
3. オリーブ黒5Y-3/2(しまり強 粘質)
4. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 酸化鉄)
5. 灰オリーブ5Y-4/2(しまりやや弱 粘質)
6. 灰オリーブ7.5Y-5/3(しまり弱)

P136・P137
1. オリーブ黒5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質)
2. 暗オリーブ灰5GY-4/1(しまり弱 シルト質)
3. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子多量含)

P138
1. 灰オリーブ5Y-5/2(しまりやや弱 やや粘質)

P139
1. オリーブ黒5Y-3/1(しまり強 粘質 灰白色シルト質土含)
2. 暗緑灰7.5GY-4/1(しまり弱 シルト質 酸化鉄)
3. 暗オリーブ灰5GY-4/1(しまり弱 ややシルト質)

P140
1. オリーブ黒7.5Y-3/1(しまり強 粘質 酸化鉄微量)

P141・P142
1. 暗灰黄2.5Y-4/2(しまり弱 粘質)

P143
1. オリーブ黒5Y-3/1(しまり強 粘質 褐色土ブロック微量含)

P144
1. オリーブ黒5Y-3/1(しまりやや弱 粘質)

P145
1. 暗灰黄2.5Y-4/2(しまり強 粘質 酸化鉄微量)

P146
1. 灰5Y-4/1(しまり強 粘質)

P147
1. 暗オリーブ灰5GY-4/1(しまり強 シルト質 酸化鉄微量)

P148
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 灰白色粘質土ブロック含)

P149
1. 暗灰黄2.5Y-4/2(しまり弱 やや粘質)

P150
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 にぶい黄色土ブロック含)
2. 暗灰黄2.5Y-4/2(しまり弱 シルト質)

P151
1. 黒5Y-2/1(しまり弱 砂質)

P152
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 にぶい黄色シルト質土ブロック含)

P153
1. 灰オリーブ5Y-4/2(しまり強 やや粘質 灰白色シルト質土ブロック含)

P154
1. 黄灰2.5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 砂少量含)

P155
1. オリーブ黒5Y-3/1(しまり強 やや粘質)

P156
1. オリーブ黒7.5Y-3/1(しまり強 粘質)

P157
1. オリーブ黒7.5Y-3/1(しまり強 やや粘質)

P158
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)

P162
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含)

P163
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや強 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土ブロック少量含)

P164
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)

P165
1. 黒褐2.5Y-3/2(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 白色粘質土粒子少量含 木片少量含)

P166
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄少量 黒色土粒子少量含 砂少量含)

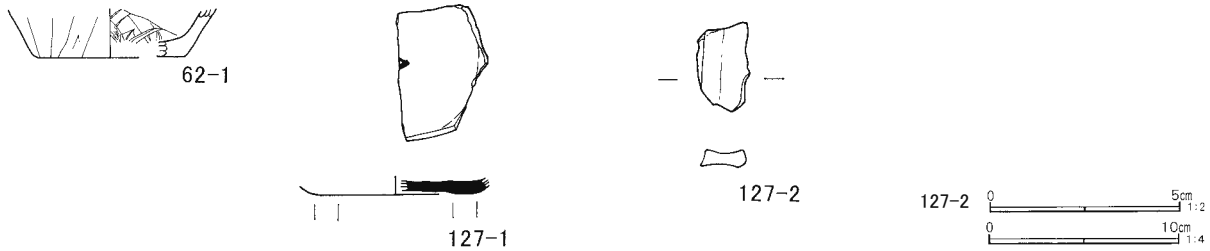
P167
1. 黒褐2.5Y-3/1(しまりやや弱 シルト質 酸化鉄多量 黒色土粒子少量含 砂少量含)

0 2m 1:60

第115図　ピット(4)

第 20 表　ピット一覧表(2)（第 112 ～ 115 図）

遺構名	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
P147	AR-51	楕円形	0.44 × 0.38 × 0.07		第 1 号円形状遺構	
P148	AR-51	楕円形	0.27 × 0.25 × 0.07			
P149	AS-51	楕円形	0.37 × 0.27 × 0.03			
P150	AR・AS-51	楕円形	0.41 × 0.35 × 0.10		第 1 号円形状遺構	
P151	AR・AS-51	(楕円形)	(0.27) × 0.44 × 0.05		第 1 号円形状遺構	
P152	AS-51	円形	0.36 × 0.31 × 0.14			
P153	AW-51	楕円形	0.70 × 0.50 × 0.13		NR03	
P154	AW-51	不整形	0.43 × 0.36 × 0.14			
P155	AX-51	円形	0.24 × 0.23 × 0.15			
P156	AX-51	楕円形	0.51 × 0.34 × 0.21			
P157	AX-51	円形	0.42 × 0.39 × 0.21			
P158	AX-51	楕円形	0.35 × 0.26 × 0.12			
P159	AY-51	(楕円形)	0.41 × 0.23 × 0.17		SK44・SK45	
P160	AY-51	楕円形	0.31 × 0.19 × 0.25			
P161	AY-51	楕円形	0.29 × 0.25 × 0.16			
P162	AY-51	楕円形	0.41 × 0.32 × 0.11			
P163	AZ-51	(楕円形)	(0.26) × 0.50 × 0.17			
P164	AZ-51	楕円形	0.53 × 0.33 × 0.19			
P165	BA-51	楕円形	0.37 × 0.31 × 0.23			
P166	BA-51	円形	0.36 × 0.32 × 0.14			
P167	BA-51	(楕円形)	0.88 × 0.73 × 0.12			



第 116 図　ピット出土遺物

第 21 表　ピット出土遺物観察表（第 116 図）

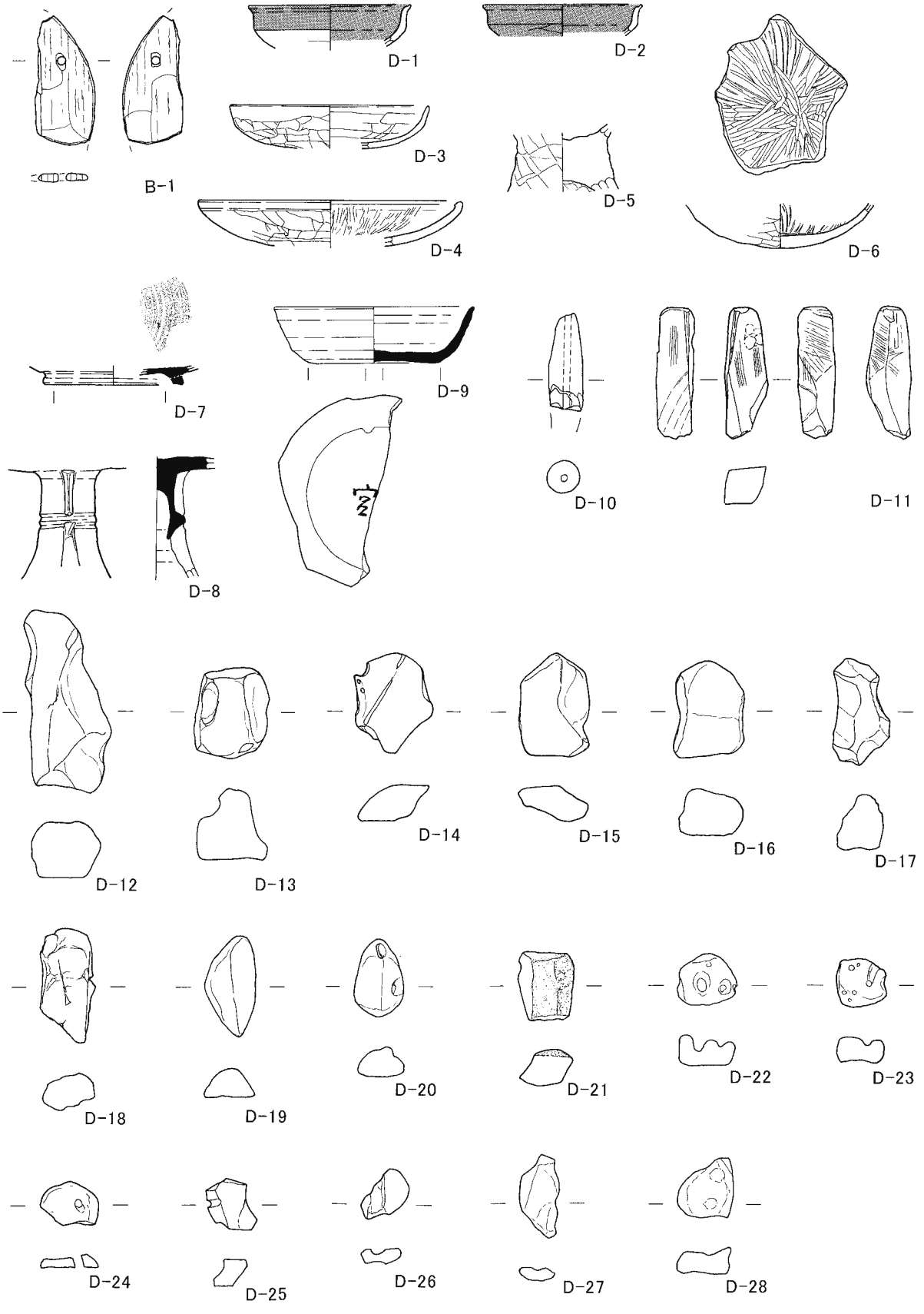
遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
P062	62-1	土師器 甕	-	(2.5)	(7.9)	ABIM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：褐灰 10YR-6/1	B	底部 20%	外面：胴部・底部ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
P127	127-1	須恵器 坏	-	(0.8)	(8.5)	ABFK	灰白 10YR-7/1	B	底部 20%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	内面底部墨書 南比企産
P127	127-2	軟質泥岩	最大長 2.3　最大幅 1.4　最大厚 0.5								

13　遺構外出土遺物

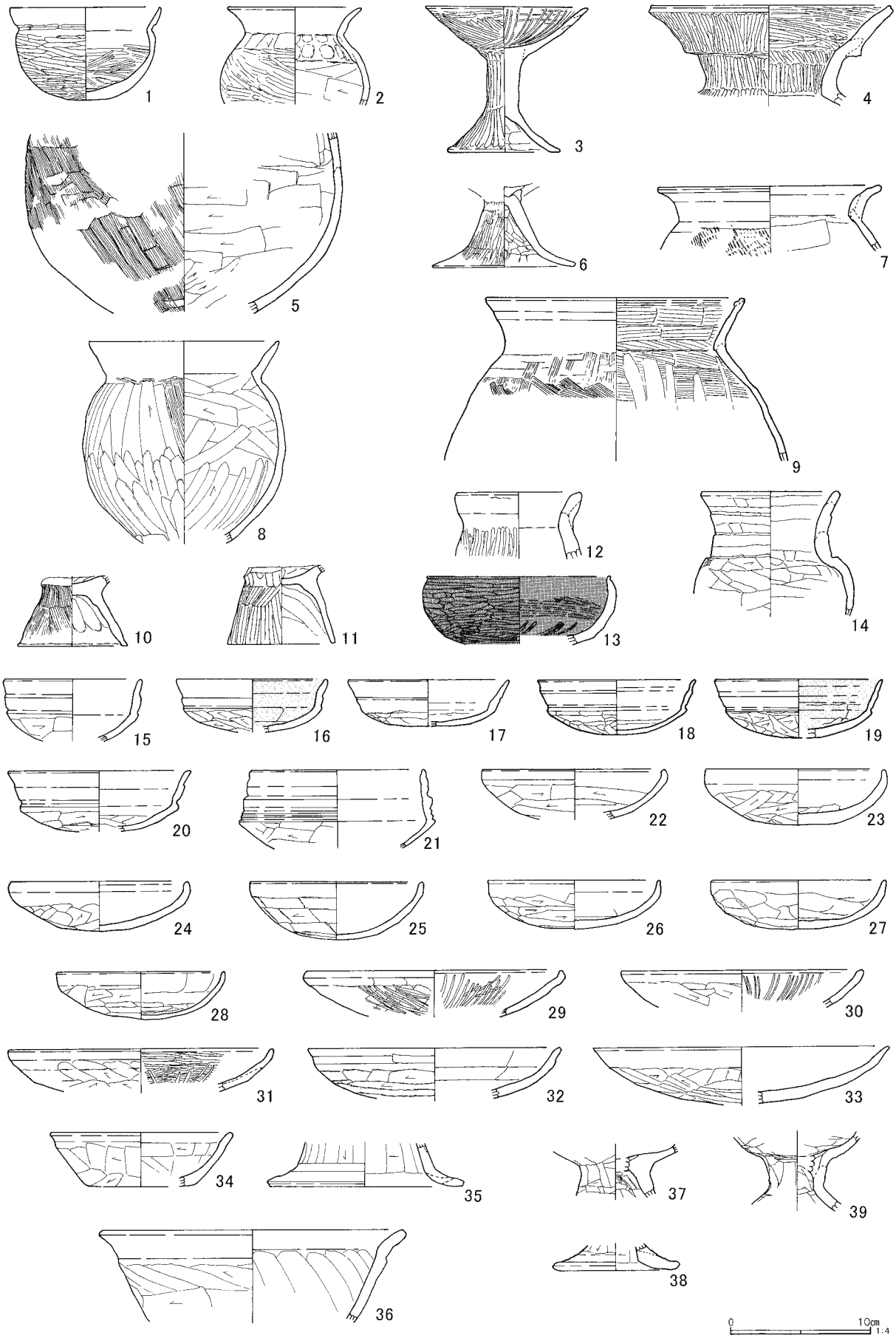
遺構外から出土した遺物については、主に表土剥ぎ時の遺物である。検出位置を区別するため、A区～D区（2019 年度調査）、E区（2018 年度調査）で調査区単位でまとめた。なお、E区の遺物大半は第３号河川跡付近からの採集である。以下、遺構外出土遺物として掲載する。（第 117 ～ 121 図・第 22 表）

第 22 表　遺構外出土遺物観察表(1)（第 117 ～ 121 図）

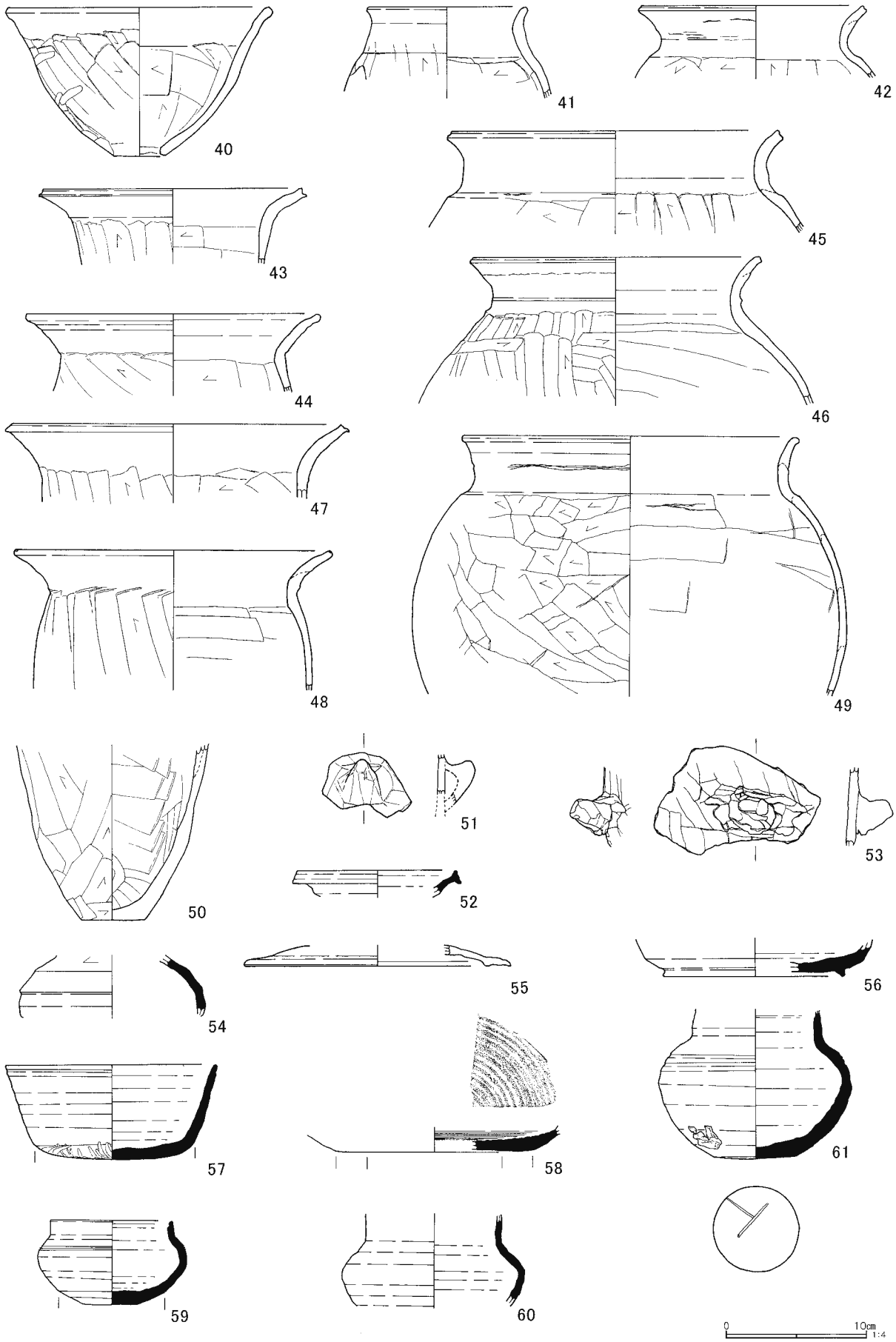
遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
B 区表採	B-1	木製品 曲物底板	最大長 (8.9)　最大幅 (4.1)　最大厚 0.6							木取：柾目 1 箇所穿孔	
B 区表採	B-2	木製品 漆椀									写真図版 39
D 区表採	D-1	土師器 坏	(11.2)	(2.9)	-	ABM	赤 10R-5/6	B	口縁～体部 10%		比企型坏 内外面赤彩
D 区表採	D-2	土師器 坏	(11.0)	(2.2)	-	ABDMN	橙 5YR-7/6	B	口縁～体部 10%		比企型坏 内外面赤彩
D 区表採	D-3	土師器 坏	(13.6)	(3.0)	-	ABKM	橙 5YR-6/6	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
D 区表採	D-4	土師器 皿	(18.0)	(3.0)	-	ABHKM	外面：にぶい黄褐 10YR-5/3 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
D 区表採	D-5	土師器 高坏	-	(4.5)	-	ABIM	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：橙 2.5YR-6/6	B	脚部 50%	外面：ヘラケズリ	
D 区表採	D-6	土師器 坏	-	(3.1)	-	ABIMN	橙 5YR-6/6	A	底部 40%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文、粗いミガキ	
D 区表採	D-7	須恵器 高台坏	-	(1.3)	(9.5)	ABFIM	灰 5Y-6/1	B	底部 10%		南比企産
D 区表採	D-8	須恵器 高坏	-	(8.5)	-	ABDGMN	灰 N-6/	B	脚部 70%	2 段透かし孔 上段孔貫通しない	末野産



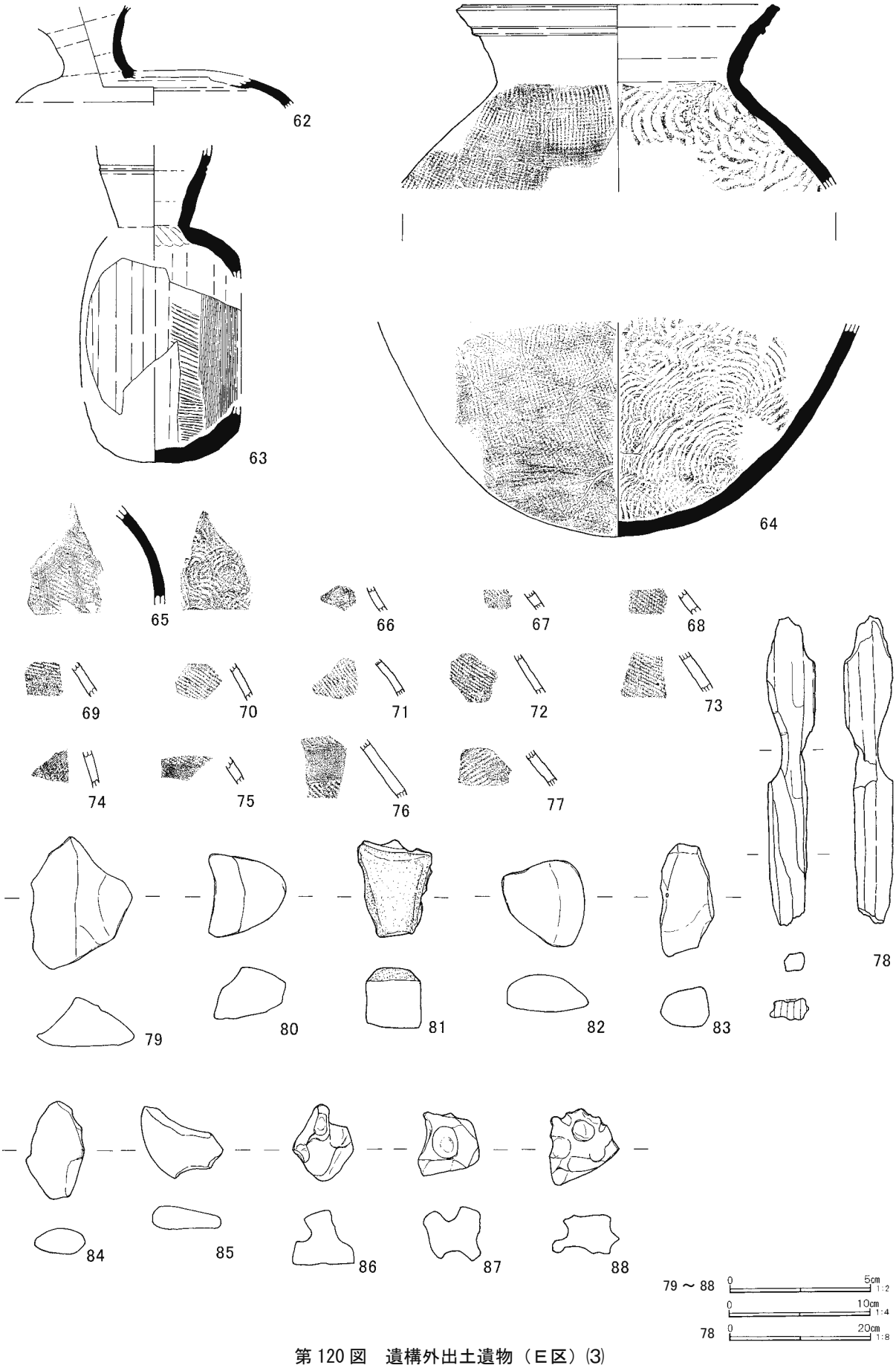
第 117 図　遺構外出土遺物（B区、D区）



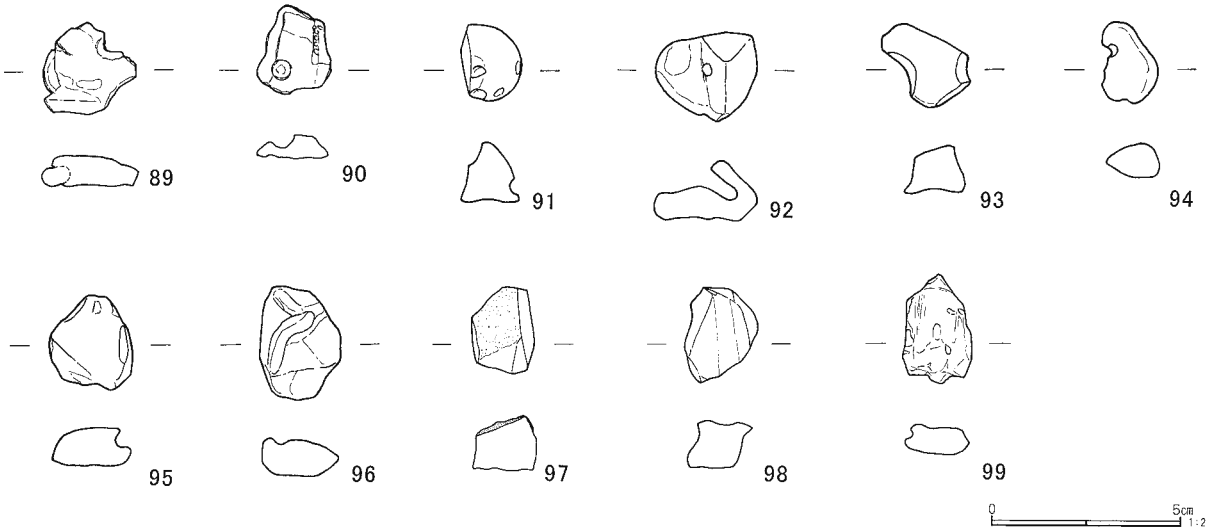
第 118 図　遺構外出土遺物（E 区）(1)



第 119 図　遺構外出土遺物（E 区）(2)



第 120 図　遺構外出土遺物（E区）(3)



第 121 図　遺構外出土遺物（E区）(4)

第 22 表　遺構外出土遺物観察表(2)（第 117 ～ 121 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
D 区表採	D-9	須恵器 坏	(13.6)	3.9	(9.0)	ABFGM	外面：黄灰 2.5Y-5/1 内面：灰白 10Y-7/1 底部の一部：にぶい黄橙 10YR-7/3	A	40%	外面：底部糸切り後周辺ヘラケズリ	外面底部墨書「宮」 南比企産
D 区表採	D-10	土製品 土錘	最大長 (3.4)　最大幅 1.1　孔径 0.2　重さ (3.7g)						50%		
D 区表採	D-11	石製品 砥石	最大長 9.1　最大幅 3.0　最大厚 2.5　重さ (83.1g)						一部欠損		凝灰岩
D 区表採	D-12	軟質泥岩	最大長 6.3　最大幅 2.9　最大厚 1.9								
D 区表採	D-13	軟質泥岩	最大長 3.1　最大幅 2.5　最大厚 2.5							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-14	軟質泥岩	最大長 3.4　最大幅 2.7　最大厚 1.2							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-15	軟質泥岩	最大長 3.5　最大幅 2.4　最大厚 1.2								
D 区表採	D-16	軟質泥岩	最大長 3.3　最大幅 2.4　最大厚 1.6								
D 区表採	D-17	軟質泥岩	最大長 3.7　最大幅 2.0　最大厚 1.9								
D 区表採	D-18	軟質泥岩	最大長 3.9　最大幅 1.8　最大厚 1.3							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-19	軟質泥岩	最大長 3.4　最大幅 1.7　最大厚 1.0								
D 区表採	D-20	軟質泥岩	最大長 2.7　最大幅 1.7　最大厚 1.0							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-21	軟質泥岩	最大長 2.4　最大幅 1.9　最大厚 1.2								
D 区表採	D-22	軟質泥岩	最大長 1.8　最大幅 2.0　最大厚 1.0							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-23	軟質泥岩	最大長 1.7　最大幅 1.8　最大厚 0.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-24	軟質泥岩	最大長 1.5　最大幅 2.0　最大厚 0.5							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-25	軟質泥岩	最大長 1.7　最大幅 1.8　最大厚 0.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-26	軟質泥岩	最大長 1.7　最大幅 1.2　最大厚 0.5							穿孔貝巣穴痕跡有	
D 区表採	D-27	軟質泥岩	最大長 2.9　最大幅 1.4　最大厚 0.5								
D 区表採	D-28	軟質泥岩	最大長 2.1　最大幅 1.9　最大厚 0.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	1	土師器 小型丸底 土器	(10.8)	6.7	-	ADGIM	赤褐 5YR-4/6	B	30%	外面：頸部沈線 (2 条) 胴部ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	
E 区表採	2	土師器 小型壺	(9.4)	(7.0)	-	AGLM	橙 2.5YR-6/8	B	20%	外面：頸部ヘラケズリ 胴部ヘラミガキ 内面：頸部指頭圧痕 脚部ユビナデ	
E 区表採	3	土師器 高坏	11.5	10.4	7.8	ABMN	明赤褐 2.5YR-5/6	B	100%	内外面：ヘラミガキ	
E 区表採	4	土師器 壺	17.0	7.1	-	ABIKM	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁部 80%	内外面：ヘラミガキ	
E 区表採	5	土師器 台付甕	-	(12.8)	-	ADHKM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	40%	外面：ハケ目 (6 本 /1cm) 内面：ヘラケズリ	
E 区表採	6	土師器 高坏	-	(5.1)	10.2	ABDHKM	灰赤 2.5YR-6/2	B	40%	外面：ハケ後ミガキ 内面：ナデ	
E 区表採	7	土師器 甕	(15.6)	(4.8)	-	ABIM	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	30%	外面：タタキ目 内面：ヘラナデ	
E 区表採	8	土師器 台付甕	(13.5)	(14.4)	-	ABMN	明赤褐 2.5YR-5/6	B	30%	外面：ヘラナデ 内面：ナデ、指ナデ	

第 22 表　遺構外出土遺物観察表(3)（(第 117 ～ 121 図)

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
E 区表採	9	土師器 甕	(18.4)	(11.7)	-	ADEKM	橙 5YR-7/6	B	90%	口縁端部内面肥厚 布留系 外面：頸部ヨコナデ後タテハケ目 内面：胴下部ヘラナデ 台部ユビナデ	胎土に白色砂粒多
E 区表採	10	土師器 台付甕	-	(5.0)	(7.7)	AJMN	橙 2.5YR-6/6	A	台部 30%	外面：ハケ目 内面：台部指ナデ	
E 区表採	11	土師器 台付甕	-	(5.6)	(7.7)	AM	橙 2.5YR-6/6	A	台部 30%	外面：台部ハケ目 内面：指ナデ	
E 区表採	12	土師器 小型壺	(8.6)	(4.8)	-	ABEGM	外面：にぶい橙 5YR-7/3 内面：褐灰 5YR-5/1	B	20%	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	厚手粗製
E 区表採	13	土師器 埦	(12.8)	(4.8)	-	ABIKM	外面：赤 10R-5/6 内面：赤橙 10R-6/6	B	30%	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ目後ヨコナデ 底部ミガキ	内外面赤彩
E 区表採	14	土師器 小型壺	9.6	8.9	-	ABCGH-KLM	にぶい黄褐 10YR-7/2	A	80%	外面：口縁部工具ナデ(巾0.7cm前後) 胴部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
E 区表採	15	土師器 坏	(9.7)	(4.5)	-	ABIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	A	30%	外面：ヘラケズリ	
E 区表採	16	土師器 坏	(10.6)	(3.8)	-	AIM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/3 内面：橙 2.5YR-6/6	A	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁 内面黒色処理
E 区表採	17	土師器 坏	(11.5)	(3.3)	(9.4)	ABJM	にぶい黄橙 10YR-5/3 黒褐 10YR-3/2	B	口縁～底部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁 内外面スス付着
E 区表採	18	土師器 坏	(11.2)	3.9	-	ABI	褐灰 7.5YR-5/1	B	60%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁 内外面スス付着
E 区表採	19	土師器 坏	(11.8)	(4.2)	-	ABI	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：褐灰 10YR-4/1	B	口縁～底部 40%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	有段口縁 内面黒色処理
E 区表採	20	土師器 坏	(13.0)	(4.4)	-	ABDHI-JKM	灰褐 5YR-4/2	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	有段口縁 内外面スス付着
E 区表採	21	土師器 坏	(12.4)	(5.6)	-	AEIKM	にぶい黄橙 10YR-7/2 褐灰 7.5YR-5/1	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	内外面スス付着
E 区表採	22	土師器 坏	(12.8)	(3.5)	-	ABIKM	橙 5YR-6/6	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	23	土師器 坏	12.6	4.0	5.1	BDHIKM	橙 5YR-6/6	B	100%	外面：ヘラケズリ 内面：指ナデ	
E 区表採	24	土師器 坏	(12.7)	(3.6)	(6.2)	ABIKM	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：橙 5YR-6/8	B	50%	外面：ヘラケズリ	
E 区表採	25	土師器 坏	12.2	4.2	-	ABIK	橙 2.5YR-6/8	B	60%	外面：ヘラケズリ	
E 区表採	26	土師器 坏	12.1	3.5	6.1	ABDHIM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	100%	外面：ヘラケズリ	
E 区表採	27	土師器 坏	10.4	3.6	-	ACDK	橙 5YR-7/6	B	90%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
E 区表採	28	土師器 坏	12.0	3.3	-	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
E 区表採	29	土師器 坏	(18.2)	(3.3)	-	ABDI	褐灰 7.5YR-4/1	B	10%	外面：ヘラケズリ後ミガキ 内面：放射状暗文	内外面スス付着
E 区表採	30	土師器 坏	(17.2)	(2.7)	-	ABDIM	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	10%	外面：ヘラケズリ 内面：放射状暗文	内外面スス付着
E 区表採	31	土師器 坏	(18.8)	(3.0)	-	ABDI	明褐灰 7.5YR-7/2	B	10%	外面：下半ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ後放射状暗文	内外面スス付着
E 区表採	32	土師器 盤	(18.0)	(3.6)	-	ABIM	橙 5YR-6/6	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
E 区表採	33	土師器 盤	(21.0)	(4.1)	-	AEIJK	橙 7.5YR-7/6	B	30%	外面：ヘラケズリ	
E 区表採	34	土師器 坏	(13.0)	(3.9)	-	ABIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	20%	外面：体部・底面ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	35	土師器 高坏	-	(3.2)	(13.8)	ABMN	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	30%	内外面：ヘラケズリ、端部ヨコナデ	
E 区表採	36	土師器 鉢	(21.4)	(6.5)	-	AEHI	橙 5YR-7/6	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	37	土師器 高坏	-	(3.3)	-	ACHKMN	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：橙 2.5YR-6/6	B	40%	内外面：ヘラケズリ	
E 区表採	38	土師器 高坏	-	(1.8)	(8.0)	ABDIKM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	30%	内外面：ヘラケズリ、端部ヨコナデ	
E 区表採	39	土師器 高坏	-	(5.5)	-	ACDHKM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい赤褐 2.5YR-5/4	B	40%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	内面坏部スス付着
E 区表採	40	土師器 小型甑	(18.6)	(10.7)	-	ABDMN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
E 区表採	41	土師器 甕	(11.2)	(6.4)	-	A	黒褐 2.5Y-3/1 にぶい黄橙 10YR-7/2	A	口縁～胴上部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	42	土師器 甕	(15.8)	(5.1)	-	ABDHKM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	43	土師器 甑	(18.3)	(5.3)	-	ABDHMN	にぶい橙 5YR-7/4	B	30%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
E 区表採	44	土師器 甕	(21.0)	(5.3)	-	ABHIM	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい赤褐 5YR-5/4	A	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
E 区表採	45	土師器 甕	(23.3)	(7.3)	-	ABDHKM	外面：にぶい黄褐 10YR-5/3 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	46	土師器 壺	20.4	(10.6)	-	AEIMN	橙 7.5YR-7/6	B	90%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	47	土師器 甕	(23.4)	(5.6)	-	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁部 100%	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	48	土師器 甕	(22.3)	(10.0)	-	AEIM	橙 5YR-6/8	A	口縁～胴上部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
E 区表採	49	土師器 丸甕	24.0	(18.5)	-	ACDHKM	灰褐 7.5YR-6/2	B	20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
E 区表採	50	土師器 甕	-	(12.5)	4.6	ABIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	外面：胴部・底面ヘラケズリ 内面：胴部ヘラナデ 底部指ナデ	
E 区表採	51	土師器 甑	-	-	-	ABDM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：褐灰 10YR-6/1	B	把手部片 (中空)	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	52	須恵器 長頸瓶	(11.4)	(1.9)	-	AB	黄灰 2.5Y-6/1	B	10%		内面自然釉付着
E 区表採	53	土師器 甑	-	-	-	ACHKM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	把手部片	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	
E 区表採	54	須恵器 蓋	-	(4.4)	-	ABM	外面：灰 7.5Y-6/1 内面：灰 N-4/	B	10%	外面：天井部回転ヘラケズリ	末野産
E 区表採	55	須恵器 蓋	(18.8)	(1.4)	-	ABM	灰黄 2.5Y-6/2	C	20%		酸化焔焼成 末野産
E 区表採	56	須恵器 盤	-	(2.7)	(13.0)	ABM	灰白 2.5Y-8/1	B	20%		末野産カ
E 区表採	57	須恵器 埦	15.0	6.8	10.2	ABGHLMN	黄灰 2.5YR-5/1	B	60%	外面：口縁部沈線 底部回転ヘラケズリ後ヘラミガキ	末野産
E 区表採	58	須恵器 盤	-	(1.8)	(14.0)	AGMN	外面：黄灰 2.5Y-5/1 内面：灰白 2.5Y-7/1	B	底部 20%	外面：底部回転ヘラケズリ 内面：底面ロクロ回転による同心円沈線	末野産
E 区表採	59	須恵器 短頸壺	8.7	6.0	3.9	ABEGM	褐灰 7.5YR-6/1	B	80%	外面：底部回転ヘラケズリ	外面自然釉付着 末野産
E 区表採	60	須恵器 短頸壺	-	(6.6)	-	ABMN	灰 N-6/	B	30%		末野産
E 区表採	61	須恵器 短頸壺	-	(10.7)	5.7	ABFGIM	灰白 10YR-7/1	A	60%		底部ヘラ描線刻文 外面自然釉付着 南比企産
E 区表採	62	須恵器 平瓶	-	-	-	ABM	灰白 N-7/	B	40%		口縁部内外面と体部上面に自然釉付着 末野産
E 区表採	63	須恵器 提瓶	胴径 (16.8)	(22.6)	-	AGMN	外面：灰 N-5/ 内面：灰 N-6/	B	30%	外面：平行タタキ目後カキ目	末野産
E 区表採	64	須恵器 甕	(22.0)	-	胴部径 (35.0)	ADGHLN	灰 N-6/	B	20%	外面：格子タタキ目 内面：同心円タタキ目	末野産
E 区表採	65	須恵器 横瓶	-	-	-	ABLM	外面：灰白 5Y-7/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	頸部片	外面：平行タタキ目後指ナデ 内面：同心円タタキ目	末野産
E 区表採	66	土師器 壺	-	-	-	AM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：明褐 7.5YR-5/6	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	
E 区表採	67	土師器 壺	-	-	-	AM	外面：暗赤灰 2.5YR-3/1 内面：橙 7.5YR-6/6	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	
E 区表採	68	土師器 壺	-	-	-	ABIM	灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	
E 区表採	69	土師器 壺	-	-	-	ABIM	灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	
E 区表採	70	土師器 壺	-	-	-	ABIKM	灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	
E 区表採	71	土師器 壺	-	-	-	ABHIM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	
E 区表採	72	土師器 壺	-	-	-	ABHI	灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	
E 区表採	73	土師器 壺	-	-	-	ABIM	灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	

第 22 表　遺構外出土遺物観察表(4)（第 117 ～ 121 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
E 区表採	74	土師器 壺	-	-	-	ABI	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	胴部片	外面：無節縄文 L 末端結束 (0 段多条)	
E 区表採	75	土師器 壺	-	-	-	ABK	灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	外面赤彩
E 区表採	76	土師器 壺	-	-	-	ABGHIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：褐灰 7.5YR-5/1	B	胴部片	外面：単節縄文 RL(0 段多条)	外面赤彩
E 区表採	77	土師器 甕	-	-	-	ABIM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：タタキ目	
E 区表採	78	木製品 建築材	最大長 (44.3)　最大幅 (6.9)　最大厚 3.0							木取：柾目 中央部を弧状凹ませている 扉の「まぐさ」又は「蹴放し (けはなし)」	
E 区表採	79	軟質泥岩	最大長 4.6　最大幅 3.6　最大厚 1.7							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	80	軟質泥岩	最大長 2.9　最大幅 2.8　最大厚 1.8								
E 区表採	81	軟質泥岩	最大長 3.5　最大幅 2.7　最大厚 2.2								
E 区表採	82	軟質泥岩	最大長 3.2　最大幅 2.9　最大厚 1.3								
E 区表採	83	軟質泥岩	最大長 4.0　最大幅 2.0　最大厚 1.4								
E 区表採	84	軟質泥岩	最大長 3.5　最大幅 2.1　最大厚 0.9								
E 区表採	85	軟質泥岩	最大長 2.6　最大幅 2.8　最大厚 0.8								
E 区表採	86	軟質泥岩	最大長 2.7　最大幅 2.1　最大厚 1.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	87	軟質泥岩	最大長 2.3　最大幅 2.2　最大厚 1.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	88	軟質泥岩	最大長 2.7　最大幅 2.5　最大厚 1.3							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	89	軟質泥岩	最大長 2.4　最大幅 2.5　最大厚 0.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	90	軟質泥岩	最大長 2.3　最大幅 1.9　最大厚 0.6							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	91	軟質泥岩	最大長 2.0　最大幅 1.6　最大厚 1.6							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	92	軟質泥岩	最大長 2.3　最大幅 2.7　最大厚 1.6							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	93	軟質泥岩	最大長 2.2　最大幅 2.3　最大厚 1.2								
E 区表採	94	軟質泥岩	最大長 2.2　最大幅 1.5　最大厚 0.9							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	95	軟質泥岩	最大長 2.5　最大幅 2.2　最大厚 1.0							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	96	軟質泥岩	最大長 3.0　最大幅 2.1　最大厚 1.0							穿孔貝巣穴痕跡有	
E 区表採	97	軟質泥岩	最大長 2.3　最大幅 1.6　最大厚 1.5								
E 区表採	98	軟質泥岩	最大長 2.5　最大幅 2.0　最大厚 1.3								
E 区表採	99	軟質泥岩	最大長 2.9　最大幅 1.8　最大厚 0.8							穿孔貝巣穴痕跡有	

Ⅶ　調査のまとめ

方形周溝墓について

今回の調査は狭小であったが、方形周溝墓が６基検出された。池上遺跡Ｄ区で弥生中期（池上式期）２基、鶴巻遺跡で古墳時代前期４基である。

池上遺跡の２基の出土遺物は少なく、僅かに第２号方形周溝墓西溝のやや上層から纏まって出土した壺形土器（第 70 図 1）１点のみである。

器形は口縁部を欠いているが、頸部は細く、肩部がやや張りを持つ。これは本市妻沼地域の飯塚遺跡（増田 1976）などにみられる伝統的な器形であり、池上遺跡（埼玉県 1984）、小敷田遺跡（埼埋文 1991）出土の菱形連繋文壺形土器とは器形が大きく異なっている。

文様施文帯は頸部から胴部上半まで及んでおり、刺突文を充填する菱形連繋文を現状で６段に亘って施文している。菱形文は５単位で、胴部の菱形文各頂部には刺突ないし、やや縦長の沈線が施されるが、一部施文を欠いている。頸部の菱形連繋文には刺突が施されないことから刺突の有無で頸部と胴部では施文帯の区別があるとみられる。最下段は３単位と省略されており、主に省略部分の前後に文様施文帯区画線が施され、文様施文帯全体を区画するわけではない。刺突及び沈線は比較的浅く雑で、菱形文は頸部に乱れがみられ全体に崩れた菱形文となっている。

地文縄文は多条単節で、胴部施文帯付近を大きく越えて下半まで及び胴部最大径下付近は横方向、以下は斜め方向に施文される。

口縁部は欠失し不明であるが飯塚遺跡、諏訪木遺跡出土の壺形土器（熊谷市 2017）、千葉県勢至久保遺跡出土壺形土器（飯塚 1982）によると、口縁部は全体に縄文施文され頸部は無文帯をもたず沈線区画されるとみられる。

池上式については２ないし３段階の編年案が提示されている（石川 2001、鈴木 1999）が、上述の特徴をもつ本壺形土器を注視すると、池上式古段階とされる池上遺跡第１号環濠や小敷田遺跡３区河川跡出土の菱形連繋文壺形土器と比較して明らかに後出的で、池上式新段階の小敷田遺跡第１号方形周溝墓出土壺形土器に近いと考えられる。

次に特徴的な文様施文領域についてみると、本例は刺突の有無で上下の区別が看取されたが、小敷田例は、重四角文を上下半単位ずらす伝統的な配置で、上下一体のものである。これは領域区分に対してより一体化が進行したことを示し、一体化という状態の変化により施文が可能となったと考えられ、小敷田例がより新しい。重四角文が所謂筒型土器の主文様意匠であることも留意すべき点である。また下胴部の縄文施文は、小敷田例は無節で本例は単節という違いがあり、施文範囲の違いも大きい。胴部下半まで縄文（無節）施文する例として南加瀬遺跡の壺形土器があげられているが、重四角文を上下半単位ずらす文様で小敷田段階とされる（鈴木 1999、山内 1967）。今回出土した土器はその前段階になると考えられる。

池上遺跡の２基の方形周溝墓は、旧河川跡の南側に立地し、ともに北溝と西溝の一部が検出されたに過ぎない。両者とも北西隅は確実に溝が切れており、四隅切れのタイプと考えられる。第２号方形周溝墓の規模は外縁 13 ｍ前後で方台部 11 ｍ前後と推定され、第１号方形周溝墓も同規模と推定される。溝

底に土坑状の落ち込みはなくほぼ平坦である。2基の溝の位置関係については不明とせざるを得ないが、主軸方向は両者ともほぼ同じ方位と考えられ、北から約30°前後西に振れている。

小敷田遺跡では1区で3基と4区で1基の方形周溝墓が検出されたが、1区の3基はいずれも四隅切れタイプで、外法で約15～16m、方台部約10～11m前後の規模で、本遺跡とほぼ同規模である。南から3号→2号→1号の順に構築され、溝が重複して列状に配置されていた。溝は土坑状の落ち込みなどがある。本例の2基は形態、位置関係から小敷田遺跡例に類似しており、同様に3基前後で列状に配置されていたと考えられ、神奈川県の中里、千葉県の常代、向神納里遺跡等で見られる南関東の大規模な造築とは違った少規模分散型を呈していたとみられる。

これらの墓域に対応する居住域については、遺跡北側の河川跡以北にその存在が推定されるが、弥生中期の遺構、遺物は出土していない。今回調査区のD区は、小敷田1区方形周溝墓と住居群付近から南東方向に約650m程の距離がある。また小敷田4区の第11号方形周溝墓と住居群付近からは北東方向にわずか約150m程度の距離であるが、中間に「河川状遺構D」を挟んでいる。本例における居住域は不明とせざるを得ないが、少なくともこれら2箇所とは別の居住域が想定される。

方形周溝墓以外の墓制として､池上遺跡E区西寄りの位置で弥生中期土器棺墓1基が検出されている。栗林系の甕に壺胴部下半を蓋としたもので、北島式段階と考えられ、このことから、墓制の移行が一様に進行したものではないことを示す一例と考えられる。(柿沼2007)

古墳時代前期の方形周溝墓は、鶴巻遺跡で4基検出された。調査区の南の第7号沼跡を挟んだ直ぐ北側に3基と南側に1基である。

北側の3基のうち第1号、2号方形周溝墓は平面形が円形ないし隅丸方形で、第1号が東溝と北溝が、第2号が北溝と西溝が検出されている。第3号は方形を呈し、北溝と西溝が検出された。いずれも周溝の一部が検出されたにすぎないが、溝が全周するタイプと考えられる。第1～3号の周溝幅は1m前後で狭く、地山からの掘り込みは20～30cm程でやや浅い。第4号方形周溝墓は、沼地跡の南側、単独で検出された。地山からの掘り込みは20cm程であるが溝幅が2～2.6mあり、他の3基と異なっている。

遺物は隅部に集中するようで比較的完形に近いものが多く、概ね古墳時代前期中段階と考えられる。第1号は細かいハケ目調整による台付甕、第2号はS字状口縁台付甕（以下S字甕と略す）と有段口縁鉢が出土しS字甕は口縁部に段を持つものと屈曲して稜線をなし頸部に移行するものがあり、肩部の横線が有るものとないものがある。有段口縁鉢は口縁部が緩く外反し段が痕跡化しており小敷田遺跡の例に近似する。第3号は台付の叩き調整甕（以下叩き甕と略す）3点が出土し、いずれも粗い作りで脚台部まで叩き目、及び口縁部の作りや長胴である点など、ほぼ同様の作りであり、小敷田遺跡や池上遺跡例とは相違している。(第122図　鶴巻遺跡周辺の叩き甕）これらの土器は、いずれも穿孔されてはおらず生活日用品である点が特徴的である。ただし第4号のみ底部穿孔の壺形土器が出土している点、3基とは様相が異なっている。

本例の墓域に対応する居住域については、今回の調査で古墳時代前期の住居跡は未検出であることから明確ではない。小敷田5区では重複する11基の方形周溝墓の墓域だけが検出されたが、4区では住居跡1軒と方形周溝墓群が共に検出され、墓域が河川によって画されていたことが明らかとなった。

なお鶴巻遺跡では4基の方形周溝墓の間にある第7号沼跡から多量の古墳時代前期の遺物、S字甕を

中心とした日用品が出土しており、同沼跡の周辺に居住域が存在することが推察できる。

小敷田４区の方形周溝墓７基のうち４基については方台部に柱穴が存在すること、周溝の幅や深さがないことなどにより、周溝持建物の可能性が指摘されている（福田 2013）。墓域と居住域が重なるという問題が残るがこのような見解では、沼跡北側の３基についても周溝持建物の可能性が顕在化してくる。近隣の北島遺跡では環濠で区画された住居跡群と方形周溝墓群が調査された（埼埋文 2005 北島遺跡Ｘ）が、方形周溝墓群は重複が激しく平面形が不整形のものが目立つ。方台部に柱穴、ピット等は検出されていないが、周溝持建物跡ないし掘立柱建物跡の可能性がある。いずれにしても集落と墓域が近い位置関係にあることが窺えるのである。

以上方形周溝墓について若干のまとめを行ったが、低地遺跡では周溝持建物跡の把握が通時的に存在しており、今後の調査に期待するところが大きい。

古墳時代前期土器の位置づけ

鶴巻遺跡と池上遺跡からは、古墳時代前期の土器が検出された。本項では、周辺遺跡から出土した土器を交えて、変遷の段階や使用集団の特性をとらえやすいＳ字甕や叩き甕を中心に荒川新扇状地扇端低地帯における開発の様相に触れておく。

鶴巻遺跡では方形周溝墓に伴う土器があるが、２遺跡とも検出された土器の大部分は、沼跡や河川跡の包含層からの一括遺物であり、層位的な出土位置は捉えられなかった。報告した土器の中には駿河系および南関東系の縄文による装飾を施した壺や、口縁端部に刻み目をもつ甕が存在し、弥生時代後期の要素を残すものもあれば、柱状脚の高坏のように新相のものも見られるため、古墳時代前期の中でも段階的に幅を持って遺跡が構成されていると考えられる。また、土器の出土量から、集落の中心部は鶴巻遺跡の未発掘部分にあることが想定できるため、以下の記述は鶴巻遺跡を中心に進める。

Ｓ字甕は口縁部から肩部のわかるものが 14 点あるが、肩部横線を有するものが半数程度認められる。特に第７号沼跡のものは、胴部が大きく肩部もやや張るため、Ｓ字甕の分類で中段階のものと見ることができる。

北島遺跡（第 19 地点）では 153 軒の竪穴建物跡と 27 基の方形周溝墓が検出され、多数の土器が出土したが、報告されているＳ字甕は 14 点と少なく肩部横線を持つものは３分の１程度である。Ｓ字甕が少ない一方で、東海地方西部の出自を同じくするパレス壺の存在は顕著で、遺存率は高くはないが口縁部や胴部の文様を持つ破片など 25 点以上が出土し、さらにパレス文様を持つ高坏も３点出土した。前期古段階と考えられる。

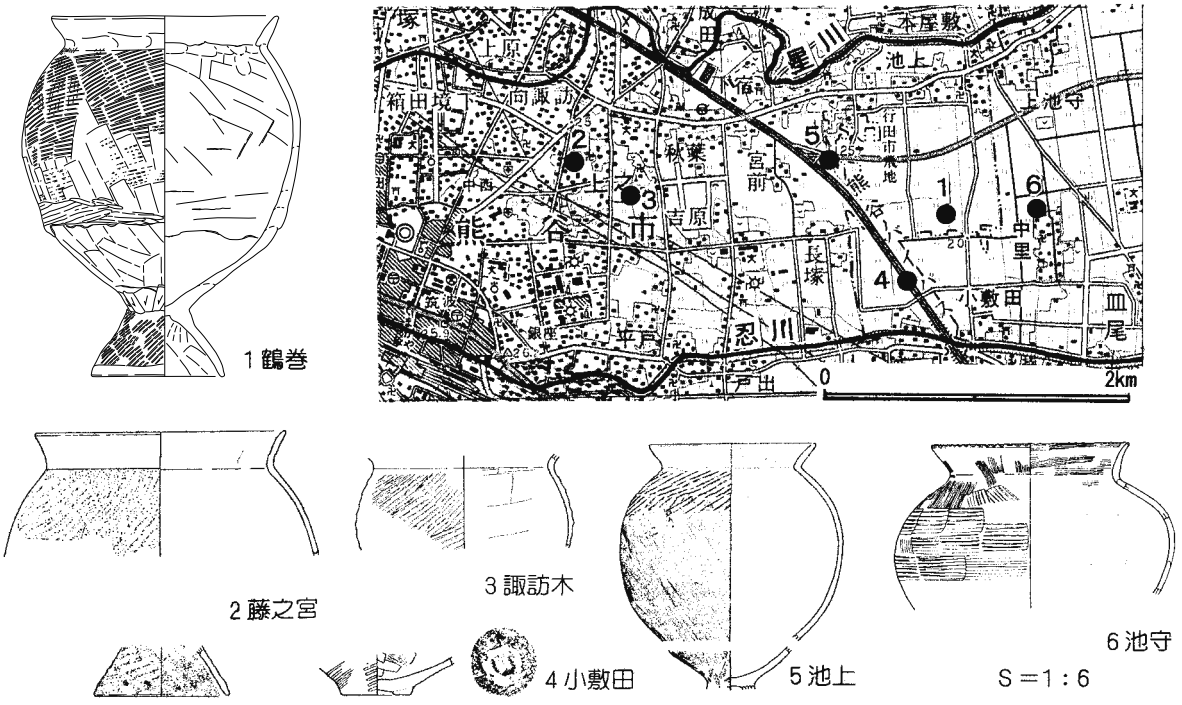
小敷田遺跡では河川跡を中心に 67 点のＳ字甕が出土し、肩部横線をもつものは４分の１程度であるが、横線のないものの中には胴部の長胴化やハケ目の簡略化が進んだものも認められる。パレス壺はないが、パレス文様高坏が２点出土している。前期古段階から新段階までの時期幅がある。

叩き甕は、第３号方形周溝墓から３点が出土した。２点は台部を欠損するが、３点とも胴部の遺存率は高い。さらに第７号沼跡からも同工の叩き甕片が１点出土している。本遺跡周辺の５遺跡でも叩き甕が出土している。諏訪木遺跡（熊谷市 2020）のものは下半部が不明だが、小敷田遺跡のものは輪状底部の平底甕で、藤之宮遺跡、池上遺跡（埼玉県 1984）、池守遺跡（行田市 1981）のものは台付甕と見られる。

いずれも前期古段階と考えられる。

埼玉県北部の大里、児玉地域の古墳時代前期の集落にはＳ字甕が伴うことが多いが、それに畿内系の要素である叩き甕が加わることは少ないため、星川と忍川に挟まれた鶴巻遺跡周辺は特殊な地域と言える。また、今回の池上遺跡の第 118 図９に示した甕は、叩き甕ではないが、口縁端部内面が肥厚する特徴を持つ布留系甕である。白色砂粒を多量に含む胎土は他の土器とは異なるため、他地域からの搬入品の可能性もあり、叩き目調整以外にも畿内からの影響も受けたと考えられる。

鶴巻遺跡をはじめ、本項で取り上げた遺跡は荒川新扇状地の扇端部に形成された集落である。弥生時代中期中葉には、関東地方の中でも初期段階の集落が営まれ、水田開発が始まった地域ではあるが、後期の集落につながるのはごく一部である。この衰退していた扇端部の低湿地帯に、古墳時代はじめに東海地方西部から低地開発や水田経営の技術を持つ集団が入植して再開発にあたったと考えられる。北島遺跡では集落を取り囲む方形環濠が検出されているが、このような集落を拠点として、低地帯に衛星的な集落が点在したと推定される。



第 122 図　鶴巻遺跡周辺の叩き甕

祭祀的要素について

鶴巻遺跡と池上遺跡において、沼沢地や河川跡の縁辺部から多量の遺物が出土したが、水辺の祭祀跡が想定される近隣の小敷田遺跡や諏訪木遺跡の資料に照合させて、遺物群中の祭祀的な要素を取り出してみたい。

○鶴巻遺跡　第７号沼跡

古墳時代前期の沼跡か河川跡だが、この北縁部において木製品や土器が集中して出土した。

木製品の中では、弓が注目される。先端を弓筈として加工し、もう一端は幹からの分枝部分をそのまま利用したもので、僅かに弦を巻き付けたような痕跡が認められる。両端間の弦径は 55cm ほどの大きさ

で実用的ではなく、儀器と考えられる。ほかに残部長約 40㎝の槽が出土している。土器では、Ｓ字甕、赤彩された大型坩･鉢、小型壺などが完形や高い遺存率で出土している。また手捏土器も伴出している。

小敷田遺跡では蛇行する河川跡が断続的に検出され、４区と５区で出土した木製品や土器が鶴巻遺跡と類似する。木製品の中にはやはり弓や槽があり、土器でもＳ字甕、大型坩、鉢や手捏土器がある。河畔に周溝墓又は、周溝持建物跡のものと見られる溝跡があることも共通している。４区では、舟形木製品も出土し、祭祀行為の一端が確認できる。

鶴巻遺跡と小敷田遺跡は同時期のものであり、実態は不明だが両者とも河岸で同様の祭祀行為があったことが想定できる。

○池上遺跡　第２号河川跡、第 14、15 号土坑

第２号河川跡は、約 15 ｍの範囲にわたって地山層が緩く低下し、そこに第 14 号土坑や第 15 号土坑をはじめとする複数の土坑や溝が重複している。さらにそれらを水成洪水層が覆っているため河川跡とした。この層は７世紀代を中心にした多量の土器片のほかに祭祀的な要素を持つ遺物を包含する。低地帯に掘りこまれた土坑群からは、調査時には常に水がしみ出ていたことから、概報で「湧泉祭祀」としたが、特定の湧水地点や、それに付随する施設や祭祀遺物は認識できないため、河畔における水辺の祭祀関連の遺構・遺物としたい。

第 14、15 号土坑の埋土上部には土器片の散布が広がるが、それに混じって臼玉や桃核が出土した。第２号河川跡の包含層からの遺物は土師器・須恵器とも小片が多く、接合できるものは少ないが、調査範囲が狭小にもかかわらず出土量としては個体数が非常に多いため、他所で破砕されたのち投棄されたと見られる。特に目立つのが須恵器で、多様な瓶類（横瓶、平瓶）や廃土中から採取した長脚二段透かし高坏などがある。これらに混じって臼玉、馬歯、桃核も出土した。

諏訪木遺跡では、河川跡Ｂ・Ｃ地点から古墳時代後期の須恵器の瓶類や高坏を含む土器群、臼玉をはじめとする玉類や滑石製模造品、馬骨などが出土し、河川祭祀跡と考えられており、第２号河川跡もこれと類似した様相を示すため水辺の祭祀の一端ととらえた。（熊谷市遺調会 2001）

○多量の桃核

紙幅の関係で、図示していないが、鶴巻遺跡、池上遺跡の両遺跡で多量の桃核が出土している。鶴巻遺跡第 11 号土坑からは、古墳時代終末期の土器や木製品、板材の破片とともに、桃核 36 点が覆土中層の灰層内から出土した。さらにこの土坑からは、犬の大腿骨片も出土した。また、池上遺跡では、上述したように第 14 号土坑から４点、第 15 号土坑から５点、第２号河川跡の包含層から 128 点が出土した。

『古事記』上巻「黄泉の国」の記載において、伊耶那岐神が黄泉国から逃げ帰る際、桃の実を使い追手を迎え撃って退散させ、のちにその功を讃えたとされたことから、桃が霊力を持つと考えられているが、両遺跡から出土した多量の桃核も祭祀行為につながる可能性がある。

なお、祭祀的な意味合いとはかけ離れるが、今回出土した桃核の中に、縫合線から核心部に向けて径６～８㎜ほどの半球形の欠損があるものが多数認められた。鶴巻遺跡第 11 号土坑で９点、池上遺跡第２号河川跡で 11 点あるが、県立自然の博物館学芸員の奥村みほ子氏によりアカネズミもしくはクマネズミが核心の胚を食べる為に切歯でうがった食痕であるとの所見を得た。古環境を考える要素として提示しておく。

墨書土器について

池上遺跡での調査で、第２号河川跡及び第１号沼跡などから墨書土器が検出された。これまでに隣接する周辺の遺跡での墨書土器の検出は、池上遺跡で約 40 点、西接する諏訪木遺跡で約 160 点、南接する小敷田遺跡（行田市）で約 30 点、北西に２㎞離れた北島遺跡で約 800 点を占める。調査面積、調査回数で異なるが、本市の墨書土器が検出された地域はこの周辺以外では、国指定史跡となっている幡羅官衙遺跡群周辺を除くとわずかであり、突出した出土量といえる。

過去の調査において、池上遺跡から墨書土器が検出された遺構はおおよそ竪穴建物跡と土坑、溝跡に大別できる。坏や埦、皿が主体で、土師器は少なく、須恵器が大半であった。時期は９世紀代のものが大半である。文字は「西」、「前」、「中」など条里制の痕跡を匂わせる地名の可能性のあるものが複数確認されている。（埼埋文 1991）

西接する諏訪木遺跡では、河川跡からの検出で 106 点の墨書土器が検出されている。圧倒的に坏や埦が大多数で、土師器は少なく、須恵器が 80％以上で、時期は８世紀初頭から 11 世紀までと幅がある。文字は「木」が 56 点、「門」、「舎」、「宮」、「正院」などは施設そのものであり、「官」は役職などが推定できる。それ以外にも「院」、「寺」、「寺師」などは寺院関連を連想できる。これらを観察する限り官衙的要素を考えざるを得ない。（熊谷市遺調会 2001）

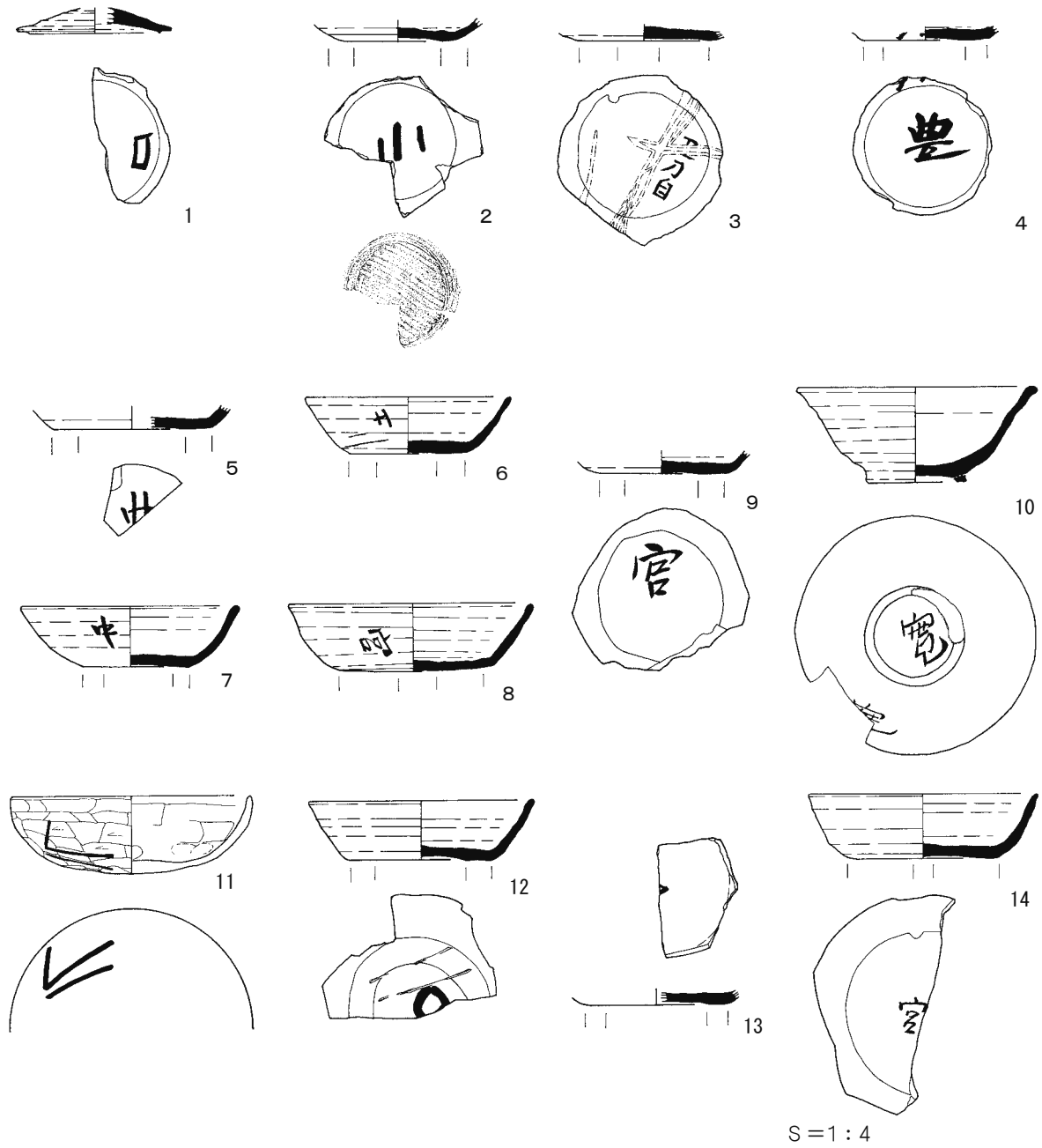
南接する小敷田遺跡では、検出された遺構はおおよそ河川跡、土坑、溝跡、包含層と大別できる。こちらも坏や埦が主体で、全て須恵器であった。時期は８世紀後半から９世紀半ばである。文字は、「前」、「中」「西」など条里制に関連する可能性が考えられるものや、「川」、「山」などの地形に起因する可能性のある墨書も確認されている。また、「神」と朱書きされた土器も検出されている。

やや離れた北島遺跡は竪穴建物跡、竪穴状遺構、円形区画墓、溝跡、土坑、井戸跡、グリッド採集、包含層など多種の遺構から検出され、特に四面庇建物や側柱建物が集中する一角の遺構に多く確認されている。こちらは、坏、埦のほか、高台坏（埦）、皿、蓋なども検出されている。80％以上が須恵器で、土師器は少なく、わずかに灰釉陶器、緑釉陶器が確認できる。時期は、８世紀中ごろから 10 世紀にかけてである。文字は、他種多様で、「苗田」、「田」などは水田に関するもの、「楊井」、「横見郡」は地名、「寺」は寺院関連、「家刀自」、「林家」、「南家」「後家」、「麿」、「土万」、「国万」「土万呂」、「上公」、「丸人」、「仲人」などは役職や人名、もしくは集団名の可能性がある。それ以外にも「篁」、「西秦」、「土」、「綱」、「中」、「下」、「中中」、「第」、「第成」、「西」、「里」、「鳶」などがあり、なかでも「西秦」は地名を疑わせ、188 点と圧倒的な検出量をほこる「綱」は役職、集団の名称の可能性が考えられる。（埼埋文 1989 ～ 2005 北島遺跡（第９・10・11 地点）、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、13）

なお、各遺跡とも墨書土器が検出された遺構からは円面硯、転用硯なども検出されていることから、文字を扱うことのできる有識者の存在を想定できる。

一方、今回の調査による池上遺跡での墨書土器は全部で 14 点であり、第２号河川跡、第 29 号溝跡、第 19 号土坑、第１号沼跡、第 127 号ピットから検出された。土師器が１点のみで、それ以外は大部分が南比企産の須恵器坏で、それ以外に１点ずつ蓋、高台坏が確認された。時期は、７世紀後半から８世紀初頭のものが多い。

文字は判読可能なもので、「宮」が２点、「宮もしくは官」が１点、「豊」が２点、「里？刀自」が１点、



第 123 図　池上遺跡　墨書土器

第 23 表　池上遺跡 墨書土器一覧表（第 123 図）

遺構名	No	墨書	器種	位置	焼成	残存率	産地	図版
NR02	1	不明	須恵器　蓋	内面	B	50%	不明	第 100 図 57
NR02	2	「小」	須恵器　坏	底部外面	B	底部 70%	南比企産	第 100 図 88
NR02	3	「里？刀自」	須恵器　坏	底部外面	A	底部 100%	南比企産	第 100 図 89
NR02	4	「豊」	須恵器　坏	底部外面	A	底部 90%	南比企産	第 100 図 90
NR02	5	「豊」	須恵器　坏	底部外面	B	底部 10%	南比企産	第 100 図 91
NR02	6	「土」	須恵器　坏	体部外面	A	70%	南比企産	第 101 図 92
NR02	7	「中」	須恵器　坏	体部外面	B	口縁～底部 70%	南比企産	第 101 図 93
NR02	8	「宮」	須恵器　坏	底部外面	B	70%	南比企産	第 101 図 94
NR02	9	「官」	須恵器　坏	底部外面	A	底部 90%	南比企産	第 101 図 99
SG01	10	「竈」	須恵器　高台坏	底部、体部外面	A	95%	末野産	第 108 図 11
SK19	11	不明	土師器　坏	底部外面	A	40%	—	第 78 図 19-4
SD29	12	不明	須恵器　坏	底部外面	B	口縁～底部 30%	南比企産	第 94 図 29-8
P127	13	不明	須恵器　坏	底部外面	B	底部 20%	南比企産	第 116 図 127-1
D区遺構外	14	「宮」	須恵器　坏	底部外面	A	40%	南比企産	第 117 図D -9

ほかに条里制に基づく可能性が疑われる「中」、農地と連想できる「土」が判読できた。また、高台坏の底部と胴部外面に「竈」の墨書が確認できた。第２号河川跡からは円面硯も検出されていることから、他遺跡同様、有識者の存在を疑わせるものである。

「宮」は施設的な意味をもち、「官」であれば役職を想定することができ、「豊」は豊島郡などの地名の可能性もある。また「里刀自」は大宝元年（701 年）に大宝律令で定められた行政組織の１つである、里を束ねる里長の女性配偶者の名称と考えられる。（平川 1996）今回判読できた墨書を観察すると、「官」、「宮」、「里刀自」は筆遣いが達筆で、筆の入り方、はらい方、止め方などが実にしっかりした字体である。特に、複数確認できた「官」、「宮」は書き方に類似性が見られ、同一人物の可能性も考えられる。

今回の墨書土器は、共伴して出土した土器も含めて、７世紀後半から８世紀初頭であり、周辺の遺跡と比べて比較的早い時期であることも特徴の一つとして挙げられる。

そして、これまでに池上遺跡周辺で確認されている墨書は、条里制を連想させるものが多く、農耕を主とした印象であるが、今回検出された墨書は「官」、「宮」など性格を異とするものが確認されたことも特徴である。今後は、周辺遺跡がどのような性格をもつのかを位置づける上で、墨書のほか出土遺構、周辺遺構、時期、周辺遺跡との関係とを比較しながら、類推する必要があるだろう。

最後に、今回検出された墨書土器のうち「里刀自」を中心に簡単なまとめとしたい。「里刀自」における考古学的な資料としては、まず福島県いわき市の荒田目条里遺跡の出土郡符木簡が挙げられる。これは郡司が里刀自に命じて 36 名の農民を雇役召喚したもので、直接郡司が里長の妻である里刀自に対し発したものである。里刀自は、本来の公的な役職とは考えられていないことから、一時的な代役などの理由の可能性も考えられるが、里内の農耕における指導的な役割を担っていたことを示す資料である。（平川 2014）

木簡以外では、岐阜県加茂郡富加町の東山浦遺跡や、石川県河北郡津幡町の加茂遺跡では「里刀自」の墨書土器が検出されている。東山浦遺跡は住居内から奉納された状態を呈していた盤の底部外面に墨書され、加茂遺跡は大溝から出土した坏の底部外面に墨書されていた。年代は前者が７世紀半ば～８世紀後半、後者が８世紀末～９世紀初頭と推定されている。（平川 2013）

このように「里刀自」の名称は当時一般的に使われていた用語であり、時には里を統率する役割を担っていたことがわかる。また、本遺跡で「里刀自」と墨書された土器は７世紀後半～８世紀初頭であることから、701 年の大宝律令で定めた「里」の制度がこの地まで浸透した証といえるのではないだろうか。

今後、数年をかけてこの池上遺跡内では道の駅造成事業の一端で発掘調査を実施する予定である。更なる成果に期待をしたい。

炭化米と農具からみる当時の周辺環境について

鶴巻遺跡からは、炭化米が確認され、農具をはじめとする多数の木製品も出土した。これらから、当時の周辺環境について検討する。

炭化米は、第５号沼跡から出土した古墳時代前期のＳ字甕外面に付着した状態で検出された。口縁部のＳ字はやや崩れており、胴部は丸く、最大径が胴部の中心に張り、縦位のハケ目整形で、肩部に横線を有する。外面には煤が付着しており、土器の洗浄時に炭化米が付着していることが確認された。これを、名古屋大学の Christian　Leipe 氏に委託し、放射性炭素年代測定法を実施した結果、95％の確率で西暦 134 年から 339 年という測定結果が出ている。（第 124 図）

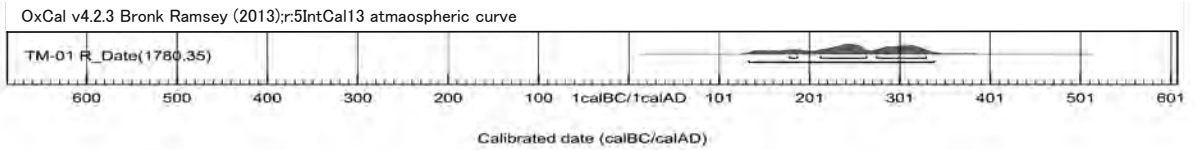
調査区内からは、鋤・鍬・田下駄・田下駄枠・建築材・曲物底板・槽などの木製品も出土したが、特徴としては、農具が多い。内８点については、樹種同定をおこなった。第 24 表のとおり、弓（第 38 図 53、第 24 表３）がカヤであり、鍬、横鍬（第 38 図 55、51、第 24 表４、１）がアカガシ亜属、曲物底板、槽、田下駄枠（第 38 図 62、54、59、第 42 図 47、第 24 表２、５～７）がスギ、田下駄（第 22 図５－２、第 24 表８）がヒノキという結果である。これらの木製品の大半は第７号沼跡から出土しており、時期は古墳時代前期と推定される。

炭化米や木製品の大半は沼跡からの出土であるが、本調査区では、このような沼地や河川が複数箇所確認できるが、水田や畠、集落などは確認されていない。そのため、炭化米や農具から当時、どのような環境だったのかを考えるにあたり、ここでは周辺遺跡における農耕に関する遺構例と比較して検証する。

池上遺跡（埼玉県 1984）と本遺跡の西側に位置する小敷田遺跡では、古墳時代前期の水田跡が検出されている。北島遺跡では、第 17 地点で古墳時代前期の水田跡や畠跡が確認されている。これらの農耕遺構は、集落の中でも居住域とは離れた場所に位置し、その境界は確認された遺跡の多くが、溝や河川跡などで明確に区分されていた。

今回の鶴巻遺跡は、明確な建物跡は検出されなかったが、炭化米や調査区からの同時期の多量な土器量から、付近の未調査地に耕作地や集落の展開が推定できる。ただし、周囲環境は荒川水系の小河川、沼地が点在していたことが想定され、その氾濫の影響を受け、集落移転しながらも農耕を営んでいたことが想定される。

続いて農具については、小敷田遺跡（埼埋文 1991）で、古墳時代前期の河川跡から多数の木製品が出土している。農具の樹種がアカガシ亜属とコナラ亜属に偏ることが特徴で、特にアカガシ亜属については、遺跡周辺で植栽されず、遠方からの搬入品の可能性が指摘されている。北島遺跡（埼埋文 2005



Sample ID	Lab ID	Material	Feature of origin	No. of grains dated
TM-01	Poz-114337	*Oryza sativa*	from vessel	1

Sample ID	Weight (mg)	Radiocarbon age (14C BP)	Radiocarbon age uncertainty (yr)	Calibrated 68% range start (BCE/CE)
TM-01	6.8	1780	35	179

Sample ID	Calibrated 68% range end (BCE/CE)	Calibrated 95% range start (BCE/CE)	Calibrated 95% range end (BCE/CE)	Calibrated median (BCE/CE)
TM-01	330	134	339	252

第 124 図　炭化米放射性炭素測定結果（C.Leipe 氏より）

北島遺跡XI、13）では、第 19 地点で方形溝に囲まれた古墳時代前期の集落跡が確認され、集落に隣接する河川跡から木製品が多数出土している。農具がアカガシ亜属に偏ることは小敷田遺跡と同様であるが、コナラ亜属の農具も比較的多く検出されたため、この樹種の農具は小敷田遺跡のものとともに、遺跡周辺の森林資源で代替とした可能性が考えられる。

今回の鶴巻遺跡の樹種同定した農具もアカガシ亜属で、硬質の木材を用いており、それ以外も用途にあった木材を使用しているようである。（別途、附編参照）

このように周辺遺跡も含めた農具を見ると、樹種がアカガシ亜属に偏重することから、遠方からの搬入品の可能性が考えられる。しかし、小敷田、北島遺跡のコナラ亜属の出土例から、農具をはじめとする木材資源の一部を遺跡周辺で管理・調達していた可能性も否定できない。これは、農具が交易品として扱われていたが、次第に集落周辺で調達できる木材からも在地産農具を生産していたとも考えられるが、農具製作にかかる木材資料のあり方については、まだ検討するための資料が不足してるため、今後の調査成果に期待したい。

池上遺跡の貯木遺構について

ここでは、多数の木製品が出土した池上遺跡のＥ区第 48 号土坑の性格について考察する。

第 48 号土坑の特徴は、①隅丸長方形、②底面は平坦だが、円形状にくぼむ多数の湧水痕の存在、③片方の断面が袋状に立ち上がる、④古墳時代後期の土器と併せて、多数の木製品が検出されたことである。特に木製品の内容は、多種多様で、鋤・鍬未成品・壺鐙・垂木・建築材・布巻具・杭・板材である。

Ａ 木製品の中には二次加工、もしくは製作途上の疑いがあるものが存在する、Ｂ 種類が農具･織機･馬具・建築材といった多種多様である、Ｃ 垂木のように、本来は長い製品をわざと短く加工したことが確認できるなどの特徴から、湧水を利用した木材の一時保管場所、貯木としての性格が考えられる。木製品の製作過程では、乾燥による割れや防虫のために水漬けにする必要があることから、本遺構は、この目的の遺構と推察される。

今回の調査区では、他にも貯木遺構の可能性のある遺構が確認されている。本遺構に西接する第 47 号土坑では、明確な湧水痕は確認できないが、調査時に常時水が湧いていたとの所見がある。同区の西側に位置する第 44 号土坑は、底面に多数の湧水痕が確認でき、断面形で片側が袋状の立ち上がりを確認している。また、第 43 号土坑でも、湧泉痕や断面形から袋状の立ち上がりが確認された。これらのことからこの地点では、湧水を利用した貯木施設としての性格を有する遺構が複数存在したことが考えられる。

先述した鶴巻遺跡などの農具の例から、木製品は遠方からの搬入品と考えられ、多種多様な木製品ではあるが、それらの樹種は目的、用途に合った形で使用されており、工人はその性質や形状を十分理解して製作したと考えられる。よって消費地においてその知識や技術を十分に駆使できる者がいなければ、用途に合った木製品を作ることができず、苦慮していた可能性もあるし、遺跡周辺の木材資料の不足により、搬入品に依存していたのかもしれない。このような要因から、限られた木材を有効活用するため、廃棄すべき木製品をも二次加工して利用するための貯蔵施設が造られたと考えられる。貯木遺構については、周辺遺跡に同様の類例は現状では確認されていないが、今後の調査に期待したい。

馬事関連遺物について

鶴巻遺跡・池上遺跡から出土した馬事に関連する遺物は、木製壺鐙、馬歯、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩である。

○木製壺鐙

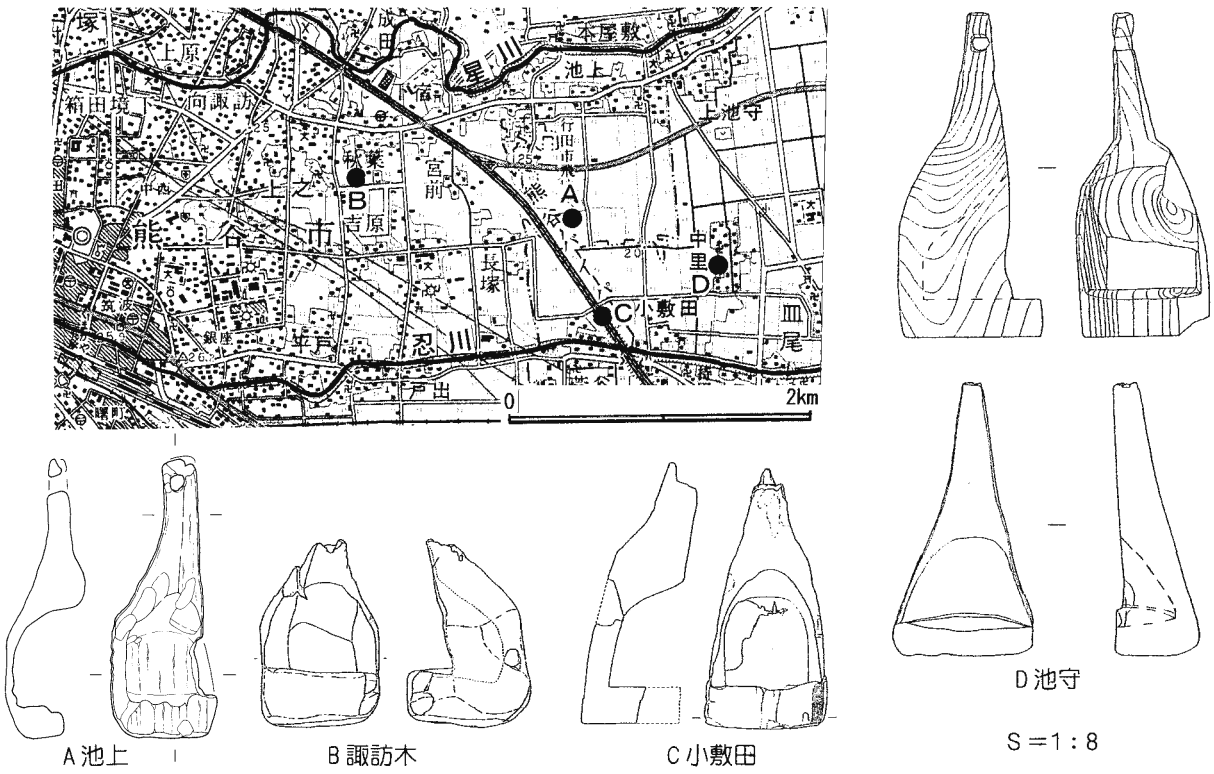
池上遺跡ではＥ区東端寄りの第 48 号土坑から無花果型の木製壺鐙が出土したが、本遺跡の周辺では、これまで諏訪木遺跡、小敷田遺跡、池守遺跡から計４点の木製壺鐙が出土している。

諏訪木遺跡（熊谷市遺調会 2001）ではⅣ区の河川跡Ｂ地点から無花果型壺鐙が１点出土した。小敷田遺跡では６区の第 106 号溝から、他の木製品や土器類とともに三角錐型壺鐙が１点出土した。池守遺跡（行田市 1981）では、沼地№3 と溝 12 の近接する２箇所から１点ずつ出土した。沼地№3 のものは、無花果型壺鐙で、溝 12 のものは、三角錐型壺鐙である。池守遺跡では、このほかに 2005 年の第８次調査において、鞍、馬鍬、馬鍬柄が出土している。

これらの資料は、土坑、溝、河川跡という遺構の違いはあるが、いずれも多数の土器や複数の木製品とともに出土し、共伴土器から見て６世紀末ごろという時期の共通点もある。また、池上遺跡からの距離を見ると、出土地点間で諏訪木遺跡 1500m、小敷田遺跡 600m、池守遺跡 1000m という位置にあり、木製壺鐙集中地域と言える。

○馬歯

池上遺跡ではＤ区南端寄りの第２号河川跡から馬歯が３点出土した。河川の遺物包含層からの一括出土取り上げのため、詳細な出土状況は不明だが、共伴した多量の土器から、６世紀末から７世紀のもの



第 125 図　池上遺跡周辺の木製壺鐙

と考えられる。

池上遺跡の周辺では、中世にまでわたって馬歯骨が出土する遺跡が集中するが、その中で本資料と同時期のものを取り上げると、諏訪木遺跡の木製壺鐙が出土した河川跡の同地点から馬の頭蓋骨が、またその西に隣接する藤之宮遺跡の第９号溝から上顎歯２点が出土した。さらに、諏訪木遺跡南西の前中西遺跡（熊谷市 2003）の第 48 号溝では、平安時代ではあるが上顎歯列が出土している。

○穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩

別項で触れるように、鶴巻遺跡と池上遺跡からは穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩（貝巣穴痕泥岩と略す）が７世紀を中心とする土器に混じって多量に出土した。この遺物は製塩に関係し、海岸部で生産された塩に混じって内陸部にもたらされたと考えられている。

塩は人間の食生活だけでなく、馬匹にとっても欠かせないものであるため、貝巣穴痕泥岩の存在によって想定される多量の塩の一部は馬匹飼養にあてられたと考えられる。

以上のように、木製壺鐙、鞍、馬鍬などの馬具・農具や、馬歯骨、貝巣穴痕泥岩から、池上遺跡を中心にした荒川新扇状地扇端部に広がる低地帯には、６世紀末から７世紀にかけて馬匹が飼養されていたことが明らかである。木製壺鐙や鞍からは、一定以上の階層による乗用馬としての使用が考えられるが、馬鍬によって農耕馬の存在も想定できる。さらに、周辺の遺跡からは古代、中世の馬歯骨の出土もあるため、継続して馬匹が飼養された地域として注目される。

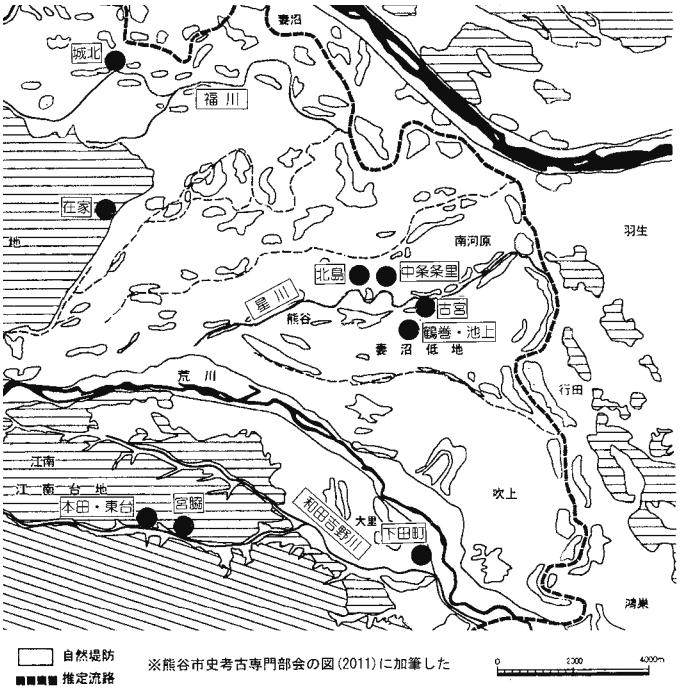
９世紀から 10 世紀の記録とされる「武蔵国大里条里坪付」に「牧川里」が記載されているが、森田悌氏は、池上遺跡の南方 800m を東流する忍川が古代において牧川と称された可能性を述べている。ただし、牧は馬匹の生産の場であるので、農耕地が少なく水害の影響も少ない扇状地扇央部や台地を想定したい。池上遺跡周辺部は必要に応じて生産地から馬匹を入手して使用した消費地と考えられる。

穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩について

本報告書では、房総半島に由来する穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩（以下、貝巣穴痕泥岩と略す）を、鶴巻遺跡で 10 点、池上遺跡で 45 点、合計 55 点掲載した。掲載にあたっては長径 20㎜ 以上のものを基本としたため、これに満たないものが鶴巻遺跡で 10 点、池上遺跡で 79 点、合計 89 点あり、総数 144 点にのぼる。大きさは長径 40㎜ 以上のものが 4%、40㎜ 未満 30㎜ 以上 15%、30㎜ 未満 20㎜ 以上 39%、20㎜ 未満 42%である。穿孔貝の巣穴痕跡がないものも多く、円礫状のものもある。

そのほとんどは、包含層からの一括遺物で原位置が不明だが、遺構に付随して取り上げられたものをもとにして見ると、鶴巻遺跡では調査区南端寄りの隣接した第９号土坑、第 10 号土坑およびその周辺の包含層から出土し、いずれも６世紀末から７世紀の土器に伴う。池上遺跡では、調査区南端のＤ区で第 29、31 号溝跡、第 21、31 号土坑および第２号河川跡などから出土し、いずれも８世紀の土器に伴う。またＥ区では、第３号河川跡東側の第 41 号土坑および周辺の包含層からの出土で７世紀の土器に伴う。狭長な調査区で、直接的な確認はできないが、集中する３箇所の連続性が感じられる。これらの出土地点は、７～８世紀の土坑、溝、ピットが集中・重複し、同時期の土器片や鉄滓、獣骨、種子等が多量に出土する一方で、建物跡等は確認できないため、未確認の生活域で出された不要物を廃棄する場所であり、貝巣穴痕泥岩もその中に含まれていたと考えられる。

貝巣穴痕泥岩の性格については、坂本和俊氏が提起した製塩方法にかかわる遺物であるとの見解が注目される。坂本氏が想定する製塩方法の工程で、貝巣穴痕泥岩片の部分について取り上げるならば、房総半島や三浦半島の泥岩層が平面的に露出した磯浜に海水を溜める窪みを掘り込み、塩分濃度の濃縮段階と、塩分を多く含む灰の塊を作る最終段階でこの窪みを使い、その際に泥岩片が灰塩の塊に混じり込む。そして、その灰塩の塊が消費地に運ばれるというものである。



第 126 図　穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩出土遺跡

本報告の２遺跡が所在する熊谷市周辺で貝巣穴痕泥岩が報告されている遺跡をあげると次のとおりである。２遺跡と同じ星川流域では、古宮遺跡（22 点、８～ 10 世紀）、中条条里（１点、４世紀）、北島遺跡 14. 15. 16 地点（14 点、８～ 10 世紀）、福川流域では、在家遺跡（３点以上、８～９世紀）、深谷市城北遺跡（32 点以上、６世紀）、同市上敷免遺跡（４点、６世紀・９世紀）、和田吉野川流域では下田町遺跡（６点、７世紀・10 世紀）、宮脇遺跡（１点、７世紀）、本田･東台遺跡（６点、７世紀）などがある。坂本氏の説くとおり、房総の海岸部で生産された塩が搬入されたとすれば、これらの遺跡の貝巣穴痕泥岩は河川を使った舟運によって持ちこまれたと考えられる。また、中条条里内で調査された古墳時代前期の竪穴建物跡から検出されたことにより、この方法での塩の入手は４世紀から始まり、古墳時代から奈良・平安時代まで続くことが明らかである。

今回出土した貝巣穴痕泥岩は２遺跡を合わせて 140 点を越え、上記の各遺跡からの点数を大きく上回ることが特筆される。塩は人間をはじめとする動物にとって不可欠なものではあるが、入手が容易ではないと考えられるため、検出された貝巣穴痕泥岩の数量が入手した塩の量に比例するとなると、塩の流通にかかわる大きな政治力や経済力が存在した可能性がある。貝巣穴痕泥岩の出土の有無だけでなく、その数量を遺構や遺跡、河川流域ごとに明らかにしていくことが今後の課題である。

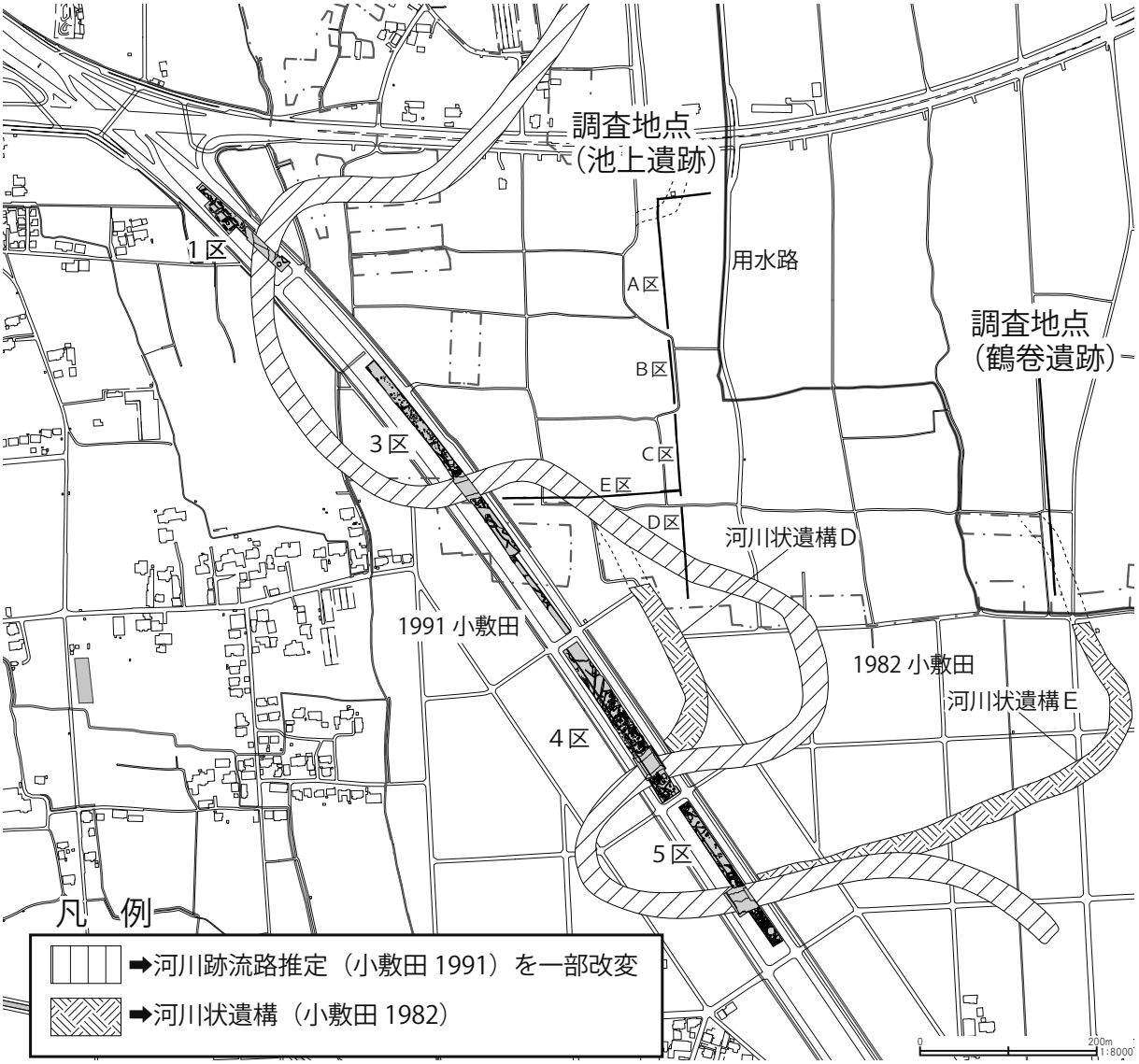
河川跡について

池上、鶴巻遺跡周辺の旧河川の流路については、周辺遺跡の発掘調査結果に基づき幾つかの復元案がこれまで提示されてきた。今回の調査で河川跡、沼地跡などが検出され、旧案をより補強するものと考えられる。

今回の概要を示すと、河川跡が池上遺跡Ａ区北端部とＤ区ほぼ中央部、Ｅ区ほぼ中央の広い範囲で検出された。また沼跡も各調査区及び鶴巻遺跡で検出されている。

小敷田遺跡報告では、弥生時代中期から古墳、奈良・平安時代に亘る河川跡が１区、３～５区で調査され、これらを順次繋ぎ蛇行して南流する復元案が示された。（埼埋文 1991）小敷田４区の河川跡については、行田市教委による池上・池守遺跡の発掘調査により、同河川跡に流入する「河川状遺構Ｄ」が示されていた。また５区河川跡についても北東方向から「河川状遺構Ｅ」が接続することが示されている（行田市 1981）。小敷田報告では４、５区の河川跡は蛇行して繋がると考えられているが、岡本案では地形と用水の現状から忍川へ流下するものと考えられている。（岡本 2014）

今回のＥ区は、小敷田３区河川跡の直ぐ東側に位置し、主に古墳時代前期の遺物が出土する河川跡が



第 127 図　河川跡推定流路

調査された。さらに南東側で接するＤ区でも古墳前期から奈良・平安時代の遺物を出土する河川跡が検出された。

今回の調査で検出された２箇所の流路は小敷田３区と同一のものと考えられ、３区→Ｅ区→Ｄ区というやや西寄りの流路（第127図）が想定される。「河川状遺構Ｄ」についてはＥ区からの支流と捉えておく。

Ａ区北端部の河川跡については、北東方向から南西方向に流下するとみられるが、現地形と用水をみると原則北→南、西→東という流れであることから、同河川跡は蛇行して鶴巻遺跡方面へ流下すると推定することができる。一方この流れは「河川状遺構Ｅ」と繋がる可能性があるが、鶴巻遺跡調査区では古墳時代のやや広い範囲の沼跡が南北２箇所で調査されたのみで河川跡は検出されなかった。場合によってはこの沼跡が河川跡である可能性も否定できない。試みに現状での標高値をみると、同調査区の西側に標高20ｍ程の僅かに低い部分が広がっているので、あるいはこの部分を経由して調査区外南側で接続していた可能性がある。

以上調査の結果を踏まえて、旧来の復元案の修正を提示し、別の流路の可能性を指摘した。

参考文献

熊谷市教育委員会　2002『前中西遺跡Ⅱ』
2003『前中西遺跡Ⅲ』
2004『籠原裏遺跡』
2007『諏訪木遺跡Ⅱ・上之古墳群第２号墳』
2008『藤之宮遺跡』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第１集
2009『前中西遺跡Ⅳ』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第３集
2009『宮脇遺跡２次』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第４集
2010『前中西遺跡Ⅴ』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第７集
2011『前中西遺跡Ⅵ』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第９集
2012『前中西遺跡Ⅶ』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第12集
2017『諏訪木遺跡Ⅲ』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第25集
2020『諏訪木遺跡Ⅳ』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第35集
熊谷市前中西遺跡調査会　1999『前中西遺跡』
熊谷市遺跡調査会　2001『諏訪木遺跡』
熊谷市在家遺跡調査会　2015『在家遺跡』
熊谷市史考古専門部会　2011「座談会　荒川の流路と遺跡―荒川新扇状地の形成と流路の変遷」『熊谷市史研究』第３号
江南町教育委員会　1998『本田・東台　上前原遺跡』江南町文化財調査報告書第８集
小田原市教育委員会　1997『神奈川県小田原市　中里遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書－川東タウンセンターマロニエ新築工事に伴う発掘調査報告書』
行田市教育委員会　1979『池守遺跡発掘調査概報－昭和54年度－』
1981『池守遺跡』

埼玉県教育委員会　1984『池守・池上』
㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989『北島遺跡（第9・10・11地点）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集
1991『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
1993『上敷免遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第128集
1995『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第150集
1998『北島遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集
2002『北島遺跡Ⅴ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第278集
2002『池上／諏訪木』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第283集
2002『熊野遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第279集
2003『北島遺跡Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集
2004『北島Ⅷ／田谷』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第292集
2004『北島遺跡Ⅸ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第293集
2004『下田町遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集
2004『古宮／中条条里／上河原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第298集
2005『下田町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第301集
2005『北島遺跡Ⅹ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第302集
2005『北島遺跡Ⅺ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第303集
2005『北島遺跡Ⅻ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第304集
2005『北島遺跡13』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第305集
2007『諏訪木遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第336集
2008『諏訪木遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第351集
飯塚博和　1982『千葉県野田市半貝・倉之橋・勢至久保』野田市遺跡調査会
石川日出志　2001「関東地方弥生中期中葉の社会変動」『駿台史学』第113号　駿台史学会
稲葉昭智　1993『大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
岡本孝之　2014「埼玉県池上遺跡の地形復元」『西相模考古』第23号
甲斐博幸　1996『常代遺跡群』（財）君津郡市文化財センター
増田逸朗　1976「飯塚遺跡」『埼玉県土器集成』4　埼玉県遺跡調査会
柿沼幹夫　2004「北島遺跡の墓制に関する覚書」『紀要』29　埼玉県立博物館
柿沼幹夫　2007「方形周溝墓・土壙墓・土器棺墓」『埼玉の弥生時代』埼玉弥生土器観会編　六一書房
河合英夫　2015『神奈川県小田原市　中里遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所
鈴木正博　1999「栃木『先史土器』研究の課題」(3)『婆良岐考古』第21号　婆良岐考古同人会
鈴木正博　2004「南関東弥生式中期『小田原式』研究の基礎」『土曜考古』第28号　土曜考古学研究会

高花宏行　2014「中期中葉から後期の遺跡」『千葉県の歴史』資料編　考古 4（遺跡・遺構・遺物）
福田　聖　2013「関東地方における周溝持建物の様相」『埼玉考古』48　埼玉考古学会
山内清男　1967『日本先史土器図譜』
埼玉県立歴史と民俗の博物館　2013『特別展図録　発掘された木の道具』
尾崎沙羅　2020「各都道府県の動向　11 埼玉県」『日本考古学年報 72(2019 年度版)』一般社団法人日本考古学協会
坂本和俊　2015「古墳時代東国の土器を使わない製塩と塩の流通痕跡」『埼玉考古』50 号　埼玉考古学会
中島洋一　2008「行田市池守遺跡（第 8 次）の調査」『第 41 回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会他
森田　悌　2011「大里郡と大里条里」『埼玉地方史』第 64 号　埼玉地方史研究会
平川　南　1996「里刀自小論－いわき市荒田目条里遺跡第二号木簡から－」『国立歴史民俗博物館研究報告』 第 66 集
2014『律令国郡里制の実像　下巻』 吉川弘文館
2013「古代の郡家と里・郷」『国立歴史民俗博物館研究報告』 第 178 集

附編　熊谷市鶴巻遺跡出土木製品の保存処理・樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

埼玉県熊谷市に所在する鶴巻遺跡は、低地に立地する遺跡であり、発掘調査では古墳時代の土器や木製品が出土している。

本報告では、木製品 8 点について、劣化を防ぐ目的で保存処理を、木材の利用についての資料を得ることを目的として樹種同定を実施する。

Ⅰ．木製品の保存処理

1. 遺物

保存処理対象遺物は、鶴巻遺跡から出土した古墳時代の木製品 8 点である。器種など遺物の詳細は第 24 表に示す。

第 24 表　樹種同定結果

番号	図版番号	器種	出土地点	樹種	備考
1	第 38 図 51	横鍬	SG07 北側	アカガシ亜属	
2	第 38 図 54	槽	SG07 北側	スギ	
3	第 38 図 53	弓	SG07	カヤ	あて材　保存悪い
4	第 38 図 55	鍬	SG07 北側	アカガシ亜属	
5	第 38 図 59	槽	SG07	スギ	
6	第 42 図 47	田下駄枠	表採	スギ	
7	第 38 図 62	曲物底板	SG07	スギ	
8	第 22 図 5-2	田下駄	SK05	ヒノキ	

2. 処理方法

1) 処理前調査

処理前調査として、デジタルカメラによる写真撮影を実施し、肉眼による試料の観察、記録を行う。

2) クリーニング

筆、竹串を用いた水洗により、遺物表面に付着した土等を除去する。

3) 樹脂含浸

本処理ではポリエチレングリコール (PEG) 含浸法を用いて保存処理を実施した。試料は、不織布等で養生しながら、樹脂含浸を行う。まず、PEG20% 水溶液から開始し、段階的に 20% ずつ上昇させる。状況に応じて加温し、最終的に PEG 濃度を 100% まで上昇させる。PEG 含浸が終了した後、余分な樹脂を拭き取り５日間自然乾燥させる。

4) 表面処理

表面処理は 60% エタノールを用いて、遺物表面に析出した余分な PEG を可能な限り除去する。その後、２～３日間自然乾燥させる。

5) 接合、補彩

接合可能な破片については、エポキシ系接着剤を用いて接合作業を実施する。また、必要に応じてシリコン樹脂を用いて補強を行う。接着剤等を用いた部分については、目立たないよう補彩する。

6) 処理後調査

処理が終了した遺物について、写真撮影を実施する。併せて処理前の状態との比較をして、遺物の変形や破損等が発生していないか確認を行う。

3. 処理後の保管

保存処理後の状態は、いずれの遺物も良好であり、遺物表面の樹脂光沢も最低限に抑えられ、遺物の質感を保っている。保存処理前と処理後の木製品試料の状況を第 128 ～ 130 図に示す。

遺物の強化に用いた PEG は高温多湿に弱く、そのような環境に長期間置くと PEG が溶けて析出することがあるので、冷暗所で保管し、急激な温湿度の変化に留意されたい。万が一、通常の保管で PEG が析出した場合には、弊社宛御連絡下さい。

Ⅱ．木製品の樹種同定

1. 試料

試料は、鶴巻遺跡から出土した古墳時代の木製品 8 点であり、いずれも保存処理対象遺物である。試料の詳細は前掲の第 24 表に示す。

2. 分析方法

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）･柾目（放射断面）･板目（接線断面）の３断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、木口（横断面）･柾目（放射断面）･板目（接線断面）の３断面の割断面を作成し、電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地･伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

3. 結果

結果を第 24 表に示す。同定の結果、針葉樹３種類（スギ、ヒノキ、カヤ）、広葉樹１種類（アカガシ亜属）が検出された。以下に検出された種類の解剖学的特徴を述べる。

・スギ (Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don)　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に２個が多い。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヒノキ (Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.)Endlcher)　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急である。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、１分野に２個が多い。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高。

・カヤ (Torreya nucifera Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

保存状態が悪く、かつあて材だが、形状からカヤと思われる。軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。晩材部の幅は狭い。仮道管内壁の対をなしたらせん肥厚は、保存が悪いため、観察できる場所が限られる。放射組織は柔細胞のみで構成され、単列、2 ～ 4 細胞高が多い。

・コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis)

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列で 1 ～ 15 細胞高のものと、複合放射組織とがある。

4. 考察

農業土木具 (鋤、鍬) はアカガシ亜属を利用している。アカガシ亜属は重硬な材質で、工具や農具に向いており、今日でも農工具の柄などに常用される。

槽、田下駄、曲物はスギやヒノキを利用している。これらの樹種は軽くて強度があり、加工性に優れ、水湿に強いため、上記用途には適した木材である。これは伊東・山田編 (2012) の木材データベースからみた用材選択の傾向と同じであり、全国的にほぼ同じである。

飾り弓は、カヤを利用している。カヤは成長が遅いので緻密であり、強度や粘りもあるので、弓の材料に向く。伊東・山田編 (2012) の木材データベースからみた用材選択の傾向からみても、カヤ、イヌガヤ、イチイなどは、弓材として多くの事例がある。

引用文献

林　昭三 , 1991, 日本産木材顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

伊東隆夫 , 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料 , 31, 京都大学木質科学研究所 , 81-181.

伊東隆夫 , 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料 , 32, 京都大学木質科学研究所 . 66-176.

伊東隆夫 , 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料 , 33, 京都大学木質科学研究所 , 83-201.

伊東隆夫 , 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料 , 34, 京都大学木質科学研究所 , 30-166.

伊東隆夫 , 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料 , 35, 京都大学木質科学研究所 , 47-216.

伊東隆夫・山田昌久 (編), 2012, 木の考古学　出土木製品用材データベース . 海青社 , 449p.

Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社 , 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .

島地　謙・伊東隆夫 , 1982, 図説木材組織 . 地球社 , 176p.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩 (日本語版監修), 海青社 , 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

第128図　保存処理遺物写真(1)

1.横鍬 SG07北側(第38図51)
樹種：アカガシ亜属
（上：処理前、下：処理後）

2.槽 SG07北側(第38図54)
樹種：スギ
（上：処理前、下：処理後）

0　10cm

第129図　保存処理遺物写真(2)

3.弓 SG07(第38図53)
樹種：カヤ
（上：処理前、下：処理後）

4.鍬 SG07北側(第38図55)
樹種：アカガシ亜属
（上：処理前、下：処理後）

5.槽 SG07(第38図59)
樹種：スギ
（上：処理前、下：処理後）

0　10cm

第130図　保存処理遺物写真(3)

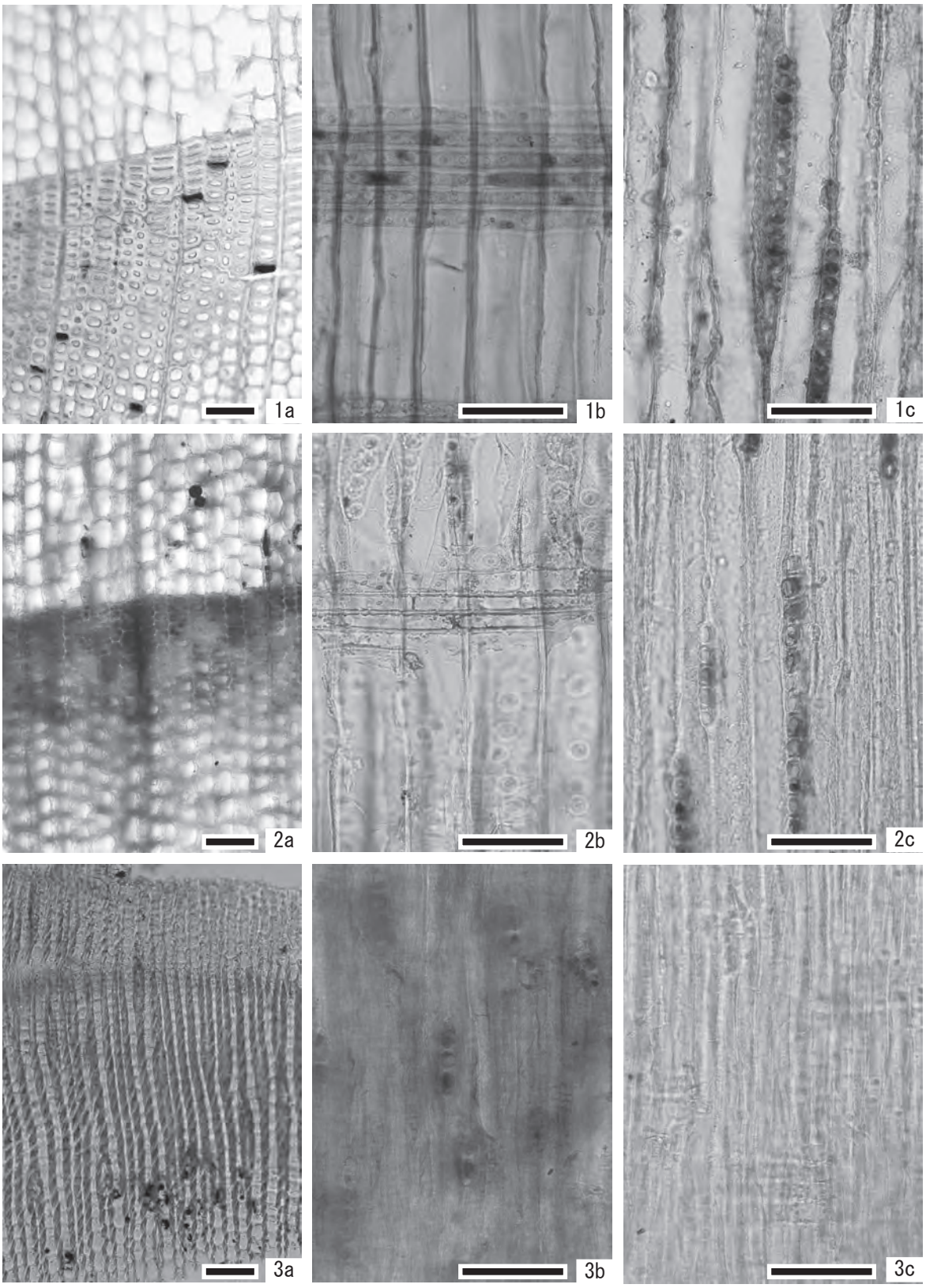
6.田下駄枠 表採(第42図47)
樹種：スギ
（左：処理前、右：処理後）

7.曲物底板 SG07(第38図62)
樹種：スギ
（左：処理前、右：処理後）

8.田下駄 SK05(第22図5-2)
樹種：ヒノキ
（左：処理前、右：処理後）

0　10cm

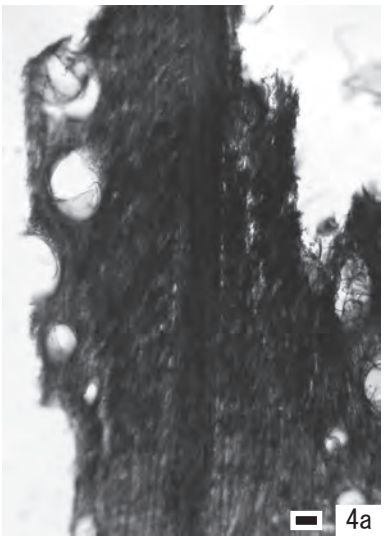
第131図　木材(1)

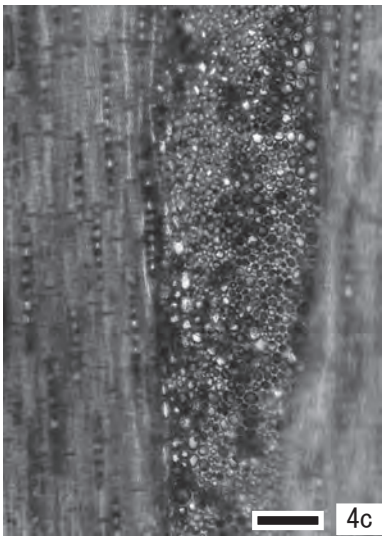


1. スギ(曲物底板 第38図62)
2. ヒノキ(田下駄 第22図5-2)
3. カヤ(弓 第38図53)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第132図　木材(2)





4.アカガシ亜属(鍬 第38図55)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

写　真　図　版

遺跡から熊谷市街地を望む（奥、浅間山）

図版1

図版 2

鶴巻遺跡　全景（上が北）

池上遺跡（Ａ～Ｃ区）　全景（上が北）

池上遺跡　Ｄ区　全景（下が北）

池上遺跡　Ｅ区　全景（右が北）

図版 4

鶴巻遺跡　第７号沼跡（北東から）

鶴巻遺跡　第７号沼跡　西壁　土層断面

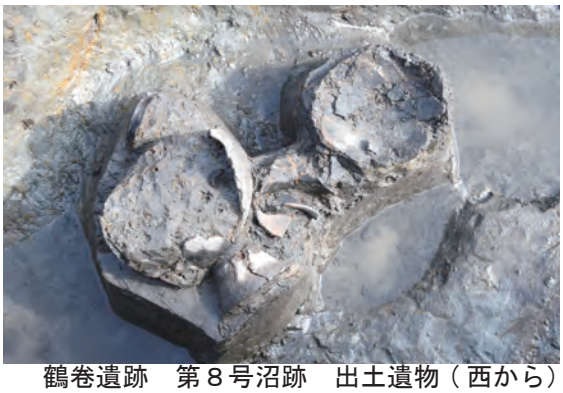
鶴巻遺跡　第７号沼跡　北端部付近　木製品

鶴巻遺跡　第３号方形周溝墓（上が北）

鶴巻遺跡　第１号方形周溝墓（上が北）

鶴巻遺跡　第１号沼跡（南から）

鶴巻遺跡　第１号沼跡　西壁　土層断面



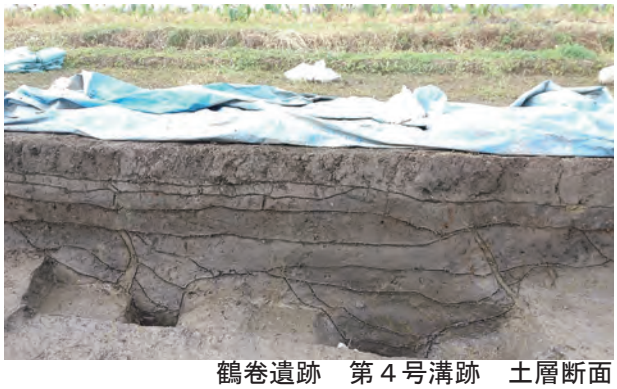
鶴巻遺跡　第８号沼跡　出土遺物（西から）

鶴巻遺跡　第８号沼跡　出土遺物（東から）

鶴巻遺跡　第 11 号土坑　遺物検出状況（西から）

鶴巻遺跡　第 11 号土坑　出土遺物

鶴巻遺跡　第５号土坑　遺物検出状況（東から）

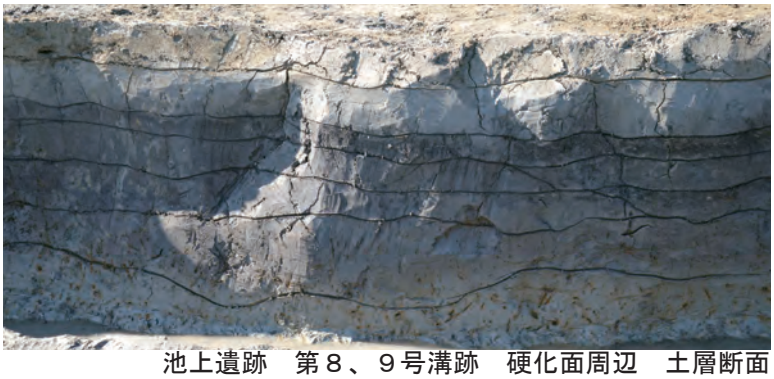


鶴巻遺跡　第４号溝跡　土層断面

図版 6

池上遺跡　第１号河川跡（上：トレンチ西壁断面　下：トレンチ南壁断面）

池上遺跡　第８、９号溝跡　（南東から）



池上遺跡　第８、９号溝跡　硬化面周辺　土層断面

池上遺跡　第２号方形周溝墓（上が北）

池上遺跡　第２号方形周溝墓（上が北）

池上遺跡　第２号方形周溝墓 遺物検出状況（上が北）

池上遺跡　第２号方形周溝墓 西溝　出土遺物（東から）

図版 8

池上遺跡　第１号方形周溝墓（上が北）

池上遺跡　第１号方形周溝墓　北溝（西から）

池上遺跡　第２号河川跡
全景　（北東から）

池上遺跡　第２号河川跡
北端部周辺　遺物検出状況

池上遺跡　第 14、15 号土坑（右が北）

池上遺跡　BF-59 グリッド付近（北東から）

池上遺跡　BF-59 ～ 60 グリッド付近（北東から）

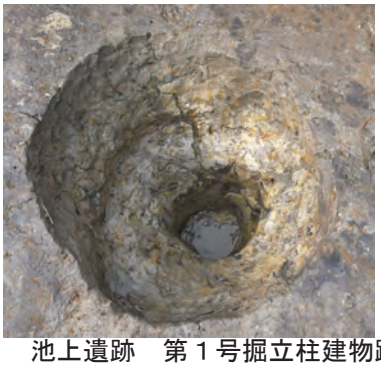
池上遺跡　第 31 号溝跡（上が北）

池上遺跡　第 25 号溝跡（D 区）（上が北）

池上遺跡　第 1 号円形状遺構（北から）

図版 10

池上遺跡　第１号掘立柱建物跡（上が北）



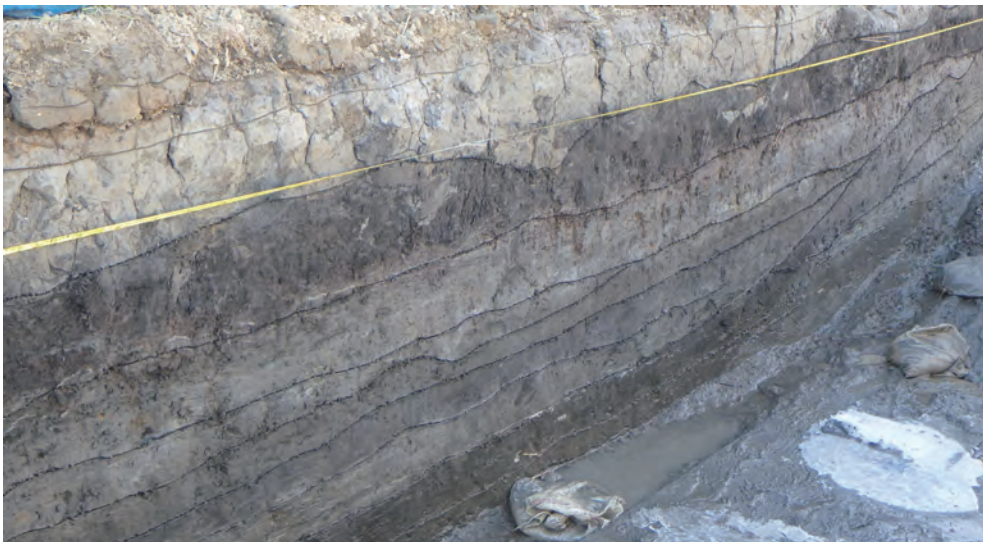
池上遺跡　第１号掘立柱建物跡（左：Ｐ１、中：Ｐ２、右：Ｐ３）

池上遺跡　第 48 号土坑　遺物検出状況（上が北）

池上遺跡　第 48 号土坑　壺鐙他　検出状況（下が北）

池上遺跡　第 48 号土坑　全景（右が北）

池上遺跡　第３号河川跡（北から）



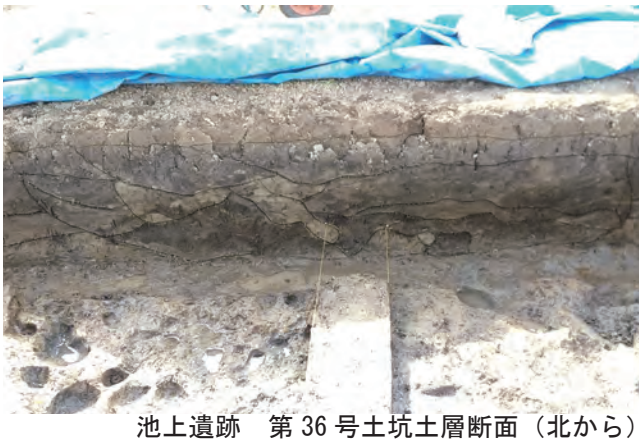
池上遺跡　第３号河川跡
北壁土層断面

池上遺跡　第１号沼跡（南西から）

池上遺跡　第１号沼跡出土遺物（鋤）

図版 12

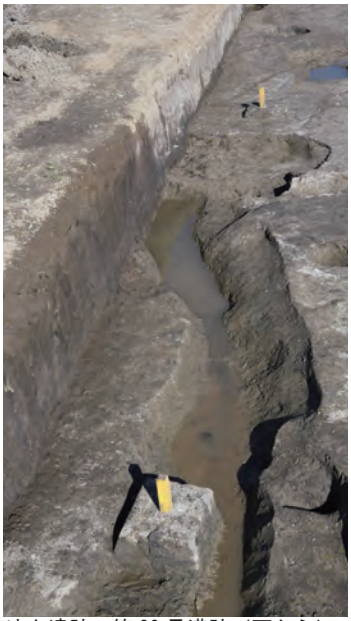
池上遺跡　第 1 号土器棺墓（北から）



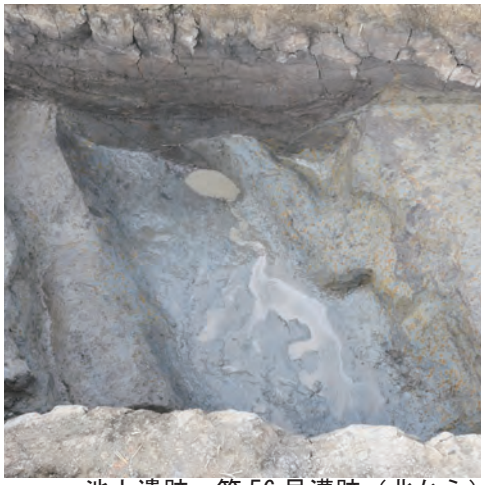
池上遺跡　第 36 号土坑土層断面（北から）

池上遺跡　第 44 号土坑（北から）

池上遺跡　第 25 号溝跡（E 区）
酸化鉄層検出状況（南から）

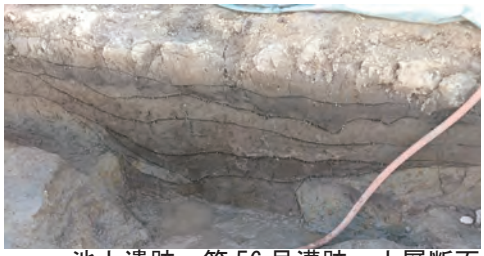


池上遺跡　第 38 号溝跡（西から）



池上遺跡　第 56 号溝跡（北から）

同上　検出遺物



池上遺跡　第 56 号溝跡　土層断面

第 18 図 1-1

第 18 図 1-2

第 18 図 2-1

第 18 図 2-8

第 18 図 2-9

第 19 図 3-1

第 19 図 3-2

図版 14

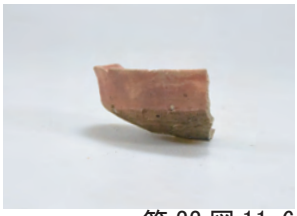
第 19 図 3-3

第 19 図 3-6

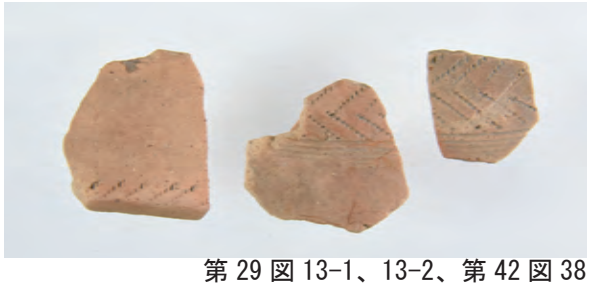
第 22 図 5-1、第 23 図 11-19、第 29 図 16-1、第 35 図 2-2

第 19 図 4-1

第 22 図 11-3



第 22 図 11-6

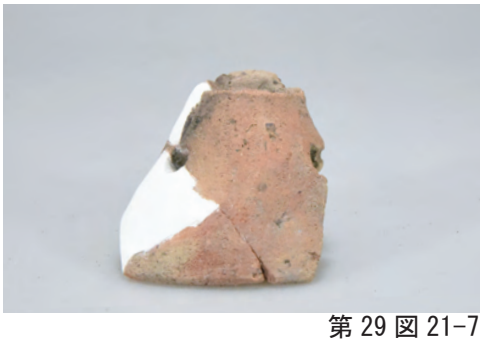


第 29 図 13-1、13-2、第 42 図 38

第 23 図 11-14

第 29 図 15-1、第 42 図 35、36

第 29 図 21-2



第 29 図 21-7

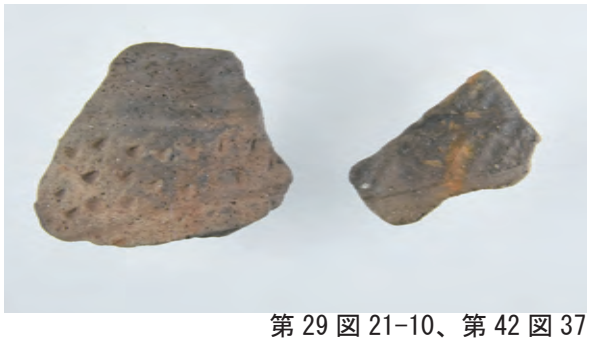
第 33 図 9

第 33 図 12

第 33 図 18

第 29 図 21-4

第 29 図 21-9



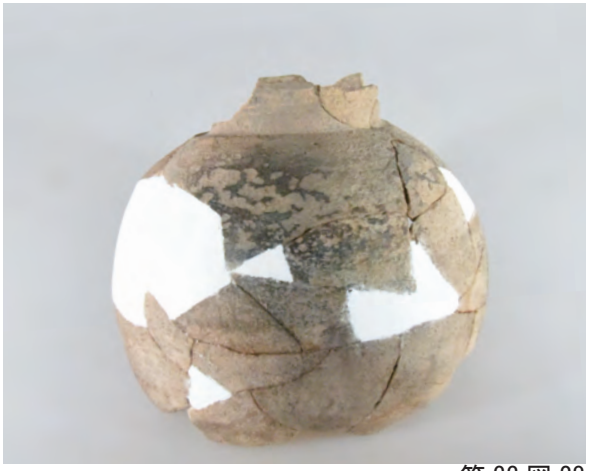
第 29 図 21-10、第 42 図 37

第 33 図 15

図版 16

第 33 図 20

第 33 図 21



第 33 図 28

第 34 図 39

第 34 図 40

第 35 図 3-1

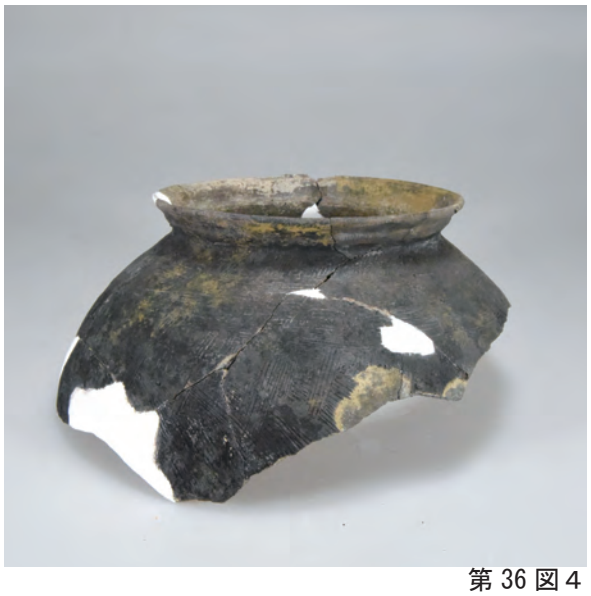
第 35 図 5-1

第 35 図 5-2

第 36 図 1

第 36 図 2

第 36 図 3



第 36 図 4

第 36 図 5

第 36 図 7

図版 18

第 36 図 9

第 36 図 10

第 37 図 22

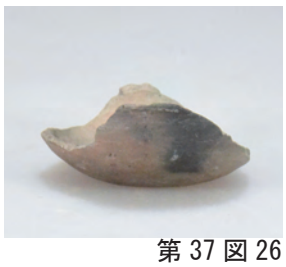
第 37 図 24

第 36 図 19

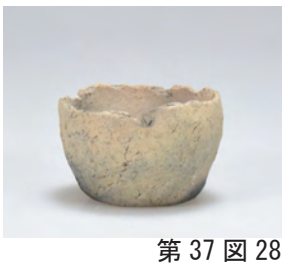
第 36 図 20

第 36 図 21

第 37 図 23



第 37 図 26



第 37 図 28

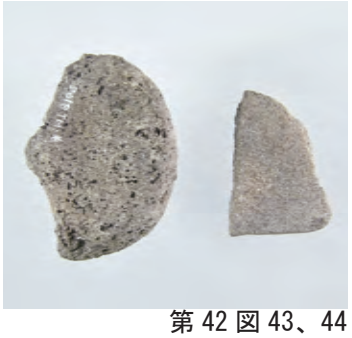
第 37 図 27

第 37 図 29

第 37 図 36

第 39 図 7-1

第 41 図 2



第 42 図 43、44

第 42 図 45、46

第 37 図 30

第 37 図 40

第 41 図 1

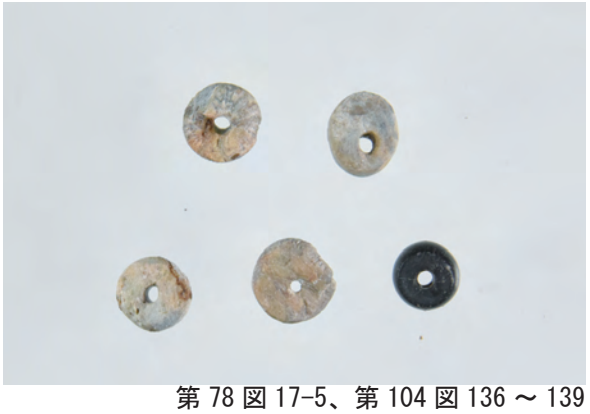
第 42 図 48 ～ 58

図版 20

第 68 図３、第 93 図 16-1、第 100 図 49

第 72 図 1

第 78 図 17-4



第 78 図 17-5、第 104 図 136 ～ 139

第 70 図 1

第 72 図２

第 79 図 33-1

第 79 図 33-5

第 79 図 34-1

第 79 図 34-2

第 79 図 34-7

第 79 図 42-1

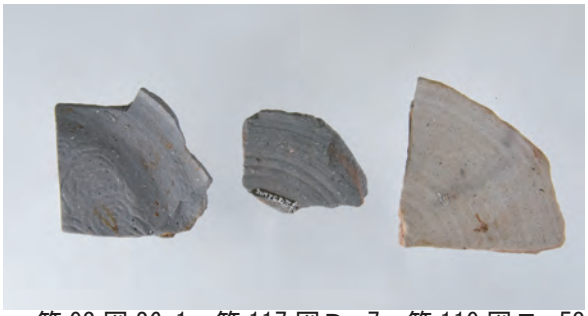
第 79 図 47-2

第 79 図 44-2

図版 22

第 93 図 13-1

第 93 図 25-1



第 93 図 26-1、第 117 図Ｄ -7、第 119 図Ｅ -58

第 94 図 29-2

第 94 図 29-7

第 93 図 25-3

第 93 図 28-4

第 94 図 29-5

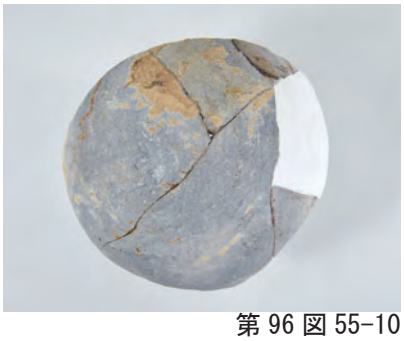
第 94 図 31-2

第 95 図 32-1

第 95 図 52-1

第 95 図 52-7

第 96 図 55-1



第 96 図 55-10

第 95 図 45-2、第 99 図 42、43、第 108 図８～10、第 120 図Ｅ -66 ～ 77

第 95 図 52-5

第 95 図 54-1

第 96 図 56-1

図版 24

第 99 図 1

第 99 図 3

第 99 図 9

第 99 図 15

第 99 図 16

第 99 図 24、25

第 99 図 26

第 99 図 27

第 99 図 35

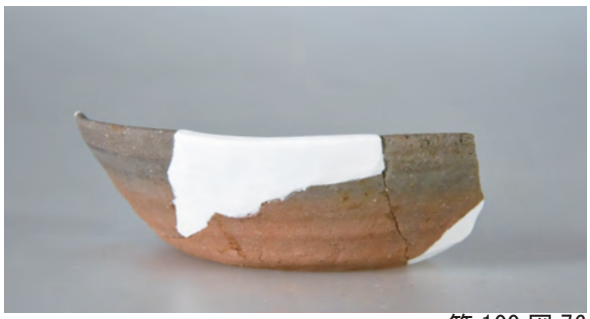
第 99 図 36

第 99 図 39

第 99 図 40

第 100 図 53

第 100 図 74



第 100 図 76

第 100 図 77

第 100 図 78

第 100 図 79

第 100 図 80

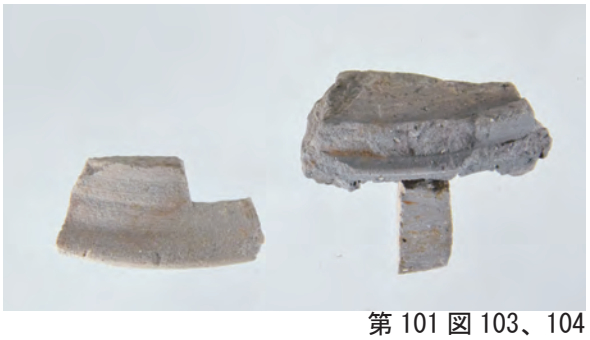
図版 26

第 100 図 87

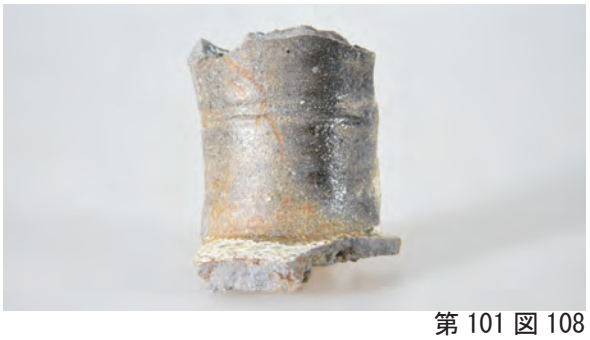
第 101 図 100

第 101 図 102

第 101 図 106



第 101 図 103、104



第 101 図 108

第 101 図 109

第 101 図 110

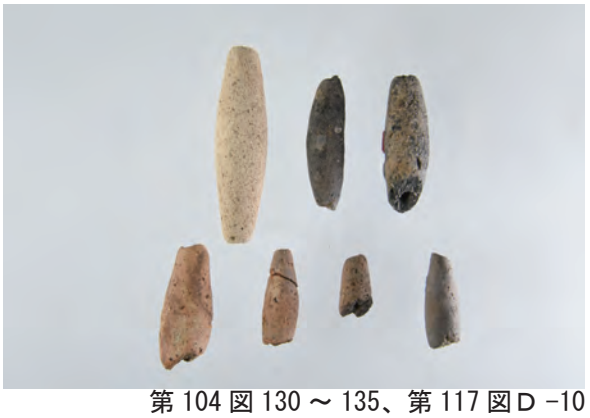
第 101 図 111

第 101 図 112

第 101 図 113

第 102 図 120

第 102 図 121



第 104 図 130 ～ 135、第 117 図 D -10

第 104 図 127 ～ 129

第 108 図 1

図版 28

第 117 図Ｄ－８

第 118 図Ｅ－１

第 118 図Ｅ－３

第 118 図Ｅ－４

第 118 図Ｅ－６

第 118 図Ｅ－８

第 118 図Ｅ－９

第 118 図Ｅ -10

第 118 図Ｅ -11

第 118 図Ｅ -14

第 118 図Ｅ -23

第 118 図Ｅ -24

第 118 図Ｅ -25

第 118 図Ｅ -26

第 118 図Ｅ -27

第 118 図Ｅ -28

第 118 図Ｅ -33

第 95 図 38-2　穀物粒　圧痕

図版 30

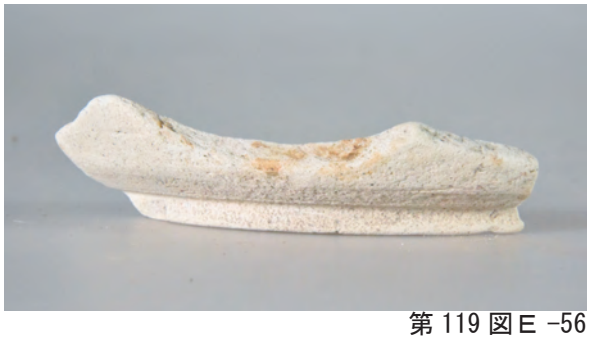
第 119 図 E -40

第 119 図 E -46

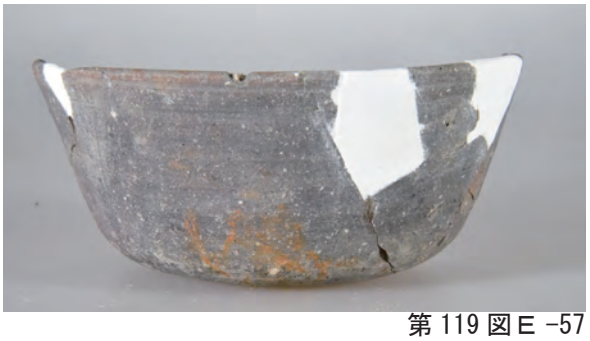
第 119 図 E -47

第 119 図 E -48

第 119 図 E -50

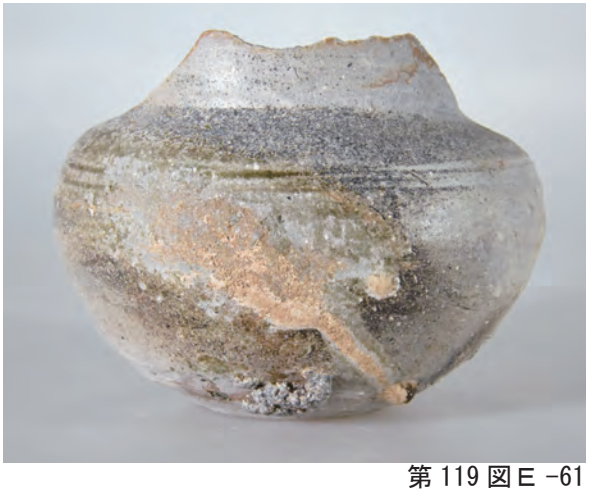


第 119 図 E -56



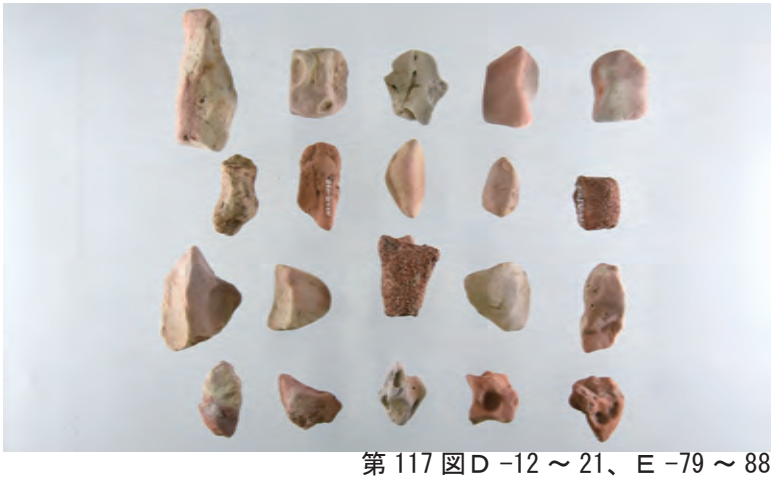
第 119 図 E -57

第 119 図 E -59



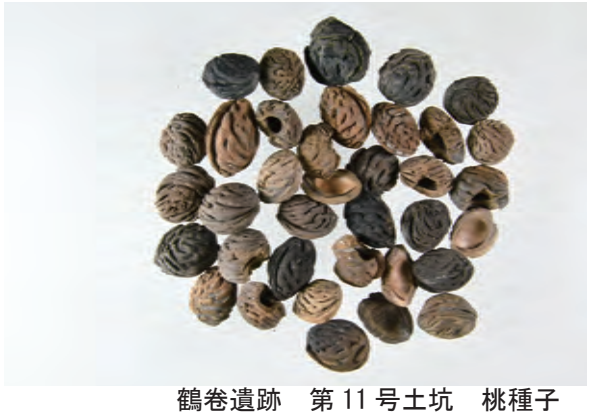
第 119 図Ｅ -61

第 119 図Ｅ -62



第 117 図Ｄ -12 ～ 21、Ｅ -79 ～ 88

上段：第 104 図 124 ～ 126、第 106 図３
下段：第 74 図 27-1、第 108 図 12、第 117 図Ｄ -11

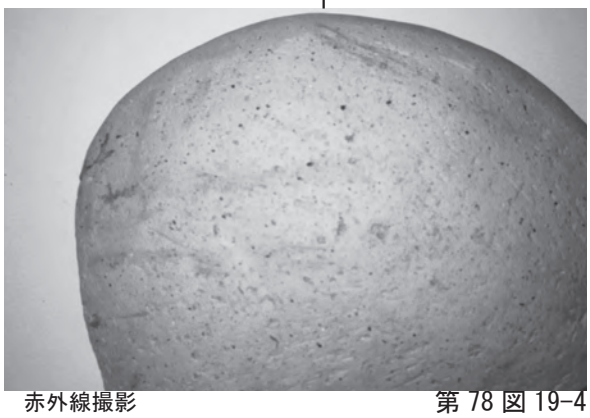


鶴巻遺跡　第 11 号土坑　桃種子

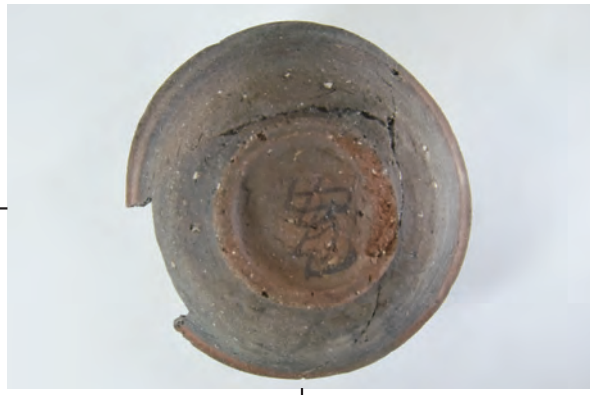
鶴巻遺跡　第５号沼跡　No. ２付着　炭化米

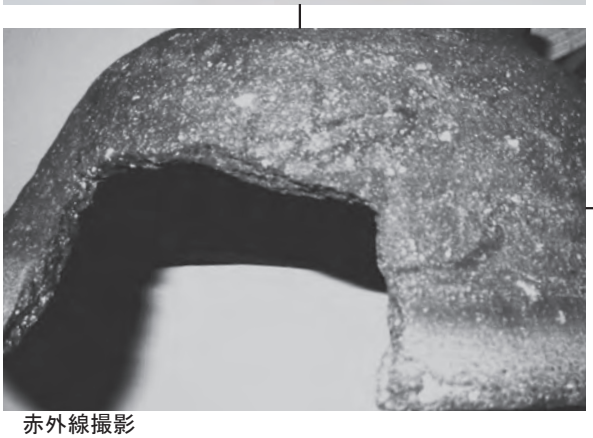
池上遺跡　第 27 号土坑　瓢箪種子

図版 32

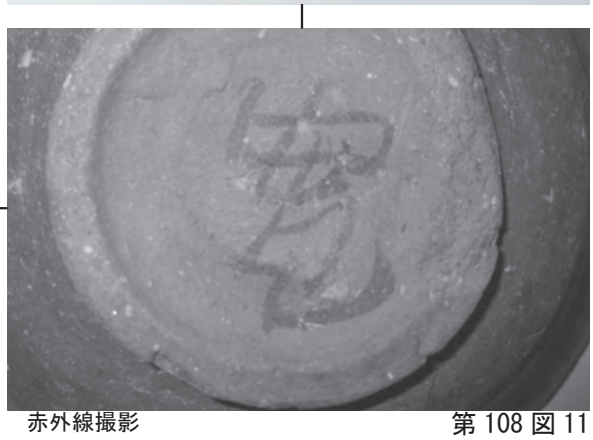


赤外線撮影　第 78 図 19-4

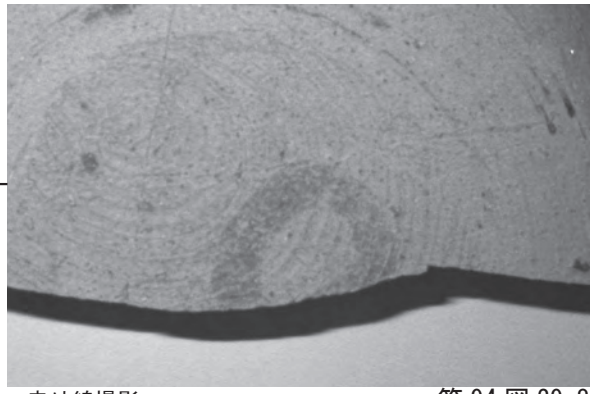




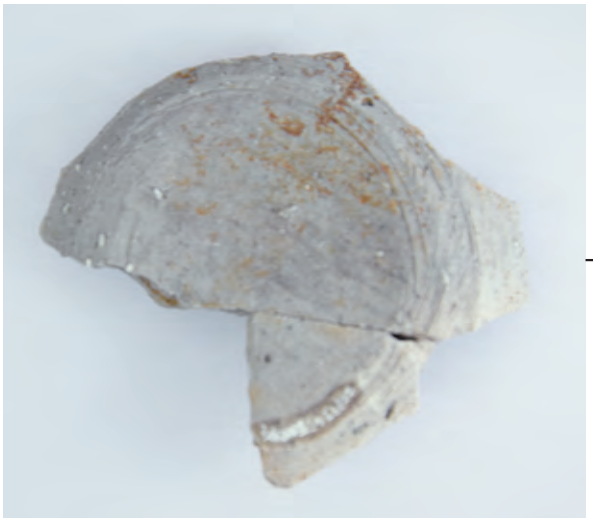
赤外線撮影

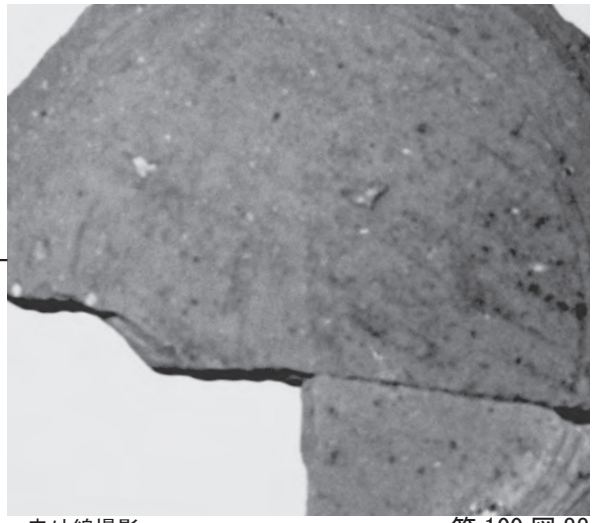


赤外線撮影　第 108 図 11

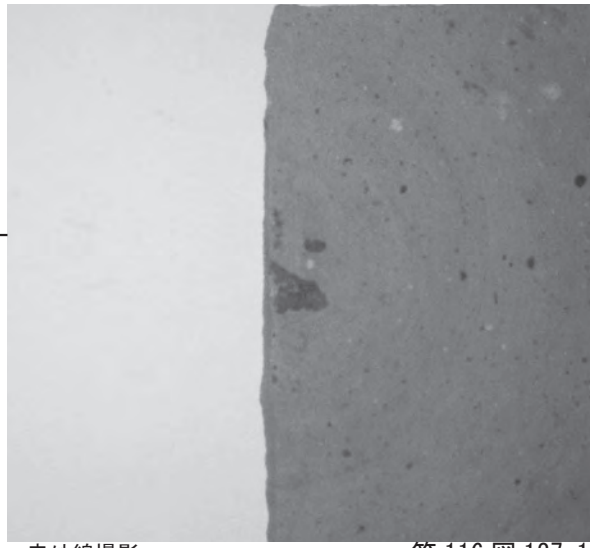


赤外線撮影　第 94 図 29-8



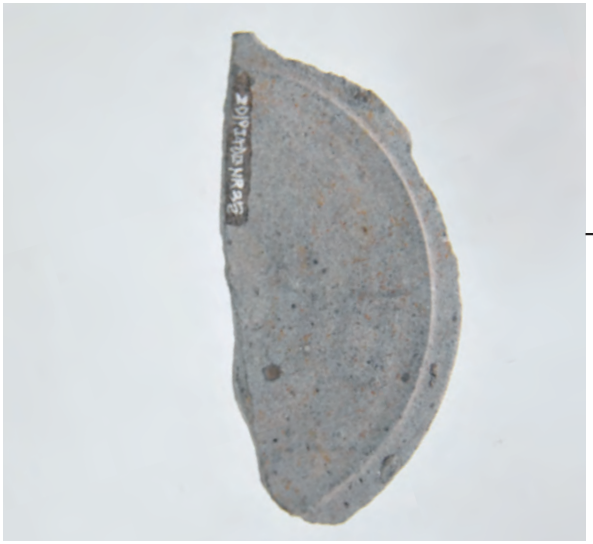


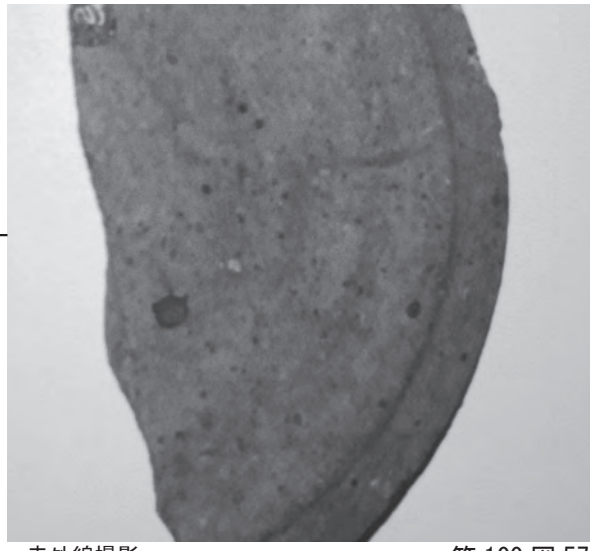
赤外線撮影　第 100 図 88



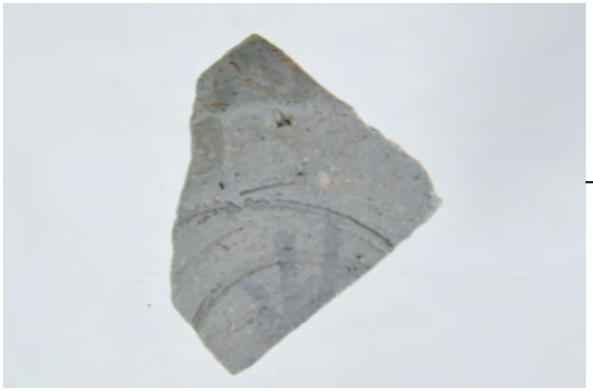
赤外線撮影　第 116 図 127-1

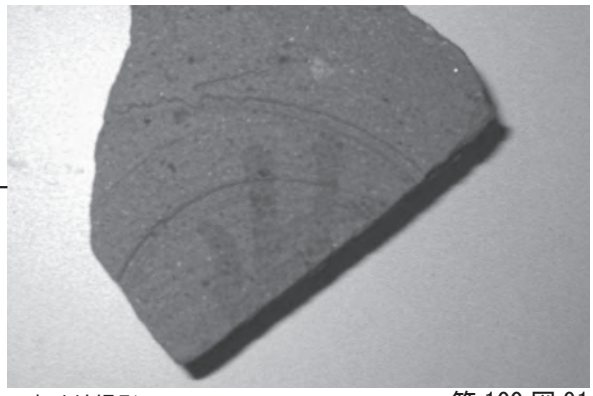
図版 34





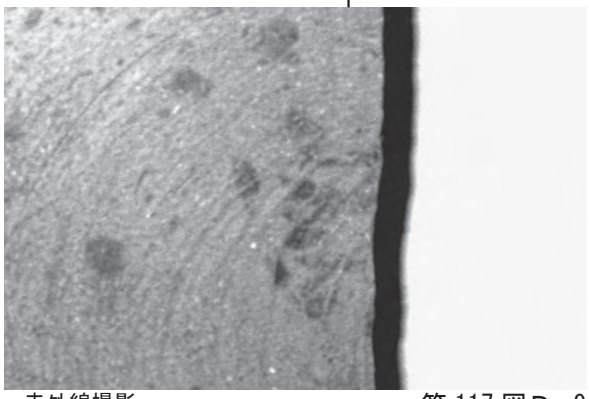
赤外線撮影　第 100 図 57





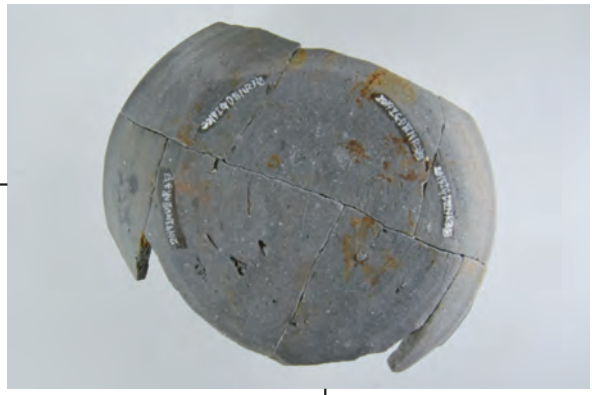
赤外線撮影　第 100 図 91

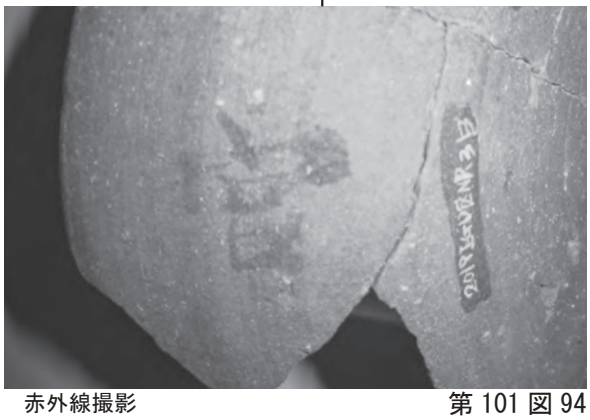
赤外線撮影　第 101 図 93



赤外線撮影

第 117 図 D -9

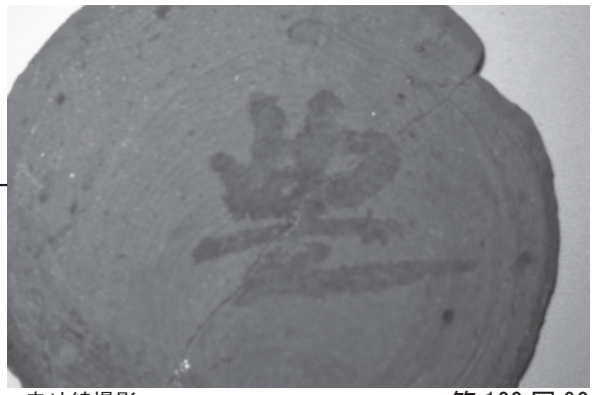




赤外線撮影

第 101 図 94

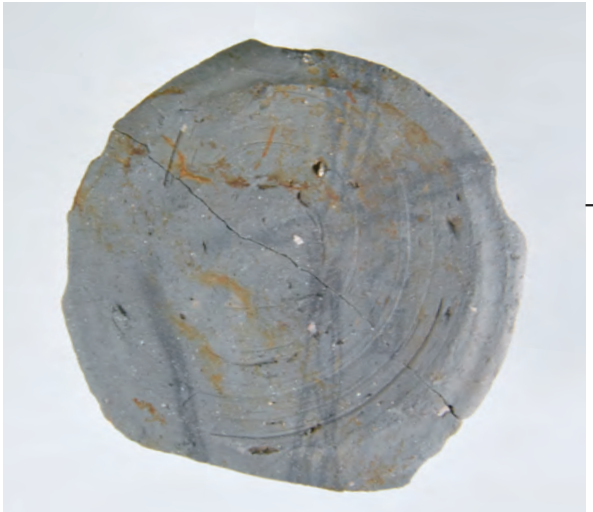
図版 36



赤外線撮影　第 100 図 90

赤外線撮影　第 101 図 92

赤外線撮影　第 101 図 99



赤外線撮影　第 100 図 89

第 22 図 5-2

第 23 図 11-20

第 23 図 11-22

第 38 図 51

第 38 図 54

第 38 図 53

第 38 図 62

第 38 図 55

図版 38

第 42 図 47

第 80 図 48-6

第 80 図 48-7

上部拡大

第 80 図 48-13

第 80 図 48-12

第 80 図 48-14

第 95 図 52-15

第 106 図 7

第 22 表Ｂ -2

第 108 図 13

報　告　書　抄　録

ふりがな	いけがみいせき・つるまきいせき
書名	池上遺跡・鶴巻遺跡
副書名	埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書
巻次	―
シリーズ名	―
シリーズ番号	第40集
編集者名	腰塚　博隆　　大野　美知子　　山川　守男　　礒﨑　一
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会
所在地	〒360－0107 熊谷市千代３２９番地 熊谷市立江南文化財センター TEL048-536-5062
発行年月日	西暦2021（令和３）年３月19日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(° ′ ″)	(° ′ ″)		(㎡)	
いけがみいせき 池上遺跡	くまがやしいけがみ 熊谷市池上202-3 ほか	11202	59-046	36° 14′ 87、6″	139° 42′ 60、4″	20181219 ～ 20200327	1,807	記録保存調査
つるまきいせき 鶴巻遺跡	くまがやしいけがみ 熊谷市池上109-3 ほか	11202	59-115	36° 14′ 87、6″	139° 43′ 08、6″	20181001 ～ 20190329	418	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池上遺跡	集落跡 墓域	弥生時代 中期、後期 古墳時代 前期、後期 奈良時代 平安時代 中近世	竪穴式住居跡１軒 掘立柱建物跡１軒 柵状遺構２列 方形周溝墓２基 河川跡３条 沼跡１箇所 溝跡56条 土坑48基 土器棺墓１基 円形状遺構１基 ピット167基	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・墨書土器・陶磁器・臼玉・石器・木製品	弥生時代中期の方形周溝墓が２基検出された。東日本でも最古級段階のものと推定される。 河川跡からは多量の土器の一部に墨書土器が検出された。（官、宮、里刀自、豊など） 土坑のうち１基からは多量の木製品がまとまって検出され、貯木遺構の可能性が考えられる。
鶴巻遺跡	集落跡 墓域	弥生時代 中期、後期 古墳時代 前期、後期 奈良時代 平安時代 中近世	方形周溝墓４基 沼跡８箇所 溝跡25条 土坑11基 ピット23基	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・管玉・銭貨・・石器・木製品	複数の沼跡が検出され、うち１箇所からは古墳時代前期の土器とともに、木製品が複数検出された。水辺の祭祀の可能性がある。 古墳時代前期の方形周溝墓が４基検出された。

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第 40 集

池 上 遺 跡・ 鶴 巻 遺 跡

令和３年３月 19 日発行
発行／埼玉県熊谷市教育委員会
印刷／関東図書株式会社